

科目一覽

【発行日：2021/4/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【A0065】	経済法Ⅰ	〔青柳 由香〕	春学期授業/Spring	1
【A0066】	経済法Ⅱ	〔青柳 由香〕	秋学期授業/Fall	2
【A0100】	教育法Ⅰ	〔村元 宏行〕	春学期授業/Spring	3
【A0101】	教育法Ⅱ	〔村元 宏行〕	春学期授業/Spring	4
【A0114】	法哲学Ⅰ	〔大野 達司〕	春学期授業/Spring	5
【A0115】	法哲学Ⅱ	〔大野 達司〕	秋学期授業/Fall	6
【A0132】	法と遺伝学Ⅰ	〔和田 幹彦〕	春学期授業/Spring	7
【A0133】	法と遺伝学Ⅱ	〔和田 幹彦〕	秋学期授業/Fall	8
【A0235】	政治体制論Ⅰ	〔細井 保〕	春学期授業/Spring	9
【A0236】	政治体制論Ⅱ	〔細井 保〕	秋学期授業/Fall	10
【A0249】	ジェンダー論Ⅰ	〔中野 洋恵〕	春学期授業/Spring	10
【A0250】	ジェンダー論Ⅱ	〔梅垣 千尋〕	秋学期授業/Fall	12
【A0349】	公共哲学Ⅱ	〔西村 清貴〕	秋学期授業/Fall	13
【A0354】	外国書講読(独語)Ⅰ	〔上田 知夫〕	春学期授業/Spring	14
【A0355】	外国書講読(独語)Ⅱ	〔上田 知夫〕	秋学期授業/Fall	15
【A0434】	ロシア政治史Ⅰ	〔油本 真理〕	春学期授業/Spring	16
【A0435】	ロシア政治史Ⅱ	〔油本 真理〕	秋学期授業/Fall	17
【A0447】	アメリカ政治外交史	〔森 聡〕	春学期授業/Spring	18
【A0520】	都市政策	〔杉崎 和久〕	春学期授業/Spring	19
【A0521】	まちづくり論	〔杉崎 和久〕	秋学期授業/Fall	20
【A0522】	コミュニティ政策(日本)	〔名和田 是彦〕	春学期授業/Spring	21
【A0523】	コミュニティ政策(理論・国際比較)	〔名和田 是彦〕	秋学期授業/Fall	22
【A0644】	外交総合講座	〔本多 美樹〕	秋学期授業/Fall	23
【A0664】	グローバル・ガバナンス	〔本多 美樹〕	春学期授業/Spring	24
【A0673】	地球環境論Ⅱ		秋学期授業/Fall	26
【A0717】	国際協力論Ⅰ	〔志賀 裕朗〕	春学期授業/Spring	27
【A0718】	国際協力論Ⅱ	〔志賀 裕朗〕	秋学期授業/Fall	28
【A0733】	平和・軍事研究Ⅱ	〔権 鎬淵〕	秋学期授業/Fall	30
【A0771】	朝鮮半島の政治と社会Ⅰ	〔権 鎬淵〕	春学期授業/Spring	31
【A0772】	朝鮮半島の政治と社会Ⅱ	〔権 鎬淵〕	秋学期授業/Fall	31
【A0777】	平和・軍事研究Ⅰ	〔権 鎬淵〕	春学期授業/Spring	32
【A0786】	現代政策学特講Ⅰ(千代田区)	〔杉崎 和久〕	オータムセッション/Autumn Session	33
【A0787】	現代政策学特講Ⅱ(沖縄)	〔明田川 融〕	スプリングセッション/Spring Session	34
【A0836】	外国書講読(独語)Ⅰ	〔細井 保〕	春学期授業/Spring	35
【A0837】	外国書講読(独語)Ⅱ	〔細井 保〕	秋学期授業/Fall	36
【A0838】	外国書講読(仏語)Ⅰ	〔近江屋 志穂〕	春学期授業/Spring	36
【A0839】	外国書講読(仏語)Ⅱ	〔近江屋 志穂〕	秋学期授業/Fall	37
【A0900】	協同組合論	〔杉崎 和久〕	秋学期授業/Fall	38
【A2224】	哲学特講(7)-1	〔君嶋 泰明〕	春学期	39
【A2241】	科学哲学1	〔中釜 浩一〕	春学期	40
【A2242】	科学哲学2	〔中釜 浩一〕	秋学期	41
【A2245】	現代思想2(フランスの思想)1	〔大池 惣太郎〕	春学期	41
【A2246】	現代思想2(フランスの思想)2	〔大池 惣太郎〕	秋学期	42
【A2251】	宗教学1(伝統宗教)1	〔杉本 隆司〕	春学期	42
【A2252】	宗教学1(伝統宗教)2	〔杉本 隆司〕	秋学期	43
【A2268】	ラテン語1	〔金子 佳司〕	春学期	44
【A2269】	ラテン語2	〔金子 佳司〕	秋学期	45
【A2270】	ギリシア語1	〔白根 裕里枝〕	春学期	46
【A2271】	ギリシア語2	〔白根 裕里枝〕	秋学期	47
【A2553】	日本文芸批評史A	〔川鍋 義一〕	春学期	48
【A2555】	日本文芸批評史B	〔川鍋 義一〕	秋学期	49
【A2561】	中国文芸史A	〔長谷川 真史〕	春学期	50
【A2563】	中国文芸史B	〔長谷川 真史〕	秋学期	51

【A2661】	日本文芸研究特講 (2) 中古A [栗山 元子] 春学期	52
【A2662】	日本文芸研究特講 (2) 中古B [加藤 昌嘉] 秋学期	54
【A2665】	日本文芸研究特講 (3) 中世A [小秋元 段] 春学期	55
【A2666】	日本文芸研究特講 (3) 中世B [小秋元 段] 秋学期	56
【A2669】	日本文芸研究特講 (4) 近世A [眞島 望] 春学期	56
【A2670】	日本文芸研究特講 (4) 近世B [小林 ふみ子] 秋学期	57
【A2703】	日本文芸研究特講 (15) 国際日本学A [スティーヴン ネルソン] 春学期	58
【A2704】	日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B [スティーヴン ネルソン] 秋学期	59
【A2804】	英語学概論A [椎名 美智] 春学期	60
【A2805】	英語学概論B [福元 広二] 秋学期	61
【A2806】	言語学概論A [石川 潔] 春学期	62
【A2807】	言語学概論B [石井 創] 秋学期	63
【A2808】	英語・言語学講義A [椎名 美智] 秋学期	65
【A2809】	英語・言語学講義B [石川 潔] 秋学期	66
【A2810】	社会言語学 [塩田 雄大] 春学期	67
【A2811】	応用言語学 [川崎 貴子] 秋学期	68
【A2824】	比較文学A [柳橋 大輔] 春学期	68
【A2825】	比較文学B [柳橋 大輔] 秋学期	69
【A2905】	米文学史A [宮川 雅] 春学期	70
【A2906】	米文学史B [宮川 雅] 秋学期	71
【A2907】	英米文学講義I A [宮川 雅] 春学期	72
【A2908】	英米文学講義I B [宮川 雅] 秋学期	73
【A2909】	英米文学講義II A [丹治 愛] 春学期	74
【A2910】	英米文学講義II B [丹治 愛] 秋学期	75
【A2911】	英語学講義A [福元 広二] 春学期	76
【A2912】	英語学講義B [福元 広二] 秋学期	77
【A2913,A2326】	言語学講義I A / 言語と論理1 (言語学講義I) A [石川 潔] 春学期	78
【A2914,A2327】	言語学講義I B / 言語と論理1 (言語学講義I) B [石川 潔] 秋学期	79
【A2915】	言語学講義II A [伊藤 達也] 春学期	79
【A2916】	言語学講義II B [伊藤 達也] 秋学期	80
【A2923】	英語・言語学特殊講義A [小野 綾子] 春学期	80
【A2924】	英語・言語学特殊講義B [小野 綾子] 秋学期	81
【A2965】	英米文学特殊講義I [田中 裕希] 春学期	82
【A2966】	英米文学特殊講義II [田中 裕希] 秋学期	83
【A2968】	英米文学特殊講義IV [小島 尚人] 秋学期	83
【A2981】	比較文化論 (1) [小島 尚人] 秋学期	84
【A2982】	英米文化概論A [田中 裕希] 春学期	85
【A2983】	英米文化概論B [田中 裕希] 秋学期	86
【A3113,A3856】	日本考古学 / 日本考古学 (資格) [古庄 浩明] 秋学期	86
【A3116】	日本近世史 [松本 剣志郎] 秋学期	87
【A3152,A3855】	考古学概論 / 考古学概論 (資格) [古庄 浩明] 春学期	88
【A3157】	日本史特講IV [中山 学] 秋学期	89
【A3164】	東洋史特講III [芦沢 知絵] 秋学期	90
【A3171】	西洋史特講IV [高澤 紀恵] 春学期	91
【A3172】	西洋史特講V [高澤 紀恵] 秋学期	92
【A3208】	東洋近現代史 [芦沢 知絵] 春学期	93
【A3212】	日本史序説I [川上 真理] 春学期	94
【A3213】	日本史序説II [齋藤 智志] 秋学期	94
【A3214】	東洋史序説 [宇都宮 美生] 春学期	95
【A3215】	西洋史序説 [志内 一興] 春学期	96
【A3216】	日本史特講XI [遠藤 慶太] 秋学期	97
【A3217】	東洋史特講VII [水上 和則] 春学期	98
【A3218】	東洋史特講VIII [松本 隆志] 春学期	99
【A3219】	西洋史特講IX [大和久 悌一郎] 秋学期	100
【A3420】	生物・土壌地理学及び実験I [小川 滋之] 春学期	100
【A3421】	生物・土壌地理学及び実験II [小川 滋之] 秋学期	101
【A3422】	気候・気象学及び実験I [山口 隆子] 春学期	102

【A3423】 気候・気象学及び実験Ⅱ [山口 隆子] 秋学期	103
【A3424】 海洋・陸水学及び実験Ⅰ [小寺 浩二] 春学期	104
【A3425】 海洋・陸水学及び実験Ⅱ [小寺 浩二] 秋学期	105
【A3426】 社会経済地理学(1) [小原 文明] 秋学期	106
【A3427】 社会経済地理学(2) [伊藤 達也] 春学期	107
【A3428】 社会経済地理学(3) [片岡 義晴] 秋学期	108
【A3471】 地理情報システム(GIS)Ⅰ [中山 大地] 春学期	109
【A3472】 地理情報システム(GIS)Ⅱ [中山 大地] 秋学期	110
【A3481】 社会経済地理学(4)(エコツーリズム) [呉羽 正昭] 秋学期	111
【A3482】 文化地理学(1) [中俣 均] 春学期	112
【A3483】 文化地理学(2) [中俣 均] 秋学期	113
【A3622】 発達心理学 [渡辺 弥生] 春学期	114
【A3809,A3859】 民俗学Ⅰ/民俗学Ⅰ(資格) [室井 康成] 春学期	115
【A3810,A3860】 民俗学Ⅱ/民俗学Ⅱ(資格) [室井 康成] 秋学期	116
【A3811】 イスラム世界論Ⅰ [松本 隆志] 春学期	117
【A3812】 イスラム世界論Ⅱ [松本 隆志] 秋学期	118
【A3814】 現代のコモンセンス [高橋 敏治、中釜 浩一、王 安] 秋学期	119
【A3819】 歴史地理学(1) [米家 志乃布] 春学期	120
【A3820】 歴史地理学(2) [米家 志乃布] 秋学期	121
【A4032】 経営学総論Ⅰ(2016~2018年度入学者) [木村 純子] 春学期授業/Spring	123
【A4033】 経営学総論Ⅱ(2016~2018年度入学者) [木村 純子] 秋学期授業/Fall	125
【A4393】 組織経済学 [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	127
市場経営学科専門科目 200番台 【A4465】 日本経営論Ⅰ [金 容度] 春学期授業/Spring	128
市場経営学科専門科目 200番台 【A4466】 日本経営論Ⅱ [金 容度] 秋学期授業/Fall	129
【A5401】 広告論 [宮井 弘之] 秋学期授業/Fall	130
特殊講義 【A5410】 寄附講座・資本市場の役割と証券投資 [鷺田 賢一郎] 秋学期授業/Fall	131
【A6309,A6553】 Advanced Topics in Contemporary Art [Utako SHINDO] 秋学期授業/Fall	132
国際ボランティア 【A8912】 夏季国際ボランティア(オンライン) [DIANA KHOR] サマーセッション	133
【A9010/A9046】 スポーツ方法論/スポーツ方法論Ⅰ [鈴木 敦] 秋学期授業/Fall	134
【A9021】 スポーツビジネス論Ⅰ [岩村 聡] 春学期授業/Spring	135
【A9022】 スポーツビジネス論Ⅱ [岩村 聡] 秋学期授業/Fall	136
【A9026】 スポーツメディア論 [小池 隆俊] 秋学期授業/Fall	137
【A9037】 アスリートキャリア論 [笠井 淳] 春学期授業/Spring	138
【A9050】 オリンピック・パラリンピックを考える [山田 快] 春学期授業/Spring	139
【A9207/A9258】 スポーツ方法論/スポーツ方法論Ⅰ [佐藤 祐輔] 春学期授業/Spring	140
【A9214】 リーダーシップ論Ⅰ [浅井 玲子] 春学期授業/Spring	142
【A9215】 リーダーシップ論Ⅱ [浅井 玲子] 秋学期授業/Fall	143
【A9220】 アスリートキャリア論 [成田 道彦] 春学期授業/Spring	144
【A9221】 スポーツメディア論 [小池 隆俊] 秋学期授業/Fall	145
都市環境デザイン工学科 【B1050】 財務会計(2018年度以前入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	147
建築学科 【B1050】 財務会計(2018年度以前入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	148
【B1050】 財務会計(2018年度以前入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	149
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	150
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	152
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	154
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】 エコノミクス [多部田 直樹] 秋学期授業/Fall	156
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】 エコノミクス [多部田 直樹] 秋学期授業/Fall	158
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】 エコノミクス [多部田 直樹] 秋学期授業/Fall	160
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2008】 現代企業論(2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	162
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2008】 現代企業論(2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	163
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2008】 現代企業論(2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	164
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステイナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	165
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステイナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	166

都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3001】サステイナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	167
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】建築フォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	168
【C0222】社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	169
【C0223】メディアと社会 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	171
【C0231】言語文化概論 [衣笠 正晃] 秋学期授業/Fall	173
【C0233】ジェンダー論 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	174
【C0242】国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	175
【C0243】平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	176
【C0244】宗教と社会 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	177
【C0531】英語アプリケーションⅡ [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	178
【C0532】英語アプリケーションⅢ [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	179
【C0533】英語アプリケーションⅣ [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	181
【C0534】英語アプリケーションⅤ [ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring	183
【C0536】英語アプリケーションⅦ [ANDREW JONES] 秋学期授業/Fall	185
【C0537】英語アプリケーションⅧ [大野 ロベルト] 秋学期授業/Fall	186
【C0539】英語アプリケーションⅩ [ラスカイル L. ハウザー] 秋学期授業/Fall	187
【C0595】ドイツ語アプリケーション [林 志津江] 春学期授業/Spring	188
【C0596】ドイツ語アプリケーション [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	189
【C0597】ドイツ語アプリケーション [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	190
【C0625】フランス語アプリケーション [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	191
【C0626】フランス語アプリケーション [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	192
【C0627】フランス語アプリケーション [カレンス フィリップ] 春学期授業/Spring	193
【C0628】フランス語アプリケーション [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	194
【C0655】ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	195
【C0656】ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	196
【C0685】中国語アプリケーションⅠ [曾 士才] 秋学期授業/Fall	197
【C0686】中国語アプリケーションⅣ [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	198
【C0687】中国語アプリケーションⅢ [周 重雷] 春学期授業/Spring	199
【C0688】中国語アプリケーションⅡ [ショウ イクテイ] 春学期授業/Spring	200
【C0755】朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 春学期授業/Spring	201
【C0756】朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	202
【C0770】情報コミュニケーションⅠ [甲 洋介] 春学期授業/Spring	203
【C0771】情報コミュニケーションⅡ [和泉 順子] 春学期授業/Spring	204
【C0772】情報コミュニケーションⅢ [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	205
【C0832】文化情報の哲学 [森村 修] 春学期授業/Spring	207
【C0833】ソーシャル・プラクティス [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	208
【C0852】サブカルチャー論 [島田 雅彦] 春学期授業/Spring	210
【C0854】現代美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	211
【C0861】メディア表現ワークショップ1 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	212
【C0862】メディア表現ワークショップ2 [島田 雅彦] 秋学期授業/Fall	213
【C0872】映像と文学 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	214
【C0901】世界の中の日本語 [大野 ロベルト] 秋学期授業/Fall	216
【C0910】中国の文化Ⅰ (現代中国社会) [曾 士才] 春学期授業/Spring	217
【C0912】中国の文化Ⅲ (日中文化交流史) [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	218
【C0913】中国の文化Ⅳ (中国語の構造) [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	220
【C0915】中国の文化Ⅵ (古典思想・文学) [野村 英登] 春学期授業/Spring	221
【C0916】中国の文化Ⅶ (近代文学) [桑島 道夫] 春学期授業/Spring	222
【C0917】中国の文化Ⅷ (現代文学) [桑島 道夫] 秋学期授業/Fall	223
【C0918】中国の文化Ⅸ (中国俗文学) [鈴木 靖] 春学期授業/Spring	224
【C0919】中国の文化Ⅹ (歴史) [張 玉萍] 秋学期授業/Fall	225
【C0920】朝鮮語圏の文化Ⅰ (朝鮮半島の文化史) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	226
【C0921】朝鮮語圏の文化Ⅱ (朝鮮語の構造) [内山 政春] 秋学期授業/Fall	227
【C0930】アフロ・アジアの文化 [江村 裕文] 春学期授業/Spring	228
【C0932】ロシア・東欧の文化 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	229
【C0941】ドイツ語圏の文化Ⅱ [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	231

【C0942】	フランス語圏の文化Ⅰ（思想）[大中 一彌] 秋学期授業/Fall	232
【C0943】	フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）[岡村 民夫] 春学期授業/Spring	235
【C0946】	スペイン語圏の文化Ⅱ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	236
【C0950】	カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A）[VILA V RAQUEL] 春学期授業/Spring	237
【C0951】	カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）[VILA V RAQUEL] 秋学期授業/Fall	238
【C0952】	カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）[VILA V RAQUEL] 春学期授業/Spring	239
【C0953】	カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）[VILA V RAQUEL] 秋学期授業/Fall	240
【C0963】	英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）[須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	241
【C0965】	英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）[中和 彩子] 春学期授業/Spring	242
【C0966】	英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）[齊藤 雄介] 春学期授業/Spring	243
【C0967】	英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）[齊藤 雄介] 秋学期授業/Fall	245
【C1000】	比較表象文化論 [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	247
【C1020】	間文化性研究翻訳論 [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	248
【C1021】	日英翻訳論 [大野 ロベルト] 春学期授業/Spring	249
【C1031】	宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）[佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	250
【C1040】	国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）[市岡 卓] 春学期授業/Spring	251
【C1041】	国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））[木口 由香] 秋学期授業/Fall	252
【C1043】	人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）[曾 士才] 秋学期授業/Fall	253
【C1046】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	254
【C1048】	実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	256
【C1056】	国際関係研究Ⅶ [石森 大知] 秋学期授業/Fall	257
【C1701】	海外フィールドスクール [稲垣 立男] オータムセッション/Autumn Session	258
【C2004】	国際法Ⅰ [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	259
【C2005】	国際法Ⅱ [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	260
【C2013】	環境法Ⅰ [横内 恵] 秋学期授業/Fall	261
【C2014】	環境法Ⅱ [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	262
【C2015】	環境法Ⅲ [横内 恵] 秋学期授業/Fall	263
【C2017】	国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	264
【C2112】	環境経営論Ⅰ [金藤 正直] 春学期授業/Spring	264
【C2113】	環境経営論Ⅱ [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	265
【C2200】	現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	266
【C2201】	現代社会論Ⅱ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	267
【C2202】	現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	268
【C2217】	環境社会論Ⅰ [黒田 暁] 春学期授業/Spring	269
【C2218】	環境社会論Ⅱ [黒田 暁] 秋学期授業/Fall	270
【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	271
【C2301】	仏教思想 [小島 敬裕] 秋学期授業/Fall	273
【C2310】	環境倫理学Ⅰ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	274
【C2311】	環境倫理学Ⅱ [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	275
【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [梅原 秀元] 春学期授業/Spring	276
【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [梅原 秀元] 秋学期授業/Fall	277
【C2403】	自然環境論Ⅰ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	278
【C2404】	自然環境論Ⅱ [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	279
【C2416】	環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	280
【C2417】	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	281
【C2418】	環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	282
【C2433】	自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	283
【C2500】	環境管理論Ⅰ [大岡 健三] 春学期授業/Spring	284
【C2501】	環境管理論Ⅱ [大野 香代] 春学期授業/Spring	285
【C2503】	環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	286
【C2559】	現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	287
【C2560】	現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	288
基幹科目_選択	【C7083】 職業選択論Ⅰ [上西 充子] 春学期	289
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育	【C7195】 学習の社会史 A [山口 真里] 秋学期	290
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育	【C7196】 学習の社会史 B [寺崎 里水] 春学期	291
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス	【C7254】 職業選択論Ⅱ [上西 充子] 秋学期	292
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス	【C7258】 産業・組織心理学Ⅱ [坂爪 洋美] 秋学期	293

展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7259】キャリア開発論 [武石 恵美子] 春学期	294
【C7270】【2013 以前入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅰ [松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 春学期	295
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7270】【2014 以降入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅰ [松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 春学期	296
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7271】【2014 以降入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅱ [松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 秋学期	297
【C7271】【2013 以前入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅱ [松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 秋学期	298
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7274】シティズンシップ論 [榎並 利博] 春学期	299
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7304】コミュニティ社会論Ⅰ [佐藤 恵] 春学期	300
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7305】コミュニティ社会論Ⅱ [佐藤 恵] 秋学期	301
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7315】アート・マネジメント論 [山口 佳子] 春学期	302
関連科目【C7710】就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- [梅崎 修、上西 充子] 秋学期	303
関連科目【C7711】就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期	304
関連科目【C7712】就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期	306
専門教育科目_専門科目【J0441】プログラミング(MATLAB) [伊藤 克亘] 秋学期授業/Fall	308
専門教育科目_専門科目【J0443】微積分法応用: フーリエ級数と変換 [秋野 喜彦] 春学期授業/Spring	309
【K5359】化学A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	310
【K5360】化学B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	311
【K6046】社会経済学応用A [原 伸子] 春学期授業/Spring	312
【K6047】社会経済学応用A [原 伸子] 春学期授業/Spring	313
【K6048】社会経済学応用B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	314
【K6049】社会経済学応用B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	315
【K6054】日本経済論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	316
【K6055】日本経済論A [牧野 文夫] 春学期授業/Spring	317
【K6056】日本経済論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	318
【K6057】日本経済論B [牧野 文夫] 秋学期授業/Fall	319
【K6058】国際経済論A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	320
【K6059】国際経済論A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	321
【K6060】国際経済論B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	321
【K6061】国際経済論B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	322
【K6062】財政学A [小林 克也] 春学期授業/Spring	323
【K6063】財政学A [天利 浩] 春学期授業/Spring	324
【K6064】財政学B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	325
【K6065】財政学B [天利 浩] 秋学期授業/Fall	326
【K6066】金融論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	327
【K6067】金融論A [鈴木 誠] 春学期授業/Spring	328
【K6068】金融論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	329
【K6069】金融論B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	330
【K6094】計量経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	331
【K6095】計量経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	332
【K6102】企業と経済・応用A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	333
【K6103】企業と経済・応用B [河村 真] 秋学期授業/Fall	334
【K6108】現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	335
【K6109】現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	336
【K6122】経済データ分析A [明城 聡] 春学期授業/Spring	337
【K6123】経済データ分析B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	338
【K6124】経済地理 [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	339
【K6125】産業集積論 [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	340
【K6128】コーポレートガバナンス論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	341
【K6129】コーポレートガバナンス論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	342
【K6140】企業実務研究A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	343
【K6141】企業実務研究B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	344
【K6150】国際関係論A [富永 靖敬] 春学期授業/Spring	345
【K6151】国際関係論B [富永 靖敬] 秋学期授業/Fall	346
【K6152】経済人類学A [河野 正治] 春学期授業/Spring	347
【K6153】経済人類学B [河野 正治] 秋学期授業/Fall	348
【K6154】環境経済論A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	349

【K6155】	環境経済論A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	350
【K6156】	環境経済論B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	351
【K6157】	環境経済論B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	352
【K6160】	経済地理A [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	353
【K6161】	経済地理B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	354
【K6162】	アメリカ経済論A [下斗米 秀之] 春学期授業/Spring	355
【K6163】	アメリカ経済論B [下斗米 秀之] 秋学期授業/Fall	356
【K6164】	ヨーロッパ経済論A [伊東 林蔵] 春学期授業/Spring	357
【K6165】	ヨーロッパ経済論B [伊東 林蔵] 秋学期授業/Fall	358
【K6166】	現代アジア経済論A [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	359
【K6167】	現代アジア経済論B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	360
【K6168】	中国経済論A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	361
【K6169】	中国経済論B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	362
【K6180】	ドイツ語セミナーA [新田 誠吾] 春学期授業/Spring	363
【K6181】	ドイツ語セミナーB [新田 誠吾] 秋学期授業/Fall	364
【K6182】	フランス語セミナーB [橋本 到] 秋学期授業/Fall	365
【K6183】	フランス語セミナーA [橋本 到] 春学期授業/Spring	366
【K6184】	ロシア語セミナーA [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	367
【K6185】	ロシア語セミナーB [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	368
【K6186】	中国語セミナーA [石 碩] 春学期授業/Spring	369
【K6187】	中国語セミナーB [石 碩] 秋学期授業/Fall	370
【K6188】	スペイン語セミナーA [芝田 幸一郎] 春学期授業/Spring	371
【K6189】	スペイン語セミナーB [芝田 幸一郎] 秋学期授業/Fall	371
【K6203】	開発経済入門A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	372
【K6204】	開発経済入門B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	373
【K6209】	環境科学A [岡部 雅史] 春学期授業/Spring	374
【K6210】	環境科学B [岡部 雅史] 秋学期授業/Fall	375
【K6223】	環境政策論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	376
【K6224】	環境政策論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	376
【K6227】	社会経済思想史A [後藤 浩子] 春学期授業/Spring	377
【K6228】	社会経済思想史B [後藤 浩子] 秋学期授業/Fall	378
【K6229】	経済政策論A [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	379
【K6230】	経済政策論B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	379
【K6233】	社会政策論A [菅原 琢磨] 春学期授業/Spring	380
【K6234】	社会政策論B [菅原 琢磨] 秋学期授業/Fall	381
【K6235】	労働経済論A [酒井 正] 春学期授業/Spring	382
【K6236】	労働経済論B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	383
【K6243】	社会保障論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	384
【K6244】	社会保障論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	385
【K6314】	地球環境論A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	386
【K6315】	地球環境論B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	387
【K6337】	マクロ経済学A [檜野 智子] 春学期授業/Spring	388
【K6338】	マクロ経済学B [檜野 智子] 秋学期授業/Fall	389
【K6339】	ミクロ経済学A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	390
【K6340】	ミクロ経済学B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	391
【K6343】	マクロ経済学A [森田 裕史] 春学期授業/Spring	392
【K6344】	マクロ経済学B [森田 裕史] 秋学期授業/Fall	393
【K6345】	ミクロ経済学A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	394
【K6346】	ミクロ経済学B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	394
【K6501】	特別講義 (寄付講座 証券市場論) [大和証券 (株)] 春学期授業/Spring	395
【K6572】	寄付講座 わが国金融の現状と課題 [寄付講座担当教員] 秋学期授業/Fall	396
【K6575】	特別講義 (ビジネス日本語A) [李 址遠] 春学期授業/Spring	397
【K6576】	特別講義 (ビジネス日本語B) [李 址遠] 秋学期授業/Fall	397
【K6578】	特別講義 (アニメーション産業論) [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	398
【K6705】	日本国憲法A [川鍋 健] 春学期授業/Spring	398
【K6706】	日本国憲法B [川鍋 健] 秋学期授業/Fall	399
【K6707】	民法一部A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	400

【K6708】民法一部B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	401
【K6711】商法一部A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	402
【K6712】商法一部B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	403
【K6729】簿記ⅡA [岸 牧人] 春学期授業/Spring	403
【K6730】簿記ⅡB [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	404
【K6733】Academic Research Seminar A [飯野 厚] 春学期授業/Spring	405
【K6734】Academic Research Seminar B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	406
【K6739】Academic Research Seminar A [山崎 達朗] 春学期授業/Spring	407
【K6740】Academic Research Seminar B [山崎 達朗] 秋学期授業/Fall	408
【K6749】原価計算A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	408
【K6750】原価計算B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	409
【K6751】会計学入門A [石田 惣平] 春学期授業/Spring	409
【K6752】会計学入門B [石田 惣平] 秋学期授業/Fall	410
講義・実習科目 【LA107】産業社会学Ⅰ [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	411
講義・実習科目 【LA108】産業社会学Ⅱ [恵羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	412
講義・実習科目 【LA112】金融システム論 [八木 勲] 春学期授業/Spring	413
講義・実習科目 【LA202】環境経済学Ⅰ [信澤 由之] 春学期授業/Spring	414
講義・実習科目 【LA203】環境経済学Ⅱ [信澤 由之] 秋学期授業/Fall	415
講義・実習科目 【LA204】環境政策論 [田中 充] 春学期授業/Spring	416
講義・実習科目 【LA205】環境自治体論 [田中 充] 秋学期授業/Fall	417
講義・実習科目 【LA210】社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	418
講義・実習科目 【LA211】社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	419
講義・実習科目 【LA308】国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	419
講義・実習科目 【LA309】イスラム社会論 [岡野内 正] 春学期授業/Spring	420
講義・実習科目 【LB410】地域研究(中国) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	421
講義・実習科目 【LD303】社会ネットワーク論Ⅰ [宇野 斉] 春学期授業/Spring	422
講義・実習科目 【LD304】社会ネットワーク論Ⅱ [宇野 斉] 秋学期授業/Fall	423
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目 【M4510】スポーツ戦術論(サッカー) [小井土 正亮] 秋学期授業/Fall	424
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目 【M4710】青少年指導実習(サッカー) [小井土 正亮] 秋学期授業/Fall	425
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(人文系) 【N0061】ホスピタリティ論 [野口 洋平] 春学期授業/Spring	426
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(人文系) 【N0062,N0064】日本人の心理特性と文化 [長山 恵一] 秋学期授業/Fall	427
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(人文系) 【N0063,N0065】教育学 [藤本 典裕] 春学期授業/Spring	428
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(社会系) 【N0119】社会学特講 [左古 輝人] 春学期授業/Spring	429
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(社会系) 【N0122,N0124】経営学 [山藤 竜太郎] 秋学期授業/Fall	430
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(社会系) 【N0123,N0125】老年学 [新名 正弥] 春学期授業/Spring	431
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目 【N1058】福祉国家論 [布川 日佐史] 春学期授業/Spring	432
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1105】地域文化政策論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	432
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1108】都市住宅政策論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring	433
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目(社会系) 【N1113】国際協力論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	434
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1113】国際協力論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	435
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1114】福祉の思想と歴史 [白川 耕一] 春学期授業/Spring	435
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1115】環境政策論 [藤澤 浩子] 春学期授業/Spring	436
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1121】政策評価論 [石井 義之] 秋学期授業/Fall	437
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1201,N1223】コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	438
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1207】地域遺産マネジメント論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	439
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1208,N1224】地域経営論 [松本 昭] 春学期授業/Spring	440
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1209,N1225】地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	441
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1210】ソーシャルイノベーション論 [土肥 将敦] 春学期授業/Spring	442
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1213】文化環境創造論 [須田 英一] 秋学期授業/Fall	443
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1216】ソーシャルマネジメント論 [樋口 邦史] 秋学期授業/Fall	444

福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1217】ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授業/Spring	445
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1221,N1226】NPO論 [渡真利 紘一] 春学期授業/Spring	446
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1222】居住福祉論 [大原 一興] 春学期授業/Spring	447
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1235】災害支援論 [青木 信夫、松井 正雄、正谷 絵美] 秋学期授業/Fall	448
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1309】異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	449
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0501】大学を知ろう <法政学>への招待 [小林 ふみ子、小倉 淳一] 春学期授業/Spring	450
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0621】リベラルアーツ特別講座 [コーディネータ:小原 丈明、講師(ゲストスピーカー):イオン銀行 岩波 俊哉氏 他] 春学期授業/Spring	452
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0622】リベラルアーツ特別実習 [コーディネータ:小原 丈明、講師(ゲストスピーカー):イオン銀行 岩波 俊哉氏 他] スプリングセッション/Spring Session	453
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6001】第三外国語としての朝鮮語A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	454
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6002】第三外国語としての朝鮮語B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	455
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6003】第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	456
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6005】第三外国語としての朝鮮語A [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	457
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6006】第三外国語としての朝鮮語B [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	458
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6051】日本語コミュニケーションA [江村 裕文] 春学期授業/Spring	459
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6052】日本語コミュニケーションB [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	460
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6101】漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	461
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6102】漢字・漢文学B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	462
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6103】教養ゼミⅠ [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	463
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6104】教養ゼミⅡ [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	464
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6109】身体表現論A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	465
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6110】身体表現論B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	466
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6111】美術論A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	467
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6112】美術論B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	469
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6113】芸術と人間A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	470
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6114】芸術と人間B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	471
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6115】仏教思想論A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	472
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6116】仏教思想論B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	473
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6117】行為の理論A [山口 誠一] 春学期授業/Spring	474
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6118】行為の理論B [山口 誠一] 秋学期授業/Fall	475
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6119】教養ゼミⅠ [森村 修] 春学期授業/Spring	476
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6120】教養ゼミⅡ [森村 修] 秋学期授業/Fall	478
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6121】中国の民族と文化A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	480
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6122】中国の民族と文化B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	481
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6125】古代日本・中国の法と社会A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	482
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6126】古代日本・中国の法と社会B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	483
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6127】アジア・太平洋島嶼国際関係史A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	484

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史 B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	485
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】 教養ゼミⅠ [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	486
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】 教養ゼミⅡ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	487
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6133】 キリスト教思想史 A [酒井 健] 春学期授業/Spring	488
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6134】 キリスト教思想史 B [酒井 健] 秋学期授業/Fall	489
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6135】 教養ゼミⅠ [江村 裕文] 春学期授業/Spring	490
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6136】 教養ゼミⅡ [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	491
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6137】 異文化コミュニケーション論 A [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	492
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6138】 異文化コミュニケーション論 B [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall	493
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6141】 教養ゼミⅠ [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	494
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6142】 教養ゼミⅡ [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	495
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6143】 イギリスと帝国 A [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	496
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6144】 イギリスと帝国 B [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	497
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6201】 法哲学 A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	498
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6202】 法哲学 B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall ..	499
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6203】 教養ゼミⅠ [木村 正俊] 春学期授業/Spring	500
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6204】 教養ゼミⅡ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	501
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6207】 福祉社会論 A [菅野 摂子] 春学期授業/Spring	502
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6208】 福祉社会論 B [菅野 摂子] 秋学期授業/Fall	503
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6209】 人文地理学セミナー A [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	504
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6210】 人文地理学セミナー B [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	505
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6212】 文化人類学方法論 B [石森 大知] 秋学期授業/Fall	506
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6213】 教養ゼミⅠ [上村 剛] 春学期授業/Spring	507
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6214】 教養ゼミⅡ [上村 剛] 秋学期授業/Fall ..	508
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6215】 人間行動学 A [海部 紀行] 春学期授業/Spring	509
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6216】 人間行動学 B [海部 紀行] 秋学期授業/Fall	511
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6223】 教養ゼミⅠ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	513
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6224】 教養ゼミⅡ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	514
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6301】 自然環境のしくみとその変貌 A [加藤 美雄] 春学期授業/Spring	515
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6302】 自然環境のしくみとその変貌 B [加藤 美雄] 秋学期授業/Fall	517
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6305】 計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	518
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6306】 コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	519
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6307】 確率の世界 A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	520
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6308】 確率の世界 B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	521
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6311】 相対性理論と宇宙 A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	522
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6312】 相対性理論と宇宙 B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	523
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6313】 現代の錬金術 A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	524
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6314】 現代の錬金術 B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	525

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6315】 原子核と素粒子 A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	526
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6316】 原子核と素粒子 B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	527
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6317】 教養ゼミ I [島野 智之] 春学期授業/Spring	528
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6318】 教養ゼミ II [島野 智之] 秋学期授業/Fall	529
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6323】 イオンの科学 A [向井 知大] 春学期授 業/Spring	531
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6324】 イオンの科学 B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	532
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6325】 光と色の科学 A [中島 弘一] 春学期授 業/Spring	533
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6326】 光と色の科学 B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	534
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6327】 物質の科学 A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	535
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6328】 物質の科学 B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	536
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 I T リテラシー [児玉 靖司] 春学期授 業/Spring	537
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授 業/Fall	538
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授 業/Spring	539
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	540
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6337】 ボルボックス生物論 A [植木 紀子] 春学 期授業/Spring	542
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6338】 ボルボックス生物論 B [植木 紀子] 秋学 期授業/Fall	543
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6339】 教養ゼミ I [中田 和秀] 春学期授業/Spring	544
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6340】 教養ゼミ II [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	545
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6401】 教養ゼミ I [LASSEGARD JAMES] 春 学期授業/Spring	546
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6402】 教養ゼミ II [LASSEGARD JAMES] 秋 学期授業/Fall	547
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語 A [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	548
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語 B [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	549
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6423】 ドイツ語コミュニケーション中級 A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	550
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6424】 ドイツ語コミュニケーション中級 B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	551
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6425】 教養ゼミ I [辻 英史、竹本 研史] 春学 期授業/Spring	552
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6426】 教養ゼミ II [辻 英史、竹本 研史] 秋学 期授業/Fall	553
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6427】 ドイツの思想 A [笠原 賢介] 春学期授 業/Spring	555
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6428】 ドイツの思想 B [笠原 賢介] 秋学期授 業/Fall	556
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6429】 ドイツ語圏の文学 A [柳橋 大輔] 春学 期授業/Spring	557
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6430】 ドイツ語圏の文学 B [柳橋 大輔] 秋学 期授業/Fall	558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6431】 比較文化 A [D. ハイデンライヒ] 春学期 授業/Spring	559
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6432】 比較文化 B [D. ハイデンライヒ] 秋学期 授業/Fall	560

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6433】 ドイツ語圏の芸術 A [林 志津江] 春学期授業/Spring	561
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6434】 ドイツ語圏の芸術 B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	562
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6501】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	564
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6502】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	565
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6505】 スポーツ科学 A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	566
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6506】 スポーツ科学 B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	567
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6507】 スポーツ科学 A [前原 千佳] 春学期授業/Spring	568
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6508】 スポーツ科学 B [前原 千佳] 秋学期授業/Fall	569
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6509】 スポーツ科学 A [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	571
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6510】 スポーツ科学 B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	572
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6511】 スポーツ科学 A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	574
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6512】 スポーツ科学 B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	575
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6513】 スポーツ科学 A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	576
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6514】 スポーツ科学 B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	577
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6515】 スポーツ科学 A [秋本 成晴] 春学期授業/Spring	578
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6516】 スポーツ科学 B [秋本 成晴] 秋学期授業/Fall	579
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6517】 スポーツ科学 A [中澤 史] 春学期授業/Spring	581
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6518】 スポーツ科学 B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	582
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6519】 スポーツ科学 A [笠井 淳] 春学期授業/Spring	584
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6520】 スポーツ科学 B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	585
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6523】 教養ゼミ I [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	586
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6524】 教養ゼミ II [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	588
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6529】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	590
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6530】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	591
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6531】 教養ゼミ I [林 容市] 春学期授業/Spring	592
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6532】 教養ゼミ II [林 容市] 秋学期授業/Fall .	593
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6601】 第三外国語としてのフランス語 A [コルバイユ ステイーブ] 春学期授業/Spring	595
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6602】 第三外国語としてのフランス語 B [コルバイユ ステイーブ] 秋学期授業/Fall	596
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6605】 教養ゼミ I [大中 一彌] 春学期授業/Spring	597
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6606】 教養ゼミ II [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	598
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6607】 教養ゼミ I [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	600
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6608】 教養ゼミ II [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	601
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6609】 フランス語コミュニケーション (中・上級) A [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	603

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6610】 フランス語コミュニケーション (中・上級) B [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	604
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6701】 第三外国語としてのロシア語 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	605
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	606
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級 A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	607
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級 B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	608
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6705】 実用ロシア語 A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	609
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6706】 実用ロシア語 B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	610
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6707】 ロシア語講読 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	611
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6708】 ロシア語講読 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	612
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6709】 時事ロシア語 A [油本 真理] 春学期授業/Spring	613
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6710】 時事ロシア語 B [油本 真理] 秋学期授業/Fall	614
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6801】 第三外国語としての中国語 A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	615
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6802】 第三外国語としての中国語 B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	616
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6809】 中国語コミュニケーション中級 A [周 重雷] 春学期授業/Spring	617
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6810】 中国語コミュニケーション中級 B [周 重雷] 秋学期授業/Fall	618
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6811】 中国語翻訳・通訳 A [葉 進] 春学期授業/Spring	619
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6812】 中国語翻訳・通訳 B [葉 進] 秋学期授業/Fall	620
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6813】 中国語翻訳・通訳 C [高田 裕子] 春学期授業/Spring	621
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6814】 中国語翻訳・通訳 D [高田 裕子] 秋学期授業/Fall	622
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6815】 中国語講読 A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	623
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6816】 中国語講読 B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	624
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6819】 資格中国語中級 A [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	625
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6820】 資格中国語中級 B [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	626
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6821】 資格中国語上級 A [康 鴻音] 春学期授業/Spring	628
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6822】 資格中国語上級 B [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	629
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6823】 教養ゼミ I [岩田 和子] 春学期授業/Spring	630
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6824】 教養ゼミ II [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	631
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6901】 第三外国語としてのスペイン語 A [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring	632
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6902】 第三外国語としてのスペイン語 B [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall	633
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6905】 スペイン語上級 A [大西 亮] 春学期授業/Spring	634
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6906】 スペイン語上級 B [大西 亮] 秋学期授業/Fall	635

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6907】 スペイン語コミュニケーション中級A [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	636
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6908】 スペイン語コミュニケーション中級B [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	637
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6909】 教養ゼミⅠ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	638
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6910】 教養ゼミⅡ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	639
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6911】 スペイン語講読A [若林 大我] 春学期授業/Spring	640
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6912】 スペイン語講読B [若林 大我] 秋学期授業/Fall	641
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4281】 ドイツ語コミュニケーションⅠ [JENS OSTWALD] 春学期授業/Spring	642
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4282】 ドイツ語コミュニケーションⅡ [JENS OSTWALD] 秋学期授業/Fall	643
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4283】 ドイツ語表現法Ⅰ [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	644
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4284】 ドイツ語表現法Ⅱ [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	645
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4285】 ドイツ語視聴覚Ⅰ [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	646
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4286】 ドイツ語視聴覚Ⅱ [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	647
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4287】 時事ドイツ語Ⅰ [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	648
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4288】 時事ドイツ語Ⅱ [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	649
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4289】 検定ドイツ語Ⅰ [上田 知夫] 春学期授業/Spring	651
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4290】 検定ドイツ語Ⅱ [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	652
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4295】 ドイツ語の世界L A [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	653
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4296】 ドイツ語の世界L B [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	654
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4297】 ドイツの文化と社会L A [上田 知夫] 春学期授業/Spring	655
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4298】 ドイツの文化と社会L B [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	656
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5271】 フランス語の世界L A [コルベユ ステイーブ] 春学期授業/Spring	657
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5272】 フランス語の世界L B [コルベユ ステイーブ] 秋学期授業/Fall	658
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5273】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	660
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5274】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	661
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5279】 時事フランス語Ⅰ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	662
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5280】 時事フランス語Ⅱ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	664
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5291】 フランスの文化と社会L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	666
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5292】 フランスの文化と社会L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	667
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5293】 フランス生活文化論L A [河村 英和] サマーセッション/Summer Session	669

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5294】フランス生活文化論L B [河村 英和] 秋学期授業/Fall	670
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5295】フランス生活文化論L A [梶谷 彩子] 春学期授業/Spring	671
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5296】フランス生活文化論L B [梶谷 彩子] 秋学期授業/Fall	672
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R6211】ロシア語4 I [木部 敬] 春学期授業/Spring	673
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R6212】ロシア語4 II [木部 敬] 秋学期授業/Fall	674
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R6213】ロシア語4 I [上野 理恵] 春学期授業/Spring	675
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R6214】ロシア語4 II [上野 理恵] 秋学期授業/Fall	676
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R6215】ロシア語5 I [エレナ 三神] 春学期授業/Spring	677
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R6216】ロシア語5 II [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	678
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6241】ロシア語の世界L A [木部 敬] 春学期授業/Spring	679
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6242】ロシア語の世界L B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	680
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6243】ロシアの文化と社会L A [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	681
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6244】ロシアの文化と社会L B [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	682
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R7413】中国語コミュニケーション初級I [周 重雷] 春学期授業/Spring	683
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R7414】中国語コミュニケーション初級II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	684
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R7437】資格中国語初級I [青木 正子] 春学期授業/Spring	685
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R7438】資格中国語初級II [青木 正子] 秋学期授業/Fall	686
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7445】中国語の世界L A [渡辺 大] 春学期授業/Spring	687
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7446】中国語の世界L B [渡辺 大] 秋学期授業/Fall	688
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7447】中国の文化と社会L A [山本 律] 春学期授業/Spring	689
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7448】中国の文化と社会L B [山本 律] 秋学期授業/Fall	690
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R8301】スペイン語コミュニケーションI [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	691
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R8302】スペイン語コミュニケーションII [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	692
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R8303】現代のスペイン語I [大西 亮] 春学期授業/Spring	693
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R8304】現代のスペイン語II [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	694
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R8305】スペイン語の世界L A [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	695
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R8306】スペイン語の世界L B [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	696
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R9283】朝鮮語4 B I (視聴覚) [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	697

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9284】 朝鮮語 4 B II (視聴覚) [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	698
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R9289】 朝鮮の文化と社会 LA [李 英美] 春学期授業/Spring	699
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R9290】 朝鮮の文化と社会 LB [李 英美] 秋学期授業/Fall	700

LAW200AB

経済法 I

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講学上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。
事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済法 I および経済法 II では、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。

経済法 I では、独占禁止法による規制のうち「不当な取引制限」及び「私的独占」について学習する。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【遠隔授業の実施について】

オンデマンドでの開講を原則とする。オンデマンド授業では、レジュメと録音を配信する。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等について、授業支援システム・レジュメ・録音等を通じて回答することでフィードバックを図る。また、リアルタイムでの Zoom 授業を 1 回実施する可能性がある。実施の有無、実施の詳細については学習支援システムの「お知らせ」機能を通じて周知するので注意されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 (1)	独占禁止法の目的および体系
第 2 回	独占禁止法の沿革 (1)	戦前の経済体制や戦後の独占禁止法の導入
第 3 回	独占禁止法の沿革 (2)	独禁法導入にかかる理論的説明、導入後の運用の状況
第 4 回	独占禁止法のエンフォースメント (1)	組織・行政手続き
第 5 回	独占禁止法のエンフォースメント (2)	行政上の効果 (排除措置命令・課徴金・リニエーション制度)
第 6 回	独占禁止法のエンフォースメント (3)	民事・刑事上の効果、独禁法の実務
第 7 回	不当な取引制限 (1)	概観、事業者概念
第 8 回	不当な取引制限 (2)	行為要件、競争の実質的制限
第 9 回	不当な取引制限 (3)	事例 (1) 価格カルテルの事例を扱う。
第 10 回	不当な取引制限 (4)	事例 (2) 入札談合の事例を扱う。
第 11 回	不当な取引制限 (5)	事例 (3) その他の事例を扱う。
第 12 回	私的独占 (1)	概観、行為要件
第 13 回	私的独占 (2)	事例 (1) 支配型私的独占の事例を扱う。
第 14 回	私的独占 (3)	事例 (2) 排除型私的独占の事例を扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を「授業支援システム」においてネット配信するので、各自印刷したうえで講義に出席すること。また、講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のいずれかを教科書として用意すること。版に注意すること。
土田和博他『条文から学ぶ独占禁止法』（有斐閣、第 2 版、2019 年）
岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第 9 版、2020 年）2970 円

【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第 2 版）』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 70 %、平常点 30 %。
レポート課題は複数回課す。授業ではリアクションペーパーの提出を求め、平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたに対しては、おおむね好評だった。継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料（レジュメ・録音等）を「授業支援システム」においてネット配信する。

【その他の重要事項】

独占禁止法の基本的な内容について、経済法 I（春学期）及び経済法 II（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。独占禁止法の全範囲について基本的な内容を学習したいと考える学生には、春学期・秋学期あわせて履修することを推奨する。経済法 III では、独禁法の先端分野を扱うので、発展的な内容に関心をもつ学生は、さらに継続して履修されたい。また、企業規制の法律学 I では経済法のうち事業法にあたる分野を中心に扱っている。これも合わせて履修すると経済法全体に対する理解が広がるだろう。

【Outline and objectives】

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

LAW200AB

経済法Ⅱ

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講学上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正で自由な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。

この講義（経済法Ⅱ）では、独占禁止法による規制のうち「不公正な取引方法」について学ぶ。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。
事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義（録音）および講義資料を学習支援システムを通じて配布することをもって授業を実施する。受講者は各授業の受講後にリアクションペーパーを提出されたい。これに基づいて、授業中などにフィードバックをする。理解の程度を確認するために、レポート課題を複数課することを予定している。また、リアルタイムでのオンライン授業を1回開催するかもしれない。実施の有無、実施の詳細については学習支援システムの「お知らせ」機能を通じて周知するので注意されたい。

本講義では、経済法Ⅰを履修済みで、独占禁止法についてかなりの知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロ、不公正な取引方法（1）	不公正な取引方法の概要
第2回	不公正な取引方法（2）	不公正な取引方法の位置づけ
第3回	不公正な取引方法（3）	公正競争阻害性
第4回	不公正な取引方法（4）	取引拒絶の概要
第5回	不公正な取引方法（5）	取引拒絶の事例
第6回	不公正な取引方法（6）	抱合せの概要
第7回	不公正な取引方法（7）	抱合せ行為の事例
第8回	不公正な取引方法（8）	再販売価格維持行為
第9回	不公正な取引方法（9）	再販売価格維持行為の事例
第10回	不公正な取引方法（10）	拘束条件付取引
第11回	不公正な取引方法（11）	拘束条件付取引の事例
第12回	不公正な取引方法（12）	優越的地位の濫用
第13回	不公正な取引方法（13）	優越的地位の濫用の事例
第14回	不公正な取引方法（14）	全体の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を「授業支援システム」においてネット配信するので、各自印刷等したうえで受講すること。また、講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

土田和博他『条文から学ぶ独占禁止法』（有斐閣、第2版、2019年）

または

岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版、2020年）

【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第2版）』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 70%、平常点 30%。

レポート課題は複数回課す。授業ではリアクションペーパーの提出を求め、平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたに対しては、おおむね好評だった。継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を「授業支援システム」においてネット配信する。

【その他の重要事項】

独占禁止法の基本的な内容について、経済法Ⅰ（春学期）及び経済法Ⅱ（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。経済法Ⅱ（秋学期）は、経済法Ⅰ（春学期）の講義内容の学習を通じて独占禁止法について十分な知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【Outline and objectives】

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

LAW200AB

教育法 I

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法（労働法中心）コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法 I では教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】

教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は ZOOM を用いたリアルタイムでのオンライン授業を原則とします。URL 等は授業支援システムで告知するので、毎回の授業前日に確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第 2 回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第 3 回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第 4 回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制の生成過程について
第 5 回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第 6 回	新・教育基本法制（旧法）	旧教育基本法について
第 7 回	新・教育基本法制（新法）	新教育基本法について
第 8 回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第 9 回	教育権—学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通して考察する。
第 10 回	教育権—学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通して考察する。
第 11 回	教育権—教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通して考察する。
第 12 回	教育権—教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通して考察する。
第 13 回	教育権—学力テスト事件（沿革、学説）	旭川学力テスト事件について沿革、学説を通して考察する。
第 14 回	教育権—学力テスト事件（判例）	旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。

、まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【解説教育六法 2021 年版】（三省堂）

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM が視聴できる環境

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.

LAW200AB

教育法Ⅱ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】

子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。

近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は ZOOM を用いたリアルタイムでのオンライン授業を原則とします。URL 等は授業支援システムで告知するので、毎回の授業前日に確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第 2 回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原則について
第 3 回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第 4 回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 5 回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 6 回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 7 回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 8 回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 9 回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 10 回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第 11 回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第 12 回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第 13 回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第 14 回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『解説教育六法 2021 年版』（三省堂）

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM が視聴できる環境

【その他の重要事項】

その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

LAW200AB

法哲学 I

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目標とする。

本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】

法哲学は大きく分けて、法が追求すべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。法哲学 I では、前者の正義論の基本を理解する。具体的には、社会が追求すべき正義とはなにか、客観的な価値は存在するのか、自由や平等という価値はどのようなものであるのかという諸問題を代表的な法哲学者の議論を通じて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の開講はオンラインの可能性がります。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。質問は随時受け付けます。授業内か、必要に応じて学習支援システムで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第 2 回	古典的正義論	現代正義論以前の正義論を見る
第 3 回	功利主義	正義とは諸個人の快の総和であるとする功利主義について見る
第 4 回	ロールズと『正義論』	現代正義論において最も主要な論者であるジョン・ロールズのリベラリズムのうち、前期における議論について見る
第 5 回	ロールズと『政治的リベラリズム』	後期ロールズの議論を見る
第 6 回	ロールズとグローバル正義論	ロールズのグローバル正義論を見る
第 7 回	振り返りと小テスト	ここまでの振り返りと小テストを行う
第 8 回	リパタリアニズム	最小国家を超える国家は正当化できないとするリパタリアニズムの議論を見る
第 9 回	コミュニタリアニズム	正義と人間の生き方を区別するリベラリズムを批判するコミュニタリアニズムの議論を見る
第 10 回	リベラリズム対コミュニタリアニズム	リベラリズムとコミュニタリアニズムの対立を整理する
第 11 回	自由	J・S・ミルを中心に自由に関する議論を見る
第 12 回	平等	正義と平等の関係について見る
第 13 回	全体の振り返り	全体の振り返りと質疑応答を行う
第 14 回	学期末テストと解説	学期末試験を行った後、模範解答等の説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメや教科書、下記に挙げる参考書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）、2,800 円 + 税

【参考書】

那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020 年
 宇佐美誠/児玉聡/井上彰/松元雅和『正義論』法律文化社、2019 年
 瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2018 年
 平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』有斐閣、2002 年

【成績評価の方法と基準】

対面授業ができない場合、期末レポートによるが、いずれにしても途中で、教科書などで示されている「ケース」に関する小レポートを行う（2 回ぐらい予定）。A4 で 1 枚ぐらいの簡単なもの。小レポート 30 %、期末レポートもしくは試験を 70 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

"Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws. The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws.

LAW200AB

法哲学Ⅱ

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見るができるようになることを本講義の目的とする。法哲学Ⅰを受けて、Ⅱでは教科書 6 章からはじめるが、Ⅰの履修を条件にはしない。

本科目は、法学学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】

法哲学は大きく分けて、法が追求すべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とから成る。本講義では、後者の法概念論を講義する。具体的には、法を用いるという活動はどのような活動なのか、法と道徳や慣習はどのような相違点を持つのか、裁判官に代表される法律家の営みはどのように理解されるべきかといった諸問題に関する代表的な法哲学者の議論を理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者が、教科書における指定箇所を読んできていることを前提として講義を行う。基本的には教科書を踏まえて講義するが、教科書では取り上げられていないが担当者が重要と考える法哲学に関するトピックも取り上げる。

対面授業ができない場合、音声等のファイルと、レジュメをもとにする。授業時間内・指定した期間に質問を学習支援システムで受け付け、随時応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第 2 回	6 章正義論の最前線、その 1	1 節グローバル正義論を中心に
第 3 回	6 章正義論の最前線、その 2	2 節世代間正義と 3 節姓名と環境を中心に
第 4 回	7 章ルールとしての法、その 1	1 節命令としての法、2 節命令からルールへを中心に
第 5 回	7 章ルールとしての法、その 2	3 節法と道徳を中心に
第 6 回	8 章法の価値	自然法論・法の中の道徳、法の底にある善
第 7 回	9 章法の権威	二つの法実証主義、理由・権威・法の意味論的理論、解釈、規約主義とプラグマティズム、批判と応答
第 8 回	1 0 章解釈としての法	「主流派法学」の批判、CLS の理論と主張、その後の批判理論
第 9 回	1 1 章批判理論	違法義務という問題、違法義務の正当化論
第 10 回	1 2 章違法義務、その 1	自然状態と自然義務、悪法と不服従
第 11 回	1 2 章違法義務、その 2	メタ倫理学と価値の多元性
第 12 回	エビローク法哲学の基礎理論、その 1	法哲学はどのような分野か
第 13 回	エビローク法哲学の基礎理論、その 2	
第 14 回	全体のまとめ	後期全体のまとめと相互の関連について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

龍川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）、2,800 円＋税

【参考書】

宇佐美誠/児玉聡/井上彰/松元雅和『正義論』法律文化社、2019 年
 平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』有斐閣、2002 年
 龍川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2016 年
 那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験、もしくはレポート（オンラインの場合）、小レポート（2 回ぐらいい）、それぞれ 70 %、30 %。小レポートは教科書などの「ケース」に関するもので、A4 で 1 枚程度。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

法哲学Ⅰの受講が望ましいが、要件ではないので、ご自由に受講して下さい。

【Outline and objectives】

Philosophy of law is an academic discipline that learns the fundamental and background ideas and theories of the positive law. This lecture aims to acquire basic concepts in Philosophy of law and to be able to see the law from various viewpoints.

LAW300AB

法と遺伝学 I

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この授業は、「他学部公開科目」でもあります！

●テーマ：21 世紀の遺伝学・法・法学・政策

その人！ ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。もし、遺伝子検査で主要な病気にかかりやすいかどうか、予測できるとしたら？【以下のような概要を、この授業では学びます。】

①恋人同士で遺伝子検査をして結果を教えますか？結果次第で結婚や子どもを断念する？

②健康な子が欲しければ、胎児の出生前診断をしますか？結果次第で中絶しますか？

③国民皆兵ならぬ国民皆 遺伝子検査に賛成しますか？（アイスランドは一度、導入しましたが、諸般の事情で、国家的な失敗に終わりました！）

この中の一つでも関心があれば、この授業に参加する意味があります。ただ、ちょい待ち… 答は一つではない。世界中で、だれもこの三つの間に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が自分の頭で、自分のために、考えるのです。論理的に。そして法学的に。法学部でない履修者は、一市民として。

【以下がこの授業の目的（何を学ぶか）です。】

「自分の頭で考える：答は一つではない！」：日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。

発言が恥ずかしいという学生も、毎年、皆ずく慣れて発言しています。それに「モノ言う能力」なしに 21 世紀を生きていけないと思わないこと！これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。

同時に、＜法と遺伝学＞は、21 世紀の人類社会の構図を決める問題です。ならば、遺伝学・医学・心理学・生物学・法学の専門家だけでなく、市民が自分の頭で考え、自ら決断すべきです。

21 世紀の遺伝学・医学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係性を、法学の専門家だけでなく、市民が自分の頭で考え、自ら決断すべきである、というのがこの授業の問いかけであり、目的であり、「何を学ぶか」です。

遺伝学を知らない人、他学部で法学に慣れていない人にも解りやすい授業を心がけますので、安心して履修して下さい。この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】

学生は、21 世紀の遺伝学・医学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策的な解決法を、「答えは一つではない」という大前提の下に、「自分の頭で考える」能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●基本的に講義形式を取ります。しかし学生の自由な発言・質問を歓迎します。そのために教室の前後にマイクを置きます。

●また、「質問用紙」を教室の前後に常備し、学生はいつでも質問を書いて教員に提出できます。

●学生は、学期中に数回、「質問用紙」に授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します。（匿名可能です。）次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書のプリント配布と「法と遺伝学」を学ぶに当たっての「遺伝学入門(1)」	テーマに基づく講義&質疑応答・ビデオ教材による遺伝学入門
第 2 回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非 (1)	2001-02 年の国際連合の「ヒトクローン禁止条約」の試みで、デザイナーチャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？
第 3 回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非 (2)	2003-05 年の日本で、デザイナー・チャイルド問題はどのように取り上げられていたか？

第 4 回 デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非 (3)

2015-17 年の中国における研究で、デザイナー・チャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？そして 2018 年、ついに中国でも規程違反とされたデザイナー・チャイルドの現実での誕生に世界はどう応じたか？テーマに基づく講義とクラス全体でのディスカッション

第 5 回 デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非 (4)：総括

第 6 回 「法と遺伝学」を学ぶに当たっての「遺伝学入門(2)」

最新遺伝学に基づく、過去の遺伝学の誤解と現在の理解の解説とディスカッション

第 7 回 「法と遺伝学」を学ぶに当たっての「遺伝学入門(3)」

21 世紀社会を生き抜く我々にとって、特に法学を学ぶ学生にとって、なぜ「遺伝学の基礎的知識」が必須か、そして「法と遺伝学」の学びが必要か、の解説とディスカッション

第 8 回 iPS 細胞・ES 細胞・卵子・精子：『同性間、特にゲイ・カップル 2 人の実子』の新たな可能性と、法的・倫理的・社会的な諸問題 (1)

この問題の前提となる iPS 細胞、ES 細胞に関する遺伝学的・生命科学的知識の解説と、ディスカッション

第 9 回 iPS 細胞・ES 細胞・卵子・精子：『同性間、特にゲイ・カップル 2 人の実子』の新たな可能性と、法的・倫理的・社会的な諸問題 (2)

2013 年の日本では、この問題がどう扱われていたかの解説と、ディスカッション

第 10 回 iPS 細胞・ES 細胞・卵子・精子：『同性間、特にゲイ・カップル 2 人の実子』の新たな可能性と、法的・倫理的・社会的な諸問題 (3)

2015 年前半の日本では、この問題がどう扱われていたかの解説と、ディスカッション

第 11 回 iPS 細胞・ES 細胞・卵子・精子：『同性間、特にゲイ・カップル 2 人の実子』の新たな可能性と、法的・倫理的・社会的な諸問題 (4)

2015 年後半の日本では、この問題がどう扱われていたかの解説：特に長谷川愛のアート作品「(不)可能な子供：朝子とモリカ」の場合」とその NHK 特集番組の波紋の解説と、ディスカッション

第 12 回 3 人の DNA を受け継ぐ子どもの正当性と法的・倫理的・社会的諸問題：イギリスの新「ヒト受精及び胚研究法」2015 年改正とアメリカ・メキシコでの初出産例 (1)

2015 年 2 月、イギリスで改正されたこの法律が及ぼした波紋の解説と、ディスカッション

第 13 回 3 人の DNA を受け継ぐ子どもの正当性と法的・倫理的・社会的諸問題：イギリスの新「ヒト受精及び胚研究法」2015 年改正とアメリカ・メキシコでの初出産例 (2)

2015 年 2 月にイギリスで改正されたこの法律がその後、2017 年初頭にアメリカのトップクラスの法学者・医学者により、≪この語の世界の模範例となる≫との論文を発表した解説と、ディスカッション

第 14 回 3 人の DNA を受け継ぐ子どもの正当性と法的・倫理的・社会的諸問題：イギリスの新「ヒト受精及び胚研究法」2015 年改正とアメリカ・メキシコでの初出産例 (3)

アメリカ・メキシコで、法改正に先行して「3 人の DNA を受け継ぐ子ども」が出生した意味・意義・法的諸問題の解説と、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。

●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。

●準備（予習）・復習時間は、1 回の授業につき各々 2 時間（合計 4 時間）である。

【テキスト（教科書）】

●教科書：すべてコピーを授業で配布する。

★和田幹彦著『法と遺伝学』2005 年より、抜粋した教材。

★和田幹彦著『「デザイナー・ベビー」『同性間の実子』再訪：実現性高まる——『ゲノム編集』『男性 iPS 細胞からの卵子作製』の新技术と法規制・立法の要否：同性婚認容のアメリカ連邦最高裁判決』2015 年

★和田幹彦著『3 人の DNA を継ぐ子と認める法改正——英国の新『ヒト受精及び胚研究法』』2015 年 ほか

【参考書】

経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2008 年刊、1,400 円＋税

【成績評価の方法と基準】

●期末試験 100 点。

●期末試験では、到達目標である：≪21 世紀の遺伝学・医学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策的な解決法を、「答えは一つではない」という大前提の下に、「自分の頭で考える」能力を身につけた≫かどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境をより良く整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
- ビデオ、DVD、ブルーレイ教材を多用する予定です。
- 時々、教科書や参考書にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・遺伝子操作・生命工学・最先端医学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【その他の重要事項】

- 法学部以外の学生は、誰でも履修ができます。この科目を履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
- 法学部法律学科生は、通常の選択必修科目・選択科目を適正に履修していれば、準備は十分です。
- 法学部政治学科・国際政治学科生は、他の法律科目履修の必要はありません。本授業で「政策と同時に、法学も学ぶ！」姿勢をしっかりと持って下さい。
- 全学部生に、同じく私による秋学期の「法と遺伝学 II」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline and objectives】

To learn the new issues of "Law and Genetics" which emerged in our domestic and international society of 21st Century.

LAW300AB

法と遺伝学 II

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この授業は「他学部公開科目」でもあります！

●授業の概要：21世紀の遺伝学・法・法学 そして…「人間の行動と、遺伝子・脳科学の関係」

その人！ ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。【以下の概要を、この授業では学びます。】

人間の行動って、どこまで遺伝子と脳で決まっちゃっているんでしょう？ 例え

ば、
①なぜ民法の「親族法」には、そもそも結婚についての法律があるの？
その根源的な理由って何？ ヒトの進化と関係があるの？（あります！）

②なぜ民法の「相続法」により相続はできるのか？「あかの他人」である配偶者でも相続できるのはなぜ？ その根源的な理由って何？ ヒトの進化と関係があるの？（あります！）

③憲法や民法の詳しい法律の根底には、他の生物と共通の「法の根源的基盤」があるのか？（あります！）

この中の一つでも関心があれば、この授業に参加する意味があります。ただ、ちよい待ち…

答は一つではない。世界中で、だれもこの三つの間に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が自分の頭で、自分のために、考えるのです。論理的に。そして法学的に。法学部生以外の方は市民の目線です。

【以下がこの授業の目的（何を学ぶか）です。】

「自分の頭で考える：答は一つではない！」：日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。

発言が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言しています。それに「モノ言う能力」なしに21世紀を生きていけると思わないこと！ これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。

同時に、＜法と遺伝学＞は、21世紀の人類社会の構図を決める問題です。ならば、21世紀の遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳神経法学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自分の頭で考え、自ら考察し、理解を深めるべきである、というのがこの授業の問いかけであり、目的であり、「何を学ぶか」です。

この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】

学生は、21世紀の遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学の発展の中で、これらの自然科学との連動して、新たに（主には）「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合い、この問いへの「答えは一つではない」という大前提の下に、「自分の頭で考える」「この問いに『答える』」能力を身につけること。それがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●法学部生以外の方にも解りやすく、行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学と法学との関係を解説していきます。

●基本的に講義形式を取ります。しかし学生の自由な発言・質問を歓迎します。そのために教室の前後にマイクを置きます。

●また、「質問用紙」を教室の前後に常備し、学生はいつでも質問を書いて教員に提出できます。

●学生は、学期中に数回、「質問用紙」に授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します。（匿名可能です。）次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「法とは何か？」の自然科学による再分析の可能性の解説と、ディスカッション
第2回	法の新たな定義と新たな法源	定義に先立つ、遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学の基礎的解説とディスカッション
第3回	事例1－霊長類（チンパンジー）の社会集団におけるルールと制裁	フランス・ドゥヴァールの霊長類研究と、それが「法学」にもたらしたインパクトの解説と、ディスカッション

第4回	事例2ーミツバチ・アリの社会集団における行動パターン	世界、中でも日本におけるミツバチ・アリ研究における「第三者罰」の可能性、それが「法学」にもたらしたインパクトの解説と、ディスカッション
第5回	ヒトの「法」と動物の「法」の差違＝言語；補論－「文化 (culture)」の新たな定義	「共創言語進化学」という新しい学問領域における、「文化」「文化進化」「法・法学」の位置づけの解説と、ディスカッション
第6回	「法と進化生物学」序論：ダーウインの進化生物学とその発展－自然淘汰・性淘汰	「法と進化生物学」の基礎となるダーウインの自然淘汰・性淘汰の解説と、ディスカッション
第7回	「法と進化生物学」の可能性	「法はどこまで進化生物学で解明できるか？」の解説と、ディスカッション
第8回	「法と進化心理学」序論：進化心理学とその近年のめざましい発展	「法と進化心理学」の基礎となる L. コスミダスの「4枚カード問題」実験の解説と、ディスカッション
第9回	「法と進化心理学」の可能性	「法はどこまで進化心理学で解明できるか？」の解説と、ディスカッション
第10回	「法と進化生物学」・「法と進化心理学」・「法と行動遺伝学」	これらの3つの学際分野の連累警と、特に「行動遺伝学」とは何か？ 「法はどこまで行動遺伝学で解明できるか？」の解説と、ディスカッション
第11回	「法と進化倫理学」－補論	内藤淳教授ほかによる「進化倫理学」という学問史と、「法と進化倫理学」という学際研究法により何が明らかになり得るか？の解説と、ディスカッション
第12回	法と脳科学（神経科学）(1)	21世紀初頭の、「法と脳科学」という学際研究の端緒の解説と、ディスカッション
第13回	法と脳科学（神経科学）(2)	2015-16年の、「法と脳科学」という学際研究のブレークスルーの解説と、ディスカッション
第14回	「法と進化生物学・心理学、行動遺伝学、脳科学」【総括】	これらの学際分野における「法とは何か？」の自然科学的分析により、この問いへの新たな答えを出そうとする試みの解説と、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

和田幹彦「法と進化生物学」・「法と進化心理学」序説 第1部（『法学志林』連載）
詳しくは、これ以外にも、最新の文献を含めて初回の授業で指示する。教員の和田が、すべてプリントして配布する予定。

【参考書】

経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2008年刊、1,400円＋税【春学期の「法と遺伝学 I」で使う本と同一】

【成績評価の方法と基準】

- 期末試験 100点。
- 期末試験では、到達目標である：≪ 遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学の発展の中で、これらの自然科学との連動して、「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合い、この問いへの「答えは一つではない」という大前提の下に、「自分の頭で考える」「この問いに『応える』」能力が身についた ≫ かどうか、を基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境をより良く整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
- ビデオ、DVD、ブルーレイ教材を多用する予定です。
- 時々、教科書や参考書にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・遺伝子操作・生命工学・最先端医学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。
- 時々、教科書や参考書にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【その他の重要事項】

- 法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。
- この科目履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
- 法学部法律学科の学生は、通常の選択必修科目、選択科目を適正に履修していれば、準備としては十分です。
- 法学部政治学科・国際政治学科生は「法学を学際的に学ぶ！」姿勢をしっかり持って下さい。
- 全学部生に、同じく私による春学期の「法と遺伝学 I」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline and objectives】

To learn the new issues of "Law, Behavioral Genetics, Evolutionary Biology & Psychology, and Neuroscience".

POL100AC

政治体制論 I

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。

【到達目標】

政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手がかりを見出したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、下記授業計画に示したようなかたちで、広く政治体制一般を論じることによって試みる。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の進め方・政治体制とは何か
第2回	バリントン・ムーア	独裁と民主政治の社会的期限
第3回	バリントン・ムーア	独裁と民主政治の社会的期限
第4回	ファン・リンス	民主体制の崩壊
第5回	ファン・リンス	民主体制の崩壊
第6回	山口定	ファシズム
第7回	山口定	ファシズム
第8回	ふりかえり	前半の内容
第9回	ライト・ミルズ	パワー・エリート
第10回	ライト・ミルズ	パワー・エリート
第11回	ロバート・ダール	ポリアーキー
第12回	ロバート・ダール	ポリアーキー
第13回	補足：高橋進	国際政治学の理論
第14回	ふりかえり	後半の内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない予定ですが、授業計画（テーマと内容）に記した著者名の文献はすべて文庫本で読むことができます。履修者は極力、事前・事後にそれらの文献を読むように心がけてください。

【参考書】

参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と期末試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

現下の状況に鑑みて、今年度の春学期の進め方等は、授業支援システムに記してまいりますので、履修者は必ず、同支援システムにも登録し、定期的に閲覧するようにしてください。

【Outline and objectives】

Diese Vorlesung ist ein Versuch, um ein Überblick über die Vergleichende politische Regime zu geben.

English Keyword: comparing political regimes

POL100AC

政治体制論Ⅱ

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。

【到達目標】

政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手が見出したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、下記授業計画に示したようなかたちで、担当者が考える政治体制論を講じることによって試みる。その際、分節政治理論と全体主義の時代経験の理解に取り組む予定である。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	原初条件と現代政治の条件
第 2 回	分節政治理論	農村型社会と都市型社会
第 3 回	分節政治理論	近代化の過渡媒体国家
第 4 回	分節政治理論	大衆政治の問題性
第 5 回	分節政治理論	シビル・ミニマム
第 6 回	分節政治理論	多元・重層化
第 7 回	分節政治理論	官僚内閣制・国会内閣制
第 8 回	中間考察	分節政治理論の可能性
第 9 回	天皇制国家の支配原理	装置と生活共同態
第 10 回	全体主義の時代経験	戦争
第 11 回	全体主義の時代経験	政治
第 12 回	全体主義の時代経験	政治
第 13 回	全体主義の時代経験	生活
第 14 回	結び	分節政治理論と全体主義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない予定です。

【参考書】

- ・松下家一『現代政治の条件』
- ・松下圭一『現代政治の基礎理論』
- ・藤田省三『天皇制国家の支配原理』
- ・藤田省三『全体主義の時代経験』

このほかにも参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と期末試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Diese Vorlesung ist ein Versuch, um ein Überblick über die Vergleichende politische Regime zu geben.

English Keyword: comparing political regimes

POL200AC

ジェンダー論Ⅰ

中野 洋恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既成の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ぎてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だと言っても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論Ⅰでは、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来になく新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2020年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」で強調されている政策を理解します。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用します。また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。毎回、リアクションペーパーを提出していただきます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序：本講義の目的、講義の見取り図	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
		講義の全体像の理解

第2回	ジェンダーとは？① ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	ジェンダーとは？② 日常生活の中のジェンダー問題を考える	私たちが当たり前だと思っている「ジェンダー」について日常生活から考える。私たちの生活の中にあるジェンダーを考える。
第4回	家族とジェンダー① 親密な近親者ベースの小さな集団である家族について考える	家族とは何か？ 夫婦別姓や同性婚についても考察する。
第5回	家族とジェンダー②	日本では「男性は外で働き、女性は家事育児」と考えられてきました。これを性別役割分業意識という。ここでは性別役割分業について理解する。
第6回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。
第7回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアスを理解する。
第8回	労働とジェンダー①	「ワーク・ライフ・バランス」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。
第9回	労働とジェンダー②	女管理職に女性が少ないのはどうしてなのか？企業等の意思決定の場に女性が少ない問題点とその要因を明らかにする。
第10回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第11回	災害等とジェンダー	自然災害や人的災害はジェンダー問題を表出させる。地震などの自然災害やコロナ禍でどのような問題が生じたかについて言及する。
第12回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを理解する。
第13回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。政治分野にどうして女性が少ないか、その要因も考える。
第14回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波書店 2019年）
・第5次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>
・女性に対する暴力
若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
NVEC 実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」
・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>
・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ）
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>
・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進
<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>
・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館
<https://www.nvec.jp/research/hqtuvq0000002ko2.html> 三浦まり・衛藤幹子編著『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』（明石書店、2014年）

【成績評価の方法と基準】

授業参加とリアクションペーパーの提出（40%）
筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（60%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。難しい内容もありますので、レジュメによる補完、丁寧な説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This lecture is part of the category of political theory and history. It aims to examine politics from viewpoints of socio-politically marginalized people. This viewpoints are rephrased as “gender perspectives”. Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. This lecture will provide you for a fresh spectrum of politics, different from the mainstream of political studies or political science.

POL200AC

ジェンダー論Ⅱ

梅垣 千尋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学教科目の中で現代政治科目群に属する科目です。ジェンダーと政治をめぐる問題を、時間的にも空間的にも射程を広げてとらえ返すことを目的とします。具体的には、おもにイギリス近現代史に焦点を当てながら、ジェンダーの視点からみた政治のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

【到達目標】

・現代日本のジェンダーと政治をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
・ジェンダーの視点から、議会内外の政治のあり方を複眼的にとらえ、政治の多元性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義が中心となりますが、可能なかぎり視聴覚資料を使用して理解を助けます。授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業でその内容をいくつか取り上げ、全体にむけてフィードバックを行いながらさらなる議論に活かします。また、前半のテーマと後半のテーマのそれぞれの締め括りの回では、全体でディベートを行う予定です。なお、対面授業の実施方法（実施の有無も含めて）は、受講者数や教室環境に応じて変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	〈ジェンダーと政治〉について考える
第2回	歴史とジェンダー（1）	近世君主制とジェンダー
第3回	歴史とジェンダー（2）	近代君主制とジェンダー
第4回	歴史とジェンダー（3）	現代君主制とジェンダー
第5回	歴史とジェンダー（4）	女性君主をめぐる問題
第6回	歴史とジェンダー（5）	日本における女性天皇の可能性
第7回	女性と政治参加（1）	政治の民主化とフェミニズム
第8回	女性と政治参加（2）	女性参政権運動
第9回	女性と政治参加（3）	政治運動とジェンダー
第10回	女性と政治参加（4）	ウーマンリブ運動
第11回	女性と政治参加（5）	労働運動とジェンダー
第12回	女性と政治参加（6）	女性首相の誕生
第13回	女性と政治参加（7）	政治的リーダーシップとジェンダー
第14回	女性と政治参加（8）	日本におけるクオータ制の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、事前配布される授業の資料に目を通し、わからない用語や気になる事柄があれば調べておくこと。授業後は、講義内容を振り返り、各自の関心に従って参考文献を読み進めること。この講義の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業時にその都度、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 80 %（リアクションペーパーの内容にたいする評価点の合算）
・レポート 20 %（前半のテーマと後半のテーマのそれぞれに関連して2本分）
詳しい評価基準や積算方法については、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の事前配付や課題の提出は、学習支援システムを利用する予定です。受講にあたっては、学習支援システムを活用できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

ディベートの回では、可能なかぎり多くの受講者に発言を求める予定です。

【Outline and objectives】

This course explores a range of historical issues involving gender and politics with a particular focus on modern British history.

POL200AC

公共哲学Ⅱ

西村 清貴

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。近年において「公共性」論や、公共性と密接に関連する「市民社会」論に対する注目が集まっている。これらの議論の背景に存在する哲学・思想を探究することは、公共哲学の重要な課題の一つである。公共哲学Ⅱでは、この公共性や市民社会といった用語・概念が、どのような歴史的由来を有しているのかという点について学んでいく。

【到達目標】

- ①公共哲学史を学ぶことを通じて、現在において用いられている公共性や市民社会といった概念が、どのように理解され、どのように議論されてきたかを理解すること。
- ②授業で取り上げる各思想家の議論が、公共性論、市民社会論の中でどのように位置づけられるのかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。
 コロナ感染状況や大学の方針等にもよるが、オンデマンド方式による講義に複数回の対面授業を組み合わせる方式を考えている。
 なお、対面授業への出席をやむを得ない理由により避けたい受講者のために、対面授業の内容を録音した音声データを後日配信する予定である。具体的なスケジュールは Hoppi を通じて連絡するため、よく確認すること。
 質疑応答については、講義中にそのための時間を設けるほか、講義前後に受け付ける。また、Hoppi を通じた質問も受け付ける。
 なお、提出してもらったリアクションペーパーにつき、いくつかを選び回答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第 2 回	アリストテレスとヨーロッパの政治構造	ヨーロッパにおける古典的な市民社会・政治社会論を見る
第 3 回	社会契約論 (1)	トマス・ホブズの社会契約論を見る
第 4 回	社会契約論 (2)	ジョン・ロックの社会契約論を見る
第 5 回	社会契約論 (3)	J・J・ルソーの社会契約論を見る
第 6 回	アダム・スミスと市場	しばしば公共性と対立する概念として取り上げられる市場という概念についてアダム・スミスを中心として見る
第 7 回	ここまでのまとめと質疑応答	ここまでの振り返りと質疑応答を行う
第 8 回	カントにおける啓蒙と公共性	公共哲学において頻繁に取り上げられる「理性の公共的使用」という用語法を中心にカントの思想を見る

第 9 回	ヘーゲルと市民社会／国家	近代的な意味での市民社会と国家との峻別を確立したヘーゲルの思想を見る
第 10 回	ドイツ国法学における国家と公共	近代以後に生じた、国家による公共性の独占 (国家と社会の分断) という事態について 19 世紀ドイツ国法学の思想家を通じて見る
第 11 回	ハンナ・アレントと公共性	今日の公共哲学において最も著名な論者の一人であるハンナ・アレントの公共性論を『人間の条件』を中心にみる
第 12 回	ユルゲン・ハーバマスの『公共性の構造転換』	アレントと並び、公共哲学において最も著名な論者の一人であるユルゲン・ハーバマスの公共性論を『公共性の構造転換』を中心にみる
第 13 回	ここまでのまとめ	ここまでの振り返りと質疑応答を行う
第 14 回	学期末試験と解説	学期末試験を行った後、模範解答等の説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメ、下記に挙げる参考書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。レジュメを配布する。

【参考書】

斎藤純一『公共性』（岩波書店）
 山脇直司「公共哲学とは何か」（ちくま新書）

【成績評価の方法と基準】

講義に対する理解度を学期末試験で確認する (100%)。
 大学の方針等により、レポート提出で代替する可能性がある

【学生の意見等からの気づき】

板書を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付等のために Hoppi を利用する。

【Outline and objectives】

This lecture aims to understand what kind of historical origin the terms and concepts such as publicness and civil society have.

POL300AC

外国書講読（独語） I

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎に関わるドイツ語の教科書を読み、学術的なドイツ語の読解力を身につける。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。
倫理学（道徳の哲学）についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約 2 ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作りますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション： "Vorbemerkung" 解説	オリエンテーション：3 つの講義を通じた前言部分の解説
第 2 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(59-61 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 3 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(62-63 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 4 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(64-65 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 5 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(66-67 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 6 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(68-69 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 7 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(70-71 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 8 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(72-73 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 9 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(74-75 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 10 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(76-77 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 11 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(78-79 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 12 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(80-83 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 13 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(84-86 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 14 回	まとめ	まとめおよび第 2 講義への接続

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Ernst Tugendhat 『Probleme der Ethik』 Reclam (1984) 所収の "Drei Vorlesungen über die Probleme der Ethik"

の内の講義 1 つを選んで精読します。

初回にコピーを配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を 1 冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します (100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読するだけでなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。

(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。(昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。)

【Outline and objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading a German textbook on ethics.

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅱ

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎に関わるドイツ語の教科書を読み、学術的なドイツ語の読解力を身につける。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。倫理学に関わる概念や議論についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

演習形式で、ドイツ語の文章を精読します。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項および/または訳を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(87 ページ)	問題設定とドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 2 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(87-88 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 3 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(89-90 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 4 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(91-92 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 5 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(93-94 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 6 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(95-96 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 7 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(97-98 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 8 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(99-100 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 9 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(101-102 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 10 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(103-104 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 11 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(105-106 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 12 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(106-107 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 13 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(108 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Ernst Tugendhat『Probleme der Ethik』Reclam (1984) 所収の "Drei Vorlesungen über die Probleme der Ethik"

の内の第 2 講義を精読します。

必要箇所をコピーして配布する予定ですが、Amazon で購入すると、1 冊 732 円ほどです。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を 1 冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します (100%)。予習に基づいて自分が何が分かっているか、どこが分からないかを区別できる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読するだけでなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして解説しつつ議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。

(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。春学期を履修していなくても、この科目を履修することはできるようになっています。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading a German textbook on political science.

POL200AC

ロシア政治史 I

油本 真理

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア政治史」では主に 20 世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史 I」では、帝政末期からソ連期を経て現在に至るまでの通史を概観する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。

【到達目標】

(1) ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2) 政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施する。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、その次の授業の冒頭で質問やコメントへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、本講義の対象地域について
2	世界史とロシア	世界近現代史におけるロシアの位置づけ
3	帝政期	「大改革」とその後
4	ロシア革命①	帝政の終焉とソ連政権の樹立
5	ロシア革命②	内戦と初期のソ連・ソ連建国
6	ソ連①	スターリン時代・大祖国戦争
7	ソ連②	後期スターリン時代・フルシチョフ時代
8	ソ連③	ブレジネフ時代・ベレストロイカの開始
9	ソ連④	ベレストロイカの進展・ソ連解体
10	現代ロシア①	エリツィン大統領第 1 期目
11	現代ロシア②	エリツィン大統領第 2 期目・プーチン大統領の登場
12	現代ロシア③	プーチン大統領第 2 期目と「タンデム」期
13	現代ロシア④	プーチン大統領の再登板後
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

栗生沢猛夫『図説ロシアの歴史増補新装版』河出書房新社、2014 年。
和田春樹編『ロシア史（新版 世界各国史）』山川出版社、2002 年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出）（40 %）、期末試験（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

歴史をより身近に感じられるようにするため、可能な限り写真や映像を用いて授業を行う。

【Outline and objectives】

This course will explore the history and politics of Russia. The first part of the course will be structured in a chronological order. The discussion topics will include causes and consequences of the Russian Revolution, characteristics of Soviet rule, collapse of the Soviet Union, regime change (including transition to market economy), and recent development of authoritarianism under Vladimir Putin. No prior knowledge of Russian history and politics is required.

POL200AC

ロシア政治史Ⅱ

油本 真理

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア政治史」では主に 20 世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史Ⅱ」では、様々なテーマを取り上げ、ソ連・ロシアの事例を他国の経験とも比較しながら検討する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。

【到達目標】

(1) ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2) 政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施する。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、その次の授業の冒頭で質問やコメントへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、取り上げるテーマについて
2	ソ連とロシア①	帝政期・ソ連
3	ソ連とロシア②	ソ連・現代ロシア
4	政治体制①	選挙
5	政治体制②	政党・社会運動
6	国家と社会①	体制と市民
7	国家と社会②	家族・ジェンダー
8	様々な政治主体①	宗教と政治
9	様々な政治主体②	軍・治安機関
10	国家と市場①	経済体制
11	国家と市場②	社会政策
12	民族と政治①	連邦制
13	民族と政治②	ナショナリズム
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

松戸清裕・浅岡善治・池田嘉郎・宇山智彦・中嶋毅・松井康浩編『ロシア革命とソ連の世紀（全 5 巻）』岩波書店、2017 年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出）（40 %）、期末試験（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへのフィードバックを重視し、双方向的な授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course will explore the history and politics of Russia. The second part of the course will be structured according to the relevant topics. The discussion topics will include political regime, state – society relationship, politics and economy, center – periphery relationships, and ethnicity and nationalism. In each class, we will try to focus on the continuity and discontinuity between the Soviet Union and present Russia.

POL300AD

アメリカ政治外交史

森 聡

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。

【到達目標】

次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。

また、授業で紹介する資料について、その文脈や位置づけについて考察する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度告知する。本授業の開始日は、4月21日とする。具体的な授業方法などは、学習支援システムで提示する。学習支援システムの「お知らせ」サイトを随時確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	合衆国憲法の政治制度	連邦制と三権分立。
2	大統領と連邦議会の外交権限	大統領の権限。連邦議会の権限。官僚機構の役割。
3	独立革命	植民地から合衆国憲法の制定まで。
4	フランス革命への対応と1812年の米英戦争	米国内における権力闘争と外交。
5	モンロー・ドクトリン	欧州諸国との駆け引き。
6	南北戦争と対外関係	南北戦争と米国の外交
7	領土拡張と門戸開放政策	西方への拡張。アジアへの関与。
8	革新主義と対アジア政策	ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの時代の政治と外交。
9	第一次世界大戦とパリ講話会議	第一次世界大戦への参戦過程と戦後処理。
10	1920年代の共和党政権の内政と外交、中南米での善隣外交	戦間期の政治。ドル外交の展開。
11	大恐慌とニューディール	1930年代の政治。ニューディール連合の結成。
12	1930年代のアジアとヨーロッパ	台頭する日本とドイツへの対応。
13	第二次世界大戦をめぐる外交と戦略	レンド・リース法の制定。戦争準備。日米交渉。
14	戦時体制と終戦外交	第二次世界大戦期の内政と外交。学期中の主要な課題に関する解説・講評を行う。学期末レポート課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史（第二版）』、東京大学出版会、2012年。
斎藤真、久保文明編『アメリカ政治外交史教材・英文資料選（第二版）』、東京大学出版会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート課題により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業のポイントを、次回の講義の冒頭で確認のために解説する。

【現代アメリカ外交、国際政治学】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

・川島真・森聡編著『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』、東京大学出版会、2020年。

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," *Asia Pacific Review*, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

This is a lecture course on the history of American politics and diplomacy covering the period from the founding of the nation to the Second World War. It will shed light on how domestic political factors and international factors affected U.S. foreign engagement. Documents will be used from time to time to explain how historically significant decisions were influenced by various factors.

POL200AC

都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・金曜日に授業動画とスライド資料を学習支援システムにアップロードする。
- ・受講者は、各自オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムの「課題」を通じて出題された課題を翌週水曜日正午までに提出する。
- ・課題内容については、授業の中で概観し、重要な論点については解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	都市とは何か	オリエンテーション・都市の成り立ちと集積
第 2 回	近代都市計画の誕生	計画的都市の形成過程
第 3 回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第 4 回	都市施設 1	都市施設の概要、道路
第 5 回	都市施設 2	公園緑地
第 6 回	都市計画事業	概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業
第 7 回	土地利用規制	近代都市計画の誕生、ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法）
第 8 回	地域特性に相応しい 土地利用規制 1	補助的地域地区、地区計画
第 9 回	地域特性に相応しい 土地利用規制 2	建築協定（建築基準法）、まちづくり条例等
第 10 回	開発許可制度	経済成長期の開発と開発許可制度の導入、概要概要
第 11 回	都市の計画	都市計画マスタープラン（都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン）
第 12 回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスと市民参加
第 13 回	人口減少社会とコンパクトシティ	立地適正化計画、地域公共交通
第 14 回	公共施設のマネジメント	都市インフラの長期的管理運営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
- ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・学習支援システムを通じて、オンデマンド教材（動画）とスライド資料を配布する。

【参考書】

1. 齋藤伸ほか著「初めて学ぶ都市計画」（市ヶ谷出版社）
 2. 伊藤雅春ほか著「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）
 3. 高見沢実 著「初学者のための都市工学入門」（鹿島出版会）
 4. 住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編著「住民主体の都市計画」（学芸出版社）
 5. 武田重明ほか著「小さな都市から都市をプランニングする」（学芸出版社）
- 1～3 は基本事項の解説等、4.5 は参考事例の紹介

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業ごとに出席する課題の合計（70 %）、レポート課題（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。

①授業ごとに出席する課題の評価は下記になる。

・A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。D：未記入とする。

なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。

②レポート課題について

- ・出題は、6 月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
- ・提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）
- ・レポート課題の評価は、A：独自の視点からの意見が掛かっている優れた内容である。B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。C：レポートの課題主旨が理解できず、表現方法も含めて不十分な内容である、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。動画配信、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための環境が必要になる。

【その他の重要事項】

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline and objectives】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

POL200AC

まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること
- 2) 現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること
- 3) 都市問題には、多様な利害の存在していることを理解し、それを踏まえた課題解決が行われることを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・金曜日中に授業動画とスライド資料を学習支援システムにアップロードする。
- ・受講者は、各自オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムの「課題」を通じて出題された課題を翌週水曜日正午までに提出する。
- ・課題内容については、授業の中で概観し、重要な論点については解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	地域課題と地域独自の取組（まちづくり）
第 2 回	戦後の住宅政策	セーフティネットとしての役割を果たしてきた住宅供給を目的とする政策について理解する。
第 3 回	住環境改善の取組	大都市への人口集中に伴う住環境の悪化とそれに対する対応について理解する。
第 4 回	防災まちづくり 1（大規模地震への対応）	地震・火災など大規模災害に備えた対策について理解する。
第 5 回	防災まちづくり 2（気候変動に伴う災害への対応）	近年増加している水害等への対応について理解する。
第 6 回	商業・流通政策	購買活動の変化に伴う都市構造、空間の変化を理解する。
第 7 回	中心市街地活性化	都市の郊外化に伴う中心市街地の空洞化とそれに対応した施策を理解する。
第 8 回	歴史的街並み保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第 9 回	アーバンデザイン・景観	地域特性の活かした都市空間を形成する方法について理解する。
第 10 回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間の
第 11 回	エリアマネジメント	地域の価値を高める地域運営の取組を理解する。
第 12 回	公共空間の利活用	身近な空間を利用した地域の魅力向上のための取組を理解する。
第 13 回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する。
第 14 回	都市農地の保全	都市空間における農地の価値の再評価とその施策について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
- ・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・学習支援システムを通じて、オンデマンド教材（動画）とスライド資料を配布する。

【参考書】

- 伊藤雅春ほか著「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）
- 饗庭伸ほか著「初めて学ぶ都市計画」（市ヶ谷出版社）
- 三船康道＋まちづくりコラボレーション著「まちづくりキーワード事典」（学芸出版社）

住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編著「住民主体の都市計画」（学芸出版社）

高見沢実著「初学者のための都市工学入門」（鹿島出版会）ほか

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業ごとに出席する課題の合計（70%）、レポート課題（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。

①授業ごとに出席する課題の評価は下記になる。

- ・A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
 - ・B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
 - ・C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
 - ・D：未記入とする。
- なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。

②レポート課題について

- ・出題は、6月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
- ・提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）
- ・レポート課題の評価は、A：独自の視点からの意見が掛かっている優れた内容である。B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。C：レポートの課題主旨が理解できず、表現方法も含めて不十分な内容である、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。授業動画配信、資料配布、課題提出等には学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための必要環境が必要となる。

【その他の重要事項】

- ・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める。
- ・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline and objectives】

In this lecture, we examine the case of controlling space to solve regional problems.

POL200AC

コミュニティ政策（日本）

名和田 是彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科の科目の中では行政・地方自治科目群に属します。「コミュニティ」及び「コミュニティ政策」とは何であるか、日本のそれはどういう特徴を持っているかを理解することが、この「コミュニティ政策（日本）」のテーマであり、到達目標です。結論から言うと、日本の「コミュニティ」は、欧米なら地方自治体等として政治制度の中に位置づけられているはずの身近な地域単位です。それが日本では長らく民間サイドに放置されてきました。高度成長期後にこうした「コミュニティ」を再び制度化する政策が試みられ、コミュニティは政治社会の構成要素となりました。そして、バブル経済崩壊の1990年代以降の激しい時代においては独特な役割を期待され、また新たな法制度のもとに展開してきています。本講義はこうした日本特有の身近な地域社会の構造を説明することを目指しています。なお、本講義は、昨年度までの「コミュニティ論I」を改称したものです。

【到達目標】

コミュニティ、自治体内分権（都市内分権）、協働といった政策用語が織りなす今日の日本のコミュニティ政策の概要と、その日本の特異性を、理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

コミュニティ政策はある意味で日本に特有なものです。それを理解するためには、日本と異なった構造をもつ国や比較的類似した国との比較の視点をもつことが不可欠です。外国の状況をそれとして扱うのは「コミュニティ政策（理論・国際比較）」の課題とし、本講義では、諸外国との比較を念頭に置きつつ、コミュニティ論の基礎理論を端的に提示し、それに基づいて日本のコミュニティとコミュニティ政策について概説します。

各回とも事前に講義資料を配付しますので、受講者は予習をして講義に臨んでください。また、講義中に受講者に投げかけをしたり議論をしたりしますので、受講者はそれに呼応して積極的に発言してください。数回程度リアクションペーパーまたは課題を提出していただきますが、それに対しては原則として次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序説 コミュニティ政策というものの、地域的まとまりという発想	「地域的まとまり」の「重層構造」について、受講者の直感的理解を掘り起こし、講義の理論的基礎を獲得する。
第2回	自治会・町内会の構造と特質	自治会・町内会の理解抜きには日本のコミュニティは語れない。日本独自の地域組織とされる自治会・町内会の基本的な性格を、これまでの社会学等の研究に基づいて整理する。
第3回	自治会・町内会の構造と特質 続き	前回に引き続いて、自治会・町内会について整理する。
第4回	地域的まとまりを「運営」するための制度的諸条件	ミルトン・コトラーの考え方に学びながら、地域的まとまりを秩序づけるためには、どのような制度的条件が必要かを考える。そして、日本では、自治会・町内会が民間組織であるにもかかわらず、地域的まとまりを運営できてきたことを説明する。
第5回	コミュニティ政策の開始	昭和の大合併が終わったあと日本は経済の高度成長に入り、都市化の道を歩む。その結果生じた諸矛盾の激発がコミュニティ政策を促した。その最初の時期から1970年代の様子を概観する。
第6回	1980年代のコミュニティ政策とその転換	1980年代のコミュニティ政策はコミュニティ・センター自主管理が柱であった。これがバブル経済の崩壊とともに変わってくる。この様子を、自治体内分権的な仕組みが登場してくることに即して明らかにすると同時に、地域集会所の変容についても触れる。

第7回	日本型自治体内分権の成立	1990年代からいくつかの自治体で取組まれた新しいコミュニティ政策は、地方自治法に「地域自治区」制度が規定されるあたりからさらに加速してくる。この動きを日本型自治体内分権として捉える。
第8回	日本型自治体内分権と自治会・町内会	自治会・町内会は2000年前後から特有の弱体化過程に入ったと私は見る。だからこそ自治体内分権という新しいコミュニティ政策が採用されるのであるが、にもかかわらずその制度が主要にあてにしているのは自治会・町内会である。そのため自治体内分権の実践には独特な困難が伴っている。このことをいくつかの実例に則して考察する。
第9回	日本型自治体内分権の類型的特徴	日本型自治体内分権は、参加と協働を基本理念とした、国際比較的に見ても特異な性格のものである。その類型的完成形を高松市の仕組みを分析することによって解明する。
第10回	日本型自治体内分権制度としての地域自治区制度の運用	地方自治法上の地域自治区制度を採用している自治体は多くないが、日本型自治体内分権としての特徴をよく観察できる重要な考察対象である。宮崎市を例にとり、日本型自治体内分権の「限界」について考察する。
第11回	日本型自治体内分権の事例研究	さらに考察材料を増やすために、どちらかといえば「参加」を重視して始まった上越市の地域自治区制度の運用とその変化を扱う。さらに、地域自治区制度ではない、独自の仕組みを設計して自治体内分権制度を行っている自治体の例も取り上げる。
第12回	日本型自治体内分権の限界と可能性	各地の事例を通じて読み取れる、日本型自治体内分権の限界を整理し、現在諸方面で構想されたり試行されたりしている限界突破の構想を吟味する。
第13回	現代日本のコミュニティ政策の総体的動向	以上を総括しつつ、現代日本で政策としてコミュニティがどのように見られ扱われているかを整理する。
第14回	現代コミュニティの展望	財政危機と不況の中で格差が拡大している。この状況のもとでコミュニティはどのような役割を果たせるのか、総務省や日本都市センターなどが行った全国調査をもとに私見を述べ、受講者と意見交換したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2020年度はすべてオンライン授業となったために、非常に充実した（ほぼ教科書と言っていい程度の）講義資料を配布しました。今年度もこの講義資料を事前に配布し、これに基づいて講義を行いますので、受講者はこれを予習・復習することが基本です。さらに、講義中に参考文献を紹介しますので、これも読んで学習してください。また、2020年度ほどではなくても、課題を何度か出しますので、その際には、単に講義資料の該当箇所を復習するだけでなく、課題を解答するのに必要な資料を自ら探して調べることも求められます。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。
名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）
名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

【成績評価の方法と基準】

成績は、何度か出題する課題を採点して判定します。上にも示したように、課題に取り組む際には、講義資料の該当箇所をよく復習するとともに、必要な資料を自ら探して調べることも必要です。採点に当たっては、内容の正しさよりも、課題を受け止めてよく調べよく考えたかどうかを重視して採点します。社会科学においては、正解が複数ある、あるいは正解がはっきりしない、という場合もよくあります。どこかにある「正解」なるものを探さず、という学習態度では身につけません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、オンライン授業であったため、毎回課題を出して、かつこれを採点するのみならず、次回授業で論評するという双方向的なやりとりがあり、私も多くを学ぶことができました。説明の仕方、提示の仕方によって思わぬ誤解が生じたりすることにも気づきました。今年度の講義資料は、これを生かしてブラッシュアップしたいと思います。

【Outline and objectives】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries, especially Germany.

POL200AC

コミュニティ政策（理論・国際比較）

名和田 是彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科の科目の中で、行政・地方自治科目群に属する科目です。コミュニティないしコミュニティ政策は、ある意味で日本特有の現象といえます。諸外国は、日本でコミュニティ政策として処理している課題を、別な形で処理しているからです。この「コミュニティ政策（理論・国際比較）」では、諸外国（特にドイツ）との比較を正面から行なうことによって、日本でコミュニティ政策が必然化してくることを明らかにできる、普遍的な理論枠組を提示したいと思います。

なお、本講義は、昨年度までの「コミュニティ論Ⅱ」を改称したものです。

【到達目標】

日本のコミュニティ政策の概略を理解した上で、こうした政策的営みが国際的に見てきわめて特異なものであることを理解し、日本社会の特異な構造の一面面を考察することができるようになること。

具体的には、近代地方自治制度のもとでは、市町村こそがコミュニティを運営する基本的な仕組みであること、市町村合併を経た後コミュニティにどのような制度的枠組を付与するかで国際比較的な偏差が生ずることの理解、その中で日本はきわめて特異な経過をたどったことの理解、こうした理解を可能にする理論枠組である「地域的まとまり論」の理解、が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、時折受講者からの発言を求め、受講者の問題意識を共有したり、理解度や知識水準を確認したりして、授業内容を受講者の能力とニーズに合ったものにするように努めます。また、配布資料を充実し、事前事後の学習に役立つようにします。数回程度リアクションペーパーまたは課題を提出していただきますが、それに対しては原則としてその次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域的まとまり論の概略とドイツの政治制度概説	国民国家の中央政府の機能だけでは、民主的な意思決定とはいえないし、身近な公共サービスもきちんと行なわれない。身近な地域社会（本講義ではこれを「コミュニティ」とよぶ）にも運営組織が必要である。それが市町村であった。その制度的特徴はどこにあるかを考えて導入的序論とする。また、本講義ではドイツを主要な対象としているので、ドイツの政治制度について入門的概説を行う。
第 2 回	ドイツの都市内分権制度 その 1 プレーメンの戦後史と都市内分権制度の発展	しばらくドイツの都市内分権制度について説明する回が続く。その初回として、プレーメン市の都市内分権の歴史的経緯について扱う。
第 3 回	ドイツの都市内分権制度 その 2 プレーメン市の地域評議会制度の実態と仕組み	プレーメン市の都市内分権制度の実態をまずは入門的に概観し、ついで法令に基づいて制度的仕組みの説明を行う。
第 4 回	ドイツの都市内分権制度 その 3 プレーメン市の地域評議会制度の仕組み	現行法令に基づき、プレーメン市の都市内分権制度を、前回に引き続き、説明する。
第 5 回	ドイツの都市内分権制度 その 4 プレーメン市地域評議会制度の実態分析	制度的な仕組みが理解されたところで、プレーメン市の都市内分権の実態を細かく分析していく。
第 6 回	ドイツの都市内分権制度 その 5 ノルトライン＝ヴェストファーレン州とハンブルク市	プレーメン市以外の事例として、ドルトムント市ないしノルトライン＝ヴェストファーレン州及びハンブルク市の仕組みを説明する。

第 7 回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度 その 1 概説	市町村合併を経ても、きめ細かな自治の重層構造をつくり、身近な地域社会を制度化して丁寧に政治に反映させるドイツのやり方は、都市部に限らない。今回は農村部の仕組みを見る。
第 8 回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度 その 2 ニーダーザクセン州の「連合自治体」制度	前回に引き続き、ドイツの農村部の仕組みを見るが、今回はニーダーザクセン州の「連合自治体」制度を詳しく説明する。
第 9 回	都市内分権制度の法的性格をめぐる憲法裁判から	考察の材料が出そろったところで、理論的考察に入る。まずは、都市内分権制度をめぐって行われたドイツの四つの憲法裁判を手がかりとする。
第 10 回	ドイツの「協働」政策とボランティア観念	ドイツの都市内分権は基本的に「参加」型で、日本の「協働」型とは好対照であるが、現代ドイツは「協働」的な政策を必要としないわけではない。ドイツの「市民社会」重視政策を見る。
第 11 回	地域的まとまり論の理論史 その 1 ギールケの「領域社群」論	理論的予備考察も終えたところで、本格的な理論論に入る。本講義が提唱している「地域的まとまり」論は、ドイツのゲルマニスト法学派が提唱した「領域社群」概念を淵源としている。その源流をたどる。
第 12 回	地域的まとまり論の理論史 その 2 マックス・ヴェーバーの「領域団体」論	ギールケとプロイスによって完成された「領域社群」概念を、社会科学的分析概念として再構成したマックス・ヴェーバーの理論を説明する。
第 13 回	地域的まとまり論の理論構成	理論史を踏まえ、また自治会・町内会という独自の「領域団体」が展開する日本の現実をも踏まえて、「地域的まとまり論」の基本骨格を提示する。
第 14 回	まとめと展望	本講義をまとめるとともに、都市内分権以外に日本でコミュニティ政策として行われている政策についても、このされた研究課題として触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回事前に学習支援システムを通じて講義資料を配付します。これの予習・復習が基本です。また講義の中で参考文献や参考資料を提示しますので、それも勉強してください。課題が出された場合には、講義資料の該当箇所を復習することを基本としながらも、自分で資料を探して調べることも必要です。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。
名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社）
名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社）
特に後者は、共同研究者とともに作った本で、欧米やアジアのコミュニティについても論じています。やや高価ですが図書館で読むことができます。

【成績評価の方法と基準】

何度か課題を出し、それを採点することによって成績評価を行います。上記のように、課題への解答に当たっては、該当する講義資料の箇所を十分に復習することはもちろん、参考として提示した資料や文献、さらには独自に探して調べた資料などをもとに、取り組んでください。「正解」かどうかよりも、各自が主張する結果にどのようにたどり着いたか、その論証過程が主たる評価の対象となります。社会科学においては、「正解」が複数あったり、そもそも「正解」が不明だったりすることが、よくあります。大切なのは、そうした問題について、各自が十分に調べて考え抜き、説得力ある論証を提示することです。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はすべてオンライン授業で、講義資料も充実させ、また毎回課題を出して次の回に論評するというをやったので、受講者の反応も比較的よく分かりました。提示の仕方や話す順序によって思わぬ誤解が生ずるなど、気をつけるべき点にも気づきました。今年度も、双方向のコミュニケーションを大切にしたいと思います。

【Outline and objectives】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. In this lecture I focus on an international comparison of Japanese community policy with that in European, American and Asian countries, especially Germany so that students can understand the characteristics of the Japanese community policy as well as the Japanese society itself.

POL200AD

外交総合講座

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本の政府のみならず、企業や市民社会もどのように他国の多様なアクターと取り組んでいるのかについても理解を深めることにある。各回の授業に、実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業や NGO からの有識者に講義していただき、質疑応答も活発に行うことにより、政府間関係からでは知りえない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】

- ・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に付ける。
- ・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
- ・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に強く関連。「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

政府間関係だけではなく広義の「外交」への理解を促すため、ゲストスピーカーの講義の後には毎回、質疑応答の場を設ける。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは変更する可能性がある。）

毎回の授業後には講義への理解を確認するため、Hoppii を通じて課題の提出を求める。課題に対するフィードバックは個々に行うとともに、必要に応じて次の授業の際にコメントする。

対面での授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって判断する。詳しくは、Hoppii でお知らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	日本の対アジア外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
3	日本の対米外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
4	日本の対欧外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
5	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
6	日本の対 UN 外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
7	メディアから見た日本の外交①	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
8	メディアから見た日本の外交②	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
9	日本の民間外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
10	核軍縮と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
11	移民と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

12	人権と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
13	開発と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
14	環境問題と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業の予習復習には 2 時間程度時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし。関連資料は毎回事前に配布する。

【参考書】

関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】

講義や質疑応答への活発な参加などの平常点（40%）と課題の提出（60%）から総合的に判断する。なお、4 回以上課題の提出を怠った学生には単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生は日々のニュースをフォローするなど、国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムへの参加が望ましい。これについても随時紹介する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究
<研究テーマ>

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、『国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して』『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018 年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して』『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016 年）、『国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索』（国際書院、2013 年）、『北東アジアの「永い平和」：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012 年）、『「グローバル・イシュー」としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して』『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012 年）、「“Smart Sanctions” by United Nations and Financial Sanctions,” United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020), “Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating ‘universal’ norms and values on the local,” Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018), “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020 年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015 年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013 年）などがある。

【Outline and objectives】

This course provides students with the basic information and challenges of the Japan's policy toward her major counterparts including the United States, Asian nations, European nations, African nations and international institutions. The foreign policy will be analyzed from a wide variety of interdisciplinary perspectives – historical, political, economic, and security relations – and through diverse paradigmatic lenses. The course invites officials from Japanese ministries, journalists, political scientists, experts from businesses and NGOs. Through lectures by guest speakers and question-and-answer sessions, students are expected to gain a better understanding of the Japanese foreign policy from broader perspective and to form their own ideas towards it.

POL100AD

グローバル・ガバナンス

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル・ガバナンスの概念は比較的新しく、その概念をめぐっては議論が続いている。しかし、実際の国際社会では、開発援助の分野においてだけでなく、さまざまな地球規模の問題領域に適用されている概念である。この講義の目的は、グローバル・ガバナンスの基本的な知識を理論と実践の両方において身に付けることにある。まず、グローバル・ガバナンスの概念の登場と発展について整理したのち、グローバル・ガバナンスのおもな担い手である国連による実践例として、人権ガバナンス、地球環境ガバナンス、安全保障におけるガバナンス、ガバナンスを支える規範や価値、視座などを取り上げる。その際、ガバナンスが形成されてきた「分野」、ガバナンスに参加する「行為主体（アクター）」、ガバナンスの「手段」に注目する。そして、グローバル・ガバナンスの有効性と限界、課題について考える。

【到達目標】

- ・理論と実践の両方において、「グローバル・ガバナンス」に関する基本的な知識を身に付けることができる。
- ・「グローバル・ガバナンス」の有効性、限界、課題について自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進める。毎回の授業後に課題の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

この授業は大人数の履修者が予想されるため、新型コロナウイルス感染症に対する大学側の指導に従ってオンデマンドで行う。詳しくは、Hoppiiでお知らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 グローバリゼーション とグローバル・ガバ ナンス	授業の目的と進め方、 グローバリゼーションとは？
2	ガバナンスの概念の登 場と発展	ガバナンス概念の登場と発展
3	ガバナンス形成に有効 な分析概念	国際規範、価値、視座とは？
4	ガバナンスの実践①国 際開発援助分野（1）	開発ガバナンス I
5	ガバナンスの実践②国 際開発援助分野（2）	開発ガバナンス II
6	ガバナンスの実践③人 権分野	人権ガバナンス
7	ガバナンスの実践④地 球環境分野（2）	環境ガバナンス I
8	ガバナンスの実践⑤地 球環境分野（2）	環境ガバナンス II
9	ガバナンスの実践⑥保 健分野	感染症ガバナンス

- 10 ガバナンスの実践⑦人 人の移動をめぐるガバナンスの移動
- 11 ガバナンスの実践⑧安 集団安全保障体制 全保障分野 (1)
- 12 ガバナンスの実践⑨安 軍縮ガバナンス I 全保障分野 (2)
- 13 ガバナンスの実践⑩安 軍縮ガバナンス II 全保障分野 (3)
- 14 まとめ ガバナンスの有効性、限界、課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々のニュースをフォローするなど国際社会での出来事に関心を寄せること。授業後には復習を行うこと。関連するセミナーなどへの参加も望ましい。授業の準備・復習を 2 時間程度行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料は毎回配布する。

【参考書】

- ・山田哲也『国際機構論入門』東京大学出版会、2018 年。
 - ・内田孟男編著『地球社会の変容とガバナンス』中央大学出版部、2010 年。
 - ・山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008 年。
 - ・村田晃嗣・君塚直孝ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015 年。
 - ・世界地図。
 - ・Rosenau, James N. and Ernst-Otto Czempiel, eds., *Governance Without Government: Order and Change in World Politics*, Cambridge University Press, 1992.
 - ・Stiglitz, Josef E. and Mary Kaldor eds., *The Quest for Security: Protection without Protectionism and Challenge of Global Governance*, Columbia University Press, 2013.
- その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後の課題提出 40 % と期末試験 60 % のウエイトで成績評価をする。
なお、4 回以上課題の提出を怠った学生は期末試験を受ける資格を失う。よって単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

レジメと配布資料、パワーポイントや資料映像を使用する。

【その他の重要事項】

日々国際社会で起きる出来事に関心をもち、関連文献を積極的に読むこと。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>
国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究
<研究テーマ>
国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
<主要研究業績>

主な著書として、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018 年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016 年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索」（国際書院、2013 年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか」（勁草書房、2012 年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012 年）、「“Smart Sanctions” by United Nations and Financial Sanctions,” *United Nations Financial Sanctions* (Routledge, 2020), “Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating ‘universal’ norms and values on the local,” *Complex Emergencies and Humanitarian Response* (Union Press, 2018), “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” *East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues* (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020 年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015 年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013 年）などがある。

【Outline and objectives】

The international community faces diversified transnational issues such as poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. Who can control such global issues? These issues cannot be understood within the nation-centered narratives anymore. This course provides students with opportunities to become acquainted with “global issues” and learn that many diversified international actors have made efforts to solve these issues. Students are expected to know that states, businesses, NGOs and other entities can make contributions to the settlement of these issues in cooperation with each other, and with regional and international institutions. These efforts and social movements by the diversified actors are called “global governance.” Students will understand how the international community tries to formulate, keep, and manage “global governance” today.

POL300AD

地球環境論Ⅱ

授業形式： | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップしますので、事前にダウンロードしてください。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第13回	環境国際協力	事例研究
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席（50%）と期末試験（50%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壤汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China.

POL100AD

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルス感染の世界的拡大は、今後の世界のあり方を激変させると言われている。世界の片隅で起きた感染が日本を含む先進国に大きな打撃を与えたことで、国際社会が一致団結してこの困難に立ち向かい、途上国での感染拡大防止に取り組むことの重要性は明白になったが、米中の対立や先進諸国の思惑の違いなどで、国際社会が一致できるかはますます不確定となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めようとして、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

出来るだけインターアクティブな授業としたい。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法等の説明を行う。

2	コロナ危機と途上国	新型コロナウイルスのパンデミックは途上国に急速に広がりつつある。国民の命と生活を守るうえで、途上国政府はどんな課題やジレンマに直面しているかを検討する。
3	コロナ危機と開発援助	国際社会は、パンデミックと戦う途上国を、どのように支援できるだろうか。先進国経済も悪化し、米中の対立が激化するなか、「ポストコロナの世界」における開発援助の将来を考える。
4	途上国が（コロナ危機以前から）直面する課題	途上国が（コロナ危機前から）直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学：「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開：途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。

木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題（40%）と最終試験（60%）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline and objectives】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国をはじめとする新興国の台頭、米トランプ政権誕生やブレグジットに象徴される「不寛容と不機嫌」な国内世論の醸成と拡散、地域紛争の続発と環境問題の深刻化など、国際政治経済情勢の大きな変動に伴って、まだ誰も答えを見いだせていない人類の難問が次々に生まれている。いわゆる「途上国」において発生する様々な問題にどう対応すべきか、開発援助のあり方をどう変えていくべきかも、こうした難問の一つである。

こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくて、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさで楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務者であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの意見の発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に必要な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界のHIV-AIDS患者の7割が集中すると 言われ、特に南アフリカ共和国では30代前半の女性の罹患率が36%という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。
3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族は共存・和解させるにはどうすればよいか」を、1990年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。

5	途上国が直面する多様な課題④	1970年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようににはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようににはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいまなのか？」という問いを検討する。
6	開発思想と援助手法①	
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい独裁国家に対しては援助を行うべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実 (post-truth) の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015年に採択されたSDGs(持続可能な開発目標)を読み、2000年に策定されたMDGs(ミレニアム開発目標)と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行(AIIB)等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。
11	日本の政府開発援助(ODA)の特徴①	第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。
12	日本の政府開発援助(ODA)の特徴②	日本のODAは借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
13	日本の政府開発援助(ODA)の特徴③	2015年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱(1992年制定、2003年改訂)」と比較しながら読み解く。
14	授業内容の振り返りと総括	これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー(A4サイズで2枚以内)を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する(シラバス通りとは限らない)。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

近藤康太郎、2020年、『三行で撃つー善く、生きる>ための文章塾』、CCCメディアハウス。
小坂井敏晶、2017年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題(60%)およびディスカッションへの積極的参加の度合い(40%)によって成績を評定する予定(最終試験は行わない)であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論I」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」(楽に単位が取れる科目)ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline and objectives】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL300AD

平和・軍事研究Ⅱ

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事争点を解説する。これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会（例えば、国際航空宇宙展など）や記念館への展覧や感想文を求めることもある。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。オンラインによる受講が保障されている関係で、対面授業やオンライン同時中継が並行されるハイフレックス型授業になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	平和とは何か	戦争がなければ平和なのか。
第 2 回	超大国による平和 勢力均衡による平和	過去に存在したり考案された平和構築 方法の長短所と効力を検証
第 3 回	集団安保による平和 軍備競争による平和	過去に存在したり考案された平和構築 方法の長短所と効力を検証
第 4 回	世界政府、国連による平和	過去に存在したり考案された平和構築 方法の長短所と効力を検証
第 5 回	世界政府、国連による 平和 地域統合、国際法による 平和	過去に存在したり考案された平和構築 方法の長短所と効力を検証
第 6 回	機能主義 (functionalism) による 平和	過去に存在したり考案された平和構築 方法の長短所と効力を検証
第 7 回	終戦の状況と戦後日本の スタート	平和憲法、自衛隊創設、サンフランシ スコ講和条約
第 8 回	日本の軍事政策 1	日米安保
第 9 回	日本の軍事政策 2	核政策・防衛大綱
第 10 回	日本の軍事政策 3	自衛隊とその装備
第 11 回	領土問題	個別の領土問題を概観
第 12 回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第 13 回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力
第 14 回	韓国の軍事政策	南の韓国に対する戦略 北に対する戦略 通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んだり、映像（Youtube など）や展示物を見て、感想文を提出するように求められることがある。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The first half of this course introduces the ideas and measures to achieve international peace which many scholars and politicians have envisioned.

It explains its details of ideas and will check how and why it will work or not. The second part of this course introduces the history of post-war Japan's military policy and the military situation of East-Asia surrounding Japan.

The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace, and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD

朝鮮半島の政治と社会 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に 1945 年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。

【到達目標】

朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程、日韓関係の主要争点の概要と歴史を講義する。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。オンラインによる受講が保障される関係で、対面授業やオンライン同時中継が併行されるハイフレックス型授業になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第 2 回	朝鮮半島の分断	38 度線の由来 分断の状況、分断の責任
第 3 回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第 4 回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第 5 回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第 6 回	4・19 学生革命と 5・16 軍事クーデター	4・19 学生革命と 5・16 軍事クーデターを解説
第 7 回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第 8 回	日韓外交正常化	その過程、内容と問題点
第 9 回	全斗煥政権	1979-88 年
第 10 回	民主化運動とその実現	1987 年新憲法成立
第 11 回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第 12 回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第 13 回	李明博、朴槿恵の保守政権と「ろうそく革命」で成立した文在寅政権	その政策を中心に
第 14 回	対日政策	日本との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画など）を見てくるように求めることがある。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

1. 木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012 年
2. ドン・オーバードーフター、ロバート・カーリン『二つのコリア〔第三版〕—国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projector を使って映像物を見ることがある。

【Outline and objectives】

This course introduces the post-war political histories of Korean peninsula (South Korea and North Korea). The aim of this course is to help students understand the political system and its situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD

朝鮮半島の政治と社会 II

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に 1945 年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけではなく、北朝鮮についても説明する。

【到達目標】

北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、朝鮮半島の経済制度・社会システム・文化を分析する。主に講義による説明によって授業を行うが、映像（Youtube、映画など）や書物の感想の提出や特定テーマに関する意見交換を行うこともある。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。オンラインによる受講が保障される場合は、対面授業やオンライン同時中継が並行されるハイフレックス型授業になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第 2 回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略、「わが民族同士」
第 3 回	北朝鮮の核兵器や弾道ミサイル問題	核兵器、ミサイル能力
第 4 回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第 5 回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第 6 回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第 7 回	韓国の経済制度 1	財閥、不動産
第 8 回	韓国の経済制度 2	税金、福祉、雇用
第 9 回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第 10 回	教育制度	受験戦争、就職難
第 11 回	韓国の社会問題 1	地域対立、格差問題
第 12 回	韓国の社会問題 2	女性関連
第 13 回	日韓の主要争点	歴史認識の問題 領土問題、慰安婦問題
第 14 回	統一の可能性について	吸収合併論、急変事態論、漸進的統一論などを点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube など）を見てくるように求めることがある。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

1. 木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012 年
2. ドン・オーバードーフター、ロバート・カーリン『二つのコリア〔第三版〕—国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2015 年

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projector を使って映像物を見ることがある。

【Outline and objectives】

This course introduces the economic, social and culture system of post-war Korean peninsula (South Korea and North Korea). The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AD

平和・軍事研究 I

権 鍋淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同様に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の力関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。

被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。オンラインによる受講が保障される関係で、対面授業やオンライン同時中継が並行されるハイフレックス型授業になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第 2 回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第 3 回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第 4 回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第 5 回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第 6 回	Middle Power の核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第 7 回	冷戦終了後の核兵器状況	2019 年の時点で、世界に 1 万発の核兵器が現存
第 8 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 9 回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。
第 10 回	日本の冷戦時代の戦略	「非核 3 原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第 11 回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第 12 回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第 13 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 14 回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube など）、展示物を見てくるように求めることがある。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.

It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and terror issues.

The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

POL300AC

現代政策学特講 I（千代田区）

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講semester：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する実習を中心とする 2 単位科目である。市ヶ谷キャンパスが所在する千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク（現地調査）を通じて発見し、考察すること。なお、沖縄県の 2 大学（沖縄大学・名桜大学）、および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに参加する各大学（大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学）の学生も受講可能となっている。

【到達目標】

千代田区に関する事前学習、現地実習等を通じて、地域の特性（課題、魅力等）を理解し、さらに自ら政策課題を発見して解決策を考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、オータムセッション期間中（9月13～16日）に対面による講義と現地調査、発表を行う。それに加えて、事前にオンデマンド講義（2回）、調査企画検討をリアルタイムオンラインによるグループワークで行う。

なお、事前学習では小レポート提出、調査企画検討ではグループでの問題関心の整理をする。またオータムセッション期間中は、グループごとに成果発表を行い、さらに終了後には個人レポートを提出する。これらの課題等に対しては、事前学習、オータムセッション期間中は授業内で、終了後の課題については、学習支援システム上で講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
7月	オリエンテーション	授業の進め方および目的を理解する（オンデマンド）。
7月	事前学習「千代田区概論」	対象となる千代田区の概説をする（オンデマンド）。
7～8月	現地実習の事前準備	グループごとに現地実習の準備（情報収集と質問事項）をする（リアルタイムオンライン）。
9月13日	現地実習オリエンテーション	実習の進め方等について共有する。
9月13日	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月14日	講義：地域課題解決に取り組む学生の取組	大学生による地域課題解決に向けた活動紹介（ゲスト講師）
9月14日	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月15日	講義：千代田区の施策	千代田区の行政施策について行政関係者が解説する（ゲスト講師）。
9月15日	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月16日	成果発表	グループごとに、地域の課題解決や発展に関するプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オータムセッション期間中の現地実習準備、発表準備等のために、必要に応じて授業外の時間での作業が必要になる場合がある。

また、事前学習における小レポート作成、実習準備等は授業外の時間に行うことが前提としている。さらに授業終了後には個人レポート提出を予定している。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ別発表の評価（40%）、最終個人レポートの評価（40%）、事前学習小レポートの評価（10%）、グループワーク等への貢献度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡事項、

【その他の重要事項】

受講を希望する学生には、併せて「現代政策学特講Ⅱ（沖縄）」を受講することを推奨する。両講とも受講することで、異なる地域社会の比較研究を目指すために必要な多角的な視点をさらに獲得することが期待される。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Chiyoda Ward.

POL300AC

現代政策学特講Ⅱ（沖縄）

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：スプリングセッション/Spring Session

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は、実習を中心とする 2 単科目である。本講は、沖縄大学（那覇市）・名桜大学（名護市）および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（略称「千代田区キャンパスコンソ」）に参加する大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学で受講を希望する学生とともに、沖縄でフィールドワーク（現地調査）を行う。調査は、沖縄本島に離島を加えて実施し、それぞれの歴史・文化を理解し、地域社会の政策課題を考察するとともに、本島と離島の文化・産業の違い等を体感して比較の視点をもって研究を進めることを目指す。

本講の受講を希望する学生には、併せて「現代政策学特講Ⅰ（千代田区）」を受講することを推奨する。両講とも受講することで、異なる地域社会の比較研究を目指すために必要な多角的な視点をさらに獲得することが期待される。

【到達目標】

現地調査に先立ち、講義を通じて公共政策・行政等に関する基礎的な知識を身につける。

そして現地実習や課題解決型授業によって地域の特性や魅力を理解し、さらに自ら政策課題を発見して解決策を考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は明田川が全体の主担当となるほか、他の政治学科教員も加わり、講義や現地調査を行う。スプリングセッションにおける現地調査が主となるが、それに先立ち、事前学習やレポートの提出等の課題を課す。現地調査を実施した後は、グループごとのプレゼンテーションを予定し、最終的には、各受講生が調査実習報告レポートを取りまとめて提出する。

フィードバックについては——上記との重複も含まれるが——フィールドワーク準備段階では事前学習後に、また、沖縄本島でのフィールドワーク中は毎日の調査終了後および本島全体の調査終了後に、さらに、離島でのフィールドワーク中も毎日の調査終了後および離島全体の調査終了後に、学生の報告と同報告に対する教員の論評というかたちでフィードバックを行う。沖縄本島および離島では、同地の研究者、自治体職員、産業界等からコメントをお招きし、学生の報告に対する講評をいただくというかたちでのフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前学習	授業の進め方および目的を理解する。
①		
第 2 回	オンデマンド事前学習	オンデマンド授業や課題図書を活用し現地調査に必要な知識に関する講義を受講し、課題レポートを提出する。
②		
第 3 回	現地実習（沖縄本島：初日）	・調査対象地を訪ねるとともに「沖縄の文化・歴史・公共政策」に関する講義を受講する。
③		
第 4 回	現地実習（沖縄本島：2日）	・調査対象地を訪ねるとともに「沖縄県の経済と産業振興」に関する講義を受講する。
④⑤		
第 5 回	現地実習（沖縄本島：3日）	・那覇周辺や戦跡をフィールドとした現地調査を行う。
⑥⑦		
第 6 回	現地実習（離島・未定：4日）	・離島に移動し「歴史と政策」に関する講義を受講する。
⑧		
第 7 回	現地実習（離島・未定：5日）	・調査対象地を訪ねるとともに、当該離島の「商業・観光振興の課題と取組み」に関する講義を受講する。
⑨⑩		
第 8 回	現地実習（未定 6 日目）	・グループワーク
⑪⑫		・グループ別に調査結果をとりまとめ、報告の準備をする。
第 9 回	現地実習（未定 7 日目）	・グループごとに、沖縄の魅力創出ないし政策課題の解決をテーマとするプレゼンテーションを行う。
⑬		
第 10 回	事後学習	・各自調査実習報告レポートを作成し提出する。
⑭		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間ではおそらく不足する。

現地調査の成否は、事前準備に大きく左右されるため、情報収集を精力的に行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、指示する。

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

事前課題 (30%)、現地調査における積極性 (20%) や、調査報告レポートの内容 (50%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやオンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

本講は、大学内外の多くの方々の協力を得て成立している。

そこで、(1) 各種提出物等の締め切りを厳守すること、(2) ヒアリング先に礼節を失することがないように注意すること。その他、要するに社会常識を守ることに十分留意することが求められる。

なお、本講で得られる他大学の学生等との交流機会を存分に活かしてほしい。重要なお知らせ（2021 年 2 月 9 日）

新型コロナウイルスの状況により、授業の開始日や方法、フィールドワーク地等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Okinawa Prefecture. This lecture has been a part of the convective projects between Tokyo and Okinawa supported by Cabinet Office.

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅰ

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、ドイツ語を母語とする者が著した同分野についての文献を購読する。その際、ドイツ語のテキストを主とするか、和訳を主とするかは、受講者のドイツ語力によって決める。

現時点では Carl Schmitt: Der Begriff des Politischen（シュミット『政治的なものの概念』）の購読を予定している。同書でシュミットは Die spezifisch politische Unterscheidung, auf welche sich die politischen Handlungen und Motive zurückführen lassen, ist die Unterscheidung von Freund und Feind（政治的な行動や動機の基因と考えられる、特殊政治的な区別とは、友と敵という区別である）とのべ、その有名な友敵理論を展開する。本購読では、二〇世紀はじめに特殊政治的なものの起因を論じたこの政治学の古典をとりあげることによって、あらためて政治とは何か、ということを受講者とともに考察したい。

なお進み具合によっては、Theorie des Partisanen Zwischenbemerkung zum Begriff des Politischen（『バルチザンの理論』）も購読したいと考えている。

【到達目標】

ドイツ語の文章をとおして政治・社会・文化事象についての情報を入手できるようにすること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業形態は演習である。すなわち授業内での発表などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。ドイツ語の難易度については、履修者のレベルに応じて決めるので、テーマとドイツ語に関心さえあれば、無理なく参加できるようにする方針である。フィードバックは授業中随時なされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	準備情報
2	Der Begriff des Politischen	購読
3	Der Begriff des Politischen	購読
4	Der Begriff des Politischen	購読
5	Der Begriff des Politischen	購読
6	Der Begriff des Politischen	購読
7	Der Begriff des Politischen	購読
8	ふりかえり	前半の内容
9	Theorie des Partisanen	購読
10	Theorie des Partisanen	購読
11	Theorie des Partisanen	購読
12	Theorie des Partisanen	購読
13	Theorie des Partisanen	購読
14	ふりかえり	後半の内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章を事前に読み、読書ノートを作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

独文については授業内で配布

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

現下の状況に鑑みて、今年度の春学期の進め方等は、授業支援システムに記していきますので、履修者は必ず、同支援システムにも登録し、定期的に閲覧するようにしてください。

【Outline and objectives】

In diesem Seminar werden wir deutsche Texte über Kultur, Gesellschaft und Politik lesen.

English Keywords: German text, politics, society, culture

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅱ

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、ドイツ語を母語とする者が著した同分野についての文献を購読する。その際、ドイツ語のテキストを主とするか、和訳を主とするかは、受講者のドイツ語力によって決める。

現時点では Walter Benjamin: Zur Kritik der Gewalt (1920/1920:ベンヤミン『暴力批判論』)の購読を予定している。この文章をベンヤミンは、Die Aufgabe einer Kritik der Gewalt läßt sich als die Darstellung ihres Verhältnisse zu Recht und Gerechtigkeit untersuchen (暴力批判論の課題は、暴力と、法および正義との関係をえがくことだ、といてよいだらう)という一文ではじめ、暴力の是非を、ある目的とその目的を達成するための手段と関連づけて考察することからはじめる。ほぼ同じ時期にウェーバーもまた『職業としての政治』のなかでこの論点に言及し、心情倫理と責任倫理について論じる。ベンヤミンは、かれの議論を、神話的暴力と神的暴力の対比へと展開させてゆく。本購読では、二〇世紀はじめに暴力・政治・法を考察したこの文章をとりあげることによって、あらためて政治における暴力について受講者とともに考察したい。

【到達目標】

ドイツ語の文章をとおして政治・社会・文化事象についての情報を入手できるようにすること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業形態は演習である。すなわち授業内での発表などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。ドイツ語の難易度については、履修者のレベルに応じて決めるので、テーマとドイツ語に関心さえあれば、無理なく参加できるようにする方針である。フィードバックは授業中随時なされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	準備情報
2	Zur Kritik der Gewalt	購読
3	Zur Kritik der Gewalt	購読
4	Zur Kritik der Gewalt	購読
5	Zur Kritik der Gewalt	購読
6	Zur Kritik der Gewalt	購読
7	Zur Kritik der Gewalt	購読
8	ふりかえり	前半の内容
9	Zur Kritik der Gewalt	購読
10	Zur Kritik der Gewalt	購読
11	Zur Kritik der Gewalt	購読
12	Zur Kritik der Gewalt	購読
13	Zur Kritik der Gewalt	購読
14	ふりかえり	後半の内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章を事前に読み、読書ノートを作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

独文は授業内で配布

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In diesem Seminar werden wir deutsche Texte über Kultur, Gesellschaft und Politik lesen.

English Keywords: German text, politics, society, culture

POL300AC

外国書講読（仏語）Ⅰ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは、物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読みます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながらでも構いません。少しずつベースを上げ、最終的には辞書を引きながら、日本語訳の出ない原書の文章を読めるようにします。課題や試験へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論文の抜粋	講読
8	評論文の抜粋	講読
9	評論文の抜粋	講読
10	評論文の抜粋	講読
11	時事文の抜粋	講読
12	時事文の抜粋	講読
13	時事文の抜粋	講読
14	期末試験	筆記試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。受講者の関心が一致すれば、教科書を指定することもあります。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、試験 50 %（教室授業が可能な場合）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書

【その他の重要事項】

・予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、本授業は年度によって受講希望者のフランス語習熟度に違いが見られます。そのため最終的に教材は受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。

・昨年度の春学期は『ル・モンド』の抜粋とモーパッサンの短編を読みました。

【Outline and objectives】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

POL300AC

外国書講読（仏語）Ⅱ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読んでいます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながらでも構いません。少しずつベースを上げ、最終的には辞書を引きながら、日本語訳の出ない原書の文章を読めるようにします。課題や試験へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論文の抜粋	講読
8	評論文の抜粋	講読
9	評論の抜粋	講読
10	評論文の抜粋	講読
11	時事文の抜粋	講読
12	時事文の抜粋	講読
13	時事文の抜粋	講読
14	試験	筆記試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。受講者の関心が一致すれば教科書を指定することもあります。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、試験 50 %（教室授業が可能な場合）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書

【その他の重要事項】

・予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、本授業は年度によって受講希望者のフランス語習熟度に違いが見られます。そのため最終的に教材は受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。
・昨年度の秋学期は『ル・モンド』の記事の抜粋、ゾラの短編、ヴォルテールの哲学コント、ランボーの詩を読みました。

【Outline and objectives】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

POL200AC

協同組合論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。
一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合や NPO 等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバリズムが加速する中で、貧困根絶や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は 2012 年を「国際協同組合年」とし、2013 年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げました。一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、働く者の数が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化していますが、こうした問題に市場や行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されています。このような中で 2020 年 12 月労働者協同組合法が成立しました。協同組合運動は新しい段階を迎えます。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待がよせられているのか。「もう一つの世界は可能かー協同組合と社会的連帯経済」この点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の学者および実践者による講義を行ないます。

【到達目標】

- ① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。
- ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
- ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則「対面」で行う予定であるが、講師等の都合によりオンデマンド教材などを併用することがある。

この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心とした日本の協同組合や NPO 等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合や NPO 等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。小レポート等から提出された質問について、講義時間等に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 01 回	①開催あいさつ ②ガイダンス	①主催者の開催あいさつ ②本講座の主旨、狙い、講座概要、成績評価方法などを説明します。 ③世界の多様な協同組合、社会的連帯経済の実践例と生活クラブ運動に触れ、営利企業や行政が解決できぬ課題、公共政策への挑戦を学びます。
第 02 回	協同組合法制の変遷と今日的課題	1948 年に制定された生活協同組合法は 2008 年に大きな改正がされました。しかしその後も社会の変化は急速であり現行生協法にも様々な課題が生じています。生協法を中心に協同組合運動と事業における課題認識を現行法との関連で深めます。
第 03 回	食を取巻く課題と協同組合の役割	生活クラブ生協の事業と運動の取り組みを、具体的な食品問題（添加物、農薬、放射能、BSE 等）を事例に紹介します。さらに、消費者、生産者の立場から、食の安全、農業保護などについてグローバル経済システムの視点を踏まえた問題提起を行います。
第 04 回	地域づくりを拓く協同組合	働く人たちがつくる協同組合であるワーカース・コレクティブ実践と協同組合地域協議会の連系を学びます。

第 05 回	地域福祉における非営利・協同の可能性	地域が主体的にまちづくりに取り組むこと目的とした、「市民版地域福祉計画」の策定を地域協議会に呼びかけ、必要なしくみづくりに自ら問題意識を持って取り組む主体を広げるために地域の活動を支援している活動を紹介し
第 06 回	女性たちが担う新しい働き方の可能性—サブシステムズ・ワーカーとは—	労働組合でも NPO 法人でもアンペイドワークでもない、ワーカーズ・コレクティブとは何か。世界的にも、人間らしい働き方ディーセント・ワークが求められていて、いのちの維持をベースにおいて、労働の自由度をひろげながら生産と流通、そして地域の共生の関係を紡ぎ直す「サブシステムズ」の概念を踏まえ、その理論と意義を学びます。
第 07 回	食を中心とした生活提案とまちづくり	日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きい。日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をとおした生活提案やまちづくりを学びます。
第 08 回	貧困とまちづくりへの挑戦～空き室調査から	貧困と福祉課題を背景とした空室調査とまちづくり課題を紹介し
第 09 回	市民によりエネルギー自給の可能性を探る～エネルギーの共同購入	生活クラブのエネルギー自給の取り組みの背景と課題を研究者の立場から論じます。
第 10 回	市民金融によるコミュニティ・エンパワーメント	お金の意志と意思をもたせるために市民がつくった市民のための非営利市民金融による、公正な暮らしや働き方、持続可能な社会づくりをすすめる取組みを紹介し
第 11 回	協同組合と若者——韓国的事例から	韓国では、2012 年に「協同組合基本法」を施行し、また 2013 年度に「ソウル市特別協同組合活性化支援条例」が制定されて以来、3,000 に及ぶ協同組合が設立しています。特に若者の協同組合への参加に焦点をあてて、その現状を紹介し
第 12 回	市民の政治参加とインターネット選挙	生活クラブ・生活者ネットの政治運動の経験と実践、インターネット選挙の実験を学び
第 13 回	市民による公共政策実現のプロセス～食品安全条例の直接請求と制定過程	1 人の市民・生活者として石けん運動や地下水の保全運動を進めているなかで、生協活動の仲間によるボランティア選挙で都議に当選し、都議会で「食品安全条例」制定などを経験し、現在市民参加型の社会を創るための福祉、環境、自治の分野における調査研究活動に取り組むなど、生活者運動と政策実現に向けた政治参加の経験と実践を紹介し
第 14 回	全体まとめワークショップ	13 回の講座を踏まえ、協同組合のビジョンおよび問題提起を受け、非営利・協同セクターへの理解、見識を深めることを目的に、グループに分かれてワークショップを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布します。

【参考書】

適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】

①各講義時の小レポートによる評価の合計：講義の感想、意見をもとにミニレポート（100 字～200 字程度）の作成を毎回、講座終了前に行い、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

講師によって、パワーポイント、映像を活用します。

【Outline and objectives】

This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects.

PHL300BB

哲学特講（7）－1

君嶋 泰明

授業コード：A2224 | 曜日・時限：木曜 5 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術、テクノロジーは人間と不可分な関係にあるため、哲学で扱われるべきさまざまな問題を提起する。この授業では、そうした問題のいくつかを考えることを通じて、技術と人間の関係がもつ諸相に目を向け、それらを包括的に理解することを目指す。

【到達目標】

- ①技術はどのような問題を提起するかを理解する。
- ②それらの問題を解決するために考慮に入れるべき論点を理解する。
- ③それらの論点を踏まえ、個々の問題にたいして一定の結論を導けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。必要に応じてディスカッションを行う予定。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。この授業で扱われる問題の多くは、David E. Nye の *Technology Matters* という本から拝借したものである（未邦訳。下記「参考書」を参照）。それゆえこの本を座右に授業に臨めばより効果的に学習できるはずだが、それなしでもまったく支障はない。教室定員にたいする受講者人数を把握するため、初回授業は Zoom で行う。アドレスは学習支援システムで連絡する。人数が多い場合は抽選を行う可能性もあるので、初回は必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明
第 2 回	技術の定義	技術とは何か
第 3 回	技術決定論	技術は自律的か
第 4 回	技術の予測可能性	技術の未来は予測可能か
第 5 回	技術の歴史	歴史から何がいえるか
第 6 回	技術と文化	技術は文化を画一化するのか、多様化するのか
第 7 回	技術と自然	技術と自然の関係とはどのようなものか
第 8 回	技術と仕事	技術は仕事を奪うのか、生み出すのか
第 9 回	技術と市場	技術はどのように選択すべきか
第 10 回	技術と安全	技術は世の中を安全にするのか、危険にするのか
第 11 回	技術と視野	技術は視野を広げるのか、制限するのか
第 12 回	技術と科学	技術と科学の関係とはどのようなものか
第 13 回	技術と今後	技術とどう向き合うべきか
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

David E. Nye (2006) *Technology Matters: Questions to Live With*, The MIT Press.

その他の参考書は授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末レポートが 50%。前者はリアクションペーパーの内容やディスカッションへの参加状況、後者は上記「到達目標」の①②③がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline and objectives】

Since technology is inseparable from human beings, it raises various questions, which should be dealt with in philosophy. In this course, by way of considering some of the questions, we will look to various aspects of the relationship between technology and human beings, and aim to acquire a comprehensive knowledge of them.

PHL200BB

科学哲学 1

中釜 浩一

授業コード：A2241 | 曜日・時限：木曜 3 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正しく議論を組み立て、間違った論証を見分ける技能は、あらゆる分野において重要だが、論理学を実際の議論に適用することは必ずしも容易ではない。科学哲学 1 では、実際の議論への応用に最も適していると思われる「タブロー法」について解説し、証明と反論の技法に習熟することを目指す。

【到達目標】

タブロー法を用いた証明のテクニックを学び、通常の論理に加えて、様相概念や時制論理への適用を可能にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と、練習問題の解答および解説によって進める。

授業の冒頭で、前回の練習問題の解答と解説、誤りやすい点の指摘等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論理と言語	通常の論理と様相論理の違い
第 2 回	命題論理とタブロー法 (その 1)	命題論理と記号言語
第 3 回	命題論理とタブロー法 (その 2)	論証の妥当性
第 4 回	命題論理とタブロー法 (その 3)	論証の妥当性に関するタブロー法による解法
第 5 回	述語論理とタブロー法 (その 1)	述語論理の説明
第 6 回	述語論理とタブロー法 (その 2)	述語タブローの説明
第 7 回	述語論理とタブロー法 (その 3)	タブロー法を用いた妥当性の判定
第 8 回	中間のまとめ	練習問題の解答と解説
第 9 回	様相論理 (1)	様相概念の説明
第 10 回	様相論理 (2)	可能世界意味論
第 11 回	様相論理 (3)	様相体系 K の説明
第 12 回	様相論理 (4)	様相論理とタブロー法
第 13 回	様相論理 (5)	タブローによる証明
第 14 回	まとめ	練習問題の解答と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題として出される練習問題を自分で解く。
論理学概論程度の内容を理解しておく。
本授業の予習復習時間は毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

Wilfrid Hodges, Logic (penguin books)

リチャードジェフリー「形式的論理学」(産業図書)

中釜他「論理学の初歩」(梓出版)

【成績評価の方法と基準】

授業時の練習問題の解答 30 %

中間試験 30 %

期末の試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

科学哲学 2 と合わせることで、様相命題論理を一通り理解することになるので、科学哲学 2 を合わせて受講すること。

【Outline and objectives】

The skill of construction of valid reasonings and criticize invalid reasonings is important in any intellectual areas, but to apply logic to actual discussions is not always easy. In this lecture, we will explain the tableau method which seems to be most applicable to actual affairs, and discuss some of the topics concerning philosophy of logic.

PHL200BB

科学哲学2

中釜 浩一

授業コード：A2242 | 曜日・時限：木曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様相（必然、偶然、可能、不可能）は、現代の哲学の理解にとって必須の概念的装置である。科学哲学2では、科学哲学1に引き続いて、様相概念の意味と、それに関わる論理に熟習することを目指し、様相体系 S4、S5 と、時制論理への応用を扱う。

【到達目標】

科学哲学1の十分な理解を前提とし、タブローの方法の様相論理の体系 S 4、S 5 までの拡張、および時制論理についての同様の取り扱いを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義および練習問題とその解説によって進める。
授業の冒頭で課題の解答と解説を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	タブロー法と様相に関する復習	様々な様相概念
第 2 回	体系 T (その 1)	体系 T の概念の説明
第 3 回	体系 T (その 2)	タブロー法による妥当性判定
第 4 回	体系 T (その 3)	反証モデル
第 5 回	体系 S 4 (その 1)	体系 S 4 の説明
第 6 回	体系 S 4 (その 2)	タブロー法の S 4 への適用
第 7 回	体系 S 4 (その 3)	S4 反証モデル
第 8 回	中間のまとめ	練習問題の解答と解説
第 9 回	体系 S 5 (その 1)	体系 S 5 の説明
第 10 回	体系 S5 (その 2)	S5 タブローの説明
第 11 回	体系 S 5 (その 3)	S5 反証モデル
第 12 回	時制論理 (その 1)	時制論理の説明
第 13 回	時制論理 (その 2)	時間に関する様々なモデルとタブロー法
第 14 回	まとめ	練習問題の解答と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を自分で解く。
論理学概論・科学哲学1の内容を理解しておく。
本授業の予習復習時間は毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜浩一「論理学の初歩」（梓出版） Pries
Priest, An Introduction to Non-Classical Logic

【成績評価の方法と基準】

練習問題の回答：30%
中間試験：30%
期末の試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

科学哲学1の内容の理解を前提とするので、科学哲学1を受講しておくこと。

【Outline and objectives】

To understand the meanings of modal concepts(necessity, contingency, possibility, impossibility) is a key to modern philosophy. We try to master some skills of modal propositional logic in terms of tableau method, and deepen our thought about modality.

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想）1

大池 惣太郎

授業コード：A2245 | 曜日・時限：金曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの精神分析医ジャック・ラカンの講義録『精神分析の四基本概念』をじっくり講読する。同書では、精神分析の四つの基礎的概念として「無意識」と「反復」、「転移」と「欲動」が取り上げられるほか、シニフィアンの機能、対象 a の理論、疎外と主体/他者の関係など、ラカン派精神分析の重要な論点が多数扱われている。ラカンのテキストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりを学ぶことが授業目的です。

【到達目標】

・ラカンのテキストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりについて学び、一定程度の水準で理解すること。

・学習した知見をレポートにおいて、説得的な形で論述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業はオンライン（zoom を用いた双方向ライブ式）で実施します。詳細は学習支援システム Hoppii に掲示します。
・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。毎回、発表担当者が決められ、担当者は、指定範囲のレジュメを作成する。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業では、担当者が重要と思う論文や疑問点を授業内で提起し、それを受けて全体でディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
第 2 回	精神分析家と精神科医の違い	教科書第一節の検討
第 3 回	無意識と反復	精神分析における「無意識」と「反復」について概説
第 4 回	無意識と構造	教科書第二節の検討
第 5 回	確信の主体	教科書第三節の検討
第 6 回	シニフィアンの編み目	教科書第四節の検討
第 7 回	テュケーとオートマトン	教科書第五節の検討
第 8 回	眼と眼差しの分裂	教科書第六節の検討
第 9 回	アナモルフォーズ	教科書第七節の検討
第 10 回	線と光	教科書第八節の検討
第 11 回	絵とは何か	教科書第九節の検討
第 12 回	転位について	精神分析における転移の重要性について概説
第 13 回	ラカンの主体について	ラカンの主体について概説
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・参加者は、指定された範囲や関連文献をあらかじめ読んだ上で授業に参加する。
・発表担当者はレジュメを作り、事前に論文や疑問点を整理して授業に臨む。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジャック・ラカン『精神分析の四基本概念』（上・下）、岩波文庫、2020 年）。

【参考書】

ブルース・フィンク『ラカン派精神分析入門：理論と技法』（誠信書房、2008 年）
ブルース・フィンク『後期ラカン入門』（人文書院、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

授業への発表・参加（70%）と学期末のレポート（30%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回参加者全員が必ず発言するようにし、授業内の活気を高める。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to understand some fundamental ideas of the Lacanian psychoanalysis. We read mainly Jacques Lacan's most important seminar: The Four Fundamental Concepts of Psychoanalysis (1973), to obtain basic knowledge and point of view of the Lacanian psychoanalysis theory concerning the "unconscious", "repetition", "transference", "drive", etc.

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想）2

大池 惣太郎

授業コード：A2246 | 曜日・時限：金曜 5 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの精神分析医ジャック・ラカンの講義録『精神分析の四基本概念』をじっくり講読する。同書では、精神分析の四つの基礎的概念として「無意識」と「反復」、「転移」と「欲動」が取り上げられるほか、シニフィアンと対象 a の理論、疎外と主体／他者の関係など、ラカン派精神分析の重要な論点が多数扱われている。ラカンのテキストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりを学ぶことが授業目的です。

【到達目標】

・ラカンのテキストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりについて学び、一定程度の水準で理解すること。
・学習した知見をレポートにおいて、説得的な形で論述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業はオンライン（zoom を用いた双方向ライブ式）で実施します。詳細は学習支援システム Hoppii に掲示します。
・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。毎回、発表担当者が決められ、担当者は、指定範囲のレジュメを作成する。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業では、担当者が重要と思う論点や疑問点を授業内で提起し、それを受けて全体でディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	前期内容の復習
第 2 回	分析家の現前	教科書第十節の検討
第 3 回	分析と真理	教科書第十一節の検討
第 4 回	シニフィアンと性	教科書第十二節の検討
第 5 回	欲動の分解	教科書第十三節の検討
第 6 回	部分欲動とその回路	教科書第十四節の検討
第 7 回	愛からリビドーへ	教科書第十五節の検討
第 8 回	精神分析における他者について	精神分析における他者について概説
第 9 回	疎外について	教科書第十六節の検討
第 10 回	主体と<他者>	教科書第十七節の検討
第 11 回	「知っている」と想定された主体	教科書第十八節の検討
第 12 回	解釈から転位へ	教科書第十九節の検討
第 13 回	「君の中に、君以上のものを」	教科書第二〇節の検討
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・参加者は、指定された範囲や関連文献をあらかじめ読んだ上で授業に参加する。
・発表担当者はレジュメを作り、事前に論点や疑問点を整理して授業に臨む。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジャック・ラカン『精神分析の四基本概念』（上・下）、岩波文庫、2020 年）。

【参考書】

ブルース・フィンク『ラカン派精神分析入門：理論と技法』（誠信書房、2008 年）ブルース・フィンク『後期ラカン入門』（人文書院、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

授業への発表・参加（70%）と学期末のレポート（30%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回参加者全員が必ず発言するようにし、授業内の活気を高める。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to understand some fundamental ideas of the Lacanian psychoanalysis. We read mainly Jacques Lacan's most important seminar, The Four Fundamental Concepts of Psychoanalysis (1973), to obtain basic knowledge and point of view of the Lacanian psychoanalysis theory concerning the "unconscious", "repetition", "transference", "drive", etc.

PHL200BB

宗教学1（伝統宗教）1

杉本 隆司

授業コード：A2251 | 曜日・時限：木曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀にはいり、西欧世界とイスラム世界に象徴されるように宗教間の摩擦や政治的な世俗化の問題に注目が集まっている。近年も世界各地で宗教的価値をめぐる暴力が現実のものとなり、私たちにも無関係な問題ではなくなりつつある。この授業では西欧における「他者の信仰」の歴史を学び、国際社会の宗教問題を広い視野から主体的に考察する知識を身につける。

【到達目標】

世界にはキリスト教、イスラム教、仏教といった世界三大宗教はじめとして多様な宗教があります。しかしこれらをすべて「宗教」Religion という同じカテゴリーに含むような意識が西欧世界で認知されたのは、せいぜいこの 2 世紀のことにはすぎません。この授業ではキリスト教の成立から新大陸の「発見」までを歴史的に概観し、「宗教」概念が決して普遍的なものではなく、歴史性や論争的な性格を抱えつつ成立してきた流れを具体的に理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。中世までもっぱらユダヤ・キリスト教だけが本場の「宗教」で、それ以外の信仰は「異教」扱いでした。「異教」概念は、それを規定する側がなにかの「真の宗教」を前提としている点で排除の論理が働きます。しかし近世以降この前提は「異教」との接触によりいくつかの点から揺らぎ始めます。1. 古代異教の復活（ルネサンス）。2. カトリック＝異教論の登場（宗教改革）。3. 新大陸の異教との遭遇（大航海時代）。おもに西洋が経験したこの 3 つのテーマを中心に排除の論理と「他者の信仰」との関係について、毎回資料を配りながら進めていく予定です（授業計画参照）。学期の中盤に理解度を測るために中間小テストを行い、受講者全員に答案のフィードバックを行う予定です。
なお、この授業は秋学期の「宗教学1（伝統宗教）2」と連動しているため、秋学期授業の履修を考えている学生は本講義と合わせて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマの説明
第 2 回	「他者の信仰」と現代 (1)	宗教間摩擦の現在
第 3 回	「他者の信仰」と現代 (2)	世俗化論と「宗教」概念の再考
第 4 回	ユダヤ＝キリスト教史 (1)	ユダヤ教と旧約聖書
第 5 回	ユダヤ＝キリスト教史 (2)	民族宗教から世界宗教へ
第 6 回	古代・中世キリスト教 (1)	異教概念の成立
第 7 回	古代・中世キリスト教 (2)	教父の偶像崇拝批判
第 8 回	宗教改革と異教批判 (1)	宗教改革の歴史
第 9 回	宗教改革と異教批判 (2)	異教＝教皇制批判
第 10 回	宗教改革と異教批判 (3)	ウェーバーの脱魔術化論
第 11 回	宗教改革と異教批判 (4)	悪魔学の盛衰
第 12 回	新大陸と魂の征服 (1)	大航海時代と野生宗教の遭遇
第 13 回	新大陸と魂の征服 (2)	キリスト教普遍史の揺らぎ
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の参考文献・新聞記事を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿った文献があれば、次回までに目を通していただくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回プリント配布。

【参考書】

ジル・ケベル『宗教の復讐』晶文社、1992 年
ハルバルタル、マルガリート共著『偶像崇拝—その禁止のメカニズム』法政大学出版局、2007 年

木崎喜代治『信仰の運命—フランス・プロテスタントの歴史』岩波書店、1997年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】

出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考
えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質
問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も
考慮する。2つの試験（目安は中間 30%、期末 70%）の結果と出席等を考
慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

【Outline and objectives】

In the 21st century, as symbolized by the Western world and the Islamic world, the issue of friction and secularization among religions is getting political attention. In recent years, violence over religious values has become visible around the world, and it is becoming not an issue unrelated to us either. This course introduces the history of "the beliefs of others" in Western Europe to students taking this course, and the aim of course is to help students acquire knowledge to consider the religious problems of the international community from a broad perspective.

PHL200BB

宗教学 1（伝統宗教） 2

杉本 隆司

授業コード：A2252 | 曜日・時限：木曜 3 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教」批判の歴史的諸相の検討。春学期の授業に引き続き、「他者の信仰」や宗教寛容論等の現代的諸問題を異教問題として歴史的に考察する。秋学期では世俗権力と教会権力の政治力学も視野に入れながらルネサンスから啓蒙思想を経由して19世紀の宗教学の成立までを概観し、現代の政教分離の原則や近代国家と宗教の関係がどのように確立されたのかを学ぶ。

【到達目標】

宗教学の誕生は、19世紀のキリスト教神学から宗教学（科学）への転換によって特徴づけられる。これは、中世までのように「宗教」がいわば空気のごとく自明なものではなく、近代社会のなかで解決すべき一つの「問題」（クリティックの対象）として立ち現れたという認識の転換でもある。この授業ではおもに世俗的思想家たちの異教への視線や宗教観を通して、宗教学の成立と非宗教的な（ライックな）国民国家の形成を、キリスト教（教会権力）の相対化という長期的な視点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。春学期の授業では宗教の基本知識とキリスト教の成立から大航海時代までを扱い、聖書に基づく教父や神学者の異教批判を見てきました。しかし17世紀以降、異教問題は世俗的思想家や哲学者の宗教（不）寛容論へとその文脈を移動し、「宗教」批判の諸相として西欧思想の中心テーマの一つになります。この授業では、「他者の信仰」の問題を主に近代思想史の文脈から読み直し、19世紀に成立する宗教学や社会学がいかなる思想的背景から誕生したのかを思想家のテキストを通じて具体的に検討します（授業計画参照）。

学期の中盤に理解度を測るために中間小テストを行い、受講者全員に答案のフィードバックを行う予定です。

なお、この授業は春学期の「宗教学 1（伝統宗教）1」と連動しているため、本授業の履修を考えている学生は春学期授業と合わせて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期授業への導入
第 2 回	ルネサンスとユマニスム (1)	モアのユートピア宗教
第 3 回	ルネサンスとユマニスム (2)	新プラトン主義と合理主義神学
第 4 回	理神論と自然宗教 (1)	「異教徒の救い」とデカルト周辺
第 5 回	理神論と自然宗教 (2)	スピノザの汎神論
第 6 回	理神論と自然宗教 (3)	ロックの生得観念批判
第 7 回	啓蒙思想と宗教批判 (1)	フランス啓蒙の自然宗教論
第 8 回	啓蒙思想と宗教批判 (2)	ヒュームの理神論批判
第 9 回	啓蒙思想と宗教批判 (3)	ド・プロスのフェティシズム論
第 10 回	仏革命とロマン主義 (1)	革命宗教と非キリスト教化運動
第 11 回	仏革命とロマン主義 (2)	ドイツ・ロマン主義の宗教感情論
第 12 回	実証主義と人間の宗教 (1)	フォイエルバッハの人間学とコントの社会学
第 13 回	実証主義と人間の宗教 (2)	デュルケムと宗教学の制度化
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の参考文献を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回プリント配布。

【参考書】

ハンス・キッペンベルク『宗教史の発見—宗教学と近代』岩波書店、2005年
伊達聖伸『ライシテ、道徳、宗教学』勁草書房、2010年
宇野重規ほか『共和国か宗教か、それとも』白水社、2015年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】

出席を毎回確認します（欠席が過半数を超える場合は、期末試験の資格を失うので注意）。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。2つの試験（目安は中間 30 %、期末 70 %）の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical aspects of criticism of "religion". Continuing from the semester of the spring semester, this course deals with the historical issues such as "beliefs of others" and religious tolerance. In the autumn semester, while also considering the political dynamics between secular state and church authority, the goals of this course are to understand the current from the Renaissance through the enlightenment thought to the establishment of the science of religion of the 19th century, and to obtain basic knowledge about the principle of contemporary separation of church and state.

LIN200BB

ラテン語 1

金子 佳司

授業コード：A2268 | 曜日・時限：火曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語1では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。

古典ラテン語は紀元前1世紀から紀元後1世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語1では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2～3課分の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却します。

なお、教科書が少し進んだら、教科書以外の簡単な読み物を読んでみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	第1課・第2課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第2回	練習問題 1,2 第3課～第5課の説明	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第3回	練習問題 3,5,7 引用句 1 第6課～第8課の説明	名詞第二活用 (1) 形容詞第一、第二活用 (1) 動詞未完了過去形
第4回	練習問題 9,11,13 引用句 2,3 第9課～第11課の説明	名詞第二活用 (2) 形容詞第一、第二活用 (2) 動詞未来形
第5回	練習問題 15,17,19 引用句 4,5 第12課～第14課の説明	前置詞、所格 (locative)、eo の変化 不定詞、sum, possum の変化 i 音幹名詞
第6回	練習問題 21,23,25 引用句 6,7 第15課～第17課の説明	i 音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第7回	練習問題 27,29,31 引用句 8,9 第18課・第19課の説明	黙音幹名詞、混合幹名詞
第8回	練習問題 33,35 引用句 10 第20課・第21課の説明	動詞受動相（受動態） 流音幹鼻音幹名詞
第9回	練習問題 37,39 引用句 11,12 第22課・第23課の説明	s 音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第10回	練習問題 41,43 引用句 13,14 第24課・第25課の説明	動詞完了、過去完了、未来完了受動相（受動態） 動詞の主要部分、volo nolo ,malo の変化
第11回	練習問題 45,47 引用句 15 第26課・第27課の説明	名詞第四、第五活用 能動相（能動態）欠如動詞、fio, fero の変化
第12回	練習問題 49,51 引用句 16 第28課・第29課の説明	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第13回	練習問題 53,55 引用句 17,18 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第14回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、今年度は Hoppii を使った授業と並行して、GoogleClassroom を使って随時、動画を配信する予定です。なお、GoogleClassroom の使い方については Hoppii 上で案内します。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎行行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようしたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

LIN200BB

ラテン語2

金子 佳司

授業コード：A2269 | 曜日・時限：火曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語2では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語2はラテン語1とは独立した科目ですが、ラテン語1で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語2をとる場合は、できる限りラテン語1も受講してください。

古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語2では、ラテン語1で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2課分の文法を説明し、翌週それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行ってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却します。

なお、教科書がすべて終わったら、教科書以外の短い読み物を読んでみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	春学期の授業の復習 第30課・第31課の説明	動詞接続法現在形、未完了過去形、目的節で使われる接続法 人称代名詞
第2回	練習問題 57,59 引用句 19,20 第32課・第33課の説明	所有形容詞、強意代名詞 動詞接続法完了形、過去完了過去形、間接疑問文で使われる接続法
第3回	練習問題 61,63 引用句 21 第34課・第35課の説明	事実と反する仮定を表す条件文 仮想を表す条件文と予想を表す条件文
第4回	練習問題 65,67 引用句 22,23 第36課・第37課の説明	動詞完了不定詞、対格不定詞節 動詞未来不定詞
第5回	練習問題 67,69 引用句 24 第38課・第39課の説明	関係代名詞 非人称動詞
第6回	練習問題 73,75 第40課・第41課の説明	動詞現在分詞 動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す分詞
第7回	練習問題 77,79 文例 1 第42課・第43課の説明	パエドルスの寓話「人の欠点」を読む。 奪格の独立的用法 形容詞の比較級、最上級
第8回	練習問題 81,83 引用句 25,26 文例 2 第44課・第45課の説明	パエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。 形容詞の不規則な比較級、最上級 数詞
第9回	練習問題 85,87 第46課・第47課の説明	動名詞 動形容詞
第10回	文例 3 練習問題 89,91 引用句 27 第48課・第49課の説明	カエサル『ガリア戦記』を読む。 動名詞の代わりに用いられる動形容詞 動詞命令法
第11回	練習問題 93,95 文例 4,5 第50課・第51課の説明	キケロ『善と悪の究極について』を読む。 デカルト『省察』を読む。 能動相（能動態）欠如動詞の命令法、主文における接続法 目的分詞
第12回	練習問題 97,99 引用句 28,29 文例 6	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
第13回	読み物	ラテン語で書かれた読み物を読む。

第 14 回 理解度の確認

秋学期に扱った練習問題、引用句、文例、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

また、今年度は Hoppii を使った授業と並行して、GoogleClassroom を使って随時、動画を配信する予定です。なお、GoogleClassroom の使い方については Hoppii 上で案内します。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようになりたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

LIN200BB

ギリシア語 1

白根 裕里枝

授業コード：A2270 | 曜日・時限：木曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。課題はできるだけ添削をして返します。動画による解説も予定しています。

*前年度までの教科書（『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著、岩波書店）はオンラインで独習に近い形で学ぶには難しいので、今年度は教科書を下記のものに変えます。急速、プリントなどを用意する予定です。ハードですが易しいので、毎回 3 課ずつ進めば最後までできると思います。奇数の問題、偶数の問題だけでもよいので、付いてきてください。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文字を知る	1. 字母、発音、音韻の分類、氣息記号
第 2 回	文字の読み方	2. 音節、アクセント、句読点、語末音
第 3 回	動詞、名詞変化 1	3. 動詞現在形 4. 名詞 A 変化 1 5. 名詞 A 変化 2
第 4 回	動詞、名詞変化 2	6. 動詞未来形 7. 名詞 A 変化 3 8. 名詞 A 変化 4
第 5 回	動詞、名詞、形容詞の変化	9. 動詞、未完了過去 10. 名詞 O 変化 11. 形容詞変化（第一・第二変化）
第 6 回	前置詞と動詞の時制変化	12. 前置詞 13. 動詞アオリスト 14. 動詞完了形
第 7 回	指示代名詞、強意代名詞と動詞の人称語尾	15. 指示代名詞、強意代名詞 16. 本自称の人称語尾 17. 副自称の人称語尾

第 8 回	mi 動詞、動詞中動相と代名詞	18.mi 動詞 19. 疑問代名詞、不定代名詞
第 9 回	動詞中動相と代名詞	20. 動詞中動相 21. 人称代名詞 22. 動詞中動相 2
第 10 回	動詞と第三変化の名詞	23. 再帰代名詞その他 24. 動詞第 2 アオリスト 25. 動詞受動形 26. 第三変化の名詞 1
第 11 回	動詞と第三変化の名詞 2	27. 約音動詞 1 28. 第三変化の名詞 2 29. 約音動詞 2
第 12 回	動詞と第三変化の形容詞	30. 動詞完了形 2、中動相 31. 第三変化の形容詞 1 32. 流音幹動詞
第 13 回	動詞と第三変化の名詞 3	33. 第三変化の名詞 3 34. 動詞接続法 35. 接続法中・受動
第 14 回	条件文と約音動詞	36. 母音交替 37. 条件文 38. 約音動詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、2012

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシア語』堀川宏著、ベレ出版、2021

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。対面授業の場合は、毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席・課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %）。練習問題を訳せるように毎回準備して、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持ってほしい。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単です。練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

LIN200BB

ギリシア語 2

白根 裕里枝

授業コード：A2271 | 曜日・時限：木曜 5 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C.5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンボジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと想います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回「補助解説プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。課題はできるだけ添削をして返します。動画による解説も予定しています。

*前年度までの教科書（『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著、岩波書店）はオンラインで独習に近い形で学ぶには難しいので、今年度は教科書を下記のものに変えます。急速、プリントなどを用意する予定ですが、ハードですが易しいので、毎回 3 課ずつ進めば最後までできると思います。奇数の問題、偶数の問題だけでもよいので、付いてきてください。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	動詞、名詞変化の基礎
第 2 回	不定法と第三変化の名詞 4	39. 不定法 1 40. 不定法 2 41. 第三変化の名詞 4
第 3 回	関係代名詞と動詞の希求法	42. 関係代名詞 43. 動詞希求法 44. 動詞希求法 2
第 4 回	第三変化の形容詞、名詞、約音動詞	45. 第三変化の形容詞 2 46. 約音動詞の希求法 47. 第三変化の名詞 5
第 5 回	分詞、第三変化の名詞	48. 分詞 1 49. 分詞 2 50. 第三変化の名詞 6
第 6 回	分詞、形容詞の比較、希求法	51. 分詞 3 52. 形容詞の比較 53. 動詞希求法 2
第 7 回	形容詞、副詞の比較、条件文	54. 形容詞の比較 2 55. 条件文 2 56. 副詞の比較

第 8 回	命令法	57. 命令法 58. 命令法 2 59. 命令法 3
第 9 回	間接話法、動詞的形容詞	60. 間接話法 1 61. 間接話法 2 62. 動詞的形容詞
第 10 回	間接話法と否定詞、mi 動詞変化	63. 間接話法 3 64. 否定詞 65.mi 動詞変化 1
第 11 回	mi 動詞変化	66.mi 動詞変化 2 67.mi 動詞変化 3 68.mi 動詞変化 4
第 12 回	mi 動詞変化、格の用法	69.mi 動詞変化 5 70.mi 動詞変化 6 格の用法、冠詞について
第 13 回	まとめと復習 1	長文講読練習 1
第 14 回	まとめと復習 2	長文講読練習 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、練習問題の解答のための学習時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、2012

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシア語』堀川宏著、ベレ出版、2021

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。対面授業の場合は、毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席・課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %）。練習問題を訳せるように毎回準備して、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、意外にも、声を出して暗唱したり、変化を唱えるのも楽しらしい。オンラインの場合は制約もあるが、むしろ、じっくり取り組めたと思う。基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

LIT300BC

日本文芸批評史 A

川鍋 義一

授業コード：A2553 | 曜日・時限：金曜 4 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

批評だの評論だのというのは、一体、なんでしょう？ それは文学理論ともいべきものであり、表現理論であり、創作理論であり、読者の理論であり、作品論・作家論であり、場合によっては社会と人間のあり方を考察する政治論をも射程に入れます。

要するに鷗外の「小説といふものは何をどんな風に書いても好いものだ」ともじって、批評・評論というのは論理的な書き方をしてあれば何を書いてもよいものなのです。

ところが狭い意味での論理性などを無視した批評というものもあって、それが人の心を強く打つものだったりする。そうなると批評ってなんだと考えてみても、もう訳がわかりませんね。困ったものだ。

ということでこの授業では、たとえば「論理性って文学に必要なのか？」ということをお小林秀雄に聞いてみましょう。「文学って自分の体験したこともないことを描けるのか？」ということをお有島武郎と一緒に考えてみましょう。「文学は現実を写すことができるのか？」「文学って役に立つのか？」「文学は現実とどのように切り結ぶべきなのか？」……といろんな批評に聞いてみましょう。

そういった難問に向き合った先輩たちの真摯な態度が批評する態度であり、その著作をヒントにして難問と向き合うわたしたち自身の態度が批評であると言えるかもしれません。授業のテーマはそれらの難問に明確な答えを出すことではなく、わたしたち自身が思考する上でのヒントを得ることです。

上記テーマを達成するためには、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについての理解も必要になります。諸君はこれらの問題についても知識を身につけます。

【到達目標】

上記「授業の概要」の問題意識に沿って、文学とはなにか、表現とはなにかということ、論理的な側面から考えられるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は金曜 4 限に授業支援システム、Google Classroom などで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

文学史上に残る著名な批評を 1 本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないで大丈夫です）。これを 5 講（6 作品）で繰り返します。

以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。

また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。

春学期は『小説神髓』から大正末・昭和初期のいわゆる三派鼎立の状況（主に新感覚派）まで。

各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと予備知識	授業進行の説明と近代文学史理解のための予備知識
第 2 回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髓」（抄）：近代文学の言語
第 3 回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髓」（抄）：近代文学の内容
第 4 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：時代背景
第 5 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：読解
第 6 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：発展的考察
第 7 回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：リアリズムとはなにか

第 8 回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：発展的考察
第 9 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：文学史的背景
第 10 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：有島の文学理論
第 11 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：体験と文学
第 12 回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	文学史的背景
第 13 回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	横光利一作品読解および表現理論への発展的考察
第 14 回	試験まとめと解説	試験まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【明治・大正篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

※ 近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時間に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT300BC

日本文芸批評史 B

川鍋 義一

授業コード：A2555 | 曜日・時限：金曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「日本文芸批評史 A」と同様、先人たちの批評というたかいかから、わたしたち自身の考えるヒントを得ていきましょう。

秋学期は昭和初年から 1950 年代までの批評を読みます。

したがって、秋学期は春学期の問題意識に加え、もう一つ、戦争（第二次世界大戦）というテーマが加わります。戦争に突き進む時代に、文学者たちはどのように振る舞ったか。戦争中、権力とどのような距離をとったか。戦後、どのように新しい文学・思想を始めたか。

それらの時代に、文学者は流れに抵抗しようとしながらも、流れに棹さし、流れに飲み込まれ、密かに文学の孤塁を守り、あるいははとりかえしのつかないことをしてしまいました。

昨今単純で直線的で勇ましく、痛みを伴わない言説が幅を利かしています。わたしたちはそういう時流といかに向き合うか。そのヒントを得たいと考えます。

秋学期の授業では、諸君は「政治と文学」という、近現代文学の難問をいろんな局面で自らの課題として考えることが要求されます。

【到達目標】

上記「授業の概要」の内容を達成することは、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについて理解することです。これらの問題について、知識を身につけることを諸君の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は金曜4限に授業支援システム、Google Classroomなどで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

文学史上に残る著名な批評を1本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを4講（8作品）で繰り返します。

以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。

また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。

秋学期は三派鼎立のうちプロレタリア文学の理論と、その批判者であった小林秀雄から始めて、吉本隆明までを読みます。

各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリアリズムへの道」	マルクス主義とはどういうものか
第 2 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリアリズムへの道」	文学史的背景および蔵原文読解
第 3 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々な意匠」	印象批評とはなにか
第 4 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々な意匠」	小林文読解
第 5 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 6 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について

第7回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「墮落論」	無頼派の戦中・戦後
第8回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「墮落論」	その文学史・思想上の意義
第9回	戦後左翼の分岐点 小田切秀雄「文学における戦争責任の追求」	『新日本文学』について
第10回	戦後左翼の分岐点 平野謙「政治と文学」	『近代文学』について
第11回	戦後左翼の分岐点 平野謙「政治と文学」論争	「政治と文学」
第12回	『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」(抄) 吉本隆明「転向論」	本多文読解
第13回	『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」(抄) 吉本隆明「転向論」	吉本文読解
第14回	秋学期総括	秋学期総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【昭和篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

- ※ 近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。
- ※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。
- ※ メール（大学のアカウント）は、頻りにチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
- ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT200BC

中国文芸史 A

長谷川 真史

授業コード：A2561 | 曜日・時限：金曜2限

春学期・2単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本に強い影響を及ぼした中国古典（特に漢詩）を毎回取り上げ、中国文学がどのように日本に流入し、日本がどのようにそれらを吸収し自国の文化に取り入れていったかを、文学作品の鑑賞を通して紹介する。また、原文とその注釈を読解しながら、漢字・漢語・語法・修辞などに関する基礎的な事柄を確認する。

【到達目標】

中国古典文学（詩・韻文・散文、日本漢文を含む）の語法を知り、読解能力を高めることを目標とする。また、文学作品の鑑賞を通して、アジア漢字文化圏に生きる一員として必要不可欠「教養」を身につけ、日本文化・日本文学との関わりから、現在に生きる中国古典の有りようについての「問い」をもち、考える端緒を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は ZOOM によるオンライン授業を予定している。（リアルタイム配信）状況に応じてオンラインと対面を切り替える場合もある。基本的に講義形式で授業を行い、随時レポート課題を出す。中間レポートについては授業時間内に全体でリフレクションを行う。期末レポートについては個別に総評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（教養としての漢詩）	漢詩の基礎知識（漢字の中古音と平仄）についての概説
第2回	「詩」の源流について	『詩経』とその注釈・翻訳についての概説
第3回	近体詩と古体詩について	陶淵明「飲酒」解説：古詩の解説
第4回	近体詩について①	杜牧「江南春」解説：絶句の規則についての概説
第5回	近体詩について②	杜甫「春望」解説：律詩の規則についての概説
第6回	対句の構造について	杜甫「登高」解説：全対格についての概説
第7回	中間レポートガイドライン解説	レポート「漢詩をつくろう」：漢詩作成キットの解説
第8回	楽府について	李白「子夜呉歌」「秋浦歌」解説：古楽府と新楽府についての概説
第9回	版本とテキスト	李白「静夜思」解説：異同と校勘についての概説
第10回	日本文学との関わり①	白居易「香炉峰」詩解説：『白氏文集』と平安文学についての概説
第11回	日本文学との関わり②	菅原道真「不出門」解説：平安知識人と漢文についての概説
第12回	期末レポートガイドライン解説	中国古典学のレファレンスとリテラシーについての概説とレポート作成についての解説
第13回	漢詩と日本人①	明治時代の文学者と漢詩についての概説
第14回	漢詩と日本人②	井伏鱒二の翻訳詩についての概説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスに記載した事項や書籍、文学作品について下調べをして「問い」をもって講義に臨むことが望ましい。分からない言葉については辞書で調べること。人名や地名などについてはインターネット等を利用して調べてもよい。授業前後、各3時間程度の準備・復習時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。（適宜資料を配布する。）

【参考書】

【研究書】松浦友久『校注唐詩鑑賞辞典』（大修館書店）、松枝茂夫『中国名詩選』上中下（岩波文庫）興膳宏『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）【辞書類】『大漢和辞典』（大修館書店）、『学研漢和辞典』（学研研究社）は図書館で利用。所持用としては『新字源』（角川書店）、『漢字源』（学研研究社）、『漢字海』（三省堂）。電子辞書も可。これ以外については授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、授業の出席（30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。
漢和辞典（電子辞書も可）を手元においておくことよ。

【その他の重要事項】

出席を重視する。事故、病気などやむを得ない事情は考慮する。公欠、やむを得ず欠席する場合などは事後報告でも構わないので、証明書類等を提出すること。
全授業回数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末レポートを認めない。

【Outline and objectives】

Lecture on Chinese classics that had a strong influence on Japan, introduce how Chinese literature flowed into Japan and how Japan absorbed them and incorporated them into their own culture. Also, while reading the original text and its annotations, check the basic matters related to kanji, grammar, rhetoric, etc.

LIT200BC

中国文芸史 B

長谷川 真史

授業コード：A2563 | 曜日・時限：金曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国古典の文章を題材として、原文を読解しながら、漢字・漢語・語法・修辞などに関してより高度な事柄を確認する。また、古抄本をテキストとして利用することで、テキストクリティックやリテラシー、レファレンス事項についても学習していく。さらに、典故となる経書・史書も読み込むことで、背景となる思想や社会文化についても深く掘り下げ、作品を中国文学史の観点から立体的に確認していく。

【到達目標】

中国古典文学の語法を深く理解し、読解能力をより高めることを目標とする。また、中国文学研究に必要とされる作業として、原文に当たって根拠と自信をもって読み込むことができるようになることが狙いである。加えて、より高度な専門的知識として、リテラシーやレファレンス能力を習得し、自ら問いをもって研究調査を行っていくための基盤をつくることも視野に入れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ZOOMによるオンライン授業を予定している（リアルタイム配信）が、状況によって対面に切り替える。

基本的に講義形式で授業を進め、随時レポート課題を出す。

レポートは授業時間内に全体でリフレクションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中唐文学における「尤物」論の展開と白居易「長恨歌」「李夫人」の版本及び旧抄本についての概説
第2回	陳鴻「長恨歌伝」読解①	『管見抄』本「長恨歌伝」及び「長恨歌」の概説
第3回	陳鴻「長恨歌伝」読解②	「長恨歌」制作の由来についての概説
第4回	白居易「李夫人」読解①	神田本『白氏文集』「新楽府」についての概説
第5回	白居易「李夫人」読解②	漢武帝と李夫人の「愛と死」についての概説
第6回	白居易「李夫人」読解③	『漢書』郊記志・外戚伝との関係についての概説
第7回	白居易「李夫人」読解④	「新楽府」の創作意図についての概説
第8回	『漢書』外戚伝読解①	李夫人の入内の場面についての解説
第9回	『漢書』外戚伝読解②	李夫人の死の場面についての解説
第10回	『漢書』外戚伝読解③	李夫人反魂の場面についての解説
第11回	期末レポートのガイドライン解説	中国古典文学のレファレンス、リテラシーについての概説、レポート作成についての解説
第12回	『春秋左氏伝』における尤物①	叔向とその母のいさかいの場面についての解説
第13回	『春秋左氏伝』における尤物②	叔向の母の「尤物」論についての解説
第14回	『春秋左氏伝』における尤物③	叔向の結婚とその結末についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 難解な語句は必ず辞書で調べる。手元の辞書で見つからない場合、『大漢和辞典』等で調べる。『大漢和』は「索引」と「語彙索引」とがあり、よみで調べるができる。

(2) 人名、地名など固有名詞はインターネットなどでもよいので確認する。

(3) 訓読・現代日本語訳する。

(4) 内容について考察する。

(1)(2)は最低限調べ、ひと通り訓読した上で授業に臨むことが望ましい。授業前後含め、各3時間程度の準備・復習時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。(適宜資料を配布する。)

【参考書】

【研究書】近藤春雄『新楽府・秦中吟の研究』（明治書院）、岡村繁（新釈漢文大系）『白氏文集』シリーズ（明治書院）、川合康三『白楽天詩選』上下（岩波文庫）

【辞書類】『大漢和辞典』（大修館書店）、『学研漢和辞典』（学習研究社）は図書館で利用。所持用としては『新字源』（角川書店）、『漢字源』（学習研究社）、『漢字海』（三省堂）。電子辞書も可。
これ以外については授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、授業の出席（30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。
漢和辞典（電子辞書も可）を手元に用意しておくことよ。

【その他の重要事項】

成績評価については、出席を重視する。やむをえない事情で欠席する場合は事前か事後に必ず報告する。事故、病気などやむを得ない事情は考慮する。全授業回数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出を認めない。

【Outline and objectives】

While reading the original text based on classical Chinese texts, check more advanced matters regarding kanji, grammar, rhetoric, etc. Also, learn about text critique, literacy, and reference, furthermore, by reading the allusions and historical books, deeply understand the underlying ideas and social culture, and confirm the work from the perspective of Chinese literary history.

LIT200BC

日本文学研究特講（2）中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火曜 5限

春学期・2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『源氏物語』という主人公である光源氏の物語というイメージが強いですが、光源氏の死後の次世代のことを描く続編では、まったく異なるタイプの主人公・薫が登場します。薫は光源氏の子として育てられましたが、実は密通の結果生まれた子であり、そうした出生の秘密を負っているため厭世的で、恋にも後ろ向きという特異な設定となっています。そんな薫が没落皇族の八宮の三人の娘たちと出会い、次々にその恋を失っていくというのが宇治十帖の顛末になりますが、中でもその最後の相手である浮舟との関係の中で、薫の人物像にも変容が見られ、物語についての理解を一層複雑なものにしています。

この授業では、この薫という人物に照準を当てながら続編の物語を宇治十帖を中心に読み進めていきます。具体的には薫と八宮の姫君たちとが関わる場面を取り上げ、その人物像についての考察を行います。この薫の造型がその後の平安時代の物語の主人公像に強い影響を与えたと指摘されていますが、それは当時の読者には薫が人気だったことを意味しています。現代では薫像への受け止め方は平安期とはかなり異なっているようですが、こうした薫像の享受のあり方についても触れていきます。続編の物語世界を味わい、その表現についての理解を深め、かつこの物語が後世に与えた影響についても考えていきます。*なお授業の形態については、教室授業とオンライン授業を交互に行う予定ですが、今後変更する場合があります。変更の場合は授業内掲示板等で通知します。

【到達目標】

- ①『源氏物語』の原文に触れてその内容を精読することで、古典作品についての知識を深め、また古典や古語ならではの表現の魅力や意義を自ら見出す。
- ②『源氏物語』が後世の物語に与えた影響について考えることで、文学史における『源氏物語』の位地やその達成についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義形式です。なお授業の形態については、教室授業とオンライン授業を交互に行う予定です。ただし状況により今後変更する場合があります。変更の場合は授業内掲示板等で通知します。

・また理解度をはかるためにリアクションペーパーを毎時間作成し提出してもらいます。教室講義の次の週のオンライン授業において（すなわち隔週で）、リアクションペーパーをいくつか取り上げ、意見紹介や質問に対する解答を行うことで、全体に対してのフィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業方法や内容などについてのガイダンスを行います。また『源氏物語』正篇の物語の世界を概観し、人物関係やテーマの継承などについても見ていきます。

- 第2回 フォローアップ／源氏物語』続篇の世界—主人公・薫についての概観（オンライン講義） 前回のリアクションペーパー解説と第一回に続き正篇の物語世界から続篇の物語への継承ということを考えつつ、第三部の主人公・薫の造型の特異性について見ていきます。
- 第3回 薫と薫と大君①（教室講義） 薫と没落皇族である八の宮の娘・大君との出会いについて見ていきます。
- 第4回 フォローアップ／薫と大君②（オンライン講義） 前回のリアクションペーパー解説／八宮亡き後、その娘である大君への恋愛感情をたかぶらせていく薫の様子を見ていきます。
- 第5回 薫と大君③（教室講義） 薫と大君とのすれ違いについて見ていきます。
- 第6回 フォローアップ／薫と大君④ 前回のリアクションペーパー解説／薫の思いと薫を拒否したまま死に向かう大君の複雑な心情を読み解いていきます。
- 第7回 薫と大君④（教室講義） 大君の死の場面を中心に読み、薫の悲しみについて考えます。
- 第8回 フォローアップ／薫と中君・浮舟①（オンライン講義） 前回のリアクションペーパー解説／薫が、大君の妹である中君に思いを寄せていく様相を確認していきます。また大君の身代わりとして登場してきた浮舟に対する薫の態度や反応を描いた場面を精読していきます。
- 第9回 薫と浮舟② 薫と浮舟とのすれ、そして匂宮が浮舟と関係を持つことで勃発した三角関係について考えていきます。
- 第10回 フォローアップ／薫と浮舟③ 前回のリアクションペーパー解説／苦悩し入水しようとして追い詰められていく浮舟の心情と、浮舟に対する薫の反応を見ていきます。
- 第11回 薫と浮舟④（教室講義） 浮舟失踪後の薫と匂宮の反応や横川僧都一行に助け出された浮舟のその後を見ていきます。
- 第12回 フォローアップ／薫と浮舟⑤ 前回のリアクションペーパー解説／浮舟の生存を知った薫の反応について見ていきます。
- 第13回 薫像の享受について 後世の作品での薫評や薫型の主人公が登場する作品などについて紹介します。
- 第14回 フォローアップ／全体のまとめと確認 前回のリアクションペーパー解説／授業全体を振り返ってのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として各授業前に、授業で取り上げる箇所に至る迄の展開などを確認しておいてください。またその際に各巻の概容や年立上の位置、登場人物の人間関係や年齢などの確認をしておき、授業内容の理解につなげていってください。また授業後は授業内容を確認し、物語への理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に講師作成のプリントを配布します。

【参考書】

中野幸一編『新装版 常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院 2012）、秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館 1997 初版）、林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房 2002）、秋山虔・三田村雅子『源氏物語を読み解く』（小学館 2003）など。またさまざまな新書版での入門書もあります。原文で読みたい人には、角川ソフィア文庫や岩波文庫などのものが入手しやすいと思います。なお風俗博物館（京都）のサイトは、平安時代の風俗や年中行事を知る上で非常にわかりやすく参考になります。<http://www.iz2.or.jp/>

【成績評価の方法と基準】

授業時作成するコメントシートによる評価（70%）と期末レポートにおける評価（30%）とを合算して成績をつけます。なお評価方法については、前者は授業の到達目標①の達成度を、後者は到達目標の①と②をそれぞれ50%ずつの配分にしてその達成度を計り評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間内に一つのテーマがまとまるように時間配分に留意します。分かりやすくめりはりのついた授業になるよう心がけます。

【Outline and objectives】

In this class, we'll read "The Tale of Genji" focusing Kaoru who is the main character of Uzi Zyuzyo (宇治十帖) – the second half of the story. Kaoru has a secret birth and has a complex personality. Therefore Kaoru was misanthropic and timid in love. Kaoru wants to be a priest and continues to sway with religious spirit and love, resulting in loss of love one after another. Such a hero image is the exact opposite of Hikaru Genji or a typical hero image of the story so far. Why did the story need such a hero image? Also, how was such a hero image accepted in posterity? We need to consider such issues through the analysis of the story or knowing oh the reception of "The Tale of Genji".

LIT200BC

日本文学研究特講（2）中古B

加藤 昌嘉

授業コード：A2662 | 曜日・時限：火曜 5 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆秋学期「特講（2）中古B」のテーマは、《密通と性愛の物語史》です。

◆中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）の物語や日記を対象とし、《姦通》や《性》にスポットを当て、各作品の作劇法や当時の文化などを、多角的に考察してゆきます。

【到達目標】

◆A、物語の仕掛け・作劇法を、客観的に分析する力を養う。
◆B、中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）の制度や文化を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

◆毎回、プリントを配布して講義を行います。
◆受講者のみなさんが書いた質問・アイデアなどは、授業内で紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	シェイクスピアもフ ローベールも、	世界文学の中心は《姦通》と《性》
2	『伊勢物語』『源氏物 語』	天皇の后が密通して子どもが出来る
3	『源氏物語』	これはベッドシーン？
4	『蜻蛉日記』『源氏物 語』	「一夫多妻制」では、ない！
5	『とりかへばや物語』 と『とりかえ・ばや』	男装／女装、入れ替わり
6	『有明けの別れ』『新蔵 人』	男装する女たち
7	『我が身にたどる姫君』	同性どうしの愛／女帝
8	『紫式部日記』	女目線／男目線
9	『台記』『石清水物語』	同性どうしの愛
10	『風に紅葉』	少年を愛でる
11	課題発表	《最終課題》のテーマ（選択肢5 つほど）を発表
12	『とはずがたり』と 『後宮』	複数の男との関係
13	『今昔物語集』巻 29 第 3 話	むちで打つ
14	『日本霊異記』下 18、 中 13	まら・つび／愛欲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆授業で取り上げられた作品のうち、面白そうだったものを、ぜひ、入手して読んでみてください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

◆毎回、プリントを配布します。
◆各作品のテキスト（原文・注釈書・現代語訳）は、授業内で紹介します。

【参考書】

- ◆授業内容と関わる入門書・解説書を挙げます。面白そうだなと思うものを、書店や図書館で手に取って見てみてください。
- ◎田中貴子&田中圭一『セクシイ古文』（メディアファクトリー新書）
- ◎大塚ひかり『本当はエロかった昔の日本』（新潮文庫）
- ◎林望『古典文学の秘密―「本当はとてめえっちな古典文学」改題―』（光文社文庫）
- ◎工藤重矩『源氏物語の結婚―平安朝の婚姻制度と恋愛譚―』（中公新書）
- ◎神田龍身『物語文学、その解体』（有精堂）
- ◎伊藤比呂美ほか『作家と楽しむ古典』（河出書房新社）
- ◎板坂則子『江戸時代恋愛事情―若衆の恋、町娘の恋―』（朝日選書）
- ◎日本歴史編集委員会編『恋する日本史』（吉川弘文館）
- ◎ゲイリー・P・リュープ／藤田真利子訳『男色の日本史』（作品社）
- ◎中村隆文『男女交際進化論「情交」か「肉交」か』（集英社新書）
- ◎喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

◆授業で扱った作品のうち幾つかを読んだ上で、2000字程度の《最終課題》を書いてもらいます（86%）。5つほどテーマを挙げます → 1つを選択してもらいます。

◆毎回、リアクションペーパー（質問・情報などを自由に書く用紙）を提出してもらいます（14%）

【学生の意見等からの気づき】

◆受講者のみなさんからもらったリアクションペーパー（質問・情報・体験談など）をもとに、授業内容を膨らませてゆきます。

◆中古・中世の文学を考察する際、比較対照として、現代の小説・映画・漫画などを積極的に取り挙げます。

【Outline and objectives】

This course deals with love affairs and adulterous relationships in the Japanese classics(8c-13c).

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世A

小秋元 段

授業コード：A2665 | 曜日・時限：土曜 1 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『平家物語』を読む。

『平家物語』は日本文学に入ったからには、絶対に読んでおきたい偉大な古典である。この授業を通じて『平家物語』に接し、その作品を深く理解してみよう。

【到達目標】

1. 『平家物語』を原文で読み、その内容（虚構性や表現の特徴等）を理解し、それを説明する力を身につける。
2. 中世の文学と歴史・思想・文化全体への理解を養い、そこから『平家物語』に描かれた諸事象を共時的に理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、一つの章段をとりあげ、原文を朗読し、その内容を解説する。そして、歴史・思想・文化的背景を説明しながら、『平家物語』の叙述の特徴を指摘する。なお、講義は「法政大学オンデマンドシステム」を通じて動画配信するかたちで進めるほか、対面もしくは Zoom による授業を 3 回とりいれる（実施日は「学習支援システム」で通知する）。各回の受講後、「学習支援システム」を通じて 100～200 字程度のコメントを提出してもらう（3/29 追記：コメントの提出回数は、履修者数により変更する場合がある。「学習支援システム」を通じて通知する）。そこで出された質問への回答は、個別に行うほか、内容によっては Zoom 授業で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『平家物語』に触れよう	巻一「祇園精舎」の講読し、『平家物語』の世界に触れる。
第 2 回	『平家物語』概説	『平家物語』のあらすじ、成立、作者に関して講義する。
第 3 回	平家の繁栄～巻 1「殿下乗合」～	巻 1「殿下乗合」を講読し、平清盛・重盛父子の人物造形の特徴を中心に講義する。
第 4 回	院近臣の策謀～巻 1「鹿谷」～	巻 1「鹿谷」を講読し、政治的事件を描く作者の方法を中心に講義する。
第 5 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 1～4 回の質疑応答。
第 6 回	俊寛の悲劇～巻 3「足摺」～	巻 3「足摺」を講読し、悲劇を描く作者の方法を中心に講義する。
第 7 回	以仁王の変の発端～巻 4「競」～	巻 4「競」「橋合戦」を講読し、「いくさ語り」と『平家物語』の関係を中心に講義する。
第 8 回	清盛の死～巻 6「入道死去」～	巻 6「入道死去」を講読し、清盛の死の物語と浄土思想の関係を中心に講義する。
第 9 回	平家の都落ち～巻 7「忠教都落」～	巻 7「忠教都落」、巻 8「猫間」を講読し、『平家物語』における人物造形を中心に講義する。
第 10 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 6～9 回の質疑応答。
第 11 回	一谷の悲劇～巻 9「敦盛最期」～	巻 9「敦盛最期」を講読し、「父子の恩愛」の造形を中心に講義する。
第 12 回	扇的～巻 11「那須与一」～	巻 11「那須与一」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第 13 回	平家滅亡～巻 11「先帝身投」「能登殿最期」～	巻 11「先帝身投」「能登殿最期」「大臣殿被斬」を講読し、平宗盛・知盛の役割を中心に講義する。
第 14 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 10～13 回の質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげる本文は、『平家物語』のうちの一部に過ぎない。授業で触れられない章段について、各自、読み進めておいてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

新潮日本古典集成、水原一校注『平家物語』上・中・下（新潮社、1979～81 年）

新日本古典文学大系、梶原正昭・山下裕明校注『平家物語』上・下（岩波書店、1991・93 年）

新編日本古典文学全集、市古貞次校注・訳『平家物語』上・下（小学館、1994 年）

三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』（三弥井書店、1993・2000 年）

大津雄一ほか編『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）

王新禧訳『全訳平家物語』（上海訳文出版社、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

コメントカード 50 %、学期末レポート 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、質問に対しては全て個別に回答してきましたが、コメントについても

できるかぎり返信できるよう努力します。

【Outline and objectives】

In this course, we will read Heike-Monogatari.

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世B

小秋元 段

授業コード：A2666 | 曜日・時限：土曜1限
秋学期・2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世の説話と和歌

日本文学の歴史を深く理解するために、この授業では中世の説話と和歌について講義する。そこから中世文学の特徴について実感し、日本文学史を俯瞰する目を養うことを目的とする。

【到達目標】

1. 中世文学の歴史を理解し、それを説明する力を身につける。
2. 説話と和歌を原文で読み、その内容や特徴を理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎時間、作品の解説（基本的な事項の説明）と本文の解釈を中心に行う。

第1～4回、第6～9回、第11～13回は「法政大学オンデマンドシステム」を通じて動画を配信する。第5・10・14回は対面もしくはZoomを使用し、授業を行う（実施日は「学習支援システム」通知する）。各回の受講後、「学習支援システム」を通じて100～200字程度のコメントを提出してもらう。そこで出された質問への回答は、個別に行うほか、内容によってはZoom授業で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	中世とはいかなる時代か	中世、および中世文学の特徴について解説。
第2回	『今昔物語集』	『今昔物語集』の解説・講読。
第3回	『宇治拾遺物語』	『宇治拾遺物語』の講読。
第4回	説話と絵巻	『宇治拾遺物語』講読、『伴大納言絵詞』の鑑賞。
第5回	質疑応答【対面もしくはZoom】	第1～4回の質疑応答。
第6回	『江談抄』と『十訓抄』	『江談抄』『十訓抄』の解説・講読。
第7回	『古今著聞集』	『古今著聞集』の解説・講読。
第8回	『宝物集』	『宝物集』の解説・講読。
第9回	『発心集』	『発心集』の解説・講読。
第10回	質疑応答【対面もしくはZoom】	第6～9回の質疑応答。
第11回	和歌の基礎知識	勅撰和歌集についての解説。
第12回	『新古今和歌集』	『新古今和歌集』の解説・講読。
第13回	中世和歌の世界	『玉葉和歌集』『風雅和歌集』の解説・講読。
第14回	質疑応答【対面もしくはZoom】	第11～13回の質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校の国語（古文）の授業で行われた文学史や古典文法の内容を理解することを前提に講義を進める。その理解に自信のない学生は、個々に自習することを望む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

『日本古典文学大辞典』全6巻（岩波書店、1983～85年）
『日本古典文学大事典』（明治書院、1998年）
小山弘志編『日本文学新史〈中世〉』（至文堂、1990年）

【成績評価の方法と基準】

毎時のコメントカード……30%
期末レポート……70%

【学生の意見等からの気づき】

出された質問については必ず回答していますが、コメントについてもできるだけ返信するように努力します。

【Outline and objectives】

In this course, we will read Setsuwa and Waka.

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世A

眞島 望

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火曜2限
春学期・2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世文学のみならず、本邦の古典を代表する詩人たる芭蕉。その手になる『おくのほそ道』の読解を手がかりに、日本文学の潮流の一つである紀行文学や地誌への理解を深めるとともに、江戸時代の新興文芸である俳諧の特質と、そこに底流する和歌・謡曲をはじめとする日本文化のエッセンス、特に名所や歌枕の概念を学ぶ。また、その主な経路となった東北地方の歴史的な位置づけについて知ることを通して、東国文化の特質や「日本」とはいかなる文化なのかを考える。

【到達目標】

1. 紀行文学や地誌の歴史や、他の散文・韻文文芸との関係を理解する。
2. 俳諧という文芸の特質や、その代表者の一人である芭蕉の生涯とその芸術について理解する。
3. 『おくのほそ道』の文学作品としての特色を説明できるようになる。
4. 我々も現在その一部に属している東（あずま）という土地の歴史性に興味をもち、そのことについて自分なりの意見を述べるができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

主に質疑応答を含めた講義形式（適宜資料を配付する）で進めるが、必要に応じて討論や作業（授業内課題など）も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概説	授業の概要の説明 芭蕉の画像としてのイメージに触れる。
第2回	俳諧の歴史と展開	俳諧文芸の史的展開と、そこに芭蕉がいかに位置付けられるかを知る。
第3回	俳人芭蕉の生涯①	芭蕉の前半生について解説し、その作品（談林時代）を鑑賞する。
第4回	俳人芭蕉の生涯②	芭蕉の後半生について解説し、その作品（漢詩文調～蕉風開眼以後）を鑑賞して、俳風の変遷を学ぶ。
第5回	『おくのほそ道』の諸本とその形態	『おくのほそ道』の諸本とその関係を確認し、紀行文としての特色を知る。
第6回	読解①（発端・出立）	旅の目的となっている歌枕とは何かを知る。
第7回	読解②（第一夜）	江戸時代の「日本」認識と「東国」・「奥羽」の歴史とイメージを知る。
第8回	読解③（室の八鳥）	歌枕「室の八鳥」の変遷とその背景に見える当地の歴史を学ぶ。
第9回	読解④（日光1）	能・謡曲からの影響と、「東国」の聖地としての日光の歴史を学ぶ。
第10回	読解⑤（日光2）	同行者である曾良の経歴と謎の多い半生について知り、日光との関わりを探る。
第11回	読解⑥（白河の関）	歌枕「白河の関」の和歌における本意を学び、本文に見える芭蕉の作意を知る。
第12回	読解⑦（壺の碑）	東北各藩の歌枕に対する眼差しと、「壺の碑」の来訪で芭蕉が得た芸術理論について知る。
第13回	読解⑨（平泉1）	平泉の古戦場としての歴史を知り、芭蕉の歴史観を考察する。
第14回	読解⑩（平泉2）・全体のまとめ	後半部を中心に、不易流行論との関係を主題に読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に『おくのほそ道』全文を読み通しておくこと。また、毎授業前に該当箇所の本文・語釈・現代語訳などを確認しておく。授業後には、配布資料や板書事項を中心に復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

頼原退蔵・尾形仿訳注『新版おくのほそ道』〈角川ソフィア文庫〉（角川書店、2003年3月）¥760
※同出版社・同レーベルの「ビギナーズ・クラシックス」版は避けて下さい（内容に差異があります）。

【参考書】

阿部喜三男・久富哲雄著『増訂版 詳考奥の細道』（日栄社、1979年11月）
堀切実編『『おくのほそ道』解釈事典』（東京堂出版、2003年7月）
上野洋三・櫻井武次郎校注『芭蕉自筆 奥の細道』（岩波文庫）（2017年7月）
※そのほか多数。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%・小テスト 30%・平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

学生のコメントに対するフィードバックが充分に行えなかった反省を踏まえ、できる限りきめ細かい対応を目指したいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students will understand the art of "Haikai" that was new style poetry in the Edo period, and the essence of Japanese traditional culture by reading famous travel literature "Oku no Hosomichi" written by Matsuo Basho. And, students will learn the historical background of the Tohoku Region in Japan.

For that purpose, it is necessary to come into contact with the classical texts of Japan and China, for example, 31-syllable Japanese poems, Noh songs, or Chinese poetry, because "Oku no Hosomichi" is based on a lot of the different classics.

LIT200BC

日本文学研究特講（4）近世B

小林 ふみ子

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火曜 2限

秋学期・2単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸っ子の笑いと機知を読み解く。

18世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。その笑いと機知を読み解きながら、語彙や文体における近世文芸の表現の多様性を考える。

【到達目標】

1. 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
2. うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の笑いの技法に親しむ。
3. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
4. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1～3回で1ジャンルを学ぶ。

提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。

100分を個人での課題への取り組み、グループでの共有、講義などを織りまぜて構成する。発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

戯作の発想方法を理解するために、創作にもチャレンジする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入 時代背景	クラスの人を知る。 江戸っ子の時代概説
第2回	短詩系文学① 黄表紙の奇想①	川柳のうがちに触れる。 デジタル資料から黄表紙の特徴を探る。 子ども絵本の荒唐無稽さを逆手にとって戯れた黄表紙を理解する。
第3回	黄表紙の奇想②	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－上
第4回	黄表紙の奇想③	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－下 浮世絵の利用法を知る。
第5回	見立絵本のしかけ①	見立ての概念と見立て絵本を知る。
第6回	見立絵本のしかけ②	江戸時代の妖怪文化を知る。 見立絵本『画本纂怪興』を読み解く。
第7回	短詩系文学②	辞書や辞典を駆使しながら、狂歌を読解する
第8回	滑稽本の表現力①	物真似のような口語体を駆使して笑いを追求した滑稽本の概説
第9回	滑稽本の表現力②	「敦盛最期」を当世化して遊ぶ式亭三馬『大千世界楽屋探』の読解
第10回	滑稽本の表現力③	三馬『大千世界楽屋探』の読解とまとめ
第11回	合巻の情緒①	デジタル展示（メトロポリタン美術館の源氏物語展）より、江戸時代の源氏物語享受のさまを探る
第12回	合巻の情緒②	『源氏物語』の江戸時代版『修紫田舎源氏』を読み解く－上
第13回	合巻の情緒③	『源氏物語』の江戸時代版『修紫田舎源氏』を読み解く－下
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとの小課題を出します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供し、参照すべきURLを提示します。

【参考書】

小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル [インターナショナル新書]、2019）

黄表紙について、見立絵本についてのまとまった解説があります（とくに見立絵本はこの授業で扱う作品を解説しています）ので、参照すると課題にとりくむにあたって役立つでしょう。

【成績評価の方法と基準】

毎回のふり返り（Hoppii40 %）、計 4 回の課題の得点（60 %）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの読解と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面とオンライン（双方向）併用を想定しての実施です。デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意しましょう。図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。（授業内で接続方法は案内します）

【その他の重要事項】

質問は Hoppii に提出してもらって各回の感想、および Hoppii の掲示板で受け付けます。

【Outline and objectives】

Reading and analyzing the comic works from the late 18th century Edo(now Tokyo) to know diversity of literary style, vocabulary and expressions in those works.

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に 2 つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人 3 人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三 (1861-1930) *Representative Men of Japan* (代表的日本人、1908。 *Japan and the Japanese* [1894] の改訂版)。
・新渡戸稲造 (1862-1933) *Bushido: The Soul of Japan* (武士道、1900)。
・岡倉天心 (1862-1913) *The Book of Tea* (茶の本、1906)。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 5・9・13 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1～3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回アクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第 2 回	「(国際) 日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第 3 回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備 (続)
第 4 回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学
第 5 回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 6 回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第 7 回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第 8 回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第 9 回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 10 回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第 11 回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第 12 回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第 13 回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 14 回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウエイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 5・9・13 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第 6 回 テキスト pp. 10-17

第 7 回 テキスト pp. 18-23

第 8 回 テキスト pp. 64-69、70-77

第 14 回 テキスト pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ゴンチャロフからバンクまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35 %）、プレゼンテーションと議論への参加度（25 %）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40 %）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】

This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Students give presentations (3 sessions in total) on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

LIT300BC

日本文学研究特講（15）国際日本学 B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀、1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960 年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で 20 世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に 1960 年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 5・9・12 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1～3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたりアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第 2 回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第 3 回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第 4 回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第 5 回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第 5 章 “Debtor to the Ages and the World” と第 6 章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第 6 回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第 7 回	60～70 年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第 8 回	日本人論の特徴	プレゼンテーションと討論 第 7 章 “The Repayment Hardest to Bear” と第 8 章 “Clearing One's Name”
第 9 回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第 10 回	翻訳の可能性	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保 ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第 11 回	日本人論、日本文化論への批判①	プレゼンテーションと討論 第 10 章 “The Dilemma of Virtue”
第 12 回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	デールの「恥の文化の恥」論
第 13 回	日本人論、日本文化論への批判②	
第 14 回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 5・9・12 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第 2 回 テキスト pp. 182-187

第 6 回 テキスト pp. 214-219、266-271

第7回 テキスト pp. 248-253

第11回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

青木保『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

『菊と刀』の内容検討に当てる授業数を増やしました。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】

This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict's *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict's book, students give presentations (3 sessions in total) on Benedict's discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the *Nihonjinron* (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

LIN100BD

英語学概論A

椎名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：火曜 3 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいと思います。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始は4月13日です。一回目はリモートです。テキストはそれまでに自分で生協にて買っておいください。毎週 HOPPII「学習支援システム」に何らかの授業の課題ややってほしいこと、読んではほしい箇所などの情報を入れます。授業日が火曜日3限ですので、必ず、前日までには HOPPII をチェックしてください。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれません。そうした情報も含め、全て前日までには HOPPII でお知らせします。HOPPII から皆さんへはメールでお知らせがいくようになります。

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
	毎週、授業日の前日に、必ず HOPPII を見てください。	
第2回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第3回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5回	形態論 (2)	形態論と形態素

第 6 回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第 7 回	意味論 (1)	意味論の概説
第 8 回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第 9 回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第 10 回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第 11 回	文体論 (1)	文体論の概説
第 12 回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第 13 回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第 14 回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、HOPPII にアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、HOPPII にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

通常の授業では、学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、HOPPII にて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】

進み方が早いようなので、毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックします。また、理解度をチェックする小テストを行いたいと思います。最初は難しいと思うかもしれませんが、予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的に HOPPII に添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】

- ・パワーポイントの資料は、必要な場合は、授業後に HOPPII にアップします。
- ・オフィスアワーについて、詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

LIN100BD

英語学概論 B

福元 広二

授業コード：A2805 | 曜日・時限：金曜 1 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期 (A) では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期 (B) では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究的の基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第 2 言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第 2 回	音を出す仕組み	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み
第 3 回	音声・音韻論 (1)	音韻論の演習:母音の発音の実践
第 4 回	音声・音韻論 (2)	音声学の概説:子音の仕組み
第 5 回	音声・音韻論 (3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第 6 回	音声・音韻論 (4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第 7 回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第 8 回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第 9 回	言語構造の解析 (1)	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第 10 回	言語構造の解析 (2)	句構造が全て基本的に同じ構造であること
第 11 回	言語習得 (1)	言語習得の基礎的概念
第 12 回	言語習得 (2)	言語習得を説明する主な理論
第 13 回	英語の歴史	言語の歴史について。英語史の概説
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引きながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』
影山太郎、日比谷潤子、ブレント デ・シェン 著
くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。

期末試験 70%

平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【その他の重要事項】

できれば、1年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合があります。出席は毎回とります。

【Outline and objectives】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

LIN100BD

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きを判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎません）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。教材配信と zoom 授業で、二重に説明を行います。また、配信した教材に基づく質問、口頭説明のリクエストを募り、また、リアクションペーパーを書いてもらいます。zoom 授業では、それらに応じる形のフィードバックも行う予定です。配信教材は、「短い動画デモ・ファイルと解説 pdf ファイルの配信」という形が基本となりますが、内容に応じて、違う形態になる場合もあります（例えば動画なしとか）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期	テーマ	内容
回	導入	この授業の紹介
第 1 回	導入	この授業の紹介
第 2 回	「音素」その 1（音声学・音韻論）	party はカタカナで何と言うべき？
第 3 回	「音素」その 2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 4 回	「音節」その 1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 5 回	「音節」その 2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 6 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 7 回	今日の文法理論その 1（統語論）	「5 文型」のアホさ
第 8 回	今日の文法理論その 2（統語論）	統語論「研究」実体験
第 9 回	今日の文法理論その 3（統語論）	理論的な道具、およびその「心理学的実在性」
第 10 回	今日の文法理論その 4（統語論）	新たな（？）潮流
第 11 回	今日の文法理論その 5（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 12 回	今日の文法理論その 6（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第 13 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その 1	「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 14 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その 2	Without her contributions failed to come in. ってどういう意味？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100%。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業改善アンケートが行なわれませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムには自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、法政 gmail で、自分がアクセスするメアドへの自動転送を設定しておく）こと。

【その他の重要事項】

この授業は「言語学概論B」とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

An introduction to linguistic sciences for novice. You will take a look at how research in each of the fields is typically conducted so that you will be able to (partially) judge whether each would be the right field for you.

LIN100BD

言語学概論B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水曜 3 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 授業形態

本シラバス執筆時点では、文学部の新型コロナウイルス感染対策方針及びその他諸般の事情により、以下の2つの形態のどちらかで授業を実施する予定です。

A. 隔週で「対面授業」と「オンライン授業」を交互に実施

B. 毎週「オンライン授業」を実施

なお、「オンライン授業」は Zoom などの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式を予定しています。A と B のどちらの形態になるかは、秋学期開始前にその時期の新型コロナウイルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。

2. 授業の進め方

授業形態が上記の A と B のどちらになるかにかかわらず、本授業は教員による講義形式で進められます。ただし、教員が一方的にレクチャーするだけでなく、内容理解を助けるために、受講者が練習問題を解く機会も適宜設けていきます（練習問題を課す頻度は、上記の授業形態の違いによって多少変わってくるでしょうが）。

教員は具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもともたらしさを自分で疑う姿勢を大切に、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパー（「オンライン授業」の場合は学習支援システムの「テスト/アンケート」機能で代用）で積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。

なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学ってどんな学問？
第 2 回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第 3 回	形態論 1	語の内部構造と形態素
第 4 回	形態論 2	語の作られ方
第 5 回	形態論 3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第 6 回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第 7 回	音声学 1	音声産出と子音・母音の体系
第 8 回	音声学 2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第 9 回	音韻論	音節とモーラ
第 10 回	統語論 1	句構造と X-bar Theory
第 11 回	統語論 2	句構造から文構造へ
第 12 回	統語論 3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念

- 第 13 回 意味論 1 意味の記述と語彙分解
第 14 回 意味論 2 述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 1 回あたりの標準の準備・復習時間は、各 2 時間とします。

1. 準備

後述するように、事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや学習支援システムの掲示板、あるいは授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。なお、授業形態が上記の A、B どちらになるにせよ、必ず「オンライン授業」が実施される関係で、今年度は紙のハンドアウトは基本的に教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードすることにします（アップロードのスケジュールは学期開始時にお知らせします）。よって、受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末課題 100%

授業形態が上記の A、B のどちらになるかにより、実施可能な課題形式も変わってくるため、以下は本シラバス執筆時点での見通しになります（ゆえに、形式変更の可能性あり）。形態 A の場合、定期試験期間中の新型コロナウイルス流行状況や大学の教室使用状況にもよりますが、基本的には教室での期末試験を行い、その点数を成績とする予定です。一方で形態 B になった場合、教室内試験はおそらく不可能であるため、(1) 期末レポートの提出、(2) 学習支援システムのテスト機能等を用いたオンラインでの期末試験、のどちらかにより成績評価を行う予定です。

2. プラスアルファの加点

上記 1 の通り、本科目の成績は基本的には期末課題による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。

- リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者
- 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）

なお、本授業では出席は取りません。よって、リアクションペーパーも出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。ゆえに、出席票を出すノリでいい加減なリアクションペーパー（e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等の一言感想だけのもの）を提出した者は、逆に成績から減点いたします。

【学生の意見等からの気づき】

1. 以前学生から「説明を聞き逃すと理解が追い付かなくなる」という意見が出されたため、一昨年度は説明を極力丁寧に繰り返す方針で授業を進めましたが、それに対し「理解しやすかった」と「同じ説明を何度も繰り返されてくどい」という相反する意見が出されました。また、1 つあたりの学習項目に費やす説明時間を増やしたために全体的な進度に遅れが生じ、以前は終わらせることができた予定学習範囲を一昨年度はすべてカバーすることができませんでした。従って、今年度は、「オンライン授業」の場合なかなか難しいかもしれませんが、授業中に学生の理解度を可能な限り細やかに確認しながら説明量を適切に調整することで、上記した一昨年度の問題を解消できるように努めていきます。

2. 一昨年度は授業中に学生が練習問題を解く機会を増やしましたが、それに対して「具体例で実際に手を動かしながら考えてみることで、理解が促進された」等の好意的な意見を多くもらいました。よって、今年度も練習問題を解く機会を、授業形態に応じて、可能な限り積極的に設けていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態が上記 A、B のどちらになるにせよ、「オンライン授業」は必ず実施されるため、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

a. Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）

b. 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線

これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な受講生は、大学の事務課に相談してみてください（昨年度はオンライン授業の学生向け受講環境支援が大学により実施されていました）。

また、本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの方は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておい

【その他の重要事項】

本科目で「対面授業」を実施することになった場合に備えて、授業内での新型コロナウイルス感染への対策の 1 つとして、「受講者同士が十分なソーシャルディスタンスを確保できる規模の教室」を用意してもらえよう、本シラバス執筆時点で事務課に要請しています。しかし、もし本科目に割り当てられた教室が上記の要請を満たせない規模のものであった場合には、「その教室においてソーシャルディスタンスを十分に確保できる程度の人数」にまで履修者数を絞る目的で、履修希望者に対して抽選による履修者選抜を実施します。抽選実施の有無は履修希望者数次第になるため、その詳細は後日連絡しますので、履修希望者は教員もしくは事務課からの抽選に関するお知らせに十分ご注意ください。

【Outline and objectives】

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

LIN200BD

英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：火曜 3 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回は 9 月 21 日です。授業形態（対面・リモート）は HOPPII で連絡します。互いに日本語で話しているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとおさうさそうです。原因の多くは「意味論の意味」と「語用論の意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面面を探ります。

講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面面を探ります。

【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。

基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までは HOPPII を見てください。

毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第 2 回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第 3 回	第 1 章：ポライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第 4 回	第 1 章：ポライトネスの背景（2）	ポライトネスについて
第 5 回	第 2 章：ブラウン＆レビソンのポライトネス理論（1）	効率と配慮について
第 6 回	第 2 章：ブラウン＆レビソンのポライトネス理論（2）	ポライトネスと言語文化について
第 7 回	第 3 章：敬語とポライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第 8 回	第 3 章：敬語とポライトネス（2）	敬語と距離感について
第 9 回	第 4 章：距離とポライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第 10 回	第 4 章：距離とポライトネス（2）	呼称と指示語について
第 11 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第 12 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第 13 回	第 6 章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第 14 回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】

「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は、おおむね参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 80%、平常点 20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使った PPT 資料は、授業後に学習支援システムにアップする予定ですので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは火曜日 4 限です。

「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができます。

【Outline and objectives】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた zoom 講義、および、zoom のチャット機能を利用した訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーへのコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その 1）	うなぎ文（その 1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その 2）	うなぎ文（その 2）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その 1）	代名詞と役割語
第 4 回	「訳」についての誤解（その 2）	意味と文法的手段
第 5 回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その 1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その 2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第 8 回	「黒人」英語（その 1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その 2）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その 3）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その 4）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	do の 3 単現（その 1）
第 13 回	音節量	do の 3 単現（その 2）
第 14 回	外来語での音節量調整	do の 3 単現（その 3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

また、授業で学んだ方法論を身近な他の問題に応用して考えてみてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、授業内オンライン試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

（シラバス執筆段階での結果に基づいています。）

ハンドアウトへの書き込みが必要と思われる回については、通常の LaTeX + pdf という形でなく Word の形にしましたが、毎回を Word にしてほしいという声がありました。pdf でも実は書き込みは可能ですし、Word だとハンドアウトは大変作りにくいのですが、内容と照らし合わせつつ、Word に出来るものは Word にすることも考えます。

また、テスト／アンケートが不定期になってしまったことは、ご指摘を受けるまでもなく、自分でも気づかっていたと思っていましたが、急遽の代打の講義が入るという特殊な状況だったためであり、今年度はそんな事態にはならないと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、自分が普段アクセスするアドレスへの自動転送を法政 gmail で設定しておく）こと。

【Outline and objectives】

Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

LIN200BD

社会言語学

塩田 雄大

授業コード：A2810 | 曜日・時限：木曜 1 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。

社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（ことばの使われ方の多様性／言語の変化／「ことばの乱れ」意識／ことばの地域差／コミュニケーション／アイデンティティ／言語・方言どうしの接触／言語政策／…）、講義ではこれらを射程に入れつつ、今年度は特に「方言・ことばの地域差」の観点から考察を進める。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

社会言語学的・方言学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講師による講義形式のものだけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の公開を積極的におこなう。また、スマホ・タブレット・PCを用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じて行う予定。

対面講義を想定しているが、状況により判断する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全般の説明
第 2 回	方言の区画・東西対立	西と東で異なることば ほか
第 3 回	周囲論的／逆周囲論的分布・いろいろな分布	「アホ」と「バカ」の分布、「ら抜き」の変化はなぜ遅いのか ほか
第 4 回	地点と年齢差	年齢差の観点から見た方言分布 ほか
第 5 回	発音・アクセント・イントネーションの地域差	「箸を持って橋の端を渡る」のアクセント ほか
第 6 回	アスペクト・条件表現・オノマトペの地域差	「この講義を受ければ／受けると／受けたら」の地域差 ほか
第 7 回	あいさつ・話の進め方の地域差	買い物したら何と言って店を出るか ほか
第 8 回	コミュニケーション意識・待遇表現・昔話の地域差	会話においてボケとツッコミは大切か ほか
第 9 回	共通語化・方言と共通語の使い分け	方言は共通語化したのか ほか
第 10 回	伝統方言・中間方言・新方言、近年の地域差	新たに生まれてくる方言 ほか
第 11 回	社会と方言、地域資源としての方言、方言研究の社会的意義	「方言がコンプレックス」から「方言ってかわいい」へ ほか
第 12 回	言語意識、バーチャル方言、方言ステレオタイプ、方言コスプレ	アニメのキャラクターがなぜ方言を話すのか ほか
第 13 回	レポート検討	各自のレポートについて検討する。
第 14 回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には4時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】

『方言学入門』（木部暢子ほか編著、三省堂、2013年、1,800円＋税）

https://www.sanseido-publ.co.jp/publ/gen/gen2lang/hogengak_prm/

履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後には三千円以上の損をすることになる。

(1)『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄ほか編著、ミネルヴァ書房、2016年、2,800円＋税）

(2)『日本語は「空気」が決める』（石黒圭、光文社新書、2013年、840円＋税）

(3)『朝倉日英対照言語学シリーズ [発展編] 1 社会言語学』（井上逸平編著、朝倉書店、2017年、3,200円＋税）

(4)『新・方言学を学ぶ人のために』（徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991年、1,893円＋税）

【成績評価の方法と基準】

・毎回の事前準備課題 30%

・最終レポート 70%

いずれも、「分量」よりも「内容の質」を重視する。

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度も優秀な学生が多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上にて随時受け付ける。本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まった知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline and objectives】

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture.

The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex. diversity of language usage / language change / consciousness of "language disturbance" / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be put in range, while the themes of "regional variation in recent years" should be discussed with greater emphasis in this term.

LIN200BD

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】

ここではどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 理論 3	SLA 理論の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。また宿題も課されます。指示された映像課題をノートを取りながら見ること、宿題の解答を頭の中で考えるだけでなく書いてまとめることが求められます。これらの宿題も試験の範囲に含まれます。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

参考文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語習得の分野の奥深さを知っていただいたこと、研究の手法などにも興味を持っていただいたことが良かったと思います。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、資料の追加配布などに、学習支援システムを使用します。

【Outline and objectives】

Among various fields of applied linguistics, this course mainly concentrates on theoretical aspects of first and second language acquisition.

LIT200BD

比較文学 A

柳橋 大輔

授業コード：A2824 | 曜日・時限：木曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語文化圏を拠点としながら、英米語文化圏や日本語文化圏との相互的越境について考えます。ある文化的・社会的・歴史的文脈において生み出された文化的産物が別の文脈に移しかえられるとき、どのような変異が生じるのでしょうか。この問いについて、主に児童文学や青少年向け映画作品を手掛かりに考察していきます。

【到達目標】

ドイツ語圏文化が英米語圏・日本語圏においてどのように受容されてきたか、具体的に理解し述べるができる。

「文化的越境」について、ドイツ語圏文化からの具体例をもとに概略的に説明することができる。

文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。

ドイツ語圏の文学・文化・映画やその歴史に関心をもち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的越境についてお話しします（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行ないます（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介
第 2 回	グリム兄弟とディズニー（1）	19 世紀のメルヒェンから 20 世紀のスクリーンへ： 『白雪姫』『シンデレラ』
第 3 回	グリム兄弟とディズニー（2）	ディズニー・プリンセスの変容： 『いばら姫』と『眠れる森の美女』、『野いちご』と『ラプンツェル』のあいだ
第 4 回	ディズニーとドイツ—（危険な関係）？（1）	ナチス高官もユダヤ系知識人も ミッキーマウスに夢中！
第 5 回	ディズニーとドイツ—（危険な関係）？（2）	ドナルドは武器をとる——ディズニーと対独プロパガンダ
第 6 回	バンビ：ゲルマンの森から聖林（ハリウッド）へ（1）	狩猟家が描く森の物語？—— フェリクス・ザルテン『バンビ』とディズニー映画
第 7 回	バンビ：ゲルマンの森から聖林（ハリウッド）へ（2）	〈人間〉という脅威——小説／映画『バンビ』と環境批評
第 8 回	ハイジは誰のもの？——スイス、アメリカ、日本（1）	シュペリ『ハイジ』：〈自然〉と〈文明〉を往還する修業時代

第9回	ハイジは誰のもの？ ——スイス、アメリカ、日本（2）	世界を循環する〈ハイジ〉——ハリウッド映画と日本アニメ
第10回	ハリウッドという「ファンタジーエン」？ ——『はてしない物語』と『ネバーエンディングストーリー』のあいだ（1）	エンデ『はてしない物語』とファンタジーの権利
第11回	ハリウッドという「ファンタジーエン」？ ——『はてしない物語』と『ネバーエンディングストーリー』のあいだ（2）	『ネバーエンディングストーリー』とハリウッドの論理
第12回	手塚治虫とドイツ——ファウスト、ヒトラー、メトロポリス（1）	メフィストーフェレスは手塚を三度訪れる、あるいは転生するファウスト
第13回	手塚治虫とドイツ——ファウスト、ヒトラー、メトロポリス（2）	ドイツ生まれのATOM？ ——〈ドイツ〉から読む手塚作品
第14回	越境するドイツ語圏文化	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通してください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60%
学期末レポート：40%（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のためPCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

In this course, we will consider the cross-border relations between the German-speaking world and the Anglo-American and Japanese-speaking world. What kind of mutations occur when cultural products produced in one cultural, social, or historical context are transferred to another? We will examine this question using mainly children's literature and films for young people as a guide.

LIT200BD

比較文学B

柳橋 大輔

授業コード：A2825 | 曜日・時限：木曜 5 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代のドイツ文化史において「ヴァイマル共和国」期（1918-1933年）はひとつの黄金時代だったといえます。とりわけこの時代に製作された映画作品は、先行する文学史に影響を受けながら、名高い光と影の美学や特徴的なモチーフとともに、世界中で熱狂的に受容されました。ヴァイマル映画のヨーロッパ諸国やアメリカ、日本などにおける受容について、文学や映画など映像作品を手掛かりに分析します。

【到達目標】

ドイツ語圏文化が英米語圏・日本語圏においてどのように受容されてきたか、具体的に理解し述べるができる。
「文化的越境」について、ドイツ語圏文化からの具体例をもとに概略的に説明することができる。
文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
ドイツ語圏の文学・文化・映画やその歴史に関心をもち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的越境についてお話しします（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行ないます（演習形式）。文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介
第2回	『ファウスト』は越境する（1）	ゲーテ『ファウスト』と ムルナウによるその映画化
第3回	『ファウスト』は越境する（2）	スクリーンで変身するファウスト——クレール、黒澤、ソクーロフ
第4回	〈人造人間〉の系譜（1）	巨大ロボットは魂をもつか？ ——『巨人ゴーレム』、そして『鉄人28号』『エヴァンゲリオン』
第5回	〈人造人間〉の系譜（2）	人造人間は〈友〉？ それとも〈敵〉？ ——『メトロポリス』、そして『鉄腕アトム』『ドラえもん』
第6回	〈切断〉される身体——アンピュテーション／プロテーゼ（1）	第一次世界大戦と〈身体〉——表現主義絵画（ディックス、ケルヒナー）とフリッツ・ラング
第7回	〈切断〉される身体——アンピュテーション／プロテーゼ（2）	抹消は中枢を支配する？ ——『芸術と手術』、シュルレアリスム、ベンヤミン、川端
第8回	〈吸血鬼〉——境界侵犯の主題と変奏（1）	疫病、戦争、ユダヤ人——ストーリー『ドラキュラ』とムルナウ『吸血鬼ノスフェラトゥ』

第9回	〈吸血鬼〉——境界侵犯の主題と変奏(2)	〈吸血鬼〉は生き続ける? ——ムルナウと『シャドウ・オブ・ヴァンパイア』
第10回	〈影の美学〉——ドイツからの輸入品(1)	亡命する「ドイツ表現主義映画」——ハリウッドのドイツ人たち
第11回	〈影の美学〉——ドイツからの輸入品(2)	ジャンルを越境する「ドイツ表現主義映画」——フィルム・ノワールとSF映画
第12回	〈影の美学〉——ドイツからの輸入品(3)	「ドイツ表現主義映画」と日本——『狂った一頁』と谷崎『陰影礼讃』
第13回	映画の日独同盟——『新しき土』	ドイツ人監督は〈日本帰帰〉を演出する
第14回	変位/変異するイメージ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語(場合によっては英語)で配布するので、事前に目を通しておいてください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります(詳細については授業で説明します)。授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト(教科書)】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど)：60%
 学期末レポート：40%(提出しない場合は単位の認定ができません)
 ——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります(ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください)。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のためPCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をととした履修を推奨します。

授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

The Weimar Republic (1918-33) was a golden age in modern German cultural history. In particular, the films produced during this period were enthusiastically received around the world with their characteristic aesthetics and motifs. In this course, we will analyze the reception of Weimar films in European countries, the U.S., and Japan, using literature and visual works as clues.

LIT200BD

米文学史A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：月曜2限

春学期・2単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

アメリカ文学の「アメリカネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期Aは、植民地時代の文学から19世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。

目的は、

- (1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
 - (2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
- により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティブを得ることである。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語る。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふう読み取れるのか、どんなふうにつかしのつかないのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期のAでは17世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。講義。ほぼ毎回ハンドアウト(プリント)を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

昨年度は、コロナ禍とは無関係なプランとして、(1) ボルヘスの文学史を教科書とし(けっきょく電子化して英語原書+注釈書を配布)、(2) レポートは1作品のみとしたのですが、今年は(1) なんでもいいから米文学史の本を各自1冊読むこと、(2) レポートは3作品、3本とすること、に改めます。

提出されたりリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかをとり上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
春学期		
第1回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第2回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力。
第3回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第4回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理論(Deism)について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第5回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第6回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales"とウェスタンの英雄像。フロンティアと文学的想像力。
第7回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカ的ユーモア。アメリカの短篇小説。
第8回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカ的ロマンス主義と自己信頼。ローとホイットマン。
第9回	エドガー・アラン・ポー	ロマンス主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第10回	ホーソーンとロマンス	ホーソーンの小説論。ノヴェル対ロマンス(2)。
第11回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。

第 12 回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第 13 回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第 14 回	南北戦争その他	19 世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にはほんとは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史【全4巻】』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察としてより（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いが、英国の学者による Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ホルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を2冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958) (邦訳『アメリカ文学とキリスト教』)、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス＝ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958) (邦訳『アメリカ小説とその伝統』)。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー (20%)、(2) 3 作品を読んだレポート (40%)、(3) 期末試験 (40%)、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

むつかしくなりすぎないようにやさしく語る。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIT200BD

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906 | 曜日・時限：月曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカネス」（ナショナル・アイデンティティとかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語る。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふう読み取れるのか、どんなふうにつまみ食いするのか、おもしろいのか、などを解説していききたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

後期の B では南北戦争から現代までを扱う予定。

ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

昨年度は、コロナ禍とは無関係なプランとして、(1) ホルヘスの文学史を教科書とし（けっきょく電子化して英語原書＋注釈書を配布）、(2) レポートは 1 作品のみとしたのですが、今年は (1) なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと、(2) レポートは 3 作品、3 本とすること、に改めます。提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オルコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点 (point of view) の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、ステイヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	SF と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーグ、ゲーリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。

第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。
第 12 回	トマス・ピンチョンとジョン・バース	ポスト=モダンな意識とは何か。
第 13 回	アメリカン・ドラマ	演劇とミュージカル。
第 14 回	同時代作家たち	アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史[全4巻]』（研究社、2007、2010）
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）
Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)
Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)
Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20%）、(2) 作品3冊を読んでのレポート（40%）、(3) 期末試験（40%）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいけば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史A」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIT200BD

英米文学講義 I A

宮川 雅

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概観的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景の知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期	回	テーマ	内容
	第 1 回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
	第 2 回	英語史と英米文学	言葉とスタイルの変容。
	第 3 回	映画と文学（1）	映画を観る。
	第 4 回	映画と文学（2）	映画を読む。
	第 5 回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
	第 6 回	ノヴェルとロマンス	イギリス文学の特性。
	第 7 回	ノヴェルとロマンス（2）	アメリカ文学の特性。
	第 8 回	小説の登場人物について	round character と flat character (E・M・フォースターの『小説の諸相])
	第 9 回	会話と語法について	学校文法のおさらいから。
	第 10 回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
	第 11 回	背景の知識について	ゴシック小説と美学。
	第 12 回	英語の辞書のはなし（1）	OED その他の標準辞典。
	第 13 回	英詩のはなし	英詩の構造、rhyme と meter。
	第 14 回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積

【参考書】

豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社、1981）
豊田昌倫『英語のスタイル——教えるための文体論入門』（研究社、2017）
E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* 『小説の諸相』（ダヴィッド社）
英米の文学史（教室でリストを配布する）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を過大にしない。

【Outline and objectives】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義 I B

宮川 雅

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景の知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用語、方言、引用、その他。
第 2 回	キリスト教と英米文学	聖書、コンコルドダンス。
第 3 回	シェークスピアと演劇	エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第 4 回	引用について	引用と盗用（剽窃）。引用的想像力。
第 5 回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19 世紀アメリカの短篇小説。
第 6 回	注釈について	注釈について。
第 7 回	本文校訂とテキストの問題	textual criticism と “text” の多様な意味について。
第 8 回	Speech/ Narration —— 話法について（2）	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第 9 回	スタイルについて（1）	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第 10 回	スタイルについて（2）	subordination と coordination
第 11 回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20 世紀アメリカの短篇小説。
第 12 回	視点と話法について—— 話法について（3）	作品に即して具体的に考える。
第 13 回	ナラトロジーについて	ジュネットとブース、その他
第 14 回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を余裕のあるものとする。

【その他の重要事項】

前期春学期の「英米文学講義 I A」からの継続履修がこころから望ましい。

【Outline and objectives】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義ⅡA

丹治 愛

授業コード：A2909 | 曜日・時限：火曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、18 世紀前半から中期ヴィクトリア朝までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、一人称的語りと三人称的語り、リアリズムとゴシックを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

- ・18 世紀前半のダニエル・デフォーから中期ヴィクトリア朝（1870 年以前）までのイギリス小説の流れを概観できる。
- ・そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを説明できる。
- ・作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（小説以前の物語）	小説というジャンルに影響をあたえた小説誕生以前の物語形式について学習する。
第 2 回	Defoe, <i>Robinson Crusoe</i>	<i>Robinson Crusoe</i> をテキストにして、ピカレスク小説について学習する。
第 3 回	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> と風刺	<i>Gulliver's Travels</i> をテキストにして、風刺文学について学習する。
第 4 回	<i>Gulliver's Travels</i> （映画）	<i>Gulliver's Travels</i> の映画を見て、その内容を議論する。
第 5 回	Richardson, <i>Pamela</i> と書簡体小説	<i>Pamela</i> をテキストにして、書簡体小説について学習する。
第 6 回	Fielding, <i>Joseph Andrews</i> と三人称的語り	<i>Joseph Andrews</i> をテキストにして、一人称小説と三人称小説の違いについて学習する。
第 7 回	Sterne, <i>Tristram Shandy</i> とメタフィクション	<i>Tristram Shandy</i> をテキストにして、メタフィクションについて学習する。
第 8 回	Walpole, <i>The Castle of Otranto</i> とゴシック的伝統	<i>The Castle of Otranto</i> をテキストにしてゴシックについて学習する。
第 9 回	<i>The Castle of Otranto</i> （映画）と Radcliffe, <i>The Italian</i>	<i>The Castle of Otranto</i> の短編映画を見て、ゴシック小説の発展について学習する。
第 10 回	Austen, <i>Northanger Abbey</i> と自由間接話法	<i>Northanger Abbey</i> をテキストにして、自由間接話法について学習する。
第 11 回	<i>Northanger Abbey</i> （映画）	<i>Northanger Abbey</i> の映画を見て、その内容について議論する。
第 12 回	Brontë Sisters, <i>Jane Eyre & Wuthering Heights</i>	<i>Jane Eyre & Wuthering Heights</i> をテキストにして、女性の文学について学習する。
第 13 回	Dickens, <i>Oliver Twist</i>	<i>Oliver Twist</i> をテキストにして、社会小説について学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	授業全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料

授業であつかう作品のうち 2 つ

【参考書】

『講座英米文学史 8 小説Ⅰ』『講座英米文学史 9 小説Ⅱ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Eighteenth-Century Novel (Cambridge UP)

The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
- リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 50%
 期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the first half of the 18th century to the middle Victorian period, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of first person and third person narratives, and realism and Gothicism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ B

丹治 愛

授業コード：A2910 | 曜日・時限：火曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、19 世紀末から 21 世紀初頭までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、リアリズムとゴシック、リアリズムとメタフィクション、モダニズムとポストモダニズムとを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

- ・19 世紀末から 21 世紀初頭までのイギリス小説の流れを概観できる。
- ・そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを説明できる。
- ・作品の一部を英語で講読することをおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション (19 世紀末までの小説の展開)	イントロダクションとして 19 世紀末までの小説の展開を概観する。
第 2 回	映画 <i>Bram Stoker's Dracula</i> を見てディスカッション	映画 <i>Bram Stoker's Dracula</i> を見て、その内容を議論する。
第 3 回	世紀末のゴシック (1) 恐怖小説とファンタジー — <i>Dr Jekyll and Mr Hyde, Dracula, The Princess and the Goblin</i>	<i>Dr Jekyll and Mr Hyde</i> などをテキストにして、恐怖小説とファンタジーについて学習する。
第 4 回	世紀末のゴシック (2) ミステリーと SF — <i>Sherlock Holmes</i> もの、 <i>The Time Machine</i>	<i>The Time Machine</i> などをテキストにして、ミステリーと SF について学習する。
第 5 回	唯美主義 — <i>The Picture of Dorian Gray</i>	<i>The Picture of Dorian Gray</i> をテキストにして、唯美主義について学習する。
第 6 回	主観的・内的リアリズム — <i>Heart of Darkness, The Secret Agent, Mrs Dalloway</i>	<i>Heart of Darkness</i> などをテキストにして、主観的・内的リアリズムについて学習する。
第 7 回	芸術家小説 — <i>A Portrait of the Artist as a Young Man, Sons and Lovers, To the Lighthouse</i>	<i>To the Lighthouse</i> などをテキストにして、芸術家小説について学習する。
第 8 回	アンチユートピア — <i>Nineteen Eighty-Four</i>	<i>Nineteen Eighty-Four</i> をテキストにして、アンチユートピアについて学習する。
第 9 回	怒れる若者たち — "The Loneliness of the Long-Distance Runner"	"The Loneliness of the Long-Distance Runner" をテキストにして 1950 年代の小説について学習する。
第 10 回	歴史オグラフィカル・メタフィクション — <i>The French Lieutenant's Woman</i>	<i>The French Lieutenant's Woman</i> などをテキストにして、歴史オグラフィカル・メタフィクションについて学習する。
第 11 回	マジック・リアリズム — <i>Midnight's Children</i>	<i>Midnight's Children</i> などをテキストにして、マジック・リアリズムについて学習する。

- 第12回 映画 *Atonement* を見て ディスカッション 映画 *Atonement* を見て、その内容について議論する。
- 第13回 ポストモダン・メタフィクション— *Atonement* *Atonement* をテキストにして、ポストモダン・メタフィクションについて学習する。
- 第14回 期末試験とまとめ 全体の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料 授業であつかう作品のうち 2 つ

【参考書】

『講座英米文学史 9 小説Ⅱ』『講座英米文学史 10 小説Ⅲ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)
The Cambridge Companion to the Twentieth-Century Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
- リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 50 %
 期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the end of the 19th century to the beginning of the 21st century, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of realism and Gothicism, realism and metafiction, modernism and postmodernism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIN200BD

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力も確実に向上します。又、英語・言語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、教科書を使って講義形式で行います。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第2回	現代英語について	実は知っているようで知らない英語の真実
第3回	品詞	学校英文法の見直し
第4回	実際の英語	実際に英語の問題を解いてみよう
第5回	英語の文型	5 文型の分析
第6回	英語における主語	意味上の主語とは何か
第7回	代表的な統語構造—その1	名詞構文
第8回	代表的な統語構造—その2	動名詞
第9回	代表的な統語構造—その3	不定詞
第10回	代表的な統語構造—その4	分詞
第11回	英語の動詞（1）	他動詞の特徴
第12回	英語の動詞（2）	自動詞の特徴
第13回	英語の助動詞	助動詞の性質
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中島平三 (2017) 『斜めからの学校英文法』（開拓社）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。(期末試験 60 %、平常点 40 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。

【Outline and objectives】

This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

LIN200BD

英語学講義 B

福元 広二

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになる。英語力の向上も目指す。B の授業では、受講するとさらに代表的な構文について、主要な理論を使った分析方法についての知識を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、ハンドアウトを使いながら講義形式で行います。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第 2 回	現代英語の特徴	現代英語の特徴
第 3 回	現代英語の構文	実際に問題を解いてみようー基本的な事実が完璧に理解できているだろうか？
第 4 回	英語の動詞	不定形動詞について
第 5 回	形容詞 + to 不定詞構文	現代英語の形容詞 + to 不定詞構文の多様さ
第 6 回	to 不定詞を使った構文ー (1)	現代英語の to 不定詞を使った構文について、詳しくその性質を分析する。
第 7 回	to 不定詞を使った構文ー (2)	共通の性質を持つ不定詞構文について
第 8 回	動名詞、分詞を使った構文	どこが共通でどこが違うのか
第 9 回	結果構文	結果構文の特徴を理解する。
第 10 回	二重目的語構文	二重目的語構文の特徴を理解する。
第 11 回	There 構文	There 構文の特徴を理解する
第 12 回	英語構文と文法化	英語における文法化の例
第 13 回	文法化	文法化のメカニズムについて
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中島平三(2017)『斜めからの学校英文法』（開拓社）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。(期末試験 60 %、平常点 40 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていただきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures

LIN200BD

言語学講義 I A / 言語と論理 1 (言語学講義 I) A

石川 潔

授業コード：A2913,A2326 | 曜日・時限：月曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を、主として音声の面から比較します。

【到達目標】

母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

資料配信と zoom 授業を組み合わせる形を予定しています。資料は、オンデマンド教材としても成立するような資料を予定していますので、zoom 授業では、特に口頭説明のリクエストがある部分の解説、リアクションペーパーへの口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業全体の説明
第 2 回	鼻音 1	鼻音についての誤解
第 3 回	鼻音 2	母音挿入
第 4 回	母音挿入は防げるか（その 1）	母音の無声化の利用
第 5 回	母音挿入は防げるか（その 2）	「有声」子音の後ろの場合
第 6 回	「有声」と「無声」（その 1）	半濁点、VOT
第 7 回	「有声」と「無声」（その 2）	知覚における VOT の categorical perception
第 8 回	ヤ行、ワ行の発音（その 1）	大まかな捉え方
第 9 回	ヤ行、ワ行の発音（その 2）	より正確な捉え方
第 10 回	音節についての、よくある誤解	子音・母音の結合ではないこと、および強勢の話
第 11 回	英語における強勢	強勢の有無に伴う音の違い
第 12 回	英語のリズム	強弱交替
第 13 回	聞き取り	実習
第 14 回	様々な話	出生前の習得、歌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ話に基づいて、日本語話者による英語（その他の言語）の誤解を探してみてくださいませ。また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる……はず）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

(昨年度はアンケートは実施されなかったので、一昨年の結果に基づいて書きます。)

リアクションペーパーへの返信について良い評価をいただきましたが……めっちゃ時間を取られすぎるので、あのままを継続するのはちょっと非現実的に思えます。そういうことも考慮し、zoom 授業での返答を行う予定です。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline and objectives】

Comparisons of English and Japanese phonetics.

LIN200BD

言語学講義 I B / 言語と論理 1 (言語学講義 I) B

石川 潔

授業コード：A2914,A2327 | 曜日・時限：月曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語と日本語を、意味の面から比較します。また、文理解についての実験研究も少し眺めます。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教材配信と zoom 授業で、二重に説明を行う予定です。また、配信した教材に基づく質問、口頭説明のリクエストを募り、また、リアクションペーパーを書いてもらいます。zoom 授業では、それらに応じる形のフィードバックも行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	時制とアスペクト 1	述語の 2 分類
第 2 回	時制とアスペクト 2	英語の進行形の基本
第 3 回	時制とアスペクト 3	英語の進行形の応用
第 4 回	時制とアスペクト 4	英語に「未来形」ってあるのか？
第 5 回	時制とアスペクト 5	英語の完了形の基本
第 6 回	時制とアスペクト 6	英語の完了形の応用
第 7 回	時制とアスペクト 7	日本語に「現在形・過去形」はない？
第 8 回	時制とアスペクト 8	日本語だって「現在形・過去形」だ！ (その 1)
第 9 回	時制とアスペクト 9	日本語だって「現在形・過去形」だ！ (その 2)
第 10 回	時制とアスペクト 10	telicity
第 11 回	時制とアスペクト 11	日本語のテンスについての補足
第 12 回	時制とアスペクト 12	従属節の時制の日英比較
第 13 回	時制とアスペクト 13	「～している」の意味 (基本編)
第 14 回	文理解	文中における曖昧語の理解の仕方

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

時制・アスペクトについても授業でカバーしきれない事柄はたくさんあります。授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、日ごろ日本語 (や英語) に接していれば見つかるはず。見つけてください。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ (有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加点となります)。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

各回での「テスト/アンケート」(リアクションペーパーも含む) が 100 %。公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス執筆段階で回答者が 1 人のみだったので、解釈が難しいのですが、昨年度、教材配信 (+リアクションペーパーへの答えの配信) のみというのが不足という印象を受けました。なので、今度は、資料配信に上乘せする形で zoom 授業も行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline and objectives】

Comparisons of English and Japanese semantics, as well as a glimpse of experimental studies on sentence processing.

LIN200BD

言語学講義 II A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まよめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	形態論 (1)	形態素の種類
第 3 回	形態論 (2)	派生と語の内部構造
第 4 回	形態論 (3)	造語
第 5 回	統語論 (1)	文の構成素分析
第 6 回	統語論 (2)	句構造規則で文を作る
第 7 回	統語論 (3)	変形規則で文を変える
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	意味論	語、句、文の意味
第 10 回	語用論 (1)	協調の原理と会話の公理
第 11 回	語用論 (2)	発話行為、ポライトネス
第 12 回	社会言語学 (1)	地域や人種による言語の変異
第 13 回	社会言語学 (2)	ジェンダーと言語
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト (教科書)】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『FROM キンの言語学』、ビー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイル-英語学概論-』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

配布物は完成前にしっかりと目を通して、タイポがないように気をつけます。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ B

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。ままとめ回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	音声学 (1)	母音、子音
第 3 回	音声学 (2)	自然類
第 4 回	音韻論 (1)	弁別素性
第 5 回	音韻論 (2)	音素と異音
第 6 回	音韻論 (3)	音韻規則
第 7 回	音韻論 (4)	強勢
第 8 回	第 2 回から第 7 回のみ	まとめ
第 9 回	心理言語学 (1)	子供の言語習得
第 10 回	心理言語学 (2)	構文解析
第 11 回	歴史言語学 (1)	イギリス史、語彙変化
第 12 回	歴史言語学 (2)	音声変化、統語変化、意味変化
第 13 回	歴史言語学 (3)	言語の系統
第 14 回	第 9 回から第 13 回のみ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んできてください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

配布物は完成前にしっかりと目を通して、タイポがないように気をつけます。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 A

小野 綾子

授業コード：A2923 | 曜日・時限：水曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態（対面・リモート）は、HOPPII で連絡します。
この授業は、日本語文法の基礎と全体像を学びます。日本語文法について初めから考えたい、あるいは、日本語教師を目指す人にも向いています。
日本語学、言語学に関しては、さまざまな見方があります。分野によって、あるいは学者によっても現象の捉え方や品詞分類が異なることがあります。このテキストの内容も多くの見方の中のひとつだと思ってください。そのため、ここで参考書として挙げた本の内容とも異なる記述があります。
この授業を通してひとつの見方を知るだけでなく、自分で興味をもち、ぜひ他の本や論集を読んでほしいと思います。そして、何気なく話す日本語がどのようなしくみであるかも考えてみましょう。今後の話し方や文章の書き方も変わってくるかもしれません。
レポートに関しては授業の中でお伝えします。

【到達目標】

日本語文法の基礎を学ぶことで、日本語の構造がわかるようになる。日本語での文章作成の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナ禍が去り状況が変われば対面にしたいと思いますが、現在のところ、基本はオンライン授業です。人数によって方法を変えるので、初回は授業前に資料を送ります。HOPPII を見てください。
その後の授業は（人数にもよりますが）メールやアクションペーパーで皆さんからの意見も確認しながら進めていきます。世の中がこのような状況なので、しばらくは流動的ですが、3 回目までには安定するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション テキスト 第 1 章その 1 基本文型	導入 基本文型とは何かを知る
第 2 回	第 1 章その 2 格助詞	格助詞を分析する
第 3 回	第 2 章その 1 格成分の主題化	格成分の働きを考え、格成分の主題化について学ぶ
第 4 回	第 2 章その 2 格成分以外の主題化	格成分以外の主題化について
第 5 回	第 3 章その 1 自他の区別	自他の区別の表現について考える
第 6 回	第 3 章その 2 自他の対応による分類	自他の対応による分類について
第 7 回	第 4 章その 1 受身文	受身の表現について考える
第 8 回	第 4 章その 2 使役文とその他のヴォイス	使役文とその他のヴォイスについて役割を考える
第 9 回	第 5 章その 1 テンス	絶対テンスと相対テンスについて
第 10 回	第 5 章その 2 タ形	テンス以外のタ形について
第 11 回	第 6 章その 1 テ形と「いる」「ある」	「～ている」と「～である」について
第 12 回	第 6 章その 2 動詞分類	金田一の動詞分類について
第 13 回	第 7 章 ムード	ムードについて考える
第 14 回	特別編 品詞	品詞の分類について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの回のテキストの問題演習をやってもらいます。レポートの課題については、受講生の人数とレベルにあわせて考えます。今のところ、授業の途中で課題を出し、ZOOM でやりとりすることを考えています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
原沢伊都夫（2018）『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』

【参考書】

「日本語」「言語」に関する本は参考になります。考え方は様々です。品詞分類も異なることがありますので、興味のある人は色々なものを読んでみてください。以下、全体を通して参考にできる書籍をあげておきます。

風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健（2007）『言語学 第2版』

渡辺実（2013）『日本語概説』

第7回、第8回の授業で参考になる本

椎名美智（2021）『「させていただく」の語用論 人はなぜ使いたくなるのか』

【成績評価の方法と基準】

レポート 80 %、平常点 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

質問や意見は、授業後にメールで受けます。基本は個人に返します。もし全体にフィードバックしたほうが良さそうな内容であれば（匿名で）全体と共有させてもらうこともあります。もし全体との共有を望まない場合、そのこともメールでお知らせください。もちろん、個人的な気づきや意見などの場合は、質問者に確認後、全体に共有します。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn about one view of basic Japanese grammar. Students are expected to have an interest in the structure of Japanese.

LIN200BD

英語・言語学特殊講義B

小野 綾子

授業コード：A2924 | 曜日・時限：水曜 3 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態（オンライン・対面）は HOPPII で連絡します。この授業は日本語のしくみに言及しつつ、日本語文章表現を向上させるクラスです。レポートや論文で分かりやすい表現とはどのようなものか、日本語の特徴を伝えながらテキストを進めていきます。テキストはレポートの書き方を中心になっていますが、日本語についての資料情報（参考論文などの情報）を適宜お伝えする予定です。

【到達目標】

日本語の特徴をつかみながら、文章表現の向上を目指します。文章を書くための日本語がどのような仕組みになっているのか、どのように伝えたら効果的であるかを文法的な観点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前にテキストのまとめの資料を送ります。予習や復習が必要な場合もあります。文章の課題やレポートがあります。提出された課題やレポートをどのように直したら分かりやすくなるのか順番を決め ZOOM でやりとりすることになると思いますが、人数や学生のレベルによって方法を変えるかもしれません。最初の数回は資料や課題を送りながら考えますが、3回目までには安定すると思います。人数によっては、最終試験としてプレゼンを行う予定です。プレゼンをする場合、加点とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション テキスト 第 1 課	日本語文章表現について
第 2 回	日本語の特性と表現 第 2 課	日本語ならではの特徴を踏まえて考察する
第 3 回	レポートの形 第 3 課	構想を練り、情報を調べる
第 4 回	構想と情報 第 4 課	テーマを絞り、目標を規定する
第 5 回	テーマと目標 第 5 課	文章を組み立てる
第 6 回	文章構造 第 6 課	課題あり（予定） 組み立ての再検討をする
第 7 回	再検討 第 7 課	
第 8 回	パラグラフ 第 8 課	パラグラフを書く 日本語文章の構造について
第 9 回	本文を書き込む 第 9 課	本文を書き込む 接続詞の役割について
第 10 回	どこでどのように引用をすれば効果的 であるか、その表現方法について 第 10 課	文章・表現・形式を点検する
第 11 回	文章・表現・形式を点検する 点検作業 第 11 課	発表の準備について
第 12 回	発表準備 第 12 課	口頭発表について方法を考える
第 13 回	口頭発表 第 13 課	テキストの振り返り
第 14 回	振り返り 第 14 課	日本語の品詞について 全体の振り返り 日本語表現について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから新聞や本などを読み、レポートに使える材料や日本語表現などをストックしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
大島弥生 池田玲子 大場理恵子 加納なおみ 高橋淑郎 岩田夏穂（2019）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』【第2版】（ひつじ書房）

【参考書】

「日本語表現」「小論文」「レポート」といったタイトルのついた本は、おおむね参考になります。

以下の本は第1章が参考になります。

町田健（2020）『日本語のしくみがわかる本』（研究社）

以下の本も第1章が参考になります。

野矢茂樹（2019）『論理トレーニング 101 題』（産業国書）

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%、平常点 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

質問や意見はメールで受け付けます。基本は個人とのやりとりで返します。もし全体に共有した方がいい場合は、（必要があれば匿名で）質問者に確認後、共有することもあります。

授業前に読む資料や課題があり、レポート課題の配分も大きいので、よく考えて受講してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to improve writing ability. It based on construction grammar of Japanese.

LIT200BD

英米文学特殊講義 I

田中 裕希

授業コード：A2965 | 曜日・時限：木曜 4 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代アメリカ文学を読み翻訳する。お互いの訳文を読み合い批評し、現代の英語を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。春学期は詩を、秋学期は散文を翻訳する。

【到達目標】

英語を和訳することで、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。

言葉の意味や音楽性に敏感になる。

読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	英語のリズムを翻訳	Elizabeth Bishop
第 3 回	ワークショップ（1）	翻訳の合評
第 4 回	"I"をどう訳すか	Louise Glück
第 5 回	ワークショップ（2）	翻訳の合評
第 6 回	口調 (voice, tone) を翻訳	James Tate
第 7 回	ワークショップ（3）	翻訳の合評
第 8 回	詩型を翻訳	Henri Cole
第 9 回	ワークショップ（4）	翻訳の合評
第 10 回	ポップカルチャーを翻訳	Timothy Donnelly
第 11 回	ワークショップ（5）	翻訳の合評
第 12 回	歴史的背景を翻訳	マイノリティー詩人
第 13 回	ワークショップ（6）	翻訳の合評
第 14 回	結び	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詩を翻訳し、お互いの訳文を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて配布。

【参考書】

授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題 50%

平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%

4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In this course, we will read the works of contemporary American writers and translate them. The spring semester will focus on poetry while the fall semester will be devoted to prose.

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅱ

田中 裕希

授業コード：A2966 | 曜日・時限：木曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代アメリカ文学を読み翻訳する。お互いの訳文を読み合い批評し、現代の英語を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。春学期は詩を、秋学期は散文を翻訳する。

【到達目標】

英語を和訳することで、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。言葉の意味や音楽性に敏感になる。読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	小説の冒頭を翻訳	J. D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i>
第 3 回	ワークショップ（1）	翻訳の合評
第 4 回	短編小説を翻訳	Denis Johnson, <i>Jesus' Son</i>
第 5 回	ワークショップ（2）	翻訳の合評
第 6 回	ショートショートを翻訳	Lydia Davis, Deb Olin Unferth
第 7 回	ワークショップ（3）	翻訳の合評
第 8 回	Memoir を翻訳	Charles Simic, <i>A Fly in the Soup</i>
第 9 回	ワークショップ（4）	翻訳の合評
第 10 回	ノンフィクションを翻訳	Roxane Gay, <i>Bad Feminist</i>
第 11 回	ワークショップ（5）	翻訳の合評
第 12 回	散文詩を翻訳	Claudia Rankine, <i>Citizen</i>
第 13 回	ワークショップ（6）	翻訳の合評
第 14 回	結び	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

散文を翻訳し、クラスメートの翻訳した作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて配布。

【参考書】

授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題 50%

平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%

4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In this course, we will read the works of contemporary American writers and translate them. The spring semester will focus on poetry while the fall semester will be devoted to prose.

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅳ

小島 尚人

授業コード：A2968 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：『ハックルベリー・フィンの冒険』から読み解くアメリカ概要と目的：

この授業では、19 世紀後半の米国の国民的文学者 Mark Twain の代表作 *Adventures of Huckleberry Finn* (1884) を題材に、そこから見えてくる「アメリカ」の姿を学ぶ。名作長篇をくわしく読解することを通じて小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化・社会の理解および文学研究の方法・意義の理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
- ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
- ・自分の解釈を論理的に記述することができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
- ・『ハックルベリー・フィンの冒険』について、テキストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
- ・マーク・トウェインの生涯と作品、時代背景を学ぶことを通じ、米国の歴史・文化についての知識を深める。
- ・小説と映画の解釈および比較分析の実践を通して、文学研究の意義を体験的に理解し、その基本的方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義と演習を組み合わせて進める。
- ・学期序盤は講義が主となる。映画版を見て物語の内容を知るとともに、原作小説を読み解く上で必要なアメリカの文化的・歴史的背景（南北対立、黒人奴隷制など）を学ぶ。
- ・学期中盤以降は演習形式に適宜講義を取り入れた形式の授業となる。『ハックルベリー・フィンの冒険』の指定された版の翻訳を教科書として各自購入し、翌週で扱う範囲を予習として読んできた上で授業に臨む。
- ・予習状況の確認のために、作品の内容理解を問う授業内小テストが不定期に課される。
- ・各自の予習を前提としてグループディスカッションをおこない、受講者同士で解釈や疑問を共有しながら作品とその背景の多角的な理解を深める。
- ・リアクションペーパー等における良いコメントは翌週の授業内で紹介される。それを踏まえてさらに考察を重ね、より議論の射程を広げつつ掘り下げていく。
- ・そのような実践の積み重ねを通じて、小説や映画がアメリカの社会・文化の動向とどのように関連しあい、生み出された時代のありさまをどのように反映しているかを能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、学習内容の概観
第 2 回	映画『ハック・フィンの大冒険』	ディズニー制作の実写映画版（1993 年）を視聴して考察
第 3 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』の背景①：アメリカ南部と北部	アメリカ南部と北部の文化的・社会的差異や対立・衝突の歴史を学ぶ
第 4 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』の背景②：黒人奴隷制	黒人奴隷制はどのようにして始まり、なぜ南北戦争に至ったか、南北戦争後とはどのような時代だったのか、その歴史を学ぶ
第 5 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む①——語り手ハックの言葉と人物像	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 6 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む②——黒人奴隷ジムの立場とその内面	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 7 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む③——「冒険」と「逃亡」	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説

第 8 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む④——ハックとジムの「自由」とは	内容把握を問う小テスト、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 9 回	映画『トム・ソーヤーの大冒険』	ディズニー制作の実写映画版（1995年）を視聴して考察
第 10 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む⑤——南部社会の姿	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 11 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む⑥——ハックの葛藤と決断	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 12 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む⑦——トム・ソーヤーの（再）登場と結末の分析	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 13 回	20・21 世紀のハックたち	『ハックルベリー・フィンの冒険』がその後のアメリカ文学・文化・社会に与えた影響と現代的意義を学ぶ
第 14 回	学期のまとめ	学んだ内容を振り返りながらまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で扱う作品を事前に読む。気になった箇所、感想、疑問点などをメモしておき、授業内での小テストや課題に対応できるようにしておく。（3 時間）
・授業で学んだ作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献や映画を積極的に読んだり観たりする。（1 時間）

【テキスト（教科書）】

- ①マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒けん』柴田元幸訳、研究社、2017 年（ISBN: 9784327492014）
② Mark Twain, *Adventures of Huckleberry Finn*. Dover Thrift Editions, 1994. (ISBN: 9780486280615)

【参考書】

- 柴田元幸『『ハックルベリー・フィンの冒けん』をめぐる冒けん』（研究社、2019 年）
亀井俊介『マーク・トウェインの世界』（南雲堂、1995 年）
後藤和彦『迷走の果てのトム・ソーヤー 小説家マーク・トウェインの軌跡』（松柏社、2000 年）
日本マーク・トウェイン協会編『マーク・トウェイン 研究と批評』（毎年 1 冊発行、南雲堂）
亀井俊介監修『マーク・トウェイン文学／文化事典』（彩流社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点：小テスト、課題、グループディスカッションへの参加度：40 %
予習ができていないか（ちゃんと作品を読んでいないか）、授業内容を理解しているか、課題やディスカッションを通じて積極的に参加しているか、自分なりの解釈を試みているか、他の人に伝わるような形で説明できているか
②期末試験：60 %
小説を読み、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される記述・論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションや課題へのフィードバック等を通じて皆さんの考察や疑問をクラス全体に共有しつつ講義内容に反映させていくことで、各々の能動的な参加を促したいと思います。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。

【Outline and objectives】

This is a special topics course focusing on Mark Twain's *Adventures of Huckleberry Finn*. Beginning with a historical survey of American slavery and the North-South divide the course offers a close reading of the novel. Through an intensive discussion on Twain's masterpiece and its film adaptations, students develop their skills to analyze literary texts in a critical way with focus both on their individuality and historicity. Most classes consist of quizzes, lectures, and group discussions.

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水曜 1 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的現象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。

授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第 2 回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第 3 回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えてのディスカッション①）
第 4 回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第 5 回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第 6 回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第 7 回	アメリカ人の愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第 8 回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えてのディスカッション②）
第 9 回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第 10 回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第 11 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第 12 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第 13 回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えてのディスカッション③）
第 14 回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2 時間）
・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する現象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1 時間）
・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1 時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996年）
 アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018年）
 ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017年）

【成績評価の方法と基準】

授業内での課題および授業への貢献度 30 %
 グループ・プレゼンテーション 30 %
 授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。

履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

ARS200BD

英米文化概論 A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：月曜 3 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19世紀末から20世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	帝国主義とは
第2回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第3回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第4回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第5回	戦争詩人	第一次世界大戦
第6回	Virginia Woolf, <i>Mrs Dalloway</i>	帝国の時間観
第7回	<i>Mrs Dalloway</i>	意識の流れ
第8回	<i>Mrs Dalloway</i>	帝国の退廃
第9回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第10回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第11回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第12回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第13回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原敏行（翻訳）
 『ダロウエイ夫人』（集英社文庫） ヴァージニア・ウルフ（著）、丹治愛（翻訳）
 必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンプソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

4回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline and objectives】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century.

ARS200BD

英米文化概論 B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：月曜 3 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強いこのアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的な文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第 2 回	Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>	建国の理念と叙事詩
第 3 回	<i>Red River</i>	民主主義の夢
第 4 回	<i>Red River</i>	西部劇と民主主義
第 5 回	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i>	語りの構造
第 6 回	<i>The Great Gatsby</i>	情景描写と文明批判
第 7 回	<i>The Great Gatsby</i>	幻想としてのアメリカンドリーム
第 8 回	Langston Hughes	人種と夢
第 9 回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第 10 回	<i>Easy Rider</i>	60 年代のアメリカ
第 11 回	<i>Easy Rider</i>	New Hollywood とは
第 12 回	<i>Moonlight</i>	マイノリティーの夢
第 13 回	<i>Moonlight</i>	成長物語
第 14 回		期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎 孝（翻訳）
必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline and objectives】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres.

HIS200BE

日本考古学／日本考古学（資格）

古庄 浩明

授業コード：A3113,A3856 | 曜日・時限：月曜 2 限

秋学期・2 単位

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の旧石器時代から奈良時代に至る歴史展開の中で、中国や朝鮮半島との交流を中心に獲得した各種の生産技術や社会制度を理解することを目標とする。考古学資料にもとづく交流と技術の歴史学的解明がテーマである。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。各種の技術の意義について解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進化が列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。

授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答も学習支援システムを利用する。資料も利用する。授業のプリントは各自「古庄浩明の講義ノート」（<https://wacoffee.blogspot.com/>）からダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代（1）	列島の文化形成の前提となる石器製作技術
第 3 回	旧石器時代（2）	後期旧石器時代の石刃技法と細石刃技法
第 4 回	縄文時代（1）	縄文土器の起源と製作
第 5 回	縄文時代（2）	縄文時代の生業技術
第 6 回	弥生時代（1）	稲作の伝播と展開
第 7 回	弥生時代（2）	青銅器の生産
第 8 回	弥生時代（3）	木器・木製品の生産
第 9 回	弥生時代（4）	玉作の技術と対外交流
第 10 回	古墳時代（1）	古墳時代前期の対外交流
第 11 回	古墳時代（2）	須恵器生産の開始
第 12 回	古墳時代（3）	製鉄・冶金・彫金
第 13 回	奈良時代	正倉院宝物の国際性
第 14 回	原始・古代の技術革新	全体のふりかえりと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。

期末試験を課すので、それに関する資料の涉猟と読み込みを行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2013『第 2 回改訂版「日本」のはじまり—考古学からみた原始・古代』和出版

ISBN978-4-9906476-0-5 C1021 定価 3300 円（本体 3000 円＋税 10 %）

【参考書】

白石太一郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館

鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館

石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史 1』岩波新書

吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史 2』岩波新書

大津透ほか編（2013）『岩波講座日本歴史 第 1 巻 原始・古代 1』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 % とし、期末試験による評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

物質文化を扱う科目なので、概念的な理解のみでなく、物質資料そのものやその歴史的意義に対する理解も大切にしたい。受講者は博物館等や美術館において（環境が整わない場合には HP 等も活用して）考古学資料や美術資料に触れ、物質資料に対する感覚を十分に養ってほしい。授業内容をわかりやすくするため、実物資料の写真や図面をまじえた画像の投影によって授業を進める。オンライン授業となった場合も同様である。画像や配付資料をもとに要領よくノートを作成し、学習を進める必要があることを念頭に置いてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to learn the technologies and social systems that Japan has introduced from mainland China and Korean Peninsula.

HIS200BE

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】

- ①城下町の特徴を説明できる。
- ②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
- ③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。hoppii に教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。13 回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	都市とは何か
第 2 回	江戸前史	地層と地形
第 3 回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第 4 回	マチの支配	町奉行と町年寄
第 5 回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第 6 回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第 7 回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第 8 回	大名屋敷のなか	御殿空間と詰人空間
第 9 回	武家拝領屋敷の相對替	主従関係と内実売買
第 10 回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第 11 回	役屋敷と近世官僚制	老中役屋敷の成立と都市社会
第 12 回	公共空間の維持管理	外堀
第 13 回	総括	まとめ
第 14 回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ（東京大学出版会、1989～1990 年）
吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社、1992 年）
松本剣志郎『江戸の都市化と公共空間』（塙書房、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline and objectives】

This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town.

HIS200BE

考古学概論／考古学概論（資格）

古庄 浩明

授業コード：A3152,A3855 | 曜日・時限：月曜2限

春学期・2単位

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。考古学的方法が発達する過程が理解できる。考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に学史の観点から考古学的方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。

授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答も学習支援システムを利用する。資料も利用する。授業のプリントは「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>)から各自ダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。

毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第2回	考古学とは何か	考古学の本質
第3回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たち
第4回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第5回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第6回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第7回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第8回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第9回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第10回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第11回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第12回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第13回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第14回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2021『第2版 考古学の世界－初めて考古学を勉強する方のために』三恵社

ISBN 978-4-86693-380-1 C1020 定価 1650 円（本体 1500 円＋税 10％）

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全9巻）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を50％とし、期末試験による評価を50％とする。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水曜 5 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業のテーマ：徳川吉宗と書物

8代将軍徳川吉宗は、いわゆる「享保改革」の主導者として著名である。その歴史的评价は、周知のごとく、主に幕府の組織改革、行財政改革において定着した感がある。だが、とくに行財政面で実績をあげたと評価される当の本人が真っ先に着手したのは、将軍家蔵書（御文庫）の目録の閲覧であった。この蔵書目録の閲覧以降、将軍家蔵書の保存・管理を使命とした書物方役人は激務を担い、吉宗の直接的指示のもと、20年以上にわたってあらゆる分野の書物の校合、校勘といった作業、またはその補助作業に追われ続けることになる。要するに、吉宗は各種書物の真正なテキストの作成、あるいは証本の作成を組織的かつ大規模的に実施したと考えられるのだが、彼はなぜそのような作業に熱中したのか。授業では如上の事実について理解を深めるところから、吉宗政権の歴史的意義について考える。

【到達目標】

吉宗が徳川家蔵書の真正性を担保しようとした事実にかなる意義が認められるか論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

歴史資料（史料）を読み解きながら講義する。

なお、授業の内容理解を確かなものとするため、学習支援システムを利用して課題を出し、提出されたりレポートにコメントを付すなど、個別指導も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	吉宗の出自と将軍職就任の事情（開始前に授業ガイダンスを実施）
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	「徳川実紀」の中の吉宗像
第 3 回	将軍家の文庫 (1)	御文庫と将軍家蔵書の沿革
第 4 回	将軍家の文庫 (2)	御文庫と将軍家蔵書の沿革（続）
第 5 回	将軍家の文庫 (3)	御文庫と将軍家蔵書の沿革（続）
第 6 回	吉宗と書物 (1)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究
第 7 回	吉宗と書物 (2)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究（続）
第 8 回	吉宗と書物 (3)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究（続）
第 9 回	吉宗と書物 (4)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究（続）
第 10 回	吉宗と書物 (4)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）
第 11 回	吉宗と書物 (5)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 12 回	吉宗と書物 (6)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 13 回	吉宗と書物 (7)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 14 回	まとめ	将軍家蔵書の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書にもとづく自習及び配布プリントをもとにした復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（資料を配付する）。

【参考書】

福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980 年）
小川剛生『日本史リブレット 78 中世の書物と学問』山川出版社（2013 年 3 刷）

その他、下田師古に関する研究論文等

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

この授業では近世史料を素材とします。このため講義内容はやや難しくなりがちですが、できるだけ平易な説明となるよう努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

日本史特講Ⅰのテーマとも関連します。

【Outline and objectives】

Tokugawa Yoshimune used the books of Shogun Tokugawa to inspect many books including classical literature and made efforts to make those sentences and letters error free. It is the purpose of this lesson to think about what this historical fact means.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第 2 回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第 3 回	清末の近代化①	開港と外国資本
第 4 回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第 5 回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第 6 回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第 7 回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第 8 回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第 9 回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第 10 回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第 11 回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第 12 回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第 13 回	改革開放と経済成長②	WTO 加盟とグローバル化
第 14 回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013 年。（第 4・5 章）

久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016 年。

丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013 年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30 %

毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70 %

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。

【Outline and objectives】

This course introduces the history of the modern Chinese economy. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical process and problems of China's economic growth.

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3171 | 曜日・時限：水曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という 4 つの視角から検討する。対象とする時期は 16 世紀から 18 世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2 つの到達目標をもつ。ひとつは、16 世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆっくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追ひ、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。次回授業の冒頭で、学生のリアクションへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会史とはなにか
第 2 回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第 3 回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第 4 回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第 5 回	ディスカッション（1）	婚姻と家をめぐって
第 6 回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と地縁的結合
第 7 回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第 8 回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第 9 回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第 10 回	緊張と排除（1）	魔女
第 11 回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第 12 回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第 13 回	ディスカッション（2）	近代と排除
第 14 回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30 分）を準備すること。ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えを A 4 一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず

【参考書】

ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール——16 世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993 年ほか。
参考文献表を最初の授業で配布する。

【成績評価の方法と基準】

報告への評価（40%）
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（20%）
エッセイ形式の期末試験（40%）

【学生の意見等からの気づき】

二〇一九年度は分厚い参考文献表を最初の授業に配布しましたが、受講生はあまり活用していないことに気がつきました。今年はリストを短くして必読文献に絞るほうが有益かと思えます。

【Outline and objectives】

Social history is not a simple branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates every aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic provided in advance, and engage in discussion.

HIS200BE

西洋史特講 V

高澤 紀恵

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2021 年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、空間、建物、信仰の三点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、三つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「救済」といった概念が、どのような歴史的現実の中で生まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。三つめは、自分の課題意識に応じたレポート作成の技術を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4 一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。レポートならびにディスカッションへのフィードバックは、授業内で行う。また学生のリアクションへのフィードバックは、次回の授業冒頭でまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	福澤論吉から考える都市
第 2 回	空間を読む（1）	パリの三つの顔
第 3 回	空間を読む（2）	シテ島の中心性
第 4 回	空間を読む（3）	右岸と市民
第 5 回	空間を読む（4）	左岸と大学
第 6 回	ディスカッション	都市と大学をめぐって
第 7 回	建物を読む（1）	ノートル・ダムを読む
第 8 回	建物を読む（2）	サン・ポールを読む
第 9 回	ディスカッション	残るもの、失うもの
第 10 回	見えないものを読む（1）	教区と街区
第 11 回	見えないものを読む（2）	教区教会の役割
第 12 回	見えないものを読む（3）	教区における闘い
第 13 回	見えないものを読む（4）	都市と信仰、都市の信仰
第 14 回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答える A4 一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

吉田伸之、伊藤毅（編）『伝統都市 全四巻』東京大学出版会、2010 年。
高澤紀恵『近世パリに生きる——ソシアビリテと秩序』岩波書店、2008 年。
高澤紀恵、アラン・ティレ、吉田伸之編『パリと江戸——伝統都市の比較史へ』山川出版社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、
エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度のクラスでは、ディスカッションに際して多くの学生がよく考えて準備してくれたと思います。2020 年度は、オンラインで行いましたが、ほぼ毎回事前に課題を出してグループ・ディスカッションを行いました。学生たちは、積極的に参加してくれ、オンライン授業が充実したものとなりました。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出などは学習支援システムを活用しますので、パソコンを使える環境がのぞましい。

【その他の重要事項】

関心のある方は必ず仮登録をしてください。
ネット環境が整わない方は、メールで相談してください。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics: topography, architecture, and religion. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

HIS200BE

東洋近現代史

芦沢 知絵

授業コード：A3208 | 曜日・時限：金曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「外交からみる中国近現代史」をテーマとする。
現在、中国は東アジアのみならず、世界全体に大きな影響力を持つ「グローバル大国」となった。もともと、歴史的に見れば、こうした国際社会における中国の位置づけは、中国国内の政治局面の変化とともに、常に大きく揺れ動いてきたといえる。特に近代以降は、欧米列強や日本の中国進出、戦後の冷戦構造の下で、極端な外交政策の転換も迫られた。
本授業では、こうした近現代における中国の外交の歴史を中心にたどりながら、現在の「グローバル大国」中国がどのように形成されてきたのか概観する。その上で、昨今の中国をめぐる国際的な諸問題について、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国の外交の歴史をたどり、中国近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現在の中国をめぐる国際的な諸問題について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中国近現代史入門	中国近現代史を学ぶ意義・方法
第 2 回	前近代中国の対外関係	王朝体制と「華夷秩序」
第 3 回	清朝とアヘン戦争	中国における「西洋の衝撃」
第 4 回	清末の条約・開港	中国近代外交の幕開け
第 5 回	日清戦争と「瓜分の危機」	伝統的国際秩序の崩壊
第 6 回	辛亥革命と中華民国の成立	近代国家としての中国
第 7 回	軍閥割拠とナショナリズム	「国民外交」の希求
第 8 回	南京国民政府の成立	国民党の外交戦略
第 9 回	満洲事変から日中戦争へ	日中対立と国際社会
第 10 回	国共内戦と中華人民共和国の成立	戦後東アジアの冷戦構造
第 11 回	社会主義体制と文化大革命	中国共産党の国際的孤立
第 12 回	改革開放の時代	協調外交への転換
第 13 回	現代中国の対外関係	「グローバル大国」の行方
第 14 回	中国近現代史の課題と展望	中国近現代史をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
岡本隆司・箱田恵子編著『ハンドブック近代中国外交史——明清交替から満洲事変まで』ミネルヴァ書房、2019 年。
川島真・毛里和子著『グローバル中国への道程——外交 150 年（叢書 中国の問題群 12）』岩波書店、2009 年。
毛里和子『現代中国外交』岩波書店、2018 年。
吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑤』岩波書店（岩波新書）、2010～14 年。

【成績評価の方法と基準】

- ① 平常点 30 %
毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
- ② 期末試験 70 %
授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces the history of modern China focusing on diplomatic relations. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical process and current issues about modern China as a great power.

HIS100BE

日本史序説 I

川上 真理

授業コード：A3212 | 曜日・時限：月曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、芸能の場に注目して日本の通史を学ぶ。それにより、政治・経済に偏らない日本史の理解を目指す。

【到達目標】

日本史の流れを、文化の視点から理解できるようになる。
事実を複眼的に観察し、検証する姿勢が身につくようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、授業計画に基づいてプリントを配布し、その内容を説明しながら行う。学生は毎回、リアクションペーパーを提出する。その内容を次回の授業で紹介し、補足説明を行ったり、課題や関心を受講生の間で共有して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスを用いたガイダンス／歴史とは何か、芸能とは何か 在来楽と外来楽の受容
第 2 回	古代 (1)	雅楽の成立と展開
第 3 回	古代 (2)	流行芸能の誕生
第 4 回	古代 (3)	琵琶と天皇
第 5 回	中世 (1)	笙と足利将軍家
第 6 回	中世 (2)	猿楽と室町幕府
第 7 回	中世 (3)	身分と生業
第 8 回	近世 (1)	儀式と芸能
第 9 回	近世 (2)	江戸の祝祭
第 10 回	近世 (3)	演劇と「国民」の誕生
第 11 回	近代 (1)	儀式と音楽教育
第 12 回	近代 (2)	音楽と郷土教育
第 13 回	近代 (3)	授業のまとめ/授業内試験
第 14 回	試験・まとめと解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回の該当する時代の概要について参考書等を読んで予習する。
・授業のプリントを見直し、参考書・関連文献等やフィールドワーク（現地見学・博物館見学等）によって得られた知見を補足する。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、授業計画に基づいたレジュメを配布する。

【参考書】

○『岩波ジュニア新書 日本の歴史』全 9 巻、岩波書店、1999～2000 年、¥780 + 税。
○尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000 年、¥700 + 税
○網野善彦『「日本」とは何か』（日本の歴史 00）講談社、2000 年、¥2,200 + 税
○佐藤信ほか編『詳説日本史研究（改訂版）』山川出版社、2017 年、¥2,500 + 税。
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、試験（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各回の目的を明瞭に示す。

【その他の重要事項】

著しい遅刻は欠席とみなす。
質問は授業の前後に教室で受け付ける。

【Outline and objectives】

In this class, we will focus on the performing arts and learn about Japanese history. By doing so, we aim to understand Japanese history that is not biased toward politics and economy.

HIS100BE

日本史序説 II

齋藤 智志

授業コード：A3213 | 曜日・時限：月曜 1 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。
史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業（第 2 回～第 12 回）は前半・後半に分けます。前半は時代の概観をおこない、後半はテーマを定めてそれぞれの時代の多角的な捉え方について学びます。

プリントとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する課題（史料読解など）に取り組みます。
毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業や学習支援システムで共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概論	・授業方針について ・歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第 2 回	文化の黎明と国家形成	・日本列島における文化の黎明 ・日本の黎明の描かれ方
第 3 回	古代の国家と社会	・律令国家の成立と変容 ・遺跡の復元を考える
第 4 回	中世社会の成立	・院政から武家政権へ ・絵巻物から見る中世社会
第 5 回	中世社会の諸相	・室町・戦国時代の動乱 ・戦乱の時代の英雄像と庶民像
第 6 回	幕藩体制の成立	・江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 ・江戸ブームの歴史と現在
第 7 回	幕藩体制の動揺	・社会の変動と幕政改革 ・村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む
第 8 回	近代国家の形成	・明治維新と立憲国家の成立 ・「明治」イメージの諸相
第 9 回	近代国家の展開	・デモクラシーと帝国主義 ・帝国を見せる：第五回国内勲業博覧会
第 10 回	近代の社会と文化	・明治・大正期の文化変容と工業化 ・伝統文化の発見：文化財保護前史
第 11 回	第二次世界大戦と日本	・軍部の台頭と総力戦 ・戦時下の雑誌を読む
第 12 回	戦後日本の歩み	・戦後改革と高度経済成長 ・戦後の戦争観
第 13 回	歴史叙述の歴史と現在	・日本の歴史はどのように描かれてきたか ・現代社会のなかの歴史
第 14 回	授業内試験	・授業全体のまとめ ・授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として前の回の授業で配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。

授業終了後はレジュメを読み返して復習し、内容の理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。配布するレジュメ等を用いて授業を行います。

【参考書】

佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000 年

藤井謙司・伊藤之雄編著『日本の歴史 近世・近現代編』ミネルヴァ書房、2010年

『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全4巻）山川出版社、2016年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 30%、期末試験 30%で評価します。
※期末レポートの提出、期末試験の受験は、いずれも必須とします。

【学生の意見等からの気づき】

より双方向的な授業となるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境を用意してください。

【その他の重要事項】

毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。

また、授業期間中、学習支援システムの掲示板およびメールで常時質問を受け付けています。

【Outline and objectives】

This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.

HIS100BE

東洋史序説

宇都宮 美生

授業コード：A3214 | 曜日・時限：木曜 4 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさげば、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、中国・日本・朝鮮の対外関係を中心に、アジアと欧米の関係史についても理解を深めていく。

【到達目標】

中国の影響を受けた日本が諸外国とどのように交流していったか、日本・中国の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているか、諸外国の歴史とともに具体的にみていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	古代の外交1	倭国の対外関係1
第2回	古代の外交2	倭国の対外関係2
第3回	古代の外交3	遣隋使
第4回	古代の外交4	遣唐使1
第5回	古代の外交5	遣唐使2
第6回	古代の外交6	遣唐使3
第7回	中世の外交1	日宋貿易
第8回	中世の外交2	日元貿易と元寇
第9回	近世の貿易	日明貿易
第10回	近世の貿易1	日清貿易1
第11回	近世の貿易2	日清貿易2
第12回	近世の貿易3	日清貿易3
第13回	近代の外交	日欧外交
第14回	中朝関係史	中国と朝鮮の対外関係史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

【参考書】

森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978年
鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017年、3800円+税
村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013年、1200円+税
中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979年、2500円+税
巖原俊洋、奈良岡聡智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016年、3000円+税

田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987年、13000円＋税

*このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

出席 30%、オンライン授業の場合はレポート、または対面（教室）授業の場合は試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。

身近な物事に関心を持ち、その歴史や変遷の経緯について考える姿勢を持ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ビデオ・カメラ撮影を禁じる。

【事務への連絡事項】

パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。

パソコンの貸し出しも希望します。

【Outline and objectives】

This course introduces an understanding of Japanese, Chinese and Korean histories in respect to international relations with other Asian and Western countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS100BE

西洋史序説

志内 一興

授業コード：A3215 | 曜日・時限：木曜 1限

春学期・2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地中海・ヨーロッパ世界の歴史を、古代世界から近代まで概説的に取り扱っていきます。大学に入学し、様々な授業を履修して学習を進める際の下敷きとなるような、ヨーロッパ史に関する基礎的知識の習得を目指します。

高校までの「世界史」の授業において、ヨーロッパ史の理解が不十分であったり、あるいは今ひとつ興味が持てないと感じていた学生をおもな対象としながら授業を展開します。歴史の基本的な部分をふまえてもらったうえで、さらに深い内容へと踏み込んでいきます。そしてそれはどんな意味を持つのか、それをどう理解すればよいか、他の歴史事象とどう関わっているか、さらには「いま」とどう関連しているかを問いつけながら、教室で受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

受講生がこの授業をつうじて興味・関心の幅をひろげ、大学で色々な勉強を主体的に進めていけるようになることを希望しています。

【到達目標】

歴史の事象に関する知識を単なる断片的な知識（年号や人名の羅列）とすることなく、それぞれの相互のつながりや意味を、受講生がしっかり理解できるようにすることを目標とします。そのために授業では、俯瞰的な視野からの説明を加え、地中海・ヨーロッパ世界の歴史を受講生各位が体系的に理解できるようにすることを目標とします。

また、歴史学で使われる様々な基本的概念や用語、研究の潮流などについても、授業の流れの中で随時説明を加えることで、受講生が今後、歴史学の議論に参加できるようになる手助けをするつもりです。

最終的には、過去のヨーロッパの歴史についての知識を「いま」のヨーロッパとつなげる大局的な視野が、受講生のそれぞれに備わることを目標とします。今後、受講生各自が社会に出て、さらには世界で活躍する時に、その大局的な視野を役立ててくれることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回ごとに時代とテーマを設定して講義を進めていきます。また随時、それまで扱ってきた、あるいはこれから扱う時代の流れを大づかみで提示する回を設定し、扱われた内容が相互に有機的に結びつくように、講義を展開する予定です。

毎回、出席確認を兼ねたりアクションペーパー等の提出を求めますので、質問やみずからの考えを記してください。随時授業内小レポートを課すこともあります。提出には Hoppii を活用する予定です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつかを紹介し、さらなる議論に活かします。それに応じ、授業内容が前後したり、変更されたりすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テーマ設定：「いま」のヨーロッパ世界
第2回	文字の歴史を通じた、各地の文化交流	オリエンタル文明から、地中海文明へ
第3回	ギリシア人の世界	「民主政」の概念と「オリエンタリズム」
第4回	ローマ国家の興隆	ローマ興隆の原因論と、その近代世界への影響：「三権分立」の歴史的背景を知る
第5回	ローマの平和と、古代地中海文化圏の形成	ローマの「平和」の実相：付 歴史的事実の解釈について
第6回	古代から中世へ	ヨーロッパ史の時代区分と、「ビレンヌ・テーゼ」「アナル学派」
第7回	ビザンツ文明圏の成立	「ギリシア正教」を核とするもう一つのヨーロッパを知る
第8回	「ヨーロッパ」の誕生	「カールの戴冠」の歴史的意義と、「ヨーロッパ」という概念を理解する
第9回	フランス・ドイツ国家の誕生と発展	中世盛期のヨーロッパ世界を理解する
第10回	文明の衝突？：中世シリア王国と「12世紀ルネサンス」	文明の共存の可能性を歴史のなかに見る

第 11 回	オスマン帝国とヨーロッパ	ヨーロッパとは何か、を外からの視線で理解する
第 12 回	ロシア世界の展開	ヨーロッパとロシアの関係を考える
第 13 回	16 世紀：ハプスブルクの時代	中世から、近世・近代への転換
第 14 回	授業の総括	授業内容を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校で使用した世界史教科書を用意し、あるいは世界史の参考書を手元に置き、授業前、および授業後に関係箇所を読むことで、記述内容に関する意味理解の深化に努めて下さい。

また効果的に授業を受講するため、理解できなかった内容に関し、積極的に質問する、あるいは毎回紹介する参考文献を自ら手に取るなど、主体的に授業に参加してくれることを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

参考文献は、授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、リアクションペーパーの内容や授業内小レポートの評価（40%）、および学期末の筆記試験ないしレポート（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

高校での世界史学習が不十分な学生に、十分配慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

授業内容についての質問、あるいは履修・出席について等の相談がある場合は、shiuuchi@rku.ac.jp までメールをください。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the general historical outline of the Mediterranean and European worlds from the classical times through the modern era. The goal of this course is to get basic knowledges about the history of European world. I hope the students of this class will use these knowledges to widen their own interests and to challenge themselves to various subjects and specialties.

HIS200BE

日本史特講 XI

遠藤 慶太

授業コード：A3216 | 曜日・時限：月曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、日本最初の公式な歴史書である『日本書紀』について、基礎的な知識や調査の方法を習得することを目的とする。『日本書紀』は古代史の基本史料であるだけでなく、古典として長く読み継がれてきた。現在のわたしたちが目にする活字や電子テキストの背後には、時代ごとの写本や刊本、個性的な解釈が存在する。そこでこの講義では、『日本書紀』の具体的な記事を取りあげ、テキストの特色にも注意しながら、歴史を書き記す意味について考えてゆく。

【到達目標】

『日本書紀』の成り立ちや特色について、史料的根拠や歴史学の研究の現状に即して理解し、その内容を説明できるようになることを目標とする。そのためには漢文で書かれた記事の内容やテキスト（写本、刊本、注釈）を比較しながら、史料批判に代表される歴史学の基本的な考え方を学び、論理立てて自ら判断する思考を養っていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、受講生の質問にも応えながら進みます。実際に史料を読んでもらうことや、調べてもらったことを発表してもらうこともあります。受け身ではなく意欲ある受講が、より深い学びにつながると考えるからです。前回の授業のリアクションペーパーからいくつか取り上げて授業内で紹介し、さらなる議論に活かしてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本書紀の成立	ガイダンス／日本書紀についての概説
第 2 回	日本書紀の受容史	日本紀議と写本のながれ
第 3 回	日本書紀の材料	大王系譜（帝紀）の成り立ち
第 4 回	神社の鎮座伝承	初期倭王権と崇神・垂仁朝
第 5 回	日本武尊をめぐって	倭王権の拡大と婚姻伝承
第 6 回	対外交渉記事①	神功皇后伝承と一次史料について
第 7 回	対外交渉記事②	倭の五王と古墳研究
第 8 回	日本書紀と漢籍	武烈天皇の暴虐記事をめぐって
第 9 回	仏教伝来の記事	六世紀の東アジアと倭国
第 10 回	聖徳太子について	聖徳太子信仰と研究の現状
第 11 回	押坂王家	百濟大寺の発掘調査と 7 世紀の王統
第 12 回	大化改新の再評価	木簡と日本書紀をめぐる史料批判
第 13 回	藤原鎌足の記事	功臣の評価と藤原氏の成立
第 14 回	壬申の乱をたどる	戦乱の叙述方法／まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回講義についての資料を配布するので、事前に読んでおいてください。とくに質問する項目については、各自で調べておいてください。この講義の準備・復習時間は各 2 時間を基本とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、必要は資料は配布する。

【参考書】

河内春人ほか編『日本書紀の誕生』（八木書店、2018 年）、図録『日本書紀の世界』（熱田神宮官庁、2020 年）、『芸術新潮』2020 年 2 月号

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、発言や発表など意欲ある講義参加（30%）、小テストやレポート課題（70%）を総合して行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間内で典籍や史跡の画像や江戸時代の木版本の実物をもてらり、関係書籍を紹介するなかで、受講生がより分かりやすく、さらに学ぶきっかけを提供できるよう心がける。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to teach students basic knowledge and methods of research about the old Japanese history book, 'Nihonshoki'. 'Nihonshoki' is not only a basic historical source of ancient history, but has been read as a classic for a long time. Behind the Type text and Electronic text that we see today, there are books that have been transcribed, published, and even unique annotations. In this lecture, we will take a concrete article on 'Nihonshoki' and consider the meaning of writing History while paying attention to the characteristics of each Text.

HIS200BE

東洋史特講Ⅶ

水上 和則

授業コード：A3217 | 曜日・時限：木曜 1 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、中国陶磁史について行う。
アジアの大国である中国は、芸術・文化が早くから栄え、周辺諸地域へ影響を与えつづけた。本講義では、土器や陶器・磁器のもつ様々な生産の歴史や造形美について学習する。個々の作品に美しさを感じ、各時代の陶磁器から誕生の背景をよみ、一貫してながれる中国のやきものの歴史を学んでゆく。

【到達目標】

私たちの暮らしに無くしてはならない“やきもの”に長い歴史のあることを学び、よく理解し、そのうえで身近な器の持つ美しさを再発見する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回講義を中心に行い、後半で画像提示をして陶磁作品鑑賞や講義の詳細解説を行う。

【授業形式】基本的に対面授業を行う。

キャンパス入校ルールに従い、オンデマンド授業に切り変える場合もある。フィードバックは基本的に授業内で行う。授業内で出来なかった質問等は、教員の学内メールにて受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中国やきものの曙	新石器時代陶器を生んだ風土とその材料である黄土は、どの様にしてできたのだろうか。
第 2 回	中国の土器	仰韶文化のやきものは、肌理の細かな粘土を用いること、回転台を使つての仕上げ作業を行ない、初めて窯を用いて焼成することが行われるようになる。
第 3 回	漢魏の明器	春秋・戦国時代には、大勢の殉葬者を出すことが現世権力の保持のためにマイナス要因であるため、人に似せた人形である俑を副葬したという。
第 4 回	越国窯のやきもの	越国では、全国に先立ち漢代に瓷器が生産された。生産された製品は全国にもたらされ、瓷器焼造の技法は近隣の諸国に伝えられ次々に生産窯が現れた。
第 5 回	原料のはなし	“やきもの”の原料である粘土はどのように生まれ、地表のどこにあるのか。ここでは、やきもの原料について学んでゆく。
第 6 回	白瓷のはじまり	人々の白い焼物を望む声は強く、遠く殷時代にはすでに白陶として無釉の白い焼物が作られる。
第 7 回	定窯の白瓷	『定窯』は、唐代に始まり、宋代から金代に隆盛し、元代初期頃まで命脈を保つ、白瓷の焼造を専業とした中国を代表する名窯である。
第 8 回	天目茶碗	我が国茶の湯文化における天目茶碗は、中国点茶法導入期において重要な位置を占めている。天目と呼ばれる茶碗の形や釉色について学んで行く。
第 9 回	龍泉窯の青瓷	16 世紀の大航海時代にあった世界中の港町からは、景德鎮の青花瓷と共に龍泉窯青瓷が例外なく出土するという。
第 10 回	景德鎮のやきもの	陶磁器に紋様を描くことが装飾の中心になると、景德鎮が世間で広く注目を浴び、以後景德鎮で創始された窯業技法が、全国の窯業生産に強い影響を与えることとなる。
第 11 回	大航海時代の青花（染付け）瓷器	景德鎮窯では、明代後期から清代初期に青花瓷や赤絵が作られた。貿易陶瓷として日本や朝鮮・東南アジア諸国にもたらされた。

第 12 回 意匠と年代

先進文化と共に中国から輸入された陶磁器は、各国で常に倣製の対象となっていた。倣製から始まるやきもの文化の、なかでも意匠について学んでゆく。美術館・博物館での見学等、やきもの鑑賞の楽しみの数々を紹介するこの講義のまとめと学びの確認を行う。

第 13 回 鑑賞とたのしみ

第 14 回 中国の陶磁器まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。事前に印刷テキストを配布する。他に、逐次印刷物を配布するので、該当箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

本講義用のプリントを配布する。

【参考書】

佐藤雅彦『中国陶磁史』平凡社 1978 年

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を実施する。

期末試験（75%）、平常点・その他提出物（25%）を合計し評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため、アンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

考古学・中国陶磁史・陶芸に興味をもつ学生の受講を歓迎する。

本講義用ノートを準備して、細かく筆記することを求める。

「実務経験のある教員による授業」

陶磁成形・釉調合・築窯技術など陶芸全般の実務経験がある。

学生各人の実技経験に応じ、やきものを身近に感じられるように指導を行う。

【Outline and objectives】

This lecture is about history of Chinese ceramics.

In China which was an Asian large country, art, culture prospered early.

And it was continued affecting the neighboring areas. We learn about the history and the molding beauty of various production of porcelain.

HIS200BE

東洋史特講Ⅷ

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金曜 3 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】

この授業を通じて受講生は、高校の世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された理解を自分の言葉で語るができるようになることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

古代以来の歴史背景から説き起こし、イスラームの誕生と展開、完成に至るプロセスを時系列に沿って学んでいきます。毎回の授業は講師による講義と受講生によるペーパーの作成・提出で構成されます。課せられるペーパーは毎回の授業内容に関する論述です。次回の授業で前回提出のペーパーの内容についてフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第 2 回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第 3 回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第 4 回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第 5 回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第 6 回	統一の再生と崩壊	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第 7 回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第 8 回	ウマイヤ朝の到達点	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第 9 回	ウマイヤ朝の衰退、対抗勢力の胎動	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第 10 回	アッバース朝の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第 11 回	革命をもう一度	アミンとマアムーンの内乱について。
第 12 回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第 13 回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出したペーパーを再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べることが予習になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎回授業資料を配布します。

【参考書】

・概説書

小杉泰、『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）、講談社、2016 年。
菊地達也編著、『図説イスラーム教の歴史』、河出書房新社、2017 年。

・工具書

大塚和夫ほか編、『岩波イスラーム辞典』、岩波書店、2002 年。

その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出のペーパー（60%）、期末試験（40%）

ペーパーについては毎回素点をつけ、その累積で評価します。

期末試験は論述試験となる予定です。

毎回のペーパーも試験も、ともに設問に対して自身の見解を論述するものになります。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことが評価の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業であれば毎回の授業資料は紙で配布する予定だが、必要と判断した場合には学習支援システムを利用する場合もあり得る。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておいてください。

【Outline and objectives】

In this class, We will learn the process of the earliest period in which the "Islam" we know today was formed through the introduction to the religious traditions of the ancient Mediterranean world, the emergence of the Prophet Muhammad on the Arabian Peninsula, the development into the Middle East and the division of the community. The students of this class need to form their own understanding of Islam's generation and development, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

HIS200BE

西洋史特講区

大和久 悌一郎

授業コード：A3219 | 曜日・時限：水曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一次世界大戦期のイギリスを検討する。特に、前線のみでなく、銃後とされた国内の工場における動員について、社会史的観点から検討し、近代から現代への画期とされるこの時期の変化を、イギリス史の文脈に位置付けながら考察していきたい。史料としてはイギリス公文書館の政府関連資料および新聞や日記を利用する。

【到達目標】

イギリス近現代史の概説を把握することができる。また、第一次世界大戦についての知識を得るとともに、社会史、経済史、政治史、文化史それぞれのアプローチを整理することができる。またそれらを通して、現代における国家と社会との関係について、比較史的な議論を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回ごとにプリントを配布し、それに従って講義を進めていきます。また各回ごとにリアクションペーパーでの質問・感想・意見などの提出を求めます。またいただいた回答については、次の回に解説や応答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	イギリスの地理について
第 2 回	イギリス史概説①	産業と帝国
第 3 回	イギリス史概説②	二度の世界大戦と福祉国家
第 4 回	イギリス史概説③	サッチャー主義以後の政治とコモンウェルス
第 5 回	第一次世界大戦概説	総力戦と銃後
第 6 回	イギリスにおける銃後の動員①	ロイド＝ジョージと経済政策
第 7 回	イギリスにおける銃後の動員②	大量生産と女性の労働
第 8 回	イギリスにおける銃後の動員③	賃金とストライキ
第 9 回	総力戦と社会①	労働と管理
第 10 回	総力戦と社会②	都市の変貌
第 11 回	総力戦と社会③	爆薬と医療
第 12 回	総力戦と社会④	家族とコミュニティの変容
第 13 回	まとめ	得たものと失ったもの
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にイギリス史の概説書を読んでおくこと。授業後はプリントの再読が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40 パーセント、平常点 60 パーセント。平常点には、リアクションペーパーの回答も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Especially from 1960s, many historians try to analyze WWI in Britain, and one of topics is "home front", munitions factories and their workers and so on. And they discussed social change in Great War, or relationship between state intervention and social, economic, and political situation. So I will review and discuss these topics again, not only about social, economic, but also cultural aspects, with documents of the Ministry of Munitions and diaries, newspapers.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験 I

小川 滋之

授業コード：A3420 | 曜日・時限：火曜 1 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの寒帯から熱帯、乾燥帯など様々な地域の植生を取り上げ、その成因について気候や地質、地形、動物、人間生活などとの関係から考える。

世界中には植物が見られない地域はほとんどなく、どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる。ただ見ていけば“植物”で終わるが、それぞれ地域ごとに特徴が異なる。こうしたことから、たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に、どんな植物が分布するのか、なぜ、そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる。このように植物から地域を理解する考え方を学ぶのがこの授業の目的である。

【到達目標】

- (1) 世界には様々な植生分布があることを理解すること。
- (2) その地域の気候、地質、地形などから植生分布を考えられるようになること、あるいは植生分布から気候、地質、地形などが考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを課題し、授業終了までに解答する方法で行う。野外実習は、講義で紹介した植生分布を実際に観察し、現地での成因についてディスカッションをしてもらう。

対面での授業が難しい場合は、ミーティングアプリ Zoom によるオンラインでの講義を行い、観察や実験の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	植生地理学とはどのような分野なのか。
第 2 回	植生分布に影響を及ぼす要因	気候、地質、地形が植生分布に及ぼす要因を解説する。
第 3 回	アジアの植生① 極東ロシアと北海道との関係	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する。
第 4 回	アジアの植生② 朝鮮半島と本州との関係	本州にみられる冷温帯林の特徴、世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する。
第 5 回	野外実習（変更あり）	東京近郊において植生分布を左右する要因を観察する。
第 6 回	アジアの植生③ 屋久島	縄文杉がみられる森林の成り立ちを気候と花崗岩による地質から解説する。
第 7 回	アジアの植生④ 沖縄島、台湾、香港	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する。
第 8 回	アジアの植生⑤ 東南アジア	熱帯林の種類と特徴、フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する。
第 9 回	ヨーロッパの植生① 北欧フィンランドとスコットランド	北欧の亜寒帯針葉樹林を事例をもとに、北東アジアの植生分布との関係を解説する。
第 10 回	ヨーロッパの植生② 自然植生とガーデン文化との関係	イングリッシュガーデンを事例に、ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する。
第 11 回	ヨーロッパの植生③ 南フランス	地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する。
第 12 回	ヨーロッパの植生④ スペイン領カナリア諸島	大西洋のガラパゴスといわれる島を事例に、海洋島と乾燥地域の植生分布について解説する。
第 13 回	オセアニアの植生 ニュージーランド	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題。温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する。
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回内容の予告をする。次回、どのような地域を扱うのか事前に調べておくこと。準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用せず。毎回の授業に必要な資料を配布する。

【参考書】

地図帳があると役立つ。参考文献や資料は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a（小レポートなど、50 点満点）で評価する。小レポートは、授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して終了までに提出するという方法で行う。

オンライン授業の場合、期末試験あるいは代替レポート+小レポートで採点する。小レポートの方法は、授業中に指示するが期限内での提出で出席とする。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

野外実習は5月中に行う（変更あり）。

【Outline and objectives】

This class introduces basic thinking of vegetation geography. Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川 滋之

授業コード：A3421 | 曜日・時限：火曜 1 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は土壌地理学に関わる内容を扱う。前半は土壌の性質や構造、生成という土壌の基礎を学び、世界中にみられる土壌の分布と成因について考える。後半は、野菜種子との関係、有機農業、アジアの伝統農業など、比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ。

土壌は、その地域の気候や地質、地形、植生などの影響を強く受けて成立したものであり、人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる。しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある。授業を通して、人間が生活する上で欠かせないものだとすることを理解してもらおうのが目的である。

【到達目標】

- (1) 土壌の必要性について考えられるようになる
- (2) 土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
- (3) 何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実験実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを提出し、授業終了までに解答する方法で行う。実験実習は、講義で紹介した土壌を実際に観察し、その成因や環境についてディスカッションをしてもらう。

対面での授業が難しい場合は、ミーティングアプリ Zoom によるオンラインでの講義を行い、実験実習の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか、講義の内容と目標を紹介。
第 2 回	土壌とは何か①	土壌の性質と構造。
第 3 回	土壌とは何か②	土壌の生成。異なる生成段階の土壌を室内で観察。
第 4 回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法とは。
第 5 回	土壌の分布②	日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布。
第 6 回	土壌の分布③	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布。
第 7 回	土壌と農業①	農地の土壌環境、土壌の状態を診断する方法とは。
第 8 回	土壌と農業②	土壌と野菜種子との関係。
第 9 回	土壌と農業③	土壌にやさしい有機農業とは。
第 10 回	実験実習①（変更あり）	土壌の性質と構成を野外で観察。
第 11 回	実験実習②（変更あり）	様々な土壌を診断。
第 12 回	土壌と農業④	アジアの伝統農業とは、東南アジア山岳少数民族の事例から解説。
第 13 回	野菜の地理学	野菜は、どのように生まれて、どこから来たのか。野菜の伝播について解説。重要ポイントを再確認。
第 14 回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回内容について予告を行う。事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと。準備学習・復習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業に必要な資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業中に参考文献や資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a（小レポート等、50 点満点）で評価する。小レポートは、毎回の内容に関わるテーマを講義中に提出して終了までに提出するという方法で行う。

オンライン授業の場合、期末試験あるいは期末レポート（100点満点）＋小レポートなど（50点満点）で採点する。小レポートは、毎回の授業の最後に出題して締切日時までに提出するという方法で行う。なお、小レポートの提出をもって出席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業内で指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

実験実習：11月中に東京近郊あるいは室内で行う。

オンライン授業の場合、実験実習はオンラインで行うことを予定する。

【Outline and objectives】

This class introduces basic thinking of soil geography. Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

GEO200BF

気候・気象学及び実験 I

山口 隆子

授業コード：A3422 | 曜日・時限：火曜 1 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートについては、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOMによるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版、261p。
仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第4版』。古今書院、144p。
森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』。祥伝社、200p。
マーク＝マズソン（森島清監訳）（2016）：『気候』。丸善、198p。
古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』。講談社、301p。
小倉義光（2016）：『一般気象学 第2版補訂版』。東京大学出版会、320p。
水野一晴（2018）：『世界がわかる地理学入門』。筑摩書房、318p。
富田啓介（2017）：『はじめて地理学』。ベレ出版、284p。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70%、課題：30%

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布するため、PCもしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。なお、本科目「II」の受講にはその内容理解の点から、この「I」の履修を望む。さらに、本講義の受講生には予め1年次に「地学実験」を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は48名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口 隆子

授業コード：A3423 | 曜日・時限：火曜 1 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートは、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候を身近にとらえる（導入）	本授業全体の概要。気候に関する博物館、科学館。
第 2 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 3 回	世界の気圧分布、地上風系、海流	気圧分布、季節風、風成循環、熱塩循環
第 4 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 5 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 6 回	世界の気候区分	様々な気候区分
第 7 回	世界の気候景観	気候帯ごとの気候景観
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化（1）	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	地球温暖化（2）	地球温暖化による影響
第 11 回	酸性雨	大気汚染
第 12 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 13 回	気候変動・古気候	第四紀の気候変化と歴史時代以降の気候変化
第 14 回	気候学を学び続ける 秋学期のまとめ（筆記試験）	どのように研究へと発展させていくか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版、261p。
 仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第4版』。古今書院、144p。
 森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』。祥伝社、200p。
 マーク＝マズソン（森島濟監訳）（2016）：『気候』。丸善、198p。
 古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』。講談社、301p。
 小倉義光（2016）：『一般気象学 第2版補訂版』。東京大学出版会、320p。
 水野一晴（2018）：『世界がわかる地理学入門』。筑摩書房、318p。
 富田啓介（2017）：『はじめて地理学』。ベレ出版、284p。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70%、課題：30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。本科目「I」を履修していることが望ましい。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験 I

小寺 浩二

授業コード：A3424 | 曜日・時限：木曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識の習得を目指す。地域・課題としては、国内外の広範囲を対象とし、具体的な水問題に関する幅広い知識を習得する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎能力を修得する。

また、具体的な地域の水のサンプリングから分析まで行い、その結果を空間解析した上で主題図として表現する方法まで学び、具体的な水環境問題に取り組む基本的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎水文学としての水収支・水循環の視点から、水の性質がその場所の環境とどのように反応しその場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。また、水文地理学的視点に立った水環境情報の整理・解析・表現法についても指導する。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水・浸透・流出・蒸発散の地域特性
第 2 回	河川の基礎	河川の水環境と調査法 水害・土砂災害と砂防・水資源の利用
第 3 回	湖沼の基礎	湖沼特性と集水域環境 湖沼の水収支・熱収支
第 4 回	地下水の基礎	水循環と地下水 地下水流動
第 5 回	雪水の基礎	降雪・積雪・融雪現象
第 6 回	海洋の基礎	沿岸域・閉鎖性水域
第 7 回	研究・調査計画	具体的課題決定と準備
第 8 回	調査法の基礎と準備	現地調査準備
第 9 回	調査結果の整理と解析	調査記録簿・台帳・分布図
第 10 回	水質分析①	濾過・アルカリ度・COD
第 11 回	水質分析②	シリカ・主要溶存成分・TOC
第 12 回	分析結果の整理と解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第 13 回	様々な水質表現法	分布図の作成と解釈 土地利用変化と流出変化
第 14 回	調査結果の考察	GIS を用いた解析と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二 (2019)：『自然地理学（海洋・陸水）』、法政大学通信教育部

【参考書】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』、東海大学出版会、211p、¥2,625。
・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院、168p、¥2,625。
その他 授業ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題・試験の結果を総合して評価する。配点は、出席 3 割・課題 4 割・試験 3 割を原則とするが、授業中に実施する実験レポートや小テストを評価に加え、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

実験や実習に関する要望が多かったため、今年度は、適宜組み入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。あわせて海洋陸水学および実験Ⅱ・自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 自然地理学・水文学・陸水学
<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. I make domestic and abroad wide range the subject and acquire wide knowledge about a water problem in detail as an area problem.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

小寺 浩二

授業コード：A3425 | 曜日・時限：木曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内外の具体的な課題を中心とする。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を身につける。

特に、①様々な水環境問題に関するレビュー、②具体的な資料の収集、③調査・研究法、④調査結果・収集データの整理、⑤各種データの解析、⑥結果の GIS を用いた表現などについて具体的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎を踏まえて高度な理論と応用を理解する。
第 2 回	陸水学の理論と応用	陸水学全般の理論と応用を理解する
第 3 回	河川学の理論と応用	流域特性と流域 GIS 物質収支モデル
第 4 回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第 5 回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第 6 回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第 7 回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第 8 回	研究・調査計画	先行研究と地域特性
第 9 回	現地調査法	観測機材の補正・準備
第 10 回	現地調査結果整理解析	記録簿・台帳
第 11 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度・EC・pH
第 12 回	水質分析②	メンブラン濾過・シリカ・TOC・全窒素・全燐
第 13 回	水質分析結果整理解析	シュティフダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第 14 回	総合的な解析・考察	GIS による分布図と解析・考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二(2019):『自然地理学(海洋・陸水)』,法政大学通信教育部

【参考書】

・地学団体研究会編(1995):『新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』,東海大学出版会,211p,¥2,625
 ・新井 正(1994):『水環境調査の基辞』,古今書院,168p,¥2,625.
 授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の実験・課題・試験を総合して評価する。配点は、実験3割、課題4割、試験3割を原則とするが、各授業に関する実験レポートや小テストを行ない、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

国内の事例だけでなく、国外についての要望もあったため、今年度は、国内・国外の具体的な調査・研究事例を扱う。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学および実験Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習(2)・地学実験・地理情報システム(GIS)などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical knowledge and upbringing of the application ability about the ocean and inland water science" which is the important one field. The content of the lecture will focus on specific domestic and international issues..

HUG200BF

社会経済地理学(1)

小原 文明

授業コード：A3426 | 曜日・時限：金曜 2 限
 秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講義は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。具体的には、発生場所や時代、内容などの観点から多岐にわたる都市問題を分類し、その背景や要因を社会的・空間的観点から考えていきます。

【到達目標】

本講義を通じて、地理学の立場から都市に関わる基本的な概念を理解できるようになります。また、都市問題を考えることを通じて、都市に関わる様々な事象の関係性や因果関係を、地理的(=空間的)な観点から捉える力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。前述の通り、都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業中ならびに授業外でレポート課題を課すことがあります。授業外のレポート課題では、受講生自身が調べ、分析・考察することが求められます。

なお、課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

今年度、本授業では基本的に対面形式の授業を行いますが、場合によっては、オンライン形式の授業になる可能性があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
 あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/都市の概念・成り立ち①	講義の方針・内容について/都市の概念・定義
第 2 回	都市の概念・成り立ち②	集落の成立
第 3 回	都市の概念・成り立ち③	都市の構造
第 4 回	都市問題①	都市問題の種類、発生場所
第 5 回	都市問題②	途上国の都市問題①
第 6 回	都市問題③	途上国の都市問題②
第 7 回	都市問題④	都心部の都市問題①
第 8 回	都市問題⑤	都心部の都市問題②
第 9 回	都市問題⑥	インナーシティの都市問題①
第 10 回	都市問題⑦	インナーシティの都市問題②
第 11 回	都市問題⑧	都市縁辺部の都市問題①
第 12 回	都市問題⑨	都市縁辺部の都市問題②
第 13 回	都市問題⑩	都市問題の時代的変遷
第 14 回	総括	まとめ・補足

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義中に指示するレポート課題(授業内課題・授業外課題)に取り組んでもらいます。授業外のレポート課題では、実際に調査を行ってもらい、その上で分析・考察することを求めます。また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。なお、本授業の授業外学習(レポート課題・準備・予習・復習)は各 4 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

本講義に関連する参考文献は講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業内小レポート課題・授業外課題等): 30%, 筆記試験(持ち込み不可): 70%。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は、できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces the urban structures and the urban problems to students taking this course.

The goals of this course are to understand causes and influences of urban problems and the basic geographical concepts, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

HUG200BF

社会経済地理学（2）

伊藤 達也

授業コード：A3427 | 曜日・時限：火曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではわが国の水問題を中心に全般的に学ぶとともに、自ら「身近な環境問題」を事例にレポートを作成することによって環境問題の現実の理解を目指します。

【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。自らが作成するレポートからは、環境問題の現実を知り、より具体的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD、PPT 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義概要と目的の紹介
第 2 回	環境問題を考える視角	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します
第 3 回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します
第 4 回	水資源利用の歴史	水資源利用の歴史について説明します
第 5 回	ダム・河口堰計画の特徴と環境コスト	ダム・河口堰による水資源開発の方法と環境コストについて説明します
第 6 回	環境問題を考える視角	日本の環境問題を考える視角について長良川河口堰問題を中心に説明します
第 7 回	全国のダム・河口堰反対運動	ダム・河口堰反対運動について説明します
第 8 回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します
第 9 回	利根川の水問題	利根川の水利用の現況と問題点について説明します
第 10 回	脱ダムの地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します
第 11 回	長良川河口堰開門検討委員会	長良川河口堰開門検討委員会の活動について説明します
第 12 回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します
第 13 回	カッパと水辺環境保全・地域振興	地域社会に占めるカッパ等妖怪の果たす役割について説明します
第 14 回	水環境を取り込んだ生活再編成	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。そこからレポートのテーマを探してください。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。レポート作成に 2 時間をあててください。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、レポート 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline and objectives】

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general, and aim to understand the reality of environmental problems by creating report on real environmental problem as examples.

HUG200BF

社会経済地理学（3）

片岡 義晴

授業コード：A3428 | 曜日・時限：木曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「山村」を対象にして、その問題点を多面的に学びます。

【到達目標】

山村の特色、山村政策・対策、集落の現在、山村の産業、地域づくりなど、日本の「山村」が抱える問題点に関する客観的な理解度が深化し、それを通して日本社会の構造（＝仕組み）の一端が理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

かつて「過疎化」が進む代表的な場所として「山村」はとらえられてきました。一時期、過疎化は緩和されたと思われましたが、近年再び過疎化は進み、「限界集落」という用語も使われ、それに加えて「地方消滅」の議論すら登場するようになりました。過疎化の進展と近年の動向、産業（林業、農業）の動向、集落の機能と役割、地域づくりの展開等を検討することを通して、現代山村が抱える問題点について明らかにしていきます。「限界集落」「地方消滅」等の流行の用語についても検討を加えます。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の山村の現局面 (1)	「山村」の概念と山村問題の地域性
第 2 回	日本の山村の現局面 (2)	山村問題の構造（都市資本・政策、山村内部の関連性）
第 3 回	過疎化の進展と山村振興策 (1)	過疎化の進展過程 山村問題の構造（都市資本、政策、山村内部）
第 4 回	日本の山村の現局面 (3) 過疎化の進展と山村振興策 (2)	山村振興法、過疎法
第 5 回	限界集落・消滅集落 (1)	限界集落のとらえ方、集落の機能
第 6 回	限界集落・消滅集落 (2)	山村の「空洞化」と「限界集落」論の問題点
第 7 回	「平成の大合併」と山村	大合併の要因と山村の危機
第 8 回	山村の産業 (1)	日本林業の動向
第 9 回	山村の産業 (2)	環境問題への注目と林業振興策
第 10 回	山村の産業 (3)	中山間地域農業の現状
第 11 回	山村の産業 (4)	中山間地域等直接支払制度
第 12 回	地域づくり (1)	山村堰堤論（静岡県龍山村森林組合の事例）
第 13 回	地域づくり (2)	自分たちで命を守ろうとした村（岩手県旧沢内村の事例）
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「地方」に関する報道に注視して下さい。「地方」に関するニュースは、東京近郊に居住していると、新聞ではその「片隅」にしか見いだせません。また、報道されても極めて「牧歌的」に語られるか、あるいは危機窮まっているかのような極端なものが多いのも事実です。それらの真偽のほどは如何に、と考えながら情報収集して下さい。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。プリントを配布します。

【参考書】

小田切徳美（2009）『農山村再生－「限界集落」問題を越えて－』岩波書店（岩波ブックレット）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 100 % で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「山村問題」の解決策を提示することを、この授業ではめざしません。授業に対して「批判ばかりしている」という評価もしばしば受けます。しかし「客観的事実」を把握し、そのメカニズムを考えることから出発しない限り、真の意味での「解決策」にはなり得ないはず。「安易」な解決策こそが、百害あって一利なしの、問題をより一層複雑化させている要因です。授業で「解決策」を示せるくらいなら、少なくとも日本からは、地域・社会問題など一掃されているはずはです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Rural Problems in Japan.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）I

中山 大地

授業コード：A3471 | 曜日・時限：金曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS もしくは QGIS を用いて、GIS の基本的な操作方法を習得することを目標とする。本講義ではさまざまな GIS データを用いて、ベクタ型・ラスター型データの基本的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】

GIS を用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 分程度の説明と 80 分程度の実習を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS の基本的な操作 1	GIS の概念と構成、空間データの視覚化
第 2 回	GIS の基本的な操作 2	地図と GIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現
第 3 回	属性テーブル入門 1	属性テーブルの概念、基本的な操作
第 4 回	属性テーブル入門 2	属性検索
第 5 回	属性テーブル入門 3	属性結合
第 6 回	ネット上のデータの利用 1	センサスデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第 7 回	ネット上のデータの利用 2	センサスデータのマージ
第 8 回	ネット上のデータの利用 3	国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換
第 9 回	数値地図の利用 1	数値地図のインポート、座標系の変換
第 10 回	位置情報の取得と表示 1	経緯度座標からの XY データ作成
第 11 回	位置情報の取得と表示 2	アドレスマッチングによる XY データの作成
第 12 回	人口分布の推定 1	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 13 回	人口分布の推定 2	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 14 回	レポートの作成	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

【参考書】

野上ほか (2001) 『地理情報学入門』、古今書院。

佐土原ほか (2005) 『図解!ArcGIS 一身近な事例で学ぼう』、古今書院。

高橋ほか (2005) 『事例で学ぶ GIS と地域分析— ArcGIS を用いて』、古今書院。

村井ほか (2005) 『GIS 実習マニュアル ArcGIS 版』、日本測量協会。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (80%)、平常点 (20%) で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70% 以下の学生に対しては成績をつけない。毎回の課題提出をもって平常点とする。レポートは GIS の操作マニュアルの作成である。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。

【その他の重要事項】

情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう。受講を希望する学生は必ず初回の授業に出席すること。受講を許可されたにもかかわらず授業に出てこない学生が毎年いる。他の学生に迷惑をかけないように、選抜されたという意識を持って授業に臨むこと。遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10分以上の遅刻2回で欠席1回とするから注意すること。

【Outline and objectives】

The objective of this lecture is to learn the basic operation of GIS using ArcGIS or QGIS, which are desktop GIS. In this lecture, we learn basic analysis methods of vector and raster data using various GIS data.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）Ⅱ

中山 大地

授業コード：A3472 | 曜日・時限：金曜2限

秋学期・2単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フリーのデスクトップ型GISであるQGISを用いて、GISの応用的な分析手法を学ぶ。

【到達目標】

QGISを用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを収集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

PBL (Problem Based Learning) を行う。2名一組のグループごとに、ある地域の災害避難場所を仮定し、GISを用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3回目の実習終了時に全体的な計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながら作業を行う。毎回の作業後には作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	GISを用いた避難場所の評価手法の説明1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第2回	GISを用いた避難場所の評価手法の説明2	ジオプロセッシングを用いた避難圏の人口推定
第3回	計画書の作成	作業方針を決定
第4回	作業1	災害弱者の定義、避難所選定方針の決定
第5回	作業2	必要なデータの入手1（位置情報を取得することにより、避難所データを入手・作成する）
第6回	作業3	必要なデータの入手2（属性結合による人口データの作成）
第7回	作業4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出1（ベクトルデータからラスタデータへの変換、空間分割）
第8回	作業5	ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第9回	作業6	結果の検討1（避難所・避難圏の評価）
第10回	作業7	キャッチアップ
第11回	作業8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出2（別シナリオによる作業）
第12回	作業9	結果の検討2（避難所・避難圏の再評価）
第13回	作業10	レポート作成1（結果の地図化など）
第14回	作業11	レポート作成2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

QGISは以下のURLからダウンロードしてインストールすること。

<https://qgis.org/ja/site/forusers/download.html>

Windows 使用者は QGIS スタンドアロンインストーラの 64 ビット版最新バージョン。

macOS 使用者は QGIS macOS インストーラの最新バージョンをインストールしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。自習ビデオとプリントを公開する。

【参考書】

自習ビデオとプリントを公開する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題1回（最終報告書、100点満点）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率70%以下の学生に対しては成績をつけない。毎回の作業報告の提出をもって出席とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

フリーの GIS(QGIS)を受講生の PC にインストールするため、PC(Windows10 もしくは Mac) が必須です。スマートフォンにはインストールできません。

【その他の重要事項】

質問は授業支援システムで随時受け付けます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using QGIS.

HUG200BF

社会経済地理学（4）（エコツーリズム）

呉羽 正昭

授業コード：A3481 | 曜日・時限：月曜 5 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域的スケールでツーリズムに関する特徴について詳説します。加えて、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、具体的な地域事例を示しながら解説します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、自然環境と観光・ツーリズムとの関係について、新しいツーリズムの形態であるエコツーリズムについて、日本における自然ツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	観光の概念 — 観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第 2 回	観光・ツーリズムの構造 — 観光・ツーリズムの要素と構造	観光・ツーリズムの要素や構造を解説します
第 3 回	観光地理学の概念 — 概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第 4 回	観光地域の変容プロセス — モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第 5 回	観光・ツーリズムの変遷 — 古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第 6 回	自然環境と観光・ツーリズム — 自然環境と観光・ツーリズムとの関係とその変遷	自然環境と観光・ツーリズムとの関係について解説します
第 7 回	エコツーリズムの定義 — エコツーリズムとは何か？	エコツーリズムとは何かを解説します
第 8 回	エコツーリズムの発展 — エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第 9 回	エコツーリズムの特徴と展望 — 西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第 10 回	ジオツーリズムの特徴と展望 — 国内外の事例	エコツーリズムに類似する点の多いジオツーリズムに関して、国内外の事例をもとに解説します
第 11 回	日本の自然ツーリズム (1) — 避暑の地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第 12 回	日本の自然ツーリズム (2) — 湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第 13 回	日本の自然ツーリズム (3) — リゾートの地域的展開	リゾートの地域的展開に関して解説します
第 14 回	日本のルーラル・ツーリズム — ルーラル・ツーリズムの地域的展開	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に既存文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にアクションペーパーにまとめます。講義後、アクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。
(財)日本交通公社編 2004『観光読本第 2 版』東洋経済新報社。
真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
ピアス、D. 著、内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
呉羽正昭 2017『スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究』二宮書店。
矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験（全体の 60 %）で評価します。また、毎時間提出してもらうアクションペーパーの記載内容を評価して平常点（同 40 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline and objectives】

Instructor will explain various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, the instructor will explain various features, problems and future challenges of ecotourism and nature-based tourism that encompasses it, while showing specific regional examples.

HUG200BF

文化地理学（1）

中俣 均

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金曜 1 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(人文) 地理学の本流である（と私は考える）文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を、学説史の中に適切に位置付けながら、解説する。

【到達目標】

(人文) 地理学の本流である文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を学ぶこと、とくに C.O.Sauer および Berkeley School の文化地理学の内容を理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 世紀前半に隆盛をみた C.O.Sauer を学祖とするパークレイ学派の文化地理学を中心に講義し、併せて日本における文化地理学の発生やその伝統についても触れる。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付けて受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	近代地理学の発生	文化地理学成立の背景
第 3 回	C.Sauer の文化景観論	文化景観形成モデルについて
第 4 回	C.Sauer の地理学—文化伝播について	農耕起源論など
第 5 回	文化地理学の五つのテーマ	文化地理学研究の手順
第 6 回	Sauer と Berkeley 学派	文化生態学の成立
第 7 回	文化生態学のモノグラフ	奄美諸島における「サトウキビ栽培と住民生活
第 8 回	照葉樹林文化論	日本版の文化生態学
第 9 回	日本列島の文化史 (1)	先史時代の景観形成プロセス
第 10 回	日本列島の文化史 (2)	水田稲作農耕の進展
第 11 回	日本列島の文化史 (3)	米を基軸にした社会の展開と景観
第 12 回	日本列島の文化史 (4)	高度成長期以降の社会変化と景観
第 13 回	Sauer の文化概念の問題点	素朴実証主義への批判
第 14 回	沖縄八重山のマラリア問題について	千葉徳爾の文化生態学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980。
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575。
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520。
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果 (70 %) と平常点 (30 %) を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらう課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of classic Cultural Geography.

HUG200BF

文化地理学（2）

中俣 均

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金曜 1 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（人文）地理学の主流である（と私は考える）文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野の最新の知識や概念、方法を解説する。したがって、春学期の文化地理学（1）と内容的に深い関連をもつので、文化地理学（1）の履修を前提として講義を進める。

【到達目標】

（人文）地理学の主流である文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野での最新の知識や概念、方法を学ぶことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の講義を踏まえながら、1980年代から顕著になってきた新しい「景観」概念と、いわゆる Cultural Turn(文化論的転回)を経た「新しい文化地理学」について紹介し、同時にそれらの具体的研究成果の意味なども探ってみたい。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	春学期の復習と補足
第2回	Berkeley 学派の文化概念とその批判	素朴実証主義への批判
第3回	景観概念の再考・拡張・変化	景観の客観性への懐疑
第4回	主観の地理学(1)	E.Relph と Yi-Fu.Tuan
第5回	主観の地理学(2)	人文主義地理学
第6回	風水論(1)	景観創造の主観の解説
第7回	風水論(2)	日本の古代宮都の立地原理
第8回	風水論(3)	現代に生きる風水
第9回	場所イメージ論	共同主観の形成過程
第10回	文化概念の再考	構築主義へ
第11回	競われる空間の意味	空間の意味の争奪戦
第12回	伝統文化の創造	Invented Tradition という考え方について
第13回	景観のイデオロギー性	民族・ジェンダー
第14回	新しい文化地理学	社会理論への接近

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらにA-4サイズのペーパーファイルを1冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著(2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980.

◎高橋伸夫編著(1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575.

◎中川正/森正人/神田孝治(2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520.

また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果(70%)と平常点(30%)を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらった課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】

1限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情(数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況)についても理解してほしい。

【その他の重要事項】

できるだけ文化地理学(1)を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of contemporary Cultural Geography.

PSY200BG

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】

心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。

- (1) 人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
- (2) 人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
- (3) 生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるようにビデオや DVD などの視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、受講者数が多いことから2回の仮登録までを履修者として、以降制限します。

課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第 2 回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。
第 3 回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するかを理解する。
第 4 回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第 5 回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。

第 6 回 言語の発達

ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。

第 7 回 親子関係の発達

「ひとりでも泣かないよ」乳幼児期の親子関係を中心に、基本的な理論を習得する。

第 8 回 友人関係の発達

友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。

第 9 回 知能の発達

頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。

第 10 回 意欲・動機づけの発達

やる気のメカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。

第 11 回 自我の発達

一生涯続く「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。

第 12 回 性役割の発達

ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、

第 13 回 道徳性の発達

いくつかの研究から考えてみる。善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達の違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。

第 14 回 発達障害の理解

発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。わからないことは授業で質問するようにし、授業後は復習する。復習したことが理解されているかを確認するため、授業の最初に前の時間のレビューや質問に答えるようにするが、専門用語などについてまとめるようにする。予習復習には、各2時間かけるようにする。

【テキスト（教科書）】

『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著（福村出版）

【参考書】

『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）

『発達心理学（シリーズ 心理学と仕事）』二宮克美・渡辺弥生編著（北大路書房）

『まんがでわかる発達心理学（仮）』（5月刊行予定）渡辺弥生監修（講談社）

【成績評価の方法と基準】

オンデマンド形式と対面のハイブリッド形式を予定していますが、その時の状況によって変更場合があります。支援システムを参考にしてください。

毎回のミニクイズの回答（正答かどうか）とおおよそ4回ごとのミニ課題2回の総合点で評価することとします。ただし、ミニクイズの回答の評価は全クイズ数の3分の2を回答した人を対象にします。ミニクイズの評価は40%です。ミニ課題は2つとも提出することが前提で、評価は全体の60%となります。ミニ課題だけ提出、ミニクイズだけ回答だけでは、成績を評価しません。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習ができるような課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

授業支援システムに登録すること。初回を重視します。

【発達心理学】

<https://sites.google.com/site/emywata/Home>

【Outline and objectives】

From the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly, we will attempt to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified. We will aim to consider how to contribute to society by the researches.

CUA200BA

民俗学 I / 民俗学 I (資格)

室井 康成

授業コード：A3809,A3859 | 曜日・時限：木曜 1 限

春学期・2 単位

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3859）で履修する。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 - 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式にて行ないますが、今後の社会情勢の変化に応じてオンライン授業に切り替わった場合は、zoom による同期配信で講義を行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	DVD『柳田国男—民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第 3 回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第 4 回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 5 回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 6 回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第 7 回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的立場を押さえます。
第 8 回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第 9 回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第 10 回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第 11 回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第 12 回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。

第13回 「公民」養成論としての民俗学へ

戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

第14回 試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

室井康成『柳田国男の民俗学構想』（森話社）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時に課すりレポート。その内容のみで成績を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

zoomによる同期配信を行ないますので、受講可能な機器をご準備ください。

【その他の重要事項】

本科目に関わる情報は、講師のTwitter (@MuroiKosei)でも発信しますので、「学習支援システム」での情報とあわせて、ご確認ください。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

CUA200BA

民俗学Ⅱ／民俗学Ⅱ（資格）

室井 康成

授業コード：A3810,A3860 | 曜日・時限：木曜1限

秋学期・2単位

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3860）で履修する。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの日本人の加齢の過程で行なわれる「七五三」「成人式」が、どのように形成されたのかを民俗学の立場から考えていく。具体的には、今日私たちが「当たり前」「常識」と考える事象が形成されるに至った歴史的要因・背景を明らかにし、今後の「民俗」との付き合い方を展望する。

【到達目標】

「民俗（folklore）」とは伝承的知識の総体と考えてよいが、その特質について、日本人にとって身近な人生儀礼である「七五三」および「成人式」を例に検討する。これらの行事は、多くの履修生にとって父母世代も経験したものであるため、これを行なうのが「当たり前」だと考えられがちだが、その「当たり前」という感覚がある程度一般化したのは、そう古いことではない。本講義では、それらの成立史を踏まえ、「民俗」の相対化を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式にて行ないますが、今後の社会情勢の変化に応じてオンライン授業に切り替わった場合は、zoomによる同期配信で講義を行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義全体の説明をしますので、履修希望者は必ず参加のこと。
第2回	「民俗」の概説	民俗および民俗学について概説します。
第3回	前近代の歳祝い「髪置き」「袴着」「帯解き」	明治維新以前に行なわれていた歳祝いについて概説します。
第4回	明治維新と都市住民の急増	急激な都市化が民俗文化に与えた影響を考えます。
第5回	「規範」の希求と商業主義の相乗	「七五三」が成立した社会的背景を考えます。
第6回	民法の制定と「民俗」との乖離	民法の制定により、それまで地域によって異なっていた成人年齢や「大人」の意識が、どのように変わったのかを概観します。
第7回	日清・日露戦争と「民俗」的意識の変容	対外戦争の勝利は、日本の「伝統」の発見にもつながります。それが「七五三」などの行事に与えた影響を考えます。
第8回	さまざまな成人儀礼（その1）-参考映像視聴	映像に記録された多様な成人儀礼を学びます。
第9回	さまざまな成人儀礼（その2）-全国の事例の比較	日本各地で行なわれていた多様な成人儀礼を比較することで、見えてくる課題を考えます。
第10回	「国民儀礼」の創出と地方文化の整除	もともと多種多様であった歳祝いや成人儀礼が、同一のものへと整除された背景を考えます。
第11回	「成人式」の起源は元服か？	今日の「成人式」の起源となる戦前の「成年式」から、その意義を考えます。
第12回	自治体主催「成人式」の当初の目的	戦後に始まった自治体主催による成人式の背景を考えます。
第13回	「七五三」「成人式」の全国化の背景	「七五三」や「成人式」を全国化させた「力」は何かを考えます。
第14回	行きたくない人の声に耳を傾ける	「七五三」や「成人式」への参加を苦痛と感じる人もいます。その人たちに対する答えも、学問が提示する必要があると思います。そのことを、ともに考えたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では適宜教員がレジュメを配布するので（学習支援システムの授業ページにアップロード）、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、参考文献の通読や関連するウェブサイトの閲覧などを通じて予習・復習（2時間程度）を行なってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。適宜教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（中公新書）
 島村恭則『みんなの民俗学－ヴァナキュラーって何だ？』（平凡社新書）
 岩本通弥ほか編『民俗学の思考法——〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』（慶応義塾大学出版会）
 その他、講義時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期終了時に課すりレポート。その内容のみで成績を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義（zoom）を受講可能な機器。

【その他の重要事項】

本科目の開講情報は、学習支援システムのほか、講師の Twitter(@MuroiKosei)でも発信しますので、大学からの情報と併せてご確認ください。

【Outline and objectives】

In this class, we will consider from the standpoint of folklore how the "Shichigosan" and "coming-of-age ceremony" that are held in the process of aging for many Japanese people.

HIS200BA

イスラム世界論 I

松本 隆志

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラーム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広がっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラーム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラームという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。また、関連する時事問題についても解説を付していく。

【到達目標】

この授業は、イスラームという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらおうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせない、イスラーム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラームの基礎的知識について、後半部では、そのイスラームが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて、政治史だけではなく、文化史にも焦点をあてながら解説する。

この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生のコメントシートの作成・提出から成る。毎回のコメントシートについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。コメントシートの作成には講義後半の 20～30 分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出のコメントシートから数点をピックアップして講評することを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「イスラーム世界」とは何か？
第 2 回	聖典『クルアーン』の世界	『クルアーン』とアラビア語
第 3 回	イスラームの教義	六信五行など
第 4 回	イスラームの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラームに共通する一神教的世界観・宗教観
第 5 回	イスラームの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラーム共同体の拡大
第 6 回	イスラーム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラーム共同体の変質
第 7 回	イスラーム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第 8 回	イスラーム神秘主義と聖者	イスラームの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第 9 回	西方のイスラーム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラーム
第 10 回	イスラームとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第 11 回	モンゴルとイスラーム	アッバース朝の滅亡とその影響
第 12 回	20 世紀のイスラーム①	第 1 次世界大戦後の国際社会とイスラーム
第 13 回	20 世紀のイスラーム②	第 2 次世界大戦後の国際社会とイスラーム
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

佐藤次高『イスラーム世界の興隆』中公文庫、2008
 佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラーム』講談社現代新書、1993
 鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
 その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40%）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業であれば毎回の授業資料は紙で配布する予定だが、必要と判断した場合には学習支援システムを利用する場合もあり得る。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline and objectives】

Today, the world's Muslim population continues to grow not only in Asia and Africa, but also in Europe, and its presence in the international community is increasing day by day. On the other hand, it is also a fact that biased understanding and prejudice against Muslims, which originated from Islamic fundamentalists and Western European countries centered on the United States, are widespread. In this class, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices. In addition, we will add explanations on related current affairs.

HIS200BA

イスラーム世界論Ⅱ

松本 隆志

授業コード：A3812 | 曜日・時限：金曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラーム世界論Ⅰ」では、イスラーム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラーム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラーム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラームをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もおお進み中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラームの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラーム認識を相対化する視座を提供することを目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラーム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラーム、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせないイスラーム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生のコメントシートの作成・提出から成る。毎回のコメントシートについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。コメントシートの作成には講義後半の20～30分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出のコメントシートから数点をピックアップして講評することを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラームの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンなど
第3回	イスラームの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラーム的な慣習
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネス
第5回	イスラームとジェンダー	イスラームにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観の関係
第6回	日本におけるイスラーム	在日・滞日ムスリムコミュニティ
第7回	スンナ派とシーア派	イスラームの二大派閥の概要と歴史的背景
第8回	イスラーム法学	イスラーム法学の歴史的背景と現代での役割
第9回	スーフイズム	スーフイズム（イスラーム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割
第10回	イスラームと奴隷	前近代イスラーム社会における「奴隷」のあり方
第11回	イスラームの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラーム特有の経済倫理
第12回	イスラーム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状
第13回	現代の中東情勢	近現代史の文脈における「イスラーム国」の経緯
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

小杉泰、江川ひかり編、『イスラーム：社会生活・思想・歴史』、新曜社、2006年。

小杉泰ほか編、『大学生・社会人のためのイスラーム講座』、ナカニシヤ出版、2018年。

菊地達也編著、『図説イスラーム教の歴史』、河出書房新社、2017年。
その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40%）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業であれば毎回の授業資料は紙で配布する予定だが、必要と判断した場合には学習支援システムを利用する場合もあり得る。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline and objectives】

This class will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this class, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.

CAR200BA

現代のコモンセンス

高橋 敏治、中釜 浩一、王 安

授業コード：A3814 | 曜日・時限：金曜 5 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事例を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。

この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】

- ①自分自身を顧み、改善できるようになる。
- ②対人関係を顧み、改善できるようになる。
- ③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
- ④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度は、新型コロナ肺炎の流行の影響を考慮し、オンラインで行う。学内外から招いた講師による 60 分程度の講義・それに関する質疑・応答、そして授業の最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出してもらう。学期末の授業時に全体のテーマに関する試験（レポート形式）を行う。授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行う。そのための時間を十分に確保する。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第 2 回	社会と規範 1	LGBTQ の動向とメンタルヘルス
第 3 回	対人問題 1	依存症とメンタルヘルス
第 4 回	社会と規範 2	身近なハラスメントと DV 問題
第 5 回	対人問題 2	パーソナリティ障害と発達障害
第 6 回	実践と倫理 1	減胎手術は許されるか
第 7 回	社会と規範 3	若者の消費者トラブルについて
第 8 回	社会と規範 4	職業モラルと社会人のマナー
第 9 回	社会と規範 5	ビジネス・コンプライアンス（職場と法令遵守）
第 10 回	社会と文化 1	社会と文化について
第 11 回	実践と倫理 2	「耐える」・「辞める」以外の「職場を改善する」という選択肢を考える
第 12 回	社会と文化 2	イサム・ノグチの庭園文化論
第 13 回	実践と倫理 3	著作権の現在
第 14 回	まとめ	総括 レポート課題の呈示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的にではなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静且つ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返す行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①小レポート（10～15分程度でまとめるもの）（80%）

②学期末試験（レポート形式）（20 %）

なお、4 回以上授業に欠席した場合、あるいは授業に支障を生じると判断される言動等がある場合には、E 評価とする。また、遅刻 2 回で 1 回欠席とする。

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナ肺炎流行のため、2020 年度は実施しませんでした。

【その他の重要事項】

- ①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性がある。
- ②担当者が全授業に同席し担当する。
- ③成績評価の仕方や授業の進め方などについて、初回の授業で説明をしますので、必ず初回の授業に出席して下さい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn various approaches trying to solve the problems our society faces today. A wide range of social issues will be covered, such as relationships with others, modern social norms, practical ethics, and multiple cultures. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding, by participating in group activities and by individual literature study.

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水曜 1 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理

本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2. 日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。

1 限の中規模授業のため、対面授業は隔週とし、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします（感染予防のため紙では配布しません）。授業開始時間にも配慮します。なお、大学の方針や社会状況の変化などによって授業方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など (履修希望者の人数により、対面授業の回数や開始時間を考えます)
第 2 回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第 3 回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第 4 回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第 5 回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第 6 回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 7 回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産、特に、古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第 8 回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 9 回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第 10 回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第 11 回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展、現在のまちづくりについて学ぶ
第 12 回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第 13 回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義、大阪のまちづくり

第14回 歴史観光都市・観光地の 京都の祇園祭と現在
取り組み①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します。それを見ることができるよう、機器類を準備してください。

【Outline and objectives】

This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水曜1限

秋学期・2単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講者のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。

1限・中規模授業のため、対面授業は隔週とし、授業開始時間も配慮します。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します（感染予防のため紙での配布はありません）。

なお、大学の方針・社会状況の変化で授業方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について 受講希望者の人数に応じて授業形態を考えます
第2回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記から見た蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	北方領土問題の前史（フロンティアをめぐる日露関係）を学ぶ
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）の歴史地理	千島列島の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	樺太（サハリン）の歴史地理	樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第14回	アイヌ民族の法的地位と研究資料	日本・ロシアにおける先住民族政策をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的資料の状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料を PDF ファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します。それを見ることができるよう、機器類を準備してください。

【Outline and objectives】

This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

MAN100FA

経営学総論 I (2016～2018 年度入学者)

1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

木村 純子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTT ドコモ、ソフトバンク、セブンイレブン、トヨタ自動車、任天堂といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中にはさまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。

【到達目標】

経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。

多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。

秋学期は人を動かす仕組みに焦点をあて、どのようにすれば部下のやる気を引き出せるのかを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形式その① オンデマンド授業 (1 週間の間にいつでも受けられる)

授業形式その② 顔出し双方向型 ZOOM 授業 (水曜日 5 限：16 時 50 分～18 時 30 分)

この授業は、一部の授業回をオンデマンド形式 (配信期間中に自宅で受講) で行います。

【授業形式①】 オンデマンド授業

オンデマンド授業は、単なる視聴ではなくエクササイズ課題に取り組みますので椅子に座り机を使って受講する必要があります。課題は WORD を使いますので、パソコンでの受講を推奨します。

【授業形式②】 ZOOM 授業

顔出し双方向オンライン授業は、水曜日 5 限 (16 時 50 分～18 時 30 分) に ZOOM を用いて行います。

教員のレクチャーによって経営学の理論を理解します。各受講生が理解したかどうかは毎回の授業内レポート課題によって確認します。レポートは学習支援システムを通じて 18 時 30 分までに提出します。(当日のオンライン授業の 18 時 30 分までに提出されたレポートのみ受け付けます。) 授業終了後や後日の提出は不可です。

コロナウイルス感染の状況によりオンライン授業が大学での教室授業に変更される場合があります。

顔出し双方向型 ZOOM 授業は、水曜日 5 限 (16 時 50 分～18 時 30 分) に ZOOM を用いて行います。

(1) ZOOM 受講条件

オンライン授業を履修するための条件は 6 つあります。

- ① 自宅での受講が前提である。友人と画面の共有はできない。
- ② 遅刻厳禁。毎週金曜日、メールアドレス宛に ZOOM ミーティングの ID とパスワードが送られてくるので 16 時 30 分までに入室し待機 (着席) する。16 時 40 分から 18 時 30 分まで受講する。
- ③ ZOOM を用いたリアルタイムのオンライン授業であり、受講生自身も画面に映る。お互いの氏名、顔、動作が見える。
- ④ 特定の人が指名され発言を促されたり質問に答えたりする。
- ⑤ 毎週レポート課題を 18 時 30 分までに添付ファイルで学習支援システムに提出する。締切後や後日の提出は不可
- ⑥ 著作権と肖像権の問題から講義資料やビデオ映像のあらゆる撮影と録音をしない。

(2) オンライン授業のセッティング

4 月 22 日の第 1 回授業に先立ち、受講するための環境を整えてください。

- ① 学習支援システム (hoppii) のアドレスは大学のメールアドレスである。
- ② 学習支援システム (hoppii) に自分の証明写真をプロフィール画像としてアップロードした。
- ③ ZOOM のアカウントを作った。ZOOM アカウント名に学生番号を付ける。(例えば「20F3333 松下幸之助」) 出席確認をするために学生番号を付けて下さい。
- ④ オンライン授業を受講するためにパソコンあるいはスマートフォンのカメラと音声を使えるようにした。(友人と ZOOM のミーティングをテストして音声等設定できているか試してみた。)
- ⑤ Google Classroom を使えるように設定した。
- ⑥ 法政大学試験用紙のファイルを毎週自分でダウンロードしてパソコンに保存した。ファイル名は「学生番号氏名授業日」をつけた。(例えば 5 月 6 日のレポートのファイル名は「20F3333 松下幸之助 0506」)

オンデマンド授業の視聴方法

1. 法政ポータルサイト (Hoppii) ページ → 左下の【オンデマンドシステム】にアクセス

(統合認証 ID とパスワードを入力)

URL : <https://hoppii.hosei.ac.jp/>

または、<https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/>

2. クラス一覧から「経営学総論 I」を選びクリック、

教科一覧から「経営学総論 I」をクリック、
章/単元を選択し、「授業開始」をクリックして視聴
3. 「終了」ボタンを押して視聴終了

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
ZOOM ①	ZOOM によるガイダンス オンデマンドによるオリエンテーション	授業の進め方 受講生の活動など
オンデマンド①	第 1 章：企業経営の全体像	企業経営とは？ : 企業、企業と各市場、情動的経営資源①
ZOOM ①	第 1 章：企業経営の全体像	企業経営とは？ : 企業、企業と各市場、情動的経営資源①
オンデマンド②	第 2 章：経営学の全体像	経営学とは？ : 広義・狭義の経営学、心理学などとの関係、面白さ・実践性 事例：産地偽装
ZOOM ②	第 2 章：経営学の全体像	同上
オンデマンド③	第 4 章：企業とインプット	会社とは？ : 株式会社の基本的な仕組み
ZOOM ③	第 4 章：企業とインプット	会社とは？ : 株式会社の基本的な仕組み 事例：松下電器産業
オンデマンド④	第 5 章：企業とアウトプット	事例：松下電器産業
ZOOM ④	第 5 章：企業とアウトプット	事例：松下電器産業
オンデマンド⑤	第 6 章：競争戦略のマネジメント (Part.1)	市場セグメンテーション、価値の創出、競争相手、5 つの競争要因
ZOOM ⑤	第 6 章：競争戦略のマネジメント (Part.1) : 基本的な考え方	SWOT 分析、セグメンテーション
オンデマンド⑥	第 7 章：競争戦略のマネジメント (Part.2)	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略
ZOOM ⑥	第 7 章：競争戦略のマネジメント (Part.2)	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略
ZOOM ⑦	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義は復習に重点を置いて勉強することが薦められます。講義を受講した後、教科書の指定範囲を読み復習するようにしてください。授業内では適宜課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。課題と授業資料は学習支援システムを通じて周知・配布します。

【テキスト (教科書)】

加護野忠男・吉村典久編著 (2012) 『1 からの経営学 (第 2 版)』中央経済社の一部を使用します。

【参考書】

適宜、紹介します。『日本経済新聞』や『日経ビジネス』など、企業経営にかかわる情報がある出版物の紹介もします。

【成績評価の方法と基準】

毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で GP として評価します。合計をレポート実施回数で割った平均点 (本科目の GPA) があなたの成績になります。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式 (動画配信) で実施する新しいタイプの授業です。前年度の受講生のリクエストを反映させ、インタラクティブな授業スタイルを取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業は以下にアクセス (統合認証 ID でログイン) し受講してください。

PC <https://lms.hosei.ac.jp>
スマートフォン/タブレット <https://lms.hosei.ac.jp/rpv>

【注意!】

友人のパソコンやスマートフォンと一緒に視聴すると自分の閲覧履歴が残りません。自分のアカウントにログインして視聴してください。

発行日：2021/4/1

動画コンテンツ視聴終了後はかならず「終了」ボタンを押してください。ブラウザの「×」で画面を閉じてしまうと、受講履歴が残らないため欠席扱いとなります。

【LMS(ラーニングマネジメントシステム)に関するお問い合わせ】

学務部教育支援課 ondemand@ml.hosei.ac.jp

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施します。詳細は、春学期は第 1 回授業の際に指示します。秋学期は、第 1 回授業がオンデマンド形式となりますので、事前に授業支援システムの指示を必ず確認の上、受講してください。

履修者数、受講生の理解度、進行具合によってスケジュールと内容を変更する場合があります。

授業内レポートについては、以下の例外を除き後からの提出を認めません。1) 病気やケガ (病院の診断書をご提出ください)、2) お身内のご不幸、3) 部活の試合 (書類をご提出ください)

関連科目：経営学、社会学、心理学の科目

プロジェクトに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを禁止します。

【Outline and objectives】

社会科学は自然と対比される社会についての科学的な認識活動とその活動によって生み出された知識の体系です。社会は、家族、学校、企業といった小さな単位から国家や国際機関までたくさんの組織で構成されています。社会学者としてみさんはこの社会の姿をさまざまな角度から研究していきます。

MAN100FA

経営学総論Ⅱ（2016～2018年度入学者）

1～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

木村 純子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTTドコモ、ソフトバンク、セブンイレブン、トヨタ自動車、任天堂といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中にはさまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。

【到達目標】

経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。
多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。
秋学期は人を動かす仕組みに焦点をあて、どのようにすれば部下のやる気を引き出せるのかを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形式その① オンデマンド授業（1週間の間にいつでも受けられる）
授業形式その② 顔出し双方向型オンライン授業（水曜日 5限：16時50分～18時30分）

この授業は、一部の授業回をオンデマンド形式（配信期間中に自宅で受講）で行います。

コロナウイルス感染の状況によりオンライン授業が大学での教室授業に変更される場合があります。

顔出し双方向型 ZOOM 授業は、水曜日 5限（16時50分～18時30分）に ZOOM を用いて行います。

(1) ZOOM 受講条件

- オンライン授業を履修するための条件は 6 つあります。
① 自宅での受講が前提である。友人と画面の共有はできない。
② 遅刻厳禁。毎週金曜日、メールアドレス宛に ZOOM ミーティングの ID とパスワードが送られてくるので 16 時 30 分までに入室し待機（着席）する。16 時 40 分から 18 時 30 分まで受講する。
③ ZOOM を用いたリアルタイムのオンライン授業であり、受講生自身も画面に映る。お互いの氏名、顔、動作が見える。
④ 特定の人が指名され発言を促されたり質問に答えたりする。
⑤ 毎週レポート課題を 18 時 30 分までに添付ファイルで学習支援システムに提出する。締切後や後日の提出は不可
⑥ 著作権と肖像権の問題から講義資料やビデオ映像のあらゆる撮影と録音をしない。

(2) オンライン授業のセッティング

- 第 1 回授業に先立ち、受講するための環境を整えてください。
① 学習支援システム (hoppii) のアドレスは大学のメールアドレスである。
② 学習支援システム (hoppii) に自分の証明写真をプロフィール画像としてアップロードした。
③ ZOOM のアカウントを作った。ZOOM アカウント名に学生番号を付ける。(例えば「20F3333 松下幸之助」) 出席確認をするために学生番号を付けて下さい。
④ オンライン授業を受講するためにパソコンあるいはスマートフォンのカメラと音声を使えるようにした。(友人と ZOOM のミーティングをテストして音声等設定できているか試してみた。)
⑤ Google Classroom を使えるように設定した。
⑥ 法政大学試験用紙のファイルを毎週自分でダウンロードしてパソコンに保存した。ファイル名は「学生番号氏名授業日」をつけた。(例えば 5 月 6 日のレポートのファイル名は「20F3333 松下幸之助 0506」)
オンデマンド授業の視聴方法

1. 法政ポータルサイト (Hoppii) ページ → 左下の【オンデマンドシステム】にアクセス
(統合認証 ID とパスワードを入力)
URL : <https://hoppii.hosei.ac.jp/>
または、<https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/>
2. クラス一覧から「経営学総論Ⅱ」を選びクリック、
教科一覧から「経営学総論Ⅱ」をクリック、
章/単元を選択し、「授業開始」をクリックして視聴
3. 「終了」ボタンを押して視聴終了

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
ZOOM 授業①	ZOOM によるガイダンス オンデマンドによるオリエンテーション	授業の進め方 受講生の活動など
オンデマンド①	第 8 章：多角化戦略	多角化戦略、M&A と戦略的提携：理論枠組み 事例：キャノン
ZOOM ①	第 8 章：多角化戦略	
オンデマンド②	第 9 章：国際化	グローバルゼーション、企業が国境を超える理由、国際化：理論枠組み 事例：ホンダ
ZOOM ②	第 9 章：国際化	
オンデマンド③	第 10 章：マクロ組織のマネジメント	組織構造のバリエーション、ユニークな組織：理論枠組み
オンデマンド④	第 11 章：マイクロ組織のマネジメント	事インセンティブ・システムの設計、リーダーシップ：理論枠組み
ZOOM ③	第 11 章：マイクロ組織のマネジメント	経営戦略とは？ 製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
オンデマンド⑤	第 12 章：キャリアデザイン	キャリアとキャリアデザイン、キャリアをデザインする、能力形成：理論枠組み 事例：バンブオブチキン
ZOOM ④	第 12 章：キャリアデザイン	
オンデマンド⑥	第 13 章：経営学の広がり Part 1: ファミリービジネス	ファミリービジネスの存在感、ファミリービジネスに関わる研究の面白さ
ZOOM ⑤	第 13 章：経営学の広がり Part 1: ファミリービジネス	事例：竹中工務店
オンデマンド⑦	第 14 章：経営学の広がり Part 2: 病院組織のマネジメント	病院とは、医療従事者の管理：動機づけ再考：理論枠組み
ZOOM ⑥	第 14 章：経営学の広がり Part 2: 病院組織のマネジメント	事例：青梅慶友病院 秋学期のまとめ 成績発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は復習に重点を置いて勉強することが薦められます。講義を受講した後、教科書の指定範囲を読み復習するようにしてください。授業内では適宜課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

加護野忠男・吉村典久編著 (2012) 『1 からの経営学（第 2 版）』中央経済社の一部。

【参考書】

適宜、紹介します。『日本経済新聞』や『日経ビジネス』など、企業経営にかかわる情報がある出版物の紹介もします。

【成績評価の方法と基準】

オンデマンド授業のエクササイズ課題レポートと授業内レポート 100 %
毎回、レポート課題を D、C-、C、C+、B-、B、B+、A-、A、A+、S の 11 段階で GP として評価します。合計をレポート実施回数で割った平均点（本科目の GPA）があなたの成績になります。
授業欠席は 3 回まで。4 回の欠席で不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する新しいタイプの授業です。前年度の受講生のリクエストを反映させ、インタラクティブな授業スタイルを取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業は以下にアクセス（統合認証 ID でログイン）し受講してください。

=====

PC <https://lms.hosei.ac.jp>
スマートフォン/タブレット <https://lms.hosei.ac.jp/rpv>
=====

【注意!】

友人のパソコンやスマートフォンと一緒に視聴すると自分の閲覧履歴が残りません。自分のアカウントにログインして視聴してください。
動画コンテンツ視聴終了後はかならず「終了」ボタンを押してください。ブラウザの「×」で画面を閉じると、受講履歴が残らないため欠席扱いとなります。

【LMS(ラーニングマネジメントシステム)に関するお問い合わせ】

学務部教育支援課 ondemand@ml.hosei.ac.jp

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施します。詳細は、春学期は第1回授業の際に指示します。秋学期は、第1回授業がオンデマンド形式となりますので、事前に授業支援システムの指示を必ず確認の上、受講してください。

履修者数、受講生の理解度、進行具合によってスケジュールと内容を変更する場合があります。

授業内レポートについては、以下の例外を除き後からの提出を認めません。1) 病気やケガ（病院の診断書をご提出ください）、2) お身内のご不幸、3) 部活の試合（書類をご提出ください）

関連科目：経営学、社会学、心理学の科目

プロジェクトに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを禁止します。

【Outline and objectives】

社会科学は自然と対比される社会についての科学的な認識活動とその活動によって生み出された知識の体系です。社会は、家族、学校、企業といった小さな単位から国家や国際機関までたくさんの組織で構成されています。社会学者としてみなさんはこの社会の姿をさまざまな角度から研究していきます。

ECN300FB

組織経済学

3～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

ECN301FB

組織経済学 I (2018年度以前入学者)

3～4年次 / 3単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・授業に必要な教材は、学習支援システム (Hoppii) にアップするので、各自ダウンロードすること。

・対面授業が原則だが、コロナ感染の状況によっては困難が予想される。その場合は Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義レジュメに目を通して参加すること。

・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

II 秋学期

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
3.	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
4.	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
8.	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
9.	組織デザイン (1)	・組織構造
10.	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題 (1)	・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題 (2)	・人事制度への応用
14.	インセンティブ問題 (3)	・賃金制度への応用

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義レジュメや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。(その方が、受講生全員の理解向上につながるため。)

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業レジュメ、参考資料等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」(功利主義)以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・定期試験は行わない。その代わりに、学期中に 3～4 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。ただし、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる。

・課題の内容は、上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とし、講義の参考文献等を使った質問に対して答えてもらう。

・また、課題内容の告知から提出期限まで 2 週間程度の期間を設ける予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・2020年度は、全て Zoom を通じて行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。

・今年度は、そうした問題を減らすよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業は Zoom を用いて行う可能性が高いこと、また Hoppii へのアクセスが必須であるため、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は I、II の通年開講授業だったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされる。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」(I は秋学期、II は春学期)でカバーする。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい(ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可)。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

MAN300FD

日本経営論 I

金 容 度

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特長性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今年度の日本経営論 I はオンデマンド形式の映像講義を配信する（全 12 講）。ただ、4 月 7 日の初回授業（イントロダクション）と 7 月 14 日の最終授業はオンラインで行う。

オンデマンド講義の配信開始日は 4 月 14 日である。配信日程、アクセスの URL など、毎週レポートの提出締切については、学習支援システムの「お知らせ」と「教材」で案内する。

評価のために、①毎講レポート（10 回）と、②期末レポートの課題・設問は「学習支援システム」の「レポート」に設定する。

①の毎週レポートは、第 2 講～第 13 講の動画講義の各講配信期間中に、出される設問について書いて、指定された締切内に「学習支援システム」の「課題」に提出すること。

②の期末レポートも、5 月中に「学習支援システム」の「レポート」の「課題」で公開するので、課題内容と提出締切を確認して、締切まで作成して提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	「日本的経営特殊論」	間宏氏の議論を中心に、日本の企業経営の特長性を強調する議論を検討する。
3	「日本的経営普遍論」	小池和男氏の議論を中心に、日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。
4	日本の経営についての海外からの議論 (1)	ジェームス・アベグレン氏とエズラー・ヴォーゲル氏の議論を中心に、日本企業についてのアメリカでの議論について講義する。
5	日本の経営についての海外からの議論 (2)	ウィリアム・オオウチ氏の Z 理論、パスカルとエイソンスジェームス氏の議論について講義する。
6	戦後日本企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などを中心に、日本の企業システムを考察する。
7	日米の労使関係史比較：「3 種の神器」は日本だけの特徴だったのか？	工業化初期と成長期の日米労使関係にどのような類似点が存在したかを講義する。
8	日米の企業システムの比較 (1)：1970 年代までの米企業システムを中心に	日米の共通点に注目して、19 世紀末から 20 世紀前半までの米企業の特徴を描き出す。
9	日米の企業システムの比較 (2)：1980 年代以降の米企業システムを中心に	主に、1980 年代以降のアメリカ企業の変化を検討し、日本の企業経営への示唆点を検出する。
10	日韓の企業システムの比較	企業システムの日韓比較を行う。
11	日本の企業間取引の特徴：自動車産業の事例	戦後、日本の自動車部品取引の事例を取り上げ、日本の企業間関係の特徴を考察する。
12	日韓の企業間取引の比較：自動車産業の事例	韓国の自動車産業における企業間取引の歴史と特徴を検討した上で、日韓比較を行う。

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

13	企業集団	企業間関係の事例として企業集団を取り上げ、その特徴、機能、最近の変化を、市場性と組織性という視点から講義する。
14	まとめ	国際比較の成果を踏まえて、日本の企業経営の特徴と今後について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、講義動画の中だけでなく、適宜、「学習支援システム」にアップロードする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。参考文献は、毎回の動画講義資料中で提示し、その一部は授業支援システムにも掲載する。

【参考書】

<参考書>

- ①ジェームス・アベグレン (2004)『日本の経営』日本経済新聞社
- ②小池和男 (1991,2005)『仕事の経済学』(第 1 版及び第 3 版) 東洋経済新報社
- ③ウィリアム・オオウチ (1981)『セオリー Z』CBS ソニー出版
- ④ Lazonick, William (2009). Sustainable Prosperity in the New Economy, Upjohn Institute
- ⑤鈴木良隆・大東英祐・武田晴人 (2004)『ビジネスの歴史』有斐閣
- ⑥橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斎藤直 (2018)『現代日本経済第 4 版』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

日本経営論 I の成績評価基準は毎週レポート課題 50%(10 回 × 5% = 50%)、期末レポート 50%である。なお、動画講義の視聴時間が平均を著しく下回る場合は減点し、著しく上回る場合は加点をする。なお、視聴回数が平均を下回る場合は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

授業関連の参考文献の提示を増やす。

【その他の重要事項】

関連科目は、日本経営史 I / II、戦略的意思決定論 I / II、技術管理論 I / II、中小企業論 I / II

【Outline and objectives】

The objective of this course is to understand more deeply business management, business strategy and organizational structure in Japan on the perspective of international comparisons. You will learn logical thinking and basic knowledge on Japanese management by lectures and discussions.

MAN300FD

日本経営論Ⅱ

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本経営論Ⅱでは、市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視点から日本の企業間関係を考察する。具体的に、メインバンクシステム、企業間のもの取引（鉄鋼、自動車部品、半導体、液晶部材）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。

また、授業は原則的に、オンライン授業（ZOOM ソフトウェアを利用）で行うが、状況によって教室での対面授業を行うこともある。オンライン授業時には、授業招待 URL を授業の前日まで学習支援システムに登録する各自のメールアドレスに送る。毎週の授業は、講義とディスカッションシートに基づくディスカッションから構成される。ディスカッションは各自が提出したディスカッションシートに基づいて、2 週に分けて行う。ディスカッションシートは 6 回提出することになる（学習支援システムの「課題」に提出）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
2	日本の企業間関係の特徴と、企業間関係の日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
3	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
4	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
5	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
6	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
7	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
8	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
9	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
10	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
11	鉄鋼の企業間関係 1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
12	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
13	半導体の企業間関係	半導体の共同開発をめぐる企業間関係を考察する。
14	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、適宜、「学習支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。参考文献は、授業中に案内し、中で重要な文献は、学習支援システムの「教材」にも掲載する。

【参考書】

- ①金容度 (2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
- ② Kim,Yongdo(2015) The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
- ③金容度 (2006)『日本 I C 産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会
- ④浅沼萬里 (1997)『日本の企業組織革新的適応のメカニズム:長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末レポート (70 %)、ディスカッションシートの提出 (30 % = 6 回 ×5%) である。なお、ディスカッション時、発言した場合は加点を、発言しなかった場合は、減点をする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

関連科目は、日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

The objective of this course is to understand more deeply business management, business strategy and organizational structure in Japan on the perspective of international comparisons. You will learn logical thinking and basic knowledge on Japanese management by lectures and discussions.

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

【到達目標】

広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる

学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる

広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる

広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ZOOM によるオンライン講義とする

授業毎リアクションペーパーを書いてもらい、適宜次回の授業でとりあげフィードバックする

広告業に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく実務家からいただいた講話に関して質問を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**Ⅱ 秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第 2 回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第 3 回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】 大手広告代理店 博報堂 営業部長
第 4 回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第 5 回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第 6 回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】 大手広告制作会社 博報堂 プロダクツ プランナー
第 7 回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第 8 回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】 大手広告代理店 博報堂 クリエイティブ・ディレクター
第 9 回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】 大手メディアレップ 博報堂 DY メディアパートナーズ テレビ担当

第 10 回	インターネット広告 (1)	インターネット広告とは インターネット広告の種類
第 11 回	インターネット広告 (2)	インターネット広告の実例紹介
第 12 回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例
第 13 回	広告効果測定	広告測定の様々な手法 【講話】 ブランドコンサルタントの仕事
第 14 回	グローバル広告と法務	グローバル広告の可能性と実例 広告規制と法務

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、具体的な広告事例を収集してもらう準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり 1-2 時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

「現代広告論 第3版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

期末試験は行わない

- 1) 授業毎のリアクションペーパーの内容 (50%)
- 2) 実務家を招いた際の質問提出 (20%)
- 3) レポート課題 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年からの講義開始につき、特に学生の意見は受けていない

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義を受講できるように機器等を準備すること。

【その他の重要事項】

現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家をなるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

【関連科目】

マーケティング論

【Outline and objectives】

In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.

ECN200FA

寄附講座・資本市場の役割と証券投資

鷲田 賢一郎

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資本市場の役割及び証券投資における重要なテーマについて、野村証券社員として豊富な実務経験を重ねた講師陣が14回の講義を通じてリレー形式で解説を行う。

生きた経済や実践的な金融知識について学び、実生活において金融リテラシーを活用した行動がとれるようになる。

【到達目標】

- 金融資本市場の役割や経済との関りを理解・習得できる。
- 「株式」「債券」「投資信託」「外国為替」などの証券市場・投資における各特徴や、分散投資の効用などが理解できる。
- 自身のライフプランニングや資産形成に必要な金融リテラシーが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 野村グループ各講師による講義を進めていきます。
- 適宜授業中に質問を行ったり、計算問題を解いて頂くなど双方向でのやり取りが発生することもあります。
- 感染症対策などにより、対面授業が困難な場合、オンライン（Zoom、Webex等）によるリアルタイム非対面授業や教材並びに音声ファイルの提供によるオンデマンド型の授業となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	金融市場と私たちの生活がどのように密接に結びついているかを理解し、金融リテラシーを身に付けることの重要性、本講義で学習する意義を理解する。我々の周りには様々な経済情報を通じて、どのように経済というもの成り立っているかを理解する。企業・家計・国・海外と各項目に分け、関連性を確認する。
第2回	経済情報の捉え方	重要性が高まっている金融市場への理解を深める為、金融の仕組み、我が国の資金循環の状況、経済と関連した最近の構造的変化などを解説し、今後の展望を交えながら金融市場の役割を理解する。
第3回	金融資本市場の役割とその変化	「投資とは」「リスクとは」「リターンとは」という基礎知識と、「リスク・リターン」の関係について学習した後、リスクコントロールの基本的な考え方である「長期投資」の考え方とその具体的な手法を学ぶ。
第4回	証券投資のリスク・リターン	ポートフォリオ構築の際の重要な要因である「分散投資」の考え方と、その元となる「リスク・リターン」の関係について学習する。
第5回	ポートフォリオ・マネジメント	「外国為替」の基本的な事柄を紹介し、外国為替レートの変動要因について確認する。また世界の外国為替の状況を知る。
第6回	外国為替相場とその変動要因について	債券と預貯金の違い、利回りと単価の関係などの基礎知識を踏まえた上で、債券価格（＝金利）の変動と景気・政策・需給などとの関連について理解を深める。また、債券投資に伴う投資リスクについても学習する。
第7回	債券市場の役割と投資の考え方	株式の誕生からその意義、原則などの基礎知識と、株式投資の魅力や株式市場について解説した後、株価の分析、評価方法を踏まえた銘柄選択の考え方などについて理解を深める。
第8回	株式市場の役割と投資の考え方	「貯蓄から投資へ」と資産の流れが強まる中、その先導役として期待される投資信託の理解を深める。投資信託という言葉の意味から、特徴、仕組みなどについて学習する。また、投資信託の選び方や最近注目されている投資信託についても、具体的に学ぶ。
第9回	投資信託の役割とその仕組み	

特殊講義

2～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

- 第10回 グローバル化する世界と資本主義の果たす役割 野村ホールディングス名物講師である池上シニア・コミュニケーションズ・オフィサーより、「グローバル化とプラットフォームの進展による世界の変化と、この新たな時代に何が求められるのか」について学ぶ。
- 第11回 資本市場における投資家心理 証券投資を行なう際の心構えとして、私たちの投資判断に影響を与える様々な心理的バイアスについて理解するとともに、その具体例を通して対処法と投資行動への応用法を学習する。
- 第12回 産業展望と投資の考え方 成長産業とこれからの日本に期待される成長戦略について考える。具体的にどの産業がどのように変貌するのかを可能な限り具体的解りやすく解説する。なぜライフプランが必要なのか、ライフプランを踏まえた資産管理の重要性、そしてその方法を具体的に紹介する。特に、資産形成制度を詳しく取り上げ、いま話題の少額投資非課税制度（NISA、ニーサ）についても紹介する。
- 第13回 ライフプランニングと資産形成 ライフプランニングの実践にあたり、資産形成の基礎となるNISA等の非課税制度に関して学ぶ。また、近年、制度の充実により加入者が拡大中の確定拠出年金に加え、国民年金や財形制度に関してもその概要を学ぶ。授業内に期末試験を行う。
- 第14回 資産形成と非課税制度、並びに「期末試験」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。各回の講義用資料による事後学習が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、各回の講義資料を授業支援システムにて事前に配信予定。

【参考書】

「入門証券論 第3版」
榊原茂樹、城下賢吾、姜喜永、福田司文、岡村秀夫著 / 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点・小レポート等30%（リアクションペーパー等の小レポートを参考とする。）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な事柄を重視しつつも、より現場感覚を盛り込んだ講義内容にするなど、資本市場をより身近なものと感じられる工夫をしております。

【学生が準備すべき機器他】

講義の1週間前を目途に、授業支援システムにて講義資料を配布予定です。

【その他の重要事項】

全講義の講師が証券業界・あるいはアセットマネジメント業界において勤務しています。
証券投資提案、ライフプランニング、トレーディング、M&A、アセットマネジメントなど各分野で活躍中の人材が最前線で起きている経済事象についての実例を交えながら講義を行います。

【Outline and objectives】

A team of lecturers with a wealth of practical experience as Nomura Group employees will give 14 lectures on the roles of financial markets and important themes in securities investment in a relay format.

ART300ZA

Advanced Topics in Contemporary Art

Utako SHINDO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 3/Wed.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline and objectives】

Since the early 20th century we have witnessed a number of artistic movements: the birth of conceptual art, abstract expressionism, the rise of pop art and minimalism, the extension into earth, body, the movement toward performance, video, installation, and public art. Amidst all these transformations, how does contemporary art continue to make meanings, communicate, become significant to us? This course looks at various topics in contemporary art and closely examines how art functions in our society. Artistic practices in Europe, North America, Japan and other Asian countries are mainly examined.

【Goal】

Students will learn major movements, artists and terms in contemporary art.

Students will understand the key developments from the modern art to the contemporary.

Students will become active and discerning participants/viewers of contemporary art, equipped with basic analytical frameworks.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes combine lectures, video clips, discussions, and student presentations. In addition, students are required to attend at least one off-campus museum or gallery exhibition relevant to the class (determined by the instructor). Students will then make presentations and write their research papers. The last 5 to 10 minutes at each presentation will be set aside for discussions with other students and for the feedback given by the instructor. The written comments will be also provided to each student for her/his research paper.

Students need to be aware that some works shown in class may address controversial issues such as homophobia, racial prejudice, and may include nudity.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course (A selection process may occur)
2	Modern to Contemporary 1	Rays of Modernism; Impressionism & Post Impressionism, Symbolism
3	Modern to Contemporary 2	Full bloom of Modernism; Surrealism, Cubism, Russian Constructivism, Orientalism, Invention of Photography
4	Modern to Contemporary 3	Spread of modernism, then Wars; Industrial production, Bauhaus, Interdisciplinary art education/commune (Art, Design, Architecture, Textile, Theater, Dance)
5	From Europe to America	Abstract Expressionism, Action Painting, Minimalism, Mexican muralista art, Art Informel; Mondrian, Rothko, Pollock, Stella
6	Post Minimalism 1	Post minimalism, Land Art, Earth Work, Combine Painting, Installation Art; Post Modernism, Robert Smith, Agnes Martin, Lee-U-Fan
7	Post Minimalism 2	Video Art & Performance; Warhol, Acconci, Paik, Abramovi ć , Beuys, Cage, Cunningham, Gutai, Fluxes
8	Post Minimalism 3	Conceptual Art, Pop Art; Duchamp, Lewitt, Art & Language, Dematerialization, Broodtharers, Hi-Red Center, Nouveau réalisme, Warhol, Lichtenstein
9	From Feminism Art, Gender Art to Queer (Race-conscious) Art	Sherman, Kruger, Emin, Morimura, Felix Gonzales=Torres, Dumb Type, Transbody, Barney, Stelarc, Ryudai Takano

10	Movements since the 80s	New Painting, Site Specific, Cultural Intervention, Political activism, Relational Art, Participatory Art, Socially Engaged Art, Cinema; Basquiat, Tadashi Kawamata, Haake, Matta- Clark, Tiravaniya, McQueen, Shizuka Yokomizo, Koki Tanaka
11	Research Workshop 1	Student presentations 1
12	Research Workshop 2	Student presentations 2
13	Research Workshop 3	Student presentations 3
14	Summary	Summary and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students need to keep up with the readings and must be prepared for class discussions. As part of their research, students are required to make at least one visit to an art exhibition suggested by the instructor in order to prepare their presentations and research papers. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Readings will be made available on Hosei course management system or distributed as handouts.

【References】

References will be made available on H'etudes.

【Grading criteria】

Final grades are determined by contribution to class discussions (30%), a project paper based on a field trip to an art exhibition and research (30%), a presentation of the project (10%) and the final exam (image identification and essay questions) (30%).

In the presentation, each student will introduce two artworks they encountered at the exhibition and explain why they liked them. S/he will conduct research on these works to write the paper. The duration of the presentation is usually between 6 and 8 minutes but this will depend on the enrollment and will be decided in class.

【Changes following student comments】

More art movements have been added.

【Others】

Do not miss the first class as a selection process may occur.

【Prerequisite】

None.

OTR900LF

夏季国際ボランティア (オンライン)

DIANA KHOR

開講時期：サマーセッション | 単位数：1 単位
 科目名（英語）：International Online Volunteer (Summer)
 曜日・時限：集中・その他
 備考（履修条件等）：
 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏季休暇中に、本学の協定校で行われるボランティア活動にオンラインで参加し、現地で必要とされている支援活動に携わる。この経験を通じて、これまでの学修で得た知識を国際的な社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要なかを考え、場所にとらわれることなく自身の力を発揮できる能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

国際ボランティアに参加し、プログラムの構造、意義、課題を体得する。国際ボランティアに対する理解を深めるとともに、オンラインコミュニケーションによる実践的な課題解決力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際ボランティアへの参加に先立ち、英語力の向上に努めること、活動地域の文化、歴史、宗教、習慣、経済状態等について理解を深めること。あわせて、各自、課題設定・事前調査を行う。実施前に活動報告書の書き方を学んだうえで、プログラムに参加する。プログラム実施期間中は最低 10 日間以上の期間、60 時間以上の学修時間を伴うオンライン国際ボランティア活動を行う。プログラム参加後は、活動報告書を作成する。振り返りセミナーで、報告書に対し国際学生活動支援プロジェクト担当教員からフィードバックを行うほか、他の参加者と一緒に学んだことを振り返ることで、さらなる相互の気づきにつなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	課題設定・事前調査	課題設定・事前調査課題設定、及び活動国（地域）の特徴、受け入れ先の団体、活動内容について事前に調査したことを項目立てて整理し、活動報告書にまとめる。
第 2 回	事前説明会	報告書の書き方指導、その他参加にあたっての諸注意事項等。
第 3～12 回	プログラムへの参加	各自、プログラムに参加し、英語を共通言語とする国際ボランティアとしてオンラインを通じて支援活動を行う（最低 10 日間以上、60 時間以上の学修時間を伴う活動）。
第 13 回	活動報告書の作成・提出	国際ボランティアでの経験や学びを振り返り、活動報告書にまとめて提出する。
第 14 回	振り返りセミナー	学んだことを他の参加者と一緒に振り返ることで、今後の学びにつなげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

活動にあたり、10 時間以上の準備、5 時間以上の復習が必要である。プログラム実施前、プログラムを通じた課題を設定すると同時に、活動国（地域）の特徴、受入先の団体、活動内容について事前に調査したことを項目立てて整理する。活動中は日々の活動内容を日誌としてまとめること。プログラム終了後は、目的の達成状況、活動を通じて得られた興味・関心についての事後調査・研究内容を整理し、活動報告書にまとめて提出し、国際学生活動支援プロジェクト担当教員の指導を受ける。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

国際学生活動支援プロジェクトにおいて、受入先から発行される修了証、活動報告書の内容、振り返りセミナーへの参加等を総合的に鑑みて評価し、グローバル教育センター会議にて単位認定に値するかを判断する。その結果を踏まえ、学生が所属する学部教授会にて単位認定について審議する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの通信環境および Office ソフト等による資料作成が可能なパソコン

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

During the summer vacation, selected student volunteers are assigned to online volunteer programs, which will be conducted by our partner universities to engage in developmental assistance and support activities of local areas. The aim of this fieldwork volunteer program is twofold. The first is to give students the opportunity to reflect on (think about) and utilize the knowledge they have gained through classroom study of international societies while experiencing online volunteer life with foreign people. The second is to have students acquire the ability to consider more deeply what is necessary for people around the world to have for a better future.

HSS203LB

スポーツ方法論/スポーツ方法論 I

鈴木 敦

配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の身体やことに関する知識を深め、日常生活やスポーツ実践場面、スポーツ指導場面で生かすことを目的とする。

【到達目標】

- ・自分の心身について、理解を深める
- ・心身のトレーニングの理論について、理解を深める
- ・スポーツ実践者としての活動に役立てられるようになる
- ・指導者としての活動に役立てられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツでは身体と同時に、心理面を理解し、コントロールすることが求められる。この授業では身体面のトレーニングやメンタルトレーニングの知識だけでなく、自分の身体やことを理解し、スポーツ実践やスポーツ指導に活かせるようになることを目指す。

各授業では講義を行い、テーマに関する実践を取り入れる。毎授業、リアクションペーパーもしくは課題の提出を義務付ける。リアクションペーパーや課題のフィードバックは次の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業内容について説明する。
2	体力とは	体力の定義や変遷、運動の心身への効果について説明する。
3	フィットネスの基礎及び発育発達とトレーニング	フィットネス及び発育発達とトレーニングについて説明する。
4	トレーニングの理論	トレーニングの種類やトレーニング理論の3原理5原則について説明する。
5	トレーニング計画	トレーニング計画の重要性について理解し、自身のトレーニング計画を立てる。
6	メンタルトレーニングとは	メンタルトレーニングについて説明する。
7	心理テストの実施・解説	心理テストを実施し、自身の性格を理解する。
8	認知再構成法の説明・実施	自分の苦手な場面を取り出し、その時の心身の反応や考え方の特徴を知り、対策を練る。
9	目標設定の説明・実施	目標設定の方法やポイントを学び、目標設定技法を体験する。
10	リラクゼーション技法の説明・実施	リラクゼーション技法について学び、体験的に理解する。
11	イメージ技法の説明・実施	イメージ技法について学び、体験的に理解する。

12	チームビルディングの説明・実施	チームビルディングについて学び、体験的に理解する。
13	スポーツ指導に必要なスキル	スポーツ指導に必要なスキル（声かけや話の聴き方）について説明する。
14	まとめ	授業内容を総括し、授業で得た知識の実践場面への活用方法を再考する。 ※最終授業時にレポート課題の提出を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習では、次週のテーマに関する自身の体験の振り返り、ネットや書籍による事前学習を行う。復習時間では、授業の振り返り、各自が日々の生活で感じたことについて日誌をつけ、自身の考え方や行動の特徴などを把握する。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は以下の配分とし、総合的に評価する。

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 50%
- 2) 課題・レポート・発表 50%

長期遠征や合宿等で欠席が多くなる受講者は、別途レポート課題等を課して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業開始時に授業で知りたいことについてアンケート形式で記入を求める。それをもとに学生のニーズに合った授業を作成するため、講義内容に修正を加える場合もある。

【その他の重要事項】

スポーツに興味のある学生、将来指導者を目指す学生、個人の競技パフォーマンス向上を目指す学生など、男女を問わず多くの学生の参加を希望します。

授業の進捗状況により授業計画を変更する場合があります。長期の合宿や遠征、病欠等で欠席する予定のある者は、早めに申し出る。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide students with better understanding of physical and psychological theory, and students makes use of it in daily life, playing sport, and coaching.

HSS211LB

スポーツビジネス論 I

岩村 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代からスポーツビジネスは急速に発展した。今日のスポーツビジネスを動向を探るためにはスポーツマーケティングを理解しなければならない。本授業ではマーケティングの基礎理論をふまえ、スポーツマーケティング独自の理論と合わせ発展してきたスポーツビジネスにおいてその基礎理論等を理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義は、(1) マーケティングとスポーツマーケティングの関係、(2) 消費者行動論からみたスポーツ消費の特性、などを理解し、は、マーケティングの基礎的な理論をベースに、スポーツビジネス戦略を理解することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。授業内の小テストは学習支援システムを用いて行います。課題などへのフィードバックは適時授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツビジネスの使命	スポーツビジネスの使命とは
第2回	スポーツの価値	なぜスポーツが注目されるか
第3回	スポーツマーケティングの特性	スポーツマーケティングの誕生、スポーツマーケティングの定義、等
第4回	スポーツ市場の理解	スポーツ産業の特性、スポーツ市場の構造と規模
第5回	マーケティングの基礎	スポーツマーケティングにおけるプロダクト論
第6回	スポーツビジネスにおける価格政策論	価格形成のメカニズム、値頃感と消費者心理
第7回	スポーツビジネスにおけるプロモーション論	コミュニケーションの原理、スポーツ組織のプロモーションミックス
第8回	スポーツ消費者の理解	スポーツ消費者の特性、スポーツ消費者の意思決定過程
第9回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの分類、スポーツ参加における心理的要因
第10回	観戦型スポーツの消費者	観戦型スポーツの分類、心理的連続モデル、スポーツ観戦動機、等
第11回	スポーツマーケティングにおけるSTP	市場の設定と評価

第12回	スポーツマーケティングとマーケットリサーチ	マーケットリサーチの手順、調査の実施・分析・報告
第13回	スポーツ・スポンサーシップ	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第14回	スポーツ・ブランドのマーケティング	ブランドとブランディング、スリート・ブランディング、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中はスポーツビジネスに関するニュースなどを読んだりし積極的に情報収集すること

【テキスト（教科書）】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 — スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 — スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業修了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年と同様に静粛な授業環境を保つよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course isto understand basic theory etc in the sports business which has been developed together with sports marketing original theory.

HSS212LB

スポーツビジネス論Ⅱ

岩村 聡

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。

授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。

受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論Ⅰ」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】

スポーツビジネスの諸問題について理解を深めること
スポーツビジネスの諸問題について解決策を提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークを中心に進めます。グループワークではそれぞれの役割がありますので、必ず毎回出席をしてください。

課題などへのフィードバックは適時授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方などの説明
第2回	グループワークⅠ①	課題Ⅰの説明、グループ分け、情報収集
第3回	グループワークⅠ②	情報収集、ディスカッション
第4回	グループワークⅠ③	ディスカッション、発表準備
第5回	プレゼンテーションⅠ	グループごとに発表をおこなう
第6回	グループワークⅡ①	課題の説明Ⅱ、グループ分け、情報収集
第7回	グループワークⅡ②	情報収集、ディスカッション
第8回	グループワークⅡ③	ディスカッション、発表準備
第9回	プレゼンテーションⅡ	グループごとに発表をおこなう
第10回	グループワークⅢ①	課題の説明Ⅲ、グループ分け、情報検索
第11回	グループワークⅢ②	情報収集、ディスカッション
第12回	グループワークⅢ③	ディスカッション、発表準備
第13回	プレゼンテーションⅢ	グループごとに発表をおこなう
第14回	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間以外にもグループメンバーで集まって、情報収集、ディスカッション、発表準備を進めてもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布します。

【参考書】

仲澤眞・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」ミネルヴァ書房

仲澤眞他編「スポーツプロモーション論」明和出版

原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院

広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業修了時に回収するリアクションペーパー 20%、グループワークの参加状況 20%、プレゼンテーション 40%、学期末の課題 20%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評でした。今年度も活発な活動ができるよう努めます。

【その他の重要事項】

本講義はグループワークを行うため、スポーツビジネス論Ⅰを受講していない場合は、知識を補うための補講をする場合があります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to deepen understanding through information gathering, discussion and presentation on set issues on various problems of modern sports business

HSS216LB

スポーツメディア論

小池 隆俊

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアには新聞・雑誌や放送などの既存メディアと近年急速に発達したインターネットメディアがある。それぞれがスポーツをどう捉え、どのような形で情報を発信してきたのか、その実態を深く知ることを目的とする。メディアが歴史的にどう発生し、どんな変化を遂げてきたのを把握しながら、今後予想されるスポーツメディアの世界を読み解く能力を身に着けることを目指す。

【到達目標】

放送、インターネット、新聞・雑誌、それぞれのメディアの特徴が何かを説明することができる。スポーツ界で起きている様々な事象に対し、情報を取捨選択し自分なりに分析する能力を養うことができる。判断する力、自分の考えを構築する力を持ち、それを表現する力を身に着けることをゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、テレビ番組やニュース記事などを随時取り上げ理解の促進材料とする。1回目と14回目は対面授業で行い、2回目から13回目はオンデマンドで行う。授業支援システムを用い、授業ごとに課題の提出を求め、その内容についてフィードバックする。講師自身がスポーツ放送に携わっていることから、現場体験も伝える。東京オリンピック・パラリンピック開催の有無など状況の変化により授業の順番や内容を変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス	講師の自己紹介、授業のオリエンテーション、成績評価の考え方を説明する。受講生がおもにどういったメディアでスポーツ情報を得ているのかのアンケートを行う。
2回	東京オリンピック・パラリンピックに向けたメディアの動き	オリンピックはメディアを介して発展し、メディアも大会ごとに進歩してきた。シラバス執筆時点では東京オリンピック・パラリンピック開催の有無は明確ではないが、直近の題材として東京大会で新たにどんな取り組みがなされたのか（なされようとしていたのか）を過去の歩みも踏まえ考察する。

3回	スポーツメディアの歴史を紐解く	スポーツを伝えるメディアの中で歴史が最も長い活字メディア。始まりとともにスポーツに関心を寄せ、報道するだけではなくスポーツの主催者ともなり深くかかわってきた。新聞・雑誌といった活字メディアの歩みを追う。
4回	放送メディアの誕生と発展	ラジオの誕生はスポーツ報道に劇的な変化を生む。それはLIVE（同時性）を手に入れたことによる。さらにテレビはそこに映像を加え大衆を虜にして行く。オリンピックごとに技術が進化し、スポーツメディアの中核を担う放送の歴史を学ぶ。
5回	メディアによるスポーツの市場化とアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化を促し、一方で近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。この過程を追うことはスポーツの発祥と進展の歩みを知ることにつながる。
6回	スポーツイベントとメディアの関係	スポーツ組織、メディア、そしてスポンサー、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げてきた。その過程で生じたルール変更や、アスリートファーストでない事態などにも目を向け、スポーツとメディアの関係とそこに潜む問題点を考察する。
7回	スポーツ中継	テレビによるスポーツ報道にはニュース、中継、ドキュメンタリー、スタジオ番組などがあるが、なかでも高視聴率をマークし長時間視聴者を釘付けにするのが生中継。その中継の現場に身を置く経験からスポーツ中継の仕組みや演出のポイントなどを解説する。
8回	スポーツドキュメンタリー	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。先駆けとなった作品やその後の秀作を例に挙げながらスポーツドキュメンタリーを読み解く。
9回	新たな映像技術で勝利の秘密に迫る	なぜ金メダルが取れたのか、なぜ強敵を倒すことができたのかなど、「なぜ」に迫る番組は大きな興味を引く。技術の進歩によって、関係者の語る「なぜ」を分かりやすい映像で描けるようになった。新たな映像技術を用い勝利の秘密に迫るドキュメンタリー番組の魅力を知る。
10回	スポーツスタジオ番組	スポーツスタジオ番組は多角的な視点でスポーツを追い、多彩な演出で視聴者を引き付けてきた。最近では、試合結果をベースにするのではなく、テクニクや戦略などにテーマを絞り当事者も交えて面白く見せるスポーツ情報バラエティーが数多く登場している。スポーツスタジオ番組の系譜と変遷を追う。

- | | | |
|------|---------------------|--|
| 11 回 | イノベーションによるスポーツ報道の変化 | スポーツ競技をとらえるカメラの高度化、解析システムの発達、CG 技術の進化。技術革新はスポーツの見方を変え、競技の進め方や戦略にも多大な変化をもたらしている。この変化の真ただ中にある現状を洞察する。 |
| 12 回 | 誰もがメディアになる時代 | SNSで選手が自ら情報発信することは日常的になっている。コロナ禍によりマスメディアの取材活動が制限される中、より活発に行われている。SNSの発展に伴う情報発信の変化を捉え、そこに潜む問題点にも目を向ける。 |
| 13 回 | スポーツメディアのこれから | スポーツの試合を LIVE で届けるのはまだテレビが中心となると思われるが、インターネットメディアが結果報道の最先端になりつつあり圧倒的情報量で新聞やテレビを凌駕し始めている。一方、「するスポーツ」に対する情報ニーズの高まりもある。スポーツメディアのこれからの動きを推察する。 |
| 14 回 | 授業全体のまとめとレポート提出 | これまでの授業で取り上げてきた内容・用語を再確認し質問を受け付ける。課題として提示したレポートの提出 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、ネット、新聞・雑誌によるスポーツ報道に日々目を配り、それぞれの報道を鵜呑みにせず、自身の経験や他人の意見も取り込みながら、自分なりの考えを構築してみることが重要。目に留まった出来事をメモしておきたい。準備学習・復習時間 2 時間をとりながら授業に向かおう。

【テキスト（教科書）】

特に使用せず。

【参考書】

「21 世紀スポーツ大辞典」中村敏雄ほか編集主幹 大修館書店
 「日本スポーツ放送史」橋本一夫 大修館書店
 「スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった」佐塚元章 文芸社
 「よくわかるスポーツ文化論」井上俊 菊幸一編著 ミネルヴァ書房
 「現代スポーツ評論 4 1」清水論責任編集 創文企画

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に課題の提出を求め理解度を確かめる（50 %）。最終週にレポートの提出を求める（50 %）。両方の内容を総合的に判断して評価する。レポートは記述のオリジナリティ、論理構成、表現方法を重点に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当のため特になし。

【その他の重要事項】

この授業は講師の 40 年以上にわたるスポーツの取材活動、番組制作活動をもとにメディア論を講義するもの。オリンピック・パラリンピック開催の可否を含め状況の変化に応じた内容とした。

【Outline and objectives】

There has been a variety of sports media such as long-standing newspapers, broadcasts, and modern internet-oriented media. The objectives of this course are to develop a vast knowledge on how these media have been approaching and reporting the sporting news.

HSS218LB

アスリートキャリア論

笠井 淳

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリート及び社会人としてのキャリア意識について理解を深める。

【到達目標】

アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

「キャリア意識」醸成、向上のために、実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政 OB・OG の方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により

- ①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
 - ②自分の道、職業を決定づけたものは何か
 - ③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう生かせるか
 - ④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
 - ⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。
- 毎回の授業においてリアクションペーパーの提出が必要となります。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。第 2 回～14 回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了解下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、方法につき説明する
第 2 回	特別講師/指導者とは	指導者の資質とは何か、経験の中から得られた教訓等について講義
第 3 回	特別講師/世界トップの現状	プロスポーツの世界の現状等について講義
第 4 回	特別講師/指導現場でのリーダーシップ	大学生の指導における必要な資質について講義
第 5 回	特別講師/トップアスリートからの助言	現役オリンピック選手から学生へのアドバイス
第 6 回	特別講師/トップアスリートから仕事へ	アスリートの経験をどのように仕事に生かすか
第 7 回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第 8 回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本スポーツ協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義

第9回	特別講師/世界を目指す指導①	世界で活躍できる選手の育成と指導について講義
第10回	特別講師/大学クラブの指導	高校生及び大学生の指導におけるノウハウについて講義
第11回	特別講師/トレーナーとは	トレーナーと選手の関り、仕事の内容について
第12回	特別講師/世界を目指す指導②	トップチームの世界への挑戦、選手育成と指導の厳しさについて
第13回	学生の考え（ディスカッション）	自分のキャリア形成についてディスカッションする レポート課題
第14回	授業のまとめ	授業の総括 レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは決りません。

【参考書】

随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参画状況 60%
 - 2) 各回のレポート 20%
 - 3) 課題レポート 20%
- この配分とし、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義における話のスピードが速や過ぎる傾向があるのでその辺を注意して講義を進めたい。

【その他の重要事項】

- ・積極的に質疑応答に参加することが望ましい。
- ・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
- ・授業における遅刻はないように。
- ・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

【Outline and objectives】

This course has been designed to enhance studentt awareness on career opportunities as athletes and members of society.

HSS145LB

オリンピック・パラリンピックを考える

山田 快

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスの世界的拡大を受けて開催を中止する、あるいは再延期する機運が高まっていますが、今夏にわが国東京においてオリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）が開催される予定となっています。本学は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、組織委員会）と協定を締結し、連携していく方針を定めています。そこで、「科学と文化としてのスポーツの理解」を目指すSSIでは、本科目を開講し、東京2020大会のビジョンと概要を学びます。また、大会にどのように参画し（アクション）、大会をきっかけとしたアクションの成果をどのように未来へ継承するか（レガシー）について考えます。組織委員会は、今大会のレガシーを残すために必要なアクションを推進していくに当たって、アクションとレガシーにおける5本の柱に「スポーツ・健康」「街づくり・持続可能性」「文化・教育」「経済・テクノロジー」「復興・オールジャパン・世界への発信」を掲げています。なお、本科目は公開科目（履修できる学年は所属学部によって異なる）となっており、本学の3つの付属高生の聴講も認めています。

【到達目標】

- ①東京2020大会のビジョンを説明することができる
- ②東京2020大会のアクションとレガシーについて理解し、説明することができる
- ③東京2020大会と自らのキャリアとの関連について考え、説明することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

本学の教員をはじめとして、各回のテーマに深い造詣をもつ講師（ゲストスピーカー）が授業を担当します。毎回の講師は、自身の専門とするテーマについて、東京2020大会と関連させながら講義を行います。そこから多くの気づきと学びを得、それらを自分なりに考察してレポート（リアクションペーパー）を作成することで、東京2020大会に関する理解を深めていきます。その際、リアクションペーパーなどから寄せられた示唆に富むコメントを授業内で紹介し、議論や理解を深めることに活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の全体像や進め方を理解し、説明できるようになる。
第2回	東京2020大会の概要	東京2020大会の概要を理解して、説明できるようになる。
第3回	「スポーツ・健康」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第4回	「文化・教育」(1)：オリンピックの平和運動	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第5回	「文化・教育」(2)：オリンピックの文化プログラム	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第6回	オリンピック・パラリンピックの歴史	オリンピック・パラリンピックの歴史を理解して、説明できるようになる。
第7回	「街づくり・持続可能性」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第8回	「街づくり・持続可能性」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第9回	「スポーツ・健康」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第10回	「経済・テクノロジー」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。

第 11 回 「経済・テクノロジー」(2)	講師(ゲストスピーカー)による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようにする。
第 12 回 「復興・オールジャパン・世界への発信」(1)	講師(ゲストスピーカー)による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようにする。
第 13 回 「復興・オールジャパン・世界への発信」(2)	講師(ゲストスピーカー)による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようにする。
第 14 回 まとめ	到達目標に到達したことを認識することができる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目の準備・復習時間は、1 回につき 4 時間以上を標準とします。各回のテーマについて事前に調べ、論点を考えた上で出席してください。また、各回で学んだことについて、自分なりに調べ、考えることで学びを深めてください。

東京 2020 大会に関連するイベントが学内外で開催される場合は、授業内で随時告知しますので、積極的に参加するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】

授業内で各回の講師から紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2/3 以上の出席を前提条件とした上で、「毎回の授業レポート 50%」「期末レポート 50%」で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

少しでも皆さんが東京 2020 大会に興味をもち、参画したいと思えるように授業を構成します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。教室の収容人数の関係により、SSI 生以外の学生の履修は制限される場合があります。必要に応じて、受講者の選抜を行う可能性がありますので、初回の授業には必ず出席してください。

この授業で学んだことと、所属学部での学びとの関連を模索することで、あなたにしかできない東京 2020 大会への関わり方を模索していきましょう。そのことが、「スポーツの文化的価値を発信できる人材の育成を目指す」という SSI のポリシーを体現することにつながります。

【Outline and objectives】

To discuss Tokyo Olympic and Paralympic games through the learning various knowledge of these past games.

HSS203LB

スポーツ方法論/スポーツ方法論 I

佐藤 祐輔

配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおいてより高いパフォーマンスを発揮するためには、アスリート自身がスポーツ障害・外傷への対応や身体のコンディショニング方法を身につけることが重要である。本講義では、スポーツで好発する各関節の障害・外傷におけるリスク因子やメカニズムを学び、受傷直後から復帰までのコンディショニングやトレーニング方法および予防方法を身につける。つまり、アスリート自身が障害・外傷からの復帰過程や障害・外傷の発生を予防する過程を学習し、セルフマネジメント能力を養うことが本講義の目的である。

【到達目標】

- ・自らのスポーツにおいて好発する障害・外傷に関する理解を深める。
- ・急性期のスポーツ障害・外傷の対処法に関する理解を深める。
- ・スポーツ障害・外傷からの復帰または発生を予防するためのコンディショニングやトレーニング方法に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に授業は講義中心で行う。内容によっては講義の中に一部実技も取り入れる。

毎回、授業の終わりに、授業内で学んだ内容に関する簡易的な筆記テストを行い、筆記テストの解答用紙とリアクションペーパーを提出する。

加えて、次回の授業の際に、提出物に対するフィードバックを行う。なお、基本的に講義は現地にて行うが、現在の世間情勢を踏まえてオンラインでの講義に変更する場合もある。その場合は改めて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業の全体像、進め方、到達目標等を説明する。
2	スポーツ障害・外傷の基礎知識と応急処置方法	スポーツ障害・外傷に関する基礎的な知識とスポーツ現場で行う応急処置法について学習する。
3	頭部・顔面のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	頭部・顔面のスポーツ障害・外傷、特に脳震盪に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
4	脊椎のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	脊椎のスポーツ障害・外傷、特に腰部障害に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
5	肩のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	肩のスポーツ障害・外傷、特に投球障害肩・肩関節脱臼に関する基礎的な知識と対処法について学習する。

6	肘・手のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	肘・手のスポーツ障害・外傷、特に投球障害肘・テニス肘に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
7	股関節・骨盤のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	股関節・骨盤のスポーツ障害・外傷、特にグローインペインに関する基礎的な知識と対処法について学習する。
8	膝のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	膝のスポーツ障害・外傷、特に前十字靭帯損傷・半月板損傷に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
9	下腿・足のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	下腿・足のスポーツ障害・外傷、特に足関節捻挫・シンスプリントに関する基礎的な知識と対処法について学習する。
10	骨折・疲労骨折・肉離れの基礎知識と対処法	スポーツ障害・外傷に好発する骨折・疲労骨折・肉離れに関する基礎的な知識と対処法について学習する。
11	スポーツ復帰・予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法	スポーツ障害・外傷からの競技復帰や発生予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。
12	腰部のスポーツ障害・外傷に対するコンディショニングおよびトレーニング方法	腰部のスポーツ障害・外傷、特に腰椎椎間板ヘルニア・腰椎分離症に関する競技復帰や発生予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。
13	上肢のスポーツ障害・外傷に対するコンディショニングおよびトレーニング方法	上肢のスポーツ障害・外傷、特に投球障害肩・肩関節脱臼に関する競技復帰や発生予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。
14	下肢のスポーツ障害・外傷に対するコンディショニングおよびトレーニング方法	下肢のスポーツ障害・外傷、特に前十字靭帯損傷・半月板損傷に関する競技復帰や発生予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。次週のテーマについて参考書などを用いて事前に学習すること。しっかりとした健康管理を行なうこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- ・スポーツ医学検定公式テキスト 2級・3級 東洋館出版社
- ・スポーツ医学検定公式テキスト 1級 東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への参画状況：45% 2) 課題・期末レポートの内容：35%
3) 授業態度：20%

授業中の活動に対する参画状況について：授業中の活動には平常点およびリアクションペーパーへのコメントも含める。常識的な態度、かつ積極的な授業への参加を期待する。

簡易テスト・期末レポートについて：毎授業の終わりに簡易的なテストを実施する。期末レポート提出は締切期限厳守の上、点数は非公開とする。

なお、成績評価にあたり、期末レポートの提出は必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の実施しているスポーツやニーズに、できるだけ沿った内容を準備する。

【学生が準備すべき機器他】

身体を動かす実習をする場合がある。その際には運動着および室内履きを用意して貰う。授業内で実習の日は指示をする。

【その他の重要事項】

スポーツ・トレーニングに興味のある学生、将来指導者を目指す学生、個人の競技パフォーマンスを目指す学生など、男女を問わず多くの学生の参加を希望します。

授業の進捗状況により授業計画の変更もあります。

<< 受講について >>

2014年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ方法論Ⅰ」となります。

【Outline and objectives】

In order to show maximum performance in sports, it is important for athletes themselves to cope with sports injuries/trauma and to learn how to condition their bodies. In this lecture, you will learn the risk factors and mechanisms of injuries and trauma of each joint that are common in sports, and acquire prevention methods and conditioning, training method from immediately after an injury to returning. In other words, the purpose of this lecture is that athletes themselves learn the process of recovering from injuries/trauma, preventing injuries/trauma, and enhance self-management skills.

HSS209LB

リーダーシップ論 I

浅井 玲子

配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講semester：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える

本授業ではスポーツに関わる視点を中心にリーダーシップに関する理論を学び、優れたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。リーダーとして身につけるべき知識の習得と合わせ、それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」について考える礎となることを期待します。

リーダーシップについての概念を学び、それを踏まえて実際のモデルや理論を知るなかで、自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。

【到達目標】

- ・リーダーシップを自分自身の問題として捉える
- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
- ・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
- ・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのビジョンを獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

講義形式の学習と合わせて、自己分析などを通じて「自分の影響力」や「自分なりのリーダーシップ」について振り返りを実施し、授業内での課題やリアクションペーパーの提出を行います。

課題は Hoppii を通じて提出、採点を行い、各履修生へ適宜返却をします。

情勢を鑑みて可能であれば、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは
2	リーダーシップに関する理論①	・リーダーシップの概念とは
3	リーダーシップに関する理論②	・リーダーシップ研究の主な流れる理論②
4	リーダーシップに関する理論③	・リーダーシップとフォロワーシップ
5	リーダーシップを学び、育てるために必要なこと	・リーダーシップ開発に必要な視点 ・経験学習のモデル
6	リーダーシップと自己概念	・カール・ロジャーズの理論 ・ジョハリの窓
7	リーダーシップに関する行動	・フィードバックの視点

8	【特別講義】 リーダーシップの実際	・スポーツチームにおけるリーダーシップの実際（外部講師招聘予定）
9	リーダーシップとコミュニケーション①	・コミュニケーションに関する視点
10	リーダーシップとコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）
11	リーダーシップとチームビルディング①	・チームとは何か ・集団規範
12	リーダーシップとチームビルディング①	・場の理論 ・タックマンモデル
13	まとめ①	まとめ、リーダーシップ論Ⅱへ向けての展望
14	授業内試験	習熟度確認のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りの基準で総合的に成績評価を行います。

A. 毎回の課題…各 10 点とし、提出回数および内容によって評価します。

B. 最終授業におけるレポート…100 点満点で評価します。

A. と B. をそれぞれ 50 % ずつ成績評価に反映します。

提出回数や提出物の内容が評価の基準を満たさない場合には、単位が取得できないので、注意してください。各回の課題では、体験を踏まえたあなた自身の意見が求められます。授業内容をもとに、自身の体験を活かし持論が展開されているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での自己分析や、他の履修生の意見を取り入れることによって気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるように工夫いたします。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出は Hoppii を通じて行う予定です。パソコン、スマートフォン、タブレットなどの Hoppii にアクセスできる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

なお、本授業は、多摩キャンパス開講分（火曜日 1 限）のみ公開科目になっています。市ヶ谷キャンパス開講分（水曜日 1 限）に関しては、SSI 生のみ履修可能となります。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of theories on leadership, and also consider about ideal leadership in your team. The work of the course is done via lecture and group works.

The goals of this course are to

- ・ Obtain basic knowledge about the theories on leadership
- ・ Discover individual ideal leadership style

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ Class attendance and attitude in class, contribution to group work: 50%
- ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

HSS210LB

リーダーシップ論Ⅱ

浅井 玲子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、リーダーシップとは特別な資質や役割を与えられた者だけに存在するのではなく、あらゆる組織に属する成員すべてが互いに発揮し合うものだと考えます。

リーダーシップについて心理学的観点から理解を深め、「シェアードリーダーシップ」について、講義やワークなどの体験を通じて学びます。

リーダーシップについての見識や自己理解を深め、「自分自身のリーダーシップ」の発見や確立を目指すことが本講義のテーマです。

【到達目標】

・リーダーシップに関する理論や背景となる知識についての理解を深める

・自分自身の持ち味を知り、「自分なりのリーダー像」を確立する
・所属する組織において、自身のリーダーシップを活かす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

リーダーシップ論Ⅰの内容を踏まえ、実際に自分自身がリーダーシップを発揮する際のイメージをより明確にすること、また自分自身のこれまでのリーダーシップ体験を振り返り、自己理解を深めることを目指します。

授業内での体験を通じて、気づいたことや学んだことを記入し、毎回提出をします。

各回の課題提出は Hoppii を通じて行い、採点后、適宜履修生へ返却します。

授業内で取り組む課題の成果と合わせて、最終授業において、論述形式の授業内試験を行い、評価に反映します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項
2	【リーダーシップに関する研究①】 リーダーシップ論Ⅰのおさらい	・リーダーシップとは ・リーダーシップ理論の変遷
3	【リーダーシップに関する研究②】	・組織が変わるためのリーダーの行動
4	【リーダーシップに関する研究③】	・PM リーダーシップ理論
5	【リーダーシップに関する研究】 4つのリーダーシップ	・4つのリーダーシップスタイル
6	【リーダーシップと関係性】 関係性リーダーシップについて	・関係性リーダーシップとは

7	【リーダーシップと自己理解】 セルフリーダーシップの発見、開発	・自己の価値、役割について考える ・
8	【リーダーシップとマネジメント】	・変化について ・リーダーシップとマネジメント
9	【リーダーシップと価値観】	・アドラーの理論 ・価値観について（実習）
10	【リーダーシップに関するスキル】	・5つの「なぜ」 ・ネガティブとポジティブ
11	【特別講義（予定）】 リーダーシップとリーダー哲学	・スポーツの現場におけるリーダーシップとリーダー哲学 （外部講師招聘予定）
12	【リーダーシップへの視点】 交流分析	・構造分析 ・ライフボディション
13	まとめ①	まとめ、リーダーシップⅡの整理
14	まとめ②	論述形式による試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内において、スポーツやリーダーシップに関わる様々な時事事象を取り扱う予定です。また、自分自身の理想とするリーダーシップのスタイルに関する見解が求められる場面が想定されます。そのことを踏まえ、授業外においても様々な情報を積極的に収集する姿勢を期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

特にありません。

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業における課題の達成度や参加姿勢を重視します。

授業参加状況と毎回の提出物（50%）、最終講義での論述形式の試験（50%）によって総合的に成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

自分自身のチームに持ち帰り、活用したいという意見が多かったことを受けて、より活用しやすい内容を目指します。

本年度も様々な履修生の考えに触れ学びあうことができる環境を整えるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

・Hoppii にアクセスできる機器

【その他の重要事項】

・各回の授業順序は情勢により変更する場合があります。その際には事前にお知らせします。

・外部講師招聘については情勢を鑑みて行わない可能性があります。その場合にも事前にお知らせします。

・忌引き、感染症、競技における試合の為の欠席等については、分り次第速やかにメールにて担当教員に提出し指示を受けてください。

・リーダーシップ論Ⅰで扱う内容を習得後に履修することが望ましいですが、履修に関してこの点における制限はありません。

【Outline and objectives】

This course introduces the psychological theories on leadership, and also consider about shared leadership. The work of the course is done via lecture and group works.

The goals of this course are to

- ・ Obtain knowledge about leadership
- ・ Practice individual ideal leadership style in your team

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ Short report in classes: 50%
- ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

HSS218LB

アスリートキャリア論

成田 道彦

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

【到達目標】

アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

「キャリア意識」醸成、方向、向上のために、実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政OB・OGの方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により

- ①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
 - ②自分の道、職業を決定づけたものは何か
 - ③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう活かせるか
 - ④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
 - ⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。
- 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。第2回～13回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了解下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、授業方法について説明する。
2	特別講師/企業が学生に求めるもの	企業で採用を経験した立場から学生へのアドバイス
3	特別講師/世界を目指すには	オリンピック選手を育成した指導者から学生へのアドバイス
4	特別講師/オリンピックを経験して	オリンピック出場経験者から学生へのアドバイス
5	特別講師/世界を目指すには	元ラグビー日本代表コーチから世界を目指すためのアドバイス
6	特別講師/大学スポーツ指導者から 1	組織人としての生き方と役割について講義
7	特別講師/大学スポーツ指導者から 2	アスリートに必要な資質について講義
8	特別講師/企業が求めるアスリート	企業でアスリートを採用している立場から学生へのアドバイス
9	特別講師/企業が求めるアスリートキャリア	アスリートの経験をどのように仕事に活かすか
10	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
11	特別講師/心と体の栄養学	分子栄養医学管理士の立場から心と体のバランスについて講義
12	特別講師/新しい体育会活動について	環境型循環型社会構築という新しい体育会活動について講義
13	指導者とは	指導者に求められるもの、役割について講義
14	まとめ	授業を総括する。自身のこれまでの振り返り将来を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは決りません。

【参考書】

随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参画状況・授業態度 25%
 - 2) 各回のレポート 50%
 - 3) 課題レポート 25%
- この配分とし、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際に学生が活用できる情報を提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
- ・授業における遅刻はないように。
- ・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

【Outline and objectives】

This is the lecture on the career consciousness of athletes and working adults.

HSS216LB

スポーツメディア論

小池 隆俊

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアには新聞・雑誌や放送などの既存メディアと近年急速に発達したインターネットメディアがある。それぞれがスポーツをどう捉え、どのような形で情報を発信してきたのか、その実態を深く知ることを目的とする。メディアが歴史的にどう発生し、どんな変化を遂げてきたのを把握しながら、今後予想されるスポーツメディアの世界を読み解く能力を身に着けることを目指す。

【到達目標】

放送、インターネット、新聞・雑誌、それぞれのメディアの特徴が何かを説明することができる。スポーツ界で起きている様々な事象に対し、情報を取捨選択し自分なりに分析する能力を養うことができる。判断する力、自分の考えを構築する力を持ち、それを表現する力を身に着けることをゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、テレビ番組やニュース記事などを随時取り上げ理解の促進材料とする。1回目と14回目は対面授業で行い、2回目から13回目はオンデマンドで行う。授業支援システムを用い、授業ごとに課題の提出を求め、その内容についてフィードバックする。講師自身がスポーツ放送に携わっていることから、現場体験も伝える。東京オリンピック・パラリンピック開催の有無など状況の変化により授業の順番や内容を変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス	講師の自己紹介、授業のオリエンテーション、成績評価の考え方を説明する。受講生がおもにどういったメディアでスポーツ情報を得ているのかのアンケートを行う。
2回	東京オリンピック・パラリンピックに向けたメディアの動き	オリンピックはメディアを介して発展し、メディアも大会ごとに進歩してきた。シラバス執筆時点では東京オリンピック・パラリンピック開催の有無は明確ではないが、直近の題材として東京大会で新たにどんな取り組みがなされたのか（なされようとしていたのか）を過去の歩みも踏まえ考察する。

3回	スポーツメディアの歴史を紐解く	スポーツを伝えるメディアの中で歴史が最も長い活字メディア。始まりとともにスポーツに関心を寄せ、報道するだけではなくスポーツの主催者ともなり深くかかわってきた。新聞・雑誌といった活字メディアの歩みを追う。
4回	放送メディアの誕生と発展	ラジオの誕生はスポーツ報道に劇的な変化を生む。それはLIVE（同時性）を手に入れたことによる。さらにテレビはそこに映像を加え大衆を虜にして行く。オリンピックごとに技術が進化し、スポーツメディアの中核を担う放送の歴史を学ぶ。
5回	メディアによるスポーツの市場化とアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化を促し、一方で近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。この過程を追うことはスポーツの発祥と進展の歩みを知ることにつながる。
6回	スポーツイベントとメディアの関係	スポーツ組織、メディア、そしてスポンサー、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げてきた。その過程で生じたルール変更や、アスリートファーストでない事態などにも目を向け、スポーツとメディアの関係とそこに潜む問題点を考察する。
7回	スポーツ中継	テレビによるスポーツ報道にはニュース、中継、ドキュメンタリー、スタジオ番組などあるが、なかでも高視聴率をマークし長時間視聴者を釘付けにするのが生中継。その中継の現場に身を置く経験からスポーツ中継の仕組みや演出のポイントなどを解説する。
8回	スポーツドキュメンタリー	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。先駆けとなった作品やその後の秀作を例に挙げながらスポーツドキュメンタリーを読み解く。
9回	新たな映像技術で勝利の秘密に迫る	なぜ金メダルが取れたのか、なぜ強敵を倒すことができたのかなど、「なぜ」に迫る番組は大きな興味を引く。技術の進歩によって、関係者の語る「なぜ」を分かりやすい映像で描けるようになった。新たな映像技術を用い勝利の秘密に迫るドキュメンタリー番組の魅力を知る。
10回	スポーツスタジオ番組	スポーツスタジオ番組は多角的な視点でスポーツを追い、多彩な演出で視聴者を引き付けてきた。最近では、試合結果をベースにするのではなく、テクニクや戦略などにテーマを絞り当事者も交えて面白く見せるスポーツ情報バラエティーが数多く登場している。スポーツスタジオ番組の系譜と変遷を追う。

- | | | |
|------|---------------------|---|
| 11 回 | イノベーションによるスポーツ報道の変化 | スポーツ競技をとらえるカメラの高度化、解析システムの発達、CG 技術の進化。技術革新はスポーツの見方を変え、競技の進め方や戦略にも多大な変化をもたらしている。この変化の真ただ中にある現状を洞察する。 |
| 12 回 | 誰もがメディアになる時代 | SNSで選手が自ら情報発信することは日常的になっている。コロナ禍によりマスメディアの取材活動が制限される中、より活発に行われている。SNSの発展に伴う情報発信の変化を捉え、そこに潜む問題点にも目を向ける。 |
| 13 回 | スポーツメディアのこれから | スポーツの試合を LIVE で届けるのはまだテレビが中心となると思われるが、インターネットメディアが結果報道の最先端になりつつあり圧倒的情報量で新聞やテレビを凌駕し始めている。一方、「するスポーツ」に対する情報ニーズの高まりもある。スポーツメディアのこれからの動きを推察する。 |
| 14 回 | 授業全体のまとめとレポート提出 | これまでの授業で取り上げてきた内容・用語を再確認し質問を受け付ける。課題として提示したりレポートの提出 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、ネット、新聞・雑誌によるスポーツ報道に日々目を配り、それぞれの報道を鵜呑みにせず、自身の経験や他人の意見も取り込みながら、自分なりの考えを構築してることが重要。目に留まった出来事をメモしておきたい。準備学習・復習時間 2 時間をとりながら授業に向かおう。

【テキスト（教科書）】

特に使用せず。

【参考書】

「21 世紀スポーツ大辞典」中村敏雄ほか編集主幹 大修館書店
「日本スポーツ放送史」橋本一夫 大修館書店
「スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった」佐塚元章 文芸社
「よくわかるスポーツ文化論」井上俊 菊幸一編著 ミネルヴァ書房
「現代スポーツ評論 4 1」清水論責任編集 創文企画

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に課題の提出を求め理解度を確かめる（50%）。最終週にレポートの提出を求める（50%）。両方の内容を総合的に判断して評価する。レポートは記述のオリジナリティ、論理構成、表現方法を重点に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当のため特になし。

【その他の重要事項】

この授業は講師の 40 年以上にわたるスポーツの取材活動、番組制作活動をもとにメディア論を講義するもの。オリンピック・パラリンピック開催の可否を含め状況の変化に応じた内容としたい。

【Outline and objectives】

There has been a variety of sports media such as long-standing newspapers, broadcasts, and modern internet-oriented media. The objectives of this course are to develop a vast knowledge on how these media have been approaching and reporting the sporting news.

MAN100NA

財務会計（2018年度以前入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独自性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造

第10回 アートとデザイン

アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第11回 新事業創造と事業計画

第12回 価値創造 事例1

経営者、起業家による事業創造と経営創造

第13回 価値創造 事例2

クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作

第14回 まとめ

新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農工商連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律、知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年。

【参考書】

境新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年。
境新一（編著）、齋藤保男、加藤寛昭、丸幸弘、塚田周平、白井真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年。
『日経 業界地図2021年版』日本経済新聞社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20％ 期中レポート40％ 期末試験（持込可）または期末レポート40％ の総合評価とします。なお、期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

財務会計（2018年度以前入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独自性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造

第10回 アートとデザイン

アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品

第11回 新事業創造と事業計画

新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回 価値創造 事例1

経営者、起業家による事業創造と経営創造

第13回 価値創造 事例2

クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作

第14回 まとめ

新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農工商連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律、知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年。

【参考書】

境新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年。
境新一（編著）、齋藤保男、加藤寛昭、丸幸弘、塚田周平、白井真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年。
『日経 業界地図2021年版』日本経済新聞社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20％ 期中レポート40％ 期末試験（持込可）または期末レポート40％ の総合評価とします。なお、期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA

財務会計（2018年度以前入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独自性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体的理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造

第10回 アートとデザイン

アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品

第11回 新事業創造と事業計画

新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回 価値創造 事例1

経営者、起業家による事業創造と経営創造

第13回 価値創造 事例2

クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作

第14回 まとめ

新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農工商連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律、知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年。

【参考書】

境新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年。
境新一（編著）、齋藤保男、加藤寛昭、丸幸弘、塚田周平、白井真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年。
『日経 業界地図2021年版』日本経済新聞社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% 期中レポート40% 期末試験（持込可）または期末レポート40% の総合評価とします。なお、期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻りに用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力
(E) 専門知識の活用・応用力
(F) 総合デザイン能力 25%
(G) コミュニケーション能力 25%
(H) 継続的学習能力 25%
(I) 業務遂行能力 25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。

*オンライン授業の場合は zoom の URL・ID・パスワード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。

*学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。

*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題① 新製品・サービスの発案	第5～8回の研究課題の取り組み方、第9回の発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	研究課題② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。
8	研究課題④ 新製品・サービスの発表の準備	第9回のプレゼンテーションの準備を行う。

9	新製品・サービスの発表	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（第9回のプレゼンテーションが終わらない場合は本回にその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介しします。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッカー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出（配点90%）、平常点（配点10%）とします。詳細は次の通りです。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：（例）『企業活動とマーケティングの関係性について事例を用いて述べよ』など。学習支援システム【課題】に掲示します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
4. 提出期間：2022年1月12日午前10時30分から2022年1月19日午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
6. 留意事項

(1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。

(2) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。

(3) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。

(4) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。

(5) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

<平常点>

意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

研究課題において受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進捗することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後より効果的に研究課題を授業に組み入れたい。オンライン授業の際も、同様の効果が得られるよう受講生の相互交流を促したい。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

【Outline and objectives】

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

MAN100NA

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。

*オンライン授業の場合は zoom の URL・ID・パスコード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。

*学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。

*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題① 新製品・サービスの発案	第5～8回の研究課題の取り組み方、第9回の発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	研究課題② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。
8	研究課題④ 新製品・サービスの発表の準備	第9回のプレゼンテーションの準備を行う。
9	新製品・サービスの発表	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（第9回のプレゼンテーションが終わらない場合は本回にその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。

12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P.F. ドラッカー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出（配点90%）、平常点（配点10%）とします。詳細は次の通りです。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：（例）『企業活動とマーケティングの関係性について事例を用いて述べよ』など。学習支援システム【課題】に掲示します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
4. 提出期間：2022年1月12日午前10時30分から2022年1月19日午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
6. 留意事項
（1）レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（2）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（3）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。
（4）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（5）レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

<平常点>

意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

研究課題において受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。オンライン授業の際も、同様の効果が得られるよう受講生の相互交流を促したい。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

[Outline and objectives]

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

MAN100NA

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力

◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。

*オンライン授業の場合は zoom の URL・ID・パスワード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。

*学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。

*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題① 新製品・サービスの発案	第5～8回の研究課題の取り組み方、第9回の発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	研究課題② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。
8	研究課題④ 新製品・サービスの発表の準備	第9回のプレゼンテーションの準備を行う。
9	新製品・サービスの発表	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。

- | | | |
|----|---------------------|--|
| 10 | マーケティング・ミック
スと情報 | マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（第9回のプレゼンテーションが終わらない場合は本回にその場を設けます） |
| 11 | 市場の細分化 | STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。 |
| 12 | 消費者購買プロセス | 消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。 |
| 13 | 顧客との関係の強化 | 顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。 |
| 14 | 企業の社会的責任とマーケティング | 企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について説明する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介しします。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出（配点90%）、平常点（配点10%）とします。詳細は次の通りです。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：（例）『企業活動とマーケティングの関係性について事例を用いて述べよ』など。学習支援システム【課題】に掲示します。

2. 言語：日本語

3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5

4. 提出期間：2022年1月12日午前10時30分から2022年1月19日午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出

6. 留意事項

(1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。

(2) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。

(3) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。

(4) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。

(5) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

<平常点>

意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

研究課題において受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。オンライン授業の際も、同様の効果が得られるよう受講生の相互交流を促したい。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

[Outline and objectives]

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

ECN100NA

エコノミクス

多部田 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、『産業組織論』の中心課題にもあげられる「企業・組織の経済学」や「戦略の経済学」あるいは『都市経済学（交通経済学）』を考える上で必要となるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。本講義の目標は、近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析、簡単な統計処理方法などの分析ツールに親んでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやイデオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれる。講義レベルは、米国の標準的な大学で1～2年次に学習するミクロ経済学の内容とほぼ同等である。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求される。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。中間試験、期末試験では、多岐選択・正誤問題など記号選択中心の試験となる予定です。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の3点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②英語で経済・ビジネスの情報をえるための基礎的な用語や簡単な文献が読めるようになること。
- ③①を行うための基礎的な数学（あるいは統計的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）

教養力：◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学（原著）と適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。また、時折、実証分析などの例をパソコンを用いて紹介します。講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。適時に配布する英文による経済の多岐選択問題（multiple choice）や正誤問題（True / False）のプリントを講義で解説します。試験では、これらの英文サンプル問題と類似したものが出題されます。中間試験と期末試験を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えるとは何かを解説する。本講義を通じて、実証分析に向けて、仮説化と検証、理論構築のプロセスを知る。

2	経済学に使う数学（その1）	クラメールの公式、行列式について学ぶ。
3	経済学的な物事を考え、分析しよう（その1）	機会費用とは何か。費用・便益の観点から大学進学のは非を考えてみよう。費用・便益の推定法についても学ぶ。
4	経済学的に物事を考え、分析しよう（その2）	業界別に見た生涯所得の推定方法などを学び、経済学が身近な分析に役立つことを学ぶ。
5	社会現象を仮説化してみよう～統計学入門	これまでの講義のまとめとして、経済数学や統計処理の初歩について学び仮説の設定の仕方を学ぶ。
6	市場における需要と供給について（その1）	完全競争市場における需要と供給を考える。
7	市場における需要と供給について（その2）	需要と供給の分析の応用例を学ぶ。
8	価格の弾力性と売上の関係について市場構造について	需要の価格弾力性と売上の関係について市場構造について学ぶ。
9	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
10	経済学に使う数学（その2）	微分の復習をしたあと、条件付き最大・最少を考えるため「ラグランジュの未定乗数法」について学ぶ
11	ミクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 1 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
12	ミクロ経済理論の応用（その2）	11 回目の講義の続きで Sample Question 1 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
13	ミクロ経済学理論のマクロ経済理論への応用（その1）	授業で配布する資料と英文の問題、Sample Question 2 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎をザックリと学ぶ。
14	ミクロ経済学理論のマクロ経済理論への応用（その2）	13 回目の講義の続きで Sample Question 2 の問題を解きながら解説したり、配信資料の解説を行う。この講義を通じてマクロ経済学理論の基礎をザックリと学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題・レポートの提出（1 回程度）と英文によるミクロ経済学とマクロ経済学の問題の予習と復習が必要。授業内に配布する英文の Multiple choice, True/False の問題（Sample Question 1, Sample Question 2）に沿って復習をすることが重要となる。

講義ノートや配布プリントを中心に進めるため講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、資料が事前に配布された場合は、プリント（資料）や英文の演習問題には目を通しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1～2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。

【参考書】

『ミクロ経済学 第2版』多部田（成文堂、2020年、5月）を参考書として使いますが、買う必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

○授業への取り組み・平常点・演習課題とレポートの提出：20－25％、◎中間試験と期末試験：75－80％

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、アメリカの大学における勉強の仕方等、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立ったとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。英文プリント配布時の予習を除き、講義内容の復習を中心に学習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。（通常は、配布プリント教材の参照とホワイトボードの板書が中心です。）

【その他の重要事項】

2021年度の授業も秋学期になりました。
シラバスの内容も変更する場合があります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。

【Outline and objectives】

This course on economics centers on theory of industrial organizations, considering aspects of industrial/organizational, strategic and city economics and fundamentally related micro and macro economics. The aim is to familiarize students with analysis tools for algebra and statistics essential to modern economics and to raise their analytical and critical thinking skills. With this in mind, the course avoids approaches via historical doctrine and ideology, and emphasizes applications of ideal economic models and real world solutions to economic problems. Lectures will be mostly equivalent to standard 1st/2nd year university microeconomics courses taught in the US. Students falling short of the fundamental skills in reading, writing and mathematics (up to high school equivalent; algebraic/simultaneous/quadratic equations, linear/quadratic functions, calculus) must be able to make up for these areas by self-study. To reinforce comprehension, classes will not be comprised completely of lectures but also encompass practice tutorials. In addition, 3 to 5 lectures in English will be given. In the final exam, multiple choice/true or false questions will be written in English, and essay questions answered in Japanese.

ECN100NA

エコノミクス

多部田 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、『産業組織論』の中心課題にもあげられる「企業・組織の経済学」や「戦略の経済学」あるいは『都市経済学（交通経済学）』を考える上で必要となるマイクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。本講義の目標は、近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析、簡単な統計処理方法などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやイデオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的マイクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれる。講義レベルは、米国の標準的な大学で1～2年次に学習するマイクロ経済学の内容とほぼ同等である。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求される。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。中間試験、期末試験は、多岐選択・正誤問題などの記号選択の形式となる予定です。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の3点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②英語で経済・ビジネスの情報をえるための基礎的な用語や簡単な文献が読めるようになること。
- ③①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）

教養力：◎

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 45% |
| (B) 技術者倫理 | 30% |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | |
| (E) 専門知識の活用・应用能力 | |
| (F) 総合デザイン能力 | 25% |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

進めていきます。また、時折、実証分析などの例をパソコンを用いて紹介します。講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。また、将来国際的な職に就こうとする学生や留学を考える学生のために、適時に配布する英文による経済の多岐選択問題（multiple choice）や正誤問題（True / False）のプリントも講義で解説します。試験は、中間テスト期末テストの2回を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えると何かを解説する。本講義を通じて、実証分析に向けて、仮説化と検証、理論構築のプロセスを知る。
2	経済学に使う数学（その1）	クラメールの公式、行列式について学ぶ。
3	経済学的物事を考え、分析しよう（その1）	機会費用とは何か。費用・便益の観点から大学進学の是非を考えてみよう。費用・便益の推定法についても学ぶ。
4	経済学的に物事を考え、分析しよう（その2）	業界別に見た生涯所得の推定方法などを学び、経済学が身近な分析に役立つことを学ぶ。
5	社会現象を仮説化してみよう～統計学入門	これまでの講義のまとめとして、経済数学や統計処理の初歩について学び仮説の設定の仕方を学ぶ。
6	市場における需要と供給について（その1）	完全競争市場における需要と供給を考える。
7	市場における需要と供給について（その2）	需要と供給の分析の応用例を学ぶ。
8	価格の弾力性と売上の関係について市場構造について	需要の価格弾力性と売上の関係について市場構造について
9	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
10	経済学に使う数学（その2）	微分の復習をしたあと、条件付き最大・最少を考えるため「ラグランジュの未定乗数法」について学ぶ。
11	マイクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 1の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだマイクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
12	マイクロ経済理論の応用（その2）	11回目の講義の続きで Sample Question 1の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだマイクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
13	マイクロ経済学理論のマクロ経済理論への応用（その1）	授業で配布する資料や英文の問題、Sample Question 2の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎をザックリと学ぶ。
14	マイクロ経済学理論のマクロ経済理論への応用（その2）	13回目の講義の続きで、配信資料と Sample Question 2の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎をザックリと学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題・レポートの提出（1回程度）と英文によるミクロ経済学とマクロ経済学の問題の予習と復習が必要。授業内に配布する英文の Multiple choice, True/False の問題（Sample Question 1, Sample Question 2）に沿って復習をすることが重要となる。

講義ノートや配布プリントを中心に進めるため講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、事前に配布されたプリント（資料）や英文の演習問題には目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 1～2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。

【参考書】

『ミクロ経済学 第2版』（成文堂）多田直樹【2020年5月】を参考図書として使いますが、買う必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

○授業への取り組み・平常点・演習課題とレポートの提出：20 - 25%、◎中間試験と期末試験（2回の試験）：75 - 80%

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、アメリカの大学における勉強の仕方等、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立ったとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。英文プリント配布時の予習を除き、講義内容の復習を中心に学習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。（通常は、配布プリント教材の参照とホワイトボードの板書が中心です。）

【その他の重要事項】

2021年度の授業も秋学期になりました。
シラバスの内容も変更する場合があります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。

【Outline and objectives】

This course on economics centers on theory of industrial organizations, considering aspects of industrial/organizational, strategic and city economics and fundamentally related micro and macro economics. The aim is to familiarize students with analysis tools for algebra and statistics essential to modern economics and to raise their analytical and critical thinking skills. With this in mind, the course avoids approaches via historical doctrine and ideology, and emphasizes applications of ideal economic models and real world solutions to economic problems. Lectures will be mostly equivalent to standard 1st/2nd year university microeconomics courses taught in the US. Students falling short of the fundamental skills in reading, writing and mathematics (up to high school equivalent; algebraic/simultaneous/quadratic equations, linear/quadratic functions, calculus) must be able to make up for these areas by self-study. To reinforce comprehension, classes will not be comprised completely of lectures but also encompass practice tutorials. In addition, 3 to 5 lectures in English will be given. In the final exam, multiple choice/true or false questions will be written in English, and essay questions answered in Japanese.

ECN100NA

エコノミクス

多部田 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この「エコノミクス」では、『産業組織論』の中心課題にもあげられる「企業・組織の経済学」や「戦略の経済学」あるいは『都市経済学（交通経済学）』を考える上で必要となるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。本講義の目標は、近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析、簡単な統計処理方法などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやイデオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれる。講義レベルは、米国の標準的な大学で1～2年次に学習するミクロ経済学の内容とほぼ同等である。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求される。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。中間試験、期末試験は、多岐選択・正誤などの記号選択の形式を予定しています。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の3点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②英語で経済・ビジネスの情報をえるための基礎的な用語や簡単な文献が読めるようになること。
③①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○			◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を適時に配布するプリント教材を中心に講義を進めていきます。また、時折、実証分析などの例をパソコンを用いて紹介します。講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。また、将来国際的な職に就こうとする学生や留学を考える学生のために、適時に配布する英文による経済の多岐選択問題（multiple choice）や正誤問題（True / False）のプリントも講義で解説します。試験は、中間テスト期末テストの2回を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えるとは何かを解説する。本講義を通じて、実証分析に向けて、仮説化と検証、理論構築のプロセスを知る。
2	経済学に使う数学（その1）	クラメールの公式、行列式について学ぶ。
3	経済学的に物事を考え、分析しよう（その1）	機会費用とは何か。費用・便益の観点から大学進学のは非を考えてみよう。費用・便益の推定法についても学ぶ。
4	経済学的に物事を考え、分析しよう（その2）	業界別に見た生涯所得の推定方法などを学び、経済学が身近な分析に役立つことを学ぶ。
5	社会現象を仮説化してみよう～統計学入門	これまでの講義のまとめとして、経済数学や統計処理の初歩について学び仮説の設定の仕方を学ぶ。
6	市場における需要と供給について（その1）	完全競争市場における需要と供給を考える。

7	市場における需要と供給について（その2）	需要と供給の分析の応用例を学ぶ。
8	価格の弾力性と売上との関係について市場構造について	需要の価格弾力性と売上との関係について学ぶ。
9	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
10	経済学に使う数学（その2）	微分の復習をしたあと、条件付き最大・最少を考えるため「ラグランジュの未定乗数法」について学ぶ
11	ミクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 1 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
12	ミクロ経済理論の応用（その2）	11 回目の講義の続きで Sample Question 1 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
13	ミクロ経済学理論のマクロ経済理論への応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 2 の問題を解きながら解説したり、配信資料で解説を行う。この講義でマクロ経済学理論の基礎をザックリ学ぶ。
14	マクロ経済理論の応用（その2）	13 回目の講義の続きで Sample Question 2 の問題と配信資料の解説を行う。この講義を通じてマクロ経済学理論の基礎をザックリと学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題・レポートの提出（1回程度）と英文によるミクロ経済学とマクロ経済学の問題の予習と復習が必要。授業で配布する英文の Multiple choice, True/False の問題（Sample Question 1, Sample Question 2）や配信資料を基に試験を課すので資料に目を通して、復習中心の学習をすることが重要となる。講義ノートや配布プリントを中心に進めるため講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。事前に資料が配信された場合は、配布されたプリント（資料）や英文の演習問題には目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各1～2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。

【参考書】

『ミクロ経済学 第2版』（成文堂）多部田直樹【2020年5月】を参考書として用いますが、買う必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

○授業への取り組み・平常点・演習課題とレポートの提出：20～25%、◎中間試験と期末試験：75～80%

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、アメリカの大学における勉強の仕方等、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立つとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。英文プリント配布時の予習を除き、講義内容の復習を中心に学習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。（通常は、配布プリント教材の参照とホワイトボードの板書が中心です。）

【その他の重要事項】

2021年度の授業も秋学期になりました。シラバスの内容も変更する場合があります。ご了承ください。対面授業で行う予定です。

[Outline and objectives]

This course on economics centers on theory of industrial organizations, considering aspects of industrial/organizational, strategic and city economics and fundamentally related micro and macro economics. The aim is to familiarize students with analysis tools for algebra and statistics essential to modern economics and to raise their analytical and critical thinking skills. With this in mind, the course avoids approaches via historical doctrine and ideology, and emphasizes applications of ideal economic models and real world solutions to economic problems. Lectures will be mostly equivalent to standard 1st/2nd year university microeconomics courses taught in the US. Students falling short of the fundamental skills in reading, writing and mathematics (up to high school equivalent; algebraic/simultaneous/quadratic equations, linear/quadratic functions, calculus) must be able to make up for these areas by self-study. To reinforce comprehension, classes will not be comprised completely of lectures but also encompass practice tutorials. In addition, 3 to 5 lectures in English will be given. In the final exam, multiple choice/true or false questions will be written in English, and essay questions answered in Japanese.

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造

第10回 アートとデザイン

アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第11回 新事業創造と事業計画

第12回 価値創造 事例1

経営者、起業家による事業創造と経営創造

第13回 価値創造 事例2

クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作

第14回 まとめ

新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農工商連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律、知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年。

【参考書】

境新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年。
境新一（編著）、齋藤保男、加藤寛昭、丸幸弘、塚田周平、白井真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年。
『日経 業界地図2021年版』日本経済新聞社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% 期中レポート40% 期末試験（持込可）または期末レポート40% の総合評価とします。なお、期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独自性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造

第10回 アートとデザイン

アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第11回 新事業創造と事業計画

第12回 価値創造 事例1

経営者、起業家による事業創造と経営創造

第13回 価値創造 事例2

クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作

第14回 まとめ

新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農工商連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律、知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年。

【参考書】

境新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年。
境新一（編著）、齋藤保男、加藤寛昭、丸幸弘、塚田周平、白井真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年。
『日経 業界地図2021年版』日本経済新聞社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% 期中レポート40% 期末試験（持込可）または期末レポート40% の総合評価とします。なお、期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独自性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造

第10回 アートとデザイン

アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品

第11回 新事業創造と事業計画

新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回 価値創造 事例1

経営者、起業家による事業創造と経営創造

第13回 価値創造 事例2

クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作

第14回 まとめ

新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農工商連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律、知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年。

【参考書】

境新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年。
境新一（編著）、齋藤保男、加藤寛昭、丸幸弘、塚田周平、白井真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年。
『日経 業界地図2021年版』日本経済新聞社、2020年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% 期中レポート40% 期末試験（持込可）または期末レポート40% の総合評価とします。なお、期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

ADE200NA

サステナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候風土に応じて発達してきたヴァナキュラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について、原理や計画手法を習得しながら、環境保全に関する知識を身につける。

【到達目標】

- 1) 自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法の原理を理解する。
 - 2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
 - 3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
 - 4) 簡易な模型を用いて温熱環境の原理を理解する。
- これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを、到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

○

◎

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は「学習支援システム」と「zoom等」による遠隔で行い、毎回の授業は、講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキュラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介する。簡易な建物模型を用いて温湿度の計測も場合によっては行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5回	高温・低湿度環境に住まう	砂漠気候の熱容量の大きい住居の住まい方と効果。カスバなどを通し、断熱・熱容量の特性を知る。
6回	高床や水上型住居	インドネシアとタイの高床式住居、ボルネオの水上住居から、その環境特性を知る。加湿冷却の特性を演習により習得する。
7回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダスイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
8回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する。
9回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
10回	建物模型を用いた温熱環境の計測計画	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画を立てる
11回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（1）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
12回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（2）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
13回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験結果	建物模型を用いた温熱環境の実験結果から、考察と対策について考える。
14回	総合復習	講義・実験を通して得られた知見について報告し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関するプリントを配布する

【参考書】

『理科年表』（丸善）。
村上周三著、『ヴァナキュラー建築の居住環境性能』（慶応技術大学出版会）、
木村健一（編著）『民家の自然エネルギー技術』（彰国社）、
磯田憲生ほか（編）『CDブック ハウスクリマ』（海青社）など

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する演習を20%、試験またはレポートを80%程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about sustainable systems harnessing vernacular buildings and low energy buildings.

ADE200NA

サステナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法を学び、サステナブル（持続可能）な建築環境の創造に対する技術的な建築応用の習得を目的とする。気候風土に応じて発達してきたヴァナキユラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について原理や計画手法を習得する。

【到達目標】

環境を科学的にとらえる基礎的な理論を身に付け、自然エネルギーを利用した建築への応用手法を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は「学習支援システム」と「zoom等」による遠隔で行う。毎回の授業は、講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキユラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介する。簡易な建物模型を用いて温湿度の計測を行うことも検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5回	高温・乾燥環境に住まう	砂漠気候の熱容量の大きい日干しレンガ造住居の住まい方と環境工学的特徴を知る。
6回	高床や水上型住居	インドネシアとタイの高床式住居、ボルネオの水上住居から、その環境特性を知る。加湿冷却の特性を演習により習得する。
7回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダイヌイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
8回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する。
9回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
10回	建物模型を用いた温熱環境の計測計画	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画を立てる。
11回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（1）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
12回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（2）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
13回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験結果	建物模型を用いた温熱環境の実験結果から、考察と対策について考える。
14回	総合復習	講義・実験をとして得られた知見について報告し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、講義に関するプリントを毎回配布する

【参考書】

『理科年表』（丸善）。他は必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する演習を20%、試験またはレポートを80%程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻する学生は履修する資格がないと思うこと。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about sustainable systems harnessing vernacular buildings and low energy buildings.

ADE200NA

サステナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法を学び、サステナブル（持続可能）な建築環境の創造に対する技術的な建築応用の習得を目的とする。気候風土に応じて発達してきたヴァナキユラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について原理や計画手法を習得する。

【到達目標】

環境を科学的にとらえる基礎的な理論を身につけ、自然エネルギーを利用した建築への応用手法を理解することを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は「学習支援システム」と「zoom 等」による遠隔で行い、毎回の授業は、講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキユラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介する。簡易な建物模型を用いて温湿度の計測も検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2 回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3 回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4 回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5 回	高温・乾燥環境に住まう	査候気候の熱容量の大きい日干し煉瓦造住宅から、断熱・熱容量の特性を知る。
6 回	壁の断熱と熱容量	熱貫流・熱伝達・熱伝導を学習し、熱容量を生かした太陽熱利用の住居特性を演習する。
7 回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダイヌイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
8 回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する
9 回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
10 回	建物模型を用いた温熱環境の計測計画	建物模型を用いた温熱環境について、実験計画を立てる。
11 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（1）	建物模型を用いた温熱環境について、実験計画にも続き実験を行う。
12 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（2）	建物模型を用いた温熱環境について、実験計画にも続き実験を行う。
13 回	設備技術の歴史と変化	設備の歴史の変遷と現代的技術の比較を、演習を通して習得する。
14 回	総合復習	講義・実験を通して得られた知見について報告し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、講義に関する資料を事前に Web にアップする。

【参考書】

『理科年表』（丸善）。他は必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する演習を 20%、試験またはレポートを 80% 程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻する学生は履修する資格がないと思うこと。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about sustainable systems harnessing vernacular buildings and low energy buildings.

ADE300NB

建築フォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築という領域の中ではさまざまな実践がなされている。建築フォーラムでは毎回異なる講師に建築の最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルな建築を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつの建築を完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
住まいとその設計との間のギャップとは？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは建築という分野のパーソナリティを形成するのには貢献するだろうし、さらに重要なのは自分が共感できる分野にめぐり合えるかもしれないということだ。
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを構成する。デザイン工学部 3 学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマを組み込んだレクチャー構成とする。

【到達目標】

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう
以上の技術を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ

○

◎

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

建築フォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、

学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。建築および関連分野の第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14 回の連続性が持ち味の通常の授業と 1 回性の講演の繰り返しの特徴の建築フォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批判的に理解する方法を 6 回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で 6 回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである（授業計画の項を参照のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。

7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容をまとめ、レポートで授業支援システムに提出する。ワード文書の作成の基本をよく理解すること。レポートには適切な題名をつけること。引用であることを明示してあればレポート文中に他の文献などから引用することは無論 OK だが、ブログなどのインターネットからの不用意な「コピペ」は盗用となり、単位不認定となる場合があるので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
6 回のレポート（講演メモ＋講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90%）となる。質問タイムへの参加は TA が記録し、授業参加評価（10%）として加点される。

【学生の意見等からの気づき】

建築フォーラムはオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、文化についての局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノート PC にメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

建築学科の学生は授業レポートを IAE サーバーに提出する。建築学科所属以外の学生の提出方法はガイダンスで指示する。
実務経験との関連：現役の建築家でもある複数の教員が建築をとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って 7 名の講師を選定し招聘している。

【Outline and objectives】

In the field of architecture many kinds of practices exist. This architecture forum each time invites different lecturers to report on the front-line of architecture, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What are the latest problems in structures?

How are architect organizations formed around the world?

How much effort is required to complete an entire building?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What gap exists between a house and its planning?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

ART200GA

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、みなさんが接する機会の少ない新しい表現の世界についての見方や考え方に關するきっかけとなる様な入門的な内容の講義となります。特に、21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。また、演劇などのパフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界に関する様々な事例を参照し、社会と芸術との接点やその関係性について学びます。「芸術史と理論」（前半）、「社会と美術」（後半）の2つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

1. 芸術史と理論

社会と芸術について学ぶ上での基礎となる18世紀から21世紀の近現代の芸術の歴史と理論について学びます。

2. 社会と美術

社会や時代を映す鏡としてのメディアと芸術表現との関係について、具体例を交えながら学びます。

【到達目標】

講義では、過去から現在に至る美術史と現代社会と美術に関する身近な事例を紹介していきます。それらの事例より、

1. 美術史の営みを理解すること
2. 身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすこと

がこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に關連。

【授業の進め方と方法】

導入（10分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャー・パフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くこととなります。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/7	ガイダンス 社会と美術について	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
4/14	芸術史と理論 1 近代美術の誕生（写実主義、印象派）	市民革命、産業革命とアート レクチャー・パフォーマンス 印象派のはじまり
4/21	芸術史と理論 2 アバンギャルドの時代Ⅰ（フォービズム、表現主義、キュビズム）	第一次世界大戦前のアート レクチャー・パフォーマンス ピカソとブラック
4/28	芸術史と理論 3 アバンギャルドの時代Ⅱ（未来派、ダダイズム、シュルレアリスム）	第一次世界大戦とアート レクチャー・パフォーマンス マルセル・デュシャン
5/12	芸術史と理論 4 アバンギャルドの時代Ⅱ（戦後美術）	戦後のアメリカ美術 抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート

5/19 芸術史と理論 5
多文化の時代

多文化主義とアート
YBA とリレーショナル・アート
ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist とリレーショナルアート）についての理解を深める。
レクチャー・パフォーマンス
多文化主義とアート

5/26 芸術史と理論 6
コミュニケーションの時代

参加型アート
ソーシャリー・エンゲージド・アート
レクチャー・パフォーマンス
ヨーゼフ・ボイス
パウハウスとブラックマウンテンカレッジ

6/2 社会と美術 1
美術と教育

ABR（教育と美術）
アートベースリサーチ
レクチャー・パフォーマンス
ブラックマウンテンカレッジの芸術教育

6/9 社会と美術 2
美術と批評

美術批評の起源
戦後の美術批評
美術批評の現在
レクチャー・パフォーマンス
批評家について

6/16 社会と美術 3
文化政策

文化と法律
文化を支える仕事
レクチャー・パフォーマンス
ミュージオロジー

6/23 社会と美術 4
政治とアート

第二次世界大戦中の文化政策
プロパガンダ
社会主義と美術
レクチャー・パフォーマンス
社会主義美術

6/30 社会と美術 5
ジェンダーとアート

ジェンダー、トランスジェンダーの課題
レクチャー・パフォーマンス
マリナ・アブラモビッチ

7/7 社会と美術 6
環境とアート

環境問題とアート
ランドアート
エコロジー
レクチャー・パフォーマンス
アンディ・ゴールズワージー

7/14 ワークショップ

フィードバックとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますが、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで 世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年

高階秀爾『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年

辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

美術を学ぶためには、体験的かつ分析的な物の見方が必要でしょう。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site (ウェブサイト) のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像 (YouTube、30 分程度のを 2、3 本)、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.

2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

ART200GA

メディアと社会

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは現在様々なメディアに接する環境にあり、それらを通じて個人や社会とつながることを可能にしています。一方でメディアの利用によって引き起こされる様々な問題もあり、多様化した現代のメディアについてよりいっそう理解を深める必要があります。

国際文化学部基幹科目「メディアと社会」では、メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようなようになるべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。

「現代メディア史」「メディアと社会」「メディアと表象」の3つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

・メディアの歴史

古代から現代までのメディアの変遷と歴史について学びます。

・メディアと社会

社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。

・メディアと表象

メディアという観点から様々な表現を読み解いていきます。

【到達目標】

授業では、過去から現在に至るメディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

導入（10分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/23	オリエンテーション	講義内容 教科書・参考書 評価基準など
9/30	メディアの歴史 1 絵画から文字へ	文字の誕生とその発達の歴史について
10/7	メディアの歴史 2 文字の進化	活字（印刷）の発明と近代文化に与えた影響について
10/14	ワークショップ 1	ワークショップ・絵画と文字
10/21	メディアの歴史 3 印刷の誕生	印刷技術のもたらす社会の変化 レクチャーパフォーマンス 「Helvetica」
10/28	メディアの歴史 4 マスメディア（新聞、雑誌、ラジオ、テレビ）	マスメディアについて レクチャーパフォーマンス 「テレビの世界」
11/11	ワークショップ 2	ワークショップ・マスメディアについて

11/18	メディアの課題 1 マクルーハンのメディア論	マクルーハンの理論 レクチャーパフォーマンス 「メディアはメッセージ」
11/25	メディアの課題 2 インターネット	地域社会を取り巻くメディアの役割と課題
12/2	ワークショップ 3	モダンアートと新しいメディア
12/9	メディアと社会 1 企業とメディア	建築とメディア、デザインとメディアについて
12/16	メディアと社会 2 戦争とメディア	インスタレーション、パフォーマンス、リレーショナル・アートなどについて
12/23	メディアと社会 3 メディアとアミューズメント	料理をめぐるメディア論 日本におけるクリスマスについて
1/13	メディアと社会のまとめ ワークショップ 4	メディアと社会をめぐるディスカッション ワークショップ・メディア批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますが、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

マーシャル マクルーハン『メディア論—人間の拡張の諸相』みすず書房、1987年
吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話』有斐閣、2004年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門—美術史を超えるための方法論』見洋書房、2001年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30分程度のものを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リンク先がありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

We can connect with individuals and society through media. On the other hand, there are various problems caused in the course of these connections, so we need to deepen our understanding of diversified media.

発行日：2021/4/1

This course will explore what role media has in society, how future media should be, and concrete examples such as video materials.

LIT200GA

言語文化概論

衣笠 正晃

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

- 1) テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
- 2) 言語（ことば）と文化・社会との密接なかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
- 3) 学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

各回とも、出席者がテキストおよび事前配付資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。

授業形式は講義が中心となります。皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。リアクションペーパーのコメントや質問については次回授業で取り上げてフィードバックをおこないます。また復習を兼ねたミニレポートの提出をおこなってもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの解説と履修意図の確認+ことばから文化・社会を捉える視点（オンデマンドで実施）
2	イントロダクション	4つの「ポスト状況」と現代思想の問い（テキスト第1章）
3	19世紀から20世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
4	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第2章）
5	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第4章）
6	ことばとしての文化	構造主義革命と一般記号学（テキスト第5章）
7	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第7章）
8	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第8章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業(1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第9章）
10	メディア・テクノロジーと文化産業(2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第10章）
11	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第13章）
12	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第14章）
13	現代に求められる「人文知」	20世紀思想の問題圏（テキスト第15章）
14	学期授業の総括	学期授業の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストおよび事前配付資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までに作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平 15章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010年）

※上記テキスト以外にも随時プリントを配付・使用します。

【参考書】

・岡本裕一朗『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015年）

・小林康夫・大澤真幸『「知の技法」入門』（河出書房新社、2014年）

※その他、授業のなかで随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末レポート（50％）をあわせて評価します。

評価にあたっては以下の4点の達成度にもとづいて判断します。

- 1) テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
 - 2) 思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
 - 3) 授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもとづいて表現できているか。
 - 4) 授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。
- ※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストや資料についてさらに具体的でわかりやすい解説を心がけ、履修者による主体的な問題発見・取り組みをいっそう促すよう努力したい。

・リアクションペーパーでの質問や意見、感想をクラス全体に還元することに加えて、クラス規模を考慮しながら、出席者による議論や意見交換の機会を取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料の配付や提出物の回収、授業に関する連絡など、学期を通じて授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

・初回授業はオンデマンド（学習支援システムに資料を掲示）で実施します。受講者数が教室定員を超過する場合は初回授業の課題にもとづき選抜をおこないます。

・履修者数などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。

・配付資料として英語資料を用いることがあります。

【Outline and objectives】

In this course, we will outline the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called “linguistic turn” on the humanities, and think about how to confront the issues of the contemporary world.

GDR200GA

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

HOPPII（授業支援システム）で授業を進めていきます。

●受講を希望する人は4月9日（金）までにHOPPIIに登録してください。200名を超える場合は抽選を行います。4月12日（月）に抽選結果を発表します。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●HOPPIIの「教材」にアップロードされた授業録画、レジュメ、参考資料、文献をダウンロードして学習してください。

●HOPPIIの「テスト/アンケート」にアップロードされた問いについて、序・本論・結論がある文章のリアクション・ペーパーを書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出をしてください。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダーと社会構築主義について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①<男らしさ>を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトウロジーならびにイブ・セジュウィックのホモソーシャル性の概念から考察する。 ②ホモソーシャル性（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。

7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ボルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係性について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）。

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006年）。

千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。

江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。

木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。

伊藤公雄、樹村みのり、國信潤子『女性学・男性学・ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40%

期末レポート 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業録画をもっと見やすいものにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器ならびにインターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

●受講を希望する人は4月9日（金）までにHOPPIIに登録してください。

●200名を超える場合は抽選を行います。4月12日（月）に抽選結果を発表します。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline and objectives】

The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

HUM200GA

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 関連する文献の趣旨を的確に読み取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

■基本方針：法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベル1になった場合は対面で、レベル2以上の場合は授業日後3日間はいつでも視聴できるオンデマンド方式で実施する。

■教室定員との調整の都合もあるので、レベル1の対面実施の場合、履修予定者は第1回の授業終了後3日以内（4/10 18時）に履修するかどうかを教員が指定した方法で必ず連絡すること。連絡がない場合は履修しないものとみなす。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。毎回「授業後課題」を課す。正解のない思考を促す課題で、200字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

■履修者人数の確認：初回は授業日後3日間はいつでも視聴できるオンデマンド授業で実施する。対面授業の場合は、初回の授業後に履修の意思確認を行う。教室定員との関係で受け入れ可能な状態であることを確認した上で、2回目以降は対面授業で実施する。仮に定員を超えていた場合は抽選を実施する。レベル2以上の場合は、履修人数に関係なく音声入りパワーポイントもしくは動画を使ったオンデマンド授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション—国際文化協力とは—	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力—期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える

14 私と国際文化協力

担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再編成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・最初の授業で具体的に指示する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

2021年3月初旬発行予定の以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関係している。各自入手すること。

松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力—イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点60%、期末レポート40%
- ・授業後課題は毎回設問に200字程度で答えるものでカッコ内の場合は減点となる（例：設問に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褃が合わない）
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

1年生にとってレポートが難しかったという意見があったので、レポートの書き方について丁寧に説明するなどの対応を講じ、適切なレベルでの達成度評価を行う。

【学生が準備すべき機器他】

- ・法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベル2以上の場合、パソコン及び動画を視聴できる程度のネット環境を整えること
- ・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】

NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義する

【Outline and objectives】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

POL200GA

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 平和学で取り上げられる方法を理解し実例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：履修者数が多いため、法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベルと関わりなく、講義はオンデマンド授業で実施する。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。毎回「授業後課題」を課す。正解のない思考を促す課題で、200字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとするについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む習慣をつけ、平和に関わる記事を読んでおくこと。なお、新聞は紙媒体で読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の授業後課題）40%、期末レポート 60%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生から提出された授業後課題に対して、次の授業の冒頭でフィードバックしているが、学生からは学びが大きいと評価されているので継続する。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付け回答する。
- ・オンデマンド授業は毎回40分～50分に収まるように収録する予定である。一部学生から100分授業に満たないとの指摘があるが、内容は教室で100分行う授業と同じ内容であり、教える内容は減らしていない。
- ・オンデマンド授業の良さは、わからなかった部分を聞き直したり、一度止めてメモを取ったりできることにあると前年度の学生から歓迎された。そうした利点をうまく活用して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを用いるので、できるだけ早めに、遅くとも初回授業前には授業コードを使って自己登録すること。
- ・パソコン、および動画（もしくは音声入りパワーポイント）を視聴できるネット環境が必要。

【その他の重要事項】

- ・国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例を挙げながら講義する。

【Outline and objectives】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peaces in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

SOC200GA

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようにする。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

HOPPII（授業支援システム）で授業を進めていきます。

●受講を希望する人は4月9日（金）までにHOPPIIに登録してください。200名を超える場合は抽選を行います。4月12日（月）に抽選結果を発表します。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●HOPPIIの「教材」にアップロードされた授業録画、レジュメ、参考資料、文献をダウンロードして学習してください。

●HOPPIIの「テスト/アンケート」にアップロードされた問いについて、序・本論・結論がある文章のリアクション・ペーパーを書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出してください。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教の持つ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。

8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』（ミネルヴァ書房、2016年）。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』（ミネルヴァ書房、2007年）。
- ロバート・D・バットナム、デイヴィッド・E・キャンベル『アメリカの恩寵—宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』（柏書房、2019年）。
- 望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009年）。
- 棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島藺進、葛西賢太、福岡信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）。
- エルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）。
- ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代のカテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。
- 『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40%

期末レポート 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに記載した内容が、授業の進行と前後したことがあったご指摘を受け、レジュメと授業内容が前後しないようにします。

【その他の重要事項】

- 受講を希望する人は4月9日（金）までにHOPPIIに登録してください。
- 200名を超える場合は抽選を行います。4月12日（月）に抽選結果を発表します。
- 第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline and objectives】

The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

LANe300GA

英語アプリケーションⅡ

Kregg Johnston

配当年次/単位：3～4年/2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course aims to help students accomplish the following: 1) develop their knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics, 2) understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically, and 3) analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

1. Students read individual chapters in the book.
2. A teacher-led discussion on the material from each chapter is held.
3. Student-led discussions in small groups covering self-check questions, review questions, and critical thinking questions are held.
4. End of chapter quizzes are taken.
5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter) are given.
6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting) are assigned and given.

Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Welcome to Economics: Why Economics is Important/ Macroeconomics & Microeconomics	English reading and lecture on why it is important for everyone to be able to understand Economics.
Week 3	Welcome to Economics: Economic Theories & Models/ Economic Systems	English reading, discussion and written assignment on economic systems.
Week 4	Choice in a World of Scarcity: Choice & Budget Constraints/ Production Possibilities Frontier	English reading and lecture on the concepts of scarcity and the choices people and companies must make because of limited budgets.
Week 5	Choice in a World of Scarcity: Social Choices & Objections to the Economic Approach	English reading, discussion and written assignment on economic & social choices.
Week 6	Demand & Supply: Demand, Supply, & Equilibrium/ Changes to Equilibrium	English reading and lecture on the concepts of supply and demand.

Week 7	Demand & Supply: Student Presentations	Students make presentations on real world experiences with demand & supply using vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	Elasticity: Price Elasticity of Demand	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of demand.
Week 9	Elasticity: Price Elasticity of Supply	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of supply.
Week 10	Cost & Industry Structure: Explicit & Implicit Costs/ Accounting & Economic Profit	English reading and lecture on the concepts of cost, revenue, and profit.
Week 11	Cost & Industry Structure: The Structure of Costs in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on short & long run costs.
Week 12	Perfect Competition: Perfect Competition & Firm Output Decisions	English reading and lecture on the concepts of market competition.
Week 13	Perfect Competition: Entry & Exit Decisions in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on why companies open or close.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Read the assigned chapters in the book.
 2. Complete the assigned self-check & review questions at the end of each chapter.
 3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
 4. Come to class ready to participate actively in each class by reading the material, completing the homework assignments, and ask questions or offer own opinions in English on topics covered in class.
- The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

OpenStax, Principles of Microeconomics. OpenStax. 19 March 2014. <<http://cnx.org/content/col11627/latest/>> .

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- Quizzes 50%
- Participation 20%
- Homework 15%
- Written Assignments 15%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More practice on using economic terminology and expressing own opinions on economic topics.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring a digital device to class, such as a computer or ipad so that they can view the material in the textbook, or print out each unit and bring it to class. The textbook should be downloaded so that it can be viewed or accessed easily during class.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

LANe300GA

英語アプリケーションⅢ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to talk about their experiences abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Youth Culture: Examining aspects of youth trends such as tattoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.	English lecture, and reading on trends in youth culture such as tattoos, piercings, selfies, and various type of social media. Followed by question and answer session, and small group discussions on these trends.
Week 3	Youth Employment: Where does the money go? Youth shopping trends for services and products	English lecture, and reading on youth trends in working styles, and new ways to shop and spend money. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 4	Elderly Trends: Shopping for health, plastic surgery and Internet dating	English lecture, and reading on trends among older people including plastic surgery and internet dating. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 5	Careers and Employment: Working life What is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Research Habits: Conducting group research-different sharing tips	English lecture, reading and small group discussions on new trends in working and career styles. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.

Week 6	Alternative Career Tracks: Unusual fields for employment Outlining of Presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions on alternative forms of employment. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Medical Advances: How medical technology is shaping our world of diseases & viruses Presentation Tip — Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion on the effects of new medical technologies. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Medical Research: Big pharma and how medicine changes our reality Presentation Tip — Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on the implications of large-scale for profit medical research. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do when making a presentation.
Week 9	Health Issues: Diet considerations for life stages Presentation Tip — Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how people diets change at different times during a person's life. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Mental Health Considerations: Overworking, group and relationship stresses Presentation Tip — Group Work: Making sure group members pull their weigh and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on stresses caused by relationship at work. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentation.
Week 11	Technology in Our Blood: Technology changes Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up Presentation Tip — Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions on new technologies creating the sharing society. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	Youth Trend Presentations: Presentations and discussions of youth trend themes	Student Group Presentations on youth trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	Elderly Presentations: Presentations and discussions of elderly trend themes	Student Group Presentations on elderly trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course Overview Discussions: Discussion of life themes used in the semester	Recap lecture and group discussion of the social and technological themes cover in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework, blog work, some presentation preparation.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations

発行日：2021/4/1

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work would be useful.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

LANe300GA

英語アプリケーションⅣ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Describing Your Life: Language activities centering around student life	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing student centered life experiences.
Week 3	Describing Other Lives: Language activities centering around family and acquaintance routines	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing the daily routines and life experiences of other people.
Week 4	Explaining Customs in Your Country: Holidays, national/regional habits	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on Japanese customs, holidays, and regional or national habits.
Week 5	Explaining Customs in Selected Asian Countries: Holidays, national/regional habits Research habits: Conducting group research — different sharing tips	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on different Asian customs, holidays, and regional or national habits. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Explaining Customs in Selected Western European Countries: Holidays, national/regional habits Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions of some Western European holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.

Week 7 Discussion of Asian and Western National Differences: National holidays, national/regional habits
Presentation Tip — Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion

English lecture, reading and group discussion of difference between Asian and Western holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.

Week 8 Discussion of South American Customs in Selected Countries: Discussing cultural difference
Presentation Tip — Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking

English lecture, reading and small group discussions on some South American customs. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do and not do when making a presentation.

Week 9 Discussing Food Habits: Diet and how it affects customs
Presentation Tip — Use of Slides: Slide making dos and don'ts

English lecture, and group discussion on how customs are affected by people's diets and food supplies. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.

Week 10 Habits of Selected Parts of Africa: National holidays, national/regional habits
Presentation Tip — Group Work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together

English lecture, reading and group discussion on some African national holidays and habits. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentations.

Week 11 Examination of Sports by Continent in Selected Countries: Sports comparison by types, number of players
Presentation tip — Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit

English lecture, reading and small group discussions of sports in some countries and they can differ. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.

Week 12 African Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs
What would you do? — Culture clash examples

Student Group Presentations on African cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 13 South American Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs
What are the rules? — Relook at sports, but ones with unusual rules

Student Group Presentations on South American cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 14 Course Overview
Discussion of Contrasting
Presentation Themes: Discussion of cultural contrasts from country to country and region to region

Recap lecture and group discussion of the cultural and regional themes covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact email
kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

LANe300GA

英語アプリケーションV

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social/global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pair work and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pair work practice of a preassigned conversation, (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic, (d) a news item pair work reading and listening, and (e) a task-based pair work activity. Students' progress in pair work activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'What personality type are you?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #1 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Money & Shopping' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #1
Week 3	Topic: 'Single Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Some artists are misunderstood.' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #2 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Single Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #2

Week 4	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'History is my best subject!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #3 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Age and Youth' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #3
Week 5	Topic: 'What if ...?'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I'm against animal testing!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #4 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'What if ...?' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #4
Week 6	Topic: 'Children'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #5 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Children' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #5
Week 7	Topic: 'Cities'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'The 60s counterculture!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #6 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cities' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #6
Week 8	Topic: 'University Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'After all, it's only a game!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #7 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'University Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #7
Week 9	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #8 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cellphones' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #8
Week 10	Topic: 'Travel'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Does capital punishment work?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #9 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Travel' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #9

Week 11	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'My Cat is Cool!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #10 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Teenagers' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #10
Week 12	Topic: 'Home'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Staying Fit' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #11 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Home' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #11
Week 13	Topic: 'Time'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #12 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Time' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Final Exam - 30%
- ・ Weekly conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests - 40%
- ・ Class Participation - 20%
- ・ Word-up Tests - 10%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

LANe300GA

英語アプリケーションⅦ

ANDREW JONES

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s and continuing into the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The Italian Renaissance - The Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Italian Renaissance - The High Renaissance: Michelangelo, Leonardo	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	Presentation style - Presentation structure, posture, eye contact, gestures	English reading, and class discussion on good presentation style.
Week 5	The Italian Renaissance - Research presentation topic, draft scripts	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 6	The Italian Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 7	The Italian Renaissance - Student presentations	Students make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

Week 8	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 9	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: Historical context	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 10	Presentation style - Creating effective visuals and presenting them effectively	English reading, and class discussion on effective presentation of visual aids.
Week 11	The Netherlandish Renaissance - Research presentation topic, draft script	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 12	The Netherlandish Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 13	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	First half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 14	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	Second half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

60% Presentations, students will give two presentations during the course (2 x 30%).

20% Course participation, enthusiasm and willingness to speak English in class.

20% Portfolio of notes taken during lectures.

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

LANe300GA

英語アプリケーションⅧ

大野 ロベルト

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is the mastery of the English necessary to adequately present and discuss cultural topics of interest to the students. During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第 2 回	Introduction to How to Make Presentations on Culture in English	Introduction to Specialized Vocabulary, Presentation Methods
第 3 回	Traditional Culture: Everyday Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment
第 4 回	Traditional Culture: Pre-modern cityscapes	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 5 回	Traditional Culture: Festivals	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 6 回	Traditional Culture: Performing Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 7 回	Contemporary Culture: Student Life in Present-day Society	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第 8 回	Contemporary Culture: Sports as a Cultural Activity	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 9 回	Contemporary Culture: The Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions

第 10 回	Contemporary Culture: Language and Present-day Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 11 回	Comparison of Cultures: Japan and Asia	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第 12 回	Comparison of Cultures: Japan and America	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 13 回	Comparison of Cultures: Japan and the World	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 14 回	Comments/Conclusion	Comments/Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read about Japanese culture.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some reference materials.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% Presentation(s)

30% Written Assignments

30% Class Participation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

LANe300GA

英語アプリケーションX

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System. The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: The Principles of International Presentation	Brief English lecture and reading on the differences between Japanese and International business presentation styles. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The differences between Japanese and International business presentation styles	Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 3	Presenting with Yourself Confidence: The keys to presenting yourself as a confident professional	Brief English lecture on the main ways a presenter can show professional confidence. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	The Three Critical Questions: The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.	Brief English lecture, reading and question and answer session on the three questions a presenter needs to ask before beginning to prepare a presentation. Followed by small group discussions of topics and a written assignment.
Week 5	Creating a Powerful and Persuasive Message: Developing the one point you want your audience to hear and remember	Brief English lecture, reading and question and answer session on what every presenter needs to do: Create a powerful and persuasive message. Followed by small group discussions of the main point for the audience and a written assignment.
Week 6	The Structure of a Presentation: How to build an effective presentation	Brief English lecture on effective presentation structure. Followed by small group discussions and a written assignment on outlining a presentation.
Week 7	Mid-term Presentation Preparation: Students work on their mid-term presentations	Students discuss and edit their presentation drafts with the advice of the instructor.

Week 7	Mid-term Presentations	Individual Student Presentations to the class
Week 8	The Principles of Effective Visual Presentation: How to present visually	Brief English lecture on the principles of making effective visual presentations. Students take notes, followed by class discussion, and question and answer session.
Week 9	Designing PowerPoint 1 - Working with the Software	Reading, question and answer session, and actual practice working with the standard business presentation software PowerPoint.
Week 10	Designing PowerPoint 2 - Text, Color and Composition	Instructor lead discussion, and actual practice working with PowerPoint. Observing both the effective and ineffective use of text, color and composition.
Week 11	Using Logic and Emotion to Persuade: The elements of persuading others	Brief English lecture on the concepts of using logic and emotion to persuade others. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 12	Group presentation skills	Brief English lecture on the keys to making effective group presentations. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 13	Developing Your Group Presentation	Students discuss and edit their group presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 14	Final Group Presentations: Evaluation and Feedback	Group Student Presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

林 志津江

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA ドイツ語圏の留学準備とともに、SA によって獲得したドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会など多様なテーマに関する理解を深め、ドイツ語で表現・説明することができる。
- ・抽象的なテーマについて、ドイツ語で自分の意見を述べ、議論に加わることができる。
- ・まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

- ・各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションです。参加者それぞれのドイツ語学習経験、ドイツ語圏滞在体験に配慮しつつ、お互いにお互いの発言とテキストの理解が十分に深まることを目指しながら、学んでいきます。
- ・各回、指定されたドイツ語テキストを前もって読んでおきます。
- ・授業ではプレゼンテーションやペアワークなどを取り入れつつ、テキストの内容と重要概念（語彙）を確認し、ドイツ語でアウトプット（作文）します。授業はこの繰り返しです。練習を積み重ねながら「言いたいこと」がよりスムーズにドイツ語で言えるようになるようブラッシュアップしていきます。
- ・法政大学の2021年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。初回授業はハイフレックス型（対面+リアルタイム型オンライン授業）となる可能性が高いです。
- ・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出してもらいます。
- ・Hoppiiのほか、ZoomとGoogle Classroomをツールとして使用します。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について、ドイツ語レベルの調整
2	日常生活（1）ー 住まい	留学中・滞在先での生活についてドイツ語で説明する
3	日常生活（2）ー 食文化	土地ごとに違う表現・同じ食べ物でも土地ごとで名前が違うことについて
4	日常生活（3）ー ドイツ人はきれい好きで心配性？	あなたが見聞きしたもの、あるいは見聞きできなかったこと
5	学校・大学生活（1）	教育の目標・ドイツ語圏の人々にとって大切な価値とは？
6	学校・大学生活（2）	大学に行く目的とは？日本とドイツ語圏では何が違う？（プレゼンテーション1）
7	社会の様相（1）ー 環境政策	ドイツ語圏の環境政策・脱原発の取り組みについて
8	社会の様相（2）ー 移民政策、難民の流入	ドイツ語圏はどんな風に"multikulti"だと思おう？（プレゼンテーション2）
9	社会の様相（3）ー 教育と大学制度	教育制度に関する語彙・概念を整理してみよう
10	ドイツ語圏の歴史と政治（1）	ドイツ語圏の歴史で知っていることは？（プレゼンテーション3）
11	ドイツ語圏の歴史と政治（2）	3月革命とドイツ帝国の成立・オーストリア＝ハンガリー二重帝国の成立から第一次世界大戦まで
12	ドイツ語圏の歴史と政治（3）	ヴァイマル共和国からナチの政権奪取、絶滅政策の果てに（プレゼンテーション4）

- 13 ドイツ語圏の歴史と政治 敗戦と冷戦の始まり・東西分断とドイツ再統一へ
(4)
- 14 まとめ 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・所定の予習・復習課題を出します。
- ・新聞（日刊紙）を読むこと。国際政治を自分の身近な問題として引き受け思考するため、「何を話すか」のブラッシュアップにも文章によるニュースメディアは必要です。ドイツ語圏のメディアにはインターネットやSNS等を効果的に利用してアクセスするクセをつけると良いでしょう。

【テキスト（教科書）】

- ・"Dreimal Deutsch" (Klett, 2003/2005/2009)
- ・他に"Themen aktuell 1" (Hueber, 2003) を持っている場合は持参してください。

【参考書】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver3.』（朝日出版社、2019年）/『シュトラッセ・ノイ Ver2.』（朝日出版社、2011年）(1,2年次使用教科書)

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）

その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加と貢献、プレゼンテーション、提出課題）60%、学期末課題（テスト）40%を合わせ、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典は必携です。ただし議論の時は使ってはいけません。
- ・ハイフレックス型の授業となる可能性が高いです。WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレットのどちらか）とイヤホン（ヘッドセット/ヘッドフォンマイク）を用意してください。

【その他の重要事項】

- ・この授業はドイツ語圏滞在経験者や、ドイツ語圏の留学・SA参加予定学生（2021年度SA免除予定者含む）、滞在予定者、派遣留学を目指す学生を対象とします。目安としては4セメスター以上のドイツ語学習経験があることです。
- ・授業内容（テーマ）と順序は変更されることがあります。
- ・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」、「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受験を推奨します。Goethe Zertifikatについては割引料金適応が適用されるので、受験希望者はぜひ担当者に知らせて下さい。
- ・以上の受験結果については、2021年7月15日の時点で担当者が合否を正確に確認できた場合のみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。

【Outline and objectives】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

熊田 泰章

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ留学などを通して身に付けたドイツ語の運用能力をさらに高めるためのトレーニングを行います。授業の前半では、辞書なしで文意を捉えられるよう速読の力を養い、後半ではドイツ語の構文を正しく理解し精緻に読み解けるよう、精読の訓練をしていきます。また必要に応じて会話や聞き取りの練習も行います。

【到達目標】

ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。抽象的なテーマを扱ったドイツ語の文章を正確に読み解く。辞書なしで文章の大意を把握できるようになる。ドイツ語のしくみや、ドイツ語圏の人々の考え方を学ぶ。様々な文化との対比を通して、間文化性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ドイツ語圏の文化や歴史に関する教材資料を用います。授業の前半では、初見のテキストを辞書なしで読み、理解を得ていくことを練習をします。後半では、内容を正確に読み解くとともに、そこで取り上げられているトピックについての議論も行います。毎回、学習したことをレポートとして提出する。教材資料の提示とレポートの提出は学習支援システムによって行います。各回の授業の最初に、前回のレポートについてのフィードバックとして、提出レポートの講評を行います。セメスターの後半では、受講者の提案によって、取り上げるテーマを選定し、テキストを選んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての解説、受講者の自己紹介とドイツ語レベルの確認。
2	2020年の世界を振り返る	2020年に起きたことや社会情勢を振り返る。
3	ドイツ語圏を知る（1）ドイツについて	ドイツ語圏のいまを知る。ドイツの社会や政治制度について、日本とも比較しながら学ぶ。
4	ドイツ語圏を知る（2）オーストリアについて	ドイツの隣国オーストリアの政局や移民政策、難民受け入れなどについて概観する。
5	ドイツ語圏を知る（3）スイスについて	EU諸外国とは大いに異なるスイスの独自性や地域性について、ニュース記事などを訳しながら情報を得る。
6	ドイツ語圏を知る（4）AfD 台頭とドイツ社会	要人の殺害やシナゴーク襲撃など、ドイツにおける排外主義の高まりについて考える。
7	ドイツ語圏を知る（5）ドイツの選挙制度	似ているようで大きく異なる日独の選挙制度や政治システムの相違について考察する。
8	ドイツ語圏を知る（6）ドイツと日本の交流史を知る	1861年に修好通商条約が締結されて間もなく160年となる日本とドイツの関係について学ぶ。
9	ドイツ語圏を知る（7）ドイツとEU諸国との関係	戦後ドイツが諸外国とどのような関係を築いてきたのかを知る。
10	受講者選定テーマ1	受講者選定テーマに即したテキストを用いる。
11	受講者選定テーマ2	受講者選定テーマに即したテキストを用いる。
12	受講者選定テーマ3	初級・中級文法の定着を図る。受講者選定テーマに即したテキストを用いる。リスニングの練習を加える。
13	受講者選定テーマ4	受講者選定テーマに即したテキストを用いる。
14	このセメスターのまとめ	複雑な表現を学ぶことを加える。学んだことを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の教材資料は、学習支援システムで事前に配布しますので、適宜予習してください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、教材資料を学習支援システムで提示します。

【参考書】

中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年
辻朋季『もやもやを解消！ドイツ語文法ドリル』三修社、2015年

【成績評価の方法と基準】

授業での発言と参加 40%。課題への取り組み 40%。小テスト 20%。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら発言する授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材資料の提示と課題の提出を行います。

【その他の重要事項】

学部の授業実施方針に則り、この授業は、原則として、教室での対面授業を行います。ただし、方針の変更次第で、オンライン対応となることもあります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to make progress our German language skills acquired by staying and studying in Germany or in Switzerland. The course is especially focused on reading German texts. On one hand we'll practice to read various types of texts rapidly without using dictionaries in order to be able to grasp the main points of the text. On the other hand we read more complicated texts precisely by paying attention to the structures of sentences as well as cases (nominative, genitive, dative and accusative).

NOTA BENE: The course is mainly held in Japanese, partially in German. Students who are not proficient in these languages are requested to ask the course lecturer beforehand (q.v. also curriculum vitae in Japanese).

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

Schmidt Ute

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Alltagskultur im deutschen Sprachraum

ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう。

この授業では身近なテーマから時事問題までドイツ語圏のいろいろなトピックにスポットを当てたいと思います。受講者はそれを理解し、自分または日本の実情と比較し、各テーマについて意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいと思います。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。Goethe-Institut等のドイツ語検定試験の準備として役に立つと思います。

【到達目標】

- 1) 中級以上のテキストを理解できる。
- 2) 様々な領域の語彙を習得する。
- 3) 基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
- 4) 幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、長所、短所を挙げることができる。
- 5) 簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
- 6) 簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストブック、新聞や雑誌の記事、音楽、オーディオやビデオポッドキャストを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介	Einstufung Selbstvorstellung
第2回	統計でみるドイツ語圏	Statistiken und Grafiken beschreiben
第3回	ドイツ語圏のイメージ	Bildbeschreibung
第4回	国と国民:典型的とは何か?	Was ist typisch?
第5回	ドイツ人と動物 1	Die Tierliebe der Deutschen
第6回	ドイツ人と動物 2	Tierschutz
第7回	音楽 1	Deutsche Hits Liedtexte verstehen
第8回	音楽 2	Meine Lieblingsgruppe vorstellen
第9回	食生活	Essen und Ernährung
第10回	ドイツのニュースを読む	Nachrichten verstehen
第11回	ドイツのニュースを見る	Nachrichten im Fernsehen
第12回	健康と環境	Gesundheit und Umwelt
第13回	年間行事と祭り 1	Traditionelle Feste Weihnachtenquiz
第14回	年間行事と祭り 2	Weihnachten in Deutschland und Neujahr in Japan - Feste von gestern?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

教材は学習支援システムで配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業での発言(50%)と宿題提出(50%))この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In this class we will focus on different cultural or social topics in German speaking countries. The students will have to learn the related vocabulary to describe the situation in their own country and compare with the situation in Japan. They will learn how to express their own point of view in German and to take part in small discussions.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

PHILIPPE JORDY

配当年次/単位：3～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2 ou B1). Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà confirmés (2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1 voire B2) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Le manuel ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel Organisation de la classe Calendrier des leçons et devoirs ou tests Découverte de la méthode Édito et de l'unité 1
2	Unité 1 : vivre ensemble ! (1)	pp.11-14 : alimentation, logement, convivialité ; le subjonctif
3	Unité 1 : vivre ensemble ! (2)	pp.15-17 : voisinage, habitat, déménagement
4	Unité 1 : vivre ensemble ! (3)	pp.18-22 : conseiller ; projets participatifs ; la négation et la restriction
5	Unité 1 : vivre ensemble ! (4)	pp.23-26 : lexique du logement ; une bonne alimentation
6	Unité 2 : Le goût des nôtres (1)	pp.27-30 : origines et famille ; le passé composé et l'imparfait
7	Unité 2 : Le goût des nôtres (2)	pp.31-35 : généalogie et photos de famille ; les indicateurs de temps (1)
8	Unité 2 : Le goût des nôtres (3)	pp.36-39 : les rapports familiaux ; accord des verbes pronominaux ; p.42 : préparation du DELF B1
9	Unité 3 : Travailler autrement (1)	pp.43-46 : le nomadisme digital ; les pronoms relatifs simples
10	Unité 3 : Travailler autrement (2)	pp.47-50 : stages, jobs et embauches ; l'expression de l'opinion (1)
11	Unité 3 : Travailler autrement (3)	pp.51-55 : féminisation et marché du travail ; l'expression du but
12	Unité 4 : date-limite de consommation (1)	pp.59-63 : la consommation éthique ; l'expression de l'opinion (2)
13	Unité 4 : date-limite de consommation (2)	pp.64-67 : l'économie de partage ; le comparatif et le superlatif

14 Unité 4 : date-limite de consommation (3) pp.68-71 : les habitudes de consommation ; la place de l'adjectif ; TEST FINAL et suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire; structurer un devoir, préparer un exposé).

予習・復習・積極性厳守。本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ÉDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier
ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

Participation active en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

Le système de notation de ce cours permet à ceux qui réalisent au moins 60% de ses objectifs, de réussir.

【学生の意見等からの気づき】

Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés.

【学生が準備すべき機器他】

Ce cours a lieu en salle LL mais les étudiants peuvent utiliser librement ordinateur personnel ou smartphone pour des recherches internet, l'enregistrement de sons ou d'images, etc.

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France ou qui préparent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryûgaku").

Le cours se déroulera en classe (présentiel) mais quelques séances pourront encore avoir lieu en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with A2-B1 level in French. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge of french and francophone cultures.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

PHILIPPE JORDY

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours, suite du premier semestre, s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2 ou B1). Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1 voire B2) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

La méthode ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. Le manuel progressif permet à tout étudiant de progresser avec confiance. La méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unité 7 : Et si on partait ? (1)	Consignes pour ce second semestre ; pp.107-111 : le voyage ; l'expression du futur
2	Unité 7 : Et si on partait ? (2)	pp.112-115 : plans de voyage ; la condition et l'hypothèse
3	Unité 7 : Et si on partait ? (3)	pp.116-119 & p.122 : voyages lointains ; le conditionnel passé
4	Unité 9 : Un tour en ville (1)	pp.139-144 : actions écologiques citoyennes ; le discours rapporté
5	Unité 9 : Un tour en ville (2)	pp.145-151 : l'art urbain ; les indéfinis de quantité
6	Unité 10 : Soif d'apprendre (1)	pp.155-159 : les études en France ; la cause et la conséquence
7	Unité 10 : Soif d'apprendre (2)	pp.160-163 : les études ; le participe présent
8	Unité 10 : Soif d'apprendre (3)	pp.164-167 : wikipedia et les connaissances ; les pronoms relatifs composés
9	Unité 11 : il va y avoir du sport (1)	pp.171-175 : temps libre et loisirs ; les doubles pronoms
10	Unité 11 : il va y avoir du sport (2)	pp.176-179 : santé et connectivité ; la mise en relief
11	Unité 11 : il va y avoir du sport (3)	pp.180-183 : santé et sport ; le futur antérieur
12	Unité 12 : cultiver les talents (1)	pp.187-191 : lecture et littérature ; l'opposition et la concession
13	Unité 12 : cultiver les talents (2)	pp.192-195 : arts et artistes ; les indicateurs de temps (3)
14	Unité 12 : cultiver les talents (3)	pp.196-199 : rencontres avec des artistes ; le passé simple ; TEST FINAL ; suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire; structurer un devoir, préparer un exposé).

予習・復習・積極性厳守。本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ÉDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier

ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

Le système de notation de ce cours permet à ceux qui réalisent au moins 60% de ses objectifs, de réussir.

【学生の意見等からの気づき】

Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés, notamment pour préparer les examens DELF ou DAPF.

【学生が準備すべき機器他】

Ce cours a lieu en salle LL mais les étudiants peuvent utiliser librement ordinateur personnel ou smartphone pour des recherches internet, l'enregistrement de sons ou d'images, etc.

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France ou qui préparent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryûgaku").

Le cours se déroulera en classe (présentiel) mais quelques séances pourront éventuellement encore avoir lieu en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un bon niveau de français (A2 au minimum) est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with a B1 level in french. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge on french and francophone cultures.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

カレンス フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées en priorité afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Des exercices de grammaire et de vocabulaire seront également proposés pour renforcer le niveau général en français. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau intermédiaire, motivés pour la poursuite de leur apprentissage : augmentation du vocabulaire, meilleure capacité d'expression orale (et même écrite), mise en place d'un véritable savoir-faire communicatif. Il peut préparer aux examens du DELF "B1" comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante. S'il y a des modifications de la progression des cours et des échéances pour les tests, elles seront annoncées sur le site du système de soutien pour le cours à distance "Hoppi".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications sur le programme du cours L1 p8 Faire le marché Il faut/la quantité	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. (Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
②	L2 p12 Passer une commande Prépositions "à" "de" Conditionnel+bien	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	L3 p16 Les prix Question familière, Pronoms démonstratifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	L5 p22 Modifier une réservation Diverses prépositions Infinitif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom "de"	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑦	Test de mi-trimestre	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire

⑧	L9 p32 Faire des comparaisons Verbes construits sur des adjectifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	L12(1) p44 Parler des lieux 1 Agence immobilière Subjonctif ou indicatif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	L16 p62 Parler de sa santé Verbes pronominaux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	Test final	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La participation en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (apprendre le vocabulaire et les expressions, préparer la liste d'exercices, être prêt à jouer un rôle à l'oral, etc.)

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication Progressive du Français - 2eme Edition: Livre de l'élève + Cd-audio,

Editions Clé International, Claire MIQUEL

(ISBN 978-2090381634)

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】

1. Tests de mi-trimestre et de fin de trimestre: 50%

2. Devoirs écrits (contrôle continu): 40 %

3. Présence et participation en classe : 10 %

Le système de notation de ce cours permet à ceux qui réalisent au moins 60% de ses objectifs, de réussir.

【学生の意見等からの気づき】

Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

CD

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【Outline and objectives】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panel of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

PHILIPPE JORDY

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours, d'un seul semestre, est destiné à des étudiants qui se préparent à la vie active et qui veulent communiquer en français, à l'oral comme à l'écrit, dans des situations professionnelles (ビジネス・フランス語). Il constitue une bonne initiation au vocabulaire de l'économie et du monde du travail.

【到達目標】

Ce cours prépare à la vie professionnelle en France ou dans un milieu professionnel francophone.

Il est également utile à la préparation des examens du DELF ou des "Kentei-shiken".

Ce cours est d'un niveau A2-B1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

L'apprentissage sera progressif mais rapide, donc intense. Exercices et activités développeront simultanément les 4 compétences (compréhension de l'oral, de l'écrit ; production orale et écrite). Voir le programme ci-dessous.

Quelques éléments de macro-économie et d'actualité économique (15 mn environ) seront donnés en fin de cours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 1 (1) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Présentation du cours et de la méthode. Parties A et B de l'unité 1.
②	Unité 1 (2) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Parties C & D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
③	Unité 2 (1) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
④	Unité 2 (2) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑤	Unité 2 (3) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑥	Unité 3 (1) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑦	Unité 3 (2) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑧	Unité 3 (3) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑨	Unité 4 (1) ("Vous avez dit 'écologie'?", pp. 56-71)	Parties A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑩	Unité 4 (2) ("Vous avez dit 'écologie'?", pp. 56-71)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑪	Unité 4 (3) ("Vous avez dit 'écologie'?", pp. 56-71)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑫	Unité 5 (1) ("En mission", pp. 72-87)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.

⑬	Unité 5 (2) ("En mission", pp. 72-87)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑭	Unité 5 (3) ("En mission", pp. 72-87)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique. TEST FINAL

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une préparation régulière (2h à 4h) est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque séance, pour le cours suivant.

【テキスト（教科書）】

OBJECTIF EXPRESS 2 (A2/B1),
Anne-Lyse DUBOIS, Béatrice TAUZIN,
Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris
(ISBN : 978-2-01-155509-0)

Un manuel pourra être prêté à chaque étudiant durant le semestre.

【参考書】

La possession d'un dictionnaire français-français est fortement recommandée (exemple : le Robert Micro, ISBN : 978-2-84902-470-6)

【成績評価の方法と基準】

Participation active en classe : 40%

Test, textes et exposés : 60%

Le système de notation de ce cours permet à ceux qui réalisent au moins 60% de ses objectifs, de réussir.

【学生の意見等からの気づき】

Quelques notions fondamentales d'économie et de finances seront rappelées.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours se déroule en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou smartphone (recherches internet, enregistrement de son ou d'images, etc.).

【その他の重要事項】

Ce cours se déroule en classe (présentiel) mais quelques séances pourront encore être données en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un niveau A1 très complet (3 semestres d'étude du français au minimum) est nécessaire pour suivre ce cours.

【Outline and objectives】

This "business French" course (one semester only) is intended for students who want to communicate in professional situations (level A2-B1).

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでで培ってきたロシア語の文法と読解の力を向上させ、ロシア語で多様な情報や知識を得る楽しみを分かち合います。文法問題と読解を積み重ねていくことで、学生のみなさんが検定試験（ロシア語能力検定試験とT P K II）のさらなるレベルを目指せるようにします。

【到達目標】

ロシア語能力検定試験、あるいはロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（T P K II）の学生各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

文法と読解に重点をおきます。ロシア語能力検定試験やT P K IIの練習問題、さらにロシアの文化や慣習、社会をテーマとしたテキストを教材として、限られた時間に情報を的確に把握する練習を積み重ねていきます。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。
第2回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定3級の文法問題を解く。長文読解。
第3回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定3級の文法問題を解く。長文読解。
第4回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定3級の文法問題を解く。長文読解。
第5回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定3級の文法問題を解く。長文読解。
第6回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定3級の文法問題を解く。長文読解。
第7回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。
第8回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。
第9回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。
第10回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。
第11回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。
第12回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	T P K II第1レベルの文法問題を解く。長文読解。

第13回 ロシア映画鑑賞

映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

第14回 ロシア映画鑑賞

映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語能力検定試験やT P K IIの過去問題の課題、長文読解の学習に、1回につき2時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、学習支援システムなどを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80%、課題の正解率 20%とし、総合的に判断します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語検定試験対策とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みたいと思います。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to maintain and improve Russian grammar and reading comprehension in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading texts in Russian. The level of this course is B1 (CEFR).

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期同様、ロシア語の読解力（情報を正確に読みとる力）を養います。並行してロシア語能力検定試験、およびロシア語検定試験（T P K II）の希望するレベルの合格を目標に掲げ、これに沿った文法問題を解いていきます。

【到達目標】

読解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めること、ロシアの文化や社会についてロシア語の文献から読みとる力をつけることが全体的な目標となります。ロシア語能力検定試験、およびT P K IIの各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

文法と読解に重点を置きます。ロシア語能力検定試験やT P K IIの練習問題、さらにロシアの文化や慣習、社会をテーマとしたテキストを教材として、限られた時間に情報を的確に把握する練習を積み重ねていきます。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。
第2回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第3回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第4回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第5回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第6回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第7回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第8回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第9回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第10回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第11回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。
第12回	ロシア文化に関するテキストの読解と解説	ロシア語検定2級の問題を解く。長文読解。

第13回 ロシア映画鑑賞

映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

第14回 ロシア映画鑑賞

映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語能力検定試験やT P K IIの過去問題の課題、長文読解の予習に、1回につき2時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、学習支援システムなどを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80%、課題の正解率 20%とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語検定試験対策とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みたいと思います。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to maintain and improve reading comprehension and listening in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading and listening texts in Russian. The level of this course is B1 (CEFR).

LANc300GA

中国語アプリケーション I

曾 士才

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：※ 2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。本授業では特に「読む」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。具体的には、中国の報道記事や評論文を辞書やネットを使用しながら十分に読めるレベルを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

たとえば、『人民日報』『新民晩報』『南方周末』などの報道記事や『新華文摘』『新華月報』などの評論文を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板や授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の説明、教材配布。
第2回	論説文の基礎①	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第1課、第2課
第3回	論説文の基礎②	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第3課、第4課
第4回	論説文の基礎③	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第5課、第6課
第5回	プリント1①	政治・経済関係の記事を読み、日本語に訳す。
第6回	プリント1②	翻訳と講読を続ける。
第7回	プリント1③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第8回	プリント2①	社会関係の記事を読み、日本語に訳す。
第9回	プリント2②	翻訳と講読を続ける。
第10回	プリント2③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第11回	プリント3①	文化関係の記事を読み、日本語に訳す。
第12回	プリント3②	翻訳と講読を続ける。

第13回 プリント3③ 翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。

第14回 読解力テストと講評 テスト後の講評と関連語彙の学習
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座』の第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題を各自で翻訳し、第2回から第4回までの授業に備える、また、プリント教材を読み、翻訳し、第5回から第13回までの授業に備えておく。

【テキスト（教科書）】
プリント教材。

【参考書】
三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座－新聞・雑誌からインターネットまで』東方書店 2010年

【成績評価の方法と基準】

授業時間外の学習（20%）と学期末に実施する読解力テスト（80%）で達成度を判定する。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

中国語そのものだけでなく、記事内容の背景についても十分に説明するよう心がけたい。

【Outline and objectives】

Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the reading skill.

We will mainly read the news or critique in Chinese newspapers or magazines.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅣ

鈴木 靖

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。

中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に e-Learning を利用した「聞く」力と「読む」力を重点的に育成する。

【到達目標】

HSK5 級と 6 級の高スコア取得に必要な「聴力」（リスニング力）と「閱讀」（リーディング力）を身につけるとともに、これらの教材を活用して「会話」（スピーキング力）を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業は e-Learning や過去問による事前学習と教室での発音練習や解説を組み合わせて行う。

授業の具体的な進め方は、次のとおり。

【授業前の事前学習】

授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK の「聴力」問題の指定範囲のディクテーションと「閱讀」問題の予習を行う

【授業の進め方と方法】

- ① 「聴力」問題の発音練習と解説
- ② 「閱讀」問題の解答と解説

【課題等に対するフィードバックの方法】

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明した後、事前学習に使用する e-Learning 教材の利用方法を解説する
第 2 回	HSK5 級対策①	・聴力問題第一部分① 1-48（番号は e-Learning の字幕番号） ・閱讀問題第一部分 46-60（番号は HSK の問題番号）
第 3 回	HSK5 級対策②	・聴力問題第一部分② 49-88 ・閱讀問題第二部分① 61-65
第 4 回	HSK5 級対策③	・聴力問題第二部分① 89-151 ・閱讀問題第二部分② 66-70
第 5 回	HSK5 級対策④	・聴力問題第二部分② 152-193 ・閱讀問題第三部分① 71-78
第 6 回	HSK5 級対策⑤	・聴力問題第二部分③ 194-236 ・閱讀問題第三部分② 79-90
第 7 回	HSK5 級模擬試験	HSK5 級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う
第 8 回	HSK6 級対策①	・聴力問題第一部分 1-69 ・閱讀問題第一部分 51-60
第 9 回	HSK6 級対策②	・聴力問題第二部分① 70-139 ・閱讀問題第二部分 61-70
第 10 回	HSK6 級対策③	・聴力問題第二部分② 140-178 ・閱讀問題第三部分 71-80
第 11 回	HSK6 級対策④	・聴力問題第三部分① 179-213 ・閱讀問題第四部分① 81-84
第 12 回	HSK6 級対策⑤	・聴力問題第三部分② 214-249 ・閱讀問題第四部分② 85-92
第 13 回	HSK6 級対策⑥	・聴力問題第三部分③ 250-286 ・閱讀問題第四部分③ 93-100

第 14 回 HSK6 級模擬試験

HSK6 級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に下記の事前学習を行うこと。

- ①教材ページ上に用意された e-Learning 教材を使い、HSK の「聴力」問題の中から毎回指定された範囲のディクテーションを行う
- ②教材ページ上に用意された問題冊子を使い、HSK の「閱讀」問題の中から毎回指定された範囲の予習を行う

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教材用ページに用意した e-Learning 教材や HSK の問題冊子などを利用する。教材用ページの URL と利用方法については、第一回のガイダンス時に説明する

【参考書】

・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

- ①事前学習（ディクテーション）の実施状況（40 %）
- ②事前学習（ディクテーション）の実施状況（40 %）
- ③ HSK 模擬試験の成績（20 %）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

HSK の取得を希望する人が多くなったため、昨年度から HSK の過去問を教材として授業を行うことにした。HSK の問題は実際の会話も役立つため、資格の取得とともに、実践的な中国語力も身につけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

e-Learning による事前学習にはパソコンが必要となる。また新型コロナウイルスの感染拡大により大学の行動制限レベルが引き上げられた場合には、Zoom での対面授業を予定しているため、それに必要な機材と環境（カメラやマイクの利用できるパソコンと安定した通信環境）が必要である。大学の支援制度などを活用し、事前に準備していただきたい。

【Outline and objectives】

Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve listening and speaking skills through the use of e-Learning and roll playing.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅢ

周 重雷

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである：

- 1、正確な発音で中国語を話す。
- 2、日常会話を流暢に話す。
- 3、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
- 2、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
- 3、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
- 4、総括する。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1、シラバスの配布 2、中国語による自己紹介
第2回	ピンイン・日常用語（1）	1、ピンインを復習する 2、簡単な日常会話を練習する
第3回	文章の朗読・日常用語（2）	1、短い文章を朗読し、発音をチェックする 2、言い回しを使って日常会話を練習する
第4回	会話パターン（1）	買い物する時の会話パターンをチェックする
第5回	授業内発表（1）	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第6回	会話パターン（2）	レストランでの会話パターンをチェックする
第7回	授業内発表（2）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第8回	会話パターン（3）	ものの尋ね方をチェックする
第9回	授業内発表（3）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで問答する
第10回	会話パターン（4）	留学や就職する時の面接試験を想定して練習する
第11回	授業内発表（4）	先生と一対一で面接のシミュレーションをする
第12回	スピーチ	スピーチやものを語る練習をする
第13回	授業内発表（5）	スピーチの個人発表をする
第14回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各会話パターンをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。また作文の課題も2回ほど課される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布。

【参考書】

劉月華 他『実用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

発表：40%

【学生の意見等からの気づき】

要望に応じて会話パターンの変更も可能。

また基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験を推奨される。

【Outline and objectives】

Chinese Application I～IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅡ

ショウ イクテイ

配当年次/単位：3~4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題、自由作文等を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができる。
- (3) 中国語と日本語の表現方法の違いを把握し、適切な翻訳ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

- ・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が自分の書いた文を発表する機会も設ける。
- ・教員は練習問題の添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	作文と授業に関する説明	中国語作文の形式と授業に関する注意事項の説明
2	第1課	連体修飾構造の作り方“的”が必要ない時 R42、数量構造、動詞目的語構造、介詞構造、名詞の場所化 R03、大事な補語
3	第2課	動詞述語文、形容詞述語文、“是”を用いる文、存現文 R26、二重目的語、比較を表す文型、兼語文 R19
4	第3課	ある・いる - R01 「…する～がある・ない」の訳し方 R31、 お飾りの“很” - R02 “吗”がいるとき いらないうき - R03、「行きませんか」は「行きましょう」- R04、「何か」「どこか」「だれか」の訳し方 R27、「…(の)ではないか」の対応
5	第4課	「何の映画？」と「なんて映画だ！」- R06、“什么”を用いた不満の決まり文句、「疑問詞+でも」 R34、反語文 動詞はどうした？ R14 「サングラスの男」はサングラスをかけている R18
6	第5課	よく現れる“来”と“去” R11、「動目」構造の動詞はとれない目的語 R23、 「…に行く」の訳し方
7	第6課	「思う」あれこれ R41、 動詞の重ね型 - R07、 重ね型を作れない動詞
8	第7課	文脈に隠れた代名詞をさがせ R02、 「这么」「那么」がいる こんな場合あんなとき R28
9	第8課	
10	第9課	

11	第10課	中国語では現れる副詞“就” R05、“才”は「やっと」現れる R09
12	第11課	例外なしは“都”で R06、「だけ」にあたる“只”の位置 - R08、「も」にあたる“也”の位置 - R09
13	第12課	「また」もう一度 “再” “又”“还” - R10、 ちょっと待って “再”の出番はこれからだ R21
14	復習、試験、まとめ	ここまで習った内容を復習、確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、テキストの予習/復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂著『作文ルール 66』一日中翻訳技法一 朝日出版社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト50%と平常点(学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50%に基づいて、総合的に評価する。この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等やむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で燃るべき対応を取ること。
- ・適宜、補足資料を配付することもあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。

【Outline and objectives】

Chinese Application I-IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I-IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the writing skill. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に持っている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出ない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現と新造語を学んで自ら表現できることを目指します。授業はできるだけ朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】

朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通じた話す力を定着していきます。

授業は、朝鮮語で進めていきます。

また、授業進行方法は、対面と非対面のハイブリッド型で進めていきますので、Zoom と学習支援システムを利用します。

課題等に対するフィードバック方法も、学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第 2 回	韓国語の随筆を読む	内容を読んで意見を話し合います。
第 3 回	韓国の新聞を読む	韓国の最新記事を読んで新しい単語を勉強します。
第 4 回	韓国のビデオを見る	韓国のビデオを見て、内容を把握します。
第 5 回	韓国語の随筆を読む	韓国語の随筆を読みます。
第 6 回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第 7 回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第 8 回	韓国の映像を見る	韓国の話題のテレビを見て内容を把握します。
第 9 回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第 10 回	韓国の映像を見る	韓国のテレビを見ます。
第 11 回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第 12 回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第 13 回	韓国語で発表する	討論をする。
第 14 回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国のコンテンツを利用したり、新聞、小説などを読むこと。

【テキスト（教科書）】

プリント、インターネットなど。

【参考書】

韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を話したり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して (50%) 期末レポート (50%) この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

DVD などの映像をもっと活用すべきことなど。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

We aim to utilize knowledge of Korean language that we already have and to absorb knowledge more comprehensively. Using Korea newspapers, magazines, and videos, we aim to be able to express ourselves by learning how to use natural Korean language, various expressions, and newly built language. This course will be mainly conducted in the Korean.

LANK300GA

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一定のテーマを決めてディスカッションをやったり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】

積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。

映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第3回	話題のテーマについて	意見交換する
第4回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第5回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第6回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第7回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第8回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第9回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第10回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第11回	日韓伝統について	意見交換をする
第12回	韓国の文学を読む	感想と問題点
第13回	話題のテーマについて	討論をする
第14回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で説明します。

【参考書】

韓国の近代文学作品

湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して（50%）、期末レポート（50%）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品だけでなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

To improve your level of Korean language, we will choose a topic and discuss, read Korea literature works, and learn Korea traditions, customs, and literary expressions. The aim of this class is to build comprehensive Korean language skills.

HUI200GA

情報コミュニケーション I

甲 洋介

サブタイトル：ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講状況により選抜することがあります
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験をデザインする「面白さ」と「奥深さ」を、実践的に学ぶ科目
わたしたちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

このワークショップでは、「道具を使いやすいデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という2つのテーマに取り組む。道具をデザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバランスよく配置して、実践的に学べる科目である。

● ユーザーを調べ、道具をもっと使いやすくデザインする

講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。
日常に溢れている道具を、人間にとって使いやすいものにするにはどのようにすればよいか？ その手掛かりは、ユーザーの特性と、ユーザに起こっている出来事の的確な理解にある。使いやすさの観点から道具を改良する具体的な方法論を、実習を通じて学ぶ。

● 新しい、近未来の道具をデザインする

講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。
まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいか？ その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」の2つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。

● 2つのテーマでは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、実践できるようにする

● グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の技法を学び、実践できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

「道具を使いやすいデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この2つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。

● 前半では、身近で気になる道具を1つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的な方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。

● 後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を1つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。

● 各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイデアを深められるように工夫する。
※新型コロナウイルス感染状況によってはワークショップの進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。実習やグループワークの実践的な効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン技法
2	道具の使いやすさ	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ（理論編）

3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすいとする改良事例を互いに学ぶ
9	デモンストレーション	ヒューマンインタフェースの新しい潮流
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイデア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.

・「ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）」

【参考書】

・International Encyclopedia of Human Factors and Ergonomics. W. Karwowski (Ed.) 2nd Edition, (Taylor & Francis) 2006.

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017

・「デザイン思考が世界を変える [アップデート版]」（ティム・ブラウン著、早川書房）2019

・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA 編、ワークスコーポレーション）2014.

他については講義開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合いなど 50%

・課題レポート、プロトタイプなど制作物 50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義とグループ実習を効果的に組み合わせ、より深く学べるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【情報コミュニケーション共通のテーマ】

本学部には、情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ、SAにおけるプロジェクト等、文化情報学を実践するさまざまな機会が用意されている。

情報コミュニケーション科目では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告など方法論的訓練を行う。

【前提科目と関連科目】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を履修済みであること。

「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。

「情報コミュニケーションⅡ・Ⅲ」と合わせて履修する事で学習効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

情報実習室で開講する場合は、PCおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline and objectives】

This class provides you with a unique "Design Workshop" which allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User-centred Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.

COT200GA

情報コミュニケーションⅡ

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う
 備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化研究と成果発表の方法を身に付ける

【情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ共通テーマ】

文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法的訓練を行う。

【情報コミュニケーションⅡの学習の目的】

本講義の前半において、Study Abroad 環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。Weblog や Web サイト構築、小冊子の編集を例に、SA 等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web 環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】

SA や卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に付ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通して SA 等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる予定である。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。春学期の少なくとも前半はオンライン併用の開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体） インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体） インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IP アドレス枯渇とその対応技術、無線 LAN の利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IP アドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題を考える。
4	情報活用のための実践知識（2）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題と対処法を学ぶ。
5	ネットワークスキルのまとめ	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、外国での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。
6	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
7	文化研究にむけての準備	各受講者による文化研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。以後の授業では調査テーマや方法論についてのブラッシュアップを継続する。

8	学習成果の蓄積・共有方法の検討	在外環境での Web ベースの情報活用の有用性を認識する。SA での研究活動の検討着手。
9	学習成果の公開方法の検討	研究テーマに沿った調査計画とその中間報告を行う。SA 個人研究テーマのクラス討議。
10	学習成果の公開とその対応	調査研究の結果は、誰を対象にどのように公開するのかを検討し、準備する。
11	情報共有の手法	調査研究途中での各研究テーマのデータ蓄積やコメントの共有手法を確認する。SA 個人研究の問題点把握とグループワークの検討。事前調査事項の洗い出し。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。SA 研究計画の事前検討結果と問題点の報告。
13	研究計画の確認と成果の公開	事前に立てていた研究計画の確認と同時に調査研究成果を公開し、互いに議論する準備を行う。SA 研究計画の詳細化と最終的な検討。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前学習成果と SA 研究計画との接続。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。

1. (SA 準備として) 個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
 2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
 3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
 4. (必要に応じて) Web 外部公開申請書提出、個人研究テーマの検討
 5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
 6. 授業内の未了実習項目の完了、個人研究の計画書、携行 AV 機器の準備着手
 7. 個人研究、グループワークの実施計画の検討ミーティングと報告書作成
 8. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

佐藤郁哉、「フィールドワーカー書を持って街へ出よう」、新曜社；増訂版（2006/12/20）ISBN 978-4788510302
 水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版（1996）、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】

授業参加（30%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（20%）、発表（10%）を目安とする。
 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上の資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、PC を用いて作業することを前提とする。

最終課題となる発表や授業の補足は Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

SA をはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。Web を基盤とする高度な ICT の活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
 SA 環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を並行履修すること。

【Outline and objectives】

In the first half of this class, you will learn practical skills and troubleshooting tips of digital network communications.
 The second half of this class will cover how to use some tools for editing cultural information.

DES200GA

情報コミュニケーションⅢ

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報コミュニケーションⅢ」は、情報デザインに関する入門的、実験的な実習授業です。ロゴタイプやシンボルマーク、ピクトグラムやイラストレーションなどのデザインやアートに関わる基本的なトレーニングを行います。作品制作と並行して行う毎回のレクチャーを通じて、デザイン概念と視覚言語に関する理解を深めます。

対面授業では、多くのアーティストやデザイナーに使用されているクリエイティブ系ソフト Adobe Illustrator、Adobe Photoshop の基本的な使い方を学びます。（授業を遠隔で実施する場合については、手描きもしくは Powerpoint で代用します。）

【到達目標】

作品制作を通じて、人と人とのコミュニケーションを円滑にする視覚表現の基礎的なトレーニングを行います。加えて創作活動全般にも通じるクリエイティブな造形表現に必要な知識や感覚、技術を養います。絵を描くことに苦手意識のある人や、デジタルでの写真加工やデザイン制作が初めての人も難しく考えずに、積極的に手や体を動かすことで作ることの楽しさを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

この授業では視覚言語の基本となる

1. ロゴタイプとシンボル（タイポグラフィについて）
2. ピクトグラム（インフォグラフィックスについて）
3. イラストレーションとデザイン（グラフィックデザイン）

の3つのテーマで、課題制作を進めます。課題に取り組む際には課題の意義や進め方について講義します。また課題制作のためのポイントとなる点や描くための材料や道具、ソフトの使い方について説明をします。各課題の最後にはお互いの作品を鑑賞し（プレゼンテーション）、講評会（フィードバック）を行います。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

- ・ Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
- ・ Zoom（ミーティング）
- ・ Google Classroom、Google Form（課題提出と課題に関するすべてのフィードバック）
- ・ Miro（コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
2	ロゴタイプとシンボル 1/3	課題の説明、講義 タイポグラフィについて
3	ロゴタイプとシンボル 2/3	課題制作 1 文字による表現
4	ロゴタイプとシンボル 3/3	課題制作 2 図形による表現
5	ピクトグラム 1/3	課題の説明、講義 インフォグラフィックスについて
6	ピクトグラム 2/3	課題制作 1 色彩について
7	ピクトグラム 3/3	課題制作 2 複雑な図形
8	作品の講評	作品のプレゼンテーション 講評 次回の課題説明
9	イラストレーションとデザイン	課題制作 1 デザインのアイデア

10	イラストレーションとデザイン	課題制作 2 デザインに必要な要素
11	イラストレーションとデザイン	課題制作 3 レイアウトと構図
12	イラストレーションとデザイン	課題制作 4 作品の仕上げ 1
13	イラストレーションとデザイン	課題制作 5 作品の仕上げ 2
14	作品の講評	作品のプレゼンテーション 講評 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

街の中のサインやポスター、本や雑誌、様々なプロダクトなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫などを意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのも良いと思います。

また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思う物をスマホやデジタルカメラ等で撮影しストックしておいて下さい。制作の材料として使用します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

永井 弘人「デザイナーになる！ 伝えるレイアウト・色・文字の大切な基本と生かし方」エムディエヌコーポレーション
原研哉「デザインのデザイン」岩波書店
ロビン・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」マイナビ出版
坂本伸二「デザイン入門教室〔特別講義〕確かな力を身につけられる～学び、考え、作る授業～」SB クリエイティブ

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ソフトの操作や専門用語について、わかりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC、スマートフォンの他、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。みなさんの受講環境が一定でないため、講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、10-15分程度のものを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

対面授業とオンライン授業では学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。ただし、大学と自宅での受講環境の違いを考慮し、使用するソフトなどが変わることになります。

課題

受講後、Google Form でデザインの実習課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

発行日：2021/4/1

[Outline and objectives]

This course is introductory and experimental on design and art. Learn basic usages of creative software, such as Adobe Illustrator, Adobe Photoshop which are used by many artists and designers.

Moreover, students experience design creation such as logotypes, symbol marks, pictograms and illustration.

Students also deepen their understanding of visual language through lectures concurrently with creating artworks.

FR1200GA

文化情報の哲学

森村 修

サブタイトル：東洋の心身論からみた「こころ」と「からだ」

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。

それでは、なぜ「文化情報学」を学ぶ必要があるのでしょうか。私たちは動機をもって物事に取り組むことで、手に入れたい「文化情報」を取捨選択できます。そうすることで不必要な情報を誤って手に入れることが減ったり、害悪になる情報を鵜呑みすることを少しでも減らしたりすることができるようになります。

しかしそのためには、取捨選択するための「自己=自分 (self)」としての「主体性=主観性 (subjectivity)」が確立している必要があります。それでは、そもそも「私 (自分)」とは何でしょうか。「私」はどのような存在で、どうして存在しているのでしょうか。あるいは、「私」はどのようにして「他者 (the other)」とは異なるのでしょうか。これらは哲学的な難問です。「私」とか「主観」とかを問うと、これらの根本的で哲学的な問いが立ちあがってきます。

そこで、本授業では、まずは「私」あるいは「自己」を構成していると考えられている「こころ」と「からだ」に焦点を当てて考えてみます。その際に、東洋思想の観点から考察することにします。というのも、私たちが日常生活で感じている「こころ」と「からだ」のあり様が、西洋文化の中で生まれた（西洋）哲学とかなり異なっているからです。

【授業の目的】

そこで、本授業では、湯浅泰雄の『身体論——東洋の心身論と現代』（1990）を取り上げ、東洋思想における心身論が、西洋哲学における「心の哲学」とどのように異なるかを明らかにしていくことを目的とします。その際に、湯浅自身がそうであったように、「比較哲学 (comparative philosophy)」的に考察することが目指されています。

【到達目標】

- (1) アジア地域の様々な文化から生み出された「心身関係」を、現代の視点で考えることができる。
- (2) 21世紀を生きる私たちにとって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
- (3) 哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

テキストの読解を基本にする。さらに教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など
2	序説①——研究の目的と問題の外観	・日本の思想の中で、「こころ」と「からだ」の関係はどのように論じられてきたか？
3	第1章 近代日本哲学の身体観①	・「人と人との間」における「空間」と「身体」——和辻哲郎の倫理学を通して考察する
4	第1章 近代日本哲学の身体観②	・日本最初の独創的哲学者の西田幾多郎の身体についての考察 ・行為的直観とは何か
5	第1章 近代日本哲学の身体観③	・西田幾多郎の身体観 (1) 「有」から「無」へ (2) 「場所」とは何か？ ・東洋思想研究の態度と方法

6	第2章 修行と身体①	1. 修行とは何か？ ・インド、中国、日本の仏教における戒律と修行について
7	第2章 修行と身体②	2. 芸道論 (1) 歌論における稽古と修行 (2) 世阿弥における「わざ」と「心」
8	第2章 修行と身体③	3. 道元 (1) 禅の実践 (2) 参禅における心身関係 (3) 心身脱落とは何か？
9	第2章 修行と身体④	4. 空海 (1) 密教のインドの性格 (2) 身体と性の問題 (3) マンダラに見られるエロスの昇華 (4) 即身成仏とは何か？
10	第3章 東洋の心身論の現代的意義①	1. 現代の哲学的心身論とその問題点① ・ベルクソンの運動的図式 ・メルロ＝ポンティの身体的図式 ・情動の問題 ・情動の問題知覚と記憶との関係
11	第3章 東洋の心身論の現代的意義②	2. 心身関係の二重構造 ・表層的構造と基底的構造
12	第3章 東洋の心身論の現代的意義③	3. 心身関係の日常的理解の逆転
13	第4章 東洋的瞑想の領域①	1. 心理療法と修行の比較考察
14	第4章 東洋的瞑想の領域② 結論	2. 形而上学と心身論 3. まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業でテキストを読解するため、受講者は事前にテキストを読んでおく必要がある。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

・授業前に、該当箇所について、3点以上の質問を用意すること。

【テキスト（教科書）】

1. 湯浅泰雄『身体論——東洋の心身論と現代』、講談社学術文庫、1990年
2. YUASA Yasuo, *The Body: Toward an Eastern Mind-Body Theory*, ed. by Thomas P. Kasulis, translated by NAGATOMO Shigenori and Thomas P. Kasulis, State University of New York Press, 1987.

【参考書】

・授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・期末レポート（50%）

・平常点（50%）

※ この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

※要注意【変更】

リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・リアルタイムオンライン授業の場合には、インターネットなど授業に関係する機材を用意しておいてください。

【その他の重要事項】

・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。

【哲学することの姿勢について】

・本授業は、テキストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。

・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテキストを正確に読めること、第二に、正確なテキスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【他の科目との関連】

- (1) 「文化情報学概論」とは「文化情報学」という点で大きく重なり合います。
- (2) 2021年度の「こころとからだの現象学」は、まさに心身関係論を扱っています。
- (3) リベラルアーツ科目「倫理学Ⅱ」では、「ケアの形而上学」について語られています。そこで、心身関係の議論があります。

【Outline and objectives】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".

In this class, we will examine the "mind" and "body," which are thought to constitute us, from the perspective of Eastern thought, and clarify that the way we perceive the "mind" and "body" in our daily lives is different from the (Western) philosophy nurtured in Western culture. Purpose of the class

The purpose of this class is to clarify how the theory of mind and body in Eastern thought differs from the "philosophy of mind" in Western philosophy by taking up Yasuo Yuasa's "The Body: Toward an Eastern Mind-Body Theory". In doing so, we aim to examine it from a "comparative philosophy" perspective, as Yuasa himself did.

SES300GA

ソーシャル・プラクティス

稲垣 立男

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：情報デザイン

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：※2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。旧：情報デザインの修得者は履修不可

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティスあるいはソーシャル・エンゲージド・アートと呼ばれる環境や政治、あるいはコミュニティやジェンダーなど、様々な社会的問題に直接働きかける美術の分野について学びます。

社会と直接関わるような現代美術のアプローチに関する理論と実践についてのワークショップ形式の実習を行います。

【到達目標】

この授業では、下記の3つのテーマで実習を行います。

1. 環境と社会
2. コミュニティ
3. ポリティカル・イシュー

自分たちを取り巻く様々な社会的な課題を捉え直し、調査を基に自分なりに課題を設定して作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

実習では、いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施、グループワークでの調査やディスカッションを経て、様々な発表形式による作品制作を行います。

1. ワークショップの冒頭に課題と関連した社会的課題に関する解説と、美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。
2. 次に資料や大学内外のフィールドワークを通じて問題を探ります。
3. 最後に各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。

○ 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

- ・ Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
- ・ Zoom（ミーティング）
- ・ Google Classroom、Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）
- ・ Miro（コラボレーション）
- ・ Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/21	オリエンテーション	授業の概要 ソーシャル・プラクティスについて
9/28	ワークショップ 1 環境と社会-1	講義とディスカッション 地球温暖化、原発問題、海洋汚染など
10/5	ワークショップ 1 環境と社会-2	調査とプレゼンテーション パワーポイントによる作品のプレゼンテーション
10/12	ワークショップ 1 環境と社会-3	作品制作 1 レクチャー・パフォーマンスによる作品制作とディスカッション
10/19	ワークショップ 1 環境と社会-4	作品制作 2 レクチャー・パフォーマンスによる作品制作とディスカッション
10/26	ワークショップ 2 コミュニティ-1	講義とディスカッション コミュニティの崩壊、移民、難民問題など
11/2	ワークショップ 2 コミュニティ-2	調査とプレゼンテーション ポスターによるプレゼンテーション
11/9	ワークショップ 2 コミュニティ-3	作品制作 1 映像による作品制作とディスカッション

11/16	ワークショップ 2 コミュニティ-4	作品制作 2 映像による作品制作とディスカッション
11/30	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-1	講義とディスカッション ジェンダー、貧困問題、表現の自由など
12/7	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-2	調査とプレゼンテーション 企画書によるプレゼンテーション
12/14	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-3	作品制作 1 パフォーマンス、インスタレーションによる作品制作とディスカッション
12/21	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-4	作品制作 2 パフォーマンス、インスタレーションによる作品制作とディスカッション
1/18	フィードバック	授業全体を俯瞰し、各課題の意義についてディスカッションします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、ニュースや新聞で話題となる時事問題、地域社会の問題、個人と社会の問題など、様々な社会問題について関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますが、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice (Berg Pub Ltd)

パブロ・エルゲラ『ソーシャル・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社、2015年
アート&ソサイエティ研究センター SEA 研究会『ソーシャル・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐる』フィルムアート社、2018年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

作品のアイデアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30分程度のものを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後に実習課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【Outline and objectives】

We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through groupwork surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.

ART300GA

サブカルチャー論

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超過した場合は選抜

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、衣食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。とりわけ、技術論に焦点を当て、文化の様態の変容を時代ごとに考察する。

【到達目標】

イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピーがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表をも取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論
2	モダニズム	モダニズムの定義。テクノロジーとの関わり。モダニズム時代の芸術運動の展開とその検証。
3	複製技術	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。複製技術の進化とオーラの消滅
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。好色一台男に見る江戸風俗。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	1960年代のアメリカのカウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。テーマパークとしての都市、京都、ヴェネチア。
10	都市空間と仮想空間	住まいの変容。空間論。パラレルワールド。生息域（ニッチ）研究。
11	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
12	科学と迷信	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。都市伝説。不老不死。AI。
13	メディアと政治	ポピュリズム 政党政治、代表制のゆくえ。デマ、陰謀説。ナショナリズム
14	まとめと質疑	まとめと全テーマに基づく質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室で指示する。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価されよう。評価基準は平常点20%、レポート80%とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答、討論への積極的参加を促す。

【Outline and objectives】

Subculture is classified as popular culture and popular hobby as an emerging culture epidemic, but it becomes somewhat mainstream culture as sophistication is added by expressers. Crossing all genres across literature, art, music, cartoons, movies, travel, fashion and food culture, politics, and science, we acquire miscellaneous culture that will also serve as the foundation of communication skills through consideration of cultural epidemics in general. Especially focusing on technology theory, we consider the transformation of the form of culture by the age.

ART300GA

現代美術論

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーマンスアート、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この授業では、現代美術に関する理論と実践について講義します。現代美術のコンテキストを社会学、人類学や科学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの基本となる考え方やアイデアについて学びます。

みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

導入（10分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くこととなります。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/22	オリエンテーション	授業計画について
9/29	現代美術の基礎知識 1	未来派・ダダ、シュルレアリズム
10/6	現代美術の基礎知識 2	アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート
10/13	現代美術の基礎知識 3 ワークショップ 1	単元のまとめ ワークショップ・ドローイング
10/20	パフォーマンス・アート	アクション、ハプニング、パフォーマンスアート
10/27	身体とパフォーマンス 1	コンテンポラリーダンス、舞踏
11/10	身体とパフォーマンス 2	シアターパフォーマンス、演劇
11/17	パフォーマンス・アート 身体とパフォーマンス ワークショップ 2	単元のまとめ ワークショップ・ハプニング、パフォーマンス
11/24	音とパフォーマンス	現代音楽/ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック
12/1	言葉とパフォーマンス	現代詩/ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ
12/8	音とパフォーマンス 言葉とパフォーマンス ワークショップ 3	単元のまとめ ワークショップ・音と言葉のパフォーマンス

12/15	絵画・彫刻・ドローイング メディアとアート	伝統的メディアと新しいメディア 写真・映像・インスタレーション
12/22	関係性の美術 ソーシャリー・エンゲージドアート	パブリックアート・参加型プロジェクト・ワークショップ ソーシャル・プラクティス
1/12	現代美術 ワークショップ 4	単元のまとめ ワークショップ・コラボレーションワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、美術の展覧会や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようになしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで 世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009年

小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらおうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30分程度のものを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

This course is about contemporary art theory and practice.

Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.

The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

ART300GA

メディア表現ワークショップ1

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表現活動に繋がるフィールドワークに関する実習授業です。各実習はワークショップ形式で行います。教室や大学の構内外を3つのテーマ（カメラを持って旅に出よう。スケッチブックに記録しよう。動きや音を拾うことから。）によるフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションします。

【到達目標】

みなさんは課題を通じて様々な表現活動に通じる取材・調査方法や様々なメディアを使った表現方法を学びます。各課題に取り組むにあたっては、自由な発想、臨機応変な対応が必要となります。柔軟な姿勢で（楽しんで）課題に取り組んでください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。下記の3つの内容に基づいて、制作実習をします。

第1課題 カメラを持って旅に出よう。

記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。

第2課題 スケッチブックに記録しよう。

スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録をしていきます。

第3課題 動きや音を拾うことから。

拾った動きや音をきっかけとして、何かを始めてみます。

お互いの作品についてディスカッションしながら制作を進めます。また、授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom, Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）

・Miro（コラボレーション）

・Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/12	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
4/19	第1課題 カメラを持って旅に出よう。	課題説明 講義 記録としての写真
4/26	第1課題 カメラを持って旅に出よう。	課題制作 ※2回にわたって作品に取り組む。
5/10	第1課題 カメラを持って旅に出よう。	課題制作
5/17	第1課題 カメラを持って旅に出よう。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
5/24	第2課題 スケッチブックに記録しよう。	課題説明 講義 スケッチの技法
5/31	第2課題 スケッチブックに記録しよう。	課題制作 ※2回にわたって作品に取り組む。
6/7	第2課題 スケッチブックに記録しよう。	課題制作
6/14	第2課題 スケッチブックに記録しよう。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
6/21	第3課題 動きや音を拾う。	課題説明 講義 音や映像による記録
6/28	第3課題 動きや音を拾うことから。	課題制作 ※2回にわたって作品に取り組む。
7/5	第3課題 動きや音を拾うことから。	課題制作

7/12 第3課題 動きや音を拾うことから。 講評会
プレゼンテーションとディスカッション

7/19 講評会 3つの課題の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにあまり経験してこなかった表現の基となる取材活動に取り組みます。また、調べることに積極的な人、面白いことを知ることが好きな人は受講してみてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
藤田 結子『現代エスノグラフィー: 新しいフィールドワークの理論と実践(ワードマップ)』新曜社、2013年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点 (50%)
2. 課題とレポート (50%)

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんにとってわかりやすく、取り組みやすい課題とします。

楽しい授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

スケッチブック及び iPhone や Android などの携帯端末が必要となります。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）

2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。

3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30分程度のを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後に課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【Outline and objectives】

This is a practical course about fieldwork leading to expression activities. Each practice is done in a workshop format.

Fieldwork is conducted according to three themes inside and outside the classroom and university premises, and the results are presented.

ART300GA

メディア表現ワークショップ2

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。事例を挙げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方ABCを伝授する。メールから企画書、報告書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力や感動を与える手法に触れ、実作を通じて、文章表現の向上を図る。

【到達目標】

半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式を取るが、折々の課題に対する講評を交え、履修者との対話形式も随時とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか？
2	日記の書き方	日常の研究
3	物語の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メモ・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか？
6	旅と文学	ロード・ノベル 放蕩息子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か？	私、吾輩、彼、伯爵夫人？
9	お金の話	信用制度、借金、フィクションとしての通貨
10	メタファーの戦略	模倣、置換、象徴、スイートハート
11	小説のトポロジー	現代小説の8割は東京が舞台
12	恋するものの普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	素材の考察	想像力の源泉としてのマテリアル
14	まとめ、質疑応答、レポート提出	学んだことの集大成としての創作の完成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、テーマに沿った短文を書き、その講評を受ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『小説作法ABC』 島田雅彦 新潮選書2009

【参考書】

『深読み日本文学』 島田雅彦 集英社インターナショナル新書2018

【成績評価の方法と基準】

折々のレポートと期末の創作70%、平常点30%この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップにふさわしい実践的指導に呼応する履修者の積極参加。より活発な対話を心がける。

【Outline and objectives】

Writing and reading are inseparable, but there are also people who become good readers through training of writing skills. Touching several examples, Students

can acquire the ABC of how to write novels, essays etc, from the real author's standpoint. Based on a specific theory which is common to all of the projects, reports, papers, creative writings and e-mails, we will touch on effective methods that give persuasive power and sympathy, and improve the expression of sentences through actual work.

ART300GA

映像と文学

林 志津江

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※ 2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありますか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テキスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて、自ら考えを深めていきます。あなたのガツカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体は、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】

- ・さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
- ・「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学の基本を学ぶこと。この点は読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
- ・美的な形式（表象文化）の分析を通じ、古典的なメディア論のテーゼの真意を理解すること。
- ・「オリジナリティ」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
- ・この授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。

その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しく思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

- ・文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれの形式や読み取れるものについて考察します。
- ・法政大学の2021年度授業方針に従い、原則として対面授業で行います（対面とオンデマンド型オンライン授業の組み合わせの可能性もあり）。
- ・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出します。
- ・Hoppii および Google Classroom を使用します。
- ・提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説 1995年、映画 2001年）	ファンタジー小説 V.S. 映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967年、映画 1983年）その1	時間芸術と「タイムトラベル」、身体感覚の記憶の表現、人物と背景を構成するためのメディア（1）
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967年、映画 1983年）その2	学校という大切なもの、「ラブシーン」の成立条件、科学と私たちの未来
5	R. ブラッドベリ『華氏 451度』／F. トリュフォー『華氏 451』（小説 1953年、映画 1966年）	「書物の神話」とメディア批判の古典、インターネットの時代の焚書の危機

6	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006年、映画 2009年）	青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）というエンターテインメント、コンピューターゲームは私たちが世界をどう変えたのか
7	S. フィτζェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説 1925年、映画 1974年）その1	キラキラコンテンツとしての「悩める若者たち」、人物と背景を構成するためのメディア（2）
8	S. フィτζェラルド／B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説 1925年、映画 2013年）その2	「時代を超えた真実」V.S. 「現代風にアレンジ」、作品解釈の歴史が映画化に与える影響
9	堀辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その1	「私の想像した自然」を描く、人物と背景を構成するためのメディア（3）
10	堀辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その2	「ない」ものをどうやって視覚で表現するか、個人の運命と戦争に翻弄される人間
11	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリークリスマス』（小説 1954/1968年、映画 1983年）その1	「私」の記憶と真実の複数性、「西洋 V.S. 東洋」という二項対立
12	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリークリスマス』（小説 1954/1968年、映画 1983年）その2	「もう一人の私」を受け止める、敵/他者を理解したいと思う気持ちの正体
13	W. ヘルドルフ／F. アキン『14歳、僕らの疾走／50年後のボクたちは』（小説 2010年、映画 2016年）その1	ミレニアル世代のリアリティ、人物と背景を構成するためのメディア（4）
14	W. ヘルドルフ／F. アキン『14歳、僕らの疾走／50年後のボクたちは』（小説 2010年、映画 2016年）その2	ロードムービーの快感、読者・観者に語りかける「物語」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・毎授業終了後、小レポートを作成し提出します。
- ・授業で扱う文学作品について、配布済みの抜粋テキストをあらかじめ読んでおきます。

【テキスト（教科書）】

（以下「対面授業」が実施できる前提の記載です）

- ・文学作品については資料として配布、映像作品はこちらで用意して授業中に観てもらいます。最終レポートで扱う作品は各自で著書と映画にアクセスしてください。

【参考書】

- ・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）
- ・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987年
- ・F・キッター（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999年
- ・J・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史ービッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017年
- ・A・バザン（野崎敏ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015年
- ・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辭学』（ちくま学芸文庫）2005年
- ・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990年
- ・杉野健太郎編著『映画学叢書』映画のなかの社会／社会のなかの映画』（ミネルヴァ書房）2011年
- ・杉野健太郎編著『映画学叢書』交錯する映画ーアニメ・映画・文学』（ミネルヴァ書房）2013年

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と授業ごとの課題（小レポート）65%、最終レポート課題35%を合わせ、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

詳細は Hoppii 上で秋学期開始前に周知します。

- ・「対面授業」の場合、授業には筆記用具を持参（「ノートテイク」は必ず手書きで行います）、授業後の課題執筆作業には PC を使用してください。様々な事情で「ノートテイク」がデジタルガジェットでなければならない理由のある方は事前に申し出てください。

・「対面授業とオンデマンド型オンライン授業の組み合わせ」となる場合、「オンデマンド型」で授業に参加する場合は、安定的なインターネット通信環境と PC に加え、授業で扱う文学作品のうち4冊（文庫本）と映画ソフト8点（レンタルで可／映像サブスクリプションサービス上でのレンタル可）を各自でご準備いただきます。万一、全学的に「全面オンライン授業」となった場合も同様です。その場合の詳細は秋学期開始前に追記します。

【その他の重要事項】

- ・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
- ・授業に参加し、各回の授業内容を踏まえ執筆するのが「小レポート」です。「出席していない授業の内容について小レポートを提出する」という参加方法は認められません。
- ・授業運営の性質上、欠席した授業の代替措置といったものは行いません。
- ・部活動の公欠届や公共交通機関各社の遅延証明書の提出は不要です。担当者が重視するのは、授業参加時の態度とその成果の表現である提出課題です。

【Outline and objectives】

Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of fundamental film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.

LANj300GA

世界の中の日本語

大野 口ベルト

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回授業を出席した受講希望者より200名を抽選

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語を学んだつもりがど忘れし、海外の文化に触れたつもりですっぽ抜ける。現代社会ではおなじみのこの悲喜劇の一因は、そもそも日本語と日本文化に対する理解の浅さに起因するのではないか。言葉や文化はどのように出来上がり、どのように相関するのか。この授業では幕末から二十世紀末までの日本を、海外との応答関係のなかで見つめてみたい。それは物理的な交流でもあるが、それ以上に、言葉を媒介とする交流である。したがってこの授業では原典のみならず英訳されたテキストにも目を向け、必要に応じて外国文学との比較にも供してみる。講義は春学期に開講される「日英翻訳論」と響き合う内容となっている。

【到達目標】

比較的な視点に立つことで、自国の言語や文化を海外のそれと横並びに眺め、客観的な方法で評価を加え、それを言語化できるようになる。文学作品を深く読み解く技術が身につく、英語のテキストに触れることで、語学的な運用能力も向上する。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、毎回のリアクションペーパーに加えて、学習内容に基づいた課題を2つ提出してもらおう。これらについては授業内で言及するほか、個人的にも学習支援システムを通じて随時フィードバックを行う。最後に期末レポートを提出してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、日本語の特徴について考える。（日本語はどのような言語なのか）
2	日本語らしさ	「月がきれいですね」を出発点に、日本語にまつわる神話を解体する。（日本語は愛せない言語である）
3	外国語と日本語1	夏目漱石の活動を中心にとりあげ、明治時代の日本語を考える。（日本語は借りものの言語である）
4	外国語と日本語2	中原中也を中心にとりあげ、近代日本の詩歌について考える。（日本語は創造的な言語である）
5	日本語を書く	永井荷風を中心にとりあげ、日本語における書記行為を考える。（日本語は組み合わせ自由な言語である）

6	日本語を聞く	泉鏡花を中心にとりあげ、日本語における「声」について考える。（日本語は多声的な言語である）
7	日本語と影	谷崎潤一郎を中心にとりあげ、日本語の美意識について考える。（日本語は光と影のある言語である）
8	日本語と音	宮沢賢治を中心に、擬態語や擬声語について考える。（日本語は音楽的な言語である）
9	日本語と私	太宰治を中心に、私小説の問題をとりあげる。（日本語は私を語る言語である）
10	世界と日本語1	川端康成を中心に、日本語における伝統への意識を考える。（日本語は美しい言語である）
11	世界と日本語2	三島由紀夫を中心に、世界文学としての日本文学のあり方を考える。（日本語は世界的な言語である）
12	世界と日本語3	大江健三郎を中心に、「個人的なものとしての日本文学を考える。（日本語はあいまいな言語である）
13	日本語の消失	野口米次郎、牧野信一、塚本邦雄などをとりあげ、言葉の「息苦しさ」を考える。（日本語は寂しい言語である）
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、「未来の日本語」について想像してみる。（日本語は楽しい言語である）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては事前に丁寧に読み込み、時代背景なども調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
小森陽一『〈ゆらぎ〉の日本文学』NHK ブックス、1998

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、課題30%、レポート40%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバック不可。

【Outline and objectives】

One cannot fathom the qualities of a foreign language and culture without the set of skills nurtured through learning one's native language and culture. In this course, students will read works of literature produced from the late 19th century to the late 20th century while paying attention to how they contribute to the overall uniqueness of the Japanese language.

ARSe200GA

中国の文化 I (現代中国社会)

曾 士才

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすることを目指している。

【到達目標】

中国に関するリテラシーの力を高め、実物大の中国を知ることによって中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の5つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。授業は基本的に資料配信型で行う。

課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第2回	都市と農村 (1)	経済格差と三農問題
第3回	都市と農村 (2)	リテラシーの現状、学校教育、大学生の就職難
第4回	都市と農村 (3)	拡大する中産階級、人権意識
第5回	人の移動 (1)	都市の出稼ぎ者、ポイント制度、留守児童
第6回	人の移動 (2)	強制移住
第7回	家族と婚姻 (1)	伝統的家族制度、都市の家族
第8回	家族と婚姻 (2)	新人類「80後」「90後」、人口政策の転換
第9回	家族と婚姻 (3)	高齢化社会、老人扶養
第10回	信仰と習俗 (1)	宗教事情、国家と宗教
第11回	信仰と習俗 (2)	風水思想と実践
第12回	日本と中国 (1)	日中協力
第13回	日本と中国 (2)	強制連行、戦争の記憶
第14回	日本と中国 (3)	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業テーマに関連した課題論文を読む。受講者は参考書所収の論文を読み、授業への理解を深める。理解度を自己評価するために、学習支援システムの「課題」にあるクイズに回答する。

【テキスト (教科書)】

プリント教材 (学習支援システムの「教材」に掲載する)。

【参考書】

A 高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための40章【第4版】』明石書店2012年

B 藤野彰、曾根康雄『現代中国を知るための44章【第5版】(エリア・スタディーズ)』

明石書店2016年

C 藤野彰『現代中国を知るための52章【第6版】』明石書店2018年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使ったクイズへの回答 (10%) と期末に課すレポート (90%) で成績評価を行う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、クイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

クイズへの解答例を掲示板にアップし、受講生の復習に活用できるようにする。

【Outline and objectives】

This course deals with the changing lifestyle and values of Chinese people from viewpoints of city and countryside, migration, family and marriage, religion and custom, China and Japan. At the end of the course, participants are expected to understand the real China without any prejudice.

HIS200GA

中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）

鈴木 靖

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

二千年以上に及ぶ交流の中で、中国の人々は日本にどのようなイメージを持ってきたのか。各種文献や映像資料を通じて、古代から現在までの対日イメージの変遷を概観し、そこから何を学ぶことができるか考える。

【到達目標】

中国の人々の対日イメージがどのように変遷してきたのか、また、いかなる要因によって変化したかを歴史的に理解することにより、この隣国の人々とのようにつきあっていくべきかについて、適切な判断ができる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業はスライドを使い、映像資料などを併用して行う。

課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の目的と到達目標について
第2回	倭人の肖像	六世紀初めの倭人が描かれた絵巻物、南朝梁蕭繹「職貢図」を通じて、中国の人々の古代日本のイメージについて考える。 【キーワード】 ・南朝梁蕭繹「職貢図」
第3回	朝貢から外交へ	東海に浮かぶ一朝貢国に過ぎなかった倭は、隋がおよそ二七十年ぶりに中国全土を統一したのを機に、使節を送り、対等な外交関係を求める。 【キーワード】 ・遣隋使 ・渡来人
第4回	遣唐使の時代	日本は中国の先進的な制度や文化を学ぶため、多くの優れた学生や学僧を中国に派遣する。彼らの勤勉で礼儀正しい行動は、中国の対日イメージを大きく変えていく。 【キーワード】 ・遣唐使 ・阿倍仲麻呂 ・鑑真
第5回	民間交流の時代	唐の衰退により遣唐使の派遣を停止した日本は、やがて独自の文化や技術を生み出していく。民間交流を通じて中国に輸出された日本の製品は、中国で高い評価を受ける。 【キーワード】 ・菅原道真 ・仮名文字 ・扇子
第6回	元寇	ユーラシア大陸を席卷したモンゴルは、やがてその矛先を中国と日本に向ける。 【キーワード】 ・征服王朝

第7回 倭寇

モンゴルの衰退後、倭寇と呼ばれる武装集団が、朝鮮半島や中国沿岸部を襲う。近年、発見された二枚の絵巻物を通じて、中国の対日イメージを大きく悪化させた倭寇について考える。

【キーワード】

・「倭寇図巻」（東大史料編纂所蔵）
・「明人抗倭図巻」（中国国家博物館所蔵）

第8回 鄭成功

中国人の父と日本人の母を持ち、幼少時代を日本で過ごした鄭成功は、異民族王朝清によって明が滅ぼされた後も、台湾に拠点を移して抵抗を続けた。いまま民族の英雄と称えられている鄭成功が対日イメージに与えた影響について考える。

第9回 藤野先生

中国の文豪・魯迅をして「私が師と仰ぐ人の中でもっとも私を感動させ、激励してくれた人」と言わしめた藤野厳九郎。魯迅が書いた自伝的エッセー「藤野先生」は、現在も中国の対日イメージに大きな影響を与え続けている。

【キーワード】

・藤野厳九郎
・魯迅

第10回 霧社事件

1930年、日本植民地下の台湾で、山地先住民による大規模な反乱事件が起こる。近年、台湾のドラマや映画などに取り上げられ、再び注目されるようになったこの事件を通じて、台湾の対日イメージについて考える。

【キーワード】

・ドラマ「風申緋桜」
・映画「セデック・バレ」

第11回 日中戦争

戦後、60年以上経ったいまま日中関係に影を落とす日中戦争。日本人戦犯たちの証言を通じて、中国がもつ負の対日イメージの淵源について考える。

【キーワード】

・「認罪」教育

第12回 留用された日本人たち

終戦後、中国にいた日本の軍人や医療関係者、技術者の多くが、新中国建設のために「留用」された。留用された人々の証言を通じて、いまま中国で高く評価される日本人の事績について考える。

【キーワード】

・「留用」された日本人

第13回 日中国交正常化

1972年の田中角栄首相の訪中によって、日中国交正常化が実現する。緊迫した交渉の中で、田中らはどのようにして日中国交正常化を実現したのか。いまま中国で高く評価される田中らの交渉について考える。

【キーワード】

・田中角栄
・周恩来

第14回 今日の日中関係

歴史問題や領土問題など、日中間にはいまま多くの課題が残されている。閣僚による靖国神社参拝問題と尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題を取り上げ、その淵源と解決方法について考える。

【キーワード】

・靖国神社参拝問題
・尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の前に教材用ページを通じて事前学習のためのPDF資料を配布する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業の前に教材用ページを通じて事前学習のためのPDF資料を配布する。教材用ページへのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【参考書】

- ①王勇『中国史のなかの日本像』（農山漁村文化協会、2000年）
- ②王曉秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000年）
- ③柳本通彦『台湾・霧社に生きる』（現代書館、1996年）
- ④服部龍二『日中国交正常化 - 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』（中公文庫、2011年）
- ⑤孫崎享『日本の国境問題』（ちくま新書、2012年）

【成績評価の方法と基準】

成績は以下の2つの基準をもとに評価する。

- ①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパーの内容（80%）
- ②期末レポート（20%）

これらの成績をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の復習に必要な要望があったため、授業用スライドの PDF を配布することにする。

【学生が準備すべき機器他】

fixi を通じて資料の配布を行う。fixi へのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【Outline and objectives】

How does Japan's self image differ from the ideas and opinions held by the people of China and Taiwan throughout history?

What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?

Unnderstanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by China and Taiwan through the use of text and visual materials.

LANc300GA

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
- (2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。
- (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

・授業は講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が練習問題の解答を発表する機会も設ける。

・練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現 2	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把”構文と“被”構文	「“把”構文（処置文）」、「“被”構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
12	その他の重要表現・構文 1	「存現文」、「“是…的”構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。

13 その他の重要表現・構文 2 「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。

14 まとめ 授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店
・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017『中国語はじめての一步 [新版]』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店
・劉月華 他 2019『实用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・朱德熙（著）、杉村博文・木村英樹（訳）1995『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』、東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

・期末レポートを50%、平常点（練習問題への取り組み状況等）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業では期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）があり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。

・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules.

LIT300GA

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村 英登

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『莊子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】

*中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯

*中国古典を現代語訳で読むときの注意点

*中国古典の背景となる当時の社会環境

以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

※初回授業は対面授業を実施しません。学習支援システム等で資料を掲示します。

※受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『莊子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いをを行います。
7	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
8	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『莊子』と神話	莊子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
11	『莊子』の哲学	莊子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
12	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。
14	試験とまとめ	論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。

『老子・莊子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。

『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。

『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）40%、期末試験60%で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

【Outline and objectives】

This course introduces the Chinese philosophy in major Chinese classics like Confucius, Tao Te Ching, Zhuanzi, and the Art of War to students taking this course.

LIT300GA

中国の文化Ⅶ（近代文学）

桑島 道夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀初め、中国でも言文一致運動（「文学革命」）が提唱され、「近代文学」が誕生します。中国近代文学は、近代以前の文学のあり方をどのように変革しようとしたのでしょうか。またそれは、欧米や日本の近代文学とどのような点で共通し、どのような点で異なっていたのでしょうか。本授業では、そうした問いを通して、中国近代（社会・文化）の歩みを文学の視点から考えます。

【到達目標】

中国近代文学とその歴史的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国近代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。

授業でコメントを求めることがあります。

授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります（毎回というわけではありません）。次回の授業の初めにコメントペーパーをいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

あるいは、事前に課題（作品の読み込み）に対してコメントペーパーを書いてもらい、授業の解説の際にそのなかからいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	中国「近代文学」の変革を考える前提として、近代以前の中国文学のあり方についてお話しします
2	近代文学の誕生 1	胡適と陳独秀の言文一致運動
3	近代文学の誕生 2	魯迅「狂人日記」
4	近代文学の誕生 3	魯迅「阿 Q 正伝」
5	近代文学の誕生 4	周作人と日本
6	新世代の作家たち 1	文学研究会
7	新世代の作家たち 2	創造社
8	近代中国のモダニズム 1	新月社
9	近代中国のモダニズム 2	新感覚派
10	1930年代、注目すべき作家と作品 1	茅盾「子夜」、巴金「家」ほか
11	1930年代、注目すべき作家と作品 2	沈從文「辺城」ほか
12	解放区の「人民文学」	「文芸講話」と趙樹理「小二黒の結婚」
13	淪陷区の文学	張愛玲「傾城の恋」
14	おわりに	中国近代文学の普遍性と特殊性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして（調べて）もらうことがあります。それぞれ2時間程度でしょうか。

【テキスト（教科書）】

随時配布。

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20 世紀文学』（中国文芸研究会、白帝社、1995 年）、『中国語圏文学史』（藤井省三著、東京大学出版会、2011 年）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：50%

コメントペーパー・平常点：50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上に達した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は遠隔授業にまだ不慣れな点もありましたが、21 年度は改善します（春休みに猛特訓中）。

【Outline and objectives】

This course introduces modern Chinese literatures through the development of society since the beginning of 20th century.

LIT300GA

中国の文化Ⅷ（現代文学）

桑島 道夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1949年「新中国」建国後から現在までの文学を振り返ります（数篇、映画も取り上げます）。中国大陸に限らず、中国語圏である香港や台湾の文学を含みます。

【到達目標】

中国現代文学とその時代的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国現代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。

授業でコメントを求めることがあります。

授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります（毎回というわけではありません）。次回の授業の初めにコメントペーパーをいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

あるいは、事前に課題（作品の読み込み）に対してコメントペーパーを書いてもらい、授業の解説の際にそのなかからいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに——中華人民 共和国建国後の政治と 文学	胡風批判、反右派闘争ほか
2	文化大革命	白毛女の表象——民間伝承、集団 創作歌舞劇、映画、そして革命現 代京劇へ
3	みずからの言葉を取り 戻す文学者たち	1970年代の傷痕文学から新时期 文学へ
4	中国的な不条理の表現— —モダニズムの復活	王蒙「胡蝶」、高行建「ある男の 聖書」、残雪「黄泥街」ほか
5	土着の習俗や民間伝承 を取り込む意味—— ルーツ文学派	莫言「赤い高粱」
6	もの言う農民作家	閻連科「人民に奉仕する」「丁庄 の夢」ほか
7	中国の前衛作家群像— —先鋒派	余華、蘇童、格非ほか
8	女性が自己を語る意味 ——女性作家の作品に 表現された内面1	鉄凝「大浴女」
9	女性が自己を語る意味 ——女性作家の作品に 表現された内面2	林白「たったひとりの戦争」、陳 染「プライベートライフ」

10	女性が自己を語る意味 ——女性作家の作品に 表現された内面3	衛慧「上海ベイベー」、棉棉「上海 キャンディ」、安妮・ベイベー 「さよなら、ピピアン」「蓮の花」
11	「80後」（80年代生まれ）の青春小説	韓寒「三重の門」、郭敬明「悲し みは逆流して河になる」
12	香港文学	李碧華「ルージュ」「さらばわが 愛——霸王別姫」ほか
13	台湾文学	李昂「夫殺し」ほか
14	おわりに	中国現代文学の普遍性と特殊性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして（調べて）もらうことがあります。それぞれ2時間程度でしょうか。

【テキスト（教科書）】

随時配布。

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20世紀文学』（中国文芸研究会、白帝社、1995年）、『中国語圏文学史』（藤井省三著、東京大学出版会、2011年）、『規範』からの離脱——中国同時代作家たちの探索』（尾崎文昭編、山川出版社、2006年）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：50%

コメントペーパー・平常点：50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上に達した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は遠隔授業にまだ不慣れな点もありましたが、21年度は改善します（秋学期までにコロナウイルスが終息している場合は別ですが）。

【Outline and objectives】

This course introduces contemporary Chinese literatures. The range covers PRC, Hong Kong, and Taiwan.

LIT300GA

中国の文化区（中国俗文学）

鈴木 靖

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAを機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多だろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。

この授業の目的は巨視的・微視的という二つの視点から中国文化史を通観することにある。

巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。

いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。この授業でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えている。

【到達目標】

中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業は、準備学習と講義、リアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせる。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、リアクション・ペーパーを通じて積極的に発言してほしい。

課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第2回	殷代	文字の誕生
第3回	周代	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第5回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢代	紙の誕生
第7回	魏晋南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第8回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第9回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第10回	北宋時代	三国志の誕生
第11回	南宋時代	水滸伝の誕生
第12回	元代	演劇の隆盛
第13回	明代	出版文化の隆盛
第14回	清代	民間芸能の隆盛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習の資料を授業用ページを通じて配布するので、授業前に読んでおくこと。授業後は授業用スライドのPDFファイルを配布するので、これをもとに復習を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しないが、事前学習の資料と授業で使用するスライドのPDFファイルを教材用ページを通して配付する。

【参考書】

各回の授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のような基準で行う。

①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパー（80%）

②期末レポート（20%）

これら成績をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が多く、教室が狭いと意見が寄せられたため、今年度は大きめの教室に変更することにした。

【Outline and objectives】

Understanding how the Chinese culture influenced the development of the Japanese culture.

How Kanji, Chinese characters, developed and became a Lingua Franca amongst the Asian countries.

How Confucianism was founded and provided an ethical and philosophical doctrine regarding human relationships and social structures for the Asian countries.

How Buddhism was introduced to China and spread amongst the Asian countries.

When paper and printing were invented and how they changed the world.

How Chinese Popular literature was born and influenced the Japanese literature?

HIS300GA

中国の文化X（歴史）

張 玉萍

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語・儀礼・服装など日常生活と密接な関係を持つ事柄から始め、近現代中国の世界へと入っていく。日本人にとっては隣国でありながら遠く感じられている中国の存在が、より一層身近になるようにすることが本授業の目的である。中国文化の中から幾つかのトピックを取り上げて、その歴史的な背景・影響を紹介・解説する。

【到達目標】

現在、日中間は改善に向かいつつあるが、両国民間の信頼関係は十分とは言えない。その原因を追究するには、近現代の日中間関係史を避けて通ることはできない。19 世紀末に日中両国の地位が逆転してから今日にいたる日中間関係が、現状とどのような因果関係にあるのかを、この授業で知ることができる。そのうえで日中間の相互信頼の醸成にいたる可能性を探り、異文化理解の方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。授業はオンラインの形で進めていく。各課題の内容に関するディスカッションを行い、感想文を課す。授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 中国とは何か (1)	地域文化へのアプローチ 地理——東低西高、南船北馬
第 2 回	中国とは何か (2)	民族——56 民族の由来と特徴、分布
第 3 回	中国とは何か (3)	言語——普通話と方言
第 4 回	儒教 (1)	中国人の価値観の中核
第 5 回	儒教 (2)	儒教の興隆、衰退、復活
第 6 回	満族 (1)	“入主中原”
第 7 回	満族 (2)	“満”と“漢”
第 8 回	旗袍 (1)	下位文化から上位文化への上昇
第 9 回	旗袍 (2)	上位文化から下位文化への転落および復活
第 10 回	清末留日学生 (1)	史上初の留日ブーム ——師弟関係の逆転
第 11 回	清末留日学生 (2)	革命の揺りかご——東京と中華民国の成立
第 12 回	日中間における人的交流 (1)	政治家としての戴季陶と日本
第 13 回	日中間における人的交流 (2)	戴季陶の日本観およびその意義
第 14 回	全体総括	授業内容に関する理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課題の内容に関するディスカッションを行い、感想文を課す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

張玉萍『戴季陶と近代日本』法政大学出版社、2011 年。

その他は授業中にそのつと紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終回に論述テストを行なう。授業で学んだ六つのテーマの中から興味を持ったものについて、自分でより深く調べてまとめておく。試験では自分で調べたテーマと教員が指定したテーマの計二問について論述する。資料や授業のレジュメの持込を認める。

期末テスト（70 点）、平常点（授業態度やテーマごとに課された感想文の完成度など、20 点）、授業中の討議への参画度（10 点）により総合的に評価する。

・授業開始後 20 分以内の到着は遅刻とし、それ以降は欠席とする。

・3 回の遅刻で 1 回の欠席とする。

・欠席数が全授業数の 1/3 を超えた場合試験を受ける資格を失う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Starting with things that have close relationships with daily living such as language, ceremonies and clothes, we will enter the world of modern China. It is the purpose of this lesson to ensure that China, which is often felt far away as a neighbor for the Japanese, becomes more familiar. Some topics taken from Chinese culture will be introduced and explained focusing on their historical background and influence.

HIS200GA

朝鮮語圏の文化 I (朝鮮半島の文化史)

神谷 丹路

配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮半島は、日本の隣国、隣人であり、地理的にも歴史的にも、日本と密接な関係のある地域です。この授業では、朝鮮半島の文化や歴史、社会についての基礎事項を学びます。近年、朝鮮半島は、アジアへ、また世界への影響力を増しています。長い歴史の中で、朝鮮半島は、中国の影響を受けつつも、独自の文化・歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきました。朝鮮半島についての基本的な知識を身につけ、あるべきパートナーシップとは何かを探求することを目的とします。

【到達目標】

朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって、日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します。さらに興味のある分野について、自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業はオンデマンド開講である。本授業の開始日は 4 月 13 日、この日までに具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的な流れは、以下の通りである。

朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し、基礎的な知識を確認する。その上で、朝鮮半島と日本とのあいだの文化的相互作用、共通点などに着目するとともに、一つの事象であっても、日本と朝鮮半島では、とらえかたが相違することもあり、それらを俯瞰的な視点から学ぶ。視覚資料を多く取り入れた授業資料を用い、幅広い、朝鮮半島の文化、歴史、社会の知識を吸収する。小テストを随時実施し、間違いの多かった問題などについては、次の授業時に解説する。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つである。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入/朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の2つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、網渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百濟・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮 (王宮の再建から王妃虐殺事件まで) ・徳寿宮 (大韓帝国の近代) ・昌徳宮 (最後の国王、植物園、動物園)

7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労務動員
8	解放から 1950 年代	・38 度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960 年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成 ・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88 年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明 (歴史の再評価)
10	1970、80、90 年代	・朝鮮の漁業 ・20 世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女 ・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
11	朝鮮沿岸漁業の百年	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン
12	世界のコリアン・韓国の外国人	・期末試験
13	まとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

朝鮮語の知識は必要ありません。朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち、関連する本を積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

毎回、授業資料を配布します。

【参考書】

参考文献はその都度指示します。

『新訂増補 韓国朝鮮を知る事典』(平凡社) 2014 年

『日韓でいっしょに読みたい韓国史』(明石書店) 2014 年

『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編下』(青木書店) 2006 年

『学び、つながる日本と韓国の近現代史』(明石書店) 2013 年

【成績評価の方法と基準】

授業の理解度を確認するために、毎回小テストを行う。学期末には、学習のまとめとして期末試験を行う。小テスト (70%)、期末試験 (30%) で評価する方針である。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

S A 韓国 2 年生はかならず受講してください (韓国人に「こんなことも知らないの?」と驚かれないように)。他学部の学生の受講も歓迎します。なお順序と内容に若干の変更がある場合があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.

LANk300GA

朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）

内山 政春

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語を音声、文字、語彙、文法などさまざまな面から言語学的に観察することによって、朝鮮語の力を高めるのに（さらに言えば他の外国語を学ぶにあたって）役立つ知識を提供することを目的としています。

具体的には大学入試センター試験「韓国語」を解く一方で、必要に応じてプリントを配布しながら、上の内容について解説を進めていきます。それ以外に、日頃接する機会の少ない、北朝鮮の言語と、さらに方言と古語の「ざわり」をやりたいと思っています。

【到達目標】

この授業は、実践的な語学力をある程度もつであろう受講生が、その裏にある文法や語彙などの「ルール」を理解することで、ブロークンではないきちんとした語学力を身につけるのに役立つことを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

みなさんには、少なくとも朝鮮語を2年（週2コマとして）学んだ程度の語学力が必要とされます。他学部学生（朝鮮語受講者）の受講も歓迎しますが、ついていくにはかなりの努力を要します。みなさんにはある程度の子習をしてきてもらい、答える準備をしておいてください。そのためにも「出たり出なかったり」というのは困ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	資料配布とやり方の説明
2	つづりと発音	資料に基づいて問題を解く
3	漢字音	資料に基づいて問題を解く
4	用言の活用	資料に基づいて問題を解く
5	用言の語尾、助詞	資料に基づいて問題を解く
6	各種表現の和文朝訳1 (日本語との表現の違いなど)	資料に基づいて問題を解く
7	各種表現の和文朝訳2 (置き換え可能な表現など)	資料に基づいて問題を解く
8	各種表現の和文朝訳3 (慣用句など)	資料に基づいて問題を解く
9	会話文1（短文；語彙問題）	資料に基づいて問題を解く
10	会話文2（短文；文法問題）	資料に基づいて問題を解く
11	会話文3（長文）	資料に基づいて問題を解く
12	北朝鮮の朝鮮語	北朝鮮の文献資料を見ながら韓国の朝鮮語との違いについて解説する。
13	方言	主に韓国の方言資料を見ながら標準ごとの違いについて解説する。
14	古語	訓民正音を見ながら現代語との違いについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「この授業のため」というのではなく、授業外でも朝鮮語に積極的に触れることが大切です。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に必要に応じて説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）とレポート（20%）によります。あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は朝鮮語の運用能力をある程度持つ学生を対象としているのには上に書いたとおりですが、にもかかわらず、シラバスも読まずにその前提条件を知らずに受講しようとする学生が毎回います。そういう非常識なことはやめてほしいと思います。

韓国人留学生（朝鮮語母語話者）の受講者の受講も歓迎しますが、単に「簡単そうだから」受講するのではなく、「なぜそうなのか」自分の母語を振り返る機会を持つという意欲のある者に受講してほしいと思います。前回散見された、授業中とは無関係に）スマホを見てばかりの学生などがいた場合、途中でやめてもらうことになるかもしれません。

【学生が準備すべき機器他】

SA後、朝鮮語に直接関連する授業は、この授業のほかに「朝鮮語アプリケーション」が通年1コマあるだけ、というのが残念ながら現状です。SA韓国の学生はこの授業を「アプリ」と合わせて履修することが望めます。

【その他の重要事項】

履修者の状況によっては、授業を朝鮮語で行いません。またおそらく少人数の授業になると思いますので、受講者の希望があれば内容を一部変更することも考えられます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire advanced skills and knowledge of the Korean languages by observing linguistically from various aspects such as sounds, letters, vocabulary and grammar.

ARSh300GA

アフロ・アジアの文化

江村 裕文

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人にとって意識の上で一番遠いと考えられるのが「アフロ・アジア」地域、つまり北アフリカから中近東にまたがる地域のことである。

本講では、「地理的」あるいは「歴史的」にこの地域にアプローチを試みるのではなく、主にユダヤ教・キリスト教・イスラームという精神的（宗教的）な面からのアプローチを試みる。これらの宗教を、可能な限り現在の我々日本人との関係に重点を置いて紹介したい。

【到達目標】

2011年の「アラブの春」以降、ガザ地区におけるハマスとイスラエルの戦闘、また先が見えないシリアのアサド支持派と反政府派との戦闘、さらにそのシリアおよびイラクのシーア派政権に対抗して勢力を拡大する「IS（イスラム国）」、シーア派のイランとスンナ派のサウジの対立など、この地域で起こったまた起こりつつある事態に対して、正確な知識を得て、この地域に関するメディア・リテラシーを高めることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

以下の「授業計画」で提示した各テーマについて、それぞれ原理的・理論的な解説、具体的な事例紹介、DVD視聴などを通して、多角的にこの地域について紹介していく。

扱うべきテーマ等があれば、適宜授業内で取り上げ、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「アフロアジアとは何か」	オリエント・中東（中近東）・中東北アフリカ・アラブ・イスラーム地域の自然と国家
2	「宗教」について	「宗教」とは何か
3	「聖書」について	「聖書」の成り立ちと歴史、その内容
4	「ユダヤ教」について	i 「ユダヤ教」の成り立ち、歴史的背景
5	「ユダヤ教」について	ii 映画《十戒》鑑賞
6	「ユダヤ教」について	iii 「ユダヤ教」の特徴、経典と教義
7	「キリスト教」について	「キリスト教」の成り立ち、歴史的背景
8	「キリスト教」について	i 映画《受難》鑑賞
9	「キリスト教」について	ii 「キリスト教」の特徴、経典と教義
10	「イスラーム」について	iii 「イスラーム」の成り立ち、歴史的背景
11	「イスラーム」について	i 映画《メッセージ》鑑賞
12	「イスラーム」について	ii 「イスラーム」の特徴、経典と教義
13	「パレスチナ問題」	iii 「パレスチナ問題」の歴史的背景
14	「パレスチナ問題」	ii 記録《エルサレム物語》鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「アラブの春」民主化運動や、ガザ地区を中心に起こったハマスとイスラエルの対立、ロシアのシリア介入、「イスラム国」等、流動的なこの地域に関するメディア等の報道に気を配り、関心を高める努力をしていくこと。授業では解説を試み、複雑に絡まっている現状の糸を解きほぐしていく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。参考文献のリストを紹介するので、各自の興味にしたがって、読書を進めてほしい。

【参考書】

配布する参考文献リストを参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、試験60点、合計100点で評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

以下は受講した学生が書いてくれた感想の一部である。

以前から日本人は宗教に無縁だと考えていたが、実際はそうではないことを実感した。

イスラーム、アラブ、難民問題などは遠い世界のことだと思っていたが、SAを通してテロを身近に感じるとともに、この世界の問題が日本の経済や社会に直接影響があるのだということがわかった。

【その他の重要事項】

授業予定はあくまでも予定である。「アフロアジア」地域で新たな展開があれば、臨機応変にそのつど取り上げたいと考えている。

【Outline and objectives】

The area thought to be the farthest for Japanese is "Afro-asiatic" area, namely middle east and north africa.

In this class, we try to approach to this area by religious way, Judaism, Christianity, and Islam.

To know the religions in this area is important to understand the civilization of the modern world and the future.

ARsB300GA

ロシア・東欧の文化

佐藤 千登勢

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方がEU加盟を果たした東欧諸国。今日、これらの国々に対しては、中東欧という呼称が定着しつつあります。東欧という位置づけは、ロシア・ソ連との関係性、そして地理的・歴史的諸要因から考察される必要があるでしょう。

この講義では、ロシアと東欧諸国それぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはどういうことなのか、学生のみなさんに考えてほしいと思います。

SA ロシアの2年生は必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して意見を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をコメントシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義で論じる「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、アニメーション、アートなど）の視聴覚資料を通して東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや社会の問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として捉え、考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに意見や質問を書いてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、次週の授業にてフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと中東欧諸国の言語・宗教／日本と東欧の関係の一断面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、汎ヨーロッパ・ピクニック事件など。
第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉施設を中心に解説、映像で紹介。

第4回	ハンガリー：音楽と映画とアートをめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パルフィ・ジョルジ、タル・ベアラらの独特な作風の映画を紹介。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第6回	ポーランド：街並みと風土／世界遺産を中心に	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所の記録について。
第7回	ポーランド：音楽と映画と政治をめぐって	伝統音楽からショパンの音楽を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。伝統的歌唱法ホワイトヴォイスや伝統的リズムを利用した現代のポピュラーミュージックも紹介。映画と政治の問題はワイダ作品を鑑賞しながら検討。
第8回	ポーランド：映画と文学をめぐって	ボランスキー、ケシロフスキ、スコリモフスキの映画を一部鑑賞しつつ、ポーランド映画の美に触れる。シェンケヴィチ、シュルツ、ミウォシュ、シンボルスカ、レムラ作家や詩人を紹介。
第9回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『プラハ!』に描かれるチェコ事件について。
第10回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第11回	チェコ：文学と映画をめぐって	プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、チェコ・アヴァンギャルド、プラハ言語学サークルについて、さらに、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コリーヤ、愛のプラハ』を紹介。
第12回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第13回	ソ連・ロシア：歴史概観	被抑圧と抑圧、全体主義体制をキーワードに古代ロシアから現代までのロシア史を概観。
第14回	まとめ	これまでの授業を改めて確認できるような映像資料を鑑賞する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品のDVDソフトは大学のAVライブラリーにある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。期末レポートの作成には、1週間程度かけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システム等で配付します。

【参考書】

特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、コメントシート 25%、期末レポート 25%に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

大教室での授業となる可能性がありますが、静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。同時に、皆さんの協力を期待します。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the history, culture and arts of Russia and East Europe: Hungary, Poland and Czech Republic. Through this process we will understand and evaluate the rule of satellite countries and the nationalism.

ARSA300GA

ドイツ語圏の文化Ⅱ

熊田 泰章

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ（昔のドイツ・東ドイツ・西ドイツ・統一後のドイツ）とオーストリア、スイスにおいて、ドイツ語で書かれた文学作品を読む。それによって、ドイツ語によって構築される文化についての考察を行なう。加えて、他の文化圏への参照を行う。

言語使用における理解の仕組みについて考え、インターカルチュラルリティとインターテクスチュアリティという重要な概念を中心に置き、言語テキストを解析することを通して、異文化間の理解と誤解の実例としてテキストを分析する。

言語芸術としての文学作品の作品性も合わせて分析する。

☆作品は、日本語翻訳として出版されているものを用いる。

ドイツ語の知識は必須ではない。

☆他の文化圏で書かれているドイツ語以外の作品（日本語版）を対照として読む。

【到達目標】

インターカルチュラルリティとインターテクスチュアリティという重要な概念を理解する。

異文化間の理解と誤解の成立について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

作品を読みながら、考えていく授業です。

作品例として以下のものを予定しています：

クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』

エルフリーデ・イェリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』

エーリヒ・ノサック『盗まれたメロディー』

オルハン・パムク『雪』

ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』

ミュリエル・バルベリ『優雅なハリネズミ』

カズオ・イシグロ『チェリスト』

アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』

グリム『グリムの昔話』

アゴタ・クリストフ『悪童日記』

などから選びます。

また、受講者からの提案も入れて取り上げる作品を組み立て直すことも行います。

採用する作品については、学習支援システムでお知らせします。

毎回の授業では、最初に、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、講評を行って、全体に対して提出課題のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の確認、作品の提案と概説。
第2回	作品1：クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』	作品1：クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』の読解と解説
第3回	作品1：クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』	作品1クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』の読解と解説のまとめ
第4回	作品2：エルフリーデ・イェリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』	作品2：エルフリーデ・イェリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』の読解と解説
第5回	作品2：エルフリーデ・イェリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』	作品2：エルフリーデ・イェリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』の読解と解説のまとめ
第6回	作品3：オルハン・パムク『雪』	作品3：オルハン・パムク『雪』の読解と解説
第7回	作品3：オルハン・パムク『雪』	作品3：オルハン・パムク『雪』の読解と解説のまとめ
第8回	作品4：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』	作品4：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』の読解と解説

第9回	作品4：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』	作品4：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』の読解と解説のまとめ
第10回	作品5：カズオ・イシグロ『チェリスト』	作品5：カズオ・イシグロ『チェリスト』の読解と解説
第11回	作品5：カズオ・イシグロ『チェリスト』	作品5：カズオ・イシグロ『チェリスト』の読解と解説のまとめ
第12回	作品6：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』	作品6：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』の読解と解説
第13回	作品6：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』	作品6：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』の読解と解説のまとめ
第14回	まとめ	これまでの作品のまとめ 授業で学んだことの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読みきれなかった作品を読み通す。

取り扱う作家と作品の背景について調べる。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

選定した作品を用い、学習支援システムで閲覧する。

【参考書】

熊田泰章「テキスト外参照性を封じる語り手の声—アゴタ・クリストフ『悪童日記』における拒絶する語り—」法政大学国際文化学部紀要『異文化』10号、法政大学国際文化学部、2009年

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニレポートを課す。

その上で、最後に期末試験を行なう。

ミニレポート 50%、期末試験 50%。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

作品内容を文化圏の諸事情に即して理解することがポイントである。

【学生の意見等からの気づき】

学生の提案を反映していきます。

前年度まで学内役職に就いていたため、その任期の間、この授業は担当していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

学部の授業実施方針に則り、この授業は、原則として、教室での対面授業を行います。ただし、方針の変更次第で、オンライン対応となることもあります。

受講者数を適切に保つために、開講時に以下の処置を行います：

初回授業は対面授業を実施せず、学習支援システムで教材と課題を掲示する。

受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【Outline and objectives】

We read literary works written in German in Germany (old Germany, East Germany, West Germany, Germany after reunion), Austria and Switzerland. It gives a consideration of the culture constructed in German. In addition, we make references to other cultural areas, thinking about the mechanism of understanding in language use, focusing on the important concepts of interculturality and intertextuality, and analyzing language texts. We analyze texts as an example of cross-cultural understanding and misunderstanding. The workability of literary works will be also analyzed.

☆ We use works published as a Japanese translation. Knowledge of German is not essential. ☆ We read Non-German works (Japanese version) written in other cultures as a contrast.

PHL200GA

フランス語圏の文化 I (思想)

大中 一彌

配当年次/単位：1~4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【授業の目的】この授業では、17世紀から18世紀のフランスにおける思想と文化をめぐり、いくつかの作品を概観する。この授業における学びは、それを身に付ければ何かがすぐにできるということの意味での実学ではない。しかし、近代社会の基本的な枠組が一よかも悪くも一西ヨーロッパにおいて形づくられた時代であり、この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱えている価値観を、より奥行きのある、より洗練されたものにしていくのに役立つ。

【授業の概要】

※世界史以外を受験のさいに選んだ人を中心に、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下記述する。

・デュビュ&マンドルー『フランス文化史』Ⅱによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスへも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令(1598年)により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ4世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みで囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性をもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。

・17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。ナントの勅令の廃止(1685年)によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント(オランダ)を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ(約2000万人)にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちが積みあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する(現代でいう)プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような影響力も実際に有していた。

・イギリスとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地である18世紀フランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。1700年代後半になると、こうした批判を含め、米州からロシアまで含む拡張されたヨーロッパ世界の中へ上流階級において多少とも共有されていた、洗練された文化・文明のあり方そのものが、自然のままであれば善良であったはずの人間を墮落させてしまったという主張さえ流行する。ジャン=ジャック・ルソーの『学問芸術論』や『人間不平等起源論』が、この種の主張の代表格である。

・少数派の立場にたいする寛容や、「自然に帰れ」といった文化的理想、また宗教的狂信と暴力の関係をどのように考えるかという主題は、17~18世紀フランスの思想が、21世紀の私たちに投げかける重い課題である。

【到達目標】

1. 各回のテキストの講読をつうじて、17世紀から18世紀にかけてのフランスにおける思想と文化を代表する作品に関する概要をつかむ。
2. 各回のテキストに登場する人物や作品から主題を選び、いわゆるステレオタイプに陥らない形で、その思想に関する理解を深める。
3. 少数派の立場にたいする寛容や、「自然に帰れ」といった文化的理想、また宗教的狂信と暴力の関係について、受講する学生それぞれがみずからの考えを練り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

- ・受講者数にもよるが、基本的には毎回の授業時間=100分を、(ア)教員による講義と、(イ)受講者の皆さんからの発言・発表に分ける形式を想定している。
- ・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行うが、学習支援システムやGoogle Classroomも利用する場合がある。
- ・語学の授業ではないため、フランス語の能力は求めない。
- ・期末のテストやレポートは課さない。授業中の活動への参加を重視する。
- ・この授業は秋 semester (後期) 科目である。このシラバスを執筆している2021年2月の段階で、2021年9月~2022年1月の感染拡大状況を予想するのは困難であり、教室における対面授業ができる場合、オンライン授業になってしまう場合、両方を想定しているが、どのような比率になるかは秋 semester 開始以降の感染状況、法政大学の方針を踏まえ決定する。ただし、いずれの授業形態の場合も、授業の進め方や方法には、あまり影響はないと考えている。
- ・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱いきれなかった内容を補足する動画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する予定である。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方の説明 ※「内容/Contents」欄に書いてあるのは次の回で使うテキストです。	第2回で使うテキスト 石井洋二郎『フランス的思考』4-5頁 アンドレ・シーグフリート『西欧の精神』福永英二訳、第3章「フランス人の知性」46-75頁。 バラエティアートワークス『デカルト 方法序説—まんがで読破—』第4章「形而上学の基礎」84-135頁。
第2回	「フランスの」思想?	第3回で使うテキスト ボワロー『詩法』解説(守屋駿二)20-40頁。 ヴィクトール・リュシアン・タビエ『バロック芸術』高階秀爾・坂本満訳、第二章「フランスのバロックと古典主義」88-105頁。 アラン・バラトン『庭師が語るヴェルサイユ』鳥取絹子訳、第7章「ル・ノートルと我われ庭師」115-146頁。

- 第3回 古典主義あるいはフランス式バロック 第4回で使うテキスト
エルンスト・カッシーラー『デカルト、コルネイユ、スウェーデン女王クリスティナ』朝倉剛・羽賀賢二訳、第2章「悲劇概説」41-45頁。
高階秀爾『フランス絵画史』第2章「17世紀フランスの絵画」第3節「古典主義の成立」85-102頁。
コルネイユ『コルネイユ名作集』ル・シッド論争「論争概観」（皆吉郷平・橋本能）488-490頁。
- 第4回 「1636年の英雄たち」 第5回で使うテキスト
セヴィニエ夫人『セヴィニエ夫人手紙抄』井上究一郎訳、23-29、138-150頁。
エリアス『宮廷社会』波田節夫・中埜芳之・吉田正勝訳、106-115、129-139頁。
モリエール『町人貴族』鈴木力衛訳、33-35、105、155-157頁。
- 第5回 習俗の純化 第6回で使うテキスト
ボシュエ「アンリエット・ダングルテール追悼演説」
フィリップ・ド・シャンペーニュ「ヴァニタス」（アラン・タビエ&ニコラ・サント・ファール・ガルノ編『フィリップ・ド・シャンペーニュ 政治と敬神の間』148-151頁）
高階秀爾『フランス絵画史』第2章「17世紀フランスの絵画」第2節「フランス精神の勝利」59-66頁。
パスカル『プロヴァンシアル（田舎人への手紙）』「第1の手紙」と「解説」、中村雄二郎訳、373-378、428-429頁。
- 第6回 ヴァニタスと神の恩寵 第7回で使うテキスト
フェヌロン『テレマックの冒険』下、朝倉剛訳、巻10-11。
ガクソット『フランス人の歴史』第2巻、第19章「リシュリウとヴェストファーレン条約」451-469頁。
林田信一『ルイ14世とリシュリウ』26-39、46-55頁。
- 第7回 絶対王政と王国の基本法（リシュリウ、マザラン） 第8回で使うテキスト
ラ・フォンテーヌ『寓話』今野一雄訳「都会のネズミと田舎のネズミ」「王さまを欲しがるかエルたち」「ハゲタカと鳩」27-29、55-57、133-135頁。
ペロー『ペロー童話集』新倉朗子訳、「眠れる森の美女」「赤ずきんちゃん」「サンドリヨンまたは小さなガラスの靴」157-180、211-214頁。
- 第8回 テキストを分析する① 寓話について 第9回で使うテキスト
ラ・ロシュフーコー『ラ・ロシュフーコー箴言集』二宮フサ訳、11-15、56-57、80-87、147-153頁。
田中仁彦『ラ・ロシュフーコーと箴言 太陽も死も直視できない』11-68頁。
- 第9回 テキストを分析する② 恋愛について 第10回で使うテキスト
パスカル「大貴族の身分に関する講話」（伊吹武彦・渡辺一夫・前田陽一『パスカル全集』I 161-168頁）
パスカル『パンセ』塩川徹也訳（上）71-75、80-89、92-93、105-117、124-127、238-259頁。
拙稿「パスカルにおける情念と政治」
- 第10回 テキストを分析する③ 力と正義について 第11回で使うテキスト
赤木昭三『フランス近代の反宗教思想—リベルタンと地下写本』第1部第5章「17世紀後半のリベルタン」、第2部第3章（1）「軍人哲学者」54-68、149-162頁。
モリエール『ドン・ジュアン』鈴木力衛訳、38-45、50-53、78-81頁。
フォントネル『世界の複数性についての対話』赤木昭三訳、第三夜「月世界の特徴および他の惑星にも人が住んでいること」78-102頁。
- 第11回 リベルタン 第12回で使うテキスト
モリエール『人間嫌い』内藤濯訳、第1幕第1場、第2幕第2場。
矢橋透『劇場としての世界—フランス古典主義演劇再考』第2章「仮面の劇—モリエール『人間嫌い』について—」41-72頁。
ジャン・ルーセ『フランスバロック期の文学』伊藤廣太・齋藤磯雄・齋藤正直他訳、第3章「変装とまやかし（悲喜劇）」、第8章「文学におけるバロック」67-108、270-311頁。
- 第12回 仮面 第13回で使うテキスト
「枢機卿によるラ・ロシュフーコーの肖像」
ラ・ブリュイエール『人さまざま（キャラクター）』上・中、関根秀雄訳、第3章女について第11章人間について。
辻邦生「ブッサンの遺言」
- 第13回 ボルトレ 第14回で使うテキスト
ラ・ロシュフーコー『箴言集』など、第1回から第12回までに使ったテキスト全部。
- 第14回 自画像を作ってみる。 モラリスト風の文章により自画像（オートポルトレ）を描く。授業支援システムを利用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (ア) 教科書の次回の範囲を予習してきてください。
(イ) 指定する LMS（学習支援システム-Hoppii か Google Classroom）の場所に、話題提供や教科書報告用のリンクと資料、文章を授業開始時刻より前に貼り付けてください。
(ウ) この授業の準備や復習に必要な学習時間は、上記（ア）（イ）を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

授業計画の内容で毎回のテキストを指示してある。ただし、第1回授業時に、とりあげるテキストの一部を差し替えた授業計画を配布する場合があります。

【参考書】

参考となる映像作品：

- 第1～2回に関して、パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994年。
第3～4回に関して、ジェラルド・コルビオ監督『王は踊る』2000年。

第5～6回に関して、エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969年。

第7～8回に関して、リュック・ベッソン監督『狼（チャンネルNo.5の広告）』1998年。

第9～12回に関して、ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973年。
参考となる音楽作品：

夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

(ア) 期末試験：実施しない（0%）

(イ) 期末レポート：実施しない（0%）

(ウ) 授業への参加（30%）

(エ) 授業時間外の準備を必要とする学生による発表（30%）

(オ) 担当範囲外における発言など積極的な参加（30%）

(カ) その他（運営協力や講師のミスの指摘）（10%）

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

(ア) 特にオンラインで行う授業回が混じった場合、あまり過剰な学習負担とならないよう配慮しています。

(イ) 法政大学が提供しているLMS（学習支援システム-Hoppii やGoogle Classroom）を、Zoomと併用しますが、中華人民共和国などGoogleへの接続が困難な国から接続せざるをえない履修者がいた場合は、配慮いたします。

(ウ) 2020年度に開講された科目では、G Suiteを活用した文書共有に加え、Hoppiiの「OATube」機能を含めた、動画や音声の掲載を行いました。

(エ) 就職活動などによる欠席者のために、Zoomの授業録画などを、履修者のみのあいだで、一般には非公開のかたちで共有する予定です。

(オ) 2020年度にリアルタイム・オンライン授業に初めて挑戦しましたが、教室における対面授業に劣らず、オンラインでも、学生間のコミュニケーションはとれていたのではないかと思います。教員も努力しますが、履修学生の皆さんも、できればWebカメラをONにするなどして（強制はしません）、活発な雰囲気づくりにご協力ください。

【学生が準備すべき機器他】

(ア) 資料の配布や学生からの成果物の提出、その他さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii等）で行いません。

(イ) パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを行っていただく場合があります。Zoom上での画面共有をもちいたプレゼンテーションをしたことがない方は、法政大学から配布済みのZoomのアカウントを使って練習をしてください。

(ウ) 学外から法政大学図書館のオンラインデータベースが利用できるよう、VPN接続の使い方をマスターしてください。

(エ) 法政大学が提供しているVPN接続の使用方法については「全学ネットワークシステムユーザ支援WEBサイト/VPNサービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】

①「授業計画」の内容については、第1回の授業で、使用するテキスト類をさしかえた「授業計画」を配布するかたちで変更する場合があります。

②市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

③学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

④履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

(※) この「フランス語圏の文化I（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語I」「時事フランス語II」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline and objectives】

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral presentations in Japanese will be required.

ART200GA

フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代フランスの絵画・写真・映画の歴史を概観し、芸術的・社会的な意義を学ぶ。

【到達目標】

エポック・メイキングな芸術家や流派、作品の名前などを覚え、その歴史的意義や社会背景を説明できるようになる。あわせて、鑑賞力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義と関連作品の鑑賞・分析を交互に行う。

コメントシートに関するフィードバックは授業内や hoppii で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義のオリエンテーション
第2回	フランス古典主義	クロード・ロラン ニコラ・プッサン
第3回	新古典主義とロマン主義	ダヴィッド、アングル ドラクロワ
第4回	近代絵画のはじまり	写真の普及 写実主義 マネとボードレール
第5回	印象主義	モネ、ルノワール、ロダン
第6回	ポスト印象主義	スーラ、ゴーギャン、ゴッホ、セザンヌ
第7回	映画の誕生	リュミエール兄弟、メリエス
第8回	アヴァンギャルド1 (キュビズム、フォーヴィスム)	ピカソとマチス ドローネーの抽象絵画
第9回	アヴァンギャルド2 (ダダイスム、シュルレアリスム)	デュシャン、エルンスト、ダリ、ブニュエル
第10回	エコール・ド・パリと詩的リアリスム	ユトリロ、藤田クレール、ジャン・ルノワール
第11回	パリ写真	アジェ、ブラッサイ、カルチエ＝ブレッソン
第12回	ヌーヴェル・ヴァーグ	バザン、トリュフォー、ゴダール
第13回	フランス現代美術	クライン、クリスト、ボルタンスキー
第14回	補遺	これまで取り上げられなかった重要芸術家 期末試験の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に美術展へ行ったり、画集やDVDなどを鑑賞すること。

【テキスト（教科書）】

プリントで代用する。

【参考書】

随時挙げる。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートやミニ・レポートによる平常点（50%）＋期末試験（50%）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

【Outline and objectives】

We take a general view of history of French fine art, photography and movie.

ARSd300GA

スペイン語圏の文化Ⅱ

久木 正雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを超えた場合は抽選とする

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、南北アメリカ大陸とカリブ海におけるスペイン語圏諸国・諸地域の歴史と、政治や経済、社会や文化をめぐる諸相について学ぶ。ラテンアメリカ（イスパノアメリカ）と総称されるこれらの地域は、極めて広大かつ多様性（あるいは不均衡）に満ちているが、個々の地域またはトピックへの理解と関心を深めることを通じて、可能な限りの全体像を掴むことを目的とする。

【到達目標】

ラテンアメリカの諸相に関する基本的な理解を得て、各自の問題関心を深め、それらをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションと議論を中心に行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	ラテンアメリカ地域の特徴	「ラテンアメリカ」という呼称・概念をはじめとして、この地域に関する全般の特徴を学ぶ。
3	ラテンアメリカの歴史	先コロンブス時代から20世紀までのラテンアメリカの歴史を学ぶ。
4	ラテンアメリカの政治	近現代のラテンアメリカについて、政治的側面から学ぶ。
5	ラテンアメリカの経済	近現代のラテンアメリカについて、経済的側面から学ぶ。
6	ラテンアメリカの社会	近現代のラテンアメリカについて、社会的側面から学ぶ。
7	ラテンアメリカの文化	近現代のラテンアメリカについて、文化的側面から学ぶ。
8	メキシコ	メキシコの歴史・政治・経済・社会・文化について学ぶ。
9	中米地域	中米地域の歴史・政治・経済・社会・文化について学ぶ。
10	カリブ海地域	カリブ海地域の歴史・政治・経済・社会・文化について学ぶ。
11	アンデス諸国	アンデス諸国の歴史・政治・経済・社会・文化について学ぶ。
12	ラブラタ地域	ラブラタ地域の歴史・政治・経済・社会・文化について学ぶ。
13	ラテンアメリカと日本	ラテンアメリカと日本との関係について学ぶ。
14	アメリカ合衆国とヒスパニック	アメリカ合衆国に住まうスペイン語話者と、同国でのスペイン語の占める位置について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- 国本伊代・中川文雄（編著）『ラテンアメリカ研究への招待 [改訂新版]』新評論、2005年、本体価格3,200円、ISBN9784794806796。
※必ず「改訂新版」を入手すること。

【参考書】

- 大泉光一・牛島万（編著）『アメリカのヒスパニック＝ラティーノ社会を知るための55章』明石書店、2005年、本体価格2,000円、ISBN9784750322353。

- 清水透『ラテンアメリカ五〇〇年—歴史のトルソー』岩波現代文庫、2017年、本体価格1,200円、ISBN9784006003722。

- 清水透・横山和子・大久保教宏（編著）『ラテンアメリカ 出会いのかたち』慶應義塾大学出版会、2010年、本体価格3,500円、ISBN9784766417234。

- 高橋均・網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』（世界の歴史、18）、中公文庫、2009年、本体価格1,905円、ISBN9784122052376。

その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加度：30%、プレゼンテーション：30%、学期末レポート：40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用のPCは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

この授業は春学期開講の「スペイン語圏の文化Ⅰ」からの直接の連続性はなく、秋学期だけで独立した内容を扱う。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Latin America and the Caribbean: histories, societies and cultures.

LANs300GA

カタルーニャの文化 I (言語 A)

VILA V RAQUEL

配当年次/単位：3~4 年 / 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カタルーニャの文化 I はカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で自己紹介や周りの人を紹介できるようになります。

【到達目標】

簡単なカタルーニャ語会話ができるようになります。
そして、ローマ帝国の言語であったラテン語から (スペイン語やフランス語同様に) どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業はスペイン語を使ってカタルーニャ語について説明します。

課題等の提出やそれに対するフィードバックは GoogleClassroom で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介一名前を伝える [カタルーニャ語とは?]	自己紹介 Em dic... Com et dius...? Sóc la...
2	アルファベットと発音	カタルーニャ語とは? アルファベットと発音 Com s'escriu? Lletrejar
3	数字 0-100 年齢、電話番号を伝える	数字 0-100 Quants anys tens? Tens telèfon? TENIR 動詞
4	自己紹介出身を伝える	国の名前/国籍の形容詞 D'on ets? Sóc japonès. Sóc del Japó. Masc.-Fem. / Sing.-Pl.
5	世界の言葉 [カタルーニャ語の歴史]	言語 Quines / Quantes llengües parles? PARLAR 動詞 カタルーニャ語の歴史 [Historia de la llengua]
6	自己紹介趣味の話をする	趣味に関する語彙 Què t'agrada fer en el temps lliure? AGRADAR 動詞
7	自己紹介職業	職業 Professions De què fas? Sóc estudiant. FER 動詞
8	具体的に職業の話をする [現在のカタルーニャ語]	On treballes? Què estudies? 疑問詞のまとめ TREBALLAR/ESTUDIAR 動詞
9	自己紹介お住まいの話をする	住所 On vius? Fa 10 anys que visc a Tòquio. VIURE 動詞
10	人を紹介する	人を紹介する Coneixes la Maria? És la meva professora. CONEIXER 動詞
11	人の描写をする	人の描写 Com és? És rossa i prima.
12	時間を尋ねる	Quina hora és? 今何時ですか A quina hora ...? 何時に... 日常生活の話

13 日常活動

Activitats quotidianes.
Què fas normalment?
普段は何をしていますか。
期末試験

14 試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ず復習をすること。

カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

「ニューエクスプレス カタルーニャ語」(白水社)

「Veus 1」 Publicacions de l'Abadia de Montserrat

「Passos 1」 Octaedro Editorial

www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%

宿題提出 10%

小テストと期末試験 30%この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。

定期的小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

内容が関連する秋学期の「カタルーニャの文化 II」の受講もお勧めです。

進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Catalan language. Introductory course.

LANs300GA

カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）

VILA V RAQUEL

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※ 2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャの文化Ⅱはカタルーニャ語についての授業です。カタルーニャ語で日常生活や自分の過去の話ができるようになります。カタルーニャ語の文法だけをやる、ということではありません。

【到達目標】

簡単な日常生活などのカタルーニャ語会話ができるようになります。また、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。授業はカタルーニャ語とスペイン語で行います。スペイン語を使ってカタルーニャ語について説明するわけです。スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。課題等の提出やそれに対するフィードバックは GoogleClassroom で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日常生活の話をする	日常活動 Què fas normalment? Què fas al matí? 朝、昼、晩
2	頻度を伝える	頻度を表す表現 Quantes vegades a la setmana fas classe de català? Vas al cinema sovint?
3	物体	Porto les claus a la butxaca. 名詞の性、数
4	買い物	Què li regalaràs, a en Daniel? 買い物の会話
5	天気の話	Demà plourà. 天気の話 【未来形】
6	レストランで I	Què és això? カタルーニャ料理を紹介する
7	レストランで II	Què volen de primer? Em pot portar més pa? レストランで行う会話 PODER、VOLER 動詞 命令形
8	人を食事などに誘う	Vols sortir el cap de setmana? 義務を表す表現 HAVER DE その他の表現：Passa, passa. Seu, seu.
9	調子、感情を伝える I	Té mal de coll. 喉が痛い。
10	調子、感情を伝える II	Ha tingut un mal dia. 今日は嫌なことがあった。 現在完了形。
11	自分の過去の話をする	生年月日 数字100～ 過去形 Vaig néixer l'any 1982.
12	先週末の話をするーその感想	AGRADAR / SEMBLAR / TROBAR 動詞の過去形 Vaig anar al cinema.La pel·lícula no em va agradar gens.

13 写真を説明する

進行形

Mira, en aquesta foto estic plorant.

14 試験

期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習をすること。

カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント/PDF を配布します。

【参考書】

「ニューエクスプレス カタルーニャ語」（白水社）

「Veus 1」 Publicacions de l'Abadia de Montserrat

「Passos 1」 Octaedro Editorial

www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%

宿題提出 10%

小テストと期末試験 30%この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。

定期的に小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期だけの受講も可能ですが、関連する春学期の「カタルーニャの文化Ⅰ」と一緒に受講することを勧めます。

進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Catalan language. Introductory course.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

VILA V RAQUEL

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャという何を思い浮かべますか？ ガウディ？ バルサ？ それももちろんカタルーニャ文化の一部ですが、それだけではありません。皆さんがスペイン文化だと思っているものの中にも実はカタルーニャ文化だ、というものが少なくありません。ダリもミロもカタルーニャ人。ピカソも重要な時期をバルセロナで過ごしました。音楽では、ホセ（ジュゼップ）・カレラスやムンセラ・カバリエ。スポーツで言えば、北京オリンピックの代表選手の 80 % がカタルーニャ人。テニスのナダルだってカタルーニャ語圏の出身です。このほか海と山に囲まれたカタルーニャには豊かな歴史と文化があります。食文化、ワインの文化、民族舞踊、民謡... カタルーニャ文化の魅力を語り始めたらきりがありません。この授業では、カタルーニャの地理や歴史と関連させて文化について勉強して行きたいと思います。バルサやガウディを見る目が変わりますよ。きっと。

【到達目標】

カタルーニャ文化 III では、知っていなければいけない、基本的なカタルーニャの文化を学びます。カタルーニャ文化 IV では、ニュースを読みながら現代のカタルーニャについて学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業はスペイン語で行います。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使っていきます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができますと思います。皆さんの積極的な参加を求めて、スペイン語による簡単な発表をしてもらいたいと思います。課題等の提出やそれに対するフィードバックは GoogleClassroom で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャの文化について概論。
2.	カタルーニャの地理と歴史	古代の歴史
3.	カタルーニャの地理と歴史	中世の歴史
4.	カタルーニャの地理と歴史	現代の歴史
5.	食文化	カタルーニャの郷土料理
6.	食文化	カタルーニャのワインやカバ
7.	民族芸能	民族舞踊サルダナ
8.	民族芸能	民族芸能「人間の城」
9.	民族芸能、カタルーニャの芸術家	民族音楽、民謡; カタルーニャの音楽家の芸術家
10.	カタルーニャ歳時記	クリスマスやカーニバルなどの年中行事
11.	カタルーニャの芸術家	ダリ、ミロなどの画家
12.	カタルーニャの芸術家	ガウディとムダルニスズマ建築
13.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャの文学
14.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャ映画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
プリントなどを授業中にも渡します。

【参考書】

田澤耕（著）2000 年「物語 カタルーニャの歴史」（中公新書）

田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
その他、発表のために参考できる本、Web など。

【成績評価の方法と基準】

発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。

平常点 50%

発表 30%

宿題の提出 20%この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

進行状況により、内容が変更されることがあります。

カタルーニャ文化 III か IV どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずですよ。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュウ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Introduction to Catalan culture.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）

VILA V RAQUEL

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※ 2021 年度は、国際文化学部生のみ 2～4 年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャという地名は日本ではあまり知られていなかったにもかかわらず、独立問題で最近日本のニュースでも報じられています。ニュース報じられている現代カタルーニャの背景にある豊かな歴史と文化を発見しましょう。

【到達目標】

カタルーニャ文化Ⅳでは、ニュースを読みながら現代のカタルーニャ、そしてその背景にある歴史や文化について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業はスペイン語で行います。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使っていきます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができると思います。皆さんの積極的な参加を求めて、簡単な発表をしてもらいたいと思います。もちろんスペイン語で。課題等の提出やそれに対するフィードバックは GoogleClassroom で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに。	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャのメディア。
2.	カタルーニャのニュース Noticias sobre Catalunya	カタルーニャの新聞 ニュースの読み方 Dónde encontrar noticias sobre Catalunya. Cómo leerlas.
3.	ニュースでの カタルーニャの社会 Catalunya en las noticias	現代のカタルーニャ 独立、アイデンティティなどについて Catalunya en las noticias: Independentismo e identidad.
4.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Arte en las noticias	芸術 - Pintura 発表
5.	ニュースでわかる カタルーニャの経済 Economía catalana en las noticias	経済 - Economía (Índices del paro, PIB, balanzas fiscales) 発表
6.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 La sociedad catalana (movilidad)	社会 - Sociedad (División territorial, transporte) 発表
7.	ニュースでわかる カタルーニャのスポーツ Deporte en Catalunya	Más allá del FC Barcelona. カタルーニャのスポーツ選手 発表
8.	ニュースでわかる カタルーニャの政治 Política en Catalunya	Partidos políticos, elecciones, independentismo. 発表
9.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 Sociedad: Escuela y lengua	カタルーニャの教育制度、カタルーニャ語 La escuela catalana. 発表
10.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Arquitectura en las noticias	カタルーニャの建築家 Arquitectura catalana 発表
11.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 Tradiciones en la actualidad	カタルーニャの伝統的な祝祭 発表

12.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 El cine catalán hoy en día	Actualidad del cine catalán. 現在のカタルーニャのシネマ 発表
13.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Música	Festivales, conciertos, artistas. 発表
14.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Gastronomía	La actualidad en el mundo de la alta cocina. La cultura del vino. 発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにありません。プリントなどを授業中に渡します。

【参考書】

田澤耕（著）2000 年「物語 カタルーニャの歴史」（中公新書）

田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）

その他

【成績評価の方法と基準】

発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。

平常点 50%

発表 30%

宿題の提出 20%

【学生の意見等からの気づき】

発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

進行状況により、内容が変更されることがあります。

カタルーニャ文化Ⅲ かⅣ どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずですよ。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Introduction to Catalan culture, paying special attention to the latest news.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）

須藤 祐二

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写に隠されたアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、アメリカの絵画、映画、音楽など、ほかの文化領域にどのような影響を及ぼしているのかを考察することで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】

受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。講義形式で行う。

第1回授業でいくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマからアメリカの文学や文化がどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察する、というプロセスが、何度か繰り返されるだろう。時間的な制約から時系列に沿った、アメリカ史全体の説明はできない。受講生は、アメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。最終授業で、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、それまでに回答した質問等についてももう一度解説をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第2回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第3回	怖いものはなにか	アメリカのゴシック小説の特異性をヨーロッパのゴシック小説との比較から考察し、前者における恐怖の描き方から、「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第4回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第5回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19世紀から20世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第6回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品がアメリカ的な価値観やエスニシティなどの問題意識をどのように受け継いでいるのかを考察する。
第7回	時間、都市、産業化	19世紀後半以降のアメリカの都市化・産業化の結果、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、モダニズムの作家がそうした変化をどのように文学作品に反映したのかを考察する。

第8回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。
第9回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第10回	観念としての「黒人」は誰のものか	20世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第11回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第12回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第11回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。
第13回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する、併せて、彼女たちの作品と20世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第14回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業、資料（英文）を配布するので、その資料を読み込むこと。

また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】

有賀夏紀（編）油井大三郎（編）『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003年

亀井俊介（編）『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』昭和堂、2006年

板橋好枝、高田賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1991年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートを70%、中間レポートを30%とする。

なお、両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を補足するうえで映像資料が役立つという意見が多かったため、今年度も同様に用いる。

例年、「静かに受講できた」という感想が聞かれるので、同様の授業になるように工夫をするつもりでいる。学生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。教室定員を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。持病等やむを得ない理由によりオンラインで受講したい者がいる場合には、あらかじめ教員に相談すること。

授業は基本的にキャンパスで対面で行う。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、ある回の授業をZoomを使ったリアルタイム・オンラインに切り替えることがある。連絡はHoppiiの「お知らせ」で行う。授業実施方法に変更がないかを毎週授業前に必ず確認すること。なお、Zoomに切り替えても問題なく受講できるように、あらかじめ各自で通信環境を整えてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is designed for students to learn a brief history of American literature and, through it, to gain insight into various aspects of American culture and society. Not only will students be able to probe into the authors' critical minds clearly evident in their works, but also into the characteristics of the American society during particular periods which are illustrated in the minor themes of their writings. It is expected that students' interest in American literature will grow by learning the impact American literary works, even those of different eras, have had on other cultural fields such as picture, film, and music.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）

中和 彩子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀から20世紀の変わり目に特有の「不安」——ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖——にとりつかれた、世紀末のイギリス小説を読むことを通じ、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】

イギリス小説の代表的な作品を読み、テキスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。

作品と作者の文学史における位置づけを理解する。

イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

予習ワークシートに沿ってグループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理するというのが、演習の基本的な進め方である。各作品につき3回の授業を充て、3回目は主に講義とする。各授業の終わりにはリアクションペーパーを課し、理解の確認を行う。（予習ワークシート、リアクションペーパーは、基本的に毎回提出、翌週返却。）

※この授業は、適宜、オンライン（Zoomまたは学習支援システム）による実施の週を設けます。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18～20世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	ロバート・ルイス・ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説前半	演習
3	『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説後半	演習
4	『ジキル博士とハイド氏』全体	演習・講義
5	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』（1890年）小説前半	演習
6	『四つの署名』小説後半	演習
7	『四つの署名』全体	演習・講義
8	H.G. ウェルズ『タイムマシン』（1895年）小説前半	演習
9	『タイムマシン』小説後半	演習
10	『タイムマシン』全体	演習・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』（1902年）小説前半	演習
12	『闇の奥』小説後半	演習
13	『闇の奥』全体	演習・講義
14	<世紀末の不安>まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、全員の準備学習を前提として授業を進める。

演習の回、講義の回ともに、指定のテキストや資料を読み、予習用ワークシートをやり、授業に持参する。

具体的な方法については、第一回授業で説明する。

本授業の準備・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 長篇作品の邦訳は、以下の版を使用する予定。（絶版や新訳の出版等により変更する場合は、掲示等により連絡する）。

①田口俊樹訳『ジキルとハイド』新潮文庫、2015。

②日暮雅通訳『四つの署名』新訳シャーロック・ホームズ全集、光文社文庫、2007。

③石川年訳『タイムマシン』角川文庫、2002。

④黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫、2009。

(2) その他のテキスト（英語原文等）・資料については、抜粋を配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回提出するワークシート、リアクションペーパーなど、40%）と、試験の成績（60%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoomによる授業を大学で受けるときには、自分用のマイク付きヘッドセットを用意してください。

【Outline and objectives】

“Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)” aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will analytically and critically read some representative British literary works published around the turn of the 20th century, and be introduced to their social and cultural contexts. They will thereby understand how these texts are obsessed with the Victorian fin-de-siècle anxieties.

LANe300GA

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

齊藤 雄介

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、学生が現代英語の構造について、様々な面から考察するを目標にするものです。良きにつけ悪きにつけ国際語になっている英語は、どのような言語であるのか、学生は、担当者とともに、授業を通じて考察していきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の音声面、文法面等の構造について、知識を得られること。
 2. 学生が英語の構造についての研究の仕方について、ある程度の知識を得られること。
 3. 学生が英語という言語に関しての様々な問に対して、答えるべき道筋をつけられること。
 4. 併せて、学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること。
- なお、上記の1、2で述べた知識ですが、ヤマとなる点は以下の通りです。
- a) 音声器官、発音記号。
 - b) 音素の考え方（構造主義）。
 - c) 言語の知識を構成する各部門の考え方。
 - d) 記述上のさまざまな単位。
 - e) 統語範疇（品詞論）。
 - f) 直接構成要素分析、句構造。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

現時点で考えていることは以下の2点です。

1. 当面の間は学習支援システムを用いて学習に必要な資料を配布していきますが、質問、コメント等を受け付けることによって可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思えます。
 2. 何をトピックにするか明確にし、履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います。
- 課題等のフィードバックについては、「学習支援システム」や、個人メール等により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方、教材について説明します。後半は、英語という言語について、どこでどのように話されているかなどを見たと、英語史について簡単に触れます。
2	英語の音声について（1）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。言語音声に関する初回になりますので、音声研究において必要な調音器官などの用語、発声の原理について学びます。
3	英語の音声について（2）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。今回は、英語を離れ、一般的に単音の記述について見た後、子音・母音の分類原理について学習します。
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ3回目です。英語の母音について、その分類を学んだ後、各母音について見ていきます。
5	英語の音声について（4）	英語の音声について学ぶ4回目です。二重母音、弱母音等について触れ、その後、フォニックスについて学習します。
6	英語の音声について（5）	英語の音声について学ぶ5回目です。母音についてまとめ、英語の子音を見ていきます。

- 7 英語の音声について（6） 英語の音声について学ぶ6回目です。子音についてまとめた後、音節、音結合について触れます。最後に、かぶせ音素（アクセント、リズム、イントネーション等）について解説します。
- 8 英語の文法について（1） 英語の文法について学ぶ1回目です。初回ですので、文法という用語の伝統的な意味と、新しい意味、生成文法の考え方等について学びます。
- 9 英語の文法について（2） 英語の文法について学ぶ2回目です。日英の語順の相違について概観した後、形態素、語、語彙素といった基本的な用語について学びます。
- 10 英語の文法について（3） 英語の文法について学ぶ3回目です。統語範疇という概念について概観します。具体的に、形容詞を例にとって、いかに統語範疇が規定されるか、検討します。
- 11 英語の文法について（4） 英語の文法について学ぶ4回目です。形容詞についての話をまとめ、他の統語範疇と形容詞の関係について学びます。英語の辞書の記述についても、検討します。
- 12 英語の文法について（5） 英語の文法について学ぶ5回目です。構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます。そして、不連続構成素をどのように扱うかについての話をします。
- 13 英語の文法について（6） 英語の文法について学ぶ最後の回です。この回は、SVO+不定詞という構文を例にとり、それがどのように分析されるか、検討します。
- 14 まとめ～今後につなげて これまでの授業を総括し、その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか、授業で学んでいきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みますので、学生は、基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。重要なのは、授業において、何らかの「引っかけ」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。

【参考書】

授業中、随時指定いたしますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。

- ・加島祥造(1976).『英語の辞書の話』。東京：講談社【のちに講談社学術文庫に収載】
- ・加島祥造(1983).『新・英語の辞書の話』。東京：講談社【のちに講談社学術文庫に収載】
- ・竹林滋・齊藤弘子(1998).『改訂新版 英語音声学入門』。東京：大修館書店。
- ・中島文雄(1991).『英語学とは何か』。東京：講談社【講談社学術文庫】。
- ・田中菊雄(1992).『英語研究者のために』。東京：講談社【講談社学術文庫】。
- ・竹林滋(1991).『英語発音に強くなる』。東京：岩波書店【岩波ジュニア新書】。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、欠席5で失格、というのを一応の目安とします。）

最終試験 50%、プロジェクト 30%、平常点 20%というのが、基本的な評価基準です。（プロジェクトについては、課さないこともありえます。その場合は、最終試験 60%、平常点 40%とします。）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利ですし、発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
2. 本科目はグローバル・オープン科目の **Structure of English** と内容が同一ですので、重複履修はできません。
3. 初回授業に必ず参加してください。
4. かなり速いペースで進みますので、真面目な態度で出席しないと履修は困難です。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。(科目の性質上、SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます。) 英語の構造をひと通り駆け足で学び、言語文化演習(あるいは卒業研究)へ結びつける科目です。半期でするので、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の構造について、基本的な知識は網羅するように心がけます。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of the course, students will be able to:

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English should be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:

- a) articulatory organs and phonetic symbols,
- b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
- c) modular approach to linguistics,
- d) various units in linguistic description,
- e) syntactic categories (parts of speech),
- f) immediate constituent analysis, phrase structural analysis

LANe300GA

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

齊藤 雄介

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※ 2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の歴史は、ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります。本授業では、担当者とともに、学生は、本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから、どのような変化を遂げて、21世紀の今のような国際的な言語になっていったか学んでいきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の歴史について、ひと通りの知識を得ること。
2. 学生が英語の歴史に興味を持ち、現代英語の様々な事象について、歴史的な説明を試みること。
3. 学生が言語の歴史研究について、その大まかな方法論を知ること。
4. 学生が英語の運用力をつけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

本授業では、テキストを読みながら、演習方式で英語の歴史について学んでいきます。履修者は、必ずテキストを読んでください。授業では、教材の内容について皆さんに担当教員が質問したり、付加的な情報を加えたりして、履修者の参考になるべく努めます。その後、復習をして固めれば、理解力が高まります。

課題等のフィードバックについては、「学習支援システム」や、個人メール等により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説。 - 現代英語の状況、話者数、分布等。 - 英語史上の時代区分。
2	EARLY HISTORY 1	- Speech and Writing - The Continental Backgrounds - The Indo-European Languages
3	EARLY HISTORY 2	- The Position of Germanic in the Indo-European Group - Special Development in Germanic
4	OLD ENGLISH 1	- The Old English Dialects - The Conversion of the English to Christianity - Old English - Vowel Sounds - Consonant Sounds
5	OLD ENGLISH 2	- Consonant Sounds (続き) - Word Stress - Gender Not Based on Meaning - Case
6	OLD ENGLISH 3	- Case (続き) - The Development of the Personal Pronouns - The Development of the Demonstrative and Relative Pronouns - Adjectives and Adverbs
7	OLD ENGLISH 4	- Verbs - Word Order
8	OLD ENGLISH 5	- The Old English Word Stock: Native Words and Loan Words
9	MIDDLE ENGLISH 1	- Leveling of Unstressed Vowels - Spelling Practices - Changes in Stressed Vowels - The Blurring of Older Inflectional Distinctions

10	MIDDLE ENGLISH 2	- The Blurring of Older Inflectional Distinctions (続き) - Loan Words - French - Latin - Greek - Eastern Languages
11	MIDDLE ENGLISH 3	- Old and Middle English Compared
12	MODERN ENGLISH 1	- The Great Vowel Shift - Changes in the Verb and the Pronoun - Word Borrowing
13	MODERN ENGLISH 2	- Word Borrowing (続き) - The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century
14	MODERN ENGLISH 3	- The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century (続き) - Noah Webster's Influence on American English - Is English Deteriorating?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、まず、テキストを読んでおくことからはじめてください。この際、批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか、曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと）、出てくる用語等を資料、ネット等を用いて調べること、を意識的に行うことが重要です。授業後、復習をして固めれば、理解力が高まります。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英文パイルズ『英語の歴史』（1973）。この本はずいぶん古い本ですが、英語で読めるものとしては、それなりにいい本であると思います。元来、米国の高校生向けの教科書であるため、発音表記が分かりにくかったり、最近の英語についての説明がなかったりするのは欠点ですが、ModE までの説明はともよくまとまっています。

【参考書】

授業中、随時指定しますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。

・北村達三(1980)、『英語を学ぶ人のための英語史』。東京：桐原書店。（内容として一番標準的ですが、最近の英語についての記述が少々足りません。）
・寺沢盾(2008)、『英語の歴史 過去から未来への物語』。東京：中央公論新社 [中公新書]。

・中尾俊夫、寺島勉子(1988)、『図説 英語史入門』。東京：大修館書店。
・ブラッドリ、H. 寺澤芳男訳(1982)、『英語発達小史』。東京：岩波書店 [岩波文庫]。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、欠席5で失格、というのを一応の目安とします。）

最終試験 50%、プロジェクト 30%、平常点 20%というのが、基本的な評価基準です。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
2. 本科目はグローバル・オープン科目の History of English と内容が同一ですので、重複履修はできません。
3. 今年度はテキストを読んでいくことを中心にした授業構成に変えました。
4. 「英語史」と「英国史」とは異なります。ことばに焦点を当てる授業です。
5. 初回授業に必ず参加してください。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。（科目の性質上、SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます。）英語の歴史をひと通り駆け足で学び、言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です。半期のため、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の歴史の基本的な知識は網羅できると思います。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline and objectives】

Towards the end of this course, students will be able to:

1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

The following are the concrete goals of this course:

1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,

発行日：2021/4/1

3. To begin to develop a general theory of linguistic change.
4. To study English in its general sense. (You see, you must keep that level of English acquired through your SA experience!)

ART200GA

比較表象文化論

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】

・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に付ける。
・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。

授業はオンライン（オンデマンド方式）で行いますが、単にナレーション付きPPTで講義を聞くだけの授業ではありません。課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』台本分析
3	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』演出分析
4	オリエンタリズム III	映画『ラスト・サムライ』鑑賞
5	オリエンタリズム IV	映画『ラスト・サムライ』分析
6	オリエンタリズム V	映画『ベイマックス』鑑賞
7	オリエンタリズム VI	映画『ベイマックス』分析
8	ジェンダー論 I	「シンデレラ」コンプレックス
9	ジェンダー論 II	アニメ『シンデレラ』鑑賞
10	ジェンダー論 III	アニメ『シンデレラ』分析
11	ジェンダー論 IV	映画『エバーアフター』鑑賞
12	ジェンダー論 V	映画『エバーアフター』分析
13	ジェンダー論 VI	バレエ「シンデレラ」分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、定められた期限までに学習支援システムに課題（SQ）へのレスポンスを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

『オリエンタリズム』（上）（下）、サイード、平凡社、1993年。

【成績評価の方法と基準】

・課題（Study Question）: 100 %
・四回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
・この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。ただし、

【学生の意見等からの気づき】

学生の回答を授業内で多く紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

視聴覚教材には、オンライン上でレンタルして見ることが出来る「ラスト・サムライ」、「ベイマックス」、ディズニースタジオ「シンデレラ」、「エバーアフター」が含まれます。レンタル料はそれぞれ300円程度～かかります（レンタル方法によって料金は異なります）。

【その他の重要事項】

第一回目の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).

LIN300GA

間文化性研究翻訳論

熊田 泰章

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳が自然言語間の転換作業であるにとどまらず、人間の意志表出のすべてを可能とする基本であることを学ぶ。

実例分析としては、文学作品の自然言語間における翻訳テキストを取り上げ、翻訳の基本概念を把握する。

サン・テグジュペリ：『星の王子さま』を使用する。できる限り多くの言語の翻訳を参照する。

星の王子さまは、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、中国語、朝鮮語、そのどれにおいても、私たちが子どもの時に読んだのと全く同じイメージなのではないでしょうか。小生意気な小さい大人なのか、めめめとした幼児なのか、元気一杯のわんぱくなのか、テキストに忠実に分析します。

日本語訳が新しく数冊出版されました。その比較検討も行ないます。

【到達目標】

翻訳についての基本的学術用語を理解する。

翻訳の原理と可能性・限界を知る。

私たちが日常的に行っている他言語テキストの翻訳について、学術的概念をあてはめて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

翻訳の基本概念を概説する。順次導入する概念、ターミノロジーを用いつつ、実例分析を行なう。日本語、英語以外のテキスト実例は、学生による分析に付する。毎回、課題を出し、学習支援システムで提出する。

毎回の授業では、最初に、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、講評を行って、全体に対して提出課題のフィードバックを行います。

<< 1 回目の授業でミニレポートを書いてもらいます。 >>

その課題：「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？
2	基本概念の説明とテキスト分析 シニフィアン・シニフィエ フィエ ミニレポート 1	基本概念の説明 1： シニフィアン・シニフィエ
3	基本概念の説明とテキスト分析 恣意性 ミニレポート 2	基本概念の説明 2： 恣意性
4	基本概念の説明とテキスト分析 共時的・通時的 ミニレポート 3	基本概念の説明 3： 共時的・通時的
5	基本概念の説明とテキスト分析 間文化性 ミニレポート 4	基本概念の説明 4： 間文化性
6	基本概念の説明とテキスト分析 固有名詞と代名詞 ミニレポート 5	基本概念の説明 5： 固有名詞と代名詞
7	基本概念の説明とテキスト分析 オノマトペと慣用表現 ミニレポート 6	基本概念の説明 6： オノマトペと慣用表現
8	基本概念の説明とテキスト分析 社会制度と翻訳 ミニレポート 7	基本概念の説明 7： 社会制度と翻訳

9	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳と言語変容 ミニレポート 8	基本概念の説明 8： 翻訳と言語変容
10	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳と文化変容 ミニレポート 9	基本概念の説明 9： 翻訳と文化変容
11	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳の双方向性 ミニレポート 10	基本概念の説明 10： 翻訳の双方向性
12	基本概念の説明とテキスト分析 解釈学的循環 ミニレポート 11	基本概念の説明 11： 解釈学的循環
13	基本概念の説明とテキスト分析 複合的テキスト ミニレポート 12	基本概念の説明 12： 複合的テキスト
14	基本概念の総括 最終レポート	この授業で学んだことのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『星の王子さま』の各言語翻訳版を読み比べる。

導入されたターミノロジーについて参考文献を用いて調べ、理解する。

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講のために『星の王子さま』を各自が用意することは必須としません。授業の中で教材として示します。

受講者が作品全体を理解するためには、『星の王子さま』の翻訳版を以下のように各自で購入することは可能です：

1. 日本語訳がかなりの数出版されていますが、そのどれか 1 冊。
2. 加えて、英語、フランス語などどのどれか 1 冊。

（日本語以外のものは、大きな書店の洋書売り場などにあります）

【参考書】

熊田泰章編『国際文化研究への道—共生と連帯を求めて—』彩流社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニレポートを課すので、必ず提出すること。

その上で、最後に最終レポートを書く。

ミニレポート・最終レポートでは、導入したターミノロジーを適切に使用して、翻訳に関する考察を論述できるようにする。

ミニレポート 50 % ・最終レポート 50 %。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

教材と資料を分かりやすくするように努めています。

課題の指示を明確に出すようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて、教材提示と課題提出を行います。

【その他の重要事項】

学部の授業実施方針に則り、この授業は、原則として、教室での対面授業を行います。ただし、方針の変更次第で、オンライン対応となることもありえます。

受講者数を適切に保つために、開講時に以下の処置を行います：

初回授業は対面授業を実施せず、学習支援システムで教材と課題を掲示する。受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【Outline and objectives】

Translation is not only a transformation work between natural languages but also a fundamental principle that makes expression by languages possible.

In this lecture we will consider translation texts between natural languages and grasp the basic concept of translation.

We use Saint-Exupéry: Le Little Prince and refer to translations of as many languages as possible.

When we read this work now, is the image of the Little Prince the exact same image that we read as a little child? And when we read it in English, French, Spanish, German, Russian, Chinese, Korean and so on, do we understand it in the same way?

The purpose of this lecture is to learn the fundamentals of linguistics and understand the important Begriff "Interculturality".

LIT300GA

日英翻訳論

大野 ロベルト

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回授業を出席した受講希望者より 200
名を抽選

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英訳を通して日本語に触れることは、ときに日本語のみを媒介とするよりも明瞭に、日本語の実像を描き出してくれる。その果てに見えるのは日本語に特有のもの、すなわち日本語のエッセンスであるから、実はこの授業のタイトルは「日英翻訳不可能論」とすべきである。この授業では、とくに「裸」の状態に近い日本語に触れるために、古典の英訳を中心にとりあげる。講義は秋学期に開講される「世界の中の日本語」と響き合う内容となっている。

【到達目標】

英語の運用能力が向上すると共に、受験勉強の「負の遺産」をなげうち、自由なアプローチで古典本来の味わいを楽しめるようになる。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、毎回のリアクションペーパーに加えて、学習内容に基づいた課題を 2 つ提出してもらおう。これらについては授業内で言及するほか、学習支援システムを通して個人的にも随時フィードバックを行う。最後に期末レポートを提出してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、翻訳とは何かについて考える。
2	日本的なるもの	「もののあはれ」の概念を素材に、前回に引き続き翻訳について考える。
3	詩歌を翻訳する 1	俳句の翻訳について考える。
4	詩歌を翻訳する 2	和歌の翻訳について考える。
5	日本語の淵源 1	『古今和歌集』の序文を参考に、日本における詩歌の位置について考える。
6	日本語の淵源 2	『万葉集』などを材料に、日本語の「成立」について考える。
7	物語の誕生 1	『伊勢物語』をとりあげ、物語と文化の関係について考える。
8	物語の誕生 2	『土佐日記』をとりあげ、母国語と外国語の関係について考える。
9	私を書く 1	『枕草子』を素材に、言語と自我の関係について考える。
10	私を書く 2	『徒然草』を素材に、自己と他者の関係について考える。
11	社会を描く 1	『方丈記』をとりあげ、現実とフィクションの問題について考える。

12	社会を描く 2	『無名草子』をとりあげ、言語とジェンダーについて考える。
13	日本語的なるもの	古典と向き合った翻訳者たちの姿から、彼らの見た「日本像」を探る。
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、近現代の日本語に起こった変化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては、日本語の原典と英訳を事前に丁寧に読み比べ、単語の意味などについては事前に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
クリステワ『心づくしの日本語』ちくま新書、2011

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題 30 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバック不可。

【Outline and objectives】

This course invites the students to survey the essence of the Japanese language by reading the classical texts translated into English. In order to truly discover Japan, it is essential to look for things that are left untranslated.

HIS300GA

宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）

佐々木 一恵

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：※2021年度は、国際文化学部生のみ2～4年を対象とする。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は Zoom で授業を実施します。
- ・各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
- ・各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて学習支援システム（HOPPII）で提出してもらいます。
- ・授業の中で、各界のリアクション・ペーパーに関するフィードバックやコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪悪とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的福音運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。

7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	教員による研究発表	教員が出版した単著の発表を行う。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- 岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。
- 田村秀夫『千年王国論—イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
- 森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
- 小椋山ルイ『帝国の福音—ルーシー・ビーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会、2019年。
- グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
- 土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。
- アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。
- Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).
- ミラ・ゾンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教—近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（30%）
2. 期末試験（70%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

史料分析の文書を、もう少し少しわかりやすいものにします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器ならびにインターネットへの接続環境が必要です。

【Outline and objectives】

The course provides a historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

POL200GA

国際関係研究 I (アクターに着目した理論の捉え方)

市岡 卓

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：国際関係研究 I

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業ではアクター (行為の主体) に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 非国家アクターを含む様々なアクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義形式で行う。毎回授業の中で課題を提示し、課題に対するリアクションペーパーの提出を求める。

対面による授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、受講者数が教室の定員を超えないことを確認するため、初回の授業はオンラインで行う (具体的方法は4月に入ってから学習支援システムで連絡する)。以降の取扱いはい初回の授業で説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、授業計画、授業の進め方を説明する。
2	リアリズム	国家間の紛争をもたらす要因に注目するリアリズムの理論を理解する。
3	リベラリズム	国家間の協調をもたらす要因に注目するリベラリズムの理論を理解する。
4	コンストラクティビズム	理念が国際社会の構造にもたらす変化に注目するコンストラクティビズムの理論を理解する。
5	国際経済関係	国際経済システムのグローバル・ガバナンスの問題について、アクターの役割に注目し考察を行う。
6	地球環境問題	地球温暖化対策を中心に、地球環境問題への取組みの課題について、アクターの役割に注目し考察を行う。
7	貧困と開発	世界規模での富の偏在の問題について、アクターの役割に注目し考察を行う。従属論等関連する理論についても学ぶ。
8	人権	国際社会の人権への取組みやその課題について学ぶ。その中で国際機関、NGO等のアクターの役割を考察する。
9	安全保障	冷戦終結による安全保障概念の変化、それへの国際社会の様々なアクターの対応について学ぶ。
10	民族や宗教に関わる紛争	冷戦終結後に活発化した民族や宗教に関わる紛争、それへの国際社会の様々なアクターの対応について学ぶ。
11	テロリズム	国際社会に脅威をもたらすアクターである「テロリスト」の活動とそれへの対応の課題について学ぶ。
12	NGO	経済、開発、環境、人権など多様な国際社会の問題の解決を目指すNGOの活動とその課題について学ぶ。
13	企業	グローバル・ガバナンスの担い手としての役割が期待される企業の取組みの可能性と課題について学ぶ。

14 まとめ

これまでの授業を振り返り、多様なアクターの行動とそれらがこれからの国際社会にもたらす影響について考察する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞を読む習慣をつけ、国際関係に係る記事を毎日読むこと。
準備学習として、事前に共有する資料を参照し下調べをしておくこと (1時間を標準とする)。復習として、授業の都度示す参考文献を読み考察を深めること (リアクションペーパーの作成を含め3時間を標準とする)。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。参考となる文献は、授業の都度示す。

【参考書】

山田高敬・大矢根聡編 (2011) 『グローバル社会の国際関係論 [新版]』有斐閣。
滝田賢治・大芝亮・都留康子 (2017) 『国際関係学 (第2版)』有信堂。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の後で提出を求めるリアクションペーパーに60%、期末のレポート試験に40%を配分する。いずれについても、授業の内容を正しく理解できているか、自分で考察した内容を盛り込んでいるかについて評価を行う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の議論の時間を確保する。→ 学習支援ツールの活用も含め、授業に双方向性を持たせる仕組みを検討する。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って学習支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

政府および民間企業で国際関係業務に関わってきた教員が、自身の政府間交渉や国際ビジネスの体験を交え、国際関係をめぐる諸問題について講義を行う。

「国際関係学概論」を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

ARSF200GA

国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））

木口 由香

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究2

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン河流域国という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】

- 「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
- メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
- 以上の2点を通し「国際関係」を学ぶ上で「地域」の理解のための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

*新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては、オンラインでの授業を行う。
・第1回から第4回、第6回から第10回、14回は講義形式、第5回はロールプレイを用いたディスカッション、第11回から第13回までは演習形式で行う。

・演習は講師が提示する3つのカテゴリをもとに、事前に決めた担当者が重要だと考えた点とその理由を発表する。それを受けてグループ討議・発表を行うとともに、担当教員が関連する短い補足講義を行う。

・発表担当者は授業の中で決める。発表回数は各自1回とするため、12人を超える履修者がいた場合は、複数での発表となる。同じ回の発表担当者は、事前に打ち合わせをして共同で発表する。なお、発表用のパワーポイントもしくはレジュメは授業前日までに教員にメールで提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（講義）	本授業の狙い、進め方を説明する。
2	メコン河開発（1）自然と人びと（講義）	メコン河流域で、大規模経済開発の影響を受けやすい農村部の人びとの暮らしを知る。また、「貧しさに」とは何か考えてみる。
3	メコン河開発（2）メコン河開発の歴史的経緯と日本の関わり。（講義）	日本が歴史的にどのようにメコン河開発に関与してきたか概観し、地域の事例から「国際関係」について考察する。
4	メコン河開発（3）開発に対する人びとの反応（講義）	ダム開発における人びとの反応。国際的な市民社会の動きについて。「市民社会」と言われるものが、どのようにつながり、動いていくかを知る。
5	カンボジアでのダム開発（ロールプレイで理解する開発の功罪）（演習）	電力不足を補うと言われる水力発電ダム建設について、様々な立場から建設の是非を議論してみる。
6	開発の越境影響（講義）	ベトナムやタイは、近隣国で開発や海外投資を行う。その越境影響について理解する。
7	ラオス、植林の功罪（講義）	森を様々な利用するラオスの暮らしと経済開発の影響について。
8	タイのエネルギー開発と日本（講義）	日本との経済的関係の深いタイの開発における日本の関与について。
9	ミャンマーでの資源の呪い？（講義）	短い民主化の後、再び軍事クーデターで混乱するミャンマーでの、「資源」の意味。「資源」があることが人びとを不幸にする状況について。
10	気候変動とメコン河流域（講義）	ベトナムと日本の援助 ベトナムでの日本のエネルギー開発援助について。
11	環境と開発（演習）	メコン河流域で見られる環境問題を取り上げ、それが発生する社会的要因や解決のための道筋について考える。

12	越境する開発（演習）	開発の越境影響の分析。または、気候変動などの地球環境問題に結びつく開発について考える。
13	「誰のための開発」という古典的な問い（演習）	開発は誰のためになるのか、という昔からの問いについて考える。
14	まとめ（講義）	授業のまとめ。演習での発表を受けての議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題文献を読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

タンミンウー（著）、秋元由紀（翻訳）、ビルマ・ハイウェイ：中国とインドをつなぐ十字路。白水社。2013。

田村克己・松田正彦編著。ミャンマーを知るための60章（エリア・スタディーズ125）

明石書店。2013。

今井昭夫（編著）他。現代ベトナムを知るための60章【第2版】（エリアスタディーズ39）

明石書店。2012。

阿部健一（編）、菊池陽子・鈴木玲子（編著）。ラオスを知るための60章（エリアスタディーズ85）。明石書店。2010。

東智美（著）。ラオス焼畑民の暮らしと土地政策―「森」と「農地」は分けられるのか（ブックレット《アジアを学ぼう》）。風響社。2016

綾部真雄（著）他。タイを知るための72章【第2版】（エリア・スタディーズ30）。明石書店。2014。

上田広美・岡田知子（編著）。カンボジアを知るための62章【第2版】（エリア・スタディーズ）。明石書店。2012。

松本悟。メコン河開発―21世紀の開発援助。築地書館。1997。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（授業後のリアクションペーパー）40%、発表の評価20%、期末レポート40%。期末レポートでは、授業で取り上げたメコン河流域における開発の功罪、開発の場で起きている環境・社会問題と日本の関係について論じる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

事前課題文献があるので、授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

・課題についての発表を必ず1回担当し、グループ討議を行うので、第1回・第2回の授業を受講した上で、第2回授業日までに指示した方法で履修の意思を教員に伝えること。

・遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、オンライン授業となった場合、大学が用意した補助制度などを活用し、Zoom環境を整えて授業に臨むこと。
・メコン河流域国でNGO活動に従事する講師が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline and objectives】

This course focuses on "Mekong countries" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

ARSk300GA

人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）

曾 士才

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：移民研究Ⅰ（華僑・華人社会）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人の移動」という観点から19、20世紀のアジアの歴史を見ると、中国系移民の動きを筆頭に挙げることができる。中国大陸から移住し、現地に定着した華僑（中国国籍保有者）、華人（現地国籍保有者）を合わせると2千万人から3千万人といわれており、これら中国系移民が現地社会に与えた影響は計り知れないものがある。この授業では、華僑の移住と定着、ネットワークとアソシエーション、生活・文化などについて基本的知識を得るとともに、「内なる異文化」である日本華僑の歴史と社会の特徴、人々の日常生活、日本社会との関係などを理解し、等身大の日本華僑像を持てるようにする。

【到達目標】

中国系移民に関する基本的な知識を得るとともに、日本における多文化共生について考える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、東南アジアを中心に世界に広がる華僑・華人の歩みと現状について概観する。後半の授業では、日本における華僑華人の歴史と社会の特徴を具体的に紹介する。

課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～華僑の誕生	華僑・華人の見方、華僑の歴史
第2回	華僑の歴史	東南アジアへの移住と定着
第3回	華僑のネットワーク	任意加入団体、Chineseness、信用
第4回	シンガポールのチャイナタウン	チャイナタウンの形成と変貌
第5回	アメリカ大陸への移住	移住の歴史、ロサンゼルス、ニューヨークの新旧チャイナタウン
第6回	華僑から華人へ	エスニシティの変化、華人経済、中国との関係
第7回	日本華僑の歴史と社会（1）	江戸時代、長崎、唐人貿易、唐人屋敷、唐通事
第8回	日本華僑の歴史と社会（2）	明治から昭和へ、三把刀、中華会館
第9回	日本華僑の歴史と社会（3）	二つの大戦、戦後から現在まで、華僑総会、新移民
第10回	日本華僑の生活空間	中華街の実像、横浜中華街、池袋の中華街
第11回	日本華僑の教育	華僑学校の特色、学校を取り巻く環境
第12回	日本華僑の信仰と習俗	普度勝会と中国人墓地
第13回	日本華僑の文化復興と共生	ランタンフェスティバル、地元との共生
第14回	新華僑の台頭	ネットワークと企業活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前に指示された参考書所収の論文を読み、毎回の授業に向けた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

山下清海編『華人社会を知る』明石書店 2005年
華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』丸善出版 2017年
曾士才、王維編『日本華僑社会の歴史と文化—地域の視点から』明石書店 2020年

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを使ったクイズへの回答（10%）と期末に課すレポート（90%）で成績評価を行う。なお、クイズへの回答は成績評価の大前提となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course deals with the migration and settlement, network and association, custom and lifestyle of overseas Chinese in the world, especially focusing on overseas Chinese in Japan. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about overseas Chinese, and also to be able to evaluate ethnic diversities in Japan.

ARSA400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2020 年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第二次世界大戦後の統合をめぐる政治過程に焦点をあてるやり方があります（「ヨーロッパ統合論」[EU の政治と社会]）。経済学や経営学を学ぶ立場からは、同じく第二次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」[EU 経済とドイツ]）。農業経済学の観点から EU の共通農業政策（CAP）を扱う授業も開設されています（「農業経済論 A」）。グローバル教養学部（GIS）には、連合王国の外交関係の観点から、英語を使用言語として、対 EU 関係を論じている授業もあります（「UK: Society and People」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口はとらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあります。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10 世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユダヤ教の人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる人権や民主主義にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に、授業時間（100 分）の前半 65 分程度は、受講者全体へのフィードバック（10-15 分）と講義（45-55 分）にあてている（2020 年度実績）。
- ・授業時間（100 分）の後半 35 分程度を、グループディスカッションにあてている（2020 年度実績）。
- ・第 14 回（最終回授業）では、希望する学生（強制ではない）による報告や発表を行ってきている（2020 年度まで毎年継続している）。
- ・毎回の授業資料は学習支援システムや Google Classroom をつうじて事前に配布している（2020 年度実績）。
- ・学習支援システムを利用し、小テスト（全員必須）や期末レポート（希望者のみ）の提出を行う（2020 年度まで毎年継続している）。
- ・この授業は秋 semester（後期）科目である。このシラバスを執筆している 2021 年 1 月の段階で、2021 年 9 月～2022 年 1 月の感染拡大状況を予想するのは困難であり、教室における対面授業ができる場合、オンライン授業になってしまう場合、両方を想定しているが、どのような比率になるかは秋 semester 開始以降の感染状況、法政大学の方針を踏まえ決定する。ただし、いずれの授業形態の場合も、授業の進め方や方法には、あまり影響はないと考えている。
- ・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱いきれなかった内容を補足する動画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有している（2020 年度実績）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12 世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユダヤ教的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタント主義の発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16 世紀-17 世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新たな大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・小テストを実施します。これは全員必須で、学習支援システム（インターネット）上で受験します。
- ・本授業の準備・復習時間：準備に関しては、次回授業の資料をダウンロードする時間、復習に関しては、学習支援システムにおいて小テストを受験するのに必要な時間が、最低限必要である。ただし、日本語を必ずしも母語としない学生を含め、多様な学生が受講する授業であり、また情報環境や IT リテラシーにも学生間で違いがあるため、一律の時間数の形では表記しない。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム-Hoppii や Google Classroom 上で PDF ファイル等のかたちで配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格（レターグレードで C マイナス以上）とする。

- ・期末テストは行わない 0%
- ・小テストの受験【全員必須：授業終了後、次回授業の開始時刻までの 1 週間を受験期間として設定するので、その間に必ず受験してください。Hoppii を使うので、体育会や就職活動中の学生、多摩キャンパスの学生もネット上で受験できる】45%
- ・運営への協力【希望者のみ：配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。オンライン授業となった場合は、オンライン授業の受講に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】10%
- ・グループディスカッション&学生間の共働【グループディスカッションへの参加や、Google Classroom 上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等】10%
- ・期末レポート【希望者のみ】35%。（ただし、教員に指名され期末レポートの内容を口頭発表した人には、特別点を加算する。）

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンラインで行う授業回が混じった場合、あまり過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
- ・「成績評価の方法と基準」の「グループディスカッション&学生間の共働」は 10%と低めの配点にしています。これは、オンライン授業となった場合に、システム側の接続障害や、学生の操作ミスでうまく参加できないことが予め想定されているためです。グループディスカッションに熱心に参加してくれる受講者が多数派ですが、配点は 10%であり、あまり点数にはなりません。ただし、対面授業ができない状況でも、講義に加え、学生同士の対話や交流ができる環境を整備するという意味で、重要だと考えています。

・2020年度、1年間オンライン授業をりましたが、初めての体験でした。そこから感じたのは、ソフトウェアを使って文章を書いたり、プレゼンテーションを行ったりすることに加え、リアルタイムのビデオ会議や録画を使って、みずからの考えや思いを伝えていくことが、学生にも教員にも、これからの時代は必須になっていくのだろうということでした。オンライン授業があまり好きでない、苦手と感じている学生さんも一部おられることは承知していますが、オンライン上でのコミュニケーション・スキルを身に付けていくことも、大学における学びの一環であると前向きに捉えていただければ幸いです。

・特に4年生以上でみられる現象ですが、1月に入ってから、単位がとれないと困るという相談をしてくる方がいます。定期試験の欠席が認められるような疾病等の正当な事情がある場合に限り配慮を致します。この場合は、教員に直接メールを送信する前に、まずは所属学部の事務室にご相談ください。

【学生が準備すべき機器他】

・対面授業の場合も、教材の配布や小テストの受験は、すべて LMS（学習支援システム-Hoppii と Google Classroom）上で行うため、スマートフォンでも可だが、できればパソコンやタブレットの利用に習熟していることが望ましい。

・感染拡大の状況によるが、ブレイクアウトルーム（学生数名でのグループディスカッション用）機能を含め、オンライン授業の場合は Zoom（バックアップとして Google Meet）を使う。そのため、できれば有線接続で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。

・この科目を単位履修する場合、学習支援システム-Hoppii や Google Classroom といった LMS に、初回授業後、仮登録を各自行ってください。

・学習支援システム「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることが出来る。ただし、期末レポートの得点を除く（成績入力に間に合わないことが多い）。

・連絡はメールをお願いします。メールアドレスは学習支援システムを見てください。

【Outline and objectives】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity.

SOS200GA

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考え、1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

■基本方針：法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベル1になった場合は対面で、レベル2以上の場合はリアルタイムのオンラインで実施する。グループ討議中心の授業なので、対面とオンラインのハイブリットは行わない。

■フィードバック：毎回の発表に対してはその場でコメントする。

■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

■履修者人数の確認：初回授業のみ一定の期間中はいつでも視聴できるオンデマンド授業（音声入りパワーポイント）で実施する。対面授業の場合は、初回の授業後に履修の意思確認を行い、教室定員との関係で対応可能な状態であることを確認し、2回目以降は対面授業で実施する。レベル2以上の場合、2回目以降はZoom等を使ってのリアルタイム授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。

13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。オンラインの場合は、この日は全体のまとめの授業を行って期末レポートに切り替える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。授業直前の昼休み時間にざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】

W. エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の平常点15%、授業後課題15%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度30%、授業内試験もしくは期末レポート40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システムを使う。

【その他の重要事項】

▼国際開発協力 NGO での実務経験を有する教員が、自ら関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。

▼グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、レベル1以下の場合は対面授業に出席できることが求められる。またレベル2以上の場合、大学が用意した補助制度などを活用し、Zoom環境を整えて授業に臨むこと。

▼グループは第3回授業から事前に固定して作る。教室定員との調整の都合もあるので、履修予定者は第1回の授業終了後3日以内（9/20 18時）までに履修するかどうかを教員が指定した方法で必ず連絡すること。連絡がない場合は履修しないとみなす。

【Outline and objectives】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

CUA200GA

国際関係研究Ⅶ

石森 大知

サブタイトル：家族と結婚の人類学

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、誕生から死ぬまでの間、つねに他者との関係を持ち続ける。あるいは、誕生前の生殖過程および死後の世界においても、人間は人びとを結ぶ関係の網の目に生きているといっても過言ではない。本授業では、とくに家族と結婚をキーワードとして、このような人と人をつなぎ合わせる社会関係およびそれを支える制度や組織について考察する。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
- ・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
- ・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は【オンデマンド型】で行う予定です（変更の場合は学習支援システムを通して事前に連絡します）。
- ・履修生のみなさんには学習支援システムを通して配信される授業レジュメや動画等の資料を用いた学習を行っていただきます。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族普遍説を問う
第3回	家族と親族②	キンドレッドと出自集団
第4回	家族と親族③	母系社会の暮らし
第5回	性と生殖①	民俗生殖理論
第6回	性と生殖②	親子の絆とは何か
第7回	生殖医療と親子関係①	生殖技術と現代社会
第8回	生殖医療と親子関係②	新しい家族の行方
第9回	結婚と社会関係①	インセスタブーの解釈
第10回	結婚と社会関係②	『親族の基本構造』を学ぶ
第11回	ライフサイクル①	子どもから大人へ
第12回	ライフサイクル②	老いることの意味
第13回	ライフサイクル③	現世から来世へ
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
 松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
 梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』学陽書房、2017年。
 波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第3版）』医学書院、2011年。

【成績評価の方法と基準】

レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【その他の重要事項】

- ・学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、家族と結婚について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline and objectives】

This course covers the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We especially focus on the parent-child relations, kinship and marriage to understand social relations which connect people in everyday life. The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from anthropological perspective.

OTR300GA

海外フィールドスクール

稲垣 立男

サブタイトル：表象文化コース

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

人数制限・選抜・抽選：定員：25名

備考（履修条件等）：年度により開講コースは変わる。

2021年度は、SA・SJ参加（国際文化学部生）、法政大学が実施する異文化交流プログラムへの参加（国際文化学部生以外）を条件としない。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2021年度の海外フィールドスクール・表象文化コースはオンライン夏季講座として実施されます。海外フィールドスクール表象文化コースでは、生活や文化背景の違う人々との共同作業を通じて、多角的な見方、考え方による双方の文化理解やコミュニケーションについて体験的に学びます。担当教員は稲垣立男です。

今年度フィリピンを渡航先として計画されていた表象文化コースのプログラムは、以下の通りです。

「フィリピンの首都マニラとネグロス島西部の中心都市パコロドに滞在する。まず、マニラでは主要な博物館や大学美術館、アートギャラリー、オルタナティブスペースを訪問し、フィリピンの文化や現代アートについて体験的に学ぶ。次にパコロドでは、ラ・サル大学映像学科の学生や地元のアーティスト、地域コミュニティとのコラボレーションによる映像作品の制作を試みる。帰国後に海外フィールドスクール報告展を開催し、滞在中に制作した作品および研究記録（レポート）を発表する。」

オンライン講座では、昨年度のプログラムをベースに、国内で実施できる講義や実習によるプログラム内容となります。

【到達目標】

研究者やアーティストによる講義やフィールドワークを通じて東南アジアの文化や人々の暮らし、現代アート、映像やパフォーマンスアーツなどの芸術表現や文化政策への理解を深めることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施、グループワークでの調査やディスカッションを経て、様々な発表形式による作品制作を行います。

1. 各課題と関連した社会的課題に関する講義と、美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。

2. 次に参加者とのディスカッションや大学内外のフィールドワークを通じて問題を探ります。

3. 最後に各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom、Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）

・Miro（コラボレーション）

・Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
事前学習	オリエンテーション 1	各講義やワークショップの詳細、注意事項など
事前学習	事前学習 2	外部講師による講義 フィリピンの文化や芸術に関連した内容の講義や事前調査について
9/10	マニラのアートシーン 1	外部講師による講義 マニラの文化とアーティストの活動について
9/10	マニラのアートシーン 2	講義と関連したフィリピン文化に関するディスカッションとワークショップ

9/11	ルソン島北部の環境問題 1	外部講師による講義 ルソン北部の自然と環境問題について
9/11	ルソン島北部の環境問題 2	講義と関連した環境問題に関するディスカッションとワークショップ
9/13	フィリピンの映像と文化 1	外部講師による講義 フィリピンの映画と制作の背景について
9/13	フィリピンの映像と文化 2	講義と関連した環境問題に関するディスカッションとワークショップ
9/14	市ヶ谷を舞台としたフィリピンの芸術と文化についてのフィールドワーク実習 1	アーティストによるワークショップ ガイダンス ディスカッション
9/14	市ヶ谷を舞台としたフィリピンの芸術と文化についてのフィールドワーク実習 2	グループワークの準備
9/15	市ヶ谷を舞台としたフィリピンの芸術と文化についてのフィールドワーク実習 3	フィールドワークと作品制作 1
9/15	市ヶ谷を舞台としたフィリピンの芸術と文化についてのフィールドワーク実習 4	フィールドワークと作品制作 2
9/16	市ヶ谷を舞台としたフィリピンの芸術と文化についてのフィールドワーク実習 5	調査の成果に関するプレゼンテーション
9/16	成果の報告	作品・レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

大野拓司「フィリピンを知るための64章」明石書店

鈴木勉「フィリピンのアートと国際文化交流」水曜社

鈴木勉「インディペンデント映画の逆襲—フィリピン映画と自画像の構築」風響社

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）

2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップなどの実習を充実したものにするためには、事前学習及び事後学習がとても重要です。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）

2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。

3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30分程度のを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後に実習課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【選抜について】

定員 25 名とし、25 名を超える場合には 4 月の履修登録前に選抜を行います。

選抜方法の詳細内容は、学習支援システムを通じてご連絡します。

また、2021 年度に限り SA・SJ 参加（国際文化学部生）、法政大学が実施する異文化交流プログラムへの参加（国際文化学部生以外）を条件としません。（2020 年度は SA・SJ、異文化交流プログラムへの参加が不可能だったため）

【参考・海外フィールドスクールについて】

※以下は例年実施されている海外フィールドスクール（3 コース）の授業概要と目的です。各コースでは、東南アジア各国に渡航し、現地フィールドワークを行います。

海外フィールドスクール・プログラム（Field School Program：略称 FS）とは、2 年次に実施される長期・夏期スタディ・アブロード・プログラム（SA）とスタディ・ジャパン・プログラム（SJ）で培われた異文化間のコミュニケーション力のみならず、それまでの本学・本学部における基礎的・専門的な学びを十分に活用し、海外のフィールドでより専門性の高い知識、研究手法、表現方法を習得するものです。東・東南アジアをフィールドに開発と文化コース、表象文化コース、環境と文化コースの 3 つのコースで実施します。当該年度の開催コースは、国際文化学部 Web サイトにてご案内いたします。（3 コースのうち、2 コースが例年実施されます。）

【Outline and objectives】

The Field School Program/Representation Culture Course in 2021 will be held as an online summer course. In the course, you will experience two-way cultural understanding and communication from multiple perspectives and ways of thinking through collaborative work with people from different lifestyles and cultural backgrounds.

The program planned to travel to the Philippines this year is as follows. "Stay in Manila, the Philippines' capital, and Bacolod, the capital city of western Negros. In Manila, visit significant museums, university museums, art galleries, and alternative spaces to experience Philippine culture and contemporary art. In Bacolod, we will try to produce video works in collaboration with the At La Salle University, local artists, and the local community. After returning to Japan, we will hold an overseas field school report exhibition, and the works and research records produced during our stay (Report) will be announced."

The online course will be based on last year's program and will be based on lectures and practical training conducted in Japan.

LAW200HA

国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

教室での講義が可能になるまでの間、オンデマンドによるビデオ講義のほか、ZOOM による質疑応答を行う。

詳細は、授業支援システムで確認のこと。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法の基本原則
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的关系、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的發展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年、4,730 円

岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣、3,080 円

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年、2,724 円

【成績評価の方法と基準】

小テスト (30%)

期末レポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】

特にコメントはありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society. Students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

LAW200HA

国際法Ⅱ

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法(1)	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法(2)	排他的経済水域、公海
第4回	海洋法(3)	大陸棚、深海底
第5回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第6回	個人の管轄(1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第7回	個人の管轄(2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第8回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第9回	紛争の平和的解決(1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決(2)	非裁判的手続
第11回	紛争の平和的解決(3)	裁判的手続
第12回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第13回	国際人道法(1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第14回	国際人道法(2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法[第2版]』有斐閣、2010年。4,730円
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣、3,080円

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選[第2版]』有斐閣、2011年。2,724円

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

LAW300HA

環境法Ⅰ

横内 恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の主要分野の現在の法制度やそれをめぐる訴訟の基本的な内容を解説する。

【到達目標】

本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後的な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド授業だが、オンラインでの質問対応の機会も確保する予定である。その詳細については、履修者に対して、学習支援システムにおいてアナウンスを行う。

学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境法とは何かについて、解説する
第2回	環境法の基本的な考え方	当該テーマについて解説する
第3回	環境法の手法	当該テーマについて解説する
第4回	わが国の環境法の歴史(1)	当該テーマについて解説する
第5回	わが国の環境法の歴史(2)	当該テーマについて解説する
第6回	環境基本法	当該テーマについて解説する
第7回	大気汚染防止法	当該テーマについて解説する
第8回	水質汚濁防止法	当該テーマについて解説する
第9回	土壌汚染対策法	当該テーマについて解説する
第10回	環境アセスメント	当該テーマについて解説する
第11回	循環基本法・リサイクル法	当該テーマについて解説する
第12回	廃棄物処理法	当該テーマについて解説する
第13回	自然公園法	当該テーマについて解説する
第14回	まとめ	授業のまとめを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書の該当ページをよく読んでください。オンデマンド授業の教材が掲載されたら、スライドや解説ノートと教科書をよく読んでください。復習を兼ねて、レポート課題に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第5版〕』（弘文堂、2020年）。（本体3,300円+税）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 45%、期末レポート 55%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「環境法Ⅲ」に先立って本講義を履修することを推奨します。履修に際しては、学習支援システムに掲載するオリエンテーション資料をよく読んでください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in environmental administrative law.

LAW300HA

環境法Ⅱ

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture will give you civil liability for environmental damage, which is one of the legal fields for solving this environmental problem facing us.

LAW300HA

環境法Ⅲ

横内 恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境アセスメント、産業廃棄物、高レベル放射性廃棄物の各分野につき、判例も検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深める。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することをも目指す。

【到達目標】

「環境法Ⅰ」の履修を前提として、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

状況次第では対面授業を実施する可能性もあるが、少なくとも本シラバス執筆時点の計画としては、オンデマンド授業を行う予定である。オンデマンド授業の場合でも、オンラインでの質問対応の機会を確保する予定である。詳細については、履修者に対して、学習支援システムにおいてアナウンスを行う。学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・イントロダクション	本講義を受講するにあたっての注意事項等を説明する
第2回	環境アセスメント（1）	当該テーマについて解説する
第3回	環境アセスメント（2）	当該テーマについて解説する
第4回	環境アセスメント（3）	当該テーマについて解説する
第5回	環境アセスメント（4）	当該テーマについて解説する
第6回	廃棄物処理法（1）	当該テーマについて解説する
第7回	廃棄物処理法（2）	当該テーマについて解説する
第8回	廃棄物処理法（3）	当該テーマについて解説する
第9回	廃棄物処理法（4）	当該テーマについて解説する
第10回	高レベル放射性廃棄物（1）	当該テーマについて解説する
第11回	高レベル放射性廃棄物（2）	当該テーマについて解説する
第12回	高レベル放射性廃棄物（3）	当該テーマについて解説する
第13回	高レベル放射性廃棄物（4）	当該テーマについて解説する
第14回	まとめ	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書や参考資料の該当ページをよく読んでください。オンデマンド授業の教材が掲載されたら、スライドや解説ノートと教科書をよく読んでください。復習を兼ねて、レポート課題に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第5版〕』（弘文堂、2020年）。（本体 3,300円＋税）

【参考書】

必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 45%、期末レポート 55%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、「環境法Ⅰ」履修済みの人を主な対象とします。履修に当たっては、学習支援システムに掲載するオリエンテーション資料をよく読んでください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しない。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students special knowledge and skills within several environmental fields.

LAW200HA

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法的手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第14回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。2,800円。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

MAN300HA

環境経営論Ⅰ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経営とは、企業や自治体などの組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、ここでは、現在注目されているサステナビリティ経営の現状やその取組みについても触れていく。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取組みについても触れるために、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて経済的価値と社会的価値の向上を目指す方針（戦略）をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、企業で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取組みへの理解をさらに深める。なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 環境経営とは何か	講義の内容・進め方と、企業における環境経営やサステナビリティ経営の目的や意義を説明する。
第2回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営やサステナビリティ経営の現状を説明する。
第3回	環境経営の全体像	企業の実践例をもとに、環境経営やサステナビリティ経営の全体像を説明する。
第4回	経営戦略①	従来の経営戦略や企業の実践例をもとに、環境経営やサステナビリティ経営のための戦略の理論的特徴を説明する。
第5回	経営戦略②	企業が策定すべき環境経営戦略やサステナビリティ経営戦略（例えば、CSR経営やSDGs経営のための戦略）を説明する。
第6回	経営組織①	従来の経営組織や企業の実践例をもとに、第4回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の理論的特徴を説明する。
第7回	経営組織②	第5回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織（ネットワーク、コラボレーション、パートナーシップ）を説明する。
第8回	経営管理①	環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第9回	経営管理②	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム（サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第10回	環境経営と会計	環境経営やサステナビリティ経営を支援する会計システムを説明する。
第11回	ケーススタディ①	企業の実践的取組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。
第12回	ケーススタディ②	第11回での検討内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。

- 第 13 回 新たな環境経営 現在注目されている新たな環境経営やサステナビリティ経営（再生可能エネルギー、フードロス、健康経営、地域循環共生圏、ソーシャル・ビジネスなど）を説明する。
- 第 14 回 講義のまとめ 講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配付資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の 2 点に基づいて評価します。
①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50 %）
②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

MAN300HA

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営やサステナビリティ経営（再生可能エネルギー、フードロス、従業員の健康維持・増進、地域循環共生圏、地方創生経営、ソーシャル・ビジネスなど）を、経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、両経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業や地域で実践されている新たな環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている新たな環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの現状とその特徴を理解することを目指す。なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 新たな環境・サステナビリティ経営の現状	講義の内容・進め方と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営またはサステナビリティ経営の現状を説明する。
第 2 回	新たな環境・サステナビリティ経営の意義と方法	企業の社会的責任（CSR）、共有価値（CSV）、包括的成長（IG）、持続可能な開発目標（SDGs）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境・サステナビリティ経営の意義と方法（サプライチェーン・マネジメント（SCM）、産業クラスター・マネジメント（ICM）、バランス・スコアカード（BSC））を説明する。
第 3 回	サプライチェーン・マネジメント（SCM）	SCM の研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能な SCM の概念と仕組みを説明する。
第 4 回	産業クラスター・マネジメント（ICM）	ICM の研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能な ICM の概念と仕組みを説明する。
第 5 回	バランス・スコアカード（BSC）①	BSC の研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能な BSC の概念と仕組みを説明する。
第 6 回	バランス・スコアカード（BSC）②	第 2 回から第 4 回の内容に基づく BSC の作成方法を説明する。
第 7 回	再生可能エネルギー事業	資源エネルギー庁で整理されている再生可能エネルギーの概念や現状とともに、国内の先進事例（飯田市や下川町など）とその特徴を説明する。
第 8 回	フードロス・マネジメント	農林水産省、消費者庁、環境省で公表されているフードロス対策の現状を紹介しつつ、国内のフードロス削減への実践例（フードドライブ、バイオマス利用、サルベージ・パーティ、3010 運動など）とその特徴を説明する。
第 9 回	食と健康経営	経済産業省や厚生労働省の取り組みを紹介し、また、日本企業の先進的な取り組みとその特徴を説明する。
第 10 回	地域循環共生圏	環境省の取り組みを紹介しつつ、国内の先進事例を取り上げ、その特徴を説明する。
第 11 回	地方創生経営	内閣府・内閣官房の地方創生の取り組みを紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。

- 第 12 回 ソーシャル・ビジネス 途上国で展開されているソーシャル・ビジネスや BOP (Base of the Pyramid) の実践例やその課題を説明する。
- 第 13 回 ケーススタディ 第 7 回から第 12 回までの実践的な取組事例を 1 つ選定し、その事例を第 2 回から第 6 回までの内容をもとに検討しつつ、新たなビジネスモデルを提案する。
- 第 14 回 講義のまとめ 講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の 2 点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出 (50%)
- ②期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.

SOC200HA

現代社会論 I

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性等の問題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、その他のアクティビティを行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「社会を社会的に考える」とは	社会的想像力、理論と概念の重要性、持続可能な社会の構築のために
第 2 回	社会とは何か	近代化により社会はどのように変化したのか。分業、連帯、支配の諸類型
第 3 回	個人とは何か	アイデンティティはどのように形成されるのか。自己と他者
第 4 回	個人と社会	社会的存在としての人間、社会化
第 5 回	資本主義	労働をめぐる諸問題
第 6 回	経済的格差と貧困	日本社会の現状と国際比較から考える
第 7 回	教育、試験 1	格差との関係、文化資本、文化的再生産
第 8 回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第 9 回	ジェンダー	女らしさ、男らしさ、平等を考える
第 10 回	セクシュアリティ	異性愛規範と現代社会
第 11 回	人種とエスニシティ	日本社会における多様性と人権
第 12 回	ディアスポラとグローバル化	移民と難民
第 13 回	社会はどう変わるのか	民主主義と政治
第 14 回	まとめ、試験 2	内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史 I』有斐閣
 クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
 クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10 代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、課題 (40%)、試験 (30%) から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間での学びの共有や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society. Specific topics to be covered include inequality, education, gender, race and ethnicity, and globalization. Each class consists of lectures, discussions, and activities, and it is essential that each student is prepared to participate actively.

SOC200HA

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会」は、多くの場合その構成員全ての経験や考えを平等に反映したものではありません。この歪みのひとつがジェンダーであり、社会を理解し議論する上で欠かすことのできない視点です。この授業では、家族、教育、労働、政治を含む社会の様々な側面をジェンダーの観点から検討します。学生一人一人が講義内容を理解するだけでなく、理論や概念を使って社会問題について議論でき、共有することで主体的に学び、考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

本科目では、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に与える影響を、基本的な理論と概念、国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探ります。日常生活や現代日本社会における制度、規範を多角的・多面的に分析することから新たな知見を獲得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、グループディスカッションやその他のアクティビティを行いながら進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ジェンダーの視点で社会を分析する意義、本科目の進め方
第2回	ジェンダーとは何か	性別と性差、ジェンダーの規範
第3回	ジェンダーとセクシュアリティ	性自認とセクシュアリティ
第4回	家族の歴史と現在	多様な家族のかたち、家長長制、少子高齢化
第5回	子ども	家庭において子どもは何を学び育つのか
第6回	学校教育	顕在的カリキュラムと潜在カリキュラム
第7回	知識；試験1	科学、医療、テクノロジー；内容の理解度を試験
第8回	賃金労働	長時間労働と家族、賃金格差、ワークライフバランス
第9回	ケア・ワーク	家事労働、育児と介護
第10回	生殖	リプロダクティブ・ライツ
第11回	暴力	性犯罪と性暴力、法制度
第12回	グローバル化と多様化する社会	差異、人権
第13回	政治	民主主義、政治参画、持続可能な社会の構築
第14回	試験2；まとめ	内容の理解度を試験；全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

伊藤公雄・牟田和恵編 2015 『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
千田有紀・中西祐子・青山薫 2013 『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)；課題 (40%)；試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, we examine various aspects of contemporary society (e.g., family, education, labor, and politics) from perspectives of gender. Lectures introduce historical changes and international comparisons, as well as theories. In addition to comprehending concepts and specific cases, students are required to complete assignments where they demonstrate their knowledge and ability to analyze social issues with gender perspectives.

SOC200HA

現代社会論Ⅲ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。

社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体の社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることでできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会学的想像力を身につけることでできる授業とすることを目指します。

【到達目標】

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会学的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。小課題では、理解した内容を身近な例を使って自分の言葉で説明し、学びを深めます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要とねらい；なぜ「身体」を社会学するのか；「生命」とは何か；私たちのからだは「自然」か
第2回	身体社会学とは何か；階級と身体	社会学的想像力；ハビトゥスと文化資本；労働と身体；貧困と身体；消費活動；食；健康と病
第3回	人種と身体	植民地主義と人種；レイシズム；人種に関するカテゴリーの歴史の変遷
第4回	現代日本社会と人種	Blacks Lives Matter ；人種差別問題を自分たちの問題として考える
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体
第6回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	性自認と身体；異性愛規範
第7回	ボディイメージ、摂食障害と美容医療；試験1	「美」のための産業；体重と美に関する基準の変化
第8回	「正しい」と考えられている身体とは何か、逸脱は何を意味するか	障がい；スティグマ；結合双生児；心身二元論；「個人」とは何か；医療介入の決定権は誰が握るか
第9回	優生思想	優生政策；優生思想は過去のものか；日本におけるハンセン病の歴史
第10回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ；人工妊娠中絶；いのちの始まりをどう理解するか；出生前診断
第11回	生殖補助医療	不妊治療の社会的意味；第三者の関わる生殖補助医療（精子・卵子提供と代理出産）とその倫理的側面
第12回	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植	いのちの終わりは誰が決めるか；死に関する権利；「いのちの神聖さ」と「いのちの尊厳」；臓器移植の国際比較；技術は私たちの「いのち」に関する理解をどう変えるか、その倫理的側面
第13回	身体と未来	どこまでが身体か；サイボーグ；機械と人間の融合；技術と身体（義肢；人工内耳）；身体は誰のものか

第 14 回 まとめ; 試験 2

学びの振り返り; 身体のこれから; ナラ
ティブを変えるには

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版（2012 年）
小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択——今、考えたい脳死・臓器移植』岩波書店（2010 年）

磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋社（2015 年）

谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社（2008 年）
柘植あづみ『生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』みすず書房（2012 年）

マーゴ・デメット『ボディ・スタディーズ—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』（2017 年）

アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体の未来』緑風出版（2004 年）

毎日新聞『境界を生きる』取材班『境界を生きる 性と生のはざま』毎日新聞社（2013 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーも含む）60%; 試験 20%; 課題 20%

【学生の意見等からの気づき】

前回は引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body. Through the considerations of topics including social class, gender, race, eugenics, and bioethics, we will grapple with issues for which there are no easy answers.

SOC300HA

環境社会論 I

黒田 暁

配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境社会学は、環境問題の構造を明らかにしてその解決の道筋を探るとともに、人と自然のかかわりのこれらについて解明しようとする。本講義では、とくに「環境問題の社会学」/「環境共生の社会学」と大別される環境社会学の基礎理論を広い視野から学ぶとともに、生活を取り巻く環境の身近な問題を理解するための方法（論）の基礎を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

本講義の受講を通して、社会的な環境問題への基本的なアプローチ法を説明できること。環境問題を解決できる専門職業人としての基盤的知識・技能を修得できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、環境と社会のかかわりの動態を明らかにするとともに、両者の結びつきやその問題のあり方を論じようとする。まず、そのための有用なツールになりうる「環境社会学」の成り立ちとその視点が、どのようなものなのかについて、その諸アプローチを概観する。具体的には、環境社会学が「環境問題の社会学」と「環境共生の社会学」に大別されることを踏まえ、まず環境問題の発生原因とその対処の構造を把握することによって、「加害—被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」といったキーワードについてレクチャーを行う（環境問題の社会学）。続いて、私たちが身の回りの環境をどのように利用・管理してきたか、そのかわりに注目しながら、「身近な生活をめぐるつながりとその不可視性」「コモンズ論」「自然再生事業」といったキーワードについてレクチャーを行う（環境共生・共存の社会学）。最後にこうした環境社会学の方法論と知見がどのように「環境政策・計画論」に結びつくのか、について取り上げ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルに沿って学びを深めていく。

【本講義は、オンライン授業（フルオンデマンド形式）を実施する予定です。詳細は学習支援システムの「お知らせ」などを参照すること】大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：環境社会学へのいざない	環境社会学的なアプローチと講義の概要について示す。
第 2 回	環境社会学の成り立ちとそのまなざし	環境社会学の 2 つに大別されるアプローチに関する概要と、学としての環境社会学の成立の背景について講義する。
第 3 回	日本の環境問題の歴史とその構造（1）：江戸時代から戦後まで	日本社会と環境の関係の変化という観点から、日本の環境問題の出自とその歴史について概説する。
第 4 回	日本の環境問題の歴史とその構造（2）：被害構造論の胎動	戦後日本の環境問題の歴史について、水俣病の事例から環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について講義する。
第 5 回	環境問題を社会学する（1）：加害—被害関係で捉える	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害—被害論と、被害構造論について講義する。
第 6 回	環境問題を社会学する（2）：受益圏—受苦圏概念の定義とその適用	環境問題を加害—被害の構図、という視点から捉える受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第 7 回	環境問題を社会学する（3）：事例から考える受益圏と受苦圏	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第 8 回	環境破壊と社会的ジレンマ（1）：なぜ環境問題が発生するのか	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第 9 回	環境破壊と社会的ジレンマ（2）：社会的不可視性	私たちの身近な生活環境の事例を通じて、社会的ジレンマの実際にかんして講義する。
第 10 回	環境共生の社会学（1）：生活環境問題から生活環境論へ	環境問題の社会学から、環境共生の社会学へ、生活環境主義の視点を取り上げ、講義する。
第 11 回	環境共生の社会学（2）：人びとと自然はどう付き合ってきたか	日本の自然環境とはどのように捉えられるのか、自然再生事業の事例から捉えなおす。

- 第12回 環境共生の社会学(3)：「環境保全」が一般化したように思える一方で、なぜ「環境保全」がなかなかうまくいかないのか、コモンズ論の観点から検証する。
- 第13回 環境計画・政策に向けて(1)：環境ガバナンスの形成
- 第14回 環境計画・政策に向けて(2)：環境社会学のスタイルに何を学ぶか
- 「環境」をめぐる多様な立場と認識はどのように議論され、共有されていくべきなのか、政策科学としての側面もつ環境社会学を論じる。
- 環境ガバナンスの実態について取り上げたいので、これまで学んだ環境社会学から引き出せる知見についてまとめる。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習としては、環境問題を取りあげるニュースや新聞記事などに目を通しておくこと。復習としては、講義内容および毎回の講義で紹介される講義資料をもとに必ず振り返りを行うこと。参考文献を各自で入手し、講読すること。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房、2017年出版

【成績評価の方法と基準】

論述式の期末レポート(50%) + 平常点(講義中に課すワークシートなど)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

講師は本授業をはじめ担当する

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Environmental sociology seeks to clarify the structure of environmental problems, to find ways to solve them, and to understand the future of the relationship between humans and nature. The purpose of this course is to learn the basic theories of environmental sociology, which are broadly classified as "sociology of environmental issues" and "sociology of environmental coexistence" and to acquire the basics of methods (theories) for understanding the environmental problems that surround our daily lives.

SOC300HA

環境社会論Ⅱ

黒田 暁

配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講義では、「環境社会学と地域社会学という2つの社会学の領域が交差するところを、「環境と地域の社会学」の視点で考え、現実に発生している環境問題や、地域社会の抱える現代的な課題について解明しようとする。さらに、これらの問題群の解決のあり方を探ることで、臨床的で実践的な社会学の知見を学びとることを目標としている。

【到達目標】

現代の環境と地域(社会)をめぐる諸課題に対して、社会的な「問い」を持ち、それを鍛え、かたちにしていく過程を身に付けることを到達目標とする。環境問題を解決できる専門職業人としての基盤的知識・技能の習得を目指す。持続可能な自然環境及び地域社会に貢献できる能力を育むための知見を獲得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに現在の「環境問題」と「地域(社会)の課題」にどのようなものがあり、また問題の構造解明と課題解決に向けた「環境と地域の社会学」のアプローチとはどうあるべきか、概観する。本講義は、環境と地域をめぐるいくつかの重要キーワードに基づいたオムニバス式の構成で進められる。「災害」：2021年3月11日をもって東日本大震災から10年が経過したが、もはや「災害」を忘却することはかなわず、つねに私たちの生活の脅威になりうる存在となった。講師のフィールドワークの経験と事例紹介から、「災害としての津波被災」、「地域復興とは何か」ということを捉えなおし、つねに災害と社会が重なり合う「災間社会」の今後を見据える。「地域コミュニティ」：都市・地方ともにそれぞれの地域がコミュニティの課題を抱える現代において、その解決や共同に向けて何が必要とされているのか、「コミュニティ論」や「郊外社会(化)」を切り口に事例分析を試みる。「多様な関係性」：環境と地域社会のかかわりのバリエーションについて、「歴史的環境」や「半栽培」といった多彩なキーワードで読み解き、生物多様性と地域文化の多様性をつなごうとする試みに焦点を当てて実践的に考える。「地域社会と環境の危機」：現在進行形で、地域と環境の関係が断片化し、持続性が途絶えようとしている事象「縮小社会」「獣害問題」といった危機を捉え、私たちがどのように対応すべきなのか、議論を深めていく。「合意形成」：たった1つの正解が存在しない環境と地域の課題に対して、どのように分け入っていったらいいのか。「合意形成論」の観点から、社会科学的に問題解決・改善への道筋を探っていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：環境と地域の関係を読み解く	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、環境と地域(社会)の関係性を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	環境と災害(1)：大震災から10年と「災間」にあるもの	東日本大震災によって生じた「被害」の諸相を概説し、とくに「津波被害」によって生じた「被災」の実態について、ケーススタディから述べる。
第3回	環境と災害(2)：「地域復興」とは何だろうか	震災の「被災地」ではさまざまなアプローチや制度・しくみによって「復興」が目指されている。「復興」のメカニズムについて取り上げる。
第4回	環境と災害(3)：災間社会をどう生きるか	「震災から10年」が経過した現在と、つねに災害リスクと向き合う現代社会のこれからの位置づけ、ケーススタディで捉えなおす。
第5回	環境と地域のコミュニティ(1)：コミュニティの生成と現実	「地域」が強調され、「コミュニティ」が渴望される中で、私たちの生活の共同体は、実態としてどうなっているのか、ひととく。
第6回	環境と地域のコミュニティ(2)：郊外化する地域社会の現在	地域コミュニティの現在を捉えるため、地域社会を構成する要素とその複合に着目し、それらが現在どのような動態にあるのかを示す。
第7回	環境と地域のコミュニティ(3)：都市農業の展開にみる環境と地域	東京都日野市における都市農業の展開と、「農のあるまちづくり」が抱える課題と可能性について、ケーススタディから論じる。

第 8 回	環境と地域の多様な関係性 (1) : 地域社会における歴史的環境のあり方	私たちを取り巻く生活環境としての「歴史的環境」の定義と実像について講義し、その来し方行く末を展望する。
第 9 回	環境と地域の多様な関係性 (2) : 「自然」と「野生」のあいだにある視点	自然環境と地域社会の関係性は一律ではなく、「半栽培」という多様でインタラクティブな社会過程として捉えられることを示す。
第 10 回	環境と地域の多様な関係性 (3) : 世界遺産指定にみる自然と文化のリンク	奄美大島のケーススタディをもとに、自然と文化の関係性について、その諸相にわけいて考える。
第 11 回	地域社会と環境の危機 (1) : 縮小を余儀なくされる地域社会	現代において、予見から実態へと、急峻化する一方の人口減少傾向が、地域社会にどのような影響を及ぼすのか、検証していく。
第 12 回	地域社会と環境の危機 (2) : 縮小社会は地域と自然に何をもちあわすか	「縮小社会化」が引き起こす地域と自然のあいだの軋轢としての獣害問題に注目して、講義を行う。
第 13 回	環境と地域の課題解決にむけた合意形成 (1) : 問題・課題解決の技法	自然環境と地域社会をめぐる現場において試みられる合意形成の方向性を整理・議論して実践的思考を深めていく。
第 14 回	環境と地域の課題解決にむけた合意形成 (2) 海は誰のものか? 総合的に検討する	環境と地域のあいだのせめぎ合いの実例について取り上げ、どのような解決の方向性がありうるのか、これまで培った経験や認識によって総合的に検討する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習としては、現在の社会で実際に起きている事象について、ニュースや新聞で自主的に情報を収集すること。そのために、常日頃から情報に対する知的好奇心のアンテナを拡げておくこと。復習としては、講義のあと、学んだことに対して、自分で咀嚼して理解しておくこと。また、とくに講義で触れた具体事例について、関心をもった事例を自分で調べてみたり、事例に対する自分なりの切り口についても考えてみたりすること。本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書等は使用しない。必要に応じて、プリント資料を配布する。

【参考書】

西城戸誠・宮内泰介・黒田暁編、『震災と地域再生——石巻市北上町に生きる人びと』法政大学出版局、2016 年出版ほか

【成績評価の方法と基準】

論述式の期末レポート (50%) + 平常点 (講義中に課すワークシートなど) (50%)

【学生の意見等からの気づき】

講師は本授業をはじめ担当する

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する

【その他の重要事項】

本講義を履修しようとする学生は、あらかじめ「環境社会論 I」を履修しておくことが望ましい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture will focus on the intersection of two sociological fields: environmental sociology and regional sociology.

We will try to elucidate the environmental problems that are actually occurring and the contemporary issues of local communities from the perspective of "sociology of environment and community. In addition, we aim to learn the clinical and practical knowledge of sociology by exploring how to solve these problems.

SSS300HA

災害政策論

中川 和之

配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、これら災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】

①災害とは何かを、実例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展、課題を学んで理解する。③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出して、今後の実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンラインを並行しての開講となる。教室に置いて、スマホを使うことも推奨。オンとオフを合わせたグループ討議も行いたい。豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回リアクションペーパーとして学習支援システムに記入する。次の授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進める。1 回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か? 災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割に応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第 2 回	自然現象と災害 = 社会的な制度を考える前提としての理科 1	地球の 46 億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象 = 人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。
第 3 回	身近な景観と災害 = 理科 2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホや pad、PC などで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。GW期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。

第 4 回	3つの大震災と伊勢湾台風 = 阪神大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と1995年の阪神大震災の直前までを取り上げる。	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌になったり考えなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ること、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第 5 回	3つの大震災と伊勢湾台風 = 阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の改正など、災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。自ら関係する市区町村の地域防災計画を読んで課題を見つけるレポートを試験日までに提出する、
第 6 回	3つの大震災と伊勢湾台風 = 東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホや PC、何でも持ち込んで OK。
第 7 回	近年の風水害から、課題を考える	2020年7月豪雨や台風10号、2019年台風15号や19号、2018年西日本豪雨や台風21号、2017年九州北部豪雨や2016年台風10号、2015年9月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持って欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、学習支援システムも活用して提出。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
第 8 回	近年の地震災害から、課題を考える	2019年山形県沖地震、2018年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016年熊本地震や2016年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2度の震度7に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。	【テキスト（教科書）】 授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、学習支援システムに掲載する。
第 9 回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	【参考書】 授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。
第 10 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNSなどの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。	【成績評価の方法と基準】 平常評価（学習支援システムでのテスト・アンケートを使ったりアベで授業内容の理解を評価）40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価20%、期末試験（試験レポート）評価40%。
第 11 回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。	【学生の意見等からの気づき】 災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、Zoomのブレイクアウトルームやチャットの活用でディスカッションの時間を持ちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。
			【学生が準備すべき機器他】 オンライン参加の場合はパソコンが望ましい。講義室で参加する場合も、スマホを使うこともある。
			【その他の重要事項】 試験レポートの作成時には、時間内であればどのような資料を参考に書いても良い。
			【関連の深いコース】 履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。 【実務経験のある教員による授業】 通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与。その後も、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組み、内閣府の「TEAM 防災ジャパン」のアドバイザーも務める。一方で、災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当してきた。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。 【Outline and objectives】 1.To learn about the major disaster of Japan, and sympathize with a victim of disaster. 2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present, and understand its aim and achievement degree.

3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.

PHL200HA

仏教思想

小島 敬裕

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、東南アジアの大陸部諸国（タイ・ミャンマー・ラオス・カンボジア・ベトナム）において信仰されている仏教への理解を深めることを目的とします。東南アジアの上座仏教徒社会においては、男子の大部分が一時出家を経験し、托鉢する出家者に対して在家者が食物を寄進する姿も毎朝のように見られます。またベトナムでは大乘仏教も広く信仰されています。いずれにせよ、仏教が世俗の人々の生活に根ざし、「生きられて」いることが特徴です。こうした東南アジアの地域社会における仏教思想のあり方について、本講義では写真を用いながら具体的に説明していきます。また、大陸部の各国における仏教実践の地域差や、政治との関係の多様性について理解を深めます。さらに、日本における上座部仏教の受容や、日本に在住する東南アジアの人々にとっての仏教の役割について考察します。人・モノ・カネ・情報の越境が増加しつつある現在において、日本人と東南アジアの人々とのより良い関係を築くためには、仏教に対する理解を深めておくことが重要な意義を持っているためです。

【到達目標】

教理としての仏教と、東南アジアの地域に生きる仏教徒の思想について、具体的な事例をもとに論じることができる。

また東南アジアにおける仏教実践の現実を知ることで、自らの「仏教」イメージを相対化するとともに、日本人の「仏教思想」に対する認識も深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の3日前（月曜日）に Hoppii でレジュメを配信するので、授業前までにプリントアウトまたはダウンロードしておいてください。授業内容の理解を深めるために、多くの写真を提示しながら説明するので、レジュメを手元に置いて視聴してください。授業後に提出するリアクションペーパーのうち、重要な質問やコメントに対しては、翌週の授業の冒頭で解説を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と受講方法について
第2回	仏教教団の成立と東南アジアへの普及	ブッダの人生ならびに仏教教団成立の経緯、そして東南アジアへの普及の歴史的過程
第3回	精霊信仰と仏教	東南アジアにおける宗教の基層としての精霊信仰
第4回	出家者の仏教	上座仏教の教理の基本と出家の目的
第5回	在家者の仏教	出家者を支える在家者と功德の観念
第6回	ミャンマーにおける仏塔（バゴダ）信仰と輪廻転生の観念	積徳行の位置づけの地域差と地域経済への影響
第7回	ミャンマーにおける在家者の人生と出家者	上座仏教の冠婚葬祭
第8回	タイの王権・近代国家と仏教	上座仏教の政治社会学
第9回	タイの現代社会と仏教	仏教の社会貢献活動と比丘尼復興運動
第10回	ラオス・カンボジアにおける社会主義の急進化と仏教	仏教実践の断絶と国境を越えるネットワークによる復興
第11回	ミャンマーにおける軍・民主化運動と仏教	政治的正統性との関わり
第12回	戦中から戦後にかけての日本人とミャンマー人仏教徒の交流	遺骨収集活動と戦没者慰霊バゴダの建立
第13回	欧米と日本における上座仏教瞑想の受容	ティクナットハンのマインドフルネスとヴィパッサナー瞑想の普及
第14回	日本に在住する東南アジアの人々と仏教	難民・留学生・技能実習生にとっての寺院

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

石井米雄.1975.『上座部仏教の政治社会学—国教の構造』創文社。
石井米雄.1991.『タイ仏教入門』めこん。
NHK「ブッダ」プロジェクト編.1998.『ブッダ—大いなる旅路 2』日本放送出版協会。
奈良康明・下田正弘編.2011.『新アジア仏教史 04 スリランカ・東南アジア—静と動の仏教』佼成出版社。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）、平常点（50%）
平常点は、授業への参加状況および毎回の授業後に提出するリアクションペーパーで総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの見やすさを工夫するようにします。

【その他の重要事項】

授業に関する相談がある場合は、授業後にお伝えください。メールでもかまいません。アドレスは最初の授業でお伝えします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will focus on the Theravada Buddhist thoughts in everyday life. Theravada Buddhist societies are located in mainland Southeast Asia, Sri Lanka and southwest China. In these lectures, we will focus not only on the Buddhist philosophy written in texts, but also on ideas of Theravada Buddhists by paying close attention to how they practice themselves every day. Furthermore, we will explore the relationship between Japanese society and Theravada Buddhism through visual materials including photos and documentary videos.

PHL200HA

環境倫理学 I

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は 1970 年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では 1990 年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学の基礎：功利主義、	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	倫理学の基礎：義務論、徳倫理学	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	土地倫理	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	生物多様性の価値	生物多様性はなぜ保全すべきなのかについての議論を紹介する
6	自然の権利訴訟	アメリカと日本における自然の権利訴訟の概要を紹介する
7	加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
8	鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
9	環境倫理学の隣接分野	環境倫理学の隣接分野（社会学、経済学、法学など）の議論を紹介する
10	公害と環境正義	公害の歴史をふりかえり、環境正義の観点から分析する
11	リスク論	リスク論の概要を紹介する
12	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電についての論点を紹介し議論する
13	災後の環境倫理学：復興のありかたについて	震災復興についての論点を紹介し議論する
14	人新世の環境倫理学	人新世と気候工学について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和三堂、2020 年（第 1 章～第 10 章の内容を扱います）

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年（第 1 章と第 2 章の内容が関連します）
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

【成績評価の方法と基準】

書評レポート（50 点）と内容理解レポート（50 点）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You can understand history and contents of environmental ethics.

PHL300HA

環境倫理学Ⅱ

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論を学ぶとともに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけれられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、
3	人間主義地理学	ボルノウの空間論を紹介する トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論：和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論：ベルク	オグユスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二、桑子敏雄、亀山純生の議論を紹介する
7	都市論：ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する。
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップ概論	アメニティマップの作り方を説明する
10	アメニティマップの作成例	過去につくられたアメニティマップを紹介する
11	環境と観光	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
12	世界遺産とエコツーリズム	世界遺産とエコツーリズムについて概説する
13	アメニティマップの講評	作成したアメニティマップについて講評し議論する
14	ローカルからグローバルへ	「地域環境保全」から「地球環境保全」への道筋をさぐる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年
(第 11 章、第 13 章、第 14 章の内容を扱います)

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
(第 3 章と第 6 章の内容を扱います)

【成績評価の方法と基準】

マップ作成 (50%) とレポート (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You find answering the question "What is a good environmental?"

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論 I

梅原 秀元

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学が環境を環境史として積極的に研究対象とするようになってから、まだ半世紀も経っていない。しかし、他方で、環境史の研究の対象・方法は日々革新を遂げている。本講義では、地理的にはヨーロッパを、時間的には近現代を対象として、環境を歴史的に考えるとどのようなことかを学ぶ。

【到達目標】

ヨーロッパ環境史について、まず、ヨーロッパにおける戦後の歴史学の展開について概観し、その中で環境やそれに関連するテーマがいつ頃、どのように扱われるようになったのかを理解する。次に、とくに近現代に焦点を絞った場合、環境の歴史を考える上で避けて通ることのできない、近現代のヨーロッパ経済の変化について西洋経済史の成果から学ぶ。これらの基礎作業ののち、近現代のヨーロッパの環境の歴史を、マクロの視点から検討する。この作業を通じて、ヨーロッパの環境の歴史について理解を深めるとともに、それとの対比で、今の世界や日本における環境について考えるための参照軸を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド方式で行われる。
週1回定期的に3つのデータを、本講義の所定のところにアップし、履修者はそれを視聴する。
データのアップは、毎週月曜日から火曜日の間を予定している。
データは、講義のパワーポイントのPDFファイル、パワーポイントに書かれているものをプリントにしたPDFファイル、講義の音声ファイルの3つである。
履修者は、音声ファイルを開きながら、パワーポイントのファイルを見ることで講義を受ける。プリントを印刷すると、基本的なノートとなる。これに、講義で聞いたことをメモすることで、ノートができることになる。
そののち、履修者はリアクションペーパーに考えや感想を書いて、講義後、所定の期日（データアップ後、3ないし4日後を考えている）までにリアクションペーパーを提出すること。内容をまとめて、次の講義の時に紹介する。また、提出状況出席確認にも使う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の構成などを提示するとともに、本講義のテーマを「ヨーロッパ」「環境」「史」に分解し、テーマがいったい何を意味しているのかを議論する。
第2回	歴史学の成立－20世紀のヨーロッパにおける歴史学について（1）	19世紀後半以降のヨーロッパにおける歴史学の確立と展開を検討する
第3回	政治の向こうへ－20世紀のヨーロッパにおける歴史学について（2）	20世紀前半における、社会史と呼ばれる新しいアプローチの出現とそれ以後の歴史学の展開について検討する
第4回	政治の向こうへ－20世紀のヨーロッパにおける歴史学について（3）	主にイギリスの社会史について概観する
第5回	政治の向こうへ－20世紀のヨーロッパにおける歴史学について（4）	主にドイツの社会史について概観する
第6回	環境史への入り口	第2－5回の講義を踏まえて、環境史とはどのような研究領域なのかを検討する
第7回	森と木と（1）	ヨーロッパにおける森林と木材産業についての歴史を2回にわたって概観する
第8回	森と木と（2）	ヨーロッパにおける森林と木材産業について。後編。
第9回	呼吸できない？（1）	19－20世紀における大気汚染の歴史について概観する
第10回	呼吸できない？（2）	引き続き、大気汚染について概観する
第11回	寒い？！－気候の歴史（1）	気候の歴史について概観する（1）

第12回 寒い？！－気候の歴史 気候の歴史について概観する（2）

第13回 農業をめぐって 近代のヨーロッパの農業について、環境との関係に注目しながら考える

第14回 総括 講義を踏まえて、人間と環境の関係を動かした・動かすものについて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、19・20世紀のヨーロッパ史をベースにしている。高等学校の世界史の教科書などで該当部分を読んでおくだけでも、講義の理解の助けとなるだろう。その他、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと背景がわかってよい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜レジュメを配布する。

【参考書】

講義中に指示するので、それを参考に各自で読んでほしい。

【成績評価の方法と基準】

レスポンスシートによる平常点（0－10％）と学期末のレポート（90-100％）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド方式での講義になるので、必要な通信環境およびパソコンなどの機材について、各自で準備すること。わからなかったり、個人で準備することが難しいなどの問題がある場合は、すぐに大学のほうに相談してください。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として講義を進めますが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人にもわかりやすいようにするので、ためらわずに履修してください。

・秋学期のヨーロッパ環境史論 II も合わせて受講できるとよいです。

・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論 I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The environmental history is very young discipline. It is not until 1990s years that historians have dealt with environment. Before the background the lecture tries to explore some topics from the history of environment in modern Europe to learn how to study and discuss environment historically.

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

梅原 秀元

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、19・20世紀のヨーロッパ、とくにドイツを中心とした地域における環境の歴史について、いくつかのテーマを選んで議論する。

【到達目標】

本講義では、19・20世紀のドイツを中心とする地域の環境をめぐる諸問題から、環境と人間の経済活動・資源（森林と木材）、都市と環境（都市と生活環境）、労働と環境、科学技術と環境、ナチスと環境、環境と政治 というテーマを通じて、環境と私たち人間の営みとが、どのような関係を作っていたのか、その関係が作られていく中で、それぞれがどのように変わっていったのか/変わらなかったのか、それぞれがどのように影響しあったのか、といったことを一緒に議論・考える。それを通して、現在の環境をめぐる問題を考える際の手掛かりを身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド方式で行われる。
週1回定期的に3つのデータを、本講義の所定のところにアップし、履修者はそれを視聴する。
データのアップは、毎週月曜日から火曜日の間を予定している。
データは、講義のパワーポイントのPDFファイル、パワーポイントに書かれているものをプリントにしたPDFファイル、講義の音声ファイルの3つである。
履修者は、音声ファイルを開きながら、パワーポイントのファイルを見ることで講義を受ける。プリントを印刷すると、基本的なノートとなる。これに、講義で聞いたことをメモすることで、ノートができることになる。
そののち、履修者はリアクションペーパーに考えや感想を書いて、講義後、所定の期日（データアップ後、3ないし4日後を考えている）までにリアクションペーパーを提出すること。内容をまとめて、次の講義の時に紹介する。また、提出状況を出席確認にも使う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンティールング-ドイツ近現代史と環境	ドイツ近現代史研究とそこでの環境について概観するとともに、本講義についての概要を説明する。
第2回	19世紀のドイツ	19世紀のドイツ史について概観する
第3回	20世紀前半のドイツ	20世紀前半のドイツについて概観する
第4回	20世紀後半のドイツ	20世紀後半のドイツについて、主に、ドイツ連邦共和国（旧西ドイツ）を中心に概観する
第5回	「おらが森」と「私の森」-森林を巡って（1）	18世紀末から19世紀初めのドイツにおける森林とその利用をめぐる問題について、検討する。
第6回	森と産業-森林を巡って（2）	19世紀初頭にドイツにも到来し、19世紀後半以降著しく進む工業化を背景にして、経済と木材・森林の関係を考える
第7回	「都市は病気にする」-都市と生活環境（1）	19世紀にヨーロッパを席卷したコレラを例に、伝染病と、その原因となった都市の生活環境について論じる
第8回	都市文化と都市批判-都市と生活環境（2）	19世紀後半から20世紀初めにかけて、ドイツをはじめとするヨーロッパで見られた都市文化への批判とそれによる自然への回帰・自然の賞賛について概観する
第9回	労働と環境	産業革命による生産現場の状況-労働の環境-の変化とそれへの対応を概観する
第10回	科学技術と環境	人間の生活世界を科学や技術によって変えることができる・べきであるという考え方がどのように出てきたのかを、19・20世紀のドイツを例に検討する
第11回	ナチスと環境保護-ナチスと環境（1）	ナチス期の環境保護について検討する

第12回	ナチス期の農業-ナチスと環境（2）	ナチス期に最終的には弾圧の対象となった有機農業運動を取り上げ、ナチス期における農業を通して、環境について考える。
第13回	原子力開発を巡って-1960年代以降の西ドイツにおける環境と政治（1）	戦後西ドイツにおける原子力エネルギーの利用について検討する
第14回	緑の党と市民運動-1960年代以降の西ドイツにおける環境と政治	戦後西ドイツにおける反原発運動を取り上げ、その後のドイツの環境政党の出現や市民運動の展開について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近現代ドイツ史の概観については、矢野久/アンゼラム・ファウスト（2001）『ドイツ社会史』（有斐閣）が参考になる。また、高校での世界史の教科書で、19・20世紀のドイツについての部分を読むことも、本講義の理解の助けになるだろう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜レジュメを配布する。

【参考書】

参考書として、以下のようなものがある。
ただし、これらは、必ずしも買う必要はない。
大学図書館や公立図書館で借りるなどして読むことができれば、講義の理解の助けになるだろう。
19・20世紀のドイツ史：
矢野久/アンゼラム・ファウスト（2001）『ドイツ社会史』（有斐閣）
ドイツ環境史について
フランク・ユケッター（2014）『ドイツ環境史 エコロジー時代への途上で』（昭和堂）
フランツ＝フランツ・ブルックゲマイヤー/トーマス・ロンメルスバッハー（2007）『ドイツ環境史 19世紀と20世紀における自然と人間の共生の歴史』（リール出版）
ナチス期の農業について
藤原辰史（2012）『ナチスドイツの有機農業』（柏書房）
ナチス期の環境について
フランク・ユケッター（2015）『ナチスと自然保護 景観美・アウトバーン・森林と狩猟』（築地書館）
戦後西ドイツにおける原子力開発および反原発運動について
ヨアヒム・ラートカウ/ロータル・ハーン（2015）『原子力と人間の歴史 ドイツ原子力産業の興亡と自然エネルギー』（築地書館）
ヨアヒム・ラートカウ（2012）『ドイツ反原発運動小史 原子力産業・核エネルギー・公共性』（みすぶ書房）がある。

【成績評価の方法と基準】

レスポンスペーパー（0 - 10%）と学期末のレポート（90 - 100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド形式で行います。そのため、通信環境やパソコンなどの機材については、受講する学生各自で整えてください。個人では難しい場合は、すぐに大学の方に問い合わせ・相談してください。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めます。高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人にもわかりやすいようにすすめるので、ためらわずに聞きに来て下さい。
・春学期にヨーロッパ環境史論Ⅰを履修しているとよいです。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture deals with some topics from the history of environment in Europe, especially German in the 19. and 20. century.

GEO200HA

自然環境論 I

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれをとりまく自然環境（地形や気候、植生、水循環ほか）は、地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決してない。本授業では、日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化）との関わりのなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

【到達目標】

自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できる。
人間社会が自然環境に左右される側面を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

自然地理学のアプローチを通じ、強く関連しあう自然界の諸要素を系統的かつ平易に解説する。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	自然地理学、環境決定論、環境可能論
第2回	大気大循環	風の時空間スケール、地球のエネルギー収支、3つの循環、偏西風
第3回	海洋大循環	表層循環、深層循環
第4回	気候の要素・因子・区分	緯度、海流、地形、ケッペンの区分、アリのソフの区分
第5回	日本列島の気候（1）	気団、海流、四季
第6回	日本列島の気候（2）	偏西風蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候
第7回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、花粉、珪藻
第8回	気候変動と海水準変動（1）	気候と生活、氷期と間氷期、酸素同位体比、海水準変動
第9回	気候変動と海水準変動（2）	気候変動の要因、昨今の温暖化
第10回	プレートテクトニクス	地球のしくみ、地球表面のヒブソメトリとその要因、プレートテクトニクス
第11回	日本列島の地形環境	島弧海溝系、地形の時空間スケールと種類、地形をつくる力、日本列島の現在の地形形成環境、日本列島の地形と地質
第12回	日本列島の地震	海溝の地震、活断層の地震
第13回	土壌・水文	さまざまな土壌、風化土壌と堆積土壌、地球上の水、水循環・水収支・滞留時間、地下水
第14回	植生・動物相	暖かさの指数、日本列島の植生、植生遷移、気候変動と植生、自然植生とその衰退、日本列島の動物相、気候変動と動物相

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）・期末レポート（60％）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。期末レポートは、(1) 自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できるか、(2) 人間社会が自然環境に左右される側面を具体的に記述できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Natural environments (topography, climate, vegetation, water circulation, and so on) around our human societies vary in each place worldwide. Their origins are reasonable in terms of science, and they have reached the present status through various global, regional, and local changes in the long history of the earth. We examine spatial variation, mechanism, and history of the present-day natural environments in the Japanese island, with in mind the relationship between natural environments and human societies (life, industry, culture, and so on).

GEO200HA

自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて成立してきた。本授業では、いかなる社会もその大地の個性に根ざして成り立っていることを意識しながら、「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

【到達目標】

大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できる。
土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

背景となる自然地理学的知見を総合的に見渡しながら、地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査データを含むスライドも活用する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会	自然環境と人間社会、土地条件、土地利用、東京の自然史
第2回	「湿潤変動帯」日本列島(1)	地球のエネルギー収支、大気大循環、海洋大循環、気候因子、日本列島の気候環境
第3回	「湿潤変動帯」日本列島(2)	プレートテクトニクス、島弧海溝系、地形のスケールと種類、地形形成営力、日本列島の地形形成環境
第4回	地図	地図の歴史、測地系、地図投影法、一般図と主題図、縮尺と表示項目、空中写真、1:25,000地形図、時系列比較
第5回	地理院地図	電子国土基本図、基盤地図情報、基盤地図情報数値標高モデル、GNSSと電子基準点、GIS、地理院地図の掲載情報と活用
第6回	河川地形の成り立ちと土地利用(1)	扇状地、天井川、土地利用
第7回	河川地形の成り立ちと土地利用(2)	氾濫原、三角州、土地利用
第8回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用、海底地形
第9回	変動地形・火山地形の成り立ち	断層変位地形、離水海岸地形、マグマの組成・噴火様式・火山体、山体崩壊
第10回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、気候変動、地殻変動、土地利用
第11回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、関東ローム層、段丘面に基づく隆起量の見積もり
第12回	山地の成り立ち	山地の形成、風化と侵食、地形輪廻、水河地形
第13回	関東平野の地形発達史と古地理	段丘面の分布と成り立ち、沖積面の分布と成り立ち
第14回	人間社会が土地に及ぼす影響	江戸・東京の地形と土地利用、埋立て、造成、鉄穴流し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）・期末レポート（60％）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。期末レポートは、(1) 大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できるか、(2) 土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The land is our stage of life, on which our human societies stand. It is true that the land does not seem to change, but the land has changed repeatedly and reached the present styles through various geomorphic processes such as river flood and crustal deformation in the recent geologic time. We examine the geomorphic environment in the Japanese islands, one of the tectonically active and intensely denuded regions in the world, in order to recognize how land conditions are related to our human societies.

ENV300HA

環境科学 I

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I、II、IIIのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その 2（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク、基準の決め方（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第 16 巻，第 1 号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テスト（方法は未定）を行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト 50 %、期末試験（期末試験が行えない場合にはレポート）50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge regarding mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances.

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップしますので、事前にダウンロードしてください。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第13回	環境国際協力	事例研究
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席（50%）と期末試験（50%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China.

ENV300HA

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するレジメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特ありません。

【参考書】

藤倉良(2015)増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テストを行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト50%、期末試験50%です。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特ありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関与しました。その経験を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Students will acquire basic knowledge about the meaning of resources, the scientific nature of resources and the prospect of utilization. Major items include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals.

DES300HA

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探求するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の自然環境全体について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通じた共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考察することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの生物と生態系の特徴と、取り巻く問題
- ③森林・湿地・海洋・都市における自然と人の共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「森林・湿地・海洋・都市における人と自然の共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	北米の自然	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中南米の自然	中南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	オセアニアの自然	オセアニアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	アジアの自然	アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第6回	ロシアとヨーロッパの自然	ロシア・ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	大洋の島々の自然	主に海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第10回	森林における人と自然との共生	熱帯林の管理と利用を取り巻く現状と諸課題
第11回	湿地における人と自然との共生	湿地の管理と利用を取り巻く現状と諸課題
第12回	海洋における人と自然との共生	海洋生物と人間との関わりを取り巻く現状と諸課題
第13回	都市における人と自然との共生	都市の自然と人間との関わりを取り巻く現状と諸課題
第14回	まとめ	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業においては期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

ENV300HA

環境管理論 I

大岡 健三

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では水質汚濁防止の技術や法令などの基本知識を学ぶ。湖沼、河川、海および地下水に関するさまざまな環境問題についても学び、メインの排水処理技術に加えて、環境法の実務知識もマスターする。企業経営や環境行政、海外活動で環境の知識は不可欠であるが、社会ですぐに役立つような実務知識を本講座で習得することができる。

授業では公害防止管理者の国家資格を得るのに役立つ基礎知識の解説をするが、国家試験を受験しない文系学生も興味深く学ぶことができる分かりやすい授業内容とする。

授業では、水質汚濁メカニズムや水環境の保全策などを学び、物理化学・生物学的な排水処理技術のスキルを習得する。本講座の受講は、国家試験や民間の環境検定などの受験に役立ち、活性汚泥法や凝集沈殿など汚水処理法、さらに企業や行政の環境担当者によって日常使用される BOD/COD,ORP,SS など技術用語や環境管理の専門知識を理解できるようになる。

【到達目標】

新聞や TV などマスコミ報道でよく耳にする環境キーワードが十分理解でき、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則をマスターする。環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化処理技術を基礎から習得する。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスなど水質浄化技術の理解に加え、米国の環境科学の知見や汚染事故、海外情報なども学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指す。

実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルの理解を深める。さらに、公害総論や水質概論など公害防止管理者国家試験や民間検定などの水環境の問題を解く訓練も時々行い、授業終了段階では水環境の技術と法規の専門用語や基本概念を問う基本的問題が解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則オンデマンド方式になるが、毎回、テーマに関するパワーポイントスライドを提供する。専門誌の記事クリッピング、関連画像や図表などビジュアルを多く利用する。学んだ内容を確認するため適宜課題を出し理解度を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

各論のテーマでは、講師が国内外で取材した産業公害の事例、有名企業の汚水処理の実例、有害物質規制の概要、汚染メカニズム、環境分析等を解説する。水質浄化技術を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。

テーマは 1 回の授業でなるべく完結させるので、1 コマ飛ばしても（欠席しても）次回授業がスムーズに理解できるようにする。重要事項や難解かつ苦手のテーマは繰り返し説明して理解できるようにする。学生からの建設的なコメントや要望などは次回の講義資料になるべく反映する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	全体概要。地球の水環境、廃棄物と水質、ベトナム、マレーシア、ネパール、ブルネイ及び米国などの環境など	当講座の概要について説明。国内外の映像などを見て、環境汚染、浄化対策及び公害防止の側面から水環境の重要性を理解する。
第 2 回	環境基本法と法体系、水質環境基準	環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。公害防止者管理法等についても触れる。
第 3 回	水質汚濁防止法と排水基準	水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の具体的解説。
第 4 回	日本の水質汚濁の現状と原因 主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に検討。
第 5 回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水の汚染メカニズムを理解する。
第 6 回	物理化学的処理法 1 凝集沈殿	汚水処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。

第 7 回 物理化学的処理法 2 浮上分離、ろ過など

工場排水を浄化するための傾斜版、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。

第 8 回 化学的処理法、酸化還元、膜分離の基礎

化学処理法を学ぶ。pH 調整、酸化還元、膜分離などの基本知識及び逆浸透 RO 等高度な技術も解説。

第 9 回 生物処理法 1 概要と基礎

排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。

第 10 回 生物処理法 2、好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術

好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術も学ぶ。

第 11 回 高度処理法、活性炭処理等

排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理について学ぶ。

第 12 回 処理装置の維持管理

物理化学的処理の維持管理。活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。

第 13 回 環境法令など授業の復習と最終テスト

授業の要点復習および最終テスト実施（問題は主に簡単な選択問題）。

第 14 回 水質管理のパラメータと水質測定の基礎（河川水質調査の映像）

BOD/COD,pH,DO 溶存酸素などの知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質などの復習と全体のまとめ。また、最終テストのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。Web 公開されている公害防止管理者等国家試験などの過去問を授業中に時々使用することがある。国家試験受験希望者は市販の書籍（産業環境管理協会発行）またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントをオンデマンドで配布

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

上記 3 冊の発行所 （一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題提出に対し、その記載内容を評価する（30%）。択一式中心の簡単な最終テスト（70%）で評価。60 点以上が合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の共通する質問や意見は可能な限り次回授業の資料に反映させる。物理化学など理系の基礎知識や履修歴がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要。

なるべくパソコンで週に 1 回以上は必ず資料をダウンロードして学習すること。

【その他の重要事項】

高校で物理や化学などの教育を受けていない文系学生を対象に授業を進める。環境法令は理屈でなく、製造工場の視点で実務的内容を解説する。（過去に経済・経営など他学部の学生が数多く受講し受講後の満足度も高い。）

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

講師は大規模な汚水処理事業所の責任者も経験しており、その経験と知識で複数の海外政府向けに環境教育をしている（JICA 専門家派遣など）。そういった世界レベルのトピックスや教材も授業で時々利用する。

【Outline and objectives】

This course is designed to help you learn and understand the basic methods for water pollution control. You will also learn the various environmental issues on surface water such as lakes, streams, and ocean as well as groundwater. In addition to wastewater treatment techniques (main subjects), lectures on the environmental laws and regulations will be provided.

You can learn practical environmental knowledge required for corporate management, environmental administration, and international activities, etc. The main goal is to teach you the introductory-level knowledge useful for acquiring the national qualifications of Pollution Control Manager. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically.

By this course, you can gain useful knowledge such as Activated Sludge process and Clarifier thickening methods. Also you will understand a number of technical terms and concepts including BOD/COD, ORP, and SS, that are used by the Pollution Control Managers and government/public officers.

ENV300HA

環境管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、世界中で集中豪雨や大型台風等の異常気象が増えており、気候変動への関心が高まっています。16歳の環境活動家のグレタさんに触発され、自分に何かできることはないかと考えている人も多くいるのではないのでしょうか。公害防止管理論Ⅱでは、企業の生産活動による大気汚染を防止するための法律や技術について学びます。現在の企業の環境管理は従来の公害防止だけではなく、気候変動の緩和や適応にまで範囲が広がっています。COP21でパリ協定が採択されて以降は企業への投融資においても、ESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。そのため、企業は従来の大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

現代の環境問題を解決するには、革新的科学技術だけに頼るのではなく、経済や社会が連動して低炭素社会に向けて移行していく必要があります。

本講義では、我々が直面している環境問題をより深く思考できるようになることとし、幅広い視点で企業の大気汚染管理について学びます。大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。また、大気関連の法律体系や行政施策及び、硫酸酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄を中心として学びます。

本講義は、公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得します。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週提供されるオンデマンド教材を聴講し、講義の最後の本講義のポイントで理解確認を行う。3回程度課題を出すので、レポートを提出する。提出されたレポートに対しては、学習支援システムを通じてフィードバックする。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題	国際的な気候変動への取組、国内の大気環境問題について学ぶ。
第3回	大気保全のための各種法律及び大気の状態	大気に関する各種法律の概要（環境基準、退出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第4回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第5回	アクティブラーニング課題1	企業内における公害防止管理者の役割を調べる。不祥事の事例を調査し、その原因と改善策について考える。
第6回	燃焼管理技術	燃料の種類や燃焼計算について学ぶ。効率的な燃焼管理方法及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第7回	硫酸酸化物の処理技術	排ガス中の硫酸酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第8回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第10回	アクティブラーニング課題2	近年の大気環境汚染の課題から一つテーマを出すので、それについて調べる。
第11回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリング方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。

第12回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第13回	アクティブラーニング課題3	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴を比較する。SDGsの17のゴールとの関連についても考察する。
第14回	課題提出	本講義の理解度を確認するための課題を出すので、レポートとして提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新・公害防止の技術と法規（大気編）で講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（大気編）発行所（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

3回程度の課題に対してのレポート及び第14回目の課題提出レポートの総合点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるように、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（オンデマンド講義を聴講するため）

【その他の重要事項】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法律制定支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法律制定支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【Outline and objectives】

Recently, awareness of the climate change is raising due to increasing serious floods and super big typhoons worldwide. And someone may be stimulated by the sixteen years old environmental activist, Ms. Greta, and then thinks how to take actions against this issue.

In the lecture of the pollution control II, you study about air pollution prevention in enterprises. Recent environmental managements of enterprises should take not only conventional pollution controls but also climate change mitigation and adaptation. After Paris agreement in COP21, contribution for ESG (Environment, Social, Governance) have been becoming more significant for financing to the enterprises. Therefore, enterprises try to take various actions for reduction of GHG such as CO2, in addition to pollution controls such as prevention of qualities of air, water and soil, prevention of sound/vibration and waste managements.

Recent environmental issues can't be resolved by only innovative science technologies. It is necessary to transfer to low carbon society by linking with economy and society also.

This lecture is structured from a wide viewpoint concerning air pollution managements of enterprise to aim for making students consider environmental problems deeply which we are facing now. You can learn causes and challenges of air pollution subjects from global warming problems to PM2.5 pollution, structure of laws and regulations related to prevention of air pollution, treatments and measurements of pollutants such as sulfur oxide and dust.

The student who will take the national examination of pollution control manager can study fundamental knowledge to provision for the examination.

SEE300HA

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複眼的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義及び参加型（受講者同士のディスカッションや発表）授業で行う。提出されたリアクションペーパーは、授業内でいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育の基礎と導入	環境教育の基本と参加型授業の進め方を説明します。
第3回	環境教育の歴史と概要(1)	環境教育の歴史と実践について講義します。
第4回	環境教育の歴史と概要(2)	環境教育の歴史と実践について講義します。
第5回	持続可能な開発と教育・(1)～持続可能な開発のための教育 ESD	環境教育・ESDの概要と実践について講義します。
第6回	持続可能な開発と教育(2)	持続可能な開発の概念を深めます。
第7回	中間まとめ	これまでのまとめと受講者同士のディスカッションを行います。
第8回	批判的環境教育論について学ぶ	環境教育に関する論文を読み、講義やディスカッションを通じて理解を深めます。
第9回	自然と関わる環境教育(1)	自然体験など自然と関わる環境教育について理解を深めます。
第10回	自然と関わる環境教育(2)	自然学校について講義します(ゲストトークの可能性あり)
第11回	環境教育の多様な展開(1)	学校や学校以外におけるさまざまな環境教育について講義します。
第12回	環境教育の多様な展開(2)	環境教育教材について意義や課題などを考えます。
第13回	これからの環境教育；SDGsとソーシャルアクション	これからの環境教育の役割や在り方について考えます(ゲストトークの可能性あり)
第14回	これからの環境教育；環境教育の可能性と課題	まとめになります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
 『知る・学ぶ・伝える SDGs 1』阿部治・野田恵編著、学文社
 『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
 『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
 『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

【成績評価の方法と基準】

成績評価は学習支援システムを通じた評価を基本とします(テスト、コメントペーパー、最終レポートなどの課題を学習支援システムで提出)。

要素ごとの配分は

- ・最終レポート(8000文字以上、60%)
- ・小テスト・コメントペーパーなど小課題(30%)
- ・授業貢献(10%)

詳細については第1回目のガイダンスで説明を行うので受講する方は必ず第1回のガイダンスに参加してください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からの変更点▶成績評価を変更しました。双方向性を高めました。

【学生が準備すべき機器他】

・初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。授業資料・教材の配布や連絡、課題の提出などで授業支援システムを利用します。
 ・動画の閲覧に十分な通信環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

PHL200HA

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものである。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や、映画作品、絵本、マンガ、文学作品、美術作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討する。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握する。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、授業中ならびにリアクションペーパー提出による質疑+次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がける。

単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定である。

学生からの質問・意見や、提出物に対しては、基本的に授業時間内にフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個人の自由と反植民地主義 (1)	ジャン=ポール・サルトルの思想 (1)
第 2 回	個人の自由と反植民地主義 (2)	『存在と無』を中心に ジャン=ポール・サルトルの思想 (2)
第 3 回	個人の自由と反植民地主義 (3)	『弁証法的理性批判』を中心に ジャン=ポール・サルトルの思想 (3)
第 4 回	個人の自由と反植民地主義 (4)	『ユダヤ人問題についての考察』、『黒いオルフェ』を中心に ハンナ・アーレントの思想 (1) —— 『全体主義の起源』を中心に フランツ・ファノンの思想——『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に
第 5 回	フェミニズムの思想 (1)	オランプ・ド・グージュ、メアリ・ウルストンクラフト、J・S・ミルの思想を中心に
第 6 回	フェミニズムの思想 (2)	シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想 —— 『第二の性』を中心に
第 7 回	全体主義批判と人間性の問題 (1)	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第 8 回	全体主義批判と人間性の問題 (2)	ハンナ・アーレントの思想 (1) ——
第 9 回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	『全体主義の起源』を中心に ハンナ・アーレントの思想 (2) —— 『エルサレムのアイヒマン』、クロード・ランズマン『シヨア』、ロニー・ブローマン/エイアル・シヴァン『スベシャリスト』を中心に
第 10 回	全体主義批判と人間性の問題 (4)	ハンナ・アーレントの思想 (3) —— 『人間の条件』、『革命について』を中心に
第 11 回	規律と権力 (1)	ミシェル・フーコーの思想——『監視と処罰』を中心に

第 12 回 規律と権力 (3)

ミシェル・フーコーの思想——『社会は防衛しなければならない』、『安全・領土・人口』、『生政治の誕生』を中心に
ジョージ・オーウェル『1984』、ジル・ドゥルーズの管理社会論
エティエンヌ・バリバルと 2010 年代の現代ヨーロッパ社会、アキ・カウリスマキ『希望のかた』

第 13 回 規律社会から管理社会へ

第 14 回 境界の内と外

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布する。

【参考書】

市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013 年。
宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013 年。

坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014 年。

坂本治也編『市民社会論——理論と実証の最前線』、法律文化社、2017 年。
仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキアヴェリからサンデルまで』、法律文化社、2013 年。

同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014 年。

山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004 年。

同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009 年。

同『公共哲学からの応答——3・11の衝撃の後で』、筑摩選書、2011 年。

ほか

* 各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート (20%) + オンライン試験 (80%)

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくすよう努力する。また、パワポを使う際は、もう少し視覚的にわかりやすいようにポンチ絵などを使うようにする。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom に接続可能な機器・接続環境が必要になることがある

【その他の重要事項】

2016 年度に「人間環境特論（西洋社会思想史 I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme : Contemporary Social Philosophy
We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

PHL300HA

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「労働」の思想的系譜

フランスでは、リセ（高校）の最終学年で哲学を学ぶことが必修とされています。大学入学資格試験に当たるバカロレアにおいても、人文系であれ、社会科学系であれ、自然科学系であれ、哲学は受験必須科目であり、生徒たちは4時間かけて、ディセリタシオンというフランス式小論文の形式で問題に取り組んでいます。

本講義では、人間環境学部、ならびに学部の軸理念である「サステイナビリティ」の学問内容とも関わりの深いテーマを選び、みなさんと一緒に考えていきます。今年度は、2016年度バカロレア試験の理系の選択問題だった「労働を減らせば、より善く生きることになるのか（Travailler moins, est-ce vivre mieux ?）」をテーマとして設定します。

ただし、あくまで大学の学部専門科目として、それにふさわしいレベルで「労働」についての思想的知識を身につけたうえで、設定したテーマについてみなさんが見解を示すことが目的です。

社会では「働き方」について見直されつつある昨今、改めて「労働」とは何かについて根本的に考えてみましょう。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

*「労働」についての思想的系譜を把握したうえで、その知識を基にして「労働を減らせば、より善く生きることになるのか」という問題設定に対して自分自身の見解を示すことができるようになること。

*その際に、日本語のかたちであれ、ディセリタシオンの形式を身につけて、論理的に上記に関する見解を論じることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑×次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。学生からの質問・意見や、提出物に対しては、基本的に授業時間内にフィードバックを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	映画作品から考える「労働」	ダルデンヌ兄弟『サンドラの週末』、ケン・ローチの作品などを中心に
第2回	近代の思想家が見る「労働」(1)	ジョン・ロックの労働所有権論と十分性条件
第3回	近代の思想家が見る「労働」(2)	ルソーの『人間不平等起源論』と『社会契約論』における「労働」について
第4回	近代の思想家が見る「労働」(3)	アダム・スミスの労働価値説
第6回	近代の思想家が見る「労働」(4)	ヘーゲルにおける「主人と奴隷の弁証法」および、市民社会と労働について
第7回	近代の思想家が見る「労働」(5)	初期社会主義者と「産業社会」
第7回	近代の思想家が見る「労働」(6)	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など
第8回	近代の思想家が見る「労働」(7)	カール・マルクス『資本論』
第9回	近代の思想家が見る「労働」(8)	マックス・ヴェーバー、プロテスタンティズムと禁欲的労働

第10回	現代の思想家が見る「労働」(1)	ハンナ・アーレント、ジャン＝ポール・サルトル、ミシェル・フーコーそれぞれの労働論を春学期の復習も兼ねて学び直す
第11回	現代の思想家が見る「労働」(2)	ジル・ドゥルーズの「管理社会」論
第12回	現代の思想家が見る「労働」(3)	アントニオ・ネグリ／マイケル・ハートの「非物質的労働」と「マルチチュード」論
第13回	現代の思想家が見る「労働」(3)	イヴァン・イリイチの「シャドウ・ワーク」論
第14回	まとめ	今学期のテーマに関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつと時間をかけて格闘すること。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

市野川容孝・渋谷望編『労働と思想』、堀之内出版、2015年。
 ラース・スヴェンセン『働くことの哲学』小須田健誌、紀伊國屋書店、2016年。
 立正大学文学部哲学科編『哲学 はじめの一步：働く』、春風社、2017年。
 市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013年。
 宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013年。
 坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014年。
 坂本治也編『市民社会論——理論と実証の最前線』、法律文化社、2017年。
 仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキアヴェリからサンデルまで』、法律文化社、2013年。
 同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014年。
 山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004年。
 同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009年。
 同『公共哲学からの応答——3・11の衝撃の後で』、筑摩選書、2011年。
 ほか
 *各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメントシート（20%）+学期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくします。また、記号の使い方、ポイントの大きさなどにも留意いたします。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomに接続可能な機器・接続環境が必要になることがある。

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme : Philosophical Genealogy of "Work" and of "Labor"

We consider the following issues on the basis of philosophical knowledge; "Labor" and "Work".

CAR100MA

職業選択論Ⅰ

基幹科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・4 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では働くこと・職に就くことを、アルバイト、就職活動、初期キャリアにわたって考えます。

なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や、正社員の長時間労働が、なぜ起きてしまうのか、どう対処できるのか。そういった問題を考えていくことを通して、若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

個人のキャリアの上でも大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は今回の授業でフィードバックし、多面的なものを見方を促すと共に理解を深めます。中間と期末、2回のレポート課題を出します。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス／各自の問題意識の論述	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介／各自の問題意識の論述
2	各自の問題意識の共有	就職と初期キャリアをめぐる各自の問題意識の共有
3	大卒労働市場の現状	卒業生の進路状況／新規採用と中途採用の違い／早期離職
4	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	それぞれの特徴とワークライフバランス上の課題
5	キャリア教育とインターンシップ	キャリア教育と職業希望／インターンシップの目的・現状・課題
6	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力の関係
7	アルバイトから働き方を考える	アルバイト就労の現状、アルバイトと労働法
8	職場の問題への向き合い	アルバイト職場の改善に向けて／労働組合とは
9	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の必要性
10	「まともな働き方」とワーク・ライフ・バランス	長時間労働問題への視点
11	労働条件と労働契約	労働契約としての就職／内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
12	就職活動における客観情報の活用（1）	「就職四季報」の活用
13	就職活動における客観情報の活用（2）	各種データベースの活用
14	初期キャリアとリアリティ・ショック／セーフティネットと転職	初期キャリアの課題／社会保障／転職状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
- ・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
- ・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブル Q & A』旬報社
- ・東洋経済新報社編『就職四季報 総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点40点）と中間レポート（配点20点）、期末レポート（配点40点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは課題レポートの代筆・盗用が判明した学生には、単位を付与しない（E評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられる。今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメは学習支援システムに事前に掲載する。各自、プリントアウトするなどして準備すること。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a basic understanding of the School-to-Work transition. Main topics are characteristics of Japanese School-to-Work transition, career decision, labor problems and labor laws.

HIS200MA

学習の社会史 A

展開科目

山口 真里

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもはいつの時代にも存在しますが、子どもへのまなざしや社会における位置づけは時代や地域により異なります。同様に、子どもが何を学ぶべきか、その学びがどのように行われるかも一様ではありません。たとえば私たちの社会では、すべての子どもが学校に通って一定の内容を学ぶことが制度化されていますが、こうした学校中心の教育が始まったのは近代になってからのことです。

この授業では、西洋教育史をベースに、子どもにどのようなまなざしが向けられ、学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。そして、私たちの社会で当たり前になっている子ども観や教育、およびそれが抱える問題と、それらの歴史がどのように関わっているのか、深く掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることで、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】

- ・西洋における子ども観や学びの変遷を、その背景にある歴史事象と共に説明できる。
- ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom 使用）を予定しています。
- ・授業資料を提示しながら授業を進めます。
- ・必要に応じて、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いたグループディスカッションを行い、受講生同士で意見交換します。
- ・授業内容の理解を深めるために、学習支援システムを利用したリアクションペーパーを実施します。
- ・提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げてフィードバックし、他の受講生がどのように考えたのか共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第 2 回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第 3 回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第 4 回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第 5 回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第 6 回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第 7 回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけ 女子の教育
第 8 回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第 9 回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第 10 回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第 11 回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第 12 回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第 13 回	現代の子どもの学びと諸問題	多様化する家族と学校の抱える諸問題 子どもをとりまく諸問題と子ども観の変容
第 14 回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・配布資料を用いて授業を予習復習し、知識の定着を図ります。
- ・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業資料を配布します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 60 %、リアクションペーパー 30 %、授業への貢献・平常点 10 % を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の 2/3 以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からのフィードバックを重視して、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布や課題提出に学習支援システム等を利用します。パソコン等、対応できる情報機器を準備してください。

【Outline and objectives】

Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role in education.

In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.

Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

HIS200MA

学習の社会史 B

展開科目

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。日本史、日本教育史について、議論の土台となる基礎的な知識を共有するために、復習的に振り返る。

【到達目標】

授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史、日本教育史の基礎的な知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンラインで授業を行う。あらかじめ指定した文献や資料をもとにオンデマンドで講義を行うが、知識の定着を促すため、ワークシートや小テストを課す場合があること、授業内容に対する質問を掲示板で授業時間内に受けることから、原則として授業時間（リアルタイム）にアクセスすることを求める。また、講義内容によっては、リアルタイムオンラインで、相互の議論を求める場合がある。その場合は事前に告知する。
課題提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。
第 2 回	近代化の影響	日本の近代化を、個人と家族、地域共同体、国家の関係がどのように変質したのかという観点から学ぶ。
第 3 回	近代以前の社会と学習	古代、中世、近世における諸制度と教育機関について学ぶ。とりわけ、近世における経済の発展と庶民の学習に重点を置く。これらを通して近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第 4 回	試験の社会史	近代日本社会において、試験というシステムがどのように浸透していったのかを考える。
第 5 回	学歴の社会史	学歴がなぜ重要視されるようになったのかについて、近代的職業の発達との関連から理解する。
第 6 回	競争と管理の学校史	学校という仕組みのなかに「競争」や「管理」がどのように浸透していったのかを学ぶ。
第 7 回	運動会、ブルマーの社会史	体育と近代の関係を考える。
第 8 回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第 9 回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第 10 回	近代化以降の社会の発展と学校教育制度の整備	明治維新後の学校教育制度の整備、発展について、これまで学んだことを制度的に跡付けるかたちでまとめる。とくに産業構造との関係に主眼を置く。
第 11 回	太平洋戦争後の制度改革と教育	戦後の制度改革から今日までの流れを概観しながら、教育制度の変化を学ぶ。
第 12 回	地方都市と教育	近代化以降広がる貧富の差、地方都市と大都市との格差などがどのように政策課題として扱われてきたのかを学ぶ。
第 13 回	大衆と教育	勤労青年と学歴エリートに注目しながら、働きながら学ぶ集団の誕生とその意義について学ぶ。
第 14 回	まとめと試験	我々はなぜ学ぶのかについて考え、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定文献の精読、配布プリント課題を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の振り返りミニテスト 40 %、試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しています。働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていきけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。男女の働き方の現状と課題を理解する。
 <まともな働き方>を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では現在の若年労働市場や働き方の現状と問題点の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。中間レポートと期末レポートの執筆を求めます。授業はオンライン（オンデマンド方式）で行う予定です。詳しくは学習支援システムにて指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介
2	正規雇用と非正規雇用	正規雇用と非正規雇用の違い／雇用契約と処遇
3	雇用ポートフォリオと不本意非正規	雇用ポートフォリオ／多様な働き方の現状と課題
4	企業と労働者の双方から見る非正規雇用	調査結果から見る多様な働き方
5	非正規雇用の処遇改善	無期転換と同一労働・同一賃金
6	派遣労働を考える	派遣労働の特徴と問題点
7	雇用によらない働き方	雇用によらない働き方の特徴と課題
8	中間レポート振り返り	中間レポートの解説
9	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態、夫婦の生活時間・仕事時間
10	男女の働き方とワークライフバランス（1）	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法などの法制度と実態
11	男女の働き方とワークライフバランス（2）	コース別雇用管理、就業継続をめぐる課題
12	男女の働き方とワークライフバランス（3）	事例から見る企業の実情
13	離職・転職を考える	長期安定雇用と転職の現状
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
- ・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
- ・森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書
- ・川人博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
- ・久原穂（2018）『働き方改革』の嘘』集英社新書

・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
 ・石田真・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

随時、計 4 回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が 0～1 回の学生や、いずれかのレポートに代筆や剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、キャリア形成について考えさせられた、身近な問題と考えさせられた、といった感想が見られる。働き方をめぐる現在の変化と皆さんの働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの受講環境を整えておくこと。具体的には、学習支援システムにて指示する。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方、ミニ・レポートについて、中間レポートおよび期末レポートについて等の説明を行いますので、必ず出席すること。「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれる。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a basic understanding of the changing labor market and work styles. Main topics are diversification of employment types, long hours of work, work-life-balance, and gender equality.

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要的な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業はオンライン形式、かつオンデマンド型とリアルタイム型を組み合わせる形で行います。オンデマンド型とリアルタイム型それぞれの回数は7回程度を予定しています。

オンデマンド回では、あらかじめ録画した動画を配信します。一方、zoomを用いたリアルタイムでの双方向型の授業では、木曜2限にzoomを使った授業を行います。

原則として隔週で、オンラインとオンデマンドを実施しますが、外部講師によるご講演（オンライン）のご予定により、変更が生じる可能性があります。詳しくは第1回の授業の際に説明します。

また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	初期キャリアにおいて重要になる職業興味
第3回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第4回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第5回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第6回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第7回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習
第8回	能力を高める②	仕事をもたらす一皮むけた経験
第9回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第10回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第11回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第12回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取り組み
第13回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第14回	今日のトピックス②	ダイバーシティとしての女性活用の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP 新書
守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫

【成績評価の方法と基準】

ミニ課題（原則毎回） 40 %
途中課題（3回） 30 %
期末課題（1回） 30 %

いずれも学習支援システム上に提出です。課題は、授業内容についての理解度ならびに、学習した事項に基づいた応用問題です。システムトラブル以外での提出遅延は不可です。

【学生の意見等からの気づき】

zoomでの授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようになります。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いるPPTを事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

1-2 回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline and objectives】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

MAN200MA

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。つまり、個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえます。そのために、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

授業を通じて、ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識を習得すること、キャリア開発が企業の人事管理はもとより社会の構造と関連していることについての視点をもつこと、ビジネスキャリア開発の背景にある社会構造について理解すること、を旨とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。

本授業はオンラインで実施し、「オンデマンド」を中心にして「リアルタイム型」を3-4 回程度含める予定です。具体的な予定は、第1 回の授業で説明するとともに、学習支援システムで連絡をします。

「オンデマンド」の授業では、原則として、テキストと配布資料による学習、動画での説明、を組み合わせ実施します。

毎回出席確認のためのテストもしくはコメントを学習支援システムで提出してください。授業日から3 日以内の提出を出席とみなします。

授業で使用する資料等は、「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。

課題等に対するフィードバックに関しては、出席確認のためのテストやコメントについては、次の回に授業でフィードバックします。また、授業内で実施するテスト等についても、適宜授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する
4	経営環境とキャリア自律	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	ダイバーシティ経営	キャリア開発の新しい動向であるダイバーシティ・マネジメント
6	正社員の多元化とキャリア	正社員の働き方の現状、多元化の動向
7	確認テスト（前半）	授業内に学習支援システムでテストを実施
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方をめぐる問題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い
12	非正規雇用とキャリア開発、ブラック企業問題	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題、ブラック企業問題
13	確認テスト（後半）	授業内に学習支援システムでテストを実施
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料は学習支援システムを通じて事前に提供します。それをプリントアウトして授業に臨むと円滑に進めます。

【テキスト（教科書）】

テキストは、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う』（2016年、中央経済社）です。

テキストがあることを前提にして授業を進めるので、必ず購入等をお願いします。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、テキストに参考文献が掲載してあります。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。また、授業に関連する内容で文献を知りたいという希望があればいつでも質問をしてください。

【成績評価の方法と基準】

当初定期試験を予定していましたが、試験は実施しません。

評価は、出席（提出された内容も含む）6 割、レポート4 割で評価します。出席は、毎回授業の終わりに課題や簡単なテストをもらい、それで確認します。内容についても評価の対象です。提出期限は土曜日まで、となります。レポートは2 回提示する予定です。レポートにおいて剽窃が判明した時点で「D評価」とします。どれだけ出席をしていてもD評価になるので、気を付けてください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からの質問には丁寧に対応しますので、質問があれば積極的にお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントと音声で実施するので、それを受信できるようにしてください。

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will examine how a personal business carrier is developed in the relation with social structure and the employment system. In addition, they will understand a theoretical frame about career development and learn a viewpoint, methodology to approach the current situation of the career development. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

MAN200MA

【2013 以前入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅰ

MAN200MA

【2014 以降入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅰ 展開科目

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。大手企業へ就職、起業家を志す者いづれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創造に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。講義・講義では After コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義 1	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義 2	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ 1- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り 1	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義 3	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ 2- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り 2	社会人・起業家に対してアイデアを発表する 2
第 11 回	講義 4	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ 3- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする

第 14 回 発表・振り返り 3

社会人・起業家に対してアイデアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらおう予定です。

【学生が準備すべき機器他】

【履修の条件】

- 1：自分の PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってもらいます。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.

For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA

【2014 以降入学生用】アント レプレナーシップ論Ⅰ

展開科目

MAN200MA

【2013 以前入学生用】アント レプレナーシップ論Ⅰ

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創造に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。講義・講義では After コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義 1	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義 2	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ 1- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り 1	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義 3	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ 2- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り 2	社会人・起業家に対してアイデアを発表する 2
第 11 回	講義 4	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ 3- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする

第 14 回 発表・振り返り 3

社会人・起業家に対してアイデアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらおう予定です。

【学生が準備すべき機器他】

【履修の条件】

- 1：自分の PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってもらいます。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.

For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA

【2014 以降入学生用】アント レプレナーシップ論Ⅱ

展開科目

MAN200MA

【2013 以前入学生用】アント レプレナーシップ論Ⅱ

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。コロナ後の世界で何が求められるのか新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。

大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創造に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

後期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。

ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義では **After** コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義 1	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義 2	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ 1- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する 1
第 7 回	講義 3	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ 2- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第 11 回	講義 4	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ 3- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする

第 14 回 発表・振り返り

社会人・起業家に対してアイデアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらおう予定。

【学生が準備すべき機器他】

- 1：自分の PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3： Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってまいります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.

For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA

【2013 以前入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅱ

MAN200MA

【2014 以降入学生用】アント 展開科目
レプレナーシップ論Ⅱ

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。コロナ後の世界で何が求められるのか新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。

大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創造に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

後期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。

ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義では **After** コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義 1	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義 2	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ 1- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する 1
第 7 回	講義 3	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ 2- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第 11 回	講義 4	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ 3- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする

第 14 回 発表・振り返り

社会人・起業家に対してアイデアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらおう予定。

【学生が準備すべき機器他】

- 1：自分の PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってまいります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.

For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

榎並 利博

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・4 | 配当年次：2~4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●授業概要

IT/ICT から AI/IoT の時代へ、技術革新はグローバル化やスーパー資本主義をますます加速し、GAF A などの巨大 IT 企業が世界を支配し始め、政治は米国や Brexit に見られるように保護主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学び、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

- ・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
- ・地域や社会における課題の発見方法を身につける
- ・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・新型コロナウイルスの影響により、本授業はオンラインの「オンデマンド型」で実施します。
- ・具体的には、講義・討論中心の授業ではなく学習支援システムによる授業を行います。（学習支援システムによる教材の提供、課題レポートの提出、フィードバックなど）
- ・授業日当日に講義資料と解説資料を学習支援システムにアップロードします。
- ・その講義資料と解説資料をダウンロードして学習し、そこで提示された課題について課題レポートを提出してもらうことで授業を進めていきます。
- ・課題レポート提出は出席確認のためであり、過度な負荷にならないようにします。
- ・なお、提出された課題レポートについては、よく理解できている点や不十分な点を取り上げたコメントを全員にフィードバックし、授業の理解を深めてもらいます。
- ・そのほか、学習支援システムを通じた双方向の議論なども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバル化、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第 2 回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの

第 3 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステナブル・コミュニティ、ステュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）
第 4 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第 5 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第 6 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第 7 回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしての IT、技術革新（IT）の可能性と課題
第 8 回	地域を変革する有効な IT モデルとエクイティ文化	3 つの成功事例と 2 つの失敗事例から探る IT による活性化の条件、地域経済活性化 5 段階モデルとエクイティ文化の関係
第 9 回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第 10 回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第 11 回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第 12 回	新しい動き：地域課題を発見するツール（RESAS）	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法 技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第 13 回	新しい動き：シビックテック	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
第 14 回	新しい動き：AI/IoT や Society5.0、スマートシティなど	AI/IoT や Society5.0 など技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の学習時間は準備・復習・課題レポートを含め、各回 2 時間を標準とします。
- ・なお、第 3 回から第 6 回は『社会変革する地域市民—ステュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第 8 回から第 10 回は『地域イノベーション成功の本質』のテキスト（教科書）を事前に学習してください。

【テキスト（教科書）】

- ・『社会変革する地域市民—ステュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者：D. ヘントン、K. ウォレシユ、J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規 2005 年 1 月
- ・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規 2014 年 8 月

【参考書】

- ・『サステナブル・コミュニティ—持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版 1995 年
- ・『エンジェル・ネットワーク—ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社 1996 年
- ・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口典夫、ダイヤモンド社 2007 年
- ・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社 2006 年
- ・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社 2002 年
- ・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008 年
- ・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBS プリタニカ 1986 年

そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍や URL を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況）40 %、最終レポート 60 % を目安に評価します。100 点満点で、60 点以上が合格。

※平常点（授業での学習状況）は、講義ごとに毎回提出してもらう課題レポートの提出状況で評価します。また、最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、これを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

課題レポートの提出等は、学習支援システムから「テキスト入力」で行ってもらいます（形式の不備等が生じるため、ファイル添付による提出は認めません）。そのため、あらかじめ Word 等で文書を作成したうえで、それをコピー＆ペーストでテキストボックスに入力するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料等のダウンロード、課題レポートの提出等で PC が使用可能であること（Word、電子メールなど）。新型コロナウイルスの影響により対面授業ができないため、学習支援システムを使用して授業を進行していきます。

【その他の重要事項】

シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務の経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。

【Outline and objectives】

In the era of AI/IoT from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFAs begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend like U.S. and Brexit. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.

The objectives are the followings.

- ・ Understand the citizenship
- ・ Learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
- ・ Be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

SOC200MA

コミュニティ社会論 I

展開科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通した異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通じ、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本授業はオンライン型の授業となります。初回授業は Zoom によるリアルタイム方式とし、以後のリアルタイム方式/オンデマンド方式の割合については、学習支援システムにて提示します。

初回授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 播／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第 2 回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第 3 回	性別役割分業の歴史の変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第 4 回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第 5 回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第 6 回	19 世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第 7 回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第 8 回	官僚制の歴史の変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第 9 回	地理的世界の拡大とネットワークの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第 10 回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第 3 回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する

第 11 回	歴史と社会を見る目 (1)	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第 12 回	歴史と社会を見る目 (2)	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第 13 回	歴史と社会を見る目 (3)	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第 14 回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のペースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験もしくは期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末試験もしくは期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、試験もしくはレポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

春学期末の時期に、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、試験かレポートかを決定し、学習支援システムにてお知らせいたします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

(1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。

(2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本授業はオンライン型の授業となります。初回授業は Zoom によるリアルタイム方式とし、以後のリアルタイム方式/オンデマンド方式の割合については、学習支援システムにて提示します。

初回授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 / 「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第 2 回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第 3 回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第 4 回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第 5 回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第 4 回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第 6 回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第 7 回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第 6 回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第 8 回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第 9 回	社会史的視点 (1)	19 世紀末から 20 世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第 10 回	社会史的視点 (2)	20 世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第 11 回	社会史的視点 (3)	戦後の流行歌を取り上げ、大衆の生活の様相について理解する

第12回	社会史的視点(4)	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる
第13回	歴史と社会の再生産	第12回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第5回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第14回	まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめる

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに活用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のペースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験もしくは期末レポート(70%)、平常点(30%)。

期末試験もしくは期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、試験もしくはレポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー(小レポート)、受講態度の状況を基準とします。

秋学期末の時期に、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、試験レポートかを決定し、学習支援システムにてお知らせいたします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします(個別の問い合わせには応じられません)。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

SOC200MA

アート・マネジメント論 展開科目

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講semester：春学期

曜日・時限：月・4 | 配当年次：2~4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性(クリエイティビティ)」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとなって生み出されるアート、もしくはアートの必要要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートの持つ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産(創造)され、流通(普及)し、消費(鑑賞)されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」(アーティスト)と、アートを「見る人」(観客、愛好家、市民など)のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」(サポーター、マネージャー、プランナーなど)に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めたオンデマンドでの講義を実施する予定です。講義ではリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。リアクションペーパーへのフィードバックは毎回講義内でいくつかりあげコメントとして返しますが、個別の質問等にもできるだけ対応したいと思います。その他、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、オンラインでのフィールドワークやゲスト講師による講義を行います。なお、ゲスト講師による講義は、場合によってはリアルタイムで行う可能性があります。その場合は事前に参加者の確認をとるようにつとめます。基本的に、講義の内容、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第2回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第2回	コロナ禍におけるアートの現状	コロナ禍における文化芸術の現状について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第3回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第4回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第5回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第6回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第8回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第9回	フィールドワーク	オンラインにより、劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第10回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実際について学ぶ。
第11回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第12回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこの課題や問題点を学ぶ。

第13回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。
第14回	授業のまとめ・最終課題説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場についてリサーチし、現代の日本におけるアートの諸相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりすることが求められます（フィールドワークはすべてオンラインになります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布やリンク先の指示を行います。

【参考書】

『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）

『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの講義となるため、授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（60%）と最終課題（40%）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインベースの講義になるため直接お会いする機会がつかれませんが、希望者にはzoomなどで質問をしていただく機会もつくりたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline and objectives】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

梅崎 修、上西 充子

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期

曜日・時限：火・4 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄附講座です。毎回、職場の最前線で活躍する労働組合関係者をゲスト講師としてお招きし、労働組合の活動について事例を交えながら講義してもらいます。働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、企業情報や業界情報を交えながら講義してもらいます。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどうのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場の最新情報を開けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。2021年度は対面を予定しておりますが、コロナウィルスの感染状況に応じてオンライン・リアルタイム（Zoom）を利用）での開講となる可能性もあります。具体的なオンライン授業の方法などは第1回の授業で説明します。受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、法政大学のwebサイト上にある「学習支援システム」において、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄附講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄附講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらおう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学ぶ。
3	【課題提起②】 いま働く現場で何が起きているのか～労働相談からみた若者雇用の現状～	労働相談事例の中から、若者の声を中心に紹介することで、現在職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割について理解してもらおう。
4	【ケーススタディ①】 労働組合の役割と組合員員の活動 ～現場の意見集約から職場の課題改善をめざす～	労働組合は、仕事や働き方に関する組合員の不満・要望にどのように対応しているのか。どのような方法で現場の意見集約を行い、職場の課題改善に努めているのか。労働組合の苦情処理・日常活動の取組み事例を通して、「職場こそ原点」といわれる労働組合の果たす役割と意義について考える。

- 5 【ケーススタディ②】 非正規労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み
なぜ、非正規労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。流通産業を事例に、非正規労働者の課題を考える
- 6 【ケーススタディ③】 働く人が健康で安心して暮らすための労働時間の短縮に向けた取り組み
課題は何か。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例から考える。
- 7 【ケーススタディ④】 雇用と生活を守る取り組み
技術革新やグローバル化が進む中、働く人の雇用や生活はどうなるのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等について考える。
- 8 【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み
男女がともに働き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む事例から考える。
- 9 【ケーススタディ⑥】 公務労働の現状と公共サービスの役割
「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた取り組み事例から考える。
- 10 【課題への対応①】 国際労働運動の役割 ～グローバル化への対応
進行するグローバル化に労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関との関わり、多国籍企業問題に対する取り組み、労働分野の開発協力活動などの事例を聞き、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割について考える。
- 11 【課題への対応②】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み
労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みから考える。
- 12 【課題への対応③】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み
働く者を守るために、労働組合は働き方に関わる法改正にどのように関わっているのか。健康・安全確保のための労働時間制度の見直しや、雇用形態に関わらないすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みから考える。
- 13 【論点整理】 「働くということ」と労働組合
ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。
- 14 【修了講義】 連合運動の現在と未来～これから社会へ出る皆さんへ～
すべての働く者が安心して暮らすことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席（コメント内容含む）が 50 %、レポートが 50 %。出席を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【Outline and objectives】

This course is provided by RENGO, the Japanese Trade Union Confederation.

Every time, the guest lecturer who is active in a labor union will lecture on labor circumstances and the industry trend. This class will be the very valuable opportunity when students can understand the latest information about the work place.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：土・1 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき 7 つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化させるリーダーシップ
⇒ モチベーション・マネジメント
⇒ 4 つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
⇒ 自分自身の 20 代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりですが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 各学部のアイデンティティ 就業力とは 学生と企業の認識差 社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション データの見方 討議の手法 ブレインストーミング

3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリースーツ解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	商社事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	商社事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノゾクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）－3 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
*事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

・受講態度（発言数・発言内容）	⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）	⇒ 30点
・グループワークでの貢献度	⇒ 30点
・期末テスト	⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更には就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのこと。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にはヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：土・1 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対応、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行います。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数により、グループワークを中心に、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究-1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	21世紀の生き方へ ライフスタイル研究-2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解

7	課題レポート&プレゼンテーション-1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究-3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力（ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）-1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（PBL）-2 学生日線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワークショップ （一部英語で実施）	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼンテーション-2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）-3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点
・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
・期末テスト ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立つとのこと。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。

文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

プログラミング (MATLAB)

伊藤 克亘

必選区分： | 配当年次/単位：年次 / 4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルメディアの代表的データである画像や音声をコンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようにすることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどのような特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「デジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

【到達目標】

3 年次や卒業研究で、デジタル信号処理が必要になったときに MATLAB で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。

課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、最終課題のレポートに関しては、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/MATLAB 入門	授業の目的の説明、および MATLAB の紹介
2	簡単な音声処理（音声の時間領域処理）	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFT の使用方法と音声の周波数処理
5	フィルタ（音声の時間領域処理）	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFT を用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性
9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類
13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

書名: MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2019

【参考書】

書名: デジタル・サウンド処理入門

著者名: 青木直史

出版社: CQ 出版社

出版年: 2006

書名: Digital Signal Processing First, Global Edition

著者名: James H. McClellan, Ronald W. Schafer, Mark A. Yoder

出版社: Prentice Hall

出版年: 2016

書名: はじめての画像処理技術

著者名: 岡崎

出版社: 工業調査会

出版年: 2000

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (50%) および最終課題 (50%) で評価する。ただし、最大 20% 程度、予習課題や演習課題の取り組み状況および授業での発表などの平常点を加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノート PC を利用することを前提とする。演習は貸与 PC を利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

FFT の知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学 2」を並行して履修することを勧める。

また、受講希望者は、第 1 回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2019b をインストールすること。

<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>

https://software.k.hosei.ac.jp/matlab_manual/MATLAB_student.pdf (後者の URL は VPN で大学につないでいないとアクセスできないので注意)

【Outline and objectives】

In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by yourself. Most of these methods are based on mathematics. In this lecture, as an introduction, in order to get used to programming mathematical algorithms, it is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding of these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing and speech processing.

MAT247KA-GMP-351

微積分法の応用：フーリエ級数と変換

秋野 喜彦

必選区分： | 配当年次/単位：年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声や画像の信号を振動数ごとに分解・再構築する手法の基本となるフーリエ級数やフーリエ変換を学びます。応用上で重要な離散フーリエ変換についても基本を理解します。

【到達目標】

フーリエ級数とフーリエ変換に親しみ、さらに離散フーリエ変換の特徴を理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

現象を数式を用いて扱う能力を養うため、講義だけでなく自ら問題を解くようにしてもらいます。さらに、毎回課題を解き・提出してもらいます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。また課題や試験問題の中から、理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックしていきます。

「積分法の基礎と応用」の単位取得が前提となります。数学の道具立てを使いこなせるようになるため、出される課題に正面から取り組むことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	【周期現象と三角関数】	周期現象を表すための基本である三角関数の性質を復習します。とくにサイン・コサインの直交性と呼ばれる関係が重要です。
No.2	【フーリエ三角級数の定義と基本的な性質】	サインとコサインの重ね合わせで表され周期関数のバラエティに注目します。逆に、周期関数をサインとコサインに展開するフーリエ三角級数を定義します。 サインとコサインを使う意味を考えます。
No.3	【フーリエ三角級数の計算例】	フーリエ三角級数の具体例を見ます。振動数スペクトルについて理解します。
No.4	【複素指数関数と複素フーリエ級数の定義】	複素平面の使いかた、複素指数関数の定義と基本的な性質（直交性、微積分）、サイン・コサインとの関係を復習します。フーリエ三角級数と複素フーリエ級数の関係を理解します。
No.5	【複素フーリエ級数の計算例】	複素フーリエ級数の計算例を見ていきます。
No.6	【複素フーリエ級数の性質】	パーセバルの等式、ギプス現象、一様収束と平均収束など。
No.7	【フーリエ変換の定義】	周期が無限大の極限でフーリエ係数がどのように変化するかを観察し、フーリエ変換と逆変換を定義します。フーリエ変換の意味を理解します。
No.8	【フーリエ変換の例】	サイン・コサイン、単一パルス、指数関数、ガウス関数のフーリエ変換を計算します。

No.9	【フーリエ変換の性質】	実部と虚部の意味、変数をシフトした影響、導関数のフーリエ変換など。 δ 関数や階段関数にも注意します。
No.10	【フーリエ変換の応用】	微分方程式の解法と畳み込み積分の計算を学びます。
No.11	【系の応答特性】	線形系と時不変系のインパルス応答と周波数応答
No.12	【離散フーリエ変換の定義】	波形のサンプリングとデータから復元できる波形について学びます。DFTの定義を導入します。
No.13	【離散フーリエ変換の性質】	周期、対称性、直交性など、実際に計算して理解します。
No.14	【離散フーリエ変換とフーリエ変換】	DFTをフーリエ変換によりシミュレートし、DFTについて理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は、学習支援システムあるいは講義時間中に指示します。なお、本授業の準備・復習・課題等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを通じて、必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

課題・授業内ミニテスト・中間試験の合計（50%）、期末試験（50%）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

音声・画像処理など情報科学の応用を目指すときに基本となる内容を学びます。

【Outline and objectives】

In this class, we will study Fourier series and Fourier transform, which are the basis of deconstructing and reconstructing the sounds and image signals. Discrete Fourier transform, which is also considered to be important tool for real applications, will be partially included.

BSC100CA
化学A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「化学」の知識は、身のまわりにあるさまざまな自然現象を理解するために重要です。「物質」や「反応」によって支えられている私たちの体や地球環境、めまぐるしく発展する科学技術の姿について「化学」を通じて学びましょう。

【到達目標】

「身近な商品」の中から、その物質の性質や変化について、基礎的で正確な知識の習得を通して「化学」を学ぶ。社会的、文化的、政治的、経済的、および倫理的な絡み合いの中にある「化学」の位置づけを理解し、合理的な判断力を養うこと（科学リテラシーの修得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

親しみある身近なトピックスを主体に「化学」の知識と理解を深めていきます。講義の中でデモ実験、ネットワーク学習（学習支援システム）、映像教材を取り入れ、授業内容の理解を促します。ほぼ毎回アクションペーパーまたは課題で理解度チェックを行います。学生へのフィードバックとして代表的なものを授業内でフォローします。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上またはオフィスアワーで解説などの対応をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	『シャープ芯、消しゴム、ノート』	講義のガイダンス。「化学」とはどのような学問か。
第2回	『携帯電話、レアアース・レアメタル』	元素の種類と性質、粒子概念（原子、分子、素粒子）
第3回	『ダイヤモンド、天然塩』	化学結合の姿
第4回	『胃薬、ミネラルウォーター』	物質量とモル
第5回	『備長炭、ヨーグルト』	化学反応式
第6回	『スケート靴、ボンボン船』	物質の状態変化
第7回	『圧力鍋、熱気球』	気体の性質
第8回	『梅酒、融雪剤、不凍液』	溶液の性質、浸透圧
第9回	『エアコン、カセットコンロ、カイロ』	熱化学
第10回	『シャンプー、リンス、アミノ酸ドリンク』	酸と塩基
	『ヘアカラー、リチウムイオン電池』	酸化と還元
第11回	『ケミカルライト、ディーゼル車』	反応速度と化学平衡
第12回	『化粧品、宝飾品、ワイングラス、LED、真珠』	非金属元素、典型元素、遷移元素
第13回	『ステーク、マスカラ、バイオプラスチック』	天然高分子化合物と合成高分子化合物
第14回	総合復習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業時に、次回授業の予定を説明するのであらかじめ教科書と資料集に目を通すこと。毎回の授業に演習を授業支援システムを通じて課すので事前登録しておくこと。高校の化学の図録は資料として役立つので入手しておいてください（出版社は問わない）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011年）。

【参考書】

- 1 日本化学会編『感動する化学』（東京書籍、2010年）。
- 2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS出版、2015年）。
- 3 『三訂版 フォトサイエンス化学図録』（数研出版、2017年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を60%、課題（毎回の授業後）や授業中の取り組み等の平常点を40%として100点中の60点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な「化学」と「社会」、「文化」等との関わりを理解できるように講義、演習に努める。演習や実験を多く取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

学習支援システムのお知らせや課題は授業の前後に必ずチェックしてください。

【Outline and objectives】

The knowledge of chemistry is important to understand natural phenomena and make your life better. Our planet and environment were created by the reactions of materials and elements. Let's study chemistry to enjoy our daily life, as well as science and technology, fields that are growing day by day.

BSC100CA
化学B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学は自然科学の中心的存在として位置づけられ、自然現象を理解するために重要な学問です。本講義では、実験を多く取り入れ、身近な現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた内容を体験的に学ぶ。

【到達目標】

化学の実験や学習を通じて、身近な自然現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた、判断力、応用力を身につけること（科学リテラシーの取得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な知識内容に加え、演習（実験）、映像教材などを通じて、より発展的な学習を行う。実技を伴う授業を行うために研究実験棟の化学実験室を利用する。毎回の授業で理解度チェックの課題を課す。課題は添削後、学生に返却して授業内で解説する。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上またはオフィスアワーで解説などの対応をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと「元素の化学」および「元素発見の歴史」	化学の基礎を確認し、2回目以降の準備をする。
第2回	実験器具の取り扱いとその考察	化学実験の器具および設備の扱いを学ぶ。自宅で使える器具についても考える。
第3回	基礎実験1	酸・アルカリの実験
第4回	基礎実験2	酸化・還元反応に関する実験
第5回	応用実験1	自分で設定したテーマについて動画を作成する。
第6回	生活の中の化学1	家庭にある身近な化学を見つける。
第7回	生活の中の化学2	家庭にある身近な化学を見つける。
第8回	基礎実験3	光と色の実験：基本実験により、光と色に関する理解を深める。
第9回	調べ学習とプレゼン	自分のテーマについて調査した結果を報告する。
第10回	分析化学（実験）	中和滴定：実験を通して、水溶液の調整、濃度の測定等の基本操作を学びます。
第11回	環境を守る化学（実験）	環境浄化、環境保全に役立つ化学について学習する。
第12回	基礎実験4	電気化学の基礎実験。
第13回	食品、医薬品、環境	食品、医薬品、環境に見る化学について学習する。
第14回	総復習とレポート提出およびプレゼンテーション	秋学期の授業全体についての復習とレポート提出を行い、レポートの内容紹介を行って学習者同士で理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに予習・復習課題を課す。基本的には学習支援システムを利用する。毎回復習プリントを提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1 『三訂版 フォトサイエンス化学図録』（数研出版、2017年）。

【参考書】

1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011年）。
2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS出版、2015年）。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題や実験の取組みを70%、出席を30%として100点中の60点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

映像や演習課題を多く取り入れる。できるだけ多くの学生さんが理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、インターネット接続環境、パソコンまたはスマホによる動画編集アプリ

【その他の重要事項】

- ・この授業では、実験・実習を行います。丁寧な指導のために受講人数の上限を定めます（40名以内）。
- ・受講者を初回授業時の抽選で決定します。
- ・初回授業に参加していない方は2回目以降、受講できません。
- ・履修確定者は教科書（化学資料集）を必ず購入してください。

【Outline and objectives】

Chemistry is positioned as central in the natural sciences, because chemistry is the study of "materials". In this class, you will practically learn chemistry topics related to your daily life and environmental science through experiments and exercises.

ECN200CA
社会経済学応用 A
原 伸子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占の大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象とおして理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

【到達目標】

この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身に付けることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的な事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。
- ・2021 年度もコロナ禍の状況に対応して、オンラインの講義形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観、現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（1）	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（2）	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立（1）	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立（2）	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ（1）	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ（2）	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論（1）	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論（2）	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本（1）	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本（2）	経済思想の相克、世界の中の日本

第 14 回 復習

これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回必要なレジュメや資料を配布します。詳しくは、第一回の授業時に学習支援システムで提示します。

【参考書】

- ・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学 [新版]』有斐閣、2007 年。
- ・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001 年版。
- ・林敏彦『大恐慌のアメリカ』岩波新書、1988 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、中間試験 30%、学期末試験 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to study the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view. The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA
社会経済学応用 A
原 伸子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A,B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占的大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をとらえて理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

【到達目標】

この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身に付けることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的な事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。
- ・2021 年度もコロナ禍の状況に対応して、オンラインの講義形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観、現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（1）	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（2）	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立（1）	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立（2）	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ（1）	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ（2）	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論（1）	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論（2）	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本（1）	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本（2）	経済思想の相克、世界の中の日本

第 14 回 復習

これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回必要なレジュメや資料を配布します。詳しくは、第一回の授業時に学習支援システムで提示します。

【参考書】

- ・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学 [新版]』有斐閣、2007 年。
- ・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001 年版。
- ・林敏彦『大恐慌のアメリカ』岩波新書、1988 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、中間試験 30%、学期末試験 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to study the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view. The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA
社会経済学応用 B
原 伸子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70 年代のスタグフレーション期、そして 80 年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにわけて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

【到達目標】

この講義では、現代資本主義の諸問題を取りあげて理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。
- ・2021 年度もコロナのために、大学の授業方針にもとづいて、当面は Zoom によるオンライン授業形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代資本主義の諸問題	国家、市場、家族の関係について取り上げる視点
第 2 回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第 3 回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第 4 回	スタグフレーション (1)	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第 5 回	スタグフレーション (2)	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第 6 回	福祉国家の変容 (1)	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第 7 回	福祉国家の変容 (2)	サッチャーリズムとレーガノミックス、96 年アメリカ福祉改革
第 8 回	労働市場の変容 (1)	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第 9 回	労働市場の動向 (2)	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第 10 回	家族の経済学 (1)	ワークライフバランス。日本、ドイツ、スウェーデン。
第 11 回	家族の経済学 (2)	保育と介護の政治経済学。ケア労働の意味を考える。
第 12 回	労働と生活の調和 (1)	家族の経済学、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー

第 13 回 労働と生活の調和 (2) 各国のワークライフバランスの比較と論理

第 14 回 復習
これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、必要な資料を配布する。

【参考書】

増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済 [新版]』有斐閣、2007 年。
原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、中間試験 30%、学期末試験 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to study the features of contemporary capitalism after the post-World War II from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA
社会経済学応用 B
原 伸子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70年代のスタグフレーション期、そして80年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにわけて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

【到達目標】

この講義では、現代資本主義の諸問題を取りあげて理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。
- ・2021年度もコロナのために、大学の授業方針にもとづいて、当面はZoomによるオンライン授業形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代資本主義の諸問題	国家、市場、家族の関係について取り上げる視点
第2回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第3回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第4回	スタグフレーション(1)	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第5回	スタグフレーション(2)	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第6回	福祉国家の変容(1)	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第7回	福祉国家の変容(2)	サッチャーリズムとレーガノミックス、96年アメリカ福祉改革
第8回	労働市場の変容(1)	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第9回	労働市場の動向(2)	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第10回	家族の経済学(1)	ワークライフバランス。日本、ドイツ、スウェーデン。
第11回	家族の経済学(2)	保育と介護の政治経済学。ケア労働の意味を考える。
第12回	労働と生活の調和(1)	家族の経済学、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー

第13回 労働と生活の調和(2) 各国のワークライフバランスの比較と論理

第14回 復習
これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、必要な資料を配布する。

【参考書】

増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済 [新版]』有斐閣、2007年。
原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、中間試験 30%、学期末試験 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to study the features of contemporary capitalism after the post-World War II from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見えていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第 3 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (2)	古典派モデル (1) 基本モデル
第 4 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (3)	古典派モデル (2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第 5 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (4)	古典派モデル (3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第 6 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (5)	ケインズ・モデル (1) 所得支出モデル
第 7 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (6)	ケインズ・モデル (2) IS-LM モデルと財政金融政策の効果
第 8 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (7)	ケインズ・モデル (3) IS-MP モデル、開放経済モデル
第 9 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (8)	消費関数・投資関数の理論
第 10 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第 11 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)	経済成長論
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政政策の効果と限界、成長戦略

第 14 回 期末試験と総括 試験等**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅井和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学 II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of macroeconomics. This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA
日本経済論 A
牧野 文夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本の経済発展」を主題に、日本の経済の戦後から現在までのあゆみを講義する。ただし講義の順は現在から過去に遡る。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。また経済史、日本経済史なども受講していると理解が進むであろう。

【到達目標】

日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事に興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿か、授業期間中に2回のオフィスアワーの時間を設けるので、ZoomあるいはWebexを使って質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、コロナ禍の日本と世界経済	講義の枠組み、2020年の日本と世界の経済 これまでのアベノミクスの評価について
2	アベノミクス	2012年以後のアベノミクスの実態と成果について
3	リーマンショック 1	アメリカのサブプライムローン問題とその影響
4	リーマンショック 2	東日本大震災とヨーロッパ債務危機について
5	失われた20年 1	1990年代後半から2000年代半ばへ平成不況、不良債権問題の発生とその処理について
6	失われた20年 2	労働市場の需給悪化、小泉内閣の構造改革
7	小括 1	第1回から7回までの講義に関する質疑応答
8	レーガノミクスと円切り上げ	アメリカ経済の政策転換と日本経済に及ぼした影響について
9	オイルショックと高度成長の終焉	1970年代のスタグフレーション下の日本経済について
10	高度成長 1	1960年代の高度成長の原因と帰結について
11	高度成長 2	高度成長時代の国民生活の変化について
12	戦後改革 1	農地改革、財閥解体等の制度改革について
13	戦後改革 2	日本経済の再建、インフレ対策について
14	小括 2	第8回から13回までの講義に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】

- ①南亮進『日本の経済発展（第3版）』東洋経済新報社。
 - ②深尾・中村・中林編『講座 日本経済の歴史』第5、6巻、岩波書店。
 - ③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）など。
- その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

複数回のレポートを課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グラフを読みやすく改善しました。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline and objectives】

Economic development of Japan after WWII

ECN200CA
日本経済論B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学15講』新世社
配布資料

【参考書】

ステイグリッツ『公共経済学上』東洋経済
ステイグリッツ『公共経済学下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA
日本経済論 B
牧野 文夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論 A の受講を前提にテーマごとに現在の日本経済の特徴、問題、課題をテーマ別に講義する。

【到達目標】

個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿か、授業期間中に 2 回のオフィスアワーの時間を設けるので、Zoom あるいは Webex を使って質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、産業構造 (1)	ガイダンスおよび農業問題特に食料自給率について
2	産業構造 (2)	製造業、IT 産業、研究開発について
3	金融システム (1)	部門別資金バランス、家計貯蓄について
4	金融システム (2)	銀行の貸出行動と企業の資金調達について
5	財政 (1)	歳入・歳出構造、税制について
6	財政 (2)	政府債務、特別会計、中央・地方の財政関係、
7	小括 1	第 1 回から 6 回までの講義に関する質疑応答
8	少子高齢化	晩婚化、少子化、高齢化問題について
9	労働市場 (1)	最近の雇用失業問題、非正規労働の増大について
10	労働市場 (2)	賃金水準、賃金格差について
11	対外経済関係	貿易構造の変化について、対外投資、国際収支、TPP/FTA について
12	所得分配、社会階層と教育 1	格差とは何か、所得分配の不平等化について
13	所得分配、社会階層と教育 2	経済格差のもたらす社会的弊害について
14	小括 2	第 8 回から 13 回までの講義に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】

複数回のレポートを課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の時間を積極的に活用したい。

【Outline and objectives】

Structure and problems of the Japanese economy

ECN200CA
国際経済論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。

【到達目標】

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
4	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
5	Market Structure and gains from trade I	競争的市場と独占市場
6	Market Structure and gains from trade II	独占市場における貿易の利益
7	Trade Policy	貿易政策とは何か
8	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
9	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	比較優位
11	Trade and factor endowments	ヘクシャー・オリーンモデル
12	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
13	Strategic Trade Policy Analysis I	ゲーム理論の基礎
14	Strategic Trade Policy Analysis II	戦略的貿易政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）および期末試験もしくはレポートの結果等（60%）により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline and objectives】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade.

ECN200CA
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	グローバル経済の企業	輸出の判断と多国籍企業
第 8 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果、費用と便益
第 9 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 10 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第 11 回	貿易政策の政治経済	自由貿易の進展、WTO
第 12 回	地域貿易協定の効果	F T A が与える影響
第 13 回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配布資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）上：貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13 回を予定）（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

進捗を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

ECN200CA
国際経済論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	IS バランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か
5	Current account	経常収支とその分析
6	The relationship between current account and financial account	経常収支と金融収支
7	More on exchange rate	為替レート：平価レート
8	Price and exchange rate	購買力平価
9	PPP violation	なぜ購買力平価は成立しないのか
10	Real exchange rate	実質為替レート
11	An asset approach	アセットアプローチ
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムバズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Monetary policy and exchange rate	金融市場と為替レート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

成績は課題（40%）、期末試験もしくはレポート等（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline and objectives】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics.

ECN200CA

国際経済論 B

田村 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次回の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表の項目	日本の国際収支表の見方
第2回	国際収支の記入方法	国際収支表の記入例
第3回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第4回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第5回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第6回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第7回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第8回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第9回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第10回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第11回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第12回	最適通貨圏の理論	固定為替レートの範囲
第13回	国際金融体制	国際金融における課題
第14回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルト（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕下:金融編〕丸善出版、2017年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016年
高木信二著『入門国際金融（第4版）』日本評論社、2011年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30%）と、期末に行う定期試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進捗に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

ECN200CA
財政学 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策などの問題が重なり、政府は狭いパスを進まねばなりません。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学びます。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて学びます。後半では、日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面する問題を理解します。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講です。毎回、Hoppii 上の教材フォルダーに講義ノートと必要に応じて資料を入れておきます。受講者はこれらをダウンロードしてオンデマンドで学習を進めて下さい。質問や意見がある際は、Hoppii 上の掲示板に書いて下さい。私がそれに返信する形でお答えいたします。10 回程度、Hoppii 上で課題を出します。採点でコメントもお返しするようにしますので、その際に復習もするようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
2	市場の働き	価格機構の働き
3	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
4	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
5	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
6	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
7	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
8	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
9	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
10	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
11	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
12	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
13	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
14	まとめ	全体のまとめと補足、やり残した内容があればここで扱います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。経済学の考え方を学びますので、1 年次必修の経済学の科目の復習と各回の授業の復習で 2 時間、日々の新聞での政府や財政に関する記事に目を通し、授業に関連するデータを財務省などの web を通じて学ぶことに 2 時間を費やすことを標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

受講者が授業の内容を発展的に自習する際に、以下の文献が役立ちます。制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018)『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

授業内で出題された課題への解答により 100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板へのみなさんからの質問や提出された課題の解答を通じて、みなさんの理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

受講者は学期の始めに Hoppii 上で必ず登録をして下さい。オンラインで授業を進めますので PC とインターネットを使える環境を整えて下さい。また講義ノートは穴埋めや自分で作図する形ですので、印刷環境を整えて、自分で書きながら進められるようにして下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【Outline and objectives】

At present, Japanese government has to follow a narrow path due to the several problems of a huge government debt, increases in social security costs coming from the aging and low birth rate, and the low economic growth rate. In this course, students learn the issues on the current Japanese public finance and learn how to consider them from the standpoint of economics.

ECN200CA
財政学 A
天利 浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学ぶ。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて考える。後半では、日本の財政制度とその規模を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインで開講する。Hoppii の教材フォルダーに講義ノートなどのファイルを置くので、オンデマンド式でダウンロードして学習してください。質問などは Hoppii の掲示板で受け付けます。Hoppii で課題を課し採点をします。Hoppii を通して答案へのフィードバックを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第 2 回	市場の働き	価格機構の働き
第 3 回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
第 4 回	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
第 5 回	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
第 6 回	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
第 7 回	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
第 8 回	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第 9 回	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
第 10 回	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
第 11 回	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
第 12 回	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
第 13 回	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
第 14 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。1 年次必修の経済学の科目の復習（1 時間）、授業内容の予復習（2 時間）、新聞やデータの読み取り（1 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料と講義ノートを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。(1) は日本の財政制度を学ぶ際に有用。参考書としては (3) よりも (2) の方が基本的な内容。

(1)『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社

- (2) 小塩隆士（2016）『コア・テキスト 財政学 第 2 版』新世社
 (3) 麻生良文、小黒一正、鈴木将覚（2018）『財政学 15 講』新世社

【成績評価の方法と基準】

講義で出題された課題への解答（100%）。試験等（0 %）。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

Hoppii を通し講義ノート・関連資料の配布を行うため、学期の始めに Hoppii に登録しておくこと。PDF の閲覧をできるように準備しておくこと。グラフや図を提出する必要があるかもしれないので、その際には、グラフや図を紙に描いて写真を画像ファイルにして送付したり、あるいは、グラフや図を作図できる Word など（あるいは Windows10 の Windows アクセサリ内のペイントなど何とか図を描けるツールで画像ファイルを保存しても良い）で簡単なグラフを描けると良い。

【Outline and objectives】

Currently, there are many financial problems in Japan, such as huge government debt, increasing social security costs due to the aging and low birth rate, and low growth. In this course, students understand issues on the current Japanese public finance and learn how to consider them from the standpoint of economics.

ECN200CA
財政学 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政の制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提として、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロ経済学の理論に基づく考え方を学びます。具体的には、課税、公債発行、公共投資増大が経済に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策について、経済学の理論を用いて考えます。その上で政策の効果がどのようなものなのかを理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講です。毎回、Hoppii 上の教材フォルダーに講義ノートと必要に応じて資料を入れておきます。受講者はこれらをダウンロードしてオンデマンドで学習を進めて下さい。質問や意見がある際は、Hoppii 上の掲示板に書いて下さい。私がそれに返信する形でお答えいたします。10 回程度、Hoppii 上で課題を出します。採点でコメントもお返しするようにしますので、その際に復習もするようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
2	国と地方との関係	国から地方自治体への移転と規模
3	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
4	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
5	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析
6	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
7	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
8	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
9	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
10	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
11	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
12	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
13	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
14	公債の経済学、まとめ	負担についてのさまざまな考え方、全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。経済学の考え方を学びますので、1 年次必修の経済学の科目の復習と各回の授業の復習で 2 時間、日々の新聞での政府や財政に関する記事に目を通し、授業に関連するデータを財務省などの web を通じて学ぶことに 2 時間を費やすことを標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

受講者が授業の内容を発展的に自習する際に、以下の文献が役立ちます。制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黑一正、鈴木将覚 (2018) 『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

授業内で出題された課題への解答により 100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板へのみなさんからの質問や提出された課題の解答を通じて、みなさんの理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

受講者は学期の始めに Hoppii 上で必ず登録をして下さい。オンラインで授業を進めますので PC とインターネットを使える環境を整えて下さい。また講義ノートは穴埋めや自分で作図する形ですので、印刷環境を整えて、自分で書きながら進められるようにして下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【Outline and objectives】

Students learn the roles of public policies on the basis of Public Finance A, microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, public debt, and public investment.

ECN200CA
財政学 B
天利 浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロ経済学の理論に基づく考え方を学ぶ。具体的には、税、公債発行、公共投資増大などがどのような効果をもたらすかを学ぶことになる。

【到達目標】

身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインで開講する。Hoppii の教材フォルダーに講義ノートなどのファイルを置くので、オンデマンド式でダウンロードして学習してください。質問などは Hoppii の掲示板で受け付けます。Hoppii で課題を課し採点をします。Hoppii を通して答案へのフィードバックを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
第 2 回	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
第 3 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析 (代表ケース)
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
第 5 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 6 回	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
第 7 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 8 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
第 9 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 10 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 11 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 13 回	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方
第 14 回	、まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。1 年次必修の経済学の科目の復習（1 時間）、授業内容の予復習（2 時間）、新聞やデータの読み取り（1 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料と講義ノートを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。(1) は日本の財政制度を学ぶ際に有用。参考書としては (3) よりも (2) の方が基本的な内容。

- (1) 『図説日本の財政（最新年度版）』 財経詳報社
- (2) 小塩隆士 (2016) 『コア・テキスト 財政学 第 2 版』 新世社
- (3) 麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018) 『財政学 15 講』 新世社

【成績評価の方法と基準】

講義で出題された課題への解答 (100%)。試験等 (0%)。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

Hoppii を通し講義ノート・関連資料の配布を行うため、学期の始めに Hoppii に登録しておくこと。PDF の閲覧をできるように準備しておくこと。グラフや図を提出する必要があるかもしれないので、その際には、グラフや図を紙に描いて写真を画像ファイルにして送付したり、あるいは、グラフや図を作図できる Word など（あるいは Windows10 の Windows アクセサリ内のペイントなど何とか図を描けるツールで画像ファイルを保存しても良い）で簡単なグラフを描けると良い。

【Outline and objectives】

Students learn the roles of public policies on the basis of Public Finance A, microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the impact of taxation, public debt, and public investment on the economy.

ECN200CA
金融論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の日の週になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合があるので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、必ず講義日の前週のうちに早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたたか金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味

第5回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第6回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第7回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	貨幣供給と流動性のワナ	貨幣供給について
第13回	マネーストック	マネーストックとは何か
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートで主に評価します（80%）。授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況、小テストやレポートの提出状況（期限など指定された提出要件の充足度）などを確認し、平常点として加算します（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の閲覧用資料の配布に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA
金融論 A
鈴木 誠
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は秋期の金融システムにおける諸問題を経済学のツールを利用して理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようにすることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド方式）による開講となる。テキストに沿った授業を行う予定であるが、具体的な内容は学習支援システムでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などは学習支援システムにて提示するので参照してほしい。なお、課題に対するフィードバックは、個別対応は困難であることから出題後の授業において履修生全員に向けた説明説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインによる授業の進め方、および金融取引	オンラインを活用した授業の進め方を説明し、金融論の授業のイントロダクションとして金融取引における経済主体をテーマとする
2	金融の役割 1	異時点間の所得移転
3	金融の役割 2	異状態間の所得（リスク）移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	問題演習 1	貨幣の時間価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルにおける分散化 (1)
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化 (2)
9	リスク評価 3	4 状態モデル
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	問題演習 2	リスク資産評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では初めて金融について学ぶ学生も少なくないと思われる。従って、授業の有無を問わず、日ごろから金融経済に馴染むことを勧めたい。そのためには日本経済新聞を 30 分以上毎日読むことである。授業の予習については、当該箇所について教科書を事前に読み、不明な点が無いように調べるなどの準備が求められる。(120 分程度) また、事後的な復習については、自分で内容を咀嚼し理解できるようにすることが求められる。(90 分程度)

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰著「新エコノミクスシリーズ 金融」 日本評論社、
I S B N 4-535-04117-2、 2000 円（税別）

【参考書】

F. Mishkin 『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』 (Pearson Education, 2009)
※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったこととにもない、成績評価の方法と基準も変更する。基本的に毎回の授業の課題提出、課題の評価、期末試験の成績の 3 点で評価を行う。割合としては、10 %、30 %、60 % の割合とする。授業において特に有益なコメントをしてくれた学生には、クレジットを行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

電卓もしくは電卓機能のついたスマートフォン

【その他の重要事項】

期末試験はオンラインで行う。試験問題の提出は時間厳守とするので、十分に注意をして試験に臨むこと。試験を受験しない場合には、評価点が法政大学の基準となる 60 点に満たないこととなるので留意すること。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. I also show what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems from the perspective of economics/finance.

ECN200CA
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたこの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の日の週になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合があるので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、必ず講義日の前週のうちに早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別の連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について

第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か
第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルードレン政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第14回	企業金融	企業の資金調達について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートで主に評価します（80%）。授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況、小テストやレポートの提出状況（期限など指定された提出要件の充足度）などを確認し、平常点として加算します（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがわかりますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の閲覧用資料の配布に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA
金融論 B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得することにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。金融論Aの知識に加え、情報の経済学を利用して、金融における諸問題をより現実的な形で分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。また、金融論において重要な分野の一つである中央銀行の役割および金融政策の意義についても触れ、その概要を理解することも本講義の目的である。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではミクロ経済学を基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融論 A の復習①： 金融の機能	金融市場概要
2	金融論 A の復習②： 金融仲介機関	金融仲介の機能
3	金融論 A の復習③： 不確実性と市場	不確実性とリスク
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習（予定）	情報の非対称性について
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	最終課題（テスト実施）	本講義で学習した範囲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みている。そのため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、FT等による経済情報の摂取を強くすすめる（120分）。講義資料に関しては講義中に詳細に説明するため予習は必要ないが、2回の中間アサインメントに答えるために講義資料もしくは指定教科書の該当箇所を復習しておくことも強く推奨する（120分）。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論』（日本評論社、2006年）
ISBN 4-535-04117-2, 2000 円（税別）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）
※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】

遠隔授業による授業方式であるため、成績評価は、学期中に2回出される課題（回答は1週間以内）と期末の試験により評価を行う。また、期末試験がオンライン試験となる可能性がある場合は追加で期中レポートの提出を求める場合もある。2回のアサインメントを30%、期末試験（と期中レポートの合計）を70%とし評価を行う。最終的な成績は、上記の課題の合計点、期末試験（および期中レポート）の合計点を総合し、100%に変換の上、法政大学の評価基準に併せて成績を付ける。ただし、上記課題およびレポートの提出がされない者に関しては、講義への出席不足と判定し、期末試験への受験資格を喪失する可能性があるため留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

電卓もしくは電卓機能のついたスマートフォン。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce some concepts and frame works for Finance. Students will be expected to examine real financial activities with Economic view point. In this lecture, we will employ the information theory and fundamental knowledge of Finance to recognize the real world.

ECN200CA
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCELをもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは? 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか? 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か?
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013) 「入門計量経済学— Excel による実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」 新生社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

When you take thi course, you can explain a classical regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with EXCEL, and consider our society with an independent perspective.

ECN200CA
計量経済学 B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら？ 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータの差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016) 「Rによる実証分析—回帰分析から因果分析へ」オーム社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain a modern regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with R, and consider our society with an independent perspective.

ECN200CD
企業と経済・応用 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は1年次の「企業と経済・基礎」に続く内容として、「独占・寡占とその応用」「ゲーム理論の基礎」「交渉とオークション」を中心に学習する。受講生は、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を習得し、現実経済（特に企業経済）を考察する力をさらに高めることができる。

【到達目標】

1年次の「企業と経済・基礎」（マイクロ・パート）からの接続を意識し、そこからの積み上げとして、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は授業用のレジュメ、後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』を使って授業を進める。この講義はフルオンデマンド授業となるが、「Zoomによる動画配信」の方式で進める予定である。受講生は、リアクションペーパーと課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、適宜「学習支援システム」上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	完全競争企業	復習。価格所与の下での利潤最大化行動。
第2回	独占企業①	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解①
第3回	独占企業②	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解②
第4回	独占企業③	応用問題：価格差別とその応用。部品の内製 v s 外部市場調達など。
第5回	寡占企業①	クールノー競争（数量競争）
第6回	寡占企業②	ベルトラン競争（価格競争）
第7回	寡占企業③	シュタッケルベルク競争（先手・後手の区別） 3つのモデルの比較（余剰分析）
第8回	ゲーム理論の基礎①	ナッシュ均衡
第9回	ゲーム理論の基礎②	サブゲーム完全均衡
第10回	ゲーム理論の基礎③	支配戦略、弱支配戦略、被支配戦略の繰り返し削除など。
第11回	交渉とオークション①	展開型交渉ゲーム
第12回	交渉とオークション②	ナッシュ交渉問題
第13回	交渉とオークション③	オークション①基礎
第14回	交渉とオークション④	オークション②応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）を怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

【参考書】

1. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
2. ミルグロム+ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT出版
3. 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社
4. 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
5. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（65%）、レポートの合計点（30%）、リアクションペーパーの合計点（5%）で考えている。

【学生の意見等からの気づき】

説明はできるだけ分かりやすく、丁寧に行うよう心がけたい。簡単な数値例や図を使い、レジュメなども配って、直観的理解に訴える工夫を心がける。後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿った形で進め、内容をフォローしやすくする。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

【Outline and objectives】

Following the Elementary Business Economics in the first year, this Advanced Business Economics will deal with the more advanced topics associated with the corporations (firms) and their corporate strategies. It will cover Monopoly and its applications, Duopoly, Game Theory and its applications, such as Bargaining and Auction.

ECN200CD
企業と経済・応用 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と経済基礎 A で均衡 GDP（国民所得）の決定の説明（45°線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM 分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策が GDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

【到達目標】

- ・ IS-LM 分析に基づく GDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 総需要-総供給分析に基づく GDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 財政政策及び金融政策が金利および GDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（IS-LM 分析の仕組みに基づき）
- ・ 財政政策及び金融政策が物価水準および GDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、レジュメをアップし、そのレジュメを読んで図解による説明を理解してもらう。秋学期中に、2 回課題を出すので、1 週間を目的に授業支援システムの課題にその解答をアップしてほしい。締め切り直後の zoom による講義内で正解の解説を行う。第 1 回は、ガイダンスということで zoom による授業を考えている。さらに、受講生の理解の程度により、質疑応答のための zoom による授業を 1、2 回行うことも考えている。その場合、1 週間前までに、授業支援システムのお知らせにて周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づき GDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄性向）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS 曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルの k など）
6	貨幣需要	IS-LM 分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM 曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM 分析に基づく均衡 GDP および金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM 分析に基づく 2 つの市場を均衡させる GDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM 分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利および GDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM 分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	国全体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させる GDP 及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準と GDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準と GDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）および物価水準の導出

- 14 総需要-総供給分析に基づく金融政策、財政政策の効果が GDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを読んで図解を理解してもらいたい。図解を自分で再現できるようになってほしい。そのため、2 時間程度は必要かと思う。

【テキスト（教科書）】

特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、レジュメまたは zoom による授業の際に紹介する。基本的には、講義時に配布するレジュメで理解いただければと思う。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、期末に出す課題の解答を授業支援システムの課題にアップしてもらいその素点に関して 85%、2 回の学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して 15%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメは、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

【Outline and objectives】

This course is aimed to acquire basic understandings for IS-LM model, determines the levels of interest rate and GDP, and AD-AS model, determines the levels of inflation rate and GDP. Moreover, the course is aimed to be possible for assessing the effects of monetary and fiscal policy changes on the changes of interest rate, inflation rate, and GDP, based on IS-LM, and AD-AS model.

ECN200CA
現代ファイナンス入門A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステイナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

ECN200CA
現代ファイナンス入門B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

ECN200CA
経済データ分析 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。また、EXCEL による基本的なデータ処理の方法も学ぶ。

※本年度は情報処理室での対面授業を前提に講義を行います。Zoom によるオンライン受講も認めますが、その場合は PC 環境を自身で用意してもらいます。詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上で EXCEL を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って Excel を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定 (1)	・仮説検定と有意水準 ・1 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定 (2)	・2 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較 (1)	・分散分析 ・1 元配置法
12	平均に関する群間比較 (2)	・2 元配置法 ・相互効果

13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準 4 時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題 (30%) と課題レポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを利用します。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in the exercise using PC and statistical software (MS EXCEL).

ECN200CA
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計パッケージを利用したより高度な経済データ分析手法を学ぶ。
※本年度は情報処理室での対面授業を前提に講義を行います。Zoom によるオンライン受講も認めますが、その場合は PC 環境（統計パッケージのインストール含む）を自身で用意してもらいます。
詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

【到達目標】

秋学期の授業では、統計パッケージ R を用いた演習を行います。R の特徴は Excel よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学の手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・K 変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析 A に加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

毎回の講義内容を復習しておいてください（標準 4 時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

R の操作やデータ分析については

- ・「R による統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009
 - ・「R による計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店、2011
- 計量経済学については
- ・山本拓「計量経済学」新世社、1995
 - ・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015
- 統計学の参考書には以下をあげます。
- ・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
 - ・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

統計パッケージ R をインストールできる Windows、Mac、もしくは Linux の PC を用意して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programming skills to utilize statistical software R.

ECN200CD
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、都市・地域経済の基礎と応用、産業の立地論、経済の空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	人口と経済成長①	人口構造と人口転換
第3回	人口と経済成長②	経済成長と発展格差
第4回	都市経済の基礎①	都市化と都市発展
第5回	都市経済の基礎②	都市内部構造と都市システム
第6回	産業の立地①	立地論の系譜とアプローチ
第7回	産業の立地②	工業立地論の枠組と応用
第8回	経済の空間構造①	日本の地域構造
第9回	経済の空間構造②	地域構造の比較制度分析
第10回	都市・地域経済の応用①	地域成長と地域間交易
第11回	都市・地域経済の応用②	地域間格差と人口移動
第12回	国土計画と地域政策①	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第13回	国土計画と地域政策②	都市・地域問題の現状と新たな政策
第14回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会

デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン桐原

松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院

山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣

竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポートの評価（60%）が中心となる。授業時リアクションペーパーまたはオンライン小テスト（平常点40%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and empirical overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづく り」へ	加工組立型製造業とものづくり基 盤技術
第9回	自動車大国日本の行方 ①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方 ②	日本的生産システムとグローバル 戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグローカ ル・マーケティング時 代	商品連鎖、クラスター、ネット ワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
橋川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
松原宏編（2018）『産業集積地域の構造変化と立地政策』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、オンデマンド授業の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a comprehensive survey of geographical agglomeration in industrial geography. Key themes focus on historical and geographical change, localization and globalization, and changing geographies of industries.

MAN200CA
コーポレートガバナンス論 A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論 A のテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論 A の学習目標は、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

感染状況に応じて適宜オンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネット、ビジュアル資料を通じて、豊富なデータベースを利用して、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてわかりやすく説明し、グループ課題を通じてレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第 2 回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第 3 回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第 4 回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第 5 回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第 6 回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第 7 回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第 8 回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第 9 回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第 10 回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第 11 回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第 12 回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第 13 回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する

第 14 回 課題

今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいて課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みたい。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著) 『日本の M&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011] 『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題(40%)＋期末(グループ)課題レポート(60%)で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
 『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn systems such as general shareholders' meeting, exercise of voting rights, stewardship code, individual disclosure of the exercise of voting rights by institutional investors, understand the relationship between exercise of voting rights and corporate governance using data.

MAN200CA
コーポレートガバナンス論 B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論 B のテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論 B の学習目標は、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第 2 回	取締役会	規模、構成と独立性
第 3 回	監査役	監査役は目付役
第 4 回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第 5 回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第 6 回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第 7 回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第 8 回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第 9 回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第 10 回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進
第 11 回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第 12 回	1 億円以上役員報酬の開示	1 億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第 13 回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第 14 回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集したコーポレートガバナンス報告書等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本の M&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年
参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面もノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

The theme of Corporate Governance Theory B is choice of a Board of Corporate Auditors, or a committee such as audit etc., or a nominating committee etc., the board of directors, outside directors, executive compensation, stock options, corporate governance code.

CAR200CA
企業実務研究 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。

そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義形式で開講するが、状況によっては、講義の一部において教室で対面講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明するが、その後の感染状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることには留意されたい。

第 1 回講義は、オンライン講義の講義ガイダンスの回となる。Zoom によるリアルタイムのオンライン講義形式の予定である。学習支援システム上でオンライン講義の方法を「お知らせ」で通知する他、ガイダンス資料を教材として配布する。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して「お知らせ」で講義の方法を確認した上でオンライン講義に参加し、配布されるガイダンス資料をよく読み、履修するかどうかを検討されたい。

第 2 回以降の講義は、学期当初はオンライン講義となる見通しである。オンライン講義の形式は、学習支援システムで教材を配布して課題を提示する形式や、受講者が動画コンテンツを視聴する形式、Zoom 等でのリアルタイムのオンライン講義形式などを含む予定である。受講者は国際ビジネスに関する各回の講義の際に学習支援システム上で課題として提示されるレポート課題に従って提出期限までにレポートを学習支援システムの各課題のページでアップロードすることによって提出することを求められる。

状況が許せば、講義の一部は教室での対面講義形式で実施する可能性がある。教室での講義では、毎回、講師と受講生によるクロストークの時間を設け、リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求められる。

実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況をメタ認知して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第 3 回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第 4 回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第 5 回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第 6 回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第 7 回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第 8 回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第 9 回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第 10 回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第 11 回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第 12 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（1）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 13 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（2）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 14 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（3）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、各自学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジュメ

【参考書】

各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価し、毎回の発言回数とその内容の充実度が評価の重要な要素となる。私語厳禁。授業態度の悪い学生も不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業評価アンケートで、インターンシップに関してのガイダンスが分かりにくかったという指摘を受けたので、インターンシップのガイダンスをわかりやすく、丁寧にすることを心がける。

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第 1 回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

【Outline and objectives】

This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business.

CAR200CA
企業実務研究 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的にわかり易くプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討議することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は実習形式で行われ、原則として、本年度の経済学部のサマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので、履修を検討する際には注意されたい。

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、秋学期開始後、当分の間、オンライン講義を行う予定である。講義では、Zoom(<https://zoom.us/>)のウェブ会議システムを利用した教員による解説と履修者による報告・討議をベースとして、学習支援システムを通じて配布されるオンライン教材を学生が学習する形式も併用したオンライン講義を実施する予定である。各講義の実施方法に関する連絡は、学習支援システム上で本科目の履修登録者（仮登録者を含む）に対する「お知らせ」を通じて行う。

第1回講義は、オンライン講義の講義ガイダンスの回となる。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムで本科目に仮登録して、学習支援システム上で通知される講義方法に関するお知らせを講義前に確認し、第1回講義に出席した上で、履修するかどうかを検討されたい。第1回講義では、履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので、履修者は第1回講義に必ず出席すること。

第2回以降の講義では、サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。

参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討議する。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、毎回の授業の中で行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明・報告スケジュールの確認
第2回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①
第3回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第4回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③

第 5 回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第 6 回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第 7 回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第 8 回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第 9 回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第 10 回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第 11 回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第 12 回	受講者による報告、討論⑪	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑪
第 13 回	受講者による報告、討論⑫	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑫
第 14 回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座』第 3 版、日経 BP 社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
- ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000 字、A4）（25%）
- ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
- ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）

派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。

未手続き者は不可となる。

また、サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

同一企業のインターンシップ参加者が多数の場合のプレゼンの仕方を工夫したい。

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1 回目の講義に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business. Students should officially register for the summer internship in which they are completing the internship requirements.

POL200CA
国際関係論 A
富永 靖敬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、オンデマンド授業とする。オンデマンド授業は、コンテンツ（動画）配信を中心とし、曜日時間・教室の配置をせずに実施するものである。本講義では、講義動画・講義資料での授業を基本としたうえで、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信する。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論とは	ガイダンス、国際政治学の起源
第 2 回	国際システムの歴史的成り立ち I	主権国家の拡大、第一次・第二次大戦、冷戦と熱戦
第 3 回	国際システムの歴史的成り立ち II	脱植民地化と民族紛争、グローバリゼーション、冷戦の終結
第 4 回	伝統的国際政治学の視点 I	リアリズム：古典的リアリズム、ネオリアリズム
第 5 回	伝統的国際政治学の視点 II	リベラリズム：国際制度と国際協調、コンストラクティヴィズム：規範
第 6 回	なぜ戦争は起こるのか I	データで見る戦争、交渉理論の導入（交渉の失敗としての戦争）
第 7 回	なぜ戦争は起こるのか II	第一次湾岸戦争、情報の非対称性
第 8 回	なぜ戦争は起こるのか III	イラク戦争、予防戦争論
第 9 回	戦争の持続期間、終結の仕方、戦後平和の持続期間	情報の非対称性、コミットメントの問題
第 10 回	国内政治と戦争 I	リーダーの生き残り戦争、観衆費用、結集効果、キューバ危機
第 11 回	国内政治と戦争 II	政治システムと政治的コスト、民主主義的平和論、陽動理論

第12回 同盟と戦争	他国間戦争への介入条件、同盟の効果（シグナリング、コミットメント）
第13回 国際機関	国際連盟と国際連合、集団安全保障体制、集合行為問題
第14回 復習	学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

多湖淳（2020）『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574）。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6。

【参考書】

Kydd, Andrew H. (2015). *International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach*. Cambridge: Cambridge University Press.

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5

浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2

山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、二回のレポート試験で行う。授業期間中に複数のレポートテーマが提示され、学生はそのうちの二つのテーマを選択する。詳細は初回授業で説明する。二回のレポートを提出した学生のみが成績評価の対象となる。なお、提出されたレポートはすべて剽窃チェックソフトにかけ、他受講生のレポートとの類似性、オンライン情報などの盗用がないかチェックする。適切な引用を用いない引用など剽窃行為が確認された場合には、該当のレポートだけではなく、提出されたすべてのレポートの点数が 0 となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムを通じて連絡する。

【Outline and objectives】

This course introduces the essence of the theory of international relations. The Spring semester course pays particular attention to security studies. We first review traditional theories of international relations such as realism and liberalism, and critically analyze how those theories explain war and peace. After discussing the pros and cons of those theories, we next introduce the bargaining theory of war. To be specific, we address the following questions: regardless of the fact that war is ex-post inefficient in that it causes huge economic and human costs, why might war still occur? In addressing this question, we illustrate the three essential concepts: asymmetric information (private information), commitment problem, and issue divisibility. We elaborate on those concepts through actual cases such as the Gulf war and the Iraq war. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just the basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

POL200CA
国際関係論 B
富永 靖敬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に非国家主体を中心とした非伝統的安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論 A では、主に国家間関係に起因する安全保障問題を対象としたが、国際関係論 B では、内戦やテロリズム、国際犯罪といった国内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、オンデマンド授業とする。オンデマンド授業は、コンテンツ（動画）配信を中心とし、曜日時間・教室の配置をせずに実施するものである。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信する。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス、国際関係論 A の復習
第2回	紛争と強調	国内政治過程と国際関係
第3回	内戦をめぐる様々な議論	(1) 内戦とは何か：統計資料でみる内戦 (2) どこで起こっているのか (3) 誰が当事者なのか (誰が参加するのか)
第4回	内戦の原因論	(1) 反政府勢力のタイプ (2) 政府のタイプ (3) 情報の非対称性とコミットメント問題
第5回	内戦の持続性と終結	(1) 情報の非対称性とコミットメント問題 (2) 国際仲介と成熟理論
第6回	内戦の再戦と PKO	(1) 絶対戦争と限定的戦争 (2) PKO とは何か：統計資料でみる PKO
第7回	PKO の効果	(1) 国連 PKO の形成・発展 (2) コミットメント問題 (3) 実証分析とセレクション・バイアス
第8回	テロリズムとは	(1) テロリズムとは何か：統計資料でみるテロ、(2) テロの歴史的発展
第9回	テロリズムのメカニズム	(1) 交渉の失敗としてのテロリズム (2) テロリストの戦略

第10回 テロリズムと政治体制	(1) 政治体制：民主主義と権威主義 (2) 報道の自由とテロリズム
第11回 対テロ戦略	(1) 軍事的アプローチ (2) 法的アプローチ (3) 対テロ戦略の効果測定と実証分析
第12回 国際規範	(1) 人権規定 (2) 国家による人権の蹂躪 (3) 人権をめぐる国際合意国際規範の生成と伝播 (4) 非国家主体の影響
第13回 貧困と開発	(1) 資源の呪い（統計資料でみる天然資源）(2) 国連の持続可能な開発
第14回 復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】

東大作 (2020)『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価 968 円（本体 880 円）ISBN978-4-12-102576-0

Kydd, Andrew H. (2015). *International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach*. Cambridge: Cambridge University Press.

山本吉宣・河野勝 (2005)『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、二回のレポート試験で行う。授業期間中に複数のレポートテーマが提示され、学生はそのうちの二つのテーマを選択する。詳細は初回授業で説明する。二回のレポートを提出した学生のみが成績評価の対象となる。なお、提出されたレポートはすべて剽窃チェックソフトにかけ、他受講生のレポートとの類似性、オンライン情報などの盗用がないかチェックする。適切な引用を用いない引用など剽窃行為が確認された場合には、該当のレポートだけではなく、提出されたすべてのレポートの点数が0となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PCなど）、オンライン環境が必要となる。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムで連絡する。

【Outline and objectives】

This course introduces the other topics of international relations that are not covered in the Spring semester. While the International Relations A covers the theories particularly focusing on war and peace between sovereign states, so-called, traditional security issues, this course largely focuses on "non-traditional security issues". Topics, particularly, include civil wars, terrorism, and transnational organized crimes. In common with the Spring semester, the course pays particular attention to the causal mechanism and we illustrate those theories through the actual cases in history as many as possible. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states and non-state actors, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

CUA200CA
経済人類学 A
河野 正治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 A では、生業経済における人の暮らしや生き方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

【到達目標】

1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 私たちにはあまり馴染みのない経済のあり方を学ぶことを通して、人の暮らしや生き方の多様性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人類学者の仕事	フィールドワークを通じた差異の発見
第2回	贈与と再分配の世界①	経済人類学の入り口を垣間見る
第3回	贈与と再分配の世界②	ミクロネシアの儀礼経済
第4回	贈与から考える所有と循環①	贈与の3つの義務
第5回	贈与から考える所有と循環②	身近な贈与を考える
第6回	贈与から考える所有と循環③	互酬性の類型学
第7回	贈与から考える人とモノ	譲渡不可能性という概念について
第8回	贈与を通じた理論の再考①	ニューギニア高地のモカ儀礼
第9回	贈与を通じた理論の再考②	普遍と特殊の関係性
第10回	交換の類型学①	互酬、再分配、市場
第11回	交換の類型学②	負債という概念について
第12回	贈与と再分配のもつれあい①	ミクロネシアにおける名誉と威信のエコノミー
第13回	贈与と再分配のもつれあい②	ミクロネシアにみる祭宴と共同性
第14回	社会に埋め込まれた経済	経済人類学の視点と可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらう小課題（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。学習支援システムで配布する授業資料を毎回ダウンロードやプリントアウトをしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies. In Economic Anthropology A, students will learn the way of life in subsistent societies and the basic terms and concepts.

CUA200CA
経済人類学 B
河野 正治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 B では、前半は経済事象の歴史的な展開を考察する授業を行い、後半には現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

【到達目標】

1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて過去の社会事象や現代の社会事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の新たな展開	市場と非市場の二分法を超えて
第 2 回	贈与の歴史学①	中世日本の贈答儀礼と非ボトラッチ社会
第 3 回	贈与の歴史学②	中世日本にみる贈与と商業
第 4 回	負債の人類学①	負債と貨幣の起源
第 5 回	負債の人類学②	負債をめぐるモラルの転倒過程
第 6 回	貨幣と贈与交換①	経済取引の短期秩序と長期秩序
第 7 回	貨幣と贈与交換②	貨幣の意味を変える方法
第 8 回	貨幣と贈与交換③	贈与としての現金集め
第 9 回	国境を越える贈与①	海外送金を読み替える人々
第 10 回	国境を越える贈与②	トランスナショナルなコミュニティと互酬性
第 11 回	経済人類学からみる善意①	臓器移植と「愛の経済」
第 12 回	経済人類学からみる善意②	純粋贈与としてのボランティア
第 13 回	経済人類学からみる善意③	今日的な歓待の想像力と実践知
第 14 回	経済人類学の応用	経済人類学の視角と現代社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べること、当該主題についてさらなる理解を獲得する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらうリアクションペーパー（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。学習支援システムを通じて配布する授業資料については、毎回ダウンロードやプリントアウトしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies. In Economic Anthropology B, economic phenomena of pre-modern societies will be analyzed, while modern economy will be analyzed in the perspective of Economic Anthropology.

ECN200CA

環境経済論 A

松波 淳也

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とポーモル=オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とポーモル=オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義。経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ。廃棄物経済学の整備に向けて。最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクル III- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生。廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等。個別リサイクル法。3 R の優先順位。2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策 II- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化。埋立税・産業廃棄物税。有害物質への税・課徴金。特定製品への税・課徴金。デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III- 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開。短期的政策。中長期的政策の位置づけ。地域特性に即したきめ細かい政策。環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済。経済成長と動脈部門・静脈部門。静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想。逆工場の考え方。「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件。動脈と静脈の相互関係。規制と公共関与。企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担 I- PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP。汚染者負担原則。ピグー税と負担の帰着

- 第11回 費用支払いと費用負担 II- PPP と EPR- 廃棄物管理費用の支払いと負担.EPR の物理的責任と金銭的責任
- 第12回 不法投棄と不適切処理 廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
- 第13回 個別リサイクル法と EPR I- 法体系と個別リサイクル法- 法体系と個別リサイクル法: 再論. 容器包装リサイクル法
- 第14回 個別リサイクル法と EPR II- E-Waste のリサイクル- 家電リサイクル法.PC リサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第2版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類. 「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクル III- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策 II- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税. 有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III- 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策. 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方. 「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業 III - システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担 I- PPP と汚染者負担-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II- PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論. 容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法.PC リサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッズとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CD
経済地理 A
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は教室での講義とオンデマンド形式（動画配信）の併用で進める。

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。授業開始日（ガイダンス資料配付）は 4 月 27 日、動画配信は 5 月 4 日開始となる。動画視聴の期間は各回 3 週間なので、計画的に視聴して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第 2 回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
オンデマンド		
①		
第 3 回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
オンデマンド		
②		
第 4 回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第 5 回	産業の立地①	立地論の基礎
オンデマンド		
③		
第 6 回	産業の立地②	工業立地論と事例
オンデマンド		
④		
第 7 回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第 8 回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
オンデマンド		
⑤		

- 第 9 回 経済の空間構造② 都市発展と都市システム
オンデマンド⑥
- 第 10 回 経済の空間構造③ 都市の理論・モデルと実際
- 第 11 回 国土政策と地域経済① 日本の地域構造と地域間格差
オンデマンド⑦
- 第 12 回 国土政策と地域経済② 国土政策と地域政策の系譜と現状
オンデマンド⑧
- 第 13 回 まとめ・総括 経済活動と地理的スケールの重層性について
- 第 14 回 都市・地域開発と政策 都市・地域問題の現状と新たな政策
オンデマンド⑨

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン
 桐原
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパーおよびオンデマンド授業の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and empirical overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積現象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は教室での講義とオンデマンド形式（動画配信）の併用で進める。

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
オンデマンド		
①		
第 3 回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
オンデマンド		
②		
第 4 回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第 5 回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
オンデマンド		
③		
第 6 回	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
オンデマンド		
④		
第 7 回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第 8 回	日本の都市・産業集積	産地と企業城下町
オンデマンド	①	
⑤		
第 9 回	日本の都市・産業集積	都市集積とネットワーク型集積
オンデマンド	②	
⑥		

- 第 10 回 産業集積のダイナミズム 産業のグローバル化
- 第 11 回 自動車産業の集積① 系列、近接性、JIT 生産システム
回オン
デマ
ン
ド⑦
- 第 12 回 自動車産業の集積② 日本的生産システムの海外展開
回オン
デマ
ン
ド⑧
- 第 13 回 講義の小括・まとめ 経済学における集積論の現在
- 第 14 回 ハイテク産業の集積 シリコンバレーモデルと産学連携
回オン
デマ
ン
ド⑨

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健兒（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパーおよびオンラインの小テスト（平常点 40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of industrial agglomeration in economic geography. Key themes focus on innovation, technological and managerial change, productivity, creativity, globalization, and changing geographies of spatial convergence.

ECN200CA
アメリカ経済論 A
下斗米 秀之
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化や教育水準などで国際社会において最大級の影響力を持ち続けている。一方で環境問題や不法移民の流入、低所得者層の貧困問題など問題大国でもある。本講義では、経済大国として世界をリードするアメリカ経済の歴史と現状について、時代を画期する政策や出来事、事件を通じて解き明かし、グローバル経済におけるアメリカの役割について理解を深める。

【到達目標】

アメリカ経済史にあらわれた諸問題の原因と過程、その帰結を学ぶことを通じて、現代アメリカ経済を正しく理解し、激変するグローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、Zoom を用いたオンデマンド型授業で実施する。事前に講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題を提出する。質問やコメントがあれば翌週以降に動画の中で回答する。講義では参考文献や動画等を紹介するので、提出課題の作成の際には利用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカ経済論を学ぶ意義。
第 2 回	アメリカ経済を見る視点	アメリカ経済の特色。
第 3 回	20 世紀転換期のアメリカ	産業構造の変化、農民・労働運動、貿易・国際収支構造の変化。
第 4 回	第一次世界大戦	参戦とその意義。
第 5 回	繁栄の 1920 年代の光と影	大量消費社会の形成。
第 6 回	大恐慌とニューディール	世界大恐慌とニューディール政策。
第 7 回	第二次世界大戦とアメリカの世紀	パクス・アメリカーナの形成。
第 8 回	米ソ冷戦と開発援助	東西冷戦の時代と開発援助競争。
第 9 回	保守の時代とレーガノミクス	パクス・アメリカーナの動揺と新自由主義政策。
第 10 回	ニューエコノミーと IT 革命	1990 年代のアメリカ経済と IT 革命。
第 11 回	バブルと世界金融危機	IT バブルと住宅バブル、リーマン・ショック。
第 12 回	多極化する世界	新興国の台頭とアメリカ経済。
第 13 回	「トランプ」現象	「トランプ現象」の背景と課題。
第 14 回	米中対立の行方	米中対立と 21 世紀の覇権国。まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂出健、秋元英一、加藤一誠編『入門アメリカ経済 Q & A100』中央経済社、2019 年。

【参考書】

河村哲二『現代アメリカ経済』有斐閣アルマ、2009 年。
地主敏樹、村山裕三、加藤一誠『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求める。

授業態度、提出課題（30%）期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

【担当教員の専門分野等】

アメリカ経済史、国際経済史

【Outline and objectives】

The U.S. established the model for the post-war world economic order, and to this day it continues to be one of the most influential countries in the international community in all aspects, including economic power, military power, culture, and educational standards. On the other hand, the U.S. is also a country with major problems such as environmental issues, influx of illegal immigrants, and poverty among low-income people. In this lecture, we will examine the history and current state of the U.S. economy, which leads the world as an economic powerhouse, through the policies, events, and incidents that marked the era, and deepen our understanding of the role the U.S. has played in the global economy.

ECN200CA

アメリカ経済論B

下斗米 秀之

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル資本主義経済を生きるわれわれにとって、経済大国として世界をリードするアメリカの動向を理解することは不可欠である。本講義では、春学期に学んだアメリカ経済の歴史を踏まえたうえで、現代アメリカ経済の理解に不可欠な移民や医療、格差や貧困など、特に重要だと思われるトピックを取り上げて、アメリカ経済の現状と課題について理解を深める。

【到達目標】

現代アメリカ経済が抱える諸問題の内容やその歴史的な背景を正しく理解し、グローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、Zoomを用いたオンデマンド型授業で実施する。事前に講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題を提出する。質問やコメントがあれば翌週以降に動画の中で回答する。講義では参考文献や動画等を紹介するので、提出課題の作成には利用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ経済の特色	特殊アメリカの地理的、社会的、制度的要因。
第2回	アメリカ経済成長の源泉	巨大な市場と大量生産方式。
第3回	自由企業体制1	アメリカ企業の経営システム、近代企業の生成と発展。
第4回	自由企業体制2	アメリカ企業の戦略と組織、IT産業の変化。
第5回	アメリカの移民問題1	アメリカ経済史と移民労働者。
第6回	アメリカの移民問題2	現在の不法移民問題。
第7回	アメリカの教育政策	アメリカ教育政策の歴史と課題。
第8回	技術政策と研究開発	産官学の研究開発体制の成立と変遷。
第9回	アメリカの医療制度	医療保険制度改革。
第10回	アメリカの財政	アメリカ財政の規模と構造、財政赤字問題。
第11回	アメリカの金融	金融危機と金融政策。
第12回	格差と貧困	所得格差の実態と格差社会。
第13回	アメリカの環境政策	地球温暖化政策とエネルギー問題。
第14回	アメリカ経済の展望と課題	講義のまとめと展望。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。本授業の準備・復習時間として、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂出健，秋元英一，加藤一誠編『入門アメリカ経済 Q & A100』中央経済社、2019年。

【参考書】

谷口明丈、須藤功編『現代アメリカ経済史―「問題大国」の出現』有斐閣、2017年。

河村哲二『現代アメリカ経済』有斐閣アルマ、2009年。

地主敏樹、村山裕三、加藤一誠『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求める。

授業態度、提出課題（30%）期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

春期開講のアメリカ経済論Aとあわせて履修する。

【Outline and objectives】

For those of us who live in a global capitalist economy, it is essential to understand the trends of the United States, which leads the world as an economic superpower. In this lecture, based on the history of the U.S. economy studied in the spring semester, we will deepen our understanding of the current status and challenges of the U.S. economy by focusing on topics that we consider particularly important for understanding the modern U.S. economy.

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 A
伊東 林蔵
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命期から第二次世界大戦終結までのヨーロッパ経済の歴史を、主にドイツを中心に考察していく。その中でも産業革命におけるイギリスの覇権、第二次産業革命におけるアメリカとドイツ自体の台頭、ソ連や日本の経済発展の中で、ドイツが覇権を追求し、挫折し、「ヨーロッパのドイツ」として協調し、欧州統合に向かう過程を考察する。

【到達目標】

ヨーロッパにおいてドイツとはどのような位置を占め、ヨーロッパの経済体制をどのように形成してきたか理解を深める。
現代ヨーロッパの最も「大きな物語」である欧州経済統合は、戦前のどのような歴史的蓄積の上に築かれたか理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・春学期は学習支援システムを利用したオンライン講義が行われる。一講義ごと主要テーマを設定し、各回の講義をパワーポイント形式で学習支援システム教材欄に掲載し必要に応じて Zoom を通じた授業を行う。
- ・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。
- ・春学期は学習支援システムを利用した学習が行われる。毎回の授業に当たり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業は今期講義の導入説明を発信するので、授業時間にあわせシステム閲覧のこと。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とする。
- ・オンラインであることから、授業への理解度がわかりにくいので、小テストや質問時間を設け、学生の理解度を掴み、意見を聞き、後の授業の冒頭に答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	何故、歴史から学ぶのか？ 「ヨーロッパのドイツ」 本講義の全体的テーマ 留意点等
第 2 回	イギリス産業革命	「産業革命」とは何か？ 技術革新 工場制の成立 資本主義 「悲観論」と「楽観論」等
第 3 回	ヨーロッパ大陸の産業革命	後発資本主義国 ドイツ関税同盟と産業革命 「大ドイツ」か「小ドイツ」か？ 1848 年の革命 フランスは停滞した農業国家か？ 等
第 4 回	「パックス・ブリタニカ」	大英帝国の覇権と海軍力 自由貿易帝国主義 ジェントルマン資本主義 選挙法改正運動 工場法 社会主義の誕生等
第 5 回	第二次産業革命	ドイツ帝国成立 1873 年大不況 集中と大企業の出現 新産業の登場 金融資本の成立 アメリカの台頭 ドイツの社会政策等
第 6 回	世紀転換期における自由主義の変容	労働運動の隆盛 社会帝国主義 イギリス自由党の社会改革 新自由主義 (New Liberalism) 改革等
第 7 回	第一次世界大戦前夜	ヴィルヘルム二世の世界政策 独占体制の成立 コーポラティズムの形成 中小企業の発展 中東欧への進出 大陸ヨーロッパ統合構想等
第 8 回	第一次世界大戦	総力戦体制 国家介入の拡大 女性の社会進出 戦災 アメリカの参戦等
第 9 回	ヴェルサイユ条約とヴァイマル共和国の成立	領土割譲 賠償金 ヴァイマル憲法の成立 労使協調 賠償不履行政策 ハイパーインフレーション等
第 10 回	ヴェルサイユ・ヴァイマル体制	相対的安定期 賠償履行政策 産業合理化 カルテルとコンツェルン アメリカナイゼーション 中間層の危機意識 大衆消費社会の萌芽等
第 11 回	ヨーロッパ経済統合の起源？	中欧思想 汎ヨーロッパ運動 生存圏構想 国際粗鋼共同体 IG オイローパ等

第12回	大恐慌	再建金本位制の崩壊 ブロック経済 新自由主義 (Neo-Liberalism) の起 源等
第13回	ナチズム体制の成立	強制的均整化 第一次四ヶ年計画と景 気回復 第二次四ヶ年計画と戦時経済 体制 アウタルキー等
第14回	第二次世界大戦	電撃戦 軍需と重化学工業 強制労働 戦後構想等

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、講義レジュメを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】

- ・原輝史/工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣 1996.
- ・小島健『欧州建設とベルギー』日本経済評論社 2007.
- ・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007.
- ・馬場哲/山本通/廣田功/須藤功著『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房 2012.
- ・小野塚知二『経済史』有斐閣 2018.

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に対応し、学習支援システム上でレポート提出を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In this course, We will consider the European economic history from the Industrial Revolution to the end of World War II, mainly in Germany. Among them, we will focus on the long process towards European integration in that Germany pursued supremacy, frustrated, and cooperated as "Germany in Europe".

ECN200CA

ヨーロッパ経済論B

伊東 林蔵

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第二次世界大戦末期から現在までのヨーロッパ経済を、ドイツを軸として、欧州統合への収斂とその綻びの歴史として捉える。

【到達目標】

諸々の反証を抱えながら、後知恵として見れば、「収斂」していくように欧州統合が成立した歴史的経緯を理解する。同時に現在 EU が抱える諸問題の背景にかなる歴史的要因が存在するのか理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

・秋学期は学習支援システムを利用したオンライン講義が行われる。一講義ごと主要テーマを設定し、各回の講義をパワーポイント形式で学習支援システム教材欄に掲載し必要に応じて Zoom を通じた授業を行う。

・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。
・毎回の授業にあたり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業として、今学期の導入説明を学習支援システム上に掲載。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とする。

・オンラインであることから、授業への理解度がわかりにくいので、小テストや質問時間を設け、学生の理解度を掴み、意見を聞き、後の授業の冒頭に答えを提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第二次世界大戦中の戦後構想	亡命社会民主党、保守反対派、連合国の戦後ヨーロッパ統合構想等
第2回	第二次世界大戦終結と連合国の対独占領政策	アメリカ・イギリスの占領政策 「弱いドイツ」か「強いドイツか」 ドル条項 フランスの妥協 ソ連の占領政策等
第3回	戦後復興	マーシャル・プラン アーベルスハウザー・テーゼ 通貨改革等
第4回	東西ドイツ分割	冷戦体制の成立等
第5回	ドイツの高度経済成長	社会的市場経済 ライン資本主義 「社会主義の優等生」 イギリスの停滞等
第6回	欧州経済統合	欧州石炭鉄鋼共同体 ベネルクスの関税同盟構想 イギリスの自由貿易圏構想 ドイツの EEC 加盟等
第7回	福祉国家論	福祉国家の諸類型 高度経済成長・グローバリズム・脱工業化との関係等
第8回	高度経済成長の終焉	1966/67年不況 ニクソン・ショック オイル・ショック 「経済成長の弱さ」等
第9回	新自由主義 (Neo-Liberalism) の台頭	サッチャリズム レーガノミクス コール政権等
第10回	社会主義体制の動揺	東欧の諸改革
第11回	東欧革命	東西ドイツ統一 ソ連の解体等
第12回	統一ドイツの諸問題	「失われた10年」 東ドイツ地域の経済再建 ハルトツ改革等
第13回	EUの成立	EUの機構
第14回	現在のドイツとEU	「新たな経済の奇跡」メルケル政権 移民問題 脱原発 イギリスのEU離脱等

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、講義レジュメを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】

- ・原輝史/工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣 1996.
- ・小島健『欧州建設とベルギー』日本経済評論社 2007.
- ・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007.
- ・遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会 2008.
- ・川越修/河合信晴編『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版 2016.

・田中素香/長部重康/久保広正/岩田健治著『現代ヨーロッパ経済』第5版、有斐閣 2018

・工藤章/藤澤利治『ドイツ経済：EU経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に対応し、学習支援システム上でレポート提出を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

We will consider the European economic history from the end of World War II to the present as the history of convergence to European integration and its crisis, mainly in Germany.

ECN200CA
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史の経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの影響を鑑み、現状の所、基本的にオンデマンド開催の可能性がある。必要に応じて Zoom による講義も行う予定である。また、課題で提出されたレポートのうち幾つかを取り上げ、オンデマンド講義や Zoom 講義で紹介、説明、補足、ディスカッションなどを行うことを考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	経済発展と諸産業 1	産業発展とその諸段階 概要 産業構造と情報化
3	経済発展と諸産業 2	電気電子産業、自動車産業
4	経済発展と諸産業 3	工業化戦略、WTO 貿易構造の変遷、貿易協定
5	経済発展と諸産業 4	サポーター産業
6	韓国 1	各経済統計による概観
7	韓国 2	韓国の近代史と今日まで
8	シンガポール 1	各経済統計による概観
9	シンガポール 2	シンガポールの成立と今日まで
10	台湾 1	各経済統計による概観
11	台湾 2	台湾の成立と今日まで
12	香港 1	各経済統計による概観
13	香港 2	香港の成立と今日まで
14	総括	試験・まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習 1 時間半・復習時間 2 時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL は URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

コロナによりオンデマンド講義になった場合は、オンデマンドの中で課題を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などにに基づき成績評価（100%）を行うことを考えている。コロナがおさまらず、通学が基本となった場合は定期試験による評価もあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や授業の進め方などについて質問・連絡方法に戸惑う学生がいた。教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。他方、個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行う可能性が高いので、PC の使用を強く薦める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline and objectives】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area.

ECN200CA
現代アジア経済論B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史の内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの影響を鑑み、現状の所、基本的にオンデマンド開催の可能性がある。必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。また、課題で提出されたレポートのうち幾つかを取り上げ、オンデマンド講義や Zoom 講義で紹介、説明、補足、ディスカッションなどを行うことを考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN の成立	ASEAN の成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	為替制度と国際経済	各政策と影響
4	世界に大きな影響を与えた出来事	ケーススタディ
5	タイ1	各経済統計による概観
6	タイ2	タイの近代史と今日まで
7	マレーシア1	各経済統計による概観
8	マレーシア2	マレーシアの成立と今日まで
9	インドネシア1	各経済統計による概観
10	インドネシア2	インドネシアの成立と今日まで
11	フィリピン1	各経済統計による概観
12	フィリピン2	フィリピンの成立と今日まで
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	試験・まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習 1 時間・復習時間 3 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

コロナによりオンデマンド講義になった場合は、オンデマンドの中で課題を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基き成績評価（100%）を行うことを考えている。コロナがおさまらず、通学が基本となった場合は定期試験による評価もあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や授業の進め方などについて質問・連絡方法に戸惑う学生がいた。教員・受講生双方のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。他方、個別メール対応や学期末の個別単要望などについては公平性の観点より原則として受け付けないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行うので、PC の使用を強く進める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 A の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンをお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネットには十分気をつけてください。

【Outline and objectives】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries.

ECN200CA
中国経済論 A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび調査データを活用し、中国経済成長のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜 DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1 回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第 2 回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニューダム仮説）とマディソンの長期 GDP 推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第 3 回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第 4 回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第 5 回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第 6 回	人口変動と労働力 (1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する
第 7 回	人口変動と労働力 (2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第 8 回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する

第9回	経済成長と格差問題 (1)	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第10回	経済成長と格差問題 (2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第11回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第12回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第13回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第14回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	「中所得国の罫」と「体制移行の罫」、マクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズムおよび問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第4版』日本評論社。
 2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

レポートおよび定期試験の組み合わせ：100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【Outline and objectives】

The lecture introduces the trajectory of China's economic growth from a historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will understand the factors behind China's economic growth from different sides (e.g., history, institutions and policies, economic development, and transition) and clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the countries in Europe and the United States.

ECN200CA
中国経済論 B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済成長の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、農民・農村問題、雇用・格差問題などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび調査データを活用し、中国経済成長のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜、DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第2回	国有企業改革 (1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第3回	国有企業改革 (2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第4回	世界の工場—中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDIと中国経済発展について理解する
第5回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造 2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第6回	農村改革 (1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第7回	農村改革 (2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する
第8回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎—農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する

第9回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第10回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第11回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」（「高考」）の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第12回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第13回	社会保障政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第14回	マイクロレベル：中国経済の展望と問題点	マイクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マイクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第4版』日本評論社。
 2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
 6. 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度の改革』、京都大学学術出版会。
 7. 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動—「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

レポートおよび定期試験の組み合わせ：100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【Outline and objectives】

This lecture introduces the factors behind China's economic growth from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., official statistical data published by the Chinese government, survey data etc.). The topic targets focus on individuals, households, enterprises and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise production and innovation, industrial concentration and industrial structural transformation, residents with rural hukou and problems in rural areas and income inequality, and understand the facts and problems of the Chinese economy at the microeconomic levels.

LANd200CA
ドイツ語セミナー A
新田 誠吾
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

この授業から、ドイツ語圏の派遣留学生が多数出ています。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容がだまかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoomによるオンライン授業をします。場合によっては、教室での対面授業に切り替えます。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行って、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について「～へ」にあたる前置詞の使い分け
第2回	旅行(1)	
第3回	旅行(2)	宿泊施設の表現
第4回	旅行(3)	ドイツの労働と休暇
第5回	都市(1)	現在完了で表現する
第6回	都市(2)	道を探る
第7回	都市(3)	交通手段
第8回	田舎暮らし(1)	都会の良い所、田舎の良い所
第9回	田舎暮らし(2)	ドイツと日本の「地方」の違い
第10回	ドイツの大学	進学率
第11回	スポーツと健康(1)	スポーツ大国ドイツ
第12回	スポーツと健康(2)	フィットネスと健康
第13回	天気	脱炭素社会のフロントランナーを突き進むドイツ
第14回	授業内試験と解説	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤原三枝子ほか（2019）. スタート！2-コミュニケーション活動で学ぶドイツ語-. 三修社

【参考書】

参考書は特に必要ありません。辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が40%、学期末試験が60%で、合計60%以上で単位を認定します。欠席が4分の1を超えた場合は、原則単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

学生から高い満足の評価をいただきました。さらに改善を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn about life, culture, and the way people think in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with German or with grammar. It is open to anyone who has studied German before.

Many students have been sent to German-speaking countries from this class.

LANd200CA
ドイツ語セミナー B
新田 誠吾
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

この授業から、ドイツ語圏の派遣留学生が多数出ています。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容がだまかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に Zoom によるオンライン授業です。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行って、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	学校と就職 (1)	職業選択
第 3 回	学校と就職 (2)	ドイツの教育制度
第 4 回	学校と就職 (3)	副文
第 5 回	サービス業 (1)	再帰動詞
第 6 回	サービス業 (2)	トラブル解決
第 7 回	サービス業 (3)	学生のバイト事情
第 8 回	お祝いをする (1)	お祭り
第 9 回	お祝いをする (2)	形容詞の活用
第 10 回	お祝いをする (3)	クリスマス
第 11 回	お祝いをする (4)	誕生日を祝う
第 12 回	ドイツの冬の行事	新年・カーニバル
第 13 回	総復習	秋学期のまとめ
第 14 回	試験と解説	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2-コミュニケーション活動で学ぶドイツ語-. 三修社

【参考書】

参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 40%、学期末試験が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、原則単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

学生から高い評価をいただきました。さらに改善を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

ドイツ語を1年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn about life, culture, and the way people think in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with German or with grammar. It is open to anyone who has studied German before.

Many students have been sent to German-speaking countries from this class.

LANf200CA
フランス語セミナー B
橋本 到
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業中に習熟度の確認のため、家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	郵便局の利用、道順-1	郵便に関する語彙、関連する文法の整理（ジェロンディフ）、～に立ち寄る、ロケーション。
第 2 回	郵便局の利用、道順-2	前回の復習、ジェロンディフの練習、切手を買う
第 3 回	郵便局の利用、道順-3	前回の復習、荷物を送る、手紙の書き方
第 4 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-1	小テスト、ゴミの種類に小テスト、関連する語彙、関連する文法の整理（比較級、受動態）、部屋の説明、アナウンス
第 5 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-2	前回の復習、交通と環境問題、ヴェリブ・オートリブ
第 6 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-3	前回の復習、原子力発電、ゴミの分別、受動態の練習
第 7 回	家族の形-1	小テスト、家族形態の語彙、関連する文法の整理（指示代名詞、関係代名詞、強調構文）
第 8 回	家族の形-2	前回の復習、家族の紹介、関係代名詞・強調構文の練習、出生率の変遷-1
第 9 回	家族の形-3	前回の復習、出生率の変遷-2、パックス
第 10 回	週末の過ごし方-1	小テスト、関連する文法の整理（疑問代名詞、関係代名詞 <i>où</i> , <i>dont</i> ）、靴の買い方
第 11 回	週末の過ごし方-2	前回の復習、服を買う、外出の相談
第 12 回	週末の過ごし方-3	前回の復習、聴解、読解、レジャーの提案（作文）

- 第13回 全体のまとめ、進度の調整 小テスト、ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
- 第14回 映像資料視聴 まとめの講評、フランスの文化（ジャポニスム）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計2時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面で学ぶフランス語2（改訂版）』、三修社

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

三回の小テストの合計65%、レポート5%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANf200CA

フランス語セミナーA

橋本 到

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のあたりを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5から6回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業中に習熟度の確認のため、家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	レストランでの会話-1	郷土料理、関連する文法の整理（複合過去の否定、目的補語人称代名詞）オーダー、味の説明、料理名
第2回	レストランでの会話-2	前回の復習、テーブルでの会話（衣服、プレゼントの選択、その理由）
第3回	レストランでの会話-3	前回の復習、テーブルでの会話（招待）、支払いと若干の表現
第4回	交通機関と旅行-1	小テスト、若干の地理、関連する文法の整理（中性代名詞）乗車券の購入、旅程、所要時間の説明
第5回	交通機関と旅行-2	前回の復習、掲示板（乗車券、発着ホームなど）、聴解練習
第6回	交通機関と旅行-3	前回の復習、ホテルの予約、読解（自動改札機について）
第7回	体と健康-1	小テスト、語彙（体の部位、症状、医療関係）、関連する文法の整理（代名動詞の複合過去、単純未来）、健康に関する表現
第8回	体と健康-2	前回の復習、薬局での会話、体の不調を訴える。
第9回	体と健康-3	前回の復習、体の不調（聴解）、体の部位（語彙・復習）
第10回	ヴァカンス-1	小テスト、語彙（遠出、スポーツ）、関連する文法の整理（半過去、大過去）、過去の継続中の行為
第11回	ヴァカンス-2	前回の復習、自分のヴァカンスの説明、過去の習慣の言い方。
第12回	ヴァカンス-3	前回の復習、事前の情報取得。

- 第13回 全体のまとめ、進度の調整
小テスト、ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
- 第14回 映像資料視聴
まとめの講評とフランスの社会(移民系住民関連)について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかかる準備・復習の時間は合計2時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面で学ぶフランス語2（改訂版）』、三修社

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

三回の小テストの合計65%、レポート5%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANr200CB
ロシア語セミナー A
佐藤 裕子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修した学生のためのクラスです。ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引く様々なテキストを読解・和訳できる。資格として履歴書に書けるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話力を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを辞書を引く訳せるようになる。ロシア語のリスニング（検定3級試験過去問など）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。（資格として履歴書に書けます。ロシア語資格は珍しいため面接時などに武器となります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

経済・社会学部の合同授業のため、履修登録期間に授業形態の希望（対面、オンライン）についてのアンケートをとる。それにとりま授業計画の変更については、学習支援システムでも提示する。春学期はロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させ、対策過去問などを解く。また、生きたロシア語を身近なものとするために、CDやDVDでロシア語をリスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基礎文法の復習	既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（4級）1	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞
第3回	ロシア語能力検定試験対策（4級）2	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読（検定過去問）
第4回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）1	動詞の変化（現在人称変化、過去形、未来形）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）2	時制の副詞、疑問詞と返答、日常会話の中の命令形
第6回	自己紹介文の作成と実践会話	自己紹介（テキスト読解、作文、実践会話、暗唱）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）3	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第8回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）4	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第9回	テキスト読解	テキスト読解（ロシアの市民生活やロシア民話など）
第10回	リスニングの練習	リスニングの練習（検定過去問、アニメーションや映画などの映像資料から）
第11回	ロシア語能力検定試験対策（3級）1	関係代名詞

- 第12回 ロシア語能力検定試験 数詞（数詞と名詞の変化）
対策（3級）2
- 第13回 テキスト読解と視聴覚 テキスト読解と映像資料でのリス
教材でのリスニング練 ニングの練習
習
- 第14回 テキスト読解 テキスト読解、検定試験対策
検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語能力検定試験に向けて、教科書で基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組む。授業での配布テキストの和訳を試みる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアのニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れる。予習・復習時間は、毎回2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、
¥3520

【成績評価の方法と基準】

対面授業、オンライン授業どちらでも試験ではなく、平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50パーセント、課題（課題・宿題等の提出）50%で評価します。課題は、練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。
春学期・秋学期合わせての通年で受講が学力向上に効果的であり望ましいです。
ロシア語能力検定試験を10月から翌年5月に受験し、合格を目指してください。
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

This course is for students who finished basic Russian course. The aims of this course are: 1) to acquire basic Russian grammar rules; 2) to develop your ability to read and interpret various texts using a dictionary; 3) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level 3 and 4; 4) to acquire listening and reading skills along with conversation skills for everyday use. For enhancing our knowledge of the Russian language, we plan to use audiovisual materials such as movies on Russia.

LANr200CB
ロシア語セミナー B
佐藤 裕子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

10月のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。試験後は中級文法を学習し、さらに幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。実践的な会話力を身につける。

【到達目標】

10月のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。（資格として履歴書に書ける。ロシア語資格は珍しいため面接などに武器になります。）

中級文法（副動詞と形動詞）を学習し、ニュースや歴史、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。映像資料（映画やニュース等）によるリスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の初めは10月開催のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の総復習、対策過去問題を解く。試験終了後はより高度な文章の読解と和訳のために中級文法（副動詞や形動詞など）を学ぶ。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化や歴史関連テキスト、雑誌や新聞の記事、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。映画やニュースのリスニング、実践的な会話の練習も行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文法の復習 検定試験対策1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第2回	文法の復習 検定試験対策2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第3回	文法の復習 検定試験対策3	露文和訳、和文露訳（検定試験過去問、想定問題等）
第4回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第5回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解、
第6回	中級文法（被動形動詞1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞1）、会話練習
第7回	中級文法（被動形動詞2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞2）、会話練習
第8回	ニュースのリスニング と和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
第9回	テキスト読解と和文露訳1	テキスト読解（ロシアでの生活と文化、旅行）とそのロシア語作文
第10回	テキスト読解と和文露訳2	テキスト読解と作文（日本の四季と習慣、手紙（ビジネスレターを含む））

第11回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 1	テキスト読解（現代ロシアの文化など）、映像資料のリスニング
第12回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 2	（ロシア文学作品；プーシキンやチェーホフ）、映像資料（映画）のリスニング
第13回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 3	（ロシア文学作品；ドストエフスキーやトルストイ）、映像資料（映画）のリスニング
第14回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 4	テキスト読解（学生の要望を反映）、映像資料のリスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5月と10月に開催されるロシア語能力検定試験に向けて、過去問題と対策問題に取り組む。・授業での配布テキストの和訳を試みる。ロシアに関して興味あるテーマを調べ掘り下げる。本授業の予習・復習時間は、毎回2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620（定額で入手できない場合はご相談ください。）
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291が望ましい））
その他のテキストは、適時プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版社、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

対面授業、オンライン授業どちらも試験ではなく、平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50パーセント、課題（課題・宿題等の提出）50％で評価します。課題は、練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア文化や生活に触れる機会をつくりたいと思います。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。
ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験してください。
春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

First, we aim to pass the Russian Language Proficiency Test (of Japan) at Levels 3 and 4. After the examination, we plan to study intermediate grammar, read comprehensive genres of text, and gain in-depth understanding of Russian history and culture. We will expand our Russian language ability in all four skills of "reading, listening, speaking, and writing" and acquire practical conversational skills.

LANC200CA
中国語セミナー A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。
学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第2回	第1課	読解
第3回	第2課	読解
第4回	1、2課のまとめ、発表	発表
第5回	第3課	読解
第6回	第4課	読解
第7回	3、4課のまとめ、発表	発表
第8回	第5課	読解
第9回	第6課	読解
第10回	5、6課のまとめ、発表	発表
第11回	第7課	読解
第12回	第8課	読解
第13回	7、8課のまとめ、発表	発表
第14回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2021年度版』朝日出版社、2021年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30％、試験70％

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2年間中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

【Outline and objectives】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANC200CA
中国語セミナー B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。

授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。

中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期のまとめ
第 2 回	第 9 課	読解
第 3 回	第 10 課	読解
第 4 回	9、10 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 11 課	読解
第 6 回	第 12 課	読解
第 7 回	11、12 課のまとめ、発表	読解 発表
第 8 回	第 13 課	読解
第 9 回	第 14 課	読解
第 10 回	第 15 課	読解
第 11 回	13、14、15 課のまとめ、発表	発表
第 12 回	補助教材	読解、発表
第 13 回	補助教材	読解、発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2021 年度版』朝日出版社、2021 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

【Outline and objectives】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANs200CA
スペイン語セミナー A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、30 年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、(可能ならスペイン語で)発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

- 1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
- 2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞 (El Comercio 紙等) のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	復習②と基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第 4 回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第 5 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 6 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 7 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 8 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 9 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 10 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 11 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 12 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 13 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局 (<https://www.inei.gob.pe/>)

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90%＋口頭試験10%で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。2019年試行のキャンパス探検会実習が好評だったため、状況次第で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline and objectives】

This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

LANs200CA
スペイン語セミナー B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、30 年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、(可能ならスペイン語で)発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

- 1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
- 2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞 (El Comercio 紙等) のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	復習②と基礎的知識	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーの概説講義
第 4 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 5 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 6 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 7 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 8 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 9 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 10 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 11 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 12 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 13 回	復習③	口頭試験の準備
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成、スペイン語作文等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局 (<https://www.inei.gob.pe/>)／エル・コメルシオ紙 (<http://elcomercio.pe/>)

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90%＋口頭試験10%で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline and objectives】

This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

ECN200CA
開発経済入門A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長の理論と実証分析、伝統的な農業から工業への経済発展のプロセスを学びます。また、これらの開発経済学のトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部1年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、回帰分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラアフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょう？ 経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021年1月時点で教室を割当てられていない、対面授業よりもオンライン授業の可能性が高い科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

オンライン授業となってしまう場合

- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。
- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

- 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

対面授業の場合

- 受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点、スキャンし、学習支援システムを通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	高校地歴の教育における本授業の意味。労働需要1	生産関数、等利潤線
第2回	労働需要2	利順最大化
第3回	労働需要3、経済成長の指標	所得分配、国民総生産、購買力平価
第4回	経済成長の理論1	ソロー・モデル
第5回	経済成長の理論2	貯蓄率、労働成長率、技術水準の変化
第6回	経済成長の実証分析1	相関と因果、回帰分析、条件付き収束
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	経済成長の実証分析2	成長会計、発展会計
第9回	農業1	人口と食料
第10回	農業2	農業の近代化
第11回	二重構造、労働移動1	産業構造転換の記述統計
第12回	二重構造、労働移動2	ルイス・モデル

第13回 二重構造、労働移動3 ハリス＝トダロ・モデル

第14回 まとめと解説、期末試験 第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。オンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

荏開津典生・鈴木宣弘（2020）『農業経済学』岩波書店

ジェトロ・アジア経済研究所他編（2015）『テキストブック開発経済学 第3版』有斐閣

戸堂康之（2015）『開発経済学入門』新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。

教室内試験を実施できない場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去3年間ありません。

【Outline and objectives】

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization. Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and regression analysis, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students.

ECN200CA
開発経済入門B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門 A では、経済成長、産業構造転換という経済発展の過程を学びました。開発経済入門 B では、経済発展の潜在的な要因として、貿易、金融を取り上げます。貿易、金融の利益を示す経済学の理論モデル、実証分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きく、金融の深化も進んでいるのに、サブサハラアフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021年1月時点で教室を割当てられていない、対面授業よりもオンライン授業の可能性が高い科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

オンライン授業となった場合

- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。

- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

- 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

対面授業の場合

- 受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点、スキャンし、学習支援システムを通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	高校地歴の教育における本授業の意味。貿易	比較優位、絶対優位
第2回	貿易 2	2 財 1 時点モデル
第3回	貿易 3	国際価格比と比較優位
第4回	貿易 4	貿易政策下の予算制約線
第5回	貿易 5	輸入代替工業化、実証分析
第6回	金融 1	異時点間効用最大化
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	金融 2	金融仲介の便益、1 財 2 時点モデル
第9回	金融 3	割引現在価値、異時点間の予算制約線
第10回	金融 4	貿易と国際資本移動の便益
第11回	金融 5	マクドゥーガル=ケンプ・モデル、実証分析

第12回	起業 1	一般均衡
第13回	起業 2	貧困の罫、実証研究
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。

オンライン授業となった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社
高橋橋樹、福井清一編（2008）『経済開発論：研究と実践のフロンティア』勁草書房

戸堂康之（2015）『開発経済学入門』新世社

ハナジ、テュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

教室内試験を実施できない場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去 3 年間ありません。

【Outline and objectives】

In Introductory Development Economics A, we studied economic development as a process. In Introductory Development Economics B, we will study trade and finance as factors of economic development. We will review economics models showing benefits of trade and finance and empirical studies.

SES200CA
環境科学 A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義開始は4月21日・ガイダンスからスタートします。
講義概要としては、1-環境を構成する要因、2-環境の変動、3-テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4-環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・変更などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進めたいと思います。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境 1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境 2	上水道と下水道
4	水と環境 3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス 1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス 2	ESCO 事業・ISO ビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。試験の配分が100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline and objectives】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

SES200CA
環境科学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の4つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。

試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壤汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネス A	ESCO 事業 1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネス B	ESCO 事業 2（適用事例）
第13回	環境・エコビジネス C	エコファンド・土地関連ビジネス
第14回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。試験の配分が100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【Outline and objectives】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

ECN300CA
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	エネルギー需給、エネルギー政策
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、汚染者負担原則
第 11 回	排出取引	税との比較、EU の制度
第 12 回	補助金・デボジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木 (2020) 『環境経済学をつかむ 第 4 版』有斐閣
一方井誠治 (2018) 『コア・テキスト環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験が行えない場合、課題の提出を評価の基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students consider environmental policies from the viewpoint of economic theory.

ECN300CA
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第 4 回	交通と環境	自動車 NOx・PM 法
第 5 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第 6 回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第 7 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第 8 回	自然環境保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 9 回	自然環境保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 10 回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境会計、環境マネジメント
第 14 回	企業と環境問題②	環境金融、ESG 投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

竹本和彦編 (2020) 『環境政策論講義』東京大学出版会
西尾哲茂 (2019) 『わか～る 環境法 増補改訂版』信山社
神山智美 (2018) 『自然環境法を学ぶ』文眞堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験が行えない場合、課題の提出状況で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of current environmental law, politics, and policy in Japan.

ECN200CA
社会経済思想史 A
後藤 浩子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパにおける重商主義の形成」

本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状况を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17 世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやコルベールの財政政策に支えられたルイ 14 世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらす国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は Zoom によるオンライン講義を基本とし、必要に応じて対面での講義を行うハイブリッド形式になります。毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第 1 サイクル。以降 14 回までの本学期的講義内容は、高校世界史 A / B における「ヨーロッパの拡大と大西洋世界：16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (2)	重商主義の実相
第 3 回	資本蓄積システムの第 2 サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第 4 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第 5 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第 6 回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とベティへの影響
第 7 回	W・ベティ (1)	経歴とアイルランド測量
第 8 回	W・ベティ (2)	『租税貢納論』
第 9 回	W・ベティ (3)	『政治算術』
第 10 回	J・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第 11 回	J・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第 12 回	C・ダヴナント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第 13 回	D・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第 14 回	資本蓄積システムの第 3 サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、A4 サイズのリアクション・ペーパー（オンライン授業の場合は MS ワード・ファイル）に 1200～1400 字で講義の内容をまとめたレポートを作成し、次の授業の際にそれを提出します。これに必要な学習時間は 1～2 時間です。講義の内容のどの点についてまとめるかは、授業中にお知らせします。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として 10 点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）
 ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
 米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）
 ※さらに詳しく学びたい人のための文献ですので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40%）と春学期末の定期試験の成績（60%）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状况と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline and objectives】

"The formation of mercantilism in Europe"

To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth-and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it provides an introduction to major theorists of social and economic thought of that time.

In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial supremacy. Against this backdrop, questions such as "what is the strength of nation?" and "what regime brings economic prosperity?" were discussed among intellectuals, which was to form mercantilism.

ECN200CA
社会経済思想史 B
後藤 浩子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「重商主義批判の流れと経済学の形成」

戦費調達のために迫られ、17世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17世紀末の Colbert 的工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は1720年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沬事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は『国富論』に結実します。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補充する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は Zoom によるオンライン講義を基本とし、必要に応じて対面での講義を行うハイブリッド形式になります。

毎回の授業で1200～1400字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次回の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降14回までの本学期的講義内容は、高校世界史A/Bにおける「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第2回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第3回	ボワギルベール (1)	欲求と富
第4回	ボワギルベール (2)	自然的自由の体制の希求
第5回	J・F・ムロン (1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第6回	J・F・ムロン (2)	貨幣と信用
第7回	R・カンティロン (1)	商業の一般法則の分析
第8回	R・カンティロン (2)	市場価格と貨幣流通
第9回	F・ケネー (1)	「経済表」：国富の循環の分析
第10回	F・ケネー (2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第11回	A・スミス (1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第12回	A・スミス (2)	「重商主義体系」批判
第13回	A・スミス (3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第14回	A・スミス (4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、A4サイズのリアクション・ペーパー（オンライン授業の場合はMSワード・ファイル）に1200～1400字で講義の内容をまとめたレポートを作成し、次回の授業の際にそれを提出します。これに必要な学習時間は1～2時間です。講義の内容のどの点についてまとめるかは、授業中にお知らせします。毎回教員が日を通し、合格すればレポート評価分の点数として10点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009年）

ラース・マグスソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009年）

米田昇平『欲求と秩序：18世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005年）

ジャン＝フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40%）と秋学期末の定期試験の成績（60%）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想史的重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline and objectives】

"Criticism of mercantilism and formation of political economy"

In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.

ECN300CA
経済政策論 A
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せるとの分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方にに基づき考察を加える。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ビゲー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー、2013、『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 3 版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃、2015、『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、3 回の宿題（40%）、復習問題の回答の提出（10%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

ECN300CA
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討を行う。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方にに基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済 3	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
6	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
7	雇用問題 3	若年者の雇用問題、「世代効果」への政策的対処
8	IS-LM モデルの構築 1	ケインジアンとの交差図、乗数効果
9	IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
10	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
11	IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
12	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用 3	「流動性の罌」の下での財政政策と金融政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、3 回の宿題（40%）、復習問題の回答の提出（10%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

ECN300CA
社会政策論 A
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。】

社会政策が包摂対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会政策である。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何かー定義と歴史的展開ー	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開 少子高齢化社会の動向と社会保障	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
4	老齢年金制度の概要 障害年金・遺族年金の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
5	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
6	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
7	診療報酬制度とその課題	診療報酬制度の課題
8	わが国の医療提供体制 これからの医療と地域政策の展開	医療提供体制の概要 地域の変貌とこれからの医療
9	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
10	雇用保険事業の沿革・課題 労働者災害補償保険の概要と課題	雇用保険二事業の概要 労働者災害補償保険の意義と体系
11	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
12	介護保険の沿革と制度改革	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改革による課題対応
13	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な社会（保障）政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックスについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しない。独自の講義スライドを利用する。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第17版）』有斐閣、2020年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（コンテンツ教材の視聴状況や毎回実施される確認テストの受験状況）と学期末試験によって実施する。各々の評価の割合は50%ずつとする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートの意見では時事的政策課題の解説を望む声が強かった。本年度も出来るだけその要望を反映したコンテンツを提供する。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせ当該分野の現状や課題について解説する。授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of the issues of social security policy in the field of employment, health care, pension, long-term care and welfare for the poor, elderly or children.

ECN300CA
社会政策論 B
菅原 琢磨
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会政策論 A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会保障上の問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促す講義としたい。

Covid-19（新型コロナウイルス）の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応に焦点を当てた講義内容とする。

【到達目標】

わが国が直面する主要な社会保障政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会保障政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉えるべきものである。本講義では Covid-19（新型コロナウイルス）の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応にも触れつつ、進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か 社会保障を巡る今日的状況	社会保障の定義、我が国の現状と将来
2	With コロナ (COVID-19 を見据えた政策対応と今後の展開)	Covid-19 に対する政策対応と今後の課題
3	医療財政と医療政策 「医療保険制度の課題と将来」	給付と負担の見直しに向けた今後の展望
4	高額薬剤など新たなイノベーションに対する対応	高額薬剤の現状と画期的イノベーションを創発する制度設計
5	地域医療連携政策とその理論（Ⅰ）	地域医療連携を進める意義とその理論的背景
6	地域医療連携政策とその理論（Ⅱ）	地域医療連携を進めるうえでの政策的な留意点
7	社会保障政策の政策評価（Ⅰ）	行政評価制度の概要
8	社会保障政策の政策評価（Ⅱ）	政策評価手法：費用便益分析の概要
9	社会保障政策の政策評価（Ⅲ）	政策評価（費用・便益分析）の実際の適用例
10	保健医療福祉政策の視座と国際比較	保健医療福祉政策の目標と各国のアプローチ
11	医療費の増加要因 欧米先進国の医療制度	医療費増加要因、欧州、米国等の医療制度
12	アジア・環太平洋地域の医療制度 主要国における医療制度改革の潮流	オーストラリア、シンガポールの医療制度 各国のこれまでの医療制度改革の鳥瞰
13	国際比較を通じた日本医療の特徴	OECD Health Statistics にもとづく、我が国の医療の特徴
14	社会保障制度に対する対応の世界的潮流	これからの社会保障制度と課題対応の考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて 2 時間、講義後に講義資料を参考に 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。
講義に必要な資料がある場合は、適宜、学習支援システム上で配布する。

【参考書】

島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011 年
小黒一正・菅原琢磨『薬価の経済学』日本経済新聞出版社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点により実施する。
原則、コンテンツ教材の視聴状況と毎回実施される確認テストの受験状況（50%）と確認テストの点数（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートの意見では時事的政策課題の解説を望む声が強かった。本年度も出来るだけその要望を反映したコンテンツを提供する。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline and objectives】

Based on the basic knowledge of Social Security Policy A, this lecture addresses real policy issues we are now facing and fosters the ability to think about the political solution.

ECN200CA
労働経済論 A
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。「人手不足」、「外国人労働力」、「教育費の無償化」といったトピックについても紹介する。

【到達目標】

この労働経済論 A では、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインによる授業を中心としながら、練習問題の確認等のために対面（教室）での授業も 2～3 回程度おこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
7	市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特長的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

Borjas, G 『Labor Economics 7th Edition』 (McGraw Hill Higher Education, 2015 年)

清家篤・風神佐知子 『労働経済』 (東洋経済新報社, 2020 年)

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト (20%) + 期末テスト (80%) で評価する。いずれも学習支援システムによっておこなう予定である。

【学生の意見等からの気づき】

本講義に関して、受講者が関心のあるトピックを把握するように心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we study labor economics with an emphasis on applied microeconomic theory and empirical analysis. We also study the statistics related to the labor economics, such as Labor Force Survey and so on. Topics to be covered include: labor supply and demand, compensating wage differential, immigration, human capital investment, signaling model, and regression.

ECN200CA
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論 A で学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例、「介護離職」、「長時間労働」、「待機児童」等）また、コロナ禍における労働市場のセーフティネットについても議論する。

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインによる授業を中心としながら、練習問題の確認等のために対面（教室）での授業も 2～3 回程度おこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析、労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すこと。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会、2020 年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト（10%）+ 期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによって実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

労働経済論 A の履修は必須ではないが、講義は労働経済論 A の内容を前提として進める。したがって、労働経済論 A を受講しておらず、講義内容を理解できない場合には、各自でその内容を学習する必要がある。

【Outline and objectives】

Based on conceptual frameworks studied in the Labor Economics A, we study the link between those frameworks and public policies in the real world. Topics to be covered include: unemployment insurance, personnel economics, parental leave, child care, informal care and so on.

ECN300CA
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版

鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社

西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社

西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社

麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社

山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of Japanese social security system, compared with the one of other developed countries.

This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN300CA
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
 林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
 小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
 小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
 川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
 畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
 『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社

『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of macroeconomics and public economics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level.

SES300CA
地球環境論 A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解し、人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。そのために地球の成り立ち、自然環境の仕組みを総括的に学習する。

【到達目標】

諸資料を活用し、地理的条件とも関連づけながら、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性和意義
14	総復習	これまでの学習の理解度をチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、授業への取り組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおり）

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline and objectives】

In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

SES300CA
地球環境論 B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	総復習	演習を交えた総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1)『地球環境学入門 第3版』 山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1)『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2)『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題提出（60%）、小試験またはレポート（20%）、授業への出席（20%）とし、合計の 60 % 以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が 50% を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

理科系科目の苦手な学生も理解できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、Zoom 授業を撮影する場合がありますが、受講生の顔が映らないよう配慮します。

【Outline and objectives】

The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

ECN200CA
マクロ経済学 A
檜野 智子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級レベルのマクロ経済学を学びます。マクロ経済学とは、インフレーション、失業、経済成長など、経済全体に関わる現象を研究する学問です。この授業の目的は、マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを理解することです。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解する。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド型のオンライン授業を行います。講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	GDP(1)	国内総生産、三面等価の原則、国民総所得、名目と実質
2	GDP(2)	景気循環の考え方
3	消費と貯蓄の決定 (1)	ケインズ型の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
4	消費と貯蓄の決定 (2)	流動性制約と消費、日本の貯蓄率
5	設備投資と在庫投資 (1)	企業の設備投資、投資の決定要因、資本の限界生産性
6	設備投資と在庫投資 (2)	資本の使用者費用、望ましい資本ストック、新古典派の投資理論
7	設備投資と在庫投資 (3)	ジョルゲンソンの投資理論、調整費用モデル、在庫投資
8	金融と株価 (1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択、株価の決定理論
9	金融と株価 (2)	トービンの q 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資
10	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の機能、貨幣需要の動機、貨幣需要関数
11	貨幣の需要と供給 (2)	ハイパワードマネーと貨幣供給、貨幣量のコントロール方法、利子率の決定理論、テラー・ルール
12	乗数理論と IS-LM 分析 (1)	有効需要の原理、乗数理論
13	乗数理論と IS-LM 分析 (2)	財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線
14	乗数理論と IS-LM 分析 (3)	IS-LM 分析、財政・金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年（電子書籍あり <https://bit.ly/3qFDQny>）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 100 %

・小テストとは、学習支援システムを使用した Web テストです。複数回実施する小テストにより評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、Web テスト、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。（パソコンは必須ではありません）

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学 B」は、春学期の「マクロ経済学 A」の内容を前提とした講義になります。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain basic macroeconomic and consider our society from an independent perspective.

ECN200CA
マクロ経済学B
檜野 智子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級レベルのマクロ経済学を学びます。マクロ経済学とは、インフレーション、失業、経済成長など、経済全体に関わる現象を研究する学問です。この授業の目的は、マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを理解することです。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何かを理解する。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド型のオンライン授業を行います。講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済政策の有効性 (1)	景気循環と経済政策、トレンドの変動、経済政策の有効性
2	経済政策の有効性 (2)	マクロ計量モデル、マネタリズム
3	経済政策の有効性 (3)	非伝統的金融政策
4	財政赤字と国債 (1)	財政政策、国債の役割と問題点、日本の財政赤字
5	財政赤字と国債 (2)	課税平準化の理論、日本の国債市場の動向
6	インフレとデフレ (1)	日本の物価水準の推移、デマンドプル・インフレ
7	インフレとデフレ (2)	コストプッシュ・インフレ、インフレのコスト、ハイパー・インフレ、デフレ
8	失業 (1)	労働市場と失業、フィリップス曲線
9	失業 (2)	自然失業率仮説、自然失業率の変動、日本の失業率
10	経済成長理論 (1)	経済成長とは何か、経済成長の源泉、経済成長理論
11	経済成長理論 (2)	成長会計、収束の概念
12	経済成長理論 (3)	内生的経済成長理論、経済成長と所得分配
13	オープン・マクロ経済 (1)	国際収支表、為替レート、国際通貨制度
14	オープン・マクロ経済 (2)	為替レートの決定要因、経常収支の決定要因

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・春学期の「マクロ経済学A」の内容を前提とした講義を行います。履修していない場合は、授業開始前に教科書の1～6章を自習しておいてください。
- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第5版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016年（電子書籍あり <https://bit.ly/3qFDQny>）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 100 %
・小テストとは、学習支援システムを使用した Web テストです。複数回実施する小テストにより評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、Web テスト、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。（パソコンは必須ではありません）

【その他の重要事項】

「マクロ経済学B」は、春学期の「マクロ経済学A」の内容を前提とした講義になります。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain basic macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

ECN200CA
ミクロ経済学A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基本知識を習得する。まず、市場取引の理論の基本概念である「需要と供給の理論」について学習する。次に、複数の主体間の相互依存関係を分析する道具として「ゲーム理論」を学習する。本講義では、特に、戦略形ゲームの応用例や分析手順（＝ナッシュ均衡の導出）について、学習する。

【到達目標】

本講義では、現代経済における人と人、企業と人、国家と人などの主体間の相互依存関係をミクロ経済学的な視点から分析し理解する能力を習得し、相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを、論理的に判断できる力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

下記指定の教科書と講義資料に基づき講義を行う。
本講義はオンラインで開講する（オンデマンド型・リアルタイム型の併用）初回のガイダンスはオンデマンド型で行い、これ以降の講義は初回講義にて指示する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学の学習内容について。
2	需要と供給の理論 (1)	支払意思と需要。需要関数と逆需要関数。
3	需要と供給の理論 (2)	企業の意思決定に重要な費用概念について。
4	需要と供給の理論 (3)	限界費用と平均費用、企業の意思決定にどのように影響を与えるか。
5	需要と供給の理論 (4)	供給曲線の導出について。
6	需要と供給の理論 (5)	総余剰、消費者余剰、生産者余剰とは。
7	需要と供給の理論 (6)	市場均衡と配分効率性について。
8	需要と供給の理論 (7)	完全競争市場と不完全競争市場、ゲーム理論はなぜミクロ経済分析において必要とされているのか。
9	選択と意思決定 (1)	リスク、期待効用、不確実性について。
10	選択と意思決定 (2)	リスクに対する態度（危険回避、中立、愛好）について。
11	戦略形ゲーム (1)	戦略形ゲームについて（さまざまな例の提示）。
12	戦略形ゲーム (2)	純粋戦略と混合戦略について。
13	戦略形ゲーム (3)	ナッシュ均衡の定義と導出方法について。
14	春学期講義の総括	春学期の学習内容を復習し、理解度確認のための問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。各自、講義の前後で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

・「需要と供給の理論」の講義資料は、学習支援システムに掲載する。
・第 9 回目講義以降の「ゲーム理論」の学習では、下記のテキストを用いる。

・岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014 年

【参考書】

1. 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019 年
1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（100%）により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。

②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

③授業に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge in order to analyze economic problems and phenomena from the viewpoint of microeconomics. First, the students learn the standard theory of market transactions (that is, the theory of demand and supply). Second, the students learn the game theory, which examines the interactions among economic players. In this course, the students particularly study some economic applications of the strategic games and the way to derive the Nash equilibrium.

ECN200CA
ミクロ経済学B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学Aに引き続き、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基本知識を習得する。第一に、戦略形ゲームの経済問題の応用としてクールノー寡占市場ゲームと公共財供給ゲームを紹介し、分析する。第二に、集団合理性と個人合理性の関係を考察するため、パレート最適性の概念を学習し、上記の応用ゲームに適用する。第三に、逐次的なゲームとその応用例を学習する。形式的な定式化として、展開型ゲームにおける基本知識を学習する。最後に、これまで習得したゲーム理論の基本知識を応用し、繰り返しゲーム理論について学習する。

【到達目標】

ミクロ経済学Aに引き続き、現代経済における様々な主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、主体間の相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを主体的かつ客観的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。ミクロ経済学Aの講義内容を前提として、講義を行う。

本講義はオンラインで開講する（オンデマンド型・リアルタイム型の併用）初回のガイダンスはオンデマンド型で行い、これ以降の講義は初回講義にて指示する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学習内容について。ミクロ経済学Aとの関連について。
2	戦略形ゲームの応用(1)	クールノー寡占市場ゲームとナッシュ均衡の導出について。
3	戦略形ゲームの応用(2)	公共財供給ゲーム、およびこのゲームのナッシュ均衡の導出について。
4	利害対立と協調(1)	個人合理性 vs 集団合理性
5	利害対立と協調(2)	パレート最適性について。応用例での導出。
6	ダイナミックなゲーム	逐次的なゲームとその例、ゲームの木、先読み推論について。
7	逐次手番ゲーム応用	シュタッケルベルグ寡占市場ゲームと先導者の利益について。
8	展開型ゲーム(1)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 1。
9	展開型ゲーム(2)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 2。
10	繰り返しゲーム(1)	2回繰り返し囚人のジレンマのナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡について。
11	繰り返しゲーム(2)	無限回繰り返し囚人のジレンマについて。

12	繰り返しゲーム(3)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 1。
13	繰り返しゲーム(4)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 2。
14	復習と練習問題演習	秋学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。各自、講義の前夜で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014年
学習支援システムにて、補助資料を配布する。

【参考書】

- 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019年
- 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015年
- 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した課題（100%）により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

【その他の重要事項】

- ①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。
- ②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。
- ③授業に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge in order to analyze economic problems and phenomena from the viewpoint of microeconomics. The contents of this course are as follows:

- 1) Economic applications of the strategic games: the Cournot oligopoly game and the public good provision game.
- 2) The theory of sequential games and its application to the oligopoly market (the Stackelberg oligopoly games)
- 3) Repeated games of the prisoners' dilemma.

ECN200CA
マクロ経済学A
森田 裕史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ビデオ教材を利用したオンデマンド形式の授業です。適宜、学習支援システムを利用して確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	GDP について（1）	GDP とは
第3回	GDP について（2）	GDP に関連した概念
第4回	GDP について（3）	質問の受付：GDP について
第5回	GDP についての総括	確認テスト1：GDP について
第6回	長期モデル1（1）	総供給と総需要の決定
第7回	長期モデル1（2）	財市場の均衡と与件の変化
第8回	長期モデル1（3）	質問の受付：長期モデル1
第9回	長期モデル1の総括	確認テスト2：長期モデル1
第10回	長期モデル2（1）	貨幣と貨幣需要について
第11回	長期モデル2（2）	貨幣市場の均衡と政策の効果
第12回	長期モデル2（3）	質問の受付：長期モデル2
第13回	長期モデル2の総括	確認テスト3：長期モデル2
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト1～3（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

教科書の内容に沿った講義なので、必ず教科書を購入するようにして下さい。

確認テストや期末テストを実施する回は決まっているので、計画的にビデオ教材を視聴するようにして下さい。

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用してください。

【Outline and objectives】

In this course, the students learn the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model.

ECN200CA
マクロ経済学B
森田 裕史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ビデオ教材を利用したオンデマンド形式の授業です。適宜、学習支援システムを利用して確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	短期モデル（1）	短期モデルにおける財市場
第3回	短期モデル（2）	短期モデルにおける貨幣市場
第4回	短期モデルの総括	確認テスト1：短期モデル
第5回	人々の将来予想と経済変動（1）	家計の将来予想
第6回	人々の将来予想と経済変動2）	企業による価格設定
第7回	人々の将来予想と経済変動の総括	確認テスト2：人々の将来予想と経済変動
第8回	経済成長モデル（1）	経済成長モデルの構造と生産関数
第9回	経済成長モデル（2）	ソロー・スワン経済成長モデル
第10回	経済成長モデル（3）	人口成長と技術進歩の役割
第11回	経済成長モデルの総括	確認テスト3：経済成長モデル
第12回	日本経済とマクロ経済学	失われた10年の原因
第13回	これまでの授業の復習	予備：質問の受付
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト1～3（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

教科書の内容に沿った講義なので、必ず教科書を購入するようにして下さい。

確認テストや期末テストを実施する回は決まっているので、計画的にビデオ教材を視聴するようにして下さい。

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用して下さい。

【Outline and objectives】

In this course, the students learn the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model.

ECN200CA
ミクロ経済学A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Aでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・簡単なミクロ経済モデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインでの開講となります。オンデマンド型・リアルタイム型を併用します。第1回はオンデマンド型でおこないます。第2回目以降は第1回のガイダンスで指示します。また、適宜オンラインでの課題をおこないます。課題へのフィードバックは Hoppii のフィードバック機能を用いておこなわれます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・数学準備	講義の進め方。数学準備
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡。比較静学。
3	部分均衡分析 (2)	余剰分析。
4	部分均衡分析 (3)	課税の影響。
5	消費者行動 (1)	選好・効用・無差別曲線。予算制約線。
6	消費者行動 (2)	限界代替率と需要の導出。
7	消費者行動 (3)	代替効果・所得効果。
8	生産者行動 (1)	等生産量曲線・等費用線。
9	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率と費用関数。
10	生産者行動 (3)	供給の導出。
11	生産者行動 (4)	長期の供給と短期の供給。
12	一般均衡分析 (1)	契約曲線・パレート効率性・コア。
13	一般均衡分析 (2)	厚生経済学の基本定理。
14	まとめ	講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各2時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014年、日本評論社、3200円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著], 安田洋祐 [監訳], 高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017年、東洋経済新報社、3200円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著], 安田洋祐 [監訳], 高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、オンライン課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

話すスピードが速くなりすぎないようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム (Hoppii) を利用する予定。詳細は第1回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline and objectives】

This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market.

ECN200CA
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を必要に応じて不完全市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はオンライン講義でおこないます。オンデマンド型とリアルタイム型を併用します。第1回目はオンデマンド型でおこない、それ以降については第1回目のガイダンスで指示します。また、Hoppiiの機能を通じたオンライン課題をおこないます。フィードバックも Hoppii のフィードバック機能を利用しておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方。
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入。期待利得の解説。
3	ゲーム理論 (2)	最適反応戦略とナッシュ均衡。
4	ゲーム理論 (3)	(弱)支配戦略。
5	ゲーム理論 (4)	混合戦略ナッシュ均衡。
6	不完全競争市場 (1)	独占市場。
7	不完全競争市場 (2)	数量競争寡占市場。
8	不完全競争市場 (3)	価格競争寡占市場。
9	ゲーム理論 (5)	展開形ゲーム。
10	ゲーム理論 (6)	部分ゲーム完全均衡。後向き帰納法。
11	ゲーム理論 (7)	繰返しゲームと、カルテルとしての独占の発生。
12	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落。ピグー税・補助金。
13	外部性 (2)	公共財供給問題・VCG メカニズム。
14	まとめ	講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各2時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014年、日本評論社、3200円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著], 安田洋祐 [監訳], 高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために - 新版」2014年、有斐閣アルマ、1900円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、オンライン課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

話すスピードが速くなりすぎないようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム (Hoppii) を利用する。詳細は第1回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline and objectives】

This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory that is essential for analyzing these situations.

ECN300CA
特別講義（寄付講座 証券市場論）
大和証券（株）
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
- ②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
- ③ M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。

講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M&A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社	証券関連規制の枠組み
	総括	
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。

【テキスト（教科書）】

各回講義用のレジュメを配布する。

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline and objectives】

This lecture is the basic course on financial products. Taking the following three points into consideration, we will analyze the upcoming role of the financial products on the market.

- 1.To understand the function and role of the financial products on the market.
- 2.To learn about main products such as equity, bond, and investment trust.
- 3.To understand the current trend of the market such as M&A. We will invite experts who have understanding of financial market as instructors. The lecture will not only cover the key logics of financial market, but also deal with the realistic topics that you face every day.

ECN200CA
寄付講座 わが国金融の現状と課題
寄付講座担当教員
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融をとりまく環境は、経済社会の構造変化（少子高齢化等）だけでなくデジタル化によって、加速度的に変化しています。本講義では、経済・企業の持続的成長や家計の安定的資産形成のために、これからの金融はどうあるべきなのか、といった政策的なテーマについて考察していきます。実際に政策を担当する金融庁職員による講義を通じ、政策形成の現実やダイナミズムについても学びます。

【到達目標】

- ①社会に出るにあたって不可欠となる金融リテラシー（お金との賢い付き合い方）を身につけることができる。
- ②金融の世界で何が起きているのか、金融はこれからどう変わっていくのかというトピカルなテーマについて、現実的な視点から理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドの資料を用いてオンラインで実施します。
フィードバックについては最終授業で 13 回までの講義内容について説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 お金との賢い付き合い方①	本講義のねらい、金融リテラシーの必要性、お金を「使う」
2	お金との賢い付き合い方②	人生 100 年時代の資産形成：お金を「ためる」、「借りる」「増やす」
3	お金との賢い付き合い方③	共助と公助：お金を「備える」（社会保障や税財政の役割）
4	銀行の役割	銀行業をめぐる現状と課題
5	金融 × 地方創生	地域金融機関に期待される役割
6	金融 × デジタル	フィンテックのインパクト
7	証券市場	証券市場をめぐる現状と課題
8	市場の番人	証券取引等監視委員会の役割
9	金融 × 企業	企業会計・コーポレートガバナンス
10	保険	保険をめぐる現状と課題
11	金融 × 環境	S D G s
12	金融 × 外交	金融をめぐる国際的な協力
13	金融の将来像	デジタルイノベーション
14	金融行政当局	金融庁で働くということ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義内容の大半は現下の政策課題に関するものになりますので、理解を深めるためには、新聞等のメディアのニュースについて、日頃からアンテナを高く張って自分なりに咀嚼することが求められます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の講義資料を学習支援システムでアップロードします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

講義のテーマとなる政策課題を金融庁で実際に担当している現役職員（含む本学OBOG）によるオムニバス形式の授業となります。

【Outline and objectives】

The course is designed to help students understand the issues of Japanese financial system. Each lecture is given by an FSA (Financial Services Agency) official who is in charge of corresponding policy issues, so that students will be able to grasp priorities and challenges ahead.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 A）
李 址遠
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本で就職活動を行う上で必要になる知識と日本語能力を身につけることを目的とする。日本における就職活動の仕組みや、就職活動の様々なプロセスにおいて必要になる「書く」「話す」能力に関する理解を深め、将来の就職活動に備える。

【到達目標】

- ①日本における就職活動の仕組みとプロセスを理解し、計画的に準備できる。
- ②自分をアピールするための効果的な内容と方法を理解し、適切な形式を用いて表現できる。
- ③コミュニケーションの場面にに応じて言葉を適切に使い分けられることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実践的演習からなる。実践的演習にはエントリーシートの作成、Eメールの作成、模擬面接などが含まれる。必要に応じてリアクションペーパーの提出が求められる。課題等の提出とフィードバックは Google Classroom を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/ 日本での就職活動	授業運営に関する説明/ 日本における就職活動の特徴とそのプロセス
2	自己分析	自己分析の意味と方法
3	業界・企業研究	業界・企業研究の方法と実践
4	学生時代に力を入れたこと	効果的な書き方と内容の検討
5	自己 PR	効果的な書き方と内容の検討
6	志望動機	効果的な書き方と内容の検討
7	エントリーシート	エントリーシートの作成と相互検討
8	履歴書	履歴書の作成と相互検討
9	敬語	敬語の種類と性質
10	E メール	Eメールの書き方
11	面接	面接選考の種類と仕組み
12	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
13	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
14	まとめと解説	提出物の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

・準備：事前課題

・復習：講義内容や活動の振り返り、課題・提出物の作成

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド 2022』日本学生支援機構 (https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/job/_icsFiles/afieldfile/2020/12/17/guide2022_all.pdf)

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：30%

課題：50%（ワークシート、振り返りシート、エントリーシートの作成など）

模擬面接：20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし（アンケート未実施）

【その他の重要事項】

この授業は、日本語学位留学生（3年次以降）および、IGESS 生（2年次以降、日本語を得意とする者）を対象とするものである。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students acquire the knowledge and basic communication skills necessary for getting a job in Japan. This course aims to help students enhance their understanding and competence of job hunting in Japan through lectures and various practical activities.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 B）
李 址遠
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本の企業で働く上で必要となる日本語の知識と、基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。敬語に関する講義や、仕事場を想定した実践的な演習を通して、職場での様々な課題に適切に対応できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

- ①敬語の性質と使い方を的確に理解し、場と状況に応じて適切に使い分けられることができる。
- ②人の紹介、電話対応、メール作成などの日本語コミュニケーションを適切に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、講師による講義、課題やテーマをめぐる学生同士の話し合い、クラス全体での共有という流れで進める。課題等の提出とフィードバックは Google Classroom を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/ 尊敬語	授業運営に関する説明/ 尊敬語の性質と使い方
2	謙譲語	謙譲語の性質と使い方
3	その他の敬語	丁寧語・美化語、ウチソトと敬語の使い分け
4	言語表現の丁寧さ	「丁寧さの原理」と表現の使い分け
5	敬語のまとめ	復習、使い分けの練習
6	敬語テスト/ あいさつと紹介	復習テストの実施/ 表現の検討、ロールプレイ
7	電話を受ける	表現の検討、ロールプレイ
8	電話をかける	表現の検討、ロールプレイ
9	訪問	表現の検討、ロールプレイ
10	ビジネスメール	表現の検討、Eメールの作成
11	職場でのコミュニケーションのまとめ	ロールプレイテスト&フィードバック
12	プレゼンテーションの準備	資料・スクリプトの作成
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実施
14	まとめ	授業全体の振り返りとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

準備学習：次回の活動のためのワークシートの作成など

復習：課題の作成、クイズおよびテストの準備など

【テキスト（教科書）】

なし（必要な資料は授業の中で配布する）

【参考書】

『伸ばす！就職能力・ビジネス日本語力：日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック』植木香・木下由紀子・小島美智子著、国書刊行会、2018年、1,980円（税込）(<https://www.kokusho.co.jp/np/isbn/9784336062222/>)

【成績評価の方法と基準】

テスト：20%、プレゼンテーション：10%、課題：50%、授業参加度：

20%

【学生の意見等からの気づき】

敬語及び職場でのコミュニケーションに関する内容の拡充

【その他の重要事項】

この授業は、日本語学位留学生（3年次以降）および、IGESS 生（2年次以降、日本語を得意とする者）を対象とするものである。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students enhance their Japanese language knowledge and basic communication skills necessary for working in Japan. Through lectures on honorifics and various practical activities, this course aims to enhance students' ability to deal with various tasks at workplaces adequately.

ECN300CA
特別講義（アニメーション産業論）
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アニメーション産業の市場規模は年間 2 兆円を超えているとされ、近年の市場の拡大は、海外への売上高の増加によるところが大きい。政府はクールジャパン戦略の重要な柱のひとつに「アニメ」を位置付けている。この講義では、日本のアニメーション産業の展開過程を概観し、産業の性格や特徴を理解し、現在の課題や今後の方向性について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本のアニメーション産業の現状と課題を理解する。
- ②アニメーション・ビジネスの収益構造を理解する。
- ③アニメーション産業を例として、コンテンツ産業の分析手法を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業ガイダンス
第 2 回	アニメ産業の動向	産業の概観
第 3 回	アニメーションの歴史	1960 年代から現在まで
第 4 回	アニメに関わる仕事	制作会社、販売・流通会社
第 5 回	アニメの製作工程	企画から販売まで
第 6 回	アニメの制作工程	作品の完成まで
第 7 回	ビジネスモデル	製作委員会
第 8 回	労働問題	アニメーターの過重労働
第 9 回	アニメの関連業界	ゲーム、出版、音楽
第 10 回	2.5 次元への拡張	ライブ・エンターテインメント
第 11 回	ツーリズムへの貢献	聖地巡礼、地域振興
第 12 回	産業支援施策	経済産業省の政策
第 13 回	グローバル化	外国での制作、海外市場の拡大
第 14 回	アニメ産業の将来	まとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で示す参考文献を読み、アニメを視聴する。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

参考文献を授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出を評価の基本とする（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students learn challenges and opportunities for the animation industry in Japan.

LAW200CA
日本国憲法 A
川鍋 健
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について学びます。

【到達目標】

日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について知り、その良し悪しについて批判的に考察するための基礎となる知見を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要と目的についてお話しします。
第 2 回	なぜ憲法か	日本を含め、多くの国は憲法を持っています。それはなぜか、について学びます。
第 3 回	なぜ人権か	人権という言葉は、日本古来のものではなく、西洋由来のもので、この言葉はどのようにして生まれ、日本に由来したのでしょうか。そしてなぜ、今なおその言葉が使われているのでしょうか。ここではそれらのことについて考えます。
第 4 回	なぜ国民主権か	日本国憲法は国民主権を定めています。その意味内容と、そのような規定が入った歴史について学びます。
第 5 回	憲法改正について	日本国憲法には改正規定がありますが、その規定よりは他国と比べて独特です。ここでは、日本国憲法の改正規定の性格と憲法改正に関する理論について学びます。
第 6 回	憲法尊重擁護義務	日本国憲法には憲法尊重擁護義務が定められていますが、その制度、運用は国によって異なっています。ここでは憲法尊重擁護義務に関する論点を学びます。
第 7 回	天皇制について	日本国憲法 1 条は、国民主権に基づく象徴天皇制を定めています。ここでは象徴天皇制に関する論点を学びます。
第 8 回	国会について	日本国憲法は議院内閣制を定めています。それ自体の制度、運用が異なるだけでなく、議院内閣制を採用しない国もあります。ここでは、議院内閣制を構成する国会に着目し、特に立法権についての論点を学びます。
第 9 回	内閣について	ここでは、議院内閣制を構成する内閣に着目し、特に行政権についての論点を学びます。
第 10 回	地方自治について	日本国憲法は地方自治について定めています。ここでは、地方自治の制度、運用に関する論点を学びます。
第 11 回	裁判所について	日本国憲法は裁判所及び裁判の進め方に関する規定を置いています。ここではそれらに関する論点を学びます。
第 12 回	違憲審査制について	日本国憲法は裁判所による違憲審査制を採用しています。この論点については、しばしば、民主主義との矛盾ということが語られています。それを含め、ここでは違憲審査制に関する論点を考察します。
第 13 回	平和主義について	日本国憲法 9 条は平和主義について定めています。ここではそれに関する論点を学びます。

第14回 これまでの授業のまとめ これまでの授業内容について、総合的な視点から各論点について改めて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

樋口陽一『六訂憲法入門』、勁草書房、2017年。

【参考書】

岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーワード憲法』、成文堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】

・試験によります。試験は第1問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第2問論述問題（事前に3つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日1問を教員が選んで出題します）です。

・第1問を40%、第2問を60%計100%で評価します。
 ・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話ししますが、授業1回の質問に対して、0～2点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、躊躇せずに質問してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年が1年目になります。よろしくおねがいします。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline and objectives】

We will learn the general theory (including the general theory of the human rights and civil liberties) and the form of government of the Constitution of Japan.

LAW200CA
日本国憲法 B
川鍋 健
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の人権に関する制度と運用を学びます。

【到達目標】

日本国憲法の人権に関する制度と運用を理解し、その良し悪しについて批判的考察ができる基礎となる知見を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・人権とその保障	この授業の概要と目的についてお話しします。また、ここでは、人権とはなにか、そしてそれはいかに保障されるかについて学びます。
第2回	人権の享有主体	ここでは、憲法で保障されている人権の主体とは誰か、について学びます。
第3回	幸福追求権	日本国憲法 13 条は幸福追求権を定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第4回	法の下での平等	日本国憲法 14 条は法の下での平等について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第5回	思想・良心の自由	日本国憲法 19 条は思想・良心の自由について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第6回	信教の自由と政教分離	日本国憲法 20 条と 89 条は信教の自由と政教分離について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第7回	表現の自由	日本国憲法 21 条は表現の自由について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第8回	職業選択の自由	日本国憲法 22 条は職業選択の自由について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第9回	学問の自由と教育を受ける権利	日本国憲法 23 条は学問の自由、26 条は教育を受ける権利について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第10回	生存権	日本国憲法 25 条は生存権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第11回	労働権	日本国憲法 27 条は労働権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第12回	財産権	日本国憲法 29 条は財産権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第13回	裁判手続に関する権利	日本国憲法 31 条以下は裁判手続に関する権利について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第14回	選挙権	日本国憲法 15 条は選挙権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・宍戸常寿編『18歳から考える人権』、第2版、法律文化社、2020年。

【参考書】

・岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーワード憲法』、成文堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】

・試験によります。試験は第1問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第2問論述問題（事前に3つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日1問を教員が選んで出題します）です。

・第1問を40%、第2問を60%計100%で評価します。

・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話ししますが、授業1回の質問に対して、0～2点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、躊躇せずに質問してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年が1年目になります。よろしくおねがいします。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline and objectives】

We will learn the system and practice of the human rights and civil liberties of the Constitution of Japan.

LAW200CA

民法一部 A

菅 富美枝

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、総則を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

民法総則（民法典第1編）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	民法概論	民法とは何か
第2回	総則①	契約の成立
第3回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第4回	総則③	意思表示（2）錯誤
第5回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第6回	総則⑤	権利の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第7回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第8回	総則⑦	代理（2）無権代理
第9回	総則⑧	代理（3）表見代理
第10回	総則⑨	法人制度概論
第11回	総則⑩	法人
第12回	総則⑪	契約の一般的有効要件
第13回	総合①	練習問題と解説
第14回	総合②	最終課題の提示、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

授業の進行に合わせて毎週課される復習課題（平常点）（15%）と学期末に課される「春学期最終課題」による評価（85%）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に関心がある。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in Contract Law.

LAW200CA
民法一部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

物権（第2編第1, 2, 3章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

物権法について、あらかじめ配信されたレジュメの流れに従い、授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	総則⑫	契約の効力発生時期
第2回	総則⑬	時効（1）時効制度概論
第3回	総則⑭⑮	時効（2）効果、援用権者、法律行為論
第4回	物権①	物権制度概論
第5回	物権②	所有権の内容、所有権の効力（1）
第6回	物権③	所有権の効力（2）物権的請求権
第7回	物権④	所有権の取得
第8回	物権⑤	共同所有関係
第9回	物権⑥	占有権（1）
第10回	物権⑦	占有権（2）
第11回	物権⑧	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第12回	物権⑨	物権変動（2）対抗要件主義
第13回	物権⑩	物権変動（3）動産物権変動
第14回	物権⑪	物権変動（4）公信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、毎回、学習支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（15%）と学期末論述試験による評価（85%）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に関心がある。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce you to property law. During the course, interrelationship with contract law should be always kept in mind.

LAW200CA
商法一部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第2回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第3回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第4回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第5回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第6回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第7回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第8回	取締役 3	代表取締役の解説
第9回	取締役 4	取締役の義務の解説
第10回	取締役 5	取締役の会社に対する責任の解説
第11回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第12回	取締役 7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第13回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第14回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回につき、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験100%）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW200CA
商法一部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主体である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第 2 回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第 3 回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第 4 回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第 5 回	株式会社の設立 4	設立の論点等に関する解説
第 6 回	株式 1	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第 7 回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第 8 回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第 9 回	株式 4	株式譲渡の解説
第 10 回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第 11 回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第 12 回	募集株式 2	発行等の手続きに関する解説
第 13 回	募集株式 3	発行等の瑕疵等の解説
第 14 回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100%）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

MAN200CA
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習します。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とします。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
- (3) 上記の (1), (2) を前提とした決算書の作成について学習します。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	商品売買取引	分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、値引・返品・割戻・割引の会計処理
第 2 回	商品の期末評価	棚卸減耗損と商品評価損の会計処理方法および損益計算書における表示方法
第 3 回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第 4 回	債権・債務	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第 5 回	有価証券取引（1）	有価証券の種類、購入時の会計処理
第 6 回	有価証券取引（2）	有価証券の売却時の会計処理、期末評価
第 7 回	中間試験	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験
第 8 回	有形固定資産取引（1）	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第 9 回	有形固定資産取引（2）	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第 10 回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第 11 回	無形固定資産取引と研究開発費	特許権、商標権、研究開発費の会計処理
第 12 回	引当金	貸倒引当金、修繕引当金、退職給付引当金、商品保証引当金、賞与引当金、役員賞与引当金、売上割戻引当金、返品調整引当金の会計処理
第 13 回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理
第 14 回	株式会社の税金	株式会社の税金の種類、法人税の申告と納税、消費税の会計処理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価します。
欠席 1 回につき 2 点を、試験の得点から減点します。
欠席 3 回以上 5 回以下（中間試験を含む）の者は B 評価を最高評価とします。
欠席 6 回以上、もしくは期末試験を受けなかった者は E 評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

簿記 I（簿記入門）と比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁）、プリントを綴じるための 2 穴のファイル

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand intermediate level of bookkeeping. Students should have basic knowledge about journal entry and the process of preparing financial statements (statement of financial position and income statement).

MAN200CA
簿記 II B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記 I A,B および簿記 II A の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習します。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とします。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
- (3) 上記の (1), (2) を前提とした決算書の作成について学習します。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	株式の発行	株式会社における純資産の構成、株式の発行時における会計処理
第 2 回	剰余金の配当と処分	株式会社の決算手続、利益準備金の積立、株主資本等変動計算書の作成
第 3 回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役務収益と役務原価の計上
第 4 回	税効果会計（1）	課税所得の算定方法、一時差異と永久差異、税効果会計の基礎
第 5 回	税効果会計（2）	繰延税金資産と繰延税金負債の認識と計上、法人税等調整額の計上方法
第 6 回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第 7 回	中間試験	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第 8 回	本支店会計（1）	本支店会計の意義、本支店間取引、支店間取引に関する会計処理
第 9 回	本支店会計（2）	本支店会計における決算手続、本支店合併財務諸表の作成方法
第 10 回	連結会計（1）	連結財務諸表の意義と特徴、連結会計における連結修正仕訳の意義、支配獲得日の連結（資本連結）
第 11 回	連結会計（2）	資本と投資の相殺消去、部分所有の会計処理、連結精算表の作成方法
第 12 回	連結会計（3）	支配獲得後の連結修正仕訳、開始仕訳と期中仕訳の意義と方法
第 13 回	連結会計（4）	成果連結と連結修正仕訳、内部取引と債権債務の相殺消去、未実現利益の消去（ダウンストリーム、アップストリーム）

第 14 回 期末試験

第 13 回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価する。
欠席 1 回につき 2 点を、試験の得点から減点します。
欠席 3 回以上 5 回以下（中間試験を含む）の者は B 評価を最高評価とします。
欠席 6 回以上、もしくは期末試験を受けなかった者は E 評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁）、プリントを閉じるための 2 穴のファイル

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand intermediate level of bookkeeping. Students should have basic knowledge about journal entry of corporate economic activities and events, and the process of preparing financial statements (statement of financial position and income statement).

LANe200CA
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学び実践する。先行研究の探索と研究計画の立案、実施、結果の集約と考察から成る本格的な論文執筆を行う。今学期は、文献研究、研究課題の設定・リサーチプロポーザルの執筆、Introduction, Literature review, Method までを執筆する。

【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper. 受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation. Individual feedback will be provided.

- (1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.
 - (2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal
 - (3) Collect data, and summarize them for analysis
- * The instructor will give feedback face to face or through documents in each of the steps above.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion
6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works
7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation

8	Write Introduction	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Question(s) and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社（2020）

【参考書】

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房（2012）

『APA 論文作成マニュアル 第2版』医学書院（2011）[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

40% In-class participation in activities

60% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline and objectives】

This course aims to understand organization of a research paper and procedure to put research into practice. The students will create a research proposal including a plan of data collection, compilation of results and analyses of them. They will actually write the parts of Introduction, Literature review, and Method.

LANe200CA

Academic Research Seminar B

飯野 厚

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けて Results (Analysis), Discussion, Conclusion, References までを執筆し完成する。

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) Briefing the organization of a paper

(2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts

(3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables
14	Oral presentation of finalized work	Feedback provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing：本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』医学書院 (2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

20% In-class activities

80% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】

秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを 2 週目までに準備できることが条件です。

【Outline and objectives】

This course aims to write a paper in English based on the research proposal created in the spring semester. Following the previous semester, the students will revise Introduction, Literature review, and Method. They then complete their paper by writing Results, Discussion, Conclusion and References.

LANe200CA

Academic Research Seminar A

山崎 達朗

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題を通して英語の実用的総合力を高める（英検 2 級以上の能力で、課題を定期的にこなせる学生に適する）。英語を聴き、読み、考えを表現する力も養う。

【到達目標】

時事的なテキストで聴解力を中心に行うがニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。また、新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを理解する力が養える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週の課題を要求する。必ず聴解を行い理解度チェックの設問に答える。その解答解説をし、更に書き取りや英作文も行う。Discussion Qs では、自分の考えを英語でまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	*授業内容・評価方法の概略説明, 問題演習
2	問題演習 1	*U1 MAKING WAVES ("Before You Watch"- "Understand the News")
3	問題演習 2	*U1 ("Review & Discussion Questions") *資格試験演習 (TOEIC 等)
4	問題演習 3	*U2 BACKSTAGE TOUR "Watch the News" *新聞記事読解
5	問題演習 4	*U2 ("Review & DQs") *資格試験
6	問題演習 5	*U3 DRINKING TO EAT("Watch the News") *新聞記事
7	問題演習 6	*U3("Review & DQs") *資格試験
8	問題演習 7	*U4 NEXT GENERATION ("Watch the News") *新聞記事
9	問題演習 8	*U4("Review & DQs") *資格試験
10	問題演習 9	*U5 ECO-FRIENDLY FASHION ("Watch the News") *新聞記事
11	問題演習 10	*U5 ("Review & DQs") *資格試験
12	問題演習 11	*U6 BUILDING A BRIDGE ("Watch the News") *新聞記事
13	問題演習 12	*U6 ("Review & DQs") *資格試験
14	問題演習 13	*試験 (応用問題) と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの課題・予習・復習（毎週計 4 時間）

【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE 4 (金星堂), 2021 年発行。類似名教科書に注意。

【参考書】

VOA, ELLLO のウェブサイト, NHK 英語講座。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題実践・小テスト）70%。定期テスト 30%。

【学生の意見等からの気づき】

毎週課題提出を要求し、講評の上各自に返却する。場合によっては再提出。

【Outline and objectives】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their English listening comprehension abilities through watching news reports. Students will also be required to submit short English essays on current topics related to Japanese society, culture and events.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
山崎 達朗
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題を通して、英語の実用的総合力を高める（英検 2 級以上の能力で課題を定期的にこなせる学生に適する）。英語で聴き、読み、考えを表現する力も養う。

【到達目標】

時事的なテキストで聴解力を中心に行うが、ニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。また、新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを理解する力が養える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週課題提出を要求する。必ず聴解を行い、理解度チェックの設問に答える。その解答解説をし、更に書き取りや英作文も行う。Discussion Qs では自分の考えを英語で記述する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	*授業内容の説明 *U7 TAKING AIM ("Before You Watch")
2	問題演習 1	*U7("Review & Discussion Questions") *資格試験 (TOEIC 等)
3	問題演習 2	*U8 BOCCIA BOOM "Watch the News") *新聞記事読解
4	問題演習 3	*U8("Review & DQs") *資格試験
5	問題演習 4	*U9 RISING PROFILE ("Watch the News") *新聞記事
6	問題演習 5	*U9 ("Review & DQs") *資格試験
7	問題演習 6	*U10 ALL BLACKS ("Watch the News") *新聞記事
8	問題演習 7	*U10 ("Review & DQs") *資格試験
9	問題演習 8	*U11 MAN-MADE THREAT ("Watch the News") *新聞記事
10	問題演習 9	*U11 ("Review & DQs") *資格試験
11	問題演習 10	*U12 HOME APPLIANCE ("Watch the News") *新聞記事
12	問題演習 11	*U12 ("Review & DQs") *資格試験
13	問題演習 12	*U13 HOSPITALS ("Watch the News") *新聞記事
14	問題演習 13	*試験 (応用問題) と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの課題・予習・復習（毎週計 4 時間）

【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE 4（金星堂）、2021 年発行。類似名教科書に注意。

【参考書】

VOA, ELLLO のウェブサイト、NHK 英語講座。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題実践・小テスト）70 %。定期テスト 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の課題提出を要求し、講評の上各自に返却する。場合によっては再提出。

【Outline and objectives】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their English listening comprehension abilities through watching news reports. Students will also be required to submit English essays on current topics related to Japanese society, culture and events.

MAN200CA
原価計算 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日的課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を掲示する）

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】

The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であって、原価計算の仕組みを考察する意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日的課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第 11 回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を指示する）

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】

The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA
会计学入門 A
石田 惣平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれま。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の基礎知識を習得することを狙いとしています。

【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解する。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解する。
3. 会計数値を用いて企業を分析・評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンラインの形式で講義を行います。具体的には、Zoom を用いて、講義時間内に講義を行います。なお、Zoom の URL、ID、パスワードは Hoppii に掲載します。また、講義に関して質問がある場合は講義中にチャット欄に記入してもらうか、講義後に Google フォームからリアクションペーパーを提出して下さい。講義中の質問については適宜、講義後の質問については次回講義の冒頭で回答するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会計学の目的	会計学の目的
2	財務会計のシステム	財務会計のシステム
3	複式簿記の構造	複式簿記の構造
4	財務会計の基本原則	財務会計の基本原則
5	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
6	仕入・生産活動	仕入・生産活動
7	販売活動①	売上の認識と測定／売上原価の計算
8	販売活動②	売上代金の回収／棚卸資産の期末評価／販売活動と財務諸表
9	設備投資と研究開発	設備投資と研究開発
10	資金の管理と運用	資金の管理と運用
11	国際活動	国際活動
12	税金と配当	税金と配当
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を読み、講義に参加してください。また、講義中に演習を実施するので、間違えた問題は事後的にしっかり復習しておくようにしてください。本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

【その他の重要事項】

会計学入門Bも合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the basic knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

MAN200CA
会計学入門B
石田 惣平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれます。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の基礎知識を習得することを狙いとしています。

【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解する。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解する。
3. 会計数値を用いて企業を分析・評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンラインの形式で講義を行います。具体的には、Zoomを用いて、講義時間内に講義を行います。なお、ZoomのURL、ID、パスワードはHoppiiに掲載します。また、講義に関して質問がある場合は講義中にチャット欄に記入してもらうか、講義後にGoogleフォームからリアクションペーパーを提出して下さい。講義中の質問については適宜、講義後の質問については次回講義の冒頭で回答するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表のシステム	財務諸表のシステム
3	連結貸借対照表の見方	連結貸借対照表の見方
4	連結損益計算書の見方	連結損益計算書の見方
5	貸借対照表データによる安全性分析	貸借対照表データによる安全性分析
6	損益計算書データによる収益性分析	損益計算書データによる収益性分析
7	相互関係比による収益性分析①	相互関係比と収益性分析／投下資本率の算定
8	相互関係比による収益性分析②	ROAの2分解とROEの3分解／財務レバレッジの効果
9	効率性分析	効率性分析
10	キャッシュフロー・データによる分析	キャッシュフロー・データによる分析
11	損益分岐点分析	損益分岐点分析
12	成長性分析	成長性分析
13	利益マネジメントと財務諸表分析	利益マネジメントと財務諸表分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を読み、講義に参加してください。また、講義中に演習を実施するので、間違えた問題は事後的にしっかり復習しておくようにしてください。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

【その他の重要事項】

会計学入門Aも合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the basic knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

SOC200EB, SOC200EC

産業社会学 I

惠羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。そして、産業・労働を取り巻く状況を社会動態として捉え、人々の意識や相互関係に着目する社会学の枠組みについて理解し、これまで社会学が「働くこと」をめぐっていかにかに考察してきたのかを理解するとともに、今日のグローバル化の影響について検討する。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は4月9日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。各回の授業計画の変更がある場合、学習支援システムでその都度提示する。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前日まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	産業社会学とはどのような学問か	産業社会学、労働社会学、労働経済学、人的資源論など多様な学問領域の特徴を理解し、産業社会学の方法について学ぶ
第3回	経済と社会をめぐる社会学的研究の系譜	社会学における古典理論（デュルケム、ウェーバーなど）、社会関係資本、社会的紐帯などを含む経済社会学の基礎概念について学ぶ
第4回	産業化と社会変動	そもそも産業とは何なのか？ 分業、工業化、脱工業化に伴う技術・組織・社会関係・地域社会の変動などについて考察する
第5回	職場組織と人間関係	ホーソン実験など職場の人間関係論をめぐる議論を学び、欲求充足、モラル、感情労働などについて理解する
第6回	技術革新と労働	テイラーリズム、フォードイズム、ポストフォードイズムなどの議論から技術革新と労働・管理の変容を考える

第7回	労働者意識とイデオロギー	技術や官僚制化をめぐる労働の疎外と人間化、帰属意識、仕事のやりがいや価値観など、労働の主体性について考える
第8回	労資関係と労使関係	働くことを取り巻く利害関係や制度としての労資関係/労使関係について、その重層性を理解する
第9回	労働組合と労働運動	労働組合の類型と機能、および日本の労働組合の特徴を理解し、今日的な労働組合運動のあり方について考える
第10回	日本の産業社会学(1)	日本の産業社会学の系譜から、生活共同体としての労働社会、経営家族主義、産業化と日本の特質などを理解する
第11回	日本の産業社会学(2)	いわゆる日本型雇用システムの特徴を理解し、その変容と多様な働き方について考える
第12回	グローバル化と労働(1)	新国際分業や多国籍企業、経済産業再編成とサービス化、資本と労働の移動の相互関係などについて学ぶ
第13回	グローバル化と労働(2)	アジアおよび日本における移民労働者と労働の変容について考察する
第14回	まとめ	授業のまとめと期末レポートについての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50%）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン等、オンライン講義に対応できるもの）

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて適宜連絡するので、こまめに確認すること。授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers.

SOC300EB, SOC300EC

産業社会学Ⅱ

惠羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代以降の社会構造変動の下での、格差の拡大をめぐる問題について、産業・労働の視点から考える。今日のサービス経済化や少子高齢化する社会において、若年労働、女性労働、外国人労働などが直面している非正規雇用、長時間労働、労働リスクなどの不安定雇用や労働環境をめぐる問題について、その労働実態、構造的背景、組織的特徴などを理解し公正で平等な労使関係の再構築に向けて求められている対策や社会政策について検討する。

【到達目標】

現代の産業社会が直面する、産業と労働に関わる諸問題について、その背景と実態を理解し、問題解決のためにどのような対策・制度政策が求められているのかについて考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる予定。本授業の開始日は9月17日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。各回の授業計画の変更がある場合、学習支援システムでその都度提示する。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	非正規雇用の拡大(1)	雇用システムの変化と多様な働き方の拡大について学ぶ：統計的概観、規制緩和と政策、労働者保護法制など
第3回	非正規雇用の拡大(2)	曖昧な働きかたがもたらすリスクの拡大について考える：個人事業主・個人請負労働、労働者性の問題など
第4回	非正規雇用の拡大(3)	若者の就職について考える：採用の仕組み、教育システム、若者雇用問題など
第5回	労働を取り巻くリスク(1)	ブラック企業について考える：実態、構造的背景、社会的対策など
第6回	労働を取り巻くリスク(2)	長時間労働について考える：労働時間制度の歴史、時間外労働、働き方改革など
第7回	労働を取り巻くリスク(3)	労働安全について考える：労災、職業病、公害などをめぐる労働関連法や補償制度、危機とエッセンシャルワーカーなど
第8回	労働組合と労働運動(1)	日本的雇用システムと労働組合について学ぶ：企業別労働組合の歴史、構造、機能、およびその限界

第9回	労働組合と労働運動 (2)	新たなユニオニズムを考える： 労働相談窓口、非正規労働者の組織化、多様なコミュニティユニオンの役割など
第10回	平等をめぐる視点 (1)	女性の働きかたを考える：男女平等政策の歴史の変遷、女性と非正規労働、ワークライフバランスなど
第11回	平等をめぐる視点 (2)	雇用及び職業における差別に対する取り組みを学ぶ：差別の禁止、職場のダイバーシティ、グローバル化など
第12回	グローバル化と労働 (1)	日本の移民労働者受入政策を考える：受け入れ政策の推移、その原理と変容
第13回	グローバル化と労働 (2)	移民労働者の働きかたを考える：産業特性、多様な制度（日系人、技能実習制度、EPA 看護師、特定技能など）
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（50％）
リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など
②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン等、オンライン講義に対応できるもの）

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて適宜連絡するので、こまめに確認すること。授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. It deals with various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy.

ECN200EB

金融システム論

八木 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の金融政策・金融制度および国際金融の仕組みについて理解するために必要な、伝統的な金融に関する理論および知識とともに、近年のデジタル化に基づいた最新技術動向（ブロックチェーンや金融情報システム）や、それによって得られた知見の修得を目指す。

【到達目標】

現在の国内外の金融問題について理解できるよう、金融および国際金融に関する理論のごく基本的な枠組みおよび金融システムの仕組みに関する実践的な知識を身につける。
また、金融システムに応用された最新技術動向やそれらから得られた知見について理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

PowerPoint ベースのスライドを利用した講義中心に行います。授業の前半では、金融の理論と金融政策運営など伝統的な金融システム論を基礎から学びます。後半では、金融業界および金融システムで利用されている最新技術について学びます。
なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	自己紹介、金融取引と金融システムの概要をみていく
2	日本の金融システム	これまでの日本の金融システムの発展や特色について述べる
3	資金循環と金融構造	資金循環と日本の金融構造の特徴についてみていく
4	貨幣と決済	貨幣の意義と機能、決済システムについて述べる
5	金融市場と新しい金融取引手法	金融市場の機能とその種類についてみていく
6	金融システムの安定性と監督規制	金融システムの安定性とブルーデンス効果、バーゼル規制等を学ぶ
7	金融システムと中央銀行	中央銀行の役割について学ぶ
8	ブロックチェーンと暗号資産の基礎	ブロックチェーンと暗号資産を取り巻く状況を確認する
9	ブロックチェーンを支える技術	ブロックチェーンを支える科学技術について学ぶ
10	ブロックチェーンの最新動向	ブロックチェーンを用いたビジネス等最新の動向をみていく
11	金融情報システム：金融サービスと金融 IT	金融情報システムのしくみを学ぶ
12	金融業界の情報システム	各金融業界で利用されている金融情報システムについて紹介していく
13	データサイエンスと金融ビジネス	金融ビジネスにおけるデータサイエンスの利活用方法を紹介する
14	フィンテックと金融ビジネス	情報産業としての金融業の特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。資料が事前に配布されたときはそれを読んで予習する。講義終了後も資料を読んで理解を深めるよう心掛ける。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

以下の図書の内容を中心に授業を行いますので、より理解を深めたいときはこれらを参考にしてください。

- ・金融システム（第4版）、酒井良清・鹿野嘉昭著、有斐閣
- ・現代の金融入門、池田和人著、筑摩書房
- ・エンジニアが学ぶ金融システムの「知識」と「技術」、大和総研フロンティアテクノロジー本部著、翔泳社
- ・ブロックチェーンのしくみと開発がしっかりわかる教科書、コンセンサス・バイズ
- ・デジタルイノベーションと金融システム、木下信行著、きんざい
- ・ブロックチェーン仕組みと理論、赤羽喜治・愛敬真生編著、リックテレコム

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて判定します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

一部の授業回数で試験的に導入した事後確認用授業資料（虫食い版）が好評だったので対象範囲を広げる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料をPDFで配布するので、それを確認できる情報関連機器

【その他の重要事項】

講義の後半は、情報科学技術について深掘りするため、可能な限り平易な説明を心がけますが、数理的な説明が入ってくることもあり得ます。

【Outline and objectives】

In order to understand the monetary policy and financial system in Japan, we will learn the traditional financial system and the latest technology trends (blockchains and financial information systems etc.).

SES200EB

環境経済学 I

信澤 由之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

温暖化防止、循環型社会構築など環境保全を対象とした環境経済・政策論を講述する。なぜ、環境破壊が発生するのか、経済学的な視点（市場の失敗）から学ぶ。さらに、環境負荷軽減を目的とした政府・自治体の政策手法（規制的手法、経済的手法、奨励的手法）について、どのような効果があるのか、について考える。とりわけ、環境問題に用いる政策手法を経済学的に理解し、地球温暖化、原子力政策と放射性廃棄物の問題と政策効果について学ぶ。

【到達目標】

環境経済学 I では、問題解決型学習を実施する。履修者が環境破壊のメカニズムを把握した上で、地球環境問題と経済学の関係について、市場の失敗の観点から環境問題の関係について説明できるようにする。特に、外部性以外にも、独占や情報の非対称性、公共財においてもケーススタディからなぜこの問題が起こったのか考えるままとめられることを目標とする。「身近な環境問題」ないし、「地球環境問題」に関心を持ち、地球環境問題を通じて問題提起をし、考察し、文章にまとめる力を養うことを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

hoppii に公開するレジュメを用いて講義形式で実施する。できる限り具体的な事例の紹介や客観的なデータ等に基づく説明をする。また、環境問題を経済学の視点から解決できるようにする。また、授業内容をベースとした課題を出題し、授業内容の理解度を確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/地球環境破壊の現状	シラバスの内容確認/9つの地球環境問題とその影響について考える。
第2回	環境破壊のメカニズム	なぜ、環境は破壊されるのか、事例を用いてそのメカニズムを考える。
第3回	市場メカニズムと市場の失敗	市場メカニズムは万能か、市場の失敗は、何が問題かを考える。
第4回	環境問題と経済	環境問題と経済学の関係について考える。
第5回	外部性・情報の非対称性と環境問題	外部性と情報の非対称性の観点から環境問題を考える。
第6回	地球温暖化とエネルギー資源	地球温暖化の発生メカニズムを把握し、どのエネルギー資源が、温暖化防止に望ましいのかを考える。
第7回	独占と環境問題	独占の視点から再生可能エネルギー固定価格買取制度の欠陥を考える。
第8回	日本の原子力政策	日本における原子力政策について学び、今後、原発ゼロが可能かどうかを考える。

第9回	放射性廃棄物の処分問題－世代間の環境問題	放射性廃棄物とは何か、どのような影響を及ぼすかを学び、安全な処分方法について考える。
第10回	公共財と環境問題	地球公共財とグローバルコモンズの視点から環境破壊について考える。
第11回	外部不経済の理論的考察	経済学で環境問題を考える上で重要な外部不経済を費用の視点から理解する。
第12回	環境汚染の責任と費用負担	地球環境問題において汚染者とは誰か、誰が責任を負うべきか、環境に係わる費用は誰が負担すべきかを考える。
第13回	外部不経済の内部化のための方法	環境政策手法で用いられる規制的手法と経済的手法、奨励的手法について理解する。
第14回	環境経済学の理論のまとめ／期末試験	環境経済学の理論のまとめ／期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習1時間、復習時間3時間を標準とする。
また、期末試験・小テストなどを実施する場合、準備学習3時間以上、復習時間1時間以上とする。
事前学習では、Hoppiiに公開するレジュメを読んでおくこと
事後学習においては、レジュメを文章にまとめた上で、課題に取り組むこと

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

日引 聡、有村俊秀『入門環境経済学』中公新書、2002年
倉坂秀史『環境政策論 第3版』信山社、2015年
講義内容の範囲が広いため、履修者から質問があれば、助言する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（58%）、平常点（42%）で評価をする。
期末試験については、論述試験または、レポートを実施する。平常点については、課題（さまざまな形式）を毎回出題する。授業の進捗状況で課題の回数は変動するが、全体の比率としては、平常点42%とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題の解答とレジュメのスライド番号がリンクできるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの公開及び課題の出題及び回収は、Hoppiiで行います。レジュメについては、各自印刷して授業に持ってきてください。レジュメなどは、マイクロソフトのPowerPointファイル、WordファイルやPDFファイルを利用して行いますので、これらに対応した端末及びインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

授業内容の理解度を把握するために、レジュメごとの課題を出し、解説をしていく。

【Outline and objectives】

Lectures will be held on environmental economics and policy theories that focus on environmental conservation, such as the prevention of global warming and the construction of a recycling society. We will learn why environmental destruction occurs from the perspective of economic studies (market failures).

SES300EB

環境経済学Ⅱ

信澤 由之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

温暖化防止、循環型社会構築など環境保全を対象とした環境経済・政策論を講述する。なぜ、環境破壊が発生するのか、経済学的な視点（市場の失敗）から学ぶ。さらに、環境負荷軽減を目的とした政府・自治体の政策手法（規制的手法、経済的手法、奨励的手法）の事例を用いて、その効果について考える。とりわけ、ヒートアイランド、都市交通問題、ごみ問題、地方環境税を事例に考える。

【到達目標】

環境経済学Ⅱでは、問題解決型学習を実施する。履修者が個別の環境問題について政策効果のある政策手法を論理的に説明できるようにする。特に、廃棄物問題と資源問題、環境配慮型製品の普及と、その消費行動を把握した上で、持続可能な開発実現に向けた施策を考える。「環境意識」を持ち、生活環境問題・地球環境問題を通じて問題提起し、考える力を養うことを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

hoppiiに公開するレジュメを用いて講義見識で実施する。できる限り具体的な事例の紹介や客観的なデータ等に基づく説明をするとともに、環境問題を経済学の視点から解決できるようにする。また、授業内容をベースとした課題を出題し、授業内容の理解度を確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／SDGsについて	シラバスの内容確認 SGDs、持続可能な社会について考える。
第2回	水俣病と国際条約	世界の水俣病問題の状況と水俣条約について理解する
第3回	廃棄物問題とその責任	廃棄物問題とは何か、誰が処理を処理・処分をするのか、その責任は誰にあるのかを考える。
第4回	家庭系一般廃棄物の削減施策	家庭ごみ有料化とその他廃棄物減量施策の効果を理論的に考察する。
第5回	先進国における食品ロス問題	日本の食品ロス問題を中心に、なぜ食品ロスが問題であるか、グローバルの視点で考える。
第6回	廃プラスチックとマイクロプラスチック汚染問題	プラスチックやマイクロプラスチックが海洋生物に与える影響と、プラスチックの排出源からの排出抑制策を考える。
第7回	産業廃棄物問題とゼロ・エミッション	有害性の高い産業廃棄物の不法投棄問題と、ゼロ・エミッション工場について考える
第8回	産業廃棄物税とその効果	地方自治体が導入する産業廃棄物税の効果について理論的考察をする。

第9回	ヒートアイランド問題とその施策	ヒートアイランド問題に取り組みと先進的自治体の事例からヒートアイランド対策を考える
第10回	森林保全と森林環境税	地方自治体が独自課税として導入した森林環境税について、その効果を考える。
第11回	環境配慮型技術・製品の普及と環境配慮型の消費行動	環境配慮型技術・製品を普及させるためには、消費者が環境配慮型の消費行動にならないといけない。そのための方策を考える。
第12回	途上国における環境問題	貧困問題からもたらされる環境破壊について考える。
第13回	コモンズの悲劇と資源問題	コモンズとは何か、水資源と生物資源の観点から考える。
第14回	SDGsの実現に向けて/期末試験	SDGsの実現に向けて考える/期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習1時間、復習時間3時間を標準とし、これを踏まえて、課題に取り組んでください。また、小テストを実施する場合、準備学習3時間以上、復習時間1時間以上とします。事前学習では、Hoppiiに公開するレジュメを読んでおくこと事後学習においては、レジュメを文章にまとめた上で、課題に取り組むこと

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

日引 聡、有村俊秀『入門環境経済学』中公新書、2002年
倉坂秀史『環境政策論 第3版』信山社、2015年
和田尚久『地域環境税』日本評論社、2002年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（58%）と、平常点（42%）で評価をします。期末試験については、論述試験または、レポートを実施する。平常点については、課題（さまざまな形式）を毎回出題する。授業の進捗状況で課題の回数は、変動するが、全体の比率として、平常点42%とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題の解答と、レジュメのスライド番号がリンクできるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの公開及び課題の出題及び回収は、Hoppiiで行います。レジュメについては、各自印刷して授業に持ってきてください。レジュメなどは、マイクロソフトのPowerPointファイル、WordファイルやPDFファイルを利用して行いますので、これらに対応した端末及びインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

授業内容の理解度を把握するために、レジュメごとに課題を出していきます。環境経済学Iを履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Lectures will be held on environmental economics and policy theories that focus on environmental conservation, such as the prevention of global warming and the construction of a recycling society. We will learn why environmental destruction occurs from the perspective of economic studies (market failures).

SES200EB

環境政策論

田中 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会活動に起因する環境問題に対して、適切な環境政策を実施していくことが求められます。本授業は、現代社会が直面する環境問題の基本的構造を学ぶとともに、具体的事例に即して問題の解決をめざす環境政策の体系と考え方を修得します。

【到達目標】

水俣病や地球温暖化問題等の環境問題に関する専門的な知見を修得します。環境問題を解決に導く環境政策の考え方を理解し、政策を体系的に実践できる「環境マインド」を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。授業終了時に授業内の課題に関するリアクションペーパーの記入・提出を求めます。授業の初めに、前回のリアクションペーパーを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、環境政策の理念	講義の進め方とスケジュール、受講上の注意を紹介し、環境政策の理念を学びます。
2	人間活動と環境問題	環境負荷の発生と環境問題との係わり、環境問題による文明崩壊の事例を学びます。
3	環境問題の発生と政策の役割	複雑な環境問題を解決する環境政策の位置づけと役割を学びます。
4	環境政策における市民参加	環境問題の解決に向けた市民参加・協働の意義と、その事例（アサザ事業、市民風車）を学びます。
5	環境ガバナンスの視点	多様な主体が関わり新しい公共を担う環境ガバナンスの仕組みを学びます。
6	環境政策の基本原則	政策の基本原則として持続性やコジカルフットプリント等を学び、政策への適用について考えます。
7	環境政策の基本原則と対策手法	政策の基本原則である汚染者負担原則、拡大生産者責任、予防原則などの考え方から対策手法を学びます。
8	水俣病の発生と問題構造	最大の公害問題である水俣病について、地域社会との関わりなど問題構造を学びます。
9	水俣病の拡大防止策の失敗	水俣病の被害と患者の状況を学び、拡大防止の不備、失敗の要因を説明します。
10	水俣病への行政の不作為と裁判	水俣病被害の拡大防止に向けた政策主体の行政の役割を学びます。水俣病裁判の経緯を理解します。
11	水俣病に学ぶ環境政策の教訓	多数の被害者を発生させた水俣病の特質を抽出し、今後の環境政策の教訓を学びます。
12	地球温暖化対策の実施	低炭素対策の枠組みと温暖化防止の国際社会の連携について学びます。
13	環境政策の手法	地球温暖化等の多様な環境問題を解決する環境政策手法（直接規制、経済的手法等）を学びます。
14	環境問題の解決に向けて（まとめ）	21世紀の環境文明社会の構築に向けて環境問題の解決のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に2回の課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）、田中充編著『地域からはじまる 低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）60%、課題レポート 40%（2回）とします。
 ・授業参加として毎回アクションペーパーの提出を求めます。アクションペーパーは記述内容に応じて採点（1回につき5～1点）し、全回提出で60満点とします。
 ・課題レポートは2回（うち1回を小テストに代える場合がある）行い、各回20満点、合計40点とします。
 ・欠席の多い受講態度（授業回数のうち概ね3割以上の欠席）は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する場合があります。
 ・授業方式（対面またはオンライン）は学習支援システムによりお知らせします。
 ・オンライン授業の場合は、Wi-Fi等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
 ・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論
 <研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This lecture deals with the basic structure of environmental issues and the system of environmental policies to solve those issues.

SES200EB

環境自治体論

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住民生活や事業活動の現場を抱える地域・自治体に注目し、廃棄物対策、地球温暖化防止、環境マネジメントを事例として行政施策の条例・計画、住民参加手法などを学びます。

【到達目標】

廃棄物問題、地球温暖化・エネルギー問題等の具体的な環境問題について、その原因・経過・対策の構造を学び、自治体環境行政の視点に即して地域環境政策の概念と体系について修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。授業終了時に授業内の課題に関するアクションペーパーの記入・提出を求めます。授業の初めに、前回のアクションペーパーを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、廃棄物問題の基礎	講義の進め方とスケジュールを紹介し、基礎を学びます。
2	廃棄物の現状と処理・処分	廃棄物の処理・処分の仕組みと現状、問題の所在について学びます。
3	廃棄物の再資源化・リサイクル	廃棄物の再資源化について日本の現状と課題を学びます。
4	資源循環型社会の構築：水俣市の資源循環型地域づくり	資源循環型社会の構築の事例として水俣市の資源循環型地域づくりを学びます。
5	環境基本条例・環境基本計画の体系	自治体環境行政の枠組みとして基本条例と基本計画の理念と体系を学びます。
6	公害克服とエコタウンの推進	川崎の公害問題の改善とまちづくり、環境と産業の調和を目指すエコタウン構想を学びます。
7	地球温暖化問題の要因と影響、構造	今日の経済社会に内在する温暖化問題の原因と影響、その構造を学びます。
8	気候変動対策－緩和と適応	地球温暖化対策の国際社会の経緯とともに、対策の柱である緩和策と適応策について学びます。
9	地域の温暖化対策：京都市温暖化条例	全国初の京都市の地球温暖化対策条例とその取り組みを学びます。
10	飯田市の地域環境マネジメント	地域の環境マネジメントシステムとして飯田市のマネジメントの取り組みを学びます。
11	自治体環境行政と市民参加	今日の自治体環境行政の柱となる市民参加の仕組みを学びます。
12	自治体のエネルギー政策	自治体エネルギー政策の枠組みと政策マトリックの概念を学びます。
13	庄内町のエネルギーコミュニティ	再生可能エネルギー政策の事例として風力発電を進める庄内町（旧立川町）を学びます。
14	環境自治体と持続可能な地域づくり（まとめ）	自治体環境政策の総合体系として環境自治体の概念、持続可能性のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に2回の課題レポートの提出が求められます。本授業の準備・復習時間は各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい 2008）、田中充編著『地域からはじまる低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）60％、課題レポート 40％（2回）とします。
・授業参加として、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点（1回 1～5点）し、全回提出で満点 60点とします。
・課題レポートを 2回（うち 1回を小テストに代える場合がある）行い、各回満点 20点とし、合計 40点とします。
・欠席の多い受講態度（概ね 3割以上、14回中 4回以上の欠席）は、平常点を大きくマイナスし、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する場合があります。システムに随時アクセスできる通信環境が必要です。
・授業方式（対面またはオンライン）は、学習支援システムでお知らせします。
・オンライン授業の場合は、Wi-Fi等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
・担当教員は、自治体行政における環境政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論
<研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This lecture deals with local governmental policies on issues of waste disposal, global warming measures and environmental management system, etc.

LAW200EB

社会保障法 I

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。

【到達目標】

基本的な制度内容を理解し、政策的論点について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

皆さん自身のライフサイクルやライフプランとの関わりで、日本の社会保障の基本的な仕組みを理解し、活用できるようになることを目指します。その上で政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答える予定です。
技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保障の基礎』（弘文堂）。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40％）および期末試験（60％）により評価する予定です。
（試験を実施できない場合はレポートにより評価します。）
（時間及び技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思います。）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし（昨年度は担当しませんでした）。
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline and objectives】

This course deals with social security law.

LAW300EB

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。

【到達目標】

基本的な制度内容を理解し、政策的論点について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

皆さん自身のライフサイクルやライフプランとの関わりで、日本の社会保障の基本的な仕組みを理解し、活用できるようになることを目指します。その上で政策的な論点や今後のあり方を検討します。

質問やコメントに次の授業で全体に対して答える予定です。

技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか—全国共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか—サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
7	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。
（ただし講義の後半部分については、別のテキストを準備中。）

【参考書】

梶野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）および期末試験（60%）により評価する予定です。

（試験を実施できない場合はレポートにより評価します。）

（時間及び技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思います。）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし（昨年度は担当しませんでした）。

テキストの使用により、理解しやすくなります。

【その他の重要事項】

授業の進捗によって若干の変更が出る可能性があります。

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline and objectives】

This course deals with social problems and social policies.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

サブタイトル：南北問題

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応していますが、さらに進め方が変更される場合については、学習支援システムを参照してください。>

国際協力についての担当教員の著書を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと、を含むこと。授業前半では ZOOM のブレイクアウトセッションを用いて、少数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらに深い問いをもてるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連 SDGs の論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か?	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年（7月刊行予定）。

【参考書】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。
 岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

サブタイトル：地域研究（イスラーム）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

- ①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。
- ②さらに批判的に読解する力をつける。
- ③学術的討論の流れをつかむ力をつける。
- ④学術的討論を批判的に評価する力をつける。
- ⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方になっていきますが、さらに変更される場合の詳細は、学習支援システムを参照してください。>

中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してくることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家=社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民	受講生報告と教員を交えた議論

- 9 トルコ新自由主義・ 受講生報告と教員を交えた議論
親イスラーム政党・外
交
- 10 中東地域秩序における 受講生報告と教員を交えた議論
アラビア半島諸国の台
頭を支える安定性の源
泉
- 11 イランのイスラーム統 受講生報告と教員を交えた議論
治体制の現状
- 12 イラク「政治体制を巡 受講生報告と教員を交えた議論
る迷路」
- 13 ヨルダン——紛争との 受講生報告と教員を交えた議論
共生
- 14 中東・イスラーム研究 受講生報告と教員を交えた議論
の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年

【参考書】

長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。

岡野内 正著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

ARSe200EC

地域研究（中国）

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバル化が進展する現代の国際社会の中でその独自性と普遍性とを分析、考察する。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえ、的確に分析していく視座を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論。後半はテーマ別に小グループを編成し、発表、議論をおこなう。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時間と空間としたい。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「中国」という文明体	中華世界と中国の世界秩序
2	中国をめぐる経と緯	中国と「屈辱の近代」
3	現代中国への視座	「改革・開放」と現代中国
4	疑問と誤解（1）	中国を理解するキーワード
5	疑問と誤解（2）	中国共産党と社会主義
6	疑問と誤解（3）	伝統的政治思想と「民主化」
7	ひとつの中国、たくさんの中国（1）	多民族国家の諸問題
8	ひとつの中国、たくさんの中国（2）	香港、マカオ、台湾
9	発表と討論（1）	格差と「小康社会」の実現
10	発表と討論（2）	さまざまな社会問題から検証する現代中国
11	発表と討論（3）	「北京コンセンサス」と「ワシントンコンセンサス」
12	発表と討論（4）	日・中関係の過去と歴史認識問題
13	発表と討論（5）	日・中関係の現在・未来
14	発表と討論（6）	中国と世界のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考図書）の渉猟
2. 関連する新聞やネットの記事のチェック
3. グループ発表、討論の準備

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにてできるだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】

現代中国と東アジア地域の「通時的」理解にグローバルな「共時的」解析、検証を加えて獲得した新しい視座により具体的な考察（書評など20%+小論文50%=70%）をおこなう。これに参加（教員と学生の書面の応答〔「交換日記」〕や発表=30%）を加えて評価する。

オンライン授業となった場合には、書評など35%+小論文65%と変更する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

教室でもzoomでも従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析の「リテラシー」を伝え、中国像の「歪み」と実像とを比較考量する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論 I

宇野 斉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークのシステムのな見方とともに、学びます。

【到達目標】

1 社会現象のネットワーク的な見方の理解 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解 3 スモールワールドの理解 4 社会のシステムのな見方とネットワークの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として演習問題、実験、いくつかの課題によって進めます。毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会におけるネットワーク現象 (1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介し、社会現象を起すネットワークの振る舞いを考察します。
03	社会におけるネットワーク現象 (2)	社会現象を起すネットワークの振る舞いを考察します。
04	ネットワーク、システム上の主体と関係	システム論的見方を提示し、ネットワークの主体の役割と相互関係を考察します。
05	企業のネットワーク (1)	企業内の制度におけるネットワークを考察します。
06	企業のネットワーク (2)	企業内の制度外のネットワークを考察します。
07	地域のネットワーク (1)	地域を成立させているネットワークを考察します。
08	地域のネットワーク (2)	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
09	スモールワールドの理論	スモールワールドの理論分析モデルを学びます。
10	スモールワールドの実験	スモールワールドの分析を感じる実験を行います。
11	スモールワールドの実験と理論	実験結果を分析し理論との接合を考察します。
12	ネットワークの中に生じる認知組織	ネットワーク内に認知される組織を論じます。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	社会における多段階のネットワーク関係を系統的に考察します。
14	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 25 %、レポート 25 %、期末試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを利用します。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更があります。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

期末試験はレポートで代替する可能性があります。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline and objectives】

Learn how to view society from a systematic view and network view.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野 斉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に組織内ネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学びます。

【到達目標】

- 1 ネットワーク分析が自分で出来る能力の獲得
- 2 ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得
- 3 組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として演習問題、実験、いくつかの課題によって進めます。

個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を行います。組織内のネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱います。

毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	概観内容を説明し、学生と教員間で確認します。
02	ネットワーク分析のための理論提示	この授業でのネットワーク分析の理論と背景を提示します。
03	ネットワークの理論的分析	実験モデル状況の理論分析を行います。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
05	実験結果の分析	データを理論との対比で分析します。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における一般的な指標を説明します。
07	組織内公式関係分析	分析方法とケースで公式的關係状況の分析を考察します。
08	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な關係状況の分析を考察します。
09	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の關係の同時状況分析を考察します。
10	組織内リンク追加の効果1	モデルでの關係追加の組織全体への効果を考察します。
11	組織内リンク追加の効果2	モデルでの關係追加の個人への効果を考察します。
12	組織内リンク追加の効果3	モデルでの關係追加の個人と組織への効果の差異を考察します。
13	クラスター、ネットワーク、組織、個人	4つの段階の様相相互の關係を考察します。
14	まとめと、質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、レポート 25 %、期末試験 45 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。
なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline and objectives】

Learn the theory and method which can analyze the social networks in the organization.

HSS2001A

スポーツ戦術論（サッカー）

小井土 正亮

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：2~4年次/2単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

備考（履修条件等）：※ 2018年度以降入学生対象

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカー競技力向上を目指した実践現場・指導現場において、自身が戦術を科学的に理解・実践できる競技者になるため、また、戦術を科学的に観察・分析でき合理的に指導できる指導者になるための基礎知識を身につける。

【到達目標】

サッカーにおける様々な戦術を多角的に理解し、さらに競技者・指導者としてもいかなる分析方法、指導方法も習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

サッカーに関する戦術を講義・発表・実習形式を通し多角的に理解していく。また、国内外のサッカー戦術の現状や年齢・レベルの相違に関係するサッカー戦術についても学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（授業の進め方など）	講義の進め方・聴講に際して留意すべき点・評価の方法を確認する
第2回	戦術とは何か	戦術の語源・サッカー戦術に関する用語等の理解
第3回	サッカーにおける個人戦術（攻撃）	サッカーにおける個人戦術（攻撃）について理解する
第4回	サッカーにおける個人戦術（守備）	サッカーにおける個人戦術（守備）について理解する
第5回	サッカーにおけるグループ・チーム戦術（攻撃）	サッカーにおけるグループ・チーム戦術（攻撃）について理解する
第6回	サッカーにおけるグループ・チーム戦術（守備）	サッカーにおけるグループ・チーム戦術（守備）について理解する
第7回	近代サッカー戦術の傾向①	近代サッカー戦術の傾向（国内）を理解する
第8回	近代サッカー戦術の傾向②	近代サッカー戦術の傾向（国外）を理解する
第9回	サッカーにおけるチーム戦術（分析）①	国内チームの戦術を分析してみる
第10回	サッカーにおけるチーム戦術（分析）②	国外チームの戦術を分析してみる
第11回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法①	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（コーチング方法）を学ぶ
第12回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法②	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（映像編集）を学ぶ
第13回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法③	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（プレゼンテーション・データ読解）を学ぶ
第14回	まとめ	本講義に関する総括・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サッカー戦術に関し、異なるレベルや年齢や性別、国内外のサッカー事情を含め情報を収集しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない、必要であればその際に資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない、必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポート 60%、平常点 40%で評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The objective of this class is to know about the practice and theory and to improve the performance in football.

HSS2001A

青少年指導実習（サッカー）

小井土 正亮

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：2~4年次/1単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：※ 2018年度入学生以降対象

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本サッカー協会公認C級コーチライセンス講習会のカリキュラムに準拠し、サッカー指導者としての基礎的な能力を身につける。

【到達目標】

サッカー指導者としての初歩として、指導に必要な基本的な知識、スキルを身につけ、育成年代の選手に対する指導が適切に行えるようにする。

日本サッカー協会公認C級コーチライセンスを取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

サッカー指導に関し、講義・ディスカッション・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第2回	発育発達と一貫指導 サッカーの競技精神	発育による心と身体の変化を知る。 プレーする心がまえについて理解を深める。
第3回	チームマネジメント	チーム運営の方法を学ぶ。
第4回	メディカル ゲーム	医学的な理解を深める。 ゲームから課題を見つける。受講生同士でディスカッションを行い、観る眼を養う。
第5回	テクニク	サッカーにおけるテクニクについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第6回	戦術	サッカーにおける戦術についての講義から実際に指導実践に取り組む。
第7回	ゴールキーパー	サッカーにおけるゴールキーパーについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第8回	プランニング	トレーニングのプランニングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第9回	コーチング	コーチングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第10回	指導実践①	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第1グループ1回目。
第11回	指導実践②	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第2グループ1回目。
第12回	指導実践③	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第1グループ2回目。
第13回	指導実践④	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第2グループ2回目。
第14回	筆記試験	本講義全体を通した内容についての試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておくことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

JFA サッカー指導教本 2021

公益財団法人日本サッカー協会

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、授業後のレポート20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本授業は基本的には集中形式で行います。
ガイダンスならびに第2回、第3回の講義については事前にオンラインによる講義を行います。

【Outline and objectives】

The goal is that acquiring basic abilities as a soccer coach in accordance with the curriculum of the Japan Football Association official C-class coach license course.

TRS100JB

ホスピタリティ論

野口 洋平

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ホスピタリティ」をめぐって、その語源や意味、サービス産業との関係、観光における重要性、サービスとの違いなどについて、主にサービス・マーケティング論の視点から考える。

【到達目標】

ホスピタリティについて、自らの言葉で議論し説明を試みるための知識と考え方を身に付ける。また、観光やサービス、福祉などにおけるホスピタリティのあり方について意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義はレジュメを中心に行う。ディスカッションは教員と学生のあいだ、または学生同士で行い、最後に議論の結果をまとめる。毎回授業後にリアクションペーパーを提出し、次回の授業冒頭で教員からフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・観光とホスピタリティ	ホスピタリティという用語が観光と関連づけられて使用されることが多いことなど事例に解説する。
第2回	ホスピタリティ・サービスの語源	ホスピタリティの語源、サービスとの比較からその特性について解説する。
第3回	ホスピタリティとサービス(1)	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を検討する。
第4回	ホスピタリティとサービス(2)	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第5回	ホスピタリティとサービスの現代的意味(1)	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について検討する。
第6回	ホスピタリティとサービスの現代的意味(2)	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第7回	ホスピタリティとサービスのマーケティング(1)	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について解説する。
第8回	ホスピタリティとサービスのマーケティング(2)	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第9回	消費者にとってのホスピタリティとサービス(1)	消費者にとってのホスピタリティについて、特にマーケティングやサービスとの比較から解説する。
第10回	消費者にとってのホスピタリティとサービス(2)	消費者にとってのホスピタリティについて、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第11回	国際観光とホスピタリティとサービス(1)	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について解説する。
第12回	国際観光とホスピタリティとサービス(2)	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第13回	社会的サービスとホスピタリティとサービス	福祉など社会的サービスとホスピタリティの関係について解説した上で、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
第14回	テストとまとめ	理解度を確認するテストの実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に関連する新聞記事、ニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心がける。自身のサービス体験（サービス提供、サービス享受）について記録し、授業内容に沿って分析・検討する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。講義の際にはレジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：100点

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに初めて取り組む学生もいるので、複数回の機会を設けて充実した議論を目指す。また、リアクションペーパーを通じた教員と履修者とのコミュニケーションを重視する学生が多いため、よりいっそう活発に行うことで授業の充実を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

極端に履修者数が多い場合や少ない場合には、授業の進行方法や評価方法を変更する可能性がある。その際には、授業ないで資料を配布して周知する。教員への連絡方法は授業内で提示する。大学の行動制限方針がレベル1の場合でも、この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】

This class discuss from a viewpoint of service marketing (1)etymology and meaning of hospitality, (2)relationship between hospitality and service industries, (3)importance of hospitality in tourism, (4)difference between hospitality and service.

CUA100JB

日本人の心理特性と文化

長山 恵一

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の童話（「だれも知らない小さな国」佐藤さとる）を題材に、そこに見られる日本人の文化や心理行動特性を深層心理学的に読み解いていく。

【到達目標】

童話のストーリーや具体的な内容に、どんな風に日本的な文化や心理行動特性が表れているかを深層心理学的に理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、童話の内容を具体的に読み進みながら、そこにどんな風に日本人の文化や心理行動特性が表れているのかを講義し、考えていく。新型コロナの感染状況によってはオンラインでの開講の可能性があります。その場合、それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。

課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要と童話「だれも知らない小さな国」の概説	童話の作られた時代的背景や講義の概要について説明する。
第2回	第1章「いずみ」	第1章のストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第3回	第2章「小さな黒いかげ」1～5節	第2章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第4回	第2章「小さな黒いかげ」6～10節	第2章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第5回	第3章「矢印の先っぽ」1～5節	第3章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第6回	第3章「矢印の先っぽ」6～10節	第3章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第7回	第4章「わるいゆめ」1～5節	第4章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第8回	第4章「わるいゆめ」6～10節	第4章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第9回	第5章「新しい味方」1-4節	第5章 1-4 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第10回	第5章「新しい味方」5-8節	第5章 5-8 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第11回	童話全体のストーリーのまとめ	童話全体のストーリーにどんな風に日本の心性が表れているかを読み解いていく
第12回	童話に込められたテーマについて	童話に込められたテーマにどんな風に日本の心性が表れているかを読み解いていく
第13回	日本人の心理行動特性について	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般について説明する。
第14回	授業内テスト（期末テスト）による授業全体の振り返り学習	期末テストを通して授業全体の振り返り学習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の講義予定の童話の内容を事前に読んで、必ず理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「だれも知らない小さな国」コロボックル物語 1 佐藤さとる 著（講談社 青い鳥文庫）670 円

【参考書】

その都度、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（60%）と平常点（40%）を合計して最終的な成績評価を行います。

新型コロナの感染によってオンライン授業に変更になった場合、上記の成績評価の方法や基準は変更になります。その場合は学習支援システムを通して変更点を周知しますので、必ずチェックを忘れないください。

【学生の意見等からの気づき】

日本人の心理行動特性のまとめの講義部分では、教科書の童話だけに限定されることなく、もっと幅広く日本文化の特性全般を西洋文化と比較して講義をしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。講義にはかならず「テキスト(童話)」を持参してください。

【Outline and objectives】

In this course, students will explore Japanese culture and psychological characteristics from a perspective of depth psychology using a Japanese fairy tale "A Little Country No One Knows (dare mo shiranai chiisanakuni)".

EDU100JB

教育学

藤本 典裕

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目 (人文系)

配当年次/単位数：1～4 年次 / 2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

【到達目標】

下記の諸点を本講の到達目標に設定する。

1. 教育の概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2. 人間の文化の特性やその伝達の特殊性について理解できる。
3. 近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
4. 現代社会における教育の問題点を指摘し、それについての見解を整理して発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。

学期末にレポートの提出を求めるが、学期中に小レポートの提出も求める。下記に授業計画を示すが若干の変更を行うこともありえます。変更の場合はその都度指示するので注意して下さい。春学期の授業形態・授業計画などについては、学習支援システムでその都度提示する。その他、大学からの連絡にも注意すること。

課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか (講義概要の説明など)
第 2 回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第 3 回	「教育」という営みの特性	「教育」が他の活動と区別される特性を検討する。
第 4 回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第 5 回	子ども観・子育て観	子どもや子育てがどのように理解され実践されてきたのか、現代において子ども・子育てはどのようなものとなっているのかを検討する。
第 6 回	近代の教育思想	ルソーの教育についての考察を素材として、近代的教育思想の特徴を整理する。
第 7 回	学校の誕生と発展	教育機関としての学校が誕生する経緯とその後の発展について概観する。
第 8 回	戦前・戦中の教育と教師 (1)	日本における学校教育制度の誕生と期待された機能について検討する。
第 9 回	戦前・戦中の教育と教師 (2)	「教育勅語」を中心に、戦前・戦中の教育を支配した理念について検討する。
第 10 回	戦後教育改革と教育理念	戦後 (現行) 教育制度がめざした教育のあり方について、教育の権利・義務の視点から整理・考察する。
第 11 回	教育を受けること・学校に通うこと	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第 12 回	教育を受ける権利の保障	教育を受ける権利を保障するための制度の概要を整理・検討する。
第 13 回	教育費負担と教育機会	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響について検討する。
第 14 回	人間にとって教育とは何であるのか	講義全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】

堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989年
 堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997年
 勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990年
 ルソー『エミール』岩波文庫、1994年
 橋本俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010年
 藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009年
 その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60％）、小レポート（20％）、平常点（20％）を総合的に評価する（配点は目安）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、教育に関する多くの事象を取り上げることが主目的としている。このため、さまざまな事項について深く検討することは困難であるが、参考文献の紹介などで補足したい。
 昨年度は受講生が多く、大教室での講義となったため、グループ・ディスカッションなどを取り入れることが困難であった。授業支援システムの利用など、工夫したい。

【Outline and objectives】

We will learn about "education" as a necessary social function for human-being.

At first, basic educational concepts will be discussed through daily-life experiences. We will learn how and why we human-being have kept "education" as a basic social function.

Second, we will learn about the functions of schooling system.

Third, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education, and why so, who guarantee the rights.

SOC100JB

社会学特講

左古 輝人

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の構造、その過去、現在、未来。

【到達目標】

社会学の基本的なキータムを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式。学習支援システムを用いた質問・感想を歓迎する。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。

授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。

不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要がある場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
第2回	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
第3回	産業社会の形成	18・19世紀における産業社会の歴史的形を概観する
第4回	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
第5回	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
第6回	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第7回	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった20世紀初頭を概観する
第8回	消費化社会の構造	20世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
第9回	消費化社会の展開	消費化社会の歴史的形を概観する
第10回	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第11回	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
第12回	脱工業化の進行	1970年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
第13回	新中間層の解体	脱工業化とともに進行した新中間層の解体を概観する
第14回	今後について	今後の産業社会の行方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前にテキストの該当箇所を读了しておくことが、講義への理解を容易にする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

左古輝人『畏怖する近代』法大出版2006年。
 佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書1992年。
 見田宗介『現代社会の理論』岩波新書1998年。
 早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房2011年。

【参考書】

適宜紹介する。ウェブリソースとしては「現代ビジネス」「東洋経済オンライン」「荒木優太 (youtube)」「信州読書会 (youtube)」を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70％、平常点30％。

【学生の意見等からの気づき】

授業運営の適切さを改めて確認できた。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定していない。面談したい場合は必ず事前に電子メールで問い合わせること。

【Outline and objectives】

The students learn the basic structure of modern society and its history.

MAN100JB

経営学

山藤 竜太郎

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は狭義の企業経営だけでなく、非営利組織や公的機関など幅広い分野に応用されるようになってきている。そのため、受講生が将来的にどのような進路を選択するとしても、経営学の基本的な考え方を理解していることには意味がある。また、現代福祉学部における経営学の授業の目的として、経営学の基本的な考え方を福祉の経営への応用についても理解する。

【到達目標】

- ①受講生が企業経営に関するニュースを理解できるようになる。
- ②受講生が福祉分野のマネジメントについて考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式である。
毎回小レポートの提出を求める。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、資料の紹介、成績評価方法について説明する。
第 2 回	企業のマネジメント	企業の経営の基本となる戦略と組織について説明する。
第 3 回	事業戦略のマネジメント	事業戦略の基本となる競争する市場の選定について説明する。
第 4 回	組織構造のマネジメント	組織構造の基本となる組織設計について説明する。
第 5 回	キャリアのマネジメント	社会人生活におけるキャリア構築について説明する。
第 6 回	福祉のマネジメント	福祉分野におけるマネジメントについて説明する。
第 7 回	村田製作所の事例	村田製作所のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 8 回	オムロンの事例	オムロンのマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 9 回	鳥津製作所の事例	鳥津製作所のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 10 回	JT の事例	JT のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 11 回	味の素の事例	味の素のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 12 回	リクルート HD の事例	リクルート HD のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 13 回	資生堂の事例	資生堂のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。
第 14 回	武田薬品工業の事例	武田薬品工業のマネジメント、特に近年のグローバル経営高度化について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からインターネットなどを通じて、経営に関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

加護野忠男、吉村典久編『1 からの経営学 第 2 版』碩学舎、2012 年。
一條和生、野村総合研究所グローバルマネジメント研究チーム編『グローバル・ビジネス・マネジメント—経営進化に向けた日本企業への処方箋』中央経済社、2017 年。

【成績評価の方法と基準】

小レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの内容に基づいて、単なるリアクション・ペーパーではなく、毎回小レポートを実施することで積極的な授業参加をうながす。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンまたはパソコンなど、小レポートの入力が可能な機器が必要である。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental thinking of business administration.
Apply the basic thinking of business administration to the management of welfare.

SOC100JB

老年学

新名 正弥

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】

老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向に関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックは LMS 等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第 2 回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第 3 回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第 4 回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第 5 回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第 6 回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第 7 回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第 8 回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第 9 回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第 10 回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第 11 回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第 12 回	老いと経済	経済格差と政策対応
第 13 回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末期課題
第 14 回	高齢者を取り巻く環境変化と地域包括ケア	住宅、交通、商業施設、コミュニティの変化と包摂型ケアに向けての課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柴田博・長田久雄・杉澤秀博編（2007）「老年学要論-老いを理解する-」健帛社

【参考書】

国民の福祉と介護の動向 2020/2021（厚生労働統計協会）

高齢社会白書（厚生労働省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる各回の振り返り（40 %）、期末レポート（60 %）によって総合的に判定する。対面授業に変更になった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】

老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度論の基盤となる科目なので、高齢者に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline and objectives】

Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the ageing of a human and society surrounding the elderly. The lecture aims at comprehensively describe the biological, psychological, social psychological and sociological perspectives of gerontology, as well as explaining the themes especially in the area of social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding ageing and its policy response.

SOW200JB

福祉国家論

布川 日佐史

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コロナ禍の下で格差と貧困が拡大し、福祉国家の存在意義が問われています。

日本の社会保障制度の特徴を踏まえて、受講生各自の視点から、福祉国家が果たすべき役割と課題について検討します。

【到達目標】

コロナ禍で起きてきた問題について、実態と政策対応について各自の視点でまとめ、論じられるようになる。

日本の福祉国家の特徴と課題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①コロナ禍での格差と貧困の拡大について、説明します。
- ②日本の福祉国家の特徴と、コロナ対策の「日本モデル」について説明します。
- ③これらをもとに各自が自分の取り組むテーマを設定し、独自に資料を収集し、検討をすすめ、成果を発表し、意見交換を行います。
- ④オンライン授業を一部取り入れます。
- ⑤リアクションペーパー等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	福祉国家の概要	ガイダンス
第2回	コロナ禍で何が起きたか	各分野の資料の検討、まとめ提出
第3回	日本のコロナ対策の概要	施策の概要と「日本モデル」の検討
第4回	個人テーマ決定	自分のテーマを決め、登録する
第5回	福祉国家の意義・機能	①生活安定機能 ②格差是正・再分配機能
第6回	日本型福祉国家の特徴①	「皆保険・皆年金型」社会保険と低所得者対策
第7回	日本型福祉国家の特徴②	生活保護及び生活困窮者自立支援制度
第8回	ドイツ福祉国家との比較	ドイツ福祉国家とコロナ対策
第9回	個人テーマの中間報告	各自の進展状況報告
第10回	福祉国家をめぐる論点	市場化・「再商品化」 投資型福祉国家 格差是正・公正な分配
第11回	個人研究報告①	個人研究成果報告
第12回	個人研究報告②	個人研究成果報告
第13回	個人研究まとめ・総括	全体まとめ
第14回	講義まとめ	総括レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①各自が具体的なテーマを設定し、資料収集と検討を進め、発表の準備を行います。

②本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

各自のテーマに沿った参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 個人発表：30% 期末まとめ：40%

【学生の意見等からの気づき】

各自のテーマ設定を丁寧に進めます。

【Outline and objectives】

The expansion of disparity and poverty makes the role of the welfare state more important.

This lecture focuses on the characteristics of the social security system in Japan and aims to understand the roles and tasks of welfare state.

CUM300JB

地域文化政策論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域文化政策の実態とあり方を事例を通して学びます。この授業は地域社会に Well-being 社会を実現するための政策づくりの一環として学んでほしいと思います。

【到達目標】

文化活動が人間にとって根源的な欲求であり、Well-being 社会を実現する文化活動に対して、行政がどのように関わり、取り組みがなされているのかを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化の捉え方や文化政策を実現させるためのシステム、文化に関わる法律・条令・行政組織などを述べ、広く文化行政の仕組みを講じます。また、文化政策の重要な一歩をなす文化財政策に関して、文化財の概要及び文化財の保存と活用について具体例を論じます。さらに、近年における文化財政策の取り組みや新たな視点を論じ、心豊かな Well-being 社会を実現するための地域文化政策のあり方を具体的に学びます。授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第2回	Well-being と文化政策	Well-being 実現のための文化と政策
第3回	文化政策実現のシステム	自治体の基本構想・基本計画策定
第4回	文化に関わる法と行政組織 (1)	人間営為と基本的な人権保障の規定
第5回	文化に関わる法と行政組織 (2)	文化関係法の体系と内容
第6回	文化に関わる法と行政組織 (3)	自治体の文化関係条例・行政組織
第7回	エコミュージアムの機能と地域遺産保護	博物館、エコミュージアム
第8回	文化財の類型と保護の歩み	明治期・大正期・昭和戦前期の文化財保護、文化財保護法の制定
第9回	文化財の保存と活用 (1)	史跡の保存と活用の実態
第10回	文化財の保存と活用 (2)	伝統的建造物群の保存と活用の実態
第11回	文化財の保存と活用 (3)	近代の文化遺産の保存と活用の実態
第12回	文化財の保存と活用 (4)	名勝・天然記念物・民俗文化財の保存と活用の実態
第13回	近年の文化財政策の同行	日本遺産事業、文化芸術基本法
第14回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はほぼテキストに沿って進めるので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、新聞・雑誌などに掲載される地域文化政策に関連する記事に関心を持ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一（1998）『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000円）、川村恒明監修・著（2002）『文化財政策概論』（東海大学出版会、3500円）を挙げておきますが、その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

- ・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法：中間に1回と期末に課題レポート提出。
- ・評価方法：平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート70%により総合的に評価します。2種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。
- ②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
 ・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

専門展開科目の「文化環境創造論」は、本授業の「応用編」的な内容も含んでいますので、セットで受講することをお勧めします。特に公務員を目指す皆さんには必ず受講してほしいと思います。
 地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思えます。

【Outline and objectives】

This lecture learn about the actual state and the way of regional culture policy through case studies. I would like you to learn as part of policy making to realize Well-being Society in the community.

ENG300JB

都市住宅政策論

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
 国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。
 講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第 2 回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第 3 回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第 4 回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第 5 回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第 6 回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第 7 回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第 8 回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第 9 回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第 10 回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第 11 回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策と NPO
第 12 回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第 13 回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
 学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009 年
 「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009 年
 「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014 年
 「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999 年
 「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009 年
 「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009 年
 「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK 出版、2011 年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70 % ②レポート 30 % ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに 24 年間関わった中で、NPO 法人金澤町家研究会、NPO 法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline and objectives】

Learn about housing policy deeply involved in daily life and important for regional landscape and social welfare. Learn through how domestic policies have been addressed, through comparing domestic and overseas and examples of citizen activity.

SOW300JC

国際協力論

佐野 竜平

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する意見交換①
第 4 回	SDGs と現代福祉③	SDGs と国際社会に関する学び②
第 5 回	SDGs と現代福祉④	SDGs と国際社会に関する意見交換②
第 6 回	循環型の国際協力①	現代福祉に関わる実際の現場を学ぶ
第 7 回	循環型の国際協力②	学生による斬新な取り組みを検討
第 8 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び
第 9 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する意見交換
第 10 回	日本政府と国際協力①	日本政府による現代福祉に関する学び
第 11 回	日本政府と国際協力②	日本政府による現代福祉に関する意見交換
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する学び
第 13 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する意見交換
第 14 回	発表・講義の振り返り	発表と学びのレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

外務省 開発協力白書。その他、必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表：40%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

SOW300JB

国際協力論

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する意見交換①
第 4 回	SDGs と現代福祉③	SDGs と国際社会に関する学び②
第 5 回	SDGs と現代福祉④	SDGs と国際社会に関する意見交換②
第 6 回	循環型の国際協力①	現代福祉に関わる実際の現場を学ぶ
第 7 回	循環型の国際協力②	学生による斬新な取り組みを検討
第 8 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び
第 9 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する意見交換
第 10 回	日本政府と国際協力①	日本政府による現代福祉に関する学び
第 11 回	日本政府と国際協力②	日本政府による現代福祉に関する意見交換
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する学び
第 13 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する意見交換
第 14 回	発表・講義の振り返り	発表と学びのレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

外務省 開発協力白書。その他、必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表：40%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

SOW300JB

福祉の思想と歴史

白川 耕一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

題目「福祉国家—形成・展開・未来—」

どの国にあっても、福祉国家の改革が焦眉の課題である。本講義では、20 世紀における英・独の福祉国家の歴史分析をおこない、それを通じて福祉国家の未来を考えたい。

【到達目標】

・イギリス等を事例に、福祉国家の形成および発展を説明することができる。
・時代によって変化する福祉の目標を説明することができる。
・社会的包摂、社会的排除、ワークフェアなどのキーワードを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は口頭による説明と黒板書きを中心にすすめ、適宜資料プリントを配布する。

課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要の説明
第 2 回	福祉国家への道	社会保険の導入
第 3 回	戦争と福祉国家	世界大戦のインパクト
第 4 回	戦後の再建	1940 年代の動向
第 5 回	50 年代の改革	社会保険改革
第 6 回	福祉国家の「頂点」	1970 年代の改革と停滞
第 7 回	新しい社会問題	貧困への再発見
第 8 回	高齢者問題	高齢者の貧困
第 9 回	福祉と哲学	福祉と自由の両立
第 10 回	外国人と福祉国家	外国人労働者
第 11 回	家族の変容と改革	1990 年代の改革
第 12 回	福祉国家改革	福祉から就労へ
第 13 回	移民と福祉	難民危機 (2015 年)
第 14 回	総括と展望	福祉国家の未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義内容に関係した文献目録を適宜配布するので、講義ベースに合わせて、文献を読む。例えば、第 2 回と第 3 回については、セイン『イギリス福祉国家の社会史』、第 4 回から第 12 回までは、二宮『福祉国家と新自由主義』、第 9 回から第 13 回までは、水島『反転する福祉国家』、田中『福祉政治史』を熟読の上、理解すること。講義の予習に 1 時間、授業後の復習のために 3 時間の家庭学習を必要とする。

・山崎史郎『人口減少と社会保障』は、講義受講前に読んでおくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

菊池馨実『社会保障再考』（岩波新書 2019 年）
田中拓道『福祉政治史』（勁草書房 2017 年）
二宮元『福祉国家と新自由主義—イギリス現代国家の構造とその再編』（旬報社 2014 年）
平岡公一『イギリスの社会福祉と政策研究』（ミネルヴァ書房 2003 年）
水島治郎『反転する福祉国家—オランダモデルの光と影』（岩波書店 2012 年）
山崎史郎『人口減少と社会保障』（中公新書 2017 年）
パット・セイン『イギリス福祉国家の社会史』（ミネルヴァ書房 2000 年）

【成績評価の方法と基準】

1. 学期末に論述形式の筆記試験をおこなう。
2. 筆記試験の得点（7 割）、平常点（3 割）で成績評価を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

板書があまりシステマチックではありませんが、板書自体が目的ではなく、口頭による説明の補助という位置づけですので、ご理解ください。説明が早口にならないように気を付けたいと思います。

【Outline and objectives】

Welfare State- Past, Present, and Future-

The reform of welfare system is a problem of great urgency in all the developed countries because of big changes of economy, family, and employment. In this lecture the history of the European welfare states in the 20th century is treated. Through the survey we will have a view on the future of welfare states.

ENV300JB

環境政策論

藤澤 浩子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取り組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取り組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取り組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めていくとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

環境政策はP D C Aサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィールドバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1 講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク (FW)	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、身近な自然的・歴史的環境にふれる。宿題：FW後、フィールドノートを作成提出する。
第 2 回	オリエンテーション 2 身近な環境に関するイメージの共有	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第 3 回	SDGs について	SDGs 関連情報（国際的取り組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第 4 回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取り組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第 5 回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第 6 回	環境問題を知る 1	温暖化、エネルギー問題
第 7 回	環境問題を知る 2	生物多様性、地球環境問題
第 8 回	環境問題を知る 3	循環型社会、地域環境問題
第 9 回	環境問題を知る 4	化学物質、震災関連の問題等
第 10 回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説
第 11 回	各主体の役割・活動 1	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取り組み、企業の取り組み
第 12 回	各主体の役割・活動 2	市民（個人、NPO 等）の取り組み、身近な環境に関する市民の取り組み事例 (DVD 視聴等)
第 13 回	身近な環境保全の取り組み 実践体験 全体ワーク 1	かるた制作（読み札づくり）
第 14 回	身近な環境保全の取り組み 実践体験 全体ワーク 2	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

東京商工会議所（2021）『環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト 改訂 8 版』。その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史 (2014)『環境政策論 (第 3 版)』信山社、竹本和彦編 (2020)『環境政策論講義：SDGs 達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編 (2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著 (2011)『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3. 採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点 70 %、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

過去 9 年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループワークやクラス単位での全体ワーク（ワークショップ）を行ってきました。昨年度（2020 年度）はオンライン形式での開講となり行えませんでした。過去 9 年間の全体ワークは、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つけ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。新型コロナウイルスリスクを考慮し、グループワーク形式の取組みは見合わせます。オンライン実施等の可能性を考慮し、共通テキストをベースに講義を進行します。

【Outline and objectives】

Citizen's independent participation and voluntary activity are indispensable for the environmental policy to settle a global environmental problem.

The purpose of this lecture is to bring the citizen who works on a solution of a close environmental issue voluntarily up.

As a basis of citizen's voluntary activity, it's very important to learn about environment/environmental problem in a close area.

In this lecture, students learn basic knowledge of the environment/environmental problem and policy, and then will experience a few activity by the campus.

POL300JB

政策評価論

石井 義之

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政の仕事の中で、その政策の効果や評価を評価することは大変重要なプロセスとなっています。そこで本講義では、政策の立案と評価に関連する各論について学びます。政策については、地域づくりやコミュニティに関連するものを中心に学び、考えることとしています。そうした政策について考えることで、行政の仕事のあり方を知るとともに、政策立案力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

政策の立案から評価に至る行政の仕事について身につけ、地域やコミュニティの現場で政策やまちづくりの取組を企画できる知見・能力を獲得することを目的とします。

地域と関わる仕事や研究をしたい学生向けの授業となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに応じて事例紹介を含めた講義を行います。講義では、グループワークや作業を行うほか、意見を書いて提出してもらいもあります。テーマによっては、映像資料も用いる場合や、ゲスト講師を招くことがあります。リアクションペーパーやレポートの提出を求めますが、記載されたコメント等について、次回以降の講義で取り上げたり内容に反映します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方を説明します。また、講義内容について詳しく解説します
2	政策立案と評価①	政策とその立案過程について事例とともに解説します
3	政策立案と評価②	政策評価の取組について紹介します
4	地域課題と政策	地域で起きている課題を政策につながる過程を考えます
5	高齢化の現状と取組①	高齢化が起きている地域の状況を解説します
6	高齢化の現状と取組②	高齢化する地域に必要な取組について議論します
7	政策と評価の実際①	政策の立案から実施、評価までの実際について紹介します
8	地域と行政の協働	住民と行政が共に地域課題に取り組む事例を紹介します
9	団地再生の取組と地域協働①	団地を活性化する取組について紹介します
10	団地再生の取組と地域協働②	団地活性化の取組についてグループで議論します
11	議会と行政	議会と行政の関係について解説します
12	E B P M とは	エビデンスに基づく政策立案について解説します
13	政策と評価の実際②	政策の立案から実施、評価までの実際について紹介します
14	講義のまとめ	講義全体の振り返りを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関するニュースや情報に触れることを心掛けてください。適宜、意見等を講義の中で発表してもらい予定です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義の際に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（2 回） 70%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

講師作成資料（パワーポイント）について配布の要望があったため、支障のないものは学習支援システムに掲載する予定です

【Outline and objectives】

In this lecture, we will learn various topics related to policy planning and evaluation. Mainly, we'll learn on the policy for community improvement. By thinking about such policies, the purpose is to learn the role of administrative work and to acquire policy-making skills.

CMF300JB

コミュニティアート

吉野 裕之

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	まちづくりの意味	まちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	NPO・市民活動の意義	NPO・市民活動の意義の説明。
第4回	市民主体のまちづくりの事例（1）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域における活動の変遷の事例）の紹介と解説。
第5回	市民主体のまちづくりの事例（2）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第6回	市民主体のまちづくりの事例（3）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第7回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史の変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第8回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第10回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーなど）：30点 中間レポート：20点 期末レポート：50点

平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度を確認する。中間レポートでは、NPO・市民活動によるまちづくりについての理解度を確認する。期末レポートでは、コミュニティアートの意義の理解度や分析・評価などについての習得度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

Through many cases, we will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

CUM300JB

地域遺産マネジメント論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で行われています。そこには地域住民をはじめ NPO などが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。

【到達目標】

さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第2回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第3回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第4回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第5回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第6回	地域遺産保護と専門家(1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第7回	地域遺産保護と専門家(2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割
第8回	さまざまな地域遺産、世界遺産	全国のさまざまな地域遺産の紹介、世界遺産
第9回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第10回	地域遺産の再生と活用(1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第11回	地域遺産の再生と活用(2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第12回	地域遺産の再生と活用(3)	地域遺産としての名称・天然記念物、伝統的建造物群
第13回	映像鑑賞	地域遺産・民俗学・考古学の観点からの映像鑑賞
第14回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きつとすぐい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】**①成績評価方法**

- ・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法：中間に1回と期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート 70 %により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline and objectives】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area.

MAN300JB

地域経営論

松本 昭

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営（マネジメント）について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO 等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方について考察する。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。

- ・地域経営に関する基本的な法制度及び代表的諸制度のあらましと特性
- ・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係
- ・地域経営に関する市民（住民）、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する仕組みと課題
- ・既存の地域資源の活用した地域経営のあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということに常に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して楽しく進めたい。各回講義に関する課題提起については、次回講義のはじめに、リアクションペーパーの紹介や参考事例等を紹介して課題解決型の進め方を行う。なお、コロナ感染症対策に伴う講義方法等については、大学の方針に基づく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 地域経営論の全体像	講義ガイダンス、「地域経営」の今日的意義と視点
第 2 回	自治・分権と地域経営	・「地方自治」「地方分権」の今日的課題 ・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権
第 3 回	住民参加と地域経営	・参加、参画、協働、協創（共創）と地域経営 ・参加型まちづくりから協働・協創（共創）型地域経営へ
第 4 回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成論
第 5 回	まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係 ・まちづくり条例の系譜と展望
第 6 回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態 ・まちづくり紛争の予防と調整
第 7 回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性・協議調整型まちづくりとは
第 8 回	地域経営と公民連携まちづくり①	公共施設、公共空間の更新と魅力化（道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み）
第 9 回	地域経営と公民連携まちづくり②	公共建築物整備の民間活用（PFI 制度等の民間活用の施設整備）
第 10 回	地域経営と公民連携まちづくり③	まちづくり会社と地域経営（長浜、高松、紫波等のまちづくり会社を対象に）
第 11 回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから ・マンション住宅地…管理組合と自治会
第 12 回	住宅地経営とまちづくり②	空き家、空き地問題と地域経営
第 13 回	人口減少時代の地域経営	・ストック活用のまちづくり ・リノベーションまちづくり
第 14 回	講義の総括	・レポートの提出と発表 ・講義の総括とコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。本授業の復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたリアクションペーパー50%
 ②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション50%（レポート課題は6月前半に提示）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

・具体的事例の紹介が、講義の理解度を高めるため、講義は具体的事例を豊富に盛り込んで行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course will understand the desirable management of local communities in "population declining society" and "declining birthrate and aging society" from the viewpoints of autonomy, decentralization, community, town planning, maintenance of public facilities, housing policy, etc.

TRS300JB

地域ツーリズム

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マストツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー・ミニレポート（30%）、期末試験（70%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.

MAN300JB

ソーシャルイノベーション論

土肥 将敦

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが世界的に広がっている。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれる。本講義では、こうした事業がなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどんなソーシャル・イノベーションなのかについて国内外の事例をもとに検討する。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSR の枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】

本講義では、以下の 3 点を履修者の到達目標とする。

①グローバル/ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業家によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業の CSR 活動の本質を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業家にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。COVID-19 の拡大にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3 つの要件、活動する事業領域を理解する。
第 3 回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第 4 回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第 5 回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタプライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 6 回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 7 回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第 8 回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第 9 回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第 10 回	大企業における CSR ①	企業と社会の関係を理解する。
第 11 回	大企業における CSR ②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第 12 回	コース・リレйтиッド・マーケティングについて理解する①	各種事例を通して CRM について理解する (A 事例)。
第 13 回	CRM について理解する②	各種事例を通して CRM について理解する (B 事例)。
第 14 回	CRM について理解する③	各種事例を通して CRM について理解する (C 事例)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトを目を通し、講義中のディスカッションに備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示します。

【参考書】

鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
 谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版

【成績評価の方法と基準】

講義リアクションペーパーおよび講義後ミニレポート課題（30％）、平常点（40％）、期末レポート課題（30％）を総合的に判断する。COVID-19の拡大に伴い変更が生じた場合は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。

【Outline and objectives】

This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business. The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.

CUM300JB

文化環境創造論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Well-being（健康で幸福な暮らし）を実現するうえで重要な、豊かな文化環境を創造するための基礎的な知識や方法について幅広く解説します。

【到達目標】

文化環境創造に関わる法、文化遺産の保存・活用などの基礎的な知識をはじめ、文化環境創造に向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化環境とは何か、地域社会（コミュニティ）の中に歴史的文化環境を創造し継承していく環境を構築し、維持していくためのシステムや手法などについて、海外や日本国内で取り組まれている実践例などを映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があります。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第2回	文化環境の概念(1)	文化環境とは何か
第3回	文化環境の概念(2)	Well-being と文化環境との関わり
第4回	世界における文化環境創造の取り組み(1)	世界遺産条約と文化環境の保存
第5回	世界における文化環境創造の取り組み(2)	ナショナル・トラストと文化環境
第6回	世界における文化環境創造の取り組み(3)	フランスの野外博物館活動と文化環境
第7回	日本における文化環境創造の取り組み(1)	文化環境創造の仕組み
第8回	日本における文化環境創造の取り組み(2)	伝統的建造物群の保存・活用
第9回	日本における文化環境創造の取り組み(3)	史跡の保存・活用
第10回	日本における文化環境創造の取り組み(4)	近代の文化遺産の保存・活用
第11回	日本における文化環境創造の取り組み(5)	自治体条例と文化環境創造事業
第12回	日本における文化環境創造の取り組み(6)	文化環境創造と文化財支援団体
第13回	日本における文化環境創造の取り組み(7)	日本遺産事業
第14回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域で、歴史的文化環境の創造のために実施されている事業や試みに目を向けてみましょう。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点:毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
 ・試験方法: 中間に1回と期末に課題レポート提出。
 ・評価方法: 平常点(リアクションペーパー) 30%、課題レポート 70%により総合的に評価します。2種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点:授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的にを行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思えます。

【Outline and objectives】

This lecture explain broadly the basic knowledge and method for creating a rich cultural environment which is important for realizing Well-being Society.

MAN300JB

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。事前課題に対する議論とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。対面での開講を前提とするが、ゲストセッションや、社会状況によってはオンラインでの双方向型講義となる場合もある。それにとりまう各回の講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、本講義の開始日や授業の方法なども、学習支援システムで随時提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要
2	ソーシャルマネジメントとは何か	ソーシャルマネジメントの本質と、企業・行政・研究コミュニティ、各組織の相互関係について
3	企業が目指す CSR 経営とは何か	CSR 経営とその実践
4	企業と社会の関わり	企業の社会の中での機能と役割
5	社会環境変化への対応① 企業と研究組織	企業と研究組織とマネジメント
6	同上② 行政組織	行政組織の特色とマネジメント
7	同上③ コミュニティ組織	コミュニティ組織の特色と事例研究
8	CSR と CSV	富士ゼロックスの CSV、その光と影
9	CSV またはプロジェクト マネジメントケーススタディ	企業の実務家によるゲストセッションを予定
10	コミュニケーション技術について	コミュニケーション技術に関する理解と習得
11	演習①	SDGs を正しく理解する（カードゲームを実施）
12	演習②	地域活性化を成し遂げる SDGs の主流化の実践 Vol.1
13	演習③	地域活性化を成し遂げる SDGs の主流化の実践 Vol.2
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では事前レポート（A4 1 枚程度）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠野みらい創りカレッジ編著「SDGsの主流化と実践による地域創生」水曜社：まち創り叢書

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 80%（講義への参画度合 30%、課題レポート 50%）、最終レポート 20%で評価し、グループワークへの貢献等で加点する。オンラインでのセッションとなった場合でも、評価方法や基準は変更しない。より具体的な方法と基準は、講義開始日に案内する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の講義参加者からの要望に基づき、2年生から4年生までの多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に、更に「実践型」の講義を実施します。多彩な学部からの参加者を期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

MAN300JB

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO 法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金剰余者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

ソーシャルファイナンスの概要を学ぶとともに、社会の課題解決に必要な資金の調達について、身近な事例をもとに具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。参考資料などは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には学習支援システムの掲示板を活用し、授業の初めに、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ	本講の概要、目的
第 2 回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第 3 回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代までの事例
第 4 回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第 5 回	ドナージャーニー	寄付者の行動と心理の可視化
第 6 回	ドナーピラミッド	団体寄付者の構造的把握
第 7 回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第 8 回	遺贈寄付	その定義と実態
第 9 回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第 10 回	会員拡大	新規会員拡大や継続率を高める手法
第 11 回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第 12 回	コミュニティ財団とコレクティブインパクト	地域コミュニティ財団の概要と、多様な主体が課題解決を目指すコレクティブインパクトの概念
第 13 回	社会的インパクト評価	説明責任と事業改善のために行う社会的インパクト評価の手法
第 14 回	エピローグ	まとめとミニレポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題はありませんが、授業内で共有したソーシャルファイナンスに関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社 2400 円
<https://www.amazon.co.jp/dp/4788715104>

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、ミニレポート（80%）

【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに限らず、一般企業に就職した際にも役立つ内容にしていきます。

【その他の重要事項】

大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも、この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues.

In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.

In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

MAN300JB

NPO論

渡真利 絃一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPO の成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

・NPO の社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
 ・自らの関心分野の NPO 活動の考案や自由研究の発信を通じ、多面的な社会の捉え方や社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる
 NPO を論じる過程で、受講者自らが、自分らしく安心していられる場を見つけられる／他者に対して寛容になる／仲間を持つ／社会に対して本音で向き合うことの重要性を認識する、などの機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPO に関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO 活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくとともに、クラスメイトと協力し、自らの関心分野の NPO 活動を考案／発信していきます。授業形態は講義を主とし、受講者がグループ毎に課題検討を行う時間や NPO 活動に関する自由研究を発表する場を設ける予定です。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、課題等に対するフィードバック方法は、授業で提出されたすべてのリアクションペーパーに対してコメントをフィードバックします。またその中から各回の授業で幾つかリアクションを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うことで、さらなる内容の理解に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/NPO のイメージ	NPO のイメージやコロナ禍の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を学生と決定する。
第 2 回	NPO の活動分野	映像資料等を活用しながら、NPO の活動分野について知る。
第 3 回	NPO の歴史的背景と社会的意義	非営利活動の歴史的背景や NPO 法設立経緯等から、NPO の文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPO の社会的意義について考える。
第 4 回	NPO 組織の運営と他の社会資源との関係	NPO 組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係について把握する。
第 5 回	関心分野における NPO 活動の考案	受講者自らの関心分野における地域社会の現状や NPO 活動を調査し、自らが活動を実施すると仮定して活動計画書を作成する。
第 6 回	NPO の活動事例紹介 1 「被災地における環境教育と復興」(予定)	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 7 回	NPO の活動事例紹介 2 「子どもと家族を社会が支える仕掛けづくり」(予定)	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 8 回	NPO に関する自由研究企画書の作成	個人又はグループ毎に NPO に関連するテーマを定め、自由研究の予定を立てる。
第 9 回	実践から考えるシリーズ「わたしの声をあげる」	Twitter デモやキャンペーンサイト等から声をあげる実践について取り上げ、マイノリティの立場に立脚した活動を考察する。

第10回	実践から考えるシリーズ「仲間と行動する」	コミュニティ・オーガナイズングや自主勉強会等のアプローチを取り上げ、仲間とともに行動する方法について考察する。
第11回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第12回	NPOに関する自由研究発表会1	第8回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第13回	NPOに関する自由研究発表会2	第8回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第14回	最終講義「市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーやクラスメイトとの雑談の時間を活かしてください。また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。授業で紹介したNPOの主催するイベントへ参加したり、NPO活動にボランティア等を通じて主体的に関わることも推奨します。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 点、NPO 活動計画書 10 点、自由研究企画書及び発表 40 点。平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
 ・NPO を論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
 ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
 ・クラスメイトの関心分野を理解し、どのくらい協力して取り組めたか
 (注) 実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

・受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間を増やします。
 ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介しします。
 ・NPO 活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践から NPO 活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし
 (注) オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンと wifi が必要です。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline and objectives】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

SOW300JB

居住福祉論

大原 一興

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考（履修条件等）：隔週開講

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定3～2級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。

基本的に隔週、第2回目以降は2時限続きでおこなう。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。

第1回：4月13日 4時限
 第2・3回：4月27日 4・5時限
 第4・5回：5月11日 4・5時限
 第6・7回：5月25日 4・5時限
 第8・9回：6月8日 4・5時限
 第10・11回：6月22日 4・5時限
 第12・13回：7月6日 4・5時限
 第14回：7月20日 4時限 基本的に対面授業での開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第2回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第3回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第4回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第5回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサルデザインの基礎理念からみたICFの考え方
第6回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第7回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第8回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第9回	ハウスマグアップテーション・住宅改造	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第10回	福祉機器の活用	福祉機器の活用
第11回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第12回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第13回	コハウジング 共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第14回	コハウジング 共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第15回	暮らしの先進国に学ぶ	北欧社会における福祉住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料や参考資料の予習

平日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に授業の際に資料を配付する。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣
東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定1, 2, 3級公式テキスト』東京商工会議所
住総研高齢期居住委員会 編『住みつなぎのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と毎回の小レポート（リフレクションシート）（70%）、レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行くと疲れてしまう。適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【Outline and objectives】

Learning the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

SOW300JB

災害支援論

青木 信夫、松井 正雄、正谷 絵美

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探求していく。

【到達目標】

被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。

・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。

・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に高性能サーボモーターにより3次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充満させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
2	防災講話 ・東日本大震災に学ぶ（大川小学校、釜石の奇跡）	・東日本大震災の教訓を学び、避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
3	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫/AED 操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫とAED操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る
4	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問にYES またはNOで答え、自分ならどのように対応するかを考える。
5	ロープワーク ・結びの基本と応用	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。
6	気象と災害	・近年発生した大規模な気象災害を引き起こした気象条件、及び被害の現状と生活に及ぼす影響などについて理解する。
7	避難所 HUG	・避難所の開設、運営を模擬的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える
8	気象情報の活用と避難支援	・災害の危険度を示す情報を活用し、災害時に取るべき判断・行動と共に、避難のタイミングと要援護者への支援を考える。

9	ワークショップ	・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
10	防災講話 ・地域防災 (自助、共助、公助)	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、被災者支援のあり方について知る。
11	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
12	図上演習 DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
13	防災グッズの作成	・災害時に身の回りにあるものを利用して避難生活などに役立つ防災グッズを作成する。
14	①授業のまとめ ②秋学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にも多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期定期試験 50%、平常点 30%、レポート 20%
演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline and objectives】

Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

PSY300JC

異文化心理学

奥山 今日子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するよう、例えば外国に代表されるような「文化」だけを異文化とするのではなく、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々と経験をしているわけですが、その経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。私たちが現象にさらされるとき、自動的に働くものの感じ方、知り方、解釈の仕方は、私たちのこれまでの経験によって規定されていると言えます。私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものが私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知っていただく機会になればと考えています。

【到達目標】

この授業の到達目標は、①自分自身の経験に基づいて、自分自身が考えられるようになり、それを他者に伝えることができるようになること、②他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義に参加される皆さんの理解の程度や要望に応じて、視聴素材が変更されることがあります。提供する各種の資料について、自分が何を感じ、考えるのかを言語的に明確に表現することが求められます。この能力を高め、他者を経験する機会としての、グループ・ディスカッションも多く行います。受講者の反応により、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。対面とオンラインのハイブリッドで授業を行います。次の授業がどちらの仕方になるかは、学習支援システムで提示します。課題等に対するフィードバックは、逐次、授業内で総括的に行います。個人的にフィードバックを望む場合、それに応じますので、メール等でご連絡下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第 2 回	人間の心的機能について	「はくはくま」「タイプテスト」を通じて、個人差を経験的に理解する。
第 3 回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第 4 回	アサーション・トレーニング (2)	具体的な例について、グループ・ワークで取り組む。
第 5 回	個人からマクロな文化への影響のあり方	映画「パッチ・アダムス」視聴（解説付き）。
第 6 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	映画「パッチ・アダムス」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 7 回	個人と文化の双方向的な影響のあり方、その可能性と限界	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴（解説付き）。
第 8 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 9 回	文化的態度	映画「パッチギ」視聴（解説付き）。
第 10 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「パッチギ」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 11 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の関係	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴（解説付き）。
第 12 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 13 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の可能性と限界	映画「普通の人々」視聴（解説付き）。
第 14 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「普通の人々」視聴の続きとディスカッション、後に発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適時、自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを思い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内の小レポート・授業への能動的参加）40 %
期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみしてほしいと思います。

【Outline and objectives】

The definition of "culture" is various. In this lecture, we focus on interactions between all individuals as intercultural exchanges, not just what is represented by foreign countries. Sometimes we eliminate things that are different to ourselves before we know it. I hope that this lecture will be an opportunity for you to know that they have the potential to enrich us.

IDN100LA

大学を知ろう <法政学>への招 2017年度以降入学者待

小林 ふみ子、小倉 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

法文営国環キG 1年～

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！ みなさんのこの大学や学部がいつどのように、どうして作られたのか知ってみたくはありませんか？

この授業では、創立から140年以上となる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

【到達目標】

・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
・〈法政大学らしさ〉を考え、自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者2名のコーディネートのもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。

講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回のHoppiiのコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「山の手」の市ヶ谷 キャンパス～法政大学 と地域社会	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介する。（科目責任者＝小倉淳一）
2	市民社会の開明とノン エリートの夢～法政大 学と日本近現代史①	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（浜村彰）
3	ボアソナードと梅謙次 郎～法政大学と日本近 現代史②	開学後約30年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡孝）
4	アジアからみつめる～ 法政大学と国際社会	20世紀初頭に始まる留学生の受け入れをはじめ、本学の国際関係を概観する。（高柳俊男）
5	リベラリズムの潮流～ 法政大学と日本近現代 史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百聞らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）
6	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古俣達郎）

- | | | |
|----|----------------------------|---|
| 7 | 校歌「よき師よき友つどひ結び」 | 成立背景や作詞・作曲者、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながら歌唱指導を受ける。(児美川孝一郎) |
| 8 | 大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④ | 戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。(横内正雄) |
| 9 | 法政大学のスポーツ | 戦前よりさまざまな部活動が行われ、オリンピックを含め数々の名選手を輩出した本学のスポーツの特徴を考える。(ゲスト講師) |
| 10 | ユニークな研究所 | 多数の研究所のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。 |
| 11 | 先輩からのエール | 社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度はおなじみの LINE で 31 歳にして執行役員となった奥井麻矢さん(キャリアデザイン学部卒)をお招きする予定。 |
| 12 | 近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤ | 本学が大きく変貌した 90 年代以降の改革と、市ヶ谷に新たに置かれた 4 学部について学ぶ。(職員・各学部教員) |
| 13 | 「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える | 法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。(科目責任者=小林ふみ子) |
| 14 | まとめのワーク | 「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。廣瀬克哉総長の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。(廣瀬克哉総長・科目責任者=小林) |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は変わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。昨年オープンしたばかりの HOSEI ミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！ デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。

その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。さらに充実したバージョンはテキストとして生協で販売します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の Hoppii のコメントにみえる取り組み 70 %、期末レポート 30 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設 11 年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は、授業支援システムを通じても配付します。

【その他の重要事項】

・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう 1 年次での履修を推奨します。2 年生以上の受講ももちろん歓迎します。

・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline and objectives】

Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座 2017年度以降入学者

サブタイトル：金融リテラシー

コーディネータ：小原 文明、講師（ゲストスピーカー）：
イオン銀行 岩波 俊哉氏 他

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年～

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。

金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。

本講義は株式会社イオン銀行の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。

学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに最適の講師（ゲストスピーカー）が、講義を担当します。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性	生活を取り巻く社会環境、金融リテラシーの意義・重要性を学ぶ
2	人生とお金	人生にかかるお金の意味、ライフデザインの重要性、奨学制度などを学ぶ
3	お金を稼ぐ	職業選択の意義、就労形態と生涯所得、収支管理、社会保障制度の基礎を学ぶ
4	お金と経済	金融・経済環境の変化とその対応方法を学ぶ
5	ライフプランを描く①	ライフプランの全体像について学ぶ
6	ライフプランを描く②	ライフプランの重要性、人生の3大費用、キャッシュフローの分析などを学ぶ
7	お金を借りる①	クレジットカード・消費者ローンの仕組みと利用上の留意点
8	お金を借りる②	住宅ローンの仕組みと利用上の留意点
9	お金をふやす①	投資の意義、リスクとリターンの関係、長期投資の重要性などを学ぶ

10	お金をふやす②	投資信託の仕組み、分散投資の重要性などを学ぶ
11	リスクに備える①	人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の活用などを学ぶ
12	リスクに備える②	生活に潜むリスクと保険の役割、損害保険の活用などを学ぶ
13	トラブルに強くなる	学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺と未然防止策などを学ぶ
14	ライフプランを描く③	ライフプランの作成・演習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

配布資料および web 上の参考資料を事後に読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

資料については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（7 割以上）（20%）、中間小テスト（2 回）（20%）および最終レポート（60%）の点数により学習到達度の観点から単位を付与する。

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活に役立つことが学べたといった意見を多くいただきましたので、2021 年度はさらに生活に密着した事例等を取り入れた内容とします。

また、2020 年度はオンライン・オンデマンドの授業形式で実施しましたが、2021 年度は状況に応じて、可能な限りディスカッションや直接質問を頂けるよう工夫して授業を展開していきます。

【Outline and objectives】

In today's society, it is unavoidable to be involved in finance, so it is important to acquire financial literacy (knowledge and judgment about money) as a living skill.

The goals of learning about financial literacy are as follows:

- ・ To understand the important things about life.
- ・ To acquire practical skills through gathering the information you need and getting actionable information to make comparisons, tests, and decisions.

This lecture is donated by AEON Bank, Ltd.

ECN200LA

リベラルアーツ特別実習 2017年度以降入学者

サブタイトル：金融グローバルインターンシップ

コーディネータ：小原 文明、 講師（ゲストスピーカー）：
イオン銀行 岩波 俊哉氏 他

開講時期：スプリングセッション/Spring Session | 曜日・時

限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1～3 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イオングループが事業展開する小売をはじめ、金融、サービス事業等について、グループ各社の仕事を学ぶことを通して、それぞれの地域文化・風土の理解、グローバル思考の醸成、企業としての社会的役割などを学んでいただくことが本授業の目的です。

本科目の履修に際しては、「リベラルアーツ特別講座」を履修済みであることが望ましいですが、本科目を履修するうえでの必須条件ではありません。

【到達目標】

学生は、グローバル社会や国際的な倫理観に関する情報、知識を自ら収集し、分析するスキルを身につけ、国際的な環境の中で活動するための実践的なコミュニケーション能力や他者を巻き込みながらプロジェクトを遂行するために必要な指導力の重要性を理解することができるようになる。

学生は、この授業を通じて、自らの体験をそれぞれが専攻する学問の体系と関係づけ、将来に専門的職業人として活動するために必要な知識や能力について考察を深め、自らのキャリアの展望について考察を深めることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

2月中下旬から、国内5日間・国外5日間、計10日間（休日を除く）程度の国内外インターンシップを行います（10日間のインターンシップとは別に事前・事後指導の講義有り）。

最終授業で、授業内容の全体のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	検討中	検討中
2	検討中	検討中
3	検討中	検討中
4	検討中	検討中
5	検討中	検討中
6	検討中	検討中
7	検討中	検討中
8	検討中	検討中
9	検討中	検討中
10	検討中	検討中
11	検討中	検討中
12	検討中	検討中
13	検討中	検討中
14	検討中	検討中

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

業界分析、企業分析、自己分析、振り返り、成果報告会プレゼンテーション準備などを授業外学習として課す。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

資料については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

検討中

【学生の意見等からの気づき】

2021年度より開講のため、なし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn about the work of each Group company in the retail, financial, and service businesses in which the AEON Group operates, as well as its understanding of local culture and climates, fostering a global orientation, and its social role as a global company.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）です。双方向授業となりますので、マイクが必須です。授業の開始日は 4 月 13 日。前日までに、学習支援システムの「お知らせ」に、ZOOM の URL を掲示します。基本的に「授業計画」に沿って進めます。基本的な流れは、以下の通りである。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・小テストでの間違いの多かった箇所などについて、次の授業時に全体に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第1課：文字と発音(1)	単母音、初声その1。
3	第1課：文字と発音(1)	半母音 Y、終声その1。
4	第2課：文字と発音(2)	初声その2、有声音化
5	第2課：文字と発音(2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第3課：文字と発音(3)	初声その3、初声その4
7	第3課：文字と発音(3)	終声その2、濃音化
8	第4課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第4課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第5課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第5課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第6課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」

13 第6課：教室は 204 号室です。 助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。

14 期末試験 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
 - ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コッコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出 30 %、授業への参画度 40 %、期末試験 30 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

Wi-Fi 環境の整備。

【Outline and objectives】

This course is an elementary Korean course. In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハンゲルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えている必要があります。テキストの 6 課までの内容を習得している必要があります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）です。双方向授業となりますので、マイクが必須です。授業開始前日までに、学習支援システムの「お知らせ」に、ZOOM の URL を掲示します。基本的に「授業計画」に沿って進めます。基本的な流れは、以下の通りである。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・小テストで間違いの多かった箇所などについて、次の授業時に全体に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形

13 第 12 課：何をしますか？～するつもりです。～したいです。温泉水に行きたいです。

14 期末試験 秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
 - ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『3訂版 韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出 30 %、授業への参画度 40 %、期末試験 30 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【Outline and objectives】

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標にします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます。

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

諸事情により、対面・非対面授業で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについてと簡単な復習	授業の進め方について説明します
第二回	今日も友達に会いますか 1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか 2	発音について
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか 1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか 2	連体形について
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでも良し。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・ハングルを読み正確に発音できるようになります。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになります。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を利用したオンライン授業です。課題の提出など、学習支援システムを利用して行うので確認してください。

基本的な流れは、以下の通りです。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・授業ごとに新しい内容を学びます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて定着を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第1課：文字と発音(1)	単母音、初声その1。
3	第1課：文字と発音(1)	半母音 Y、終声その1。
4	第2課：文字と発音(2)	初声その2、有声音化
5	第2課：文字と発音(2)	初声その2、連音化
6	第3課：文字と発音(3)	初声その3、初声その4
7	第3課：文字と発音(3)	終声その2、濃音化
8	第4課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第4課：～は～と申します	ですか?」「と申します」
10	第5課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第5課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第6課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第6課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。

14 期末試験

春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

授業への出席・参加度、小テスト、課題提出によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class is the first step in learning Korean. Students will learn Korean characters, pronunciation and basic grammar. And will be able to have simple conversations.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文圏環境キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えていることが必要です。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになります。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになります。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を利用したオンライン授業です。

課題の提出など、学習支援システムを利用して行うので確認してください。

基本的な流れは、以下の通りです。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・授業ごとに新しい内容を学びます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて定着を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えています。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか	? 温泉に行きたいです。

14 期末試験

秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
 - ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コッコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

授業の出席・参加度、小テスト、課題提出により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is for those who have completed Korean A as a Third Foreign Language.

Students must have understood the basics of reading and writing Hangeul and complete the Chinese numerals. And need to have studied up to the 6th chapter of the text.

LANj300LA

日本語コミュニケーション A 2017年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国人留学生が「日本語」という言語をある程度マスターすれば、一般の日本人母語話者（日本人）とスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。つまり、コミュニケーションにおいて大切なのは「言語」だ。コミュニケーションにおいて「言語」が大切であることはいうまでもないが、だからといって「言語」がある一定以上できるようになったからといってその知識は日本人とのコミュニケーションを保証してはくれない。

なぜなら、コミュニケーションには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションは相互行為である。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。双方がそれぞれの反応が相手の期待する行動ではないとき、コミュニケーションはブレイクしてしまう。

日本語という「言語」を一つのチャンネルとして成り立たせるには、「言語」以外の要素を考慮しなければならない。この授業の名称が「日本語コミュニケーション」であるのは、日本語という「言語」によるコミュニケーションにおいて必要な知識と技能を、外国人側も日本人側も等しく身につけることが目的だからである。

【到達目標】

文化とは何か、および文化が異なるとはどういうことか、について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに「文化」と「言語」をテーマにして講義します。

必要に応じて、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ヒト・グループ・個人といった基本的な発想から、ヒトについて概観します
2	「食べる」について	「文化」の例として「食べる」を取り上げます
3	「装う（着る）」について	「文化」の例として「装う（着る）」を取り上げます
4	「文化」の定義	「文化」とは何かを考える際に考慮すべき諸項目について紹介しします
5	「コード・メッセージ」について	コード・モデルを紹介します
6	「言語」について	コード・モデルのもとになった言語のとらえ方を紹介します
7	文献購読	ことばと文化について、復習を兼ねて文献を読みます
8	「音」の単位について i	コードの単位の一つである「音」の単位について紹介しします
9	「音」の単位について ii	コードの単位の一つである「音」の単位について紹介しします

10	「意味」の単位について	コードの単位の一つである「意味」の単位について紹介しします
11	「文の構造」について	「文の構造」について解説しします
12	「文法カテゴリー」について i	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介しします
13	「文法カテゴリー」について ii	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介しします
14	授業内試験	以上13回分の内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「文化」なり「言語」なりの説明に、具体的な実例をあげますが、その個々の例を覚える必要はありませんが、講義をよく聴いて自分なりに真剣に考えてみてください。そのときに深刻に考えないように注意してください。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な枠組みは設定していますが、具体例等について受講者の個人的な情報をさらに活用していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

For Communication, verbal is necessary but not enough, also necessary non-verbal components, they are general speaking "Culture".

In Spring, we will discuss as a topic, what is "Culture" and what is the differences of "Culture".

LANj300LA

日本語コミュニケーション B 2017年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国人留学生が「日本語」という言語をある程度マスターすれば、一般の日本人母語話者（日本人）とスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。つまり、コミュニケーションにおいて大切なのは「言語」だと。コミュニケーションにおいて「言語」が大切であることはいうまでもないが、だからといって「言語」がある一定以上できるようになったからといってその知識は日本人とのコミュニケーションを保証してはくれない。

なぜなら、コミュニケーションには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションは相互行為である。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。双方がそれぞれの反応が相手の期待する行動ではないとき、コミュニケーションはブレイクしてしまう。

日本語という「言語」を一つのチャンネルとして成り立たせるには、「言語」以外の要素を考慮しなければならない。この授業の名称が「日本語コミュニケーション」であるのは、日本語という「言語」によるコミュニケーションにおいて必要な知識と技能を、外国人側も日本人側も等しく身に着けることが目的だからである。

【到達目標】

文化の異なりについて理解し、その壁を乗り越えてコミュニケーションを成立させる能力を培うこと。コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、おもに「言語」と「コミュニケーション」をテーマにして講義します。

また、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「音声コミュニケーション」の特徴	ヒトの言語は動物のコトバとどこが異なるのか、について解説します
3	「意味」について	「意味」とは何かについて、総括的に概観します
4	「構造」について	「構造」とは何かについて、総括的に概観します
5	日本語の諸問題 i	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
6	日本語の諸問題 ii	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
7	「宗教」について i	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます

8	「宗教」について ii	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
9	「コミュニケーション」の定義	「コミュニケーション」とはなにかについて解説します
10	「言語」と「ことば」について	「言語」と「ことば」の相違について解説します
11	「コミュニケーション」の要素 i	「コミュニケーション」の要素について解説します
12	「コミュニケーション」の要素 ii	「コミュニケーション」の要素について解説します
13	「コミュニケーション」における制約	「コミュニケーション」における制約について解説します
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「コミュニケーション」における日本語という言語について、日本での言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を発表できるように準備してもらいたいと思います。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、基本的なものとして平凡社の『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、試験の得点30点、レポートの得点40点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションは双方向であり、問題がおこるのは、どちらか一方の問題ではないという点を確認しておきたいと思います。

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

In Autumn, we will discuss on "Language" and "Communication".

LIT300LA

漢字・漢文学 A

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字古いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業形態】対面授業を基本にリアルタイム・オンライン授業とのハイブリッド型によって行う。講義形式。

受講生は、直接教室に来るかもしくは zoom を利用して受講するかを選択すること。後者の場合、出席確認を取る為毎回必ず顔を出して受講する必要があるので注意されたい。

毎回資料を配布し、それをもとに教員の解説しながら進める。

授業終了時に授業に関する感想や質問を Hoppii に入力してもらおう。幾つかの感想や質問については、次回授業の初めに取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

それとは別に、何度か授業内容に関連して課題を出すことがある。その場合も全員 Hoppii に回答するように指示を出す。

【教科書など】指定教科書はなし。適宜レジュメや関連資料を配布する。

【対象学年】2 年生以上。1 年生は受講不可。この授業を履修し単位を取得した学生も不可。

【通信環境】リアルタイム・オンラインでの受講を希望する場合、毎週月曜 4 限の時間帯に zoom へ安定してアクセスできるよう、インターネット環境を整えておくこと。資料のダウンロードや課題の提出は、各自で Hoppii にアクセスする必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・ 「六書」の紹介 ・ 漢字の起源と歴史 ・ 「字謎」の紹介

第 3 回	権力者と文字による予言	・ 予言の種類 ・ 歴史書に見える予言 ・ 「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・ 「志怪」と「伝奇」 ・ 文字が動かした寿命 ・ 読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・ 三つの予言 ・ 詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・ 近代諸国での流行 ・ 中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・ 「扶鸞」の方法と来歴 ・ 「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・ 宋代知識人の体験 ・ 明代のオカルト趣味 ・ 近代中国と「扶鸞」信仰
第 9 回	恋愛作品と文字	・ 『詩経』と「楽府」 ・ 恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・ 外交における機知 ・ 知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・ 避諱の制 ・ 姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・ 「推敲」 ・ 現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・ 詩が招いた幸運と悲運 ・ 「詩讖」の説
第 14 回	期末課題	試験もしくはレポート発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

LIT300LA

漢字・漢文学 B

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業形態】対面授業を基本にリアルタイム・オンライン授業とのハイブリッド型によって行う。講義形式。

受講生は、直接教室に来るかもしれないが zoom を利用して受講することを選択すること。後者の場合、出席確認を取る為毎回必ず顔を出して受講する必要があるため注意されたい。

毎回資料を配布し、それをもとに教員の解説しながら進める。

授業終了時に授業に関する感想や質問を Hoppii に入力してもらう。幾つかの感想や質問については、次回授業の初めに取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

それとは別に、何度か授業内容に関連して課題を出すことがある。その場合も全員 Hoppii に回答するように指示を出す。

【教科書など】指定教科書はなし。適宜レジュメや関連資料を配布する。

【対象学年】2 年生以上。1 年生は受講不可。この授業を履修し単位を取得した学生も不可。

【通信環境】リアルタイム・オンラインでの受講を希望する場合、毎週月曜 4 限の時間帯に zoom へ安定してアクセスできるよう、インターネット環境を整えておくこと。資料のダウンロードや課題の提出は、各自で Hoppii にアクセスする必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第 2 回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言

第 3 回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第 4 回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第 5 回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第 6 回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第 7 回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第 8 回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第 9 回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み
第 10 回	夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第 11 回	夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儂い栄達 ・動物への変身
第 12 回	他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅
第 13 回	日本における夢	・他人が見る夢 ・日本文学における夢
第 14 回	期末課題	試験またはレポート発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin to Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intend to talk about the stories of Japanese dreams.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものか、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めよう。

第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今semesterにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今semesterにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作品ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 時間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課すレポート（自分以外の受講生の作品〔三作以上〕への批評文）20 %。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度休講（担当者サバティカルのため）により、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of poetry, essays and novels, students acquire the ability to express their own worldview and imagination.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そのうち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今 semester では、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。

第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作品ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品 [三作以上] への批評文）30 %。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度休講（担当者サバティカルのため）により、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.

In addition, learning the basic skills of proofreading and editing by creating a collection works.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、ストレート・ブレイとは異なる身体運動の形態としてバレエにも着目する。通常、西洋演劇史とバレエの歴史は分けて記述されるが、本講義では出来るだけ関連付けながら捉えてみたい。

【到達目標】

- ・西洋演劇とバレエの歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇・バレエ作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語等の紹介
2	古代ギリシア演劇	原始社会から古代文明における演劇の発生について
3	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の舞踊への影響、「死の舞踊」のモチーフ、等について
4	エリザベス時代演劇	イギリス、エリザベス時代の演劇、特にシェイクスピアについて
5	フランス古典主義演劇とバレエの誕生	フランス古典主義演劇と、バレエ誕生の経緯について
6	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
7	ロマンティック・バレエ	バレエの依拠する物語や伝説、特に『ジゼル』、『 Coppélia 』について
8	クラシック・バレエの発生	バレエの技術的変容と定型化、特に『白鳥の湖』について
9	クラシック・バレエの展開	クラシック・バレエからモダン・バレエ、モダン・ダンスへの展開について
10	近代演劇	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	現代演劇	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
12	モダン・ダンス（1）	バランシン、カニンガム、ノイマイヤー等の実践について

- 13 モダン・ダンス（2） ベジャール、バウシュ、フォーサイス等の実践について
- 14 まとめ 授業のまとめと参考文献の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】の文献をできるだけ読むように努める。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
 シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
 シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
 日本演劇学会『ベスト・ブレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
 岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）
 邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
 鈴木晶『バレエの魔力』（講談社現代新書）
 長野由紀『バレエの見方』（新書館）
 三浦雅士『バレエ入門』（新書館）
 舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

学期末レポート 50 % : 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body that is embedded in daily life and reveals the possibility for new body movement. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. As well as straight play, we will also focus on ballet, another mode of theatrical performance. Although the histories of these two forms are usually described separately, this course will try to conceive the common elements, too.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀以降拡大する大衆文化に見られる身体表現のあり方を概観する。このことにより、身体表現が生活のなかで孕む問題点や文化的意義を浮き彫りにする。大衆文化はメディア産業と強く関連するため、受講生のメディア・リテラシーへの意識づけも考慮しながら講義する。

【到達目標】

- ・大衆文化における各種の身体表現について考察し、記述できる。
- ・身体運動を、社会生活を営む視点から考える認識枠組を身につける。
- ・大衆文化の身体性について評価する批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後にリアクション・ペーパーを執筆し、提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語等の紹介
2	演芸	ミュージック・ホール、チャップリン、キートン等コメディアンの身体表現について
3	レビュー	キャバレー、フレンチ・カンカン、レビュー、日本の「歌劇団」について
4	ミュージカル（1）	ミュージカルとオペラとの差異、ミュージカルにおける身体表現等について
5	ミュージカル（2）	ミュージカルにおける身体表現について（事例紹介）
6	反リアリズム演劇	20 世紀日本のアンガラ演劇、代表的な演出家の身体表現について
7	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス等の各種ダンスの身体表現について
8	ミュージック・ビデオ	ミュージック・ビデオの身体表現について
9	映画（1）	男性的な英雄の系譜と英雄像について
10	映画（2）	ポップ・アイコンとしてのヘップバーンとモンローについて
11	アニメーション	アニメーションの歴史と身体表現について
12	テーマパーク	ディズニーランドの空間構成と身体表現について

- 13 事例研究（1） 『マイ・フェア・レディ』、『雨に唄えば』、『ファニー・ガール』を題材に、ミュージカル映画の女性像について考える。
- 14 事例研究（2）とまとめ 『ミー・アンド・マイ・ガール』を題材に、レビューの女性像について考える。／講義のまとめと参考文献の紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に挙げた参考文献をできるだけ読むように努める。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

- 井野瀬久美恵『大英帝国はミュージック・ホールから』（朝日選書）
岩崎昶『チャーリー・チャップリン』（講談社現代新書）
ビートたけし『浅草キッド』（新潮文庫）
リサ・アピニャネジ『キャバレー ヨーロッパ世紀末の飲食文化（上）（下）』（サントリー）
小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）
本橋哲也『深読みミュージカル』（青土社）
スタニスラフスキー（山田肇訳）『俳優修業』（未来社）
マイケル・チューホフ（ゼンヒラノ訳）『演技者へ！』（晩成書房）
鈴木忠志『演劇とは何か』（岩波新書）
蜷川幸雄・長谷部浩『演出術』（ちくま文庫）
浅利慶太『劇団四季メソッド「美しい日本語の話し方」』（文春新書）
油井正一『ジャズの歴史物語』（角川ソフィア文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
学期末レポート 50%：大衆文化における身体表現の意義を論じることができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course will offer a survey of body movement in popular culture that has been expanding since the nineteenth century, so that students will be aware of specific issues or cultural values seen in contemporary life. The course will also take the media industry into consideration, since it is closely linked to popular culture, which will enhance their level of media literacy.

ART300LA		4/19	古代美術	講義 原始美術/先史美術 メソポタミア美術 エジプト美術 ギリシャ美術 ローマ美術 レクチャー・パフォーマンス 「ラスコーの壁画」「ローマ帝国」
美術論 A	2017 年度以降入学者			
稲垣 立男				
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 4/Mon.4				
単位数：2 単位				
法文営国環キ 2～4 年※定員制		4/26	中世美術	講義 初期キリスト美術 ビザンティン美術 初期中世美術 ロマネスク美術 ゴシック美術 レクチャー・パフォーマンス 「キリスト教と美術」
他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：				
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		5/10	ワークショップ 1 古代、中世美術	単元の復習 ワークショップ 「伝える方法・絵から文字へ」
美術論 A では、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。		5/17	近世美術	講義 ルネサンス美術 バロック美術 ロココ美術 レクチャー・パフォーマンス 「レオナルド・ダ・ヴィンチ」
特に				
・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論				
・各時代のアーティストの実践（アイデアや制作論）		5/24	近代美術 1	新古典主義 ロマン主義 写実主義 レクチャー・パフォーマンス 「ギュスターヴ・クールベ 写実主義の思想」
について段階的に幅広く学んでいきます。				
【到達目標】		5/31	ワークショップ 2 近世、近代美術	単元の復習 ワークショップ 「デッサンの手法」
・西洋美術の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学ぶことができます。		6/7	近代美術 2	印象派 ポスト印象派 新印象派 レクチャー・パフォーマンス 「印象派」
・美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について学ぶことができます。		6/14	近代美術 3	野獣派 キュビズム 表現主義 ナビ派 世紀末芸術 象徴主義（ロシア象徴主義） 素朴派 レクチャー・パフォーマンス 「ピカソとブラック」
・ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。				
『ワークショップ』		6/21	ワークショップ 3 近代美術	単元の復習 ワークショップ 「アバンギャルドのアート」
各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。		6/28	現代美術 1	未来派 ダダイズム シュルレアリズム デ・スティール バウハウス ロシア構成主義 ワークショップ 「シュルレアリスムの実験」
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		7/5	現代美術 2	レトリズム 抽象表現主義 ネオダダ ポップアート
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1				
【授業の進め方と方法】				
導入（10 分）				
毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。				
講義（40 分）				
その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。				
レクチャー・パフォーマンス（30 分）				
その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。				
授業内レポート（20 分）				
毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くこととなります。				
授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。				
・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）				
・Zoom（ミーティング）				
・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
あり / Yes				
【授業計画】				
回	テーマ	内容		
4/12	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方		
				レクチャーパフォーマンス 「第二次世界大戦前後」

7/12	現代美術 3	ミニマルアート コンセプチュアルアート 新表現主義 YBA リレーショナル・アート ソーシャリー・エンゲージド・アート
7/19	現代美術 ワークショップ 4	レクチャーパフォーマンス 「スクールレポリューションとアート」 単元の復習 ワークショップ 「テキストとアート」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30分程度のを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術 B では、古代から現代までの日本美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

- ・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
 - ・各時代のアーティストの実践（アイデアや制作論）
- について段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

- ・日本美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。
- ・ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入（10 分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40 分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30 分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20 分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くこととなります。授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

- ・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
- ・Zoom（ミーティング）
- ・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/20	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
9/27	古代美術 1	縄文・弥生・古墳時代
10/4	古代美術 2	飛鳥・白鳳時代 平安時代
10/11	ワークショップ（1）	プレゼンテーションとディスカッション
10/18	中世美術	鎌倉・室町時代
10/25	近世美術	桃山・江戸時代

11/1	ワークショップ（2）	プレゼンテーションとディスカッション
11/8	近代美術 1	明治時代 西洋画と日本画
11/15	近代美術 2	大正デモクラシー 戦争画
11/29	ワークショップ（3）	プレゼンテーションとディスカッション
12/6	戦後美術	アンデパンダン/ネオダダ/ハイ レッドセンター/実験工房/もの派/もの派以降
12/13	現代美術 1	インスタレーション・パフォーマンス
13	現代美術 2	1990 年代、ゼロ年代、ミレニアム以降
14	ワークショップ（4）	プレゼンテーションとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介いたしますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介いたします。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』

美術出版社、2014 年

辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらおうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site (ウェブサイト) のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像 (YouTube、30 分程度のを 2、3 本)、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

・ Art history and art theory which is the basis for understanding art

・ Work production, including more practical content · planning of art exhibitions · Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、各々の映画的表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深める。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拓げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画 (サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる) の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、コメントシートを書いてもらったりすることになる。フィードバックは授業内ないし hoppii で優れたコメントシートを紹介して行う。

初回に、定員を 50 名以内に絞り込むための選抜テスト (上映するシーンの分析) を行うので、必ずこれに出席すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	ジョン・フォード 宮崎駿
3	地を走る	チャールズ・チャップリン バスター・キートン
4	地で踊る	フレッド・アステア ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	S・エイゼンシュテイン アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー ニコラス・レイ
7	列車に乗る	リュミエール兄弟 エドウィン・S・ポーター アベル・ガンズ
8	列車に乗る 2	アルフレッド・ヒッチコック 黒澤明
9	自動車に乗る	フランク・キャブラ ジャン=リュック・ゴダール
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ 諏訪敦彦
11	壁の向うを聴く	アルフレッド・ヒッチコック ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	アルフレッド・ヒッチコック マルグリット・デュラス
13	鏡を見る	ジョセフ・ロージー オーソン・ウェルズ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントを読む。映画館や DVD で映画を分析的に観賞する。

本授業の準備時間は 30 分を標準とし、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』 フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回選抜試験を受けること。毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline and objectives】

In this class, we study the interaction between human behavior and space in classical films.

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、映画が都市や自然をどのように表象しているのかを学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深める。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分の観る映画のジャンル・年代・地域を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、出席カードに感想を書いてもらったりすることになる。フィードバックは授業内ないし hoppii で優れたコメントシートを紹介して行う。

初回に定員を 50 名以内に絞り込むための選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、「芸術と人間 A」を履修していない学生は必ずこれに出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	高層都市	フリッツ・ラング キング・ヴィダー
3	迷宮都市	ジェック・タチ オーソン・ウェルズ
4	記憶都市	アルフレッド・ヒッチコック ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	成瀬巳喜男 小津安二郎
6	廃墟	ロベルト・ロッセリーニ 黒沢清
7	水と船	フリードリヒ・ムルナウ 溝口健二
8	川	ジャン・ルノワール チャールズ・ロートン
9	雨	山中貞雄 相米慎二
10	水の宇宙	アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン 宮崎駿
12	森と動物	宮崎駿 アビチャボン・ウィラセタクン
13	補足	講義で十分扱えなかったテーマや映画

14 まとめ 講義のまとめ
課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントを読む。映画館や DVD で映画を分析的に観賞する。

本授業の準備時間は 30 分を標準とし、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

コメントシートを早めに返却する。

【その他の重要事項】

初回選抜試験を受けること。毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline and objectives】

In this class, we study the interaction between human behavior and space in classical films.

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

対面でもオンラインでも授業は講義形式です。

毎回、資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第 2 回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第 3 回	仏教の成立	仏陀の生涯
第 4 回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第 5 回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第 6 回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 4つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめの説法』

- 第7回 仏教の基本思想（3） 仏陀のさとり得た真理とその特徴
『梵天勸請』
『縁』経、他
比較思想的考察
- 第8回 仏教の基本思想（4） 「諸法無我」
人無我と法無我
ミリンダ王経
- 第9回 仏教教団と教団運営 律蔵文献
戒・波羅提木叉
- 第10回 初期仏典講読（1） 『ダンマパダ』
- 第11回 初期仏典講読（2） 『スッタニパータ』
「慈しみ」他
- 第12回 初期仏典講読（3） 『スッタニパータ』
「田を耕すパーラドヴァージャ」
他
- 第13回 初期仏典講読（4） 『スッタニパータ』
真理についての争い
- 第14回 授業内試験・まとめ 筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料等の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブツダとなったのか』、NHK出版新書、2013年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績+平常点（40%）により評価します。

学期末レポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

殆どの学生にとって、仏陀自身の思想・本来の仏教思想を学ぶのは初めてのことだと思います。資料を深く読み、仏陀・仏教の思想を正しく真直ぐに捉え理解してってください。解説は丁寧にしています。

【Outline and objectives】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

PHL300LA

仏教思想論 B

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

法文堂国環キ 2~4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化してきたのか、これら学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

（本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論 A」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。

・仏教思想はどのようにして多様化したのか、その理由を理解する。

・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化してきたのかを理解する。

・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

対面でもオンラインでも授業は講義形式です。毎回、資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

单元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乘仏教へ
第2回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第3回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第4回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第5回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用） 心作用の区分け（6心所）
第6回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第7回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴
第8回	大乘仏教（2）	大乘諸経典 『般若経』の空思想

第9回 大乘仏教(3)	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中
第10回 大乘仏教(4)	縁起の思想(1) 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苩経』
第11回 大乘仏教(5)	縁起の思想(2) 縁起二種観察法 『稲苩経』・『稲苩経註』
第12回 大乘仏教(6)	大乘仏教・後期中観思想の人生観 1 到達目標・理想的境地・中道
第13回 大乘仏教(7)	大乘仏教・後期中観思想の人生観 2 仏陀・経典の権威について
第14回 まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：テキスト・プリント資料の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト(教科書)】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin 選書、2013年

桜部健・上山春平著『仏教の思想2 存在の分析<アビダルマ>』、角川ソフィア文庫、1996年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績+平常点(40%)により評価します。

授業内筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

初めてインド本来の大乘仏教思想を学び、その人生観等に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になります。丁寧な解説を心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

PHL300LA

行為の理論 A

2017年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

法文営国環キ 2~4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

【到達目標】

合理主義的行為を再検討し、<クリエイティブな行為>を解明できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立て体的に組合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。課題レポートは授業終了時に提出してもらい、次回授業で講評します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スライド形式による授業内容紹介
2	序論	自己をクリエートする21世紀精神へ
3	I 行為の構造	合理主義的行為論
4	II 自己表現としての行為	ヘーゲルの自己表現論
5	III 行為の根源	《自己決定と不可避の行為とは両立するか?》
6	III 行為の根源	《善を知っているのに悪を行うとは?》
7	III 行為の根源	《行為は始める前に生ずる》
8	III 行為の根源	《行為には骨(こつ)がある》
9	III 行為の根源	《行為の失敗こそ大切である》
10	III 行為の根源	《体で動かずに心で動く》
11	III 行為の根源	《どうあってもよい行為とは?》
12	III 行為の根源	《意図を超えて因果はめぐる》
13	III 行為の根源	《運命とは自己自身である》
14	春 semester のまとめ	授業内試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

山口誠一著『クリエートする哲学—新行為論入門—』(弘文堂)の内容を教室のスクリーンにプロジェクター投射します。

【参考書】

毎回の授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

学年度末試験を基準 (60%) として、授業時課題レポート (20%) と出席回数 (20%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with the process for making the selfcreation of action, with texts drawn from many languages.

PHL300LA

行為の理論 B

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米的合理主義は、クリエイティブなライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで科学技術によってますます高度化する現代情報消費社会で追究されるべき行為の創造性を主にニーチェの行為論を手がかりに考察します。

【到達目標】

合理主義的行為を再検討し、<クリエイティブな行為> を解明できます。なお、その際、米国のネオプラグマティズム最新動向も検討します。また、現代文明の預言者ニーチェの思想をてがかりにしながら、広い視野から深く考察できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。課題レポートは授業終了時に提出してもらい、次回授業で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ニーチェの行為論	スライド形式による授業内容紹介
2	自己をクリエートする行為とは？	ヘーゲルからニーチェへの展開を通して自己創造を解明する
3	動機なき行為とは、	フランスの思想家カミュの『異邦人』を映画で鑑賞しながら行為の動機を相対化する。
4	行為の意図・動機への疑念	ニーチェによる合理主義的行為批判を紹介する。
5	身体自己と目的意識との関係	権力への意志としての身体自己を解明する。
6	しくじり行為	フロイトの精神分析を手がかりに行為の身体自己の無意識性を解明する。
7	「大きな理性」としての身体自己	身体自己が意識に命令して行為が現実化することを解明する。
8	目的論の相対化	作用原因としての身体自己を解明する。
9	道徳的責任からの解放	無垢な人間のライフスタイルを解明する。
10	自己創造としての行為	作用原因としての身体自己による創造的行為を解明する。
11	自己創造としての弁証法的対話	対話を通して対話者の新たな自己が創造されてゆくメカニズムを解明する。

- | | | |
|----|------------|-------------------------------|
| 12 | 幻影・仮象に生きる | 幻影・仮象による自己創造がネーミングに到ることを解明する。 |
| 13 | 自己創造としての変身 | ネーミングによる変身が自己創造であることを解明する。 |
| 14 | まとめ | 行為論 B の総括・授業内試験 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にスクリーンにテキストをプロジェクター投射します。また、学習支援システムでも事前に配布します。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学年度末試験を基準 (60%) として、授業時課題レポート (20%) と出席回数 (20%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC 接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with Nietzsche's theory of action, with texts drawn from Japanese, English and German.

PHL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：反出生主義の哲学——「生まれてこない方がよかった」というの

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

2000 年代になってにわかに議論が喧しくなってきた哲学的問題に、「反出生主義 (Antinatalism)」がある。端的に言えば、「生まれてこないほうが良かった」という思想である。それゆえ、「反出生主義」とは、「存在してしまうことの害悪」をなるべく減ずるために、将来生まれてくる可能性のある人々の誕生を防ぐことは道徳的に正しいという議論である。

哲学的に見れば、「反出生主義」の思想は、19 世紀の哲学者アルトゥール・ショーペンハウアー (1788-1860) のベシニズムに遡ることができる。彼の影響のもとに、ニーチェは、『悲劇の誕生』のなかで、「人間にとってもっとも善いことは、生まれなかったこと、存在しないこと、何者でないことだ。次に善いことは、すぐに死ぬことだ」と書き記している。

こうした「反出生主義」が再び議論を巻き起こしている背景には、デイヴィッド・ベネター (南アフリカ・ケープタウン大学准教授) が『生まれてこなかったほうが良かった——存在してしまうことの害悪 (David Benatar, *Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence*)』(2006) を出版したことがある。森岡正博 (早稲田大学教授) によれば、ベネターの哲学は、基本的にはショーペンハウアーの『意志と表象の世界』(1819 正編/1843 続編) の思想を引き継いでいるが、彼が「反出生主義」を分析哲学の手法を用いて哲学のテーマとしたことは評価できる。

そこで 2021 年度の本授業は、ベネターのテキストを取り上げ、「反出生主義」の思想を考察することにしたい。

【授業の目的】

本授業の目的は、ベネターの『生まれてこないほうが良かった』を検討することによって、「反出生主義」の現代的意義を考察する。ちなみにベネターによれば、生まれてくる人たちの誕生を防ぐことによって、この世界の害悪を減らしていくことが重要であり、それゆえ、人工妊娠中絶は肯定される。最終的に、彼は「人類は絶滅したほうがよい」という結論に至る。

本授業では、第一に、「たとえ質の高い人生であったとしても、私たちの人生は非常に悪いものだ」というベネターの主張に対する反論を検討する。

第二に、どのような意味で、ベネターの「反出生主義」を否定する「誕生肯定の哲学」(森岡正博) は可能かを検討する。

結果的に、私たちは「生まれてきたほうがよかった」といいうのかという問題を哲学的に検討する。

【到達目標】

- ①ベネターの「反出生主義」の思想を学ぶことができる。
- ②哲学的なテキストを読むことができる。
- ③レジュメを書くことができる。
- ④ベネター以外の「反出生主義」の思想を学ぶことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) 基本的に「演習」形式で行う。
 - (2) 毎回、担当者を決め、レジュメを作成してもらう。
- ◆レジュメには、①担当箇所の翻訳と解説、②用語説明、③考察、④問題点を記載する。
- (3) 授業の進め方
 - ①特定質問者を決めて、担当者の発表に対して、質問を行う。

②それ以外の授業参加者と教員を含めて質疑を行い、問題点について議論する。

(4) フィードバックの方法

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方についての説明 ・発表の順番等の決定
第2回	第1章 序論①	・誰がそんなに幸運なのか ・反出生主義と出生を促進する偏見
第3回	第1章 序論②	・本書の概要
第4回	第2章 存在してしまうことが常に害悪である理由①	・存在してしまうことが害悪であるということがあるのか？
第5回	第2章 存在してしまうことが常に害悪である理由②	・なぜ存在してしまうことは常に害悪であるのか
第6回	第3章 存在してしまうことがどれほど悪いのか①	・人生の良さと悪さの差が人生の質にはならない理由 ・なぜ人生の質の自己判断は信頼できないのか
第7回	第3章 存在してしまうことがどれほど悪いのか②	・人生の質に関する三つの見解と三つの見解どれをとっても人生はうまくいかない理由 ・苦痛の世界
第8回	第4章 子どもを持つということ：反出生的見解①	・子作り ・子供を作る理由
第9回	第4章 子どもを持つということ：反出生的見解②	・障碍とロングライフ（望まずに生まれた命） ・生殖補助と人工生殖 ・将来生まれてくる人間を単なる手段として考えること
第10回	第5章 妊娠中絶：「妊娠中絶賛成派」の見解①	・四種類の利害〔interest〕 ・どの利害が道徳に関係するのか？ ・いつから意識が生じ始めるのか？
第11回	第5章 妊娠中絶：「妊娠中絶賛成派」の見解②	・存在し続けることへの利害 ・黄金律 ・「私たちと同じような未来」 ・結論
第12回	第6章 人口と絶滅①	・人口過剰 ・人口に関する道徳理論に潜む問題を解決する
第13回	第6章 人口と絶滅②	・段階的絶滅 ・絶滅
第14回	第7章 結論	・反直観的であるという反論に反論する ・楽観主義者への応答 ・死と自殺 ・宗教的見解 ・人間嫌い人間好き

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当者は、テキストの該当箇所のレジュメを発表前日までに教員に提出すること。
・特定質問者は、テキストの該当箇所に関する質問を3つ以上考え、簡単な質問表を作ってくる（発表当日でよい）
・それ以外の参加者は、該当箇所について質問を1つは考え、当日の議論に参加する準備をすること。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2017年
(2) David Benatar, *Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence*, Oxford University Press, 2006.

【参考書】

(1) 「特集 反出生主義を考える——「生まれてこないほうが良かった」という思想」、『現代思想』、青土社、2019年11月号

(2) 吉沢文武「ベネターの反出生主義をどう受けとめるか」、『現代思想』「特集 倫理学の論点 23」所収、青土社、2019年9月号

◆その他については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・個別報告発表（50%）（回数および内容による評価）
・特定質問担当（30%）（質問内容による評価）
・討論参加（20%）（内容による評価）
※ 以上に基づいて、総合的に評価する。

※ なお、無断欠席は認めない。

※要注意

・リアルタイムオンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

最近の大学生の中には、基本的なテキスト読解が不十分な者が見受けられる。テキストを「読む」というのは、テキストを「読み解く」のであって「読み込む」のではないことは肝に銘じるべきである。「読み込む」ということは、自分の考えをテキストに投影することであり、それは単なる勝手な解釈に過ぎない。それでは、真にテキストを「読解する」ことにならない。あくまで「虚心坦懐」にテキストに向かい、「眼光紙背を徹する」態度でテキストに向かわなければ、哲学的なテキストを「読む」ことはできない。

また、担当者はレジュメを作成する上で、引用されているテキストはもちろん、それ以外にも用語・概念などについて、徹底的に下調べを行うべきである。担当者以外に対して、教員から授業中に質問することが多々あるので、担当者と同様に準備を怠らないでほしい。

演習とは **practice** (=実践) を意味しているのであり、テキストを「読む」という実践は五感を十分に活用することです。授業に参加する皆さんは、哲学を「実践する」態度で臨んでもらいたい。

【受講上の注意】

本授業は、哲学・倫理学、思想の分野に深くコミットしているために、自身の思考の鍛錬を要する。テキストを読むこと、それに基づいて自分の思考を実践すること、これらの作業は哲学研究にとって必須のものと心得てもらいたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to examine the contemporary significance of "anti-birth" with special reference to Benatar's "I was better off not being born." By the way, according to Benatar, it is important to reduce the harm of this world by preventing the birth of newborns, and therefore abortion is affirmed. Eventually, he comes to the conclusion that humanity should be extinct.

Therefore, this class first examines the rebuttal of Benatar's assertion that "even if it is a quality life, our lives are very bad." Second, we examine in what sense a "birth affirmation philosophy" (Masahiro Morioka) that denies Benatar's "anti-birth" is possible. As a result, we consider philosophically the question of whether we should have been born.

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：「反出生主義の哲学」の批判——「生まれてこない方がよいか？」という問いは本当か？

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

2000年代になっていかに議論が喧しくなってきた哲学的問題に、「反出生主義 (Antinatalism)」がある。端的に言えば、「生まれてこないほうが良かった」という思想である。それゆえ、「反出生主義」とは、「存在してしまうことの害悪」をなるべく減ずるために、将来生まれてくる可能性のある人々の誕生を防ぐことは道徳的に正しいという議論である。

哲学的に見れば、「反出生主義」の思想は、19世紀の哲学者アルトゥール・ショーペンハウアー (1788-1860) のペシミズムに遡ることができる。彼の影響のもとに、ニーチェは、『悲劇の誕生』のなかで、「人間にとってもっとも善いことは、生まれなかったこと、存在しないこと、何者でないことだ。次に善いことは、すぐに死ぬことだ」と書き記している。

こうした「反出生主義」が再び議論を巻き起こしている背景には、デイヴィッド・ベネター (南アフリカ・ケープタウン大学准教授) が『生まれてこなかったほうが良かった——存在してしまうことの害悪 (David Benatar, Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence)』(2006) を出版したことがある。森岡正博によれば、ベネターは、基本的にはショーペンハウアーの『意志と表象の世界』(1819 正編/1843 続編) の思想を引き継いでいるが、彼が「反出生主義」を分析哲学の手法を用いて哲学のテーマとしたことである。

そこで2021年度の本授業は、「春学期」で取り上げたベネターのテキストを批判的に検討する。その際に、森岡正博の『生まれてこないほうが良かったのか——生命の哲学へ!』(2020) を取り上げ、「反出生主義」の批判から、「誕生肯定」の哲学へと至る道を探る。

【授業の目的】

本授業の目的は、ベネターの『生まれてこないほうが良かった』を検討することによって、「反出生主義」の現代的意義を考察する。ちなみにベネターによれば、生まれてくる人たちの誕生を防ぐことによって、この世界の害悪を減らしていくことが重要であり、それゆえ、人工妊娠中絶は肯定される。最終的に、彼は「人類は絶滅したほうがよい」という結論に至る。

そこで本授業では、第一に、「たとえ質の高い人生であったとしても、私たちの人生は非常に悪いものだ」というベネターの主張に対する反論を検討する。

第二に、どのような意味で、ベネターの「反出生主義」を否定する「誕生肯定の哲学」(森岡正博) は可能かを検討する。結果的に、私たちは「生まれてきたほうがよかった」といえるのかという問題を哲学的に検討する。

【到達目標】

- ①森岡正博の「誕生肯定」の思想を学ぶことができる。
- ②哲学的なテキストを読むことができる。
- ③レジュメを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) 基本的に「演習」形式で行う。
- (2) 毎回、担当者を決め、レジュメを作成してもらう。

◆レジュメには、①担当箇所の翻訳と解説、②用語説明、③考察、④問題点を記載する。

◆特定質問者を決めて、担当者の発表に対して、質問を行う。

(3) それ以外の授業参加者と教員を含めて質疑を行い、問題点につ

て議論を深める。

(4) フィードバックの方法

◆授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・当番の順番を決定する ・授業の概要説明
第2回	第1章 「おまえは生きなければならぬ!」①	1. メフィストと「否定する精神」 2. 「お前は生きなければならぬ!」①
第3回	第1章 「おまえは生きなければならぬ!」②	3. 救済されたファウストの魂 4. 『ファウスト』と誕生否定
第4回	第2章 誕生は害悪なのか①	1. オイディプス王 2. 世界と人生に対する呪詛
第5回	第2章 誕生は害悪なのか②	3. ベネターの「誕生害悪論」 4. 反出生主義の射程
第6回	第3章 ショーペンハウアーの反出生主義①	1. 生命論へと変換されたカント哲学 2. 生きようとする意志 3. いっさいの生は苦しみである
第7回	第3章 ショーペンハウアーの反出生主義②	4. 「無意志」の状態こそが最高善である 5. 自殺について 6. 死によっても壊れ得ないもの 7. ショーペンハウアーの影響
第8回	第4章 輪廻する不滅のアーマン①	1. 輪廻思想の誕生 2. 熟睡によって到達する本来の自己
第9回	第4章 輪廻する不滅のアーマン②	「お前がそれである」
第10回	第5章 ブッダは誕生をどう考えたのか①	1. 一切皆苦 2. 涅槃寂静
第11回	第5章 ブッダは誕生をどう考えたのか②	3. 生まれてこないほうが良かったのか? 4. 原始仏教と自殺
第12回	第6章 ニーチェー—生まれてきた運命を愛せるか①	1. 生を肯定する哲学者 2. 永遠回帰 3. 運命愛
第13回	第6章 ニーチェー—生まれてきた運命を愛せるか②	4. 在るところのものに成ることを欲する 5. ニーチェーと誕生肯定
第14回	第7章 誕生を肯定すること、生命を哲学すること	1. 誕生害悪論を再考する 2. 善から悪が生成することは悪なのか? 3. 子どもを産むことをどう考えるか 4. 誕生肯定の哲学へ! 5. 生命の哲学へ!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当者は、テキストの該当箇所のレジュメを発表前日までに教員に提出すること。

・特定質問者は、テキストの該当箇所に関する質問を3つ以上考え、簡単な質問表を作ってくる（発表当日でよい）

・それ以外の参加者は、該当箇所について質問を1つは考え、当日の議論に参加する準備をすること。

・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

森岡正博『生まれてこないほうが良かったのか? ——生命の哲学へ!』(筑摩選書、2020年)

【参考書】

- (1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2017年
 (2) 「特集 反出生主義を考える——「生まれてこないほうが良かった」という思想」、『現代思想』、青土社、2019年11月号
 (3) 吉沢文武「ベネターの反出生主義をどう受けとめるか」、『現代思想』「特集 倫理学の論点 23」所収、青土社、2019年9月号
 ◆ その他については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 個別報告発表 (50%) (回数および内容による評価)
 - ・ 特定質問担当 (30%) (質問内容による評価)
 - ・ 討論参加 (20%) (内容による評価)
- ※ 以上に基づいて、総合的に評価する。
 ※ なお、無断欠席は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

最近の大学生の中には、基本的なテキスト読解が不十分な者が見受けられる。テキストを「読む」というのは、テキストを「読み解く」のであって「読み込む」のではないことは肝に銘じるべきである。「読み込む」ということは、自分の考えをテキストに投影することであり、それは単なる勝手な解釈に過ぎない。それでは、真にテキストを「読解する」ことにならない。あくまで「虚心坦懐」にテキストに向かい、「眼光紙背を徹する」態度でテキストに向かわなければ、哲学的なテキストを「読む」ことはできない。

また、担当者はレジュメを作成する上で、引用されているテキストはもちろん、それ以外にも用語・概念などについて、徹底的に下調べを行うべきである。担当者以外に対して、教員から授業中に質問することが多々あるので、担当者と同様に準備を怠らないでほしい。

演習とは **practice (=実践)** を意味しているものであり、テキストを「読む」という実践は五感を十分に活用することです。授業に参加する皆さんは、哲学を「実践する」態度で臨んでもらいたい。

【受講上の注意】

本授業は、哲学・倫理学、思想の分野に深くコミットしているために、自身の思考の鍛錬を要する。テキストを読むこと、それに基づいて自分の思考を実践すること、これらの作業は哲学研究にとって必須のものと心得てもらいたい。単に、カルチュラル・スタディーズや、ポスト・コロニアリズム研究などとは異なるので、注意を要する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 現代哲学（現象学・構造主義以後のフランス哲学）・現代倫理学（ケアの倫理学・応用倫理学）

<研究テーマ> 生命体・地球を含む「生の倫理学」（例えば、暴力や虐待、テロなどによるトラウマや PTSD に苦しむ人々を「生・生活・人生・生命 (life)」という観点からケアしていくためにしなければならない義務・責任を考察する）

<主要研究業績>

1. 【共著】森村修「[社会政治的トラウマ]の倫理」、牧野英二・小野原雅夫・山本英輔・斎藤元紀編『哲学の変換と知の越境』所収、法政大学出版局、2019年【臨床哲学・生の倫理学】
2. 【共著】森村修「アマルティア・セン——自由と正義のアイデア」、榎木玲子／法政大学国際文化学部編『〈境界〉を生きる思想家たち』所収、法政大学出版局、2016年【現代倫理学】
3. 【共著】森村修「ヨーロッパ」という問題—テロと放射能時代における哲学」、熊田泰章編『国際文化研究への道：共生と連帯を求めて』所収、彩流社、2013年【現代哲学】
4. 【論文】森村修「市川白弦の「空-無政府-共同体論 (Ś ūnya-Anarchist-Communism)」——小笠原秀実の仏教アナキズムと西谷啓治の自衛論批判をめぐって」、法政大学国際文化学部編『異文化 20』、2019年【日本哲学】
5. 【論文】森村修「技術は「ヒューマニズムを超える」か? (1) —ハイパー・ニヒリズム時代におけるハイデガーの「技術哲学」(1)、法政大学国際文化学部編『異文化 19』論文編、2018年【現代ドイツ哲学・応用倫理学】
6. 【論文】森村修「パウル・ツェランという問題 (1) —ガダマーとデリダの「途切れない対話」(1)、法政大学国際文化学部編『異文化』論文編、2017年【現代ドイツ・フランス哲学】

7. 【論文】森村修「思想の翻訳と文字の問題——比較思想から問文化性の比較思考へ」、比較思想学会編『比較思想研究』第42号、2016年【日本哲学・Intercultural Philosophy】
8. 【論文】森村修「センの「道徳哲学」(1)——パトナム「事実／価値二分法の崩壊」論を手がかりに(1)、法政大学国際文化学部編『異文化 17』論文編、2016年【現代倫理学】
9. 【論文】森村修「[性的差異]のケア倫理学——フェミニズム倫理学と和辻倫理学における「肉体」の問題」、『比較思想研究』第41号、2015年【日本哲学・ケアの倫理学】
10. 【論文】森村修「喪と／あるいはメランコリー (1) ——デリダの〈精神分析の哲学〉(1)、法政大学国際文化学部編『異文化 16』論文編、2015年【現代哲学】

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to examine the contemporary significance of "Antinatalism" with special reference to Benatar's "Better Never to Have Been." By the way, according to Benatar, it is important to reduce the harm of this world by preventing the birth of newborns, and therefore abortion is affirmed. Eventually, he comes to the conclusion that humanity should be extinct.

Therefore, this class first examines the rebuttal of Benatar's assertion that "even if it is a quality life, our lives are very bad." Second, we examine in what sense a "birth affirmation philosophy" (Masahiro Morioka) that denies Benatar's "anti-birth" is possible. As a result, we consider philosophically the question of whether we should have been born.

HIS300LA

中国の民族と文化 A

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化 B」は春学期の学習を前提に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第 2 回	漢文の基礎 (1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第 3 回	漢文の基礎 (2)	否定・可能
第 4 回	漢文の基礎 (3)	使役・受身
第 5 回	漢文の基礎 (4)	疑問・反語
第 6 回	漢文の基礎 (5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第 7 回	漢文史料から見る歴史 (1)	『史記』の描く春秋時代
第 8 回	漢文史料から見る歴史 (2)	『史記』の描く戦国時代
第 9 回	漢文史料から見る歴史 (3)	『史記』の描く前漢時代
第 10 回	漢文史料から見る歴史 (4)	『後漢書』の描く後漢時代
第 11 回	漢文史料から見る歴史 (5)	『三国志』の描く魏
第 12 回	漢文史料から見る歴史 (6)	『三国志』の描く呉
第 13 回	漢文史料から見る歴史 (7)	『三国志』の描く蜀
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け!』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。また、日本人学生でも、学習上の負担もあり、試験も簡単ではないので、安易な気持ちで履修するのはおやめください。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

中国の民族と文化 B

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化 A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けていただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	漢民族の思想 (1)	『論語』と儒家
第 2 回	漢民族の思想 (2)	『論語』と政治
第 3 回	漢民族の思想 (3)	『孟子』と国家
第 4 回	漢民族の思想 (4)	『孟子』と性善説
第 5 回	漢民族の思想 (5)	『荀子』と性悪説
第 6 回	漢民族の思想 (6)	『荀子』と学問
第 7 回	漢民族の思想 (7)	『韓非子』と法家
第 8 回	漢民族の思想 (8)	『韓非子』と秦
第 9 回	儒家思想と政治の展開 (1)	唐の太宗と『貞観政要』
第 10 回	儒家思想と政治の展開 (2)	王安石と宋学
第 11 回	儒家思想と民族・学問 (1)	朱子学と歴史学
第 12 回	儒家思想と民族・学問 (2)	顧炎武の人生と明清交替
第 13 回	儒家思想と民族・学問 (3)	顧炎武の学問と国家観
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）

佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）

天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）

円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とすると全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。また、日本人学生でも、学習上の負担もあり、試験も簡単ではないので、安易な気持ちで履修するのはおやめください。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A 2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舍利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んてくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

速水侑『日本仏教史 古代』（吉川弘文館、1986年）
末木文美士編『新アジア仏教史 11 日本 1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50%、毎回の出席確認の小テスト50%をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの2段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline and objectives】

Comparative study of ancient nations and society between Japan and China using temples

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 B 2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本と唐における仏教者による社会事業について比較研究する。(1) 唐の悲田養病坊、(2) 唐で学んだ日本の留学僧、唐から来日した僧、唐の影響を受けた日本の為政者、(3) 日本の悲田院とそれに類する施設を取り上げて説明する。

【到達目標】

古代の日本・唐において、僧尼や為政者が行った困窮者の救済事業、橋梁・宿泊施設など交通の整備などの社会事業の実情について理解する。また日本と唐でどのような継承関係や相違点があるのかを考える。そしてその内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	仏教と社会福祉事業の歴史、古代の日中関係の概観
2	道昭	入唐と玄奘への師事、帰国後の架橋と港の整備
3	行基	布施屋の設置
4	光明皇后	悲田院・施薬院の設置
5	鑑真	悲田と敬田、揚州での無捨大会
6	鑑真の関係者	普照の道路への果樹栽種提言、道忠の関東での布教
7	最澄	東国での布教、美濃での宿泊施設設置
8	空海	讃岐国満濃池の修築
9	則天武后	悲田養病坊の設置
10	武宗	廢仏と悲田養病坊のゆくえ
11	平安京の悲田院	平安時代の悲田院の活動と矛盾
12	地方の医療救済施設	武蔵・相模・筑前等の社会施設
13	日本と唐の社会事業の比較	日本・唐の類似点と相違点
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

新村拓『日本医療社会史の研究』（法政大学出版社、1985 年）
林陸朗『光明皇后』（吉川弘文館、1961 年）
石田瑞磨『鑑真』（大蔵出版、1974 年）
速水侑編『行基』（吉川弘文館、2004 年）
道端良秀『唐代仏教史の研究』（法蔵館、1957 年）
追塩千尋『国分寺の中世展開』（吉川弘文館、1996 年）
勝浦令子『七・八世紀の仏教社会救済活動』（『史論』54 集、2003 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline and objectives】

A comparative study of social services by Buddhists in Japan and the Tang Dynasty

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今も多くの米軍基地が集中する沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策やアジア・太平洋島嶼との関係、辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程などを学ぶ。沖縄は太平洋戦争の際に、日本軍による本土決戦の捨て石として住民を巻き込んだ地上戦を強いられ、県民の4人に1人が死亡する過酷な戦争被害を受けた。1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれたため、日本が抱える米軍基地の約7割が集中する状況に陥っている。沖縄について学ぶことで、米国のアジア戦略、日本と朝鮮半島や中国との関係、日本が将来的に目指すべき外交戦略の方向性が見えてくる。

【到達目標】

・日米安保体制下で米軍基地が集中する沖縄の現状や、戦後から現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
 ・辺野古の新基地建設など米軍の基地集中に反対する沖縄の民意が、どのように形成されてきたのかを理解する。
 ・沖縄の現状を通して、米国のアジア戦略、中国との対立構造、韓国や北朝鮮との関係性などを学び、アジアの中で日本が目指すべき外交戦略を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの感染拡大状況によるが、教室を使用できずにオンラインで授業を実施する場合は、本来の授業時間帯に合わせて会議システムの「Zoom」を使用し、双方向の授業を行う。その場合、授業時間中はカメラと音声をつなぐことを原則とするので、オンライン環境の整備が必要になる。特にグループディスカッションの際には必須。

毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求め、出欠判断の参考にする。期末試験の代わりにレポート提出を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業全体の流れを説明
2	沖縄の現状を学ぶ	戦後の沖縄の政治、経済、基地の状況についての概説
3	辺野古の新基地建設問題について	普天間飛行場の移設先となった辺野古の反対運動や歴史的な経緯
4	グループディスカッション	沖縄の基地問題の現状と辺野古について
5	普天間飛行場の移設と辺野古移基地建設が浮上した経緯	1995年の少女暴行事件を契機に起きた基地返還問題と、日米政府の思惑
6	日本復帰後の沖縄の政治の流れと「オール沖縄」の台頭	1972年の日本復帰後の歴代知事の取り組み、基地を巡る政治的な動き
7	沖縄戦の悲劇と実態	なぜ沖縄で地上戦が行われたのか。本土決戦の捨て石とされた理由

8	グループディスカッション	戦後に沖縄が置かれた立場と政治的な事情
9	沖縄を軍事基地化した米国の思惑	米国施政下の沖縄の状況と日本への復帰。基地集中と日米安保の背景
10	冷戦から現代までの米軍戦略の変化	時代ごとの米軍の戦略の変化、沖縄海兵隊の役割と実態
11	米軍の世界戦略と中国の台頭	中国の尖閣諸島への進出、米国のアジア戦略
12	朝鮮半島の諸問題	韓国、北朝鮮との間で積み残した戦後処理。朝鮮半島と日本の外交戦略
13	グループディスカッション	米国と日本、アジア諸国との関係性
14	まとめ	沖縄の実状から見る日本の外交戦略とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年

【参考書】

・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q&A Book」沖縄県発行
<http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（50%）
 期末レポート（50%）
 指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は全てオンラインによる授業だったため、学生同士の意見交換や相互交流が十分にできなかった。今期もオンラインによる授業が続く場合は、グループディスカッションなどを通じて、個々の学生の見方を紹介するなどして講師からの一方的な伝達ではなく、学生に自主的に考えさせる授業を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信社の社会部系記者として約30年を過ごした経験を生かし、現役のジャーナリストの視点による授業を目指す。昨年は米大統領選や沖縄県議選などの時事ニュースを盛り込み、日本のメディア事情にも言及した。

2014年から16年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、メディア業界に就職を希望する学生の支援活動に取り組んできた。最近では、ジャーナリストを目指す日本と韓国の学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回開催）の実行委員や、田中優子総長が編集委員を務める「週刊金曜日」と連携した学生向けの企画「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めている。

昨年は前期後期の授業だったが、今期は前期のみの課程のため、昨年の一年分の内容を半期に凝縮した内容となる。

【その他の注意事項】

①やむを得ない事情で欠席、遅刻する場合は、事前に理由を伝達すれば評価の際の考慮材料とする。
 ②事前連絡のない遅刻や途中退席、講義の進行や他の受講生の学習を妨げる行為には厳しく対処する。
 ③オンライン授業の場合、学生の姿が常時画面に映るよう、カメラオンを原則とする。どうしてもオンにできない場合は、事前に理由を伝えるよう求める。

【Outline and objectives】

Through the current situation and history of Okinawa, where many US military bases are still concentrated, we will learn about Japan's security policy, relations with the Asia-Pacific islands, and the process of forming the people's will of Okinawa against the construction of a new base in Henoko. During the Pacific War, Okinawa was forced into a ground battle involving residents as a waste stone of the "mainland decisive battle" by the Japanese army, and suffered severe war damage that killed one in four citizens of the prefecture. Since it was under the administration of the United States until it returned to Japan in 1972, about 70% of the US military bases in Japan are concentrated. By learning about Okinawa, we can see the direction of the US Asian strategy, the relationship between Japan and the Korean Peninsula and China, and the diplomatic strategy that Japan should aim for in the future.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】

沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。沖縄近現代史を確認しつつ、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、具体的にリサーチ、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。ハイブリッド型で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
2	「琉球処分」ー東アジア史の視点から	「琉球処分」について内容を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
3	近代沖縄の思想と文化	「同化」政策に対するアイデンティティーの模索と思想・文化について確認します。
4	沖縄戦ー住民虐殺・「集団自決」・マラリヤ強制疎開	沖縄戦への経緯と沖縄戦の特徴について国際関係史の視点から議論します。
5	占領とサンフランシスコ講和条約	占領政策とサンフランシスコ講和条約による戦後沖縄の状況について確認します。
6	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗する運動の展開について確認します。
7	施政権返還と密約	「沖縄返還交渉」における日米外交の問題を密約から考えます。
8	「世替わり」後の沖縄と戦争の記憶	施政権返還後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動から考えます。
9	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	教科書問題から戦争の記憶と継承について議論します。

- 10 沖縄の課題（2）：アジア・環太平洋の安全保障と在日米軍基地 沖縄の在日米軍基地について安全保障の観点より考えます。
- 11 沖縄の課題（3）：環太平洋の自然と環境か 環太平洋の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
- 12 沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み 沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認します。
- 13 沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える 「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決の試みと可能性を考えます。
- 14 レポート中間発表 リサーチレポートの内容について発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。レポート、レポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目—沖縄、占領の今—』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比取『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす—記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（30%）
レポート中間発表（20%）
リサーチレポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

感染症拡大状況に応じて、ハイブリッド型で行うため、ネット接続に対応したパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは授業前後の休憩時間、または、Eメール：
mizakiko@tsuda.ac.jp までご連絡ください。

【Outline and objectives】

This course is to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific, especially from the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879.

HIS300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住んでいて、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（ZOOMによるリアルタイム授業）を基本とします。本授業の開始日は4月9日とし、前日までにZOOMのURLを学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第1章：在日朝鮮人世界の形成。1～3（併合前から関東大震災まで）	学生によるテキストの報告、映像
4	第1章：在日朝鮮人社会の形成。4～6（植民地支配と日本への定着化）	学生によるテキストの報告、映像
5	第2章：協和会体制と戦争動員。1～3（世界恐慌期の渡航・移民。協和会）	学生によるテキストの報告、映像
6	第2章：協和会体制と戦争動員4～5（強制連行、強制労働）	学生によるテキストの報告、映像
7	フィールドワーク	「在日朝鮮人歴史資料館」見学

- 8 第3章：戦後在日朝鮮人社会の形成1（戦後在日朝鮮人の出発） 学生によるテキストの報告、映像
- 9 第3章：戦後在日朝鮮人社会の形成2、3（占領政策、朝鮮戦争と在日朝鮮人） 学生によるテキストの報告、映像
- 10 第3章：戦後在日朝鮮人社会の形成4（帰国運動） 学生によるテキストの報告、映像
- 11 第4章：2世たちの模索1（日韓会談と在日社会） 学生によるテキストの報告、映像
- 12 第4章：2世たちの模索2～4（在日社会の変容） 学生によるテキストの報告、映像
- 13 終章：グローバル化の中の在日朝鮮人 学生によるテキストの報告、映像
- 14 まとめの討論 在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人 歴史と現在』（岩波新書）860円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Wifi環境

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住んでいて、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。春学期開講の「在日朝鮮人の歴史A」を履修していることが望ましい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（ZOOMによるリアルタイム授業）を基本とします。授業形態に変更のある場合は、その都度、学習支援システムを通じて連絡します。初回授業日の前日までに、ZOOMのURLを学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

本授業は、ゼミ形式で進めます。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在、ひいては地球規模で展開するさまざまなコリアンの姿について、春学期に学習した基礎事項をもとに、テキストの内容をレポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。グローバル時代のコリアン活躍と苦悩は、日本を照らす鏡でもある。春学期よりも、さらに掘り下げた内容の報告と討論を行っていく。理解を補う補助資料として、随時、映像資料も視聴しながら進める。参加型授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアンと芸能界、スポーツ界のニューヒーローたち	学生によるテキストの報告、映像
3	在日コリアンと焼き肉文化	学生によるテキストの報告、映像
4	在日コリアンの民族教育	学生によるテキストの報告、映像
5	フィールドワーク	二八独立宣言記念碑、韓国YMCA
6	在日コリアンとパチンコ産業	学生によるテキストの報告、映像
7	在米コリアンの社会史	学生によるテキストの報告、映像

8	ベトナム戦争とコリアン	学生によるテキストの報告、映像 ン
9	まとめ①	映像（1）
10	済州島と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像
11	大震災と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像
12	在日コリアンとスポーツ選手	学生によるテキストの報告、映像
13	まとめ②	映像（2）
14	まとめの討論	在日コリアンの将来と日本社会の 課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナをよく張ってこくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野村進『コリアン世界の旅』（講談社文庫）885円。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50%、プレゼンテーション・期末レポート 50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017年度以降入学者

酒井 健

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教の思想の変遷をその源であるユダヤ教から順次理解する。時代背景、歴史的背景をしっかりとおさえる。

【到達目標】

キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。信仰への道を説くのが授業の狙いではない。あくまで一つの宗教として、その特徴を、問題点も含めて冷静に考えていく。

とりわけ以下の3点に留意する。

- 1) キリスト教とユダヤ教の相違を理解する。
- 2) 古代ローマの都市文明と初期キリスト教の関係を理解する。
- 3) 古代ローマ末期におけるキリスト教と異教の関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1) 講義形式。
- 2) 毎回、授業の終わりの20分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。
- 3) 定員の20名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。
- 4) 今年度の開校日は4月12日月曜日（3時限）とする。原則として教室での対面授業を予定しているが、社会状況に応じてオンラインでのズーム授業に転じる場合もある。
- 5) なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。また優れた課題回答に対しては授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教を学ぶことの意義を中心に。定員超過の場合は選抜を行う。
第2回	ユダヤ教から	一神教の成り立ち。キリスト教の源流であるユダヤ教に立ち返って考察する。
第3回	ユダヤ教の特色	ユダヤ教の独自性（一神教と多神教の違いなど）
第4回	イエスとその時代	イエスの時代のユダヤ教（1）（律法主義に対するイエスの批判）
第5回	イエスの活動の意義	イエスの時代のユダヤ教（2）（神殿主義に対するイエスの批判）
第6回	イエスの死	イエスの処刑（イエスが十字架刑に処された理由）
第7回	残された人々	イエスの死と使徒の考え方（1）（使徒とエルサレム初期共同体）
第8回	パウロの解釈	イエスの死と使徒の考え方（2）（パウロの「十字架の神学」）

第9回	古代ローマ帝国	古代ローマ帝国とキリスト教 (1) (ユダヤ教改革派からキリスト教の誕生へ)
第10回	聖書はなぜ書かれたか	古代ローマ帝国とキリスト教 (2) (聖書の誕生)
第11回	キリスト教徒はなぜ増えたのか	古代ローマ帝国とキリスト教 (3) (信者の増加と迫害)
第12回	大帝の決断	古代ローマ帝国とキリスト教 (4) (コンスタンティヌス大帝の政策)
第13回	国教化へ	古代ローマ帝国とキリスト教 (5) (キリスト教の国教化とローマ教会の組織力)
第14回	試験、まとめ	今学期の授業内容の復習を兼ねて 論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キリスト教関係の新書を読んでおくこと。

授業で紹介したテーマについて基本的な歴史書にあたって復習しておくこと。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

。

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業内で詳しく紹介する。

『キリスト教の真実』（竹下節子著、ちくま新書）

『ロマネスクとは何か 石とぶどうの精神史』（酒井健著、ちくま新書）

『一神教の誕生 ユダヤ教からキリスト教へ』加藤隆著、講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

1) キリスト教の源からその初期の発展に関して、学問的に本質的な点を捉えられたかどうかを評価の基準にする。

2) 具体的には「到達目標」で示した3点をしっかり理解しておくこと。

3) 期末の論述試験 50%と授業への積極的な貢献度 50%（毎回論述する課題の内容等）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。受講生からの要望には耳を傾けているので、いつでも気軽に語ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

1年生のときに宗教論の授業を取っておくことが望ましいが、必要条件というわけではない。

【Outline and objectives】

This course introduces the Christian history from the Judaism to the Western Europe Middle Ages.

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017年度以降入学者

酒井 健

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

法文営国環キ2~4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教思想の変遷を中世西欧社会から順次理解する。歴史的背景をしっかりとおさえる。

【到達目標】

キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。中世西欧社会からイタリア・ルネサンス社会がとくに対象になる。とりわけ以下の3点に留意する。

- 1) 中世ヨーロッパにおけるキリスト教の基本的な特色を理解する。
- 2) ロマネスクとゴシックの異同をしっかりと理解する。
- 3) イタリア・ルネサンス時代のキリスト教の新たな展開を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1) 講義形式。
- 2) 毎回、授業の終わりの20分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述3を書かせる。その意味でハードな授業になる。
- 3) 定員の20名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。
- 4) 今年度の開校日は9月20日月曜日（3時限）とする。原則として教室での対面授業を予定しているが、社会状況に応じてオンラインでのズーム授業に転じる場合もある。
- 5) なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。また優れた課題回答に対しては授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教思想を学ぶことの意義を中心に。
第2回	中世西欧とは何か	中世西欧に対する基本的な考え方。
第3回	根源的な変化と表面的な変化	古代ローマ社会から初期の中世社会への移行。
第4回	キリスト教と修道院	修道士の活躍 (1) (禁欲主義の問題)
第5回	新たなキリスト教へ	修道士の活躍 (2) (アイルランド系修道院と修道士の特徴)
第6回	政治からの変化	カロリング・ルネサンス (シャルルマーニュ大帝のキリスト教政策)
第7回	イスラムとの関係	イスラム世界との接触 (1) (西ゴート王国の滅亡とイベリア半島のキリスト教)
第8回	十字軍とは何か	イスラム世界との接触 (2) (十字軍の問題)
第9回	開花する中世西欧文化	ロマネスク文化 (1) (西欧の地方へのキリスト教の伝播)

第10回	修道院の拡大	ロマネスク文化(2)(クリュニー会とシトー会)
第11回	ゴシックとは何か	ゴシック文化(1)(新都市住民の感性と新たな大聖堂建築)
第12回	中世神学の本質	ゴシック文化(2)(光の神学)
第13回	イタリアから	イタリア・ルネサンスの文化(キリスト教と芸術家)
第14回	試験、まとめ	今学期の内容の復習をかねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1) 基本的な入門書を読んでおいてほしい。

たとえば

『世界の歴史(9)、ヨーロッパ中世』 鯖田豊之著、河出文庫など

2) 本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業のなかで詳しく紹介する。

『ゴシックとは何か』 酒井健著、ちくま学芸文庫など。

【成績評価の方法と基準】

1) 中世におけるキリスト教の発展を学問的にどれだけ捉えたかを基準にする。

2) 身体的には「到達目標」で示された3点の理解度を重視する。

3) 学期末の論述試験50%と平素の授業態度(毎回提出の論述の内容など)50%が具体的なデータになる。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。要望があれば気軽に伝えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

春学期のこの授業の履修を勧めたい。

【Outline and objectives】

This course introduces the Christian history in the Western Europe Middle Ages.

ARSh300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル:

江村 裕文

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

【概要】アラビア語の基礎。具体的には、アラビア文字の習得。簡単な挨拶表現・自己紹介程度のアラビア語を話す。

【目的】アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」を身近に感じることになること。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、発音・文字(母音・子音)、綴り方、単語(名詞・形容詞・動詞)、その変化形(つまり曲用と活用)、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

なお、よかった取り組みや改善点等があれば、その都度、テーマとして取り上げ、フィードバックしていきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 発音と文字 1	テキストの紹介、アラビア語に関する解説の後、発音と文字について学ぶ。 発音にはあまりこだわらないが、音韻の区別は理解すること。
2	発音と文字 2	アルファベットの前半の文字を学ぶ。
3	発音と文字 3	アルファベットの後半の文字を学ぶ。
4	テキストの紹介 第0課	テキストのつくりについて解説する。
5	第1課	文字と発音のおさらい
6	第2課	こちらはムハンマドさんです
7	第3課	これは何ですか 彼は教師ですか、それともエンジニアですか
8	第4課	あなたのお名前は?
9	第5課	天気はどうですか
10	第6課	アラビア語は美しく、楽しいです
11	第7課	この作家は有名です
12	第8課	その本は机の上にあります
13	第9課	彼はサウジアラビア出身です

14 授業内試験 「あいさつ」「名詞文」「形容詞文」
についてアラビア語の作文を課す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5月の連休終了までに文字を覚えること。授業の予習としては、最低限どのような文法事項を学ぶことになっているのかは確認しておくこと。少なくとも2時間程度の復習は必ず行い、疑問点等のないようにしておくこと。少しでもわからないところがあるとついでいくのは不可能になります。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、竹田敏之『アラビア語とことんトレーニング』白水社を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期は、平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

普段あまり接しない言語を知ることは、人間の言語に対してのみならず、人間の思考そのものや文化のありかたを考えるうえで非常に参考になります。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is an official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Arabic Culture.

ARSh300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】アラビア語の基礎。具体的には、名詞・形容詞・前置詞・動詞の曲用・活用。辞書の使い方。

【目的】アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」の概要を把握すること。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

普段あまり触れない言語の学習を通じて発見があった等の知見は、広く紹介し、学習のモチベーションに資するよう利用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	辞書 1	辞書の引き方を紹介する
2	辞書 2	辞書の引き方を訓練する
3	第10課・第11課	私は日本人です 駅はここから遠いですか
4	第12課・第13課	このカバンは誰の？ 神戸には美しいモスクがあります
5	第14課・第15課	あなたには兄弟か姉妹がいますか ムハンマドがガイドをたいた
6	第16課・第17課	私はあなたを愛しています この2人の通訳はプロです
7	第18課・第19課	この町にはたくさんの大学があります 彼らはサウジアラビア出身の先生方です
8	第20課・第21課	これらのカバンはユースフのですか ここにモロッコ料理店はありますか
9	第22課・第23課	ムハンマドは学生ではありません ムハンマドは学生でした
10	第24課・第25課	私はその車の色が好きです 5冊の本を買いました

11	第27課・第28課	私たちはカイロ大学で学びました飛行機は到着しましたか
12	第29課・第30課	誰がこの料理を作ったのですかフェズまで列車に乗りました
13	第32課・第33課	どちらにお住まいですかお仕事は何をしていますか
14	まとめとレポート提出	アラビア語の動詞のまとめ（p. 88-97）とレポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期からは、動詞の変化形に入ります。各授業ごとに2時間以上をあてて完全にマスターしてください。単純な形の間に、基本的な動詞の活用形を覚えておけば、応用の仕方がわかりますが、覚えておかないと、どんどん迷路に迷い込むことになっていきます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、竹田敏之『アラビア語とことんトレーニング』白水社を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、平常点40点、レポートの得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

全員にとって有効であるようなコメントや質問等は、積極的に活用し、学習モチベーションに資するようにフィードバックしていきます。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Arabic Culture.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 A 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

法文営国環キ2~4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1~3回目は、講義形式。第14回目は期末試験を行う。
- ・第4~13回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・Google Classroom と ZOOM を使って授業を行う。
- ・連絡や課題/試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第2回	ステレオタイプ①	・日本と日本人のイメージ ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ②	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響
第4回	文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつの色があるのか。 太陽は世界のどこでも赤いのか。
第5回	カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第6回	文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第7回	日本語と外国語①	・「日本語は曖昧」か？ ・コンテキスト依存度

第 8 回	日本語と外国語②	・人稱 ・指示詞 ・感情の表現
第 9 回	言語政策	・母語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育は必要か
第 10 回	日本語の表記について	・ラジオ型言語とテレビ型言語 ・文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・音声言語としての日本語と他言語との比較
第 11 回	日本人の宗教観	・無神論・一神論・多神論
第 12 回	住居と自然	・自然との関わり／自然との共存
第 13 回	日本の「文化多様性」	・マイノリティ問題 ・グローバル化と固有文化の維持
第 14 回	期末試験	・第 1～14 回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでもおくこと。
・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は 5 時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は 60 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書
G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 20%
発表 30%
リアクションペーパー 20%
期末試験 30%
・4 回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。

・ZOOM M 授業内の発表には PC が好ましい。

★事前に、ゲーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：nzc7p5s

★タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

★受講希望者数によっては、第 1 回目（4 月 12 日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第 1 回目に必ず出席すること。

★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻りにチェックすること。

【Outline and objectives】

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 B 2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。
★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②] 異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・第 1・2 回目と第 10 回は対面授業。第 1・2 回目は、講義と教室内活動中心。

・第 3～13 回は、指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。

・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

・オンライン授業は、Google Classroom と ZOOM を使って行う。

連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	・オリエンテーション (対面) ・文化と異文化間コミュニケーション	(・授業運営の打ち合わせと受講者アンケート) ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第 2 回	自分を知る (対面)	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	ステレオタイプ	・ステレオタイプとは ・ステレオタイプの生成、功罪、真偽。強化 ・ステレオタイプの流布 と強化など (学生発表と質疑応答。以下 13 回まで)
第 4 回	コミュニケーション・スタイル①	・コンテキスト
第 5 回	コミュニケーション・スタイル②	・ターンテークング ・パラ言語

第6回	言語コミュニケーション①	・ほめ方 ・しかり方 ・謝り方
第7回	言語コミュニケーション②	・自己紹介と自己開示 ・誘い方と断り方
第8回	非言語コミュニケーション①	・表情 ・アイコンタクト
第9回	非言語コミュニケーション②	・しぐさとジェスチャー ・タッチング
第10回 (対面)	非言語コミュニケーション③	空間と対人距離
第11回	非言語コミュニケーション④	時間感覚
第12回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観などの基本的価値観
第13回	・異文化コミュニケーションスキルと異文化適応	・異文化コミュニケーションスキル ・カルチャーショックと適応
第14回	期末試験	第1回～第13回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・「自由討論」前は、テーマの設定、およびそのテーマに関する情報収集など。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
E. ホール『沈黙のこぼれ-文化・行動・思考』南雲堂
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 20%、発表 30%、リアクションペーパー 20% 期末試験 40%
・授業を4回以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

・一昨年に続き、グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

★インターネット接続可能な機器：PC/タブレット端末/スマホ
・ZOOM 授業内の発表にはPCが好ましい。
・タブレット端末やスマートフォン使用の場合は、授業実施開始前にZOOMのアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

★受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻りにチェックすること。
・履修が決定したら、Google Classroom に登録すること。

【Outline and objectives】

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。
現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考え、新たな視点を得ます。
春学期のテーマは他者論です。わたしにとって他者とはなにかについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。
春学期は他者とはなにかについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。
この授業はオンデマンドです。授業開始時刻に公開されるパワーポイントを視聴し、プリントを読み、各回の課題に答える形式で進めていきます。
教員の講義が中心になりますが、各自の問題意識に基づく自由かつ活発な研究を期待します。
各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	他者と自己	白樺派にとっての他者とはどういうものか
3	他者とはなにか	武者小路実篤『友情』
4	他者とはなにか	志賀直哉「城の崎にて」
5	「大導師伸介の半生」 導入——芥川龍之介の生涯	「大導師信輔の半生」
6	他者へのまなざし	「大導師信輔の半生」
7	人工の翼と失墜	「大導師信輔の半生」
8	芥川龍之介から太宰治へ	「人間失格」
9	他者へのまなざし	『人間失格』
10	自意識と他者	『人間失格』
11	吉本隆明について—— 導入	『転位のための十篇』
12	他者へのまなざし	『転位のための十篇』
13	近代文学を貫く、他者への恐怖	『転位のための十篇』

- 14 他者論のアクチュア 半期の総ざらい・結論
 リー——他者と自己を
 どうとらえるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

武者小路実篤『友情』（新潮文庫 など当該作品の収録されているもの）
 志賀直哉「城の崎にて」（『小僧の神様・城の崎にて』新潮文庫 など当該作品の収録されているもの）
 芥川龍之介「大導師仲介の半生」（『大導師信輔の半生・手巾・湖南の扇 他十二篇』岩波文庫 など当該作品の収録されているもの）
 太宰治『人間失格』新潮文庫ほか
 吉本隆明『転位のための十篇』（『吉本隆明初期詩集』講談社文芸文庫 など当該作品の収録されているもの）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味に応じて授業計画の変更もあります。意見をメールで伝えてください。

【その他の重要事項】

- ※ 春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。
- ※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroom などで公開されます。
- ※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
- ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まづググりましょう。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。
 現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考え、新たな視点を得ます。
 秋学期のテーマはテロリズム論です。テロリズムの原型、根底にあるものについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。
 秋学期はテロリズムの原型、根底にあるものについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。
 この授業はオンデマンドです。授業開始時刻に公開されるパワーポイントを視聴し、プリントを読み、各回の課題に答える形式で進めていきます。
 教員の講義が中心になりますが、各自の問題意識に基づく自由かつ活発な研究を期待します。
 各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	導入	『供犠』
3	供犠とはなにか	『供犠』
4	放棄と交換	『供犠』
5	贈与とはなにか	『贈与論』
6	贈与と放棄と交換	『贈与論』
7	供犠とテロリズム	『贈与論』
8	宮澤賢治について——導入1	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
9	宮澤賢治について——導入2	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
10	常不軽菩薩と賢治	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
11	賢治におけるデクノポーの意味	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
12	〈ほんたうのさいはひ〉とはなにか	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
13	他者論とテロリズム論	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」

- 14 『供儀』のアクチュア 年間の総ざらい・結論
 リー——他者と自己を
 どうとらえるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

モース／ユベール『供儀』法政大学出版局
 モース『贈与論 他二篇』岩波文庫
 宮澤賢治
 「グスコブドリの伝記」「慶十公園林」「気のいい火山弾」
 『童話集 風の又三郎 他十八篇』岩波文庫 ほか

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味に応じて授業計画の変更もあります。意見をメールで伝えてください。

【その他の重要事項】

- ※ 春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年で受講を強く推奨します。
- ※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時間に、学習支援システム、Google Classroom などで公開されます。
- ※ メール（大学のアカウント）は、頻りにチェックしてください。
- 2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
- ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まづググりましょう。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

HIS300LA

イギリスと帝国 A

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀から 20 世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。植民地支配の過去は、現在の世界にも影響を及ぼし続けている。21 世紀の世界における、英語の普及、地域間の経済格差、異人種・異文化間の対立といった問題の多くは、イギリス帝国の歴史を考へることなしに理解することはできない。イギリス帝国に着目して、イギリスとそれ以外の地域の関係、および、過去と現在の関係を考へること、これがこの授業の目的である。

【到達目標】

- ・イギリス帝国の歴史とその特徴についての基本事項を理解する。
- ・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づく（英語の資料を使用する場合もある）ディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	20 世紀初頭までのイギリス帝国 1：アメリカ植民地の独立まで	18 世紀末までのイギリス帝国の展開を概観する。
第 3 回	20 世紀初頭までのイギリス帝国 2：南アフリカ戦争の時代まで	18 世紀末から 20 世紀初頭までのイギリス帝国の展開を概観する。
第 4 回	イギリス帝国と統治 1：統治体制	イギリスがどのように帝国を統治していたのかを学ぶ。
第 5 回	イギリス帝国と統治 2：帝国を統治した人々	帝国を統治した人々された技法を学ぶ。
第 6 回	イギリス帝国と経済 1：商業と金融	帝国の経済基盤を商業と金融の観点から学ぶ。
第 7 回	イギリス帝国と経済 2：移民と労働	帝国を支えた移民とその労働形態を学ぶ。
第 8 回	イギリス帝国と文化 1：支配の文化、文化の支配	イギリス人の支配者意識と文化を通じた支配について学ぶ。
第 9 回	イギリス帝国と文化 2：批判の文化	帝国支配を批判する文化とその同時代における意義を学ぶ。
第 10 回	帝国からコモンウェルスへ 1：コモンウェルスの成立と二つの大戦	コモンウェルスが成立する過程を学ぶ。

第 11 回	帝国からコモンウェルスへ 2：帝国＝コモンウェルスの変容と脱植民地化	脱植民地化を通じた帝国＝コモンウェルスの変容を学ぶ。
第 12 回	脱植民地化の時代 1：脱植民地化の諸相	脱植民地化の多様な形態とその影響を学ぶ。
第 13 回	脱植民地化の時代 2：植民地責任	現在のイギリスと旧植民地が帝国支配の過去をどうとらえているのかを学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004～2009 年

秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012 年
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %

・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the 21st century. It analyzes various aspects of British imperial history, considering how Britain constructed varied relationships with other regions and how the past of imperial rule has affected former colonies as well as Britain herself.

HIS300LA

イギリスと帝国 B

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南アフリカ戦争（1899～1902）は、帝国主義戦争の典型ともいわれ、イギリス本国、南アフリカ、イギリス帝国全体に大きな影響を及ぼした。この授業では、南アフリカ戦争に焦点をあて、それをさまざまな角度から分析することを通じて、その歴史的意義を考察したい。そうすることで、イギリスとその帝国の歴史の一断面を、重層的な文脈に位置づけて理解することを目指す。

【到達目標】

・南アフリカ戦争という歴史的事象を、さまざまな歴史の文脈に照らして考察する歴史的思考力を身につける。

・具体的なテーマを素材に歴史学を「実践」することで、その方法や問題、意義などを体験的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づく（英語の資料を使用する場合もある）ディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。なお、春学期に開講する「イギリスと帝国 A」を事前に履修することを強く勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	南アフリカ戦争の概要	戦争の背景と展開を概観する。
第 3 回	南アフリカ戦争の起源	開戦の原因とそれをめぐる論争について考える。
第 4 回	南アフリカ戦争の経験 1：兵士と帝国臣民	兵士と帝国の人々が戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 5 回	南アフリカ戦争の経験 2：女性たち	女性たちが戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 6 回	南アフリカ戦争の経験 3：アフリカ人	アフリカ人が戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 7 回	南アフリカ戦争とイギリス本国 1：帝国意識	イギリス本国の戦争支持の世論と帝国意識の観点から考える。
第 8 回	南アフリカ戦争とイギリス本国 2：親ボアア派	イギリス本国の戦争批判の世論と親ボアア派に着目して考える。
第 9 回	南アフリカ戦争の影響 1：イギリス	戦争がイギリス本国に与えた影響を学ぶ。
第 10 回	南アフリカ戦争の影響 2：南アフリカ	戦争が南アフリカに与えた影響を学ぶ。
第 11 回	南アフリカ戦争の影響 3：帝国	戦争がイギリス帝国と他の植民地に与えた影響を学ぶ。

- 第12回 世界史のなかの南アフリカ戦争 戦争を同時代の世界史の文脈に位置づけて考える。
- 第13回 南アフリカ戦争の歴史的意義 南アフリカ戦争の意義をさまざまな歴史的な文脈に即して考える。
- 第14回 まとめ 授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年（とくに第1巻と第2巻）
 前川一郎『イギリス帝国と南アフリカ—南アフリカ連邦の形成』ミネルヴァ書房、2006年
 歴史学研究会編『強者の論理—帝国主義の時代』（講座世界史5）東京大学出版会、1995年
 木畑洋一『支配の代償—英帝国の崩壊と「帝国意識」』東京大学出版会、1987年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This course examines the South African War (1899-1902) from multiple perspectives. In doing so, it considers significance and impact of this great colonial war the British empire had even fought. It also aims to provide students with opportunities to experience practice of historical research first hand, through which they can learn methodology, problems, and importance of 'doing history'.

LAW300LA

法哲学 A

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。履修人数は25人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じてZoom等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中で小論文作成等の課題を受講生に課し、その内容を授業の中で検討したり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。内容的には、法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差や差別といった現代社会の具体的問題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第2回	法哲学を学ぶにあたって1	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何かの概説
第3回	法哲学を学ぶにあたって2	「もしも法がなかったら？」を考える

第4回	法哲学を学ぶにあたって3	「もしも法がなかったら？」に関する討論
第5回	格差・不平等問題1	基礎知識と論点の解説
第6回	格差・不平等問題2	論点と問題点の検討・討論
第7回	格差・不平等問題3	理論的立場の整理
第8回	法と道徳1	基礎知識と論点の解説
第9回	法と道徳2	具体的事例の検討
第10回	復興増税1	基礎知識と論点の解説
第11回	復興増税2	論点と問題点の検討・討論
第12回	人工妊娠中絶1	基礎知識と論点の解説
第13回	人工妊娠中絶2	論点と問題点の検討・討論
第14回	人工妊娠中絶3	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を踏まえ、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）

内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007年）

内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合80％程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合20％程度を予定）、上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は25人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学A」受講者には、秋学期の「法哲学B」の履修を優先的に認める。）あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

LAW300LA

法哲学 B

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。

この授業では、春学期（法哲学A）・秋学期（法哲学B）を通じて受講人数に25人の制限を設けており、春学期初回に受講者選抜を行っているところ、受講にあたっては、春学期の「法哲学A」の受講者を優先する。「法哲学A」を受講していない学生については、春学期の受講者に欠員が出た場合にのみ受講を認めるので、該当する受講希望者は初回授業に必ず出席し、教員の指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じてZoom等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中で小論文作成等の課題を受講生に課し、その内容を授業の中で検討したり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、春学期の「法哲学A」からの継続で、法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、婚姻制度や代理出産といった現代社会の具体的問題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第2回	臓器売買の是非1	基礎知識と論点の解説
第3回	臓器売買の是非2	理論的立場の整理

第4回	臓器売買の是非3	論点と問題点の検討・討論
第5回	裁判員制度の法哲学的 検討1	基礎知識と論点の解説
第6回	裁判員制度の法哲学的 検討2	理論的立場の整理
第7回	裁判員制度の法哲学的 検討3	論点と問題点の検討・討論
第8回	一夫一婦制と契約婚1	基礎知識と論点の解説
第9回	一夫一婦制と契約婚2	理論的立場の整理
第10回	一夫一婦制と契約婚3	論点と問題点の検討・討論
第11回	代理出産規制の是非1	基礎知識と論点の解説
第12回	代理出産規制の是非2	理論的立場の整理
第13回	代理出産規制の是非3	論点と問題点の検討・討論
第14回	総括	秋学期中の重要論点の補足解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を踏まえ、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）

内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007年）

内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合80％程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合20％程度を予定）上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

この授業では、春学期（法哲学A）・秋学期（法哲学B）を通じて受講人数に25人の制限を設けており、春学期初回に受講者選抜を行っているところ、受講にあたっては、春学期の「法哲学A」の受講者を優先する。「法哲学A」を受講していない学生については、春学期の受講者に欠員が出た場合のみ受講を認めるので、該当する受講希望者は初回授業に必ず出席し、教員の指示に従うこと。その点を含めて、初回授業にて受講者の確定を行うので、春学期の「法哲学A」受講者を含めて、履修希望者は初回授業に必ず出席すること。人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

POL300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：戦争と国家

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代国家と戦争の関係について歴史的に考察することを目的とする。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：
近代国家の発展と戦争の形態の変化に関する基本的な知識を得ること
国家と戦争の関係の歴史的变化に関する基本的な知識を得ること
将来の国家と戦争の変化、今後の両者の関係の変化について考察すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。

対面授業とオンライン授業のハイブリッドで行う予定です。

対面授業実施に関しては、受講生の皆さんと話し合いで行うかどうかを決めます。

参加人数によっては、一対一のチュートリアル方式で行いたいと思っています。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

課題に対するフィードバックは演習時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
#1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
#2	文献講読と議論：近代国家	近代国家の形成と戦争との関係について扱う
#3	文献講読と議論：近代国家	近代的権力の特徴について扱う
#4	文献講読と議論：第一次軍事革命	第一次軍事革命の特徴について扱う
#5	文献講読と議論：第二次軍事革命と国家	第二次軍事革命と国家の関係について扱う
#6	文献講読と議論：フランス革命とナポレオン戦争	フランス革命とナポレオン戦争の特徴について扱う
#7	文献講読と議論：19世紀のヨーロッパ国際政治	19世紀のヨーロッパ国際政治における「平和」
#8	文献講読と議論：全体戦争としての第一次世界大戦	全体戦争としての第一次世界大戦について扱う
#9	文献講読と議論：全体戦争としての第二次世界大戦	全体戦争としての第二次世界大戦について扱う
#10	文献講読と議論：冷戦と国家	冷戦の特徴と冷戦時代の国家について扱う
#11	文献講読と議論：ゲリラ戦争と革命（1）	中国革命と人民戦争論について扱う

- #12 文献講読と議論：ゲリ パレスチナ革命について扱う
ラ戦争と革命（2）
- #13 文献講読と議論：冷戦 冷戦後の紛争について扱う
後の世界
- # 14 総括 ゼミのまとめと提出されたレポート
に対する講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと、新聞などメディアを通じて情報を得ること、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを2時間程度行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミの内容の確認と復習を兼ねたペーパーの提出（50％）；
テーマに関する自己の考えを示す期末レポートの提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートなし

【その他の重要事項】

ゼミの内容・扱う文献に関しては、受講者の要望を最大限に尊重するつもりです。

シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）第1章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline and objectives】

Theme: War and State

The fundamental aim of this seminar is to acquire a basic knowledge of interaction between war-making and state-making.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：疫病、国家、宗教

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィリアム・マクニール著『疫病と世界史』を読んで、疫病と国家と宗教の関係を歴史的に考察することを目指す。
現代世界のパンデミックを過去のパンデミックと比較して考察することを目指す。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：

文明世界の誕生から現在に至る、疫病と国家（政治）と宗教の間の相互関係の歴史を学ぶことによって、感染症が人類の歴史に与えた影響と今後の展望について考えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。

対面授業とオンライン授業のハイブリッドで行う予定です。

対面授業実施に関しては、受講生の皆さんと話し合いで行うかどうかを決めます。

参加人数によっては、一対一のチュートリアル方式で行いたいと思っています。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

課題に対するフィードバックは演習時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
#1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
#2	文献講読と議論：3	ミシェル・フーコーの3つの疫病 つの疫病 モデルについて扱う
#3	文献講読と議論：人類	『疫病と世界史（上）』第1章 の誕生と疫病
#4	文献講読と議論：都市	『疫病と世界史（上）』第2章の前 半の誕生と疫病
#5	文献講読と議論：都市	『疫病と世界史（上）』第2章の後 文明と疫病 半
#6	文献講読と議論：4	『疫病と世界史（上）』第3章の前 つの文明世界と疫病 半
#7	文献講読と議論：疫病	『疫病と世界史（上）』第3章後半 と宗教
#8	文献講読と議論：文明	『疫病と世界史（下）』第4章の前 間の交流と疫病 半
#9	文献講読と議論：モン	『疫病と世界史（下）』第4章の後 ゴル帝国の平和と黒死 病 半
#10	文献講読と議論：黒死	『疫病と世界史（下）』第5章の前 病後の世界 半
#11	文献講読と議論：新大	『疫病と世界史（下）』第5章の後 陸における疫病 半

- # 12 文献講読と議論：科学 『疫病と世界史（下）』第6章の前半の発展と疫病
 # 13 文献講読と議論：現代 『疫病と世界史（下）』第6章の後の疫病
 # 14 総括 ゼミのまとめと提出されたレポートに対する講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと、新聞などメディアを通じて情報を得ること、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを2時間程度行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ウィリアム・H・マクニール『疫病の世界史（上）（下）』（中公文庫）

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミの内容の確認と復習を兼ねたペーパーの提出（50％）；テーマに関する自己の考えを示す期末レポートの提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ゼミの内容・扱う文献に関しては、受講者の要望を最大限に尊重するつもりです。

シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）第1章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline and objectives】

Theme: Relations between Plague, State and Religion

The fundamental aim of this seminar is to consider the relations between plague, state and religion.

SOC300LA

福祉社会論 A

2017年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉の基本的な考え方を学ぶとともに福祉の領域とされている社会問題、なかでも障害者にかかわる諸問題を取り上げ、講義形式で学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業期間中にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーの内容は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを構想するとともに、社会による福祉とはどういったものなのか、政府以外の福祉の供給源、具体的には家族や企業などに目配りをしながら考察し、最終的には社会福祉をメタ的な視点から捉える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主として講義形式で行う。授業後にリアクションペーパーを提出する。質問はメールで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	福祉とは何か
2	必要の考え方と必要に基づく社会政策	必要と需要、貢献原則と必要原則
3	必要の基準と主体	必要判定、客観的な必要と主観的な必要
4	資源の供給と再分配	資源供給モデル、普遍主義と選別主義
5	官僚制と専門主義	官僚制の機能と逆機能、専門家の理念系
6	社会政策とその体系	公共政策の3分類
7	福祉の社会的分業	税制、企業の役割、福祉多元主義
8	福祉国家と社会変動	都市化、家族の失敗、高齢化
9	福祉国家の発展と展開	市民権の発達、福祉国家レジーム
10	福祉と科学技術	介護ロボット、身体能力の補完、エンハンスメント
11	障害の概念と社会制度	障害に関わる制度と多様な見方
12	障害者運動と生命倫理	優生思想、自立生活運動
13	障害者と学び	障害学生を取り巻く状況と当事者の語り
14	社会的包摂に向けて	ノーマライゼーション、アクティベーション、福祉国家と福祉社会の連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている今回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『福祉社会 包摂の社会政策（新版）』武川正吾 有斐閣アルマ（2011年）2,300円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013年）、『社会福祉学』平岡紘一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011年）、DIPEX-Japan「障害学生の語り」<https://www.dipex-j.org/shougai/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

100分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

Using the textbook, resumes distributed at class, and literature, students will learn the basic concepts of social welfare and will take up social issues in the field of welfare, particularly those related to people with disabilities, and study them in a lecture format. In addition, students will be required to submit reaction papers in order to consolidate and apply what they have learned. The content of the submitted reaction papers will be fed back to the class as appropriate, keeping personal information in mind.

SOC300LA

福祉社会論 B

2017年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉、とくに子ども家庭福祉について学ぶ。主に講義形式をとり、可能な限り対面を想定しているが、状況によっては一部もしくはすべての授業がオンデマンド形式になる可能性もある。学習内容の定着と応用を目的として、リアクションペーパーあるいは小課題を提出する。提出された課題は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、子どもにかかわる問題群を把握し、そうした問題に対して国家や社会はどのように取り組んでいるのか、基本的な知識を身につける。その上で、子ども家庭福祉の全体像を理解し、人間が育つ過程における社会福祉の役割と意義について考える、説明できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主として講義形式で行う。授業後にリアクションペーパーを提出する。質問はメールで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	子どもの福祉を考えるとということ
2	子どもの福祉の歴史	前近代から現代、日本の子どもの福祉
3	子どもの権利・福祉・法制度	子どもの権利条約、児童福祉法
4	生命倫理と母子保健	母子保健の概要、優生保護法
5	少子化対策と子育て支援	子ども数の減少、子育て家庭への経済的支援、ネウボラ
6	現代における保育とは	保育・子育て支援ニーズ、社会福祉における保育
7	学齢期の子どもの教育と福祉	児童健全育成事業、外国籍の子どもと家族への対応
8	障害と子ども・家族	障害のある子どもと家族、ヤングケアラー
9	子ども虐待	子ども虐待に対応する制度、虐待予防
10	女性と福祉	ドメスティックバイオレンス、女性の貧困
11	社会的養護	社会的養護のかかわる施設、施設養護から家庭養護へ
12	子ども・家族の貧困	子育て家族の貧困とその背景、子どもの貧困対策法
13	ひとり親家族の福祉	ひとり親家庭とその現状、子どもにとっての養育費施策
14	子ども家庭福祉の実践	子ども家庭福祉の専門職、ボランティア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジюмеに書かれている次回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジюмеの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『子ども家庭福祉－子ども・家族・社会をどうとらえるか』垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編（2020年）2,200円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013年）、『社会福祉学』平岡絃一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（5回の課題）、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

100分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

This course will focus on social welfare, especially child and family welfare, using the textbook, resumes distributed in class, and literature. This course will be taught mainly in lecture format, with face-to-face interaction expected whenever possible, but some or all classes may be on-demand depending on circumstances. Students will be required to submit reaction papers or small assignments in order to consolidate and apply what they have learned. Submitted reaction papers or assignments will be fed back to the class as appropriate, keeping personal information in mind.

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『水都東京』『東京の歴史』を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『水都東京』および『東京の歴史』第1巻～第3巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。資料類および発表用PPTはすべて学習支援システム上で配信します（紙では配布しません）。プレゼンテーションや発表内容については授業内で教員がコメントします。ただし、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第2回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第3回	水都東京を読む①	第1章隅田川 第2章日本橋川
第4回	水都東京を読む②	第3章江東 第4章ベイエリア
第5回	水都東京を読む③	第5章皇居と濠 第6章山の手
第6回	水都東京を読む④	第7章杉並・成宗 第8章武蔵野 第9章多摩
第7回	東京の歴史第1巻を読む①	第1章地形と自然 第2章領域と地域
第8回	東京の歴史第1巻を読む②	第3章原始・古代・中世 第4章室町・戦国
第9回	東京の歴史第2巻を読む①	第1章江戸のインフラ 第2章拡張する江戸
第10回	東京の歴史第2巻を読む②	第3章成熟の江戸 第4章爛熟の江戸
第11回	東京の歴史第3巻を読む①	第1章インフラ基盤 第2章明治期
第12回	東京の歴史第3巻を読む②	第3章大正・昭和戦前期
第13回	東京の歴史第3巻を読む③	第4章戦後～二十世紀末
第14回	まとめ	江戸東京の地理についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探ること、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

(1) 陣内秀信『水都東京- 地形と歴史で読み解く 下町・山の手・郊外』ちくま新書
市ヶ谷図書館の指定図書です。できれば各自で購入してください。

(2) 『東京の歴史 通史編』第1巻～第3巻 吉川弘文館、2018年
B T 12階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業支援システムのなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点50%、プレゼンテーションやレポート内容50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が多く発表時間が長くなると、次の授業への移動に支障がでます。昨年度は全員受講の許可をしましたが、今年度は、履修希望者が多いようならば履修者を選抜する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信を行います。学習に支障がないように、PCなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史 地帯編』のなかから、主要区部の巻を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『東京の歴史』第4巻～第5巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。後半の回では、各地域に実際に赴いて、レポートして理解を深めます。授業資料類や発表PPTは学習支援システムで配信を行います（紙での配布はしません）。プレゼンテーションや発表内容については授業内で教員がコメントします。ただし、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第2回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第3回	地帯編を読む①	千代田区
第4回	地帯編を読む②	新宿区
第5回	地帯編を読む③	文京区
第6回	地帯編を読む④	港区
第7回	地帯編を読む⑤	中央区
第8回	地帯編を読む⑥	台東区
第9回	地帯編を読む⑦	墨田区
第10回	地帯編を読む⑧	江東区
第11回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第12回	現地調査の発表①	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認した結果を発表する
第13回	現地調査の発表②	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認した結果を発表する
第14回	まとめ	江戸東京の各地域についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探ること、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史第4巻地帯編1千代田区・港区・新宿区・文京区』吉川弘文館、2018年

『東京の歴史第5巻地帯編2中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館、2019年

B T 12階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点50%、プレゼンテーションやレポート内容50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が多く発表時間が長くなるため、次の授業への移動に支障がでます。昨年度は全員受講の許可をしましたが、今年度は、もし履修希望者が多いようならば履修者を選抜する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信をします。授業に参加できるようにPCなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

CUA300LA

文化人類学方法論 B

2017年度以降入学者

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2単位

法文営国環キ 2~4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、観光に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。観光の現場では、ローカルな文化・環境・宗教などが新たな意味や価値をもつものとして資源化され、ナショナルおよびグローバルな文脈に位置づけられる現象が起っています。観光客を迎える人たち（＝ホスト）はいかに資源化をおこない、観光客（＝ゲスト）はそれをどのように経験するのでしょうか。また、ゲストとホストの双方にとってより良い観光とは何でしょうか。本授業では、これらの問いや疑問について考察します。

【到達目標】

- ・文化人類学、観光人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・観光に関する国内外の事例を学ぶことを通して、グローバル化時代の観光現象を広い視野から理解する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけではなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は【ハイブリッド型授業】で行う予定です（変更の場合は学習支援システムを通して事前に連絡します）。
- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てます（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。
- ・発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクションペーパーやレポート等における興味深いコメントや質問等を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第2回	観光の形態	観光+人類学とは何か
第3回	観光と文化	（文献の発表と討論）観光の現場で創られる文化
第4回	観光と開発	（文献の発表と討論）観光と地域開発の結びつき
第5回	日本人と海外観光	（文献の発表と討論）マストツーリズムの歴史
第6回	観光におけるホストとゲスト	（文献の発表と討論）ホスト/ゲスト論の再検討
第7回	楽園と観光	（文献の発表と討論）楽園イメージの創造
第8回	ふるさと/都市観光	（文献の発表と討論）日本観光の一断面
第9回	環境と観光	（文献の発表と討論）エコツーリズムとは何か

第10回 宗教と観光①	(文献の発表と討論) 宗教と観光のはざま
第11回 宗教と観光②	(文献の発表と討論) 宗教／巡礼ツーリズム
第12回 そのほかの観光①	(文献の発表と討論) 世界遺産、ロングステイ
第13回 そのほかの観光②	(文献の発表と討論) テーマパーク、アニメ
第14回 総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・授業内で紹介する文化人類学や観光人類学の文献を読む。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山下晋司『観光人類学の挑戦—「新しい地球」の生き方』講談社、2009年。
橋本和也『地域文化観光論—新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版、2018年。
(以上の文献を使用しますが、必ずしも購入する必要はありません)

【参考書】

岡本亮輔『聖地巡礼』中公新書、2015年。
山中弘編『宗教とツーリズム—聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012年。
綾部恒雄編『文化人類学 20 の理論』弘文堂、2006年。
橋本和也ほか編『観光開発と文化—南からの問いかけ』世界思想社、2003年。
(以上のほか、授業時に適宜紹介します)

【成績評価の方法と基準】

授業（オンラインを含む）の取り組みや各種課題を「平常点（70%）」として重視するとともに、学期末に出す予定の「レポート（30%）」を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the tourism. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of tourism, and understand the impacts of tourism on the local culture, environment and society.

POL300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：政治思想史古典精読 A

上村 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『ガリバー旅行記』を中心に、18世紀アイルランド、イングランドで活躍した小説家ジョナサン・スウィフトの書いた文章を読む。当時のイングランドは二つの党派の対立と政治的腐敗が進行する政治状況であった。スウィフトが記した歴史論や『ガリバー旅行記』（これは児童文学ではなく、とても政治的な書物である）を読むことで、党派や腐敗といった政治状況に対してどのような議論が可能かを検討する。政治と文学の関係性も合わせて考える。

【到達目標】

- ・政治思想史の古典的なテキストを正確に理解する能力を身につける。
- ・現代の政治的事象を、歴史的な視角から相対化して推論する能力を身につける。
- ・党派対立、腐敗、専制といった政治概念について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面による少人数のゼミ形式で進める。参加者は毎週課題（多くの回は日本語10頁程度、ただし『ガリバー旅行記』の回は1回50頁程度）を読み、300～500字を目安としたコメントペーパーを事前に送付する。（受講者の人数もよるが、）おおよそ各回1人の報告者が報告する。その後、受講者全員でディスカッションを行う。教員は可能な限り発言を控えるため、学生の積極的な議論への参加が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	古典を読むとはどういう行為か、どのような意味があるかを考え、ゼミの意義を押さえる。自己紹介をする。
2	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(1)	第1章を読み、混合政体について考え、議論する。
3	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(2)	第2章を読み、アテネの事例について考え、議論する。
4	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(3)	第3章を読み、ローマの事例について考え、議論する。
5	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(4)	第4章を読み、アテネ・ローマについてのスウィフトの解釈について考え、議論する。
6	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(5)	第5章を読み、スウィフトの現状の政治認識について考え、議論する。

- 7 「1710年の政変に関する覚書き」(1) 冒頭 1/4 を読み、名誉革命体制におけるトーリーとウィッグの関係について考え、議論する。
- 8 「1710年の政変に関する覚書き」(2) 前半まで読み進め、ハーリーやシンジョンといった当時の政治家の態度について考え、議論する。
- 9 「1710年の政変に関する覚書き」(3) 3/4 まで読み、スウィフトのとった政治的な態度について考え、議論する。
- 10 「1710年の政変に関する覚書き」(4) 最後まで読み、党派対立についてのスウィフトの政治思想について考え、議論する。
- 11 『ガリバー旅行記』(1) 第1話第4章まで読み、リリパット国の表象の意義について考え、議論する。
- 12 『ガリバー旅行記』(2) 第1話最後まで読み、リリパット国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。
- 13 『ガリバー旅行記』(3) 第2話第4章まで読み、プロブデインナグ国の表象の意義について考え、議論する。
- 14 『ガリバー旅行記』(4)、まとめ 第2話最後まで読み、プロブデインナグ国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。各回の予習範囲を予め読み、議論につながりそうなコメントペーパーを執筆することが求められる。また、自分が担当する報告の準備は、他の文献にあたることも求められるため、2時間を大幅に超える予習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

角川文庫版のジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』（<https://www.kadokawa.co.jp/product/201009000096/>）を用いる。山田蘭訳、2011年、704円。事前に購入し、ゼミ初回に持参すること。『ガリバー旅行記』以外の課題文献についてはこちらで用意する。

【参考書】

イントロダクションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告（20%）と毎回のコメントペーパー、議論への参加状況（80%）によって評価する。期末レポートは課さない。ただし、単位習得には、必ず最低1回は報告を行うことが求められる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

配布されたPDFの資料をパソコンなどの電子機器で読めるようにすること。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「教養ゼミII(Q6214)」とこのゼミは連続するため、あわせての履修を強く薦める（もちろん、他講義との都合もあるだろうから絶対に二つとも受講しなくてはいけないわけではないが、そうしないと『ガリバー旅行記』が読み終わらないため）。

【Outline and objectives】

We are going to read Gulliver's Travels and some other texts written by Jonathan Swift. In Eighteenth-century Britain, corruption and discord between two political factions were important political problems. In this seminar, we will discuss how Swift tried to get over these difficulties by writing ancient historiography and a utopian novel.

POL300LA

教養ゼミII

2017年度以降入学者

サブタイトル：政治思想史古典精読B

上村 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『ガリバー旅行記』を中心に、18世紀アイルランド、イングランドで活躍した小説家ジョナサン・スウィフトの書いた文章を読む。当時のイングランドは二つの党派の対立と政治的腐敗が進行する政治状況であった。スウィフトが記した歴史論や『ガリバー旅行記』（これは児童文学ではなく、とても政治的な書物である）を読むことで、党派や腐敗といった政治状況に対してどのような議論が可能かを検討する。政治と文学の関係性も合わせて考える。

【到達目標】

- ・政治思想史の古典的なテキストを正確に理解する能力を身につける。
- ・現代の政治的事象を、歴史的な視角から相対化して推論する能力を身につける。
- ・党派対立、腐敗、専制といった政治概念について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面による少人数のゼミ形式で進める。参加者は毎週課題（多くの回は日本語10頁程度、ただし『ガリバー旅行記』の回は1回50頁程度）を読み、300～500字を目安としたコメントペーパーを事前に送付する。（受講者の人数もよるが、）おおよそ各回1人の報告者が報告する。その後、受講者全員でディスカッションを行う。教員は可能な限り発言を控えるため、学生の積極的な議論への参加が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	古典を読むとはどういう行為か、どのような意味があるかを考え、ゼミの意義を押さえる。自己紹介をする。
2	『書物戦争』(1)	前半を読み、古代派と近代派の関係について考え、議論する。
3	『書物戦争』(2)	後半を読みスウィフトが古代と近代のどちらを評価していたか考え、議論する。
4	『ドレイピア書簡』第4書簡(1)	前半を読み、アイルランドに対する国王大権について考え、議論する。
5	『ドレイピア書簡』第4書簡(2)	後半を読み、貨幣の流通についてどのようにスウィフトが考えていたかを考え、議論する。
6	「日本の宮廷および帝国について」(1)	スウィフトは『ガリバー旅行記』と同時期に日本論を書いていた。前半を読み、日本をスウィフトがどのように描いたかを考え、議論する。

- | | | |
|----|--------------------------------|--|
| 7 | 「日本の宮廷および帝国について」(2) | 後半を読み、スウィフトがどのように当時のイングランドと日本論を関係させたかを考え、議論する。 |
| 8 | 『ガリバー旅行記』(5) | 第3話第5章までを読み、ラピュタ国の表象の意義について考え、議論する。 |
| 9 | 『ガリバー旅行記』(6) | 第3話最後まで読み、ラピュタ国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。 |
| 10 | 『ガリバー旅行記』(7) | 第4話第6章まで読み、フウイヌム国の表象の意義について考え、議論する。 |
| 11 | 『ガリバー旅行記』(8) | 最後まで読み、フウイヌム国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。 |
| 12 | 「慎ましき提案」 | スウィフトの最も悪名高い文章である「慎ましき提案」を読んで議論する。 |
| 13 | ジョージ・オーウェル「政治対文学—『ガリヴァー旅行記』論考」 | 『1984年』で知られるオーウェルのスウィフト論を読み、全体主義について考え、議論する。 |
| 14 | まとめの討論 | 1年間のまとめとなる討論を行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。各回の予習範囲を予め読み、議論につながりそうなコメントペーパーを執筆することが求められる。また、自分が担当する報告の準備は、他の文献にあたることも求められるため、2時間を大幅に超える予習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

角川文庫版のジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』（<https://www.kadokawa.co.jp/product/201009000096/>）を用いる。山田蘭訳、2011年、704円。事前に購入し、ゼミ初回に持参すること。『ガリバー旅行記』以外の課題文献についてはこちらで用意する。

【参考書】

イントロダクションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告（20%）と毎回のコメントペーパー、議論への参加状況（80%）によって評価する。期末レポートは課さない。ただし、単位習得には、必ず最低1回は報告を行うことが求められる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

配布されたPDFの資料をパソコンなどの電子機器で読めるようにすること。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「教養ゼミ I(Q6213)」とこのゼミは連続するため、あわせて履修を強く薦める（もちろん、他講義との都合もあるだろうから絶対に二つとも受講しなくてはならないわけではないが、『ガリバー旅行記』を途中から読むことになる）。

【Outline and objectives】

We are going to read Gulliver's Travels and some other texts written by Jonathan Swift. In Eighteenth-century Britain, corruption and discord between two political factions were important political problems. In this seminar, we will discuss how Swift tried to get over these difficulties by writing ancient historiography and a utopian novel.

PSY300LA

人間行動学 A

2017年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学 I/II」でアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を修め、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」で、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「こころ・いのち」を考えます。

【到達目標】

「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」（from『山月記』 by 中島敦）、『狂気の歴史』『性の歴史』（by M. フーコー）、『全体主義の起原』『人間の条件（活動的生）』『精神の生活』（by H. アレント）、『私の個人主義』（by 夏目漱石）、『この世は舞台（stage）、誰もが役者（player）』（from『As You Like It（お気に召すまま）』 by シェイクスピア）…その他あれこれと『靈魂論』（by アリストテレス）以来の「心理学」、とりわけ「異常と正常」もしくは「マイノリティとマジョリティ」の繋がり・絡みを学び合っていきます。

感染症も気候危機も明白な「人災」でしょうが、「自己責任」で押しつぶされるわけにはいきません。もはや手垢にまみれた（？）「個性」だの「多様性」だの…についても突き詰め追いつめることができるでしょうか。

当然（？）、現実的・合理的で正しい（はずの）AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、レプリカント、あるいはクローンと、誤り・間違いだらけで、夢幻・観念・妄想・変態の沼にハマる（ハマらざるを得ない）ヒト（こころ・いのち）との差異をも感じ思います。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。社会・文化、歴史・時代、対人関係のもと、状況・相互作用・関係性を通して、絶えず生成・変化・展開する（しかない）自転車操業の実存・ヒトの「こころ」や「いのち」の意味は分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは、「こころ・いのち」と同じなのか否か。さて、「こころ・いのち」はどこにあるのか。「こころ・いのち」とは何か。改めて考えることが目標です。その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に「対話」を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出していけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現下の事態で、大学の行動方針レベルが（1のままでも）2になったとしても、講義その他の形態は、履修登録を望むみなさんの状況や意向に応じ、流動的に検討・対応していきます。可能な限り、教室での「対面」を追求しつつ、Zoomを用いた「議論・対話」を試みるかもしれません。春学期初回は（全学）オンライン・オンデマンドです。その後については、随時、学習支援システムの「お知らせ・アナウンス」で告知します。

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。

これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む芸文、アート、音楽、映画、SNSや動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「こころ・いのち」を考えてきました。「こころ・いのち」が、「行動」となって顕著に表（現）れているからです。

どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれませんが。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「こころ・いのち」は、何かへんなのでしょうか。

良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
14	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。

報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。

報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：報告・発表とともに、ディスカッションなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

以下は、従来の内容です。

《発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。》

ところが昨年度は、学生が全く見ず知らずのままで、「授業改善アンケート」に寄せられた次の文面のとおり雰囲気になってしまいました。

※オンラインであったことが原因だとは思いますが、もう少し他の受講者と活発なやり取りができることを期待していたのでその点は少々期待外れだった。Zoom などを用いての討論会のようなことが実施出来たらよかったのかなとも感じた。

さて本年度の状況は想定しがたいながら、定員制（30名）の目一杯となれば、60名規模の教室に散らばって着席しながらの議論を工夫することになります。得手不得手に加え、通信（その他を含む）環境などにより、「Zoomを使うなら参加しない・できない」というケースがあることも念頭に置きつつ、試行錯誤していきます。

【その他の重要事項】

(1) 人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するため、一体としての履修を望みます。

(2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。

(3) 当科目は定員制（30名）です。履修希望が多い場合、（秋学期のみ参加予定者も含め）春学期初回（遅くとも第2回まで）に参加したなかから選抜します。

(4) 臨床心理士として、生きづらく悩み困っている and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病氣」、「心の性」、「心神喪失・耗弱（こうじゃく）」、「責任能力」の検証も必要でした。責任（responsibility）とは、反応する（response）能力（ability）です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶（はんもん）を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪（たま）らないばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事？「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち（・人権）」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(5) オフィスアワー（お喋りタイム？）は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

(6) 2020/19/18年度は、次のようなテーマの報告・発表がありました。

- # 続 お砂糖とスパイスなんかじゃない
- # 罪悪感について
- # 持続可能人間
- # 身分差
- # 手を差し伸べることがはばかられるという難解な社会
- # 取っ掛かりとして
- # 正直な話
- # 肉壁
- # いつまでもハラスメントに苦しみ続ける私たち
- # きのこたけのこ戦争
- # “文化的先進”は人間を辞めることなのか？
- # お砂糖とスパイスなんかじゃない
- # 常識とは何か
- # 私以外の人間は皆ロボット説
- # 他人を引きずり落とす世の中
- # どうせ見ていないでしょう？
- # 「自粛」と「自由」
- # ドラえもん〜ん！！
- # 「女の子」と「学ぶこと」
- # ストレスとの向き合い方について
- # 「女の子」についての質問
- # 岡村（もうちょっとの間）頑張れ

- # 絶対に生きたい話
- # 台本にアレンジを加える役者
- # 生きる意味とは
- # 素朴で性悪(かもしれない)疑問
- # “狂いたがっている”かもしれないということ
- # いきる とは
- # SNS のような感覚です
- # 誰しもが無敵の人になる可能性があるということ
- # 匿名によるネットバッシング：これからのファンのあり方とは
- # 何故、人は映画版ジャイアンに惚れてしまうのか
- # 分人主義 (dividualism) という生き方：「本当の自分」という幻想
- # 映画『パプリカ』に見られる夢表現について
- # 暴力のない子どもへの教育をしていくために
- # 優生学とその心理的要因
- # 何故、人は容姿に拘るのか？
- # 「認められたい」、その感情は顔ありきなのか？
- # 社会・文化におけるヒロイン像の変遷
- # 観光旅行における心理学
- # 陰キャと陽キャに優劣はあるのか
- # 練馬区女子大生の死体遺棄事件から見るストーキング殺人事件に関する分類について
- # Are You Righteous??
- # なぜアイドルの沼にハマるのか
- # あらゆる場面で嫉妬は害なのか？
- # 『愛がなんだ』から見る恋愛依存
- # ADHD 型主人公の誕生と衰退
- # バーナム効果：占いの必要性
- # 「男」と「女」は別の生き物なのか
- # 川崎登戸事件から見る拡大自殺・間接自殺の背景
- # 漫画から読み解く行動心理学
- # 日本における制度と行動規範の乖離：労働環境に焦点を当てて
- # アスペルガー症候群の人には天才が多い!?
- # メンヘラカルチャーと「病みかわいい」
- # 相模原障害者施設殺傷事件に見る現代社会の問題
- # ロボットに心はあるか
- # ツァイガルニク効果
- # 自己成就予言効果
- # 認知的不協和：自分自身から逃げない勇氣
- # 「装う」ということ：アイデンティティと自己実現
- # 「ネタばれ」は悪くない？
- # パーソナルスペース
- # 承認欲求
- # 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか
- # 「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み
- # バーナム効果とは
- # 「心の監禁」からの脱出
- # 自己欺瞞
- # 安楽死からみる自己決定権について
- # 返報性について
- # 優生思想について
- # なぜ人は周りからよく見られようとするのか
- # うつ病への理解
- # フェティシズムと犯罪者予備軍
- # 「炎上」はなぜ起こるのか
- # SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また、その付き合い方

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/ II " and the advanced applied course "Psychology LA/LB". In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎科目の「心理学 I/II」でアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を修め、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」で、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「こころ・いのち」を考えます。

【到達目標】

「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」(from『山月記』by 中島敦)、『狂気の歴史』『性の歴史』(by M. フーコー)、『全体主義の起原』『人間の条件(活動的生)』『精神の生活』(by H. アレント)、『私の個人主義』(by 夏目漱石)、『この世は舞台(stage)、誰もが役者(player)』(from『As You Like It』(お気に召すまま) by シェイクスピア) … その他あれこれと『靈魂論』(by アリストテレス) 以来の「心理学」、とりわけ「異常と正常」もしくは「マイノリティとマジョリティ」の繋がりが、絡みを学び合っています。

感染症も気候危機も明白な「人災」でしょうが、「自己責任」で押しつぶされるわけにいきません。もはや手垢にまみれた(?)「個性」だの「多様性」だの…についても突き詰め追いつめることができるでしょうか。

当然(?), 現実的・合理的で正しい(はずの) AI (人工知能) やロボット、サイボーグ、アンドロイド、レプリカント、あるいはクロウンと、誤り・間違いだらけで、夢幻・観念・妄想・変態の沼にハマる(ハマらざるを得ない) ヒト(こころ・いのち)との差異をも感じ思います。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。社会・文化、歴史・時代、対人関係のもと、状況・相互作用・関係性を通して、絶えず生成・変化・展開する(しかない)自転車操業の実存・ヒトの「こころ」や「いのち」の意味は分るのか。ヒトは何故(why)・どのように(how)生きているのか。生きているということは、「こころ・いのち」と同じなのか否か。さて、「こころ・いのち」はどこにあるのか。「こころ・いのち」とは何か。改めて考えることが目標です。その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に「対話」を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出していけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者自らが設定したテーマについて(単独でも共同でも)調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。

これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む芸文、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「こころ・いのち」を考えてきました。「こころ・いのち」が、「行動」となって顕著に表(現)れているからです。

どうかすると、私(or 貴方)は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれませんが。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私(or 貴方)の「こころ・いのち」は、何かヘンなのでしょう。

良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
14	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：報告・発表とともに、ディスカッションなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

以下は、従来の内容です。
《発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。》

ところが昨年度は、学生が全く見ず知らずのままで、「授業改善アンケート」に寄せられた次の文面のとりの雰囲気になってしまいました。

※オンラインであったことが原因だとは思いますが、もう少し他の受講者と活発なやり取りができることを期待していたのでその点は少々期待外れだった。Zoomなどを用いての討論会のようなことが実施出来たらよかったのかなとも感じた。

さて本年度の状況は想定しがたいながら、定員制（30名）の目一杯となれば、60名規模の教室に散らばって着席しながらの議論を工夫することになります。得手不得手に加え、通信（その他を含む）環境などにより、「Zoomを使うなら参加しない・できない」というケースがあることも念頭に置きつつ、試行錯誤していきます。

【その他の重要事項】

(1) 人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するため、一体としての履修を望みます。

(2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。

(3) 当科目は定員制（30名）です。履修希望が多い場合、（秋学期のみ参加予定者も含め）春学期初回（遅くても第2回まで）に参加したなかから選抜します。

(4) 臨床心理士として、生きづらく悩み困っている and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病氣」、「心の性」、「心神喪失・耗弱（こうじゃく）」、「責任能力」の検証も必要でした。責任（responsibility）とは、反応する（response）能力（ability）です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶（はんもん）を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪（たま）らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事？「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち（・人権）」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(5) オフィスアワー（お喋りタイム？）は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

(6) 2020/19/18年度は、次のようなテーマの報告・発表がありました。

- # 続 お砂糖とスパイスなんかじゃない
- # 罪悪感について
- # 持続可能人間
- # 身分差
- # 手を差し伸べることがはばかれるという難解な社会
- # 取っ掛かりとして
- # 正直な話
- # 肉壁
- # いつまでもハラメントに苦しみ続ける私たち
- # さのこたけのこ戦争
- # “文化的先進”は人間を辞めることなのか？
- # お砂糖とスパイスなんかじゃない
- # 常識とは何か
- # 私以外の人間は皆ロボット説
- # 他人を引きずり落とす世の中
- # どうせ見ていないでしょう？
- # 「自粛」と「自由」
- # ドラえも～～～ん！！
- # 「女の子」と「学ぶこと」
- # ストレスとの向き合い方について
- # 「女の子」についての質問
- # 岡村（もうちょっとの間）頑張れ
- # 絶対に生きたい話
- # 台本にアレンジを加える役者
- # 生きる意味とは
- # 素朴で性悪（かもしれない）疑問
- # “狂いたがっている”かもしれないということ
- # いきる とは
- # SNS のような感覚です
- # 誰しもが無敵の人になる可能性があるということ

- # 匿名によるネットバッシング：これからのファンのあり方とは
- # 何故、人は映画版ジャイアンに惚れてしまうのか
- # 分人主義 (dividualism) という生き方：「本当の自分」という幻想
- # 映画『パプリカ』に見られる夢表現について
- # 暴力のない子どもへの教育をしていくために
- # 優生学とその心理的要因
- # 何故、人は容姿に拘るのか？
- # 「認められたい」、その感情は顔ありきなのか？
- # 社会・文化におけるヒロイン像の変遷
- # 観光旅行における心理学
- # 陰キャと陽キャに優劣はあるのか
- # 練馬区女子大生の死体遺棄事件から見るストーキング殺人事件に関する分類について
- # Are You Righteous??
- # なぜアイドルの沼にハマるのか
- # あらゆる場面で嫉妬は害なのか？
- # 『愛がなんだ』から見る恋愛依存
- # ADHD 型主人公の誕生と衰退
- # バーナム効果：占いの必要性
- # 「男」と「女」は別の生き物なのか
- # 川崎登戸事件から見る拡大自殺・間接自殺の背景
- # 漫画から読み解く行動心理学
- # 日本における制度と行動規範の乖離：労働環境に焦点を当てて
- # アスペルガー症候群の人には天才が多い!?
- # メンヘラカルチャーと「病みかわいい」
- # 相模原障害者施設殺傷事件に見る現代社会の問題
- # ロボットに心はあるか
- # ツァイガルニク効果
- # 自己成就予言効果
- # 認知的不協和：自分自身から逃げない勇氣
- # 「装う」ということ：アイデンティティと自己実現
- # 「ネタばれ」は悪くない？
- # パーソナルスペース
- # 承認欲求
- # 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか
- # 「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み
- # バーナム効果とは
- # 「心の監禁」からの脱出
- # 自己欺瞞
- # 安楽死からみる自己決定権について
- # 返報性について
- # 優生思想について
- # なぜ人は周りからよく見られようとするのか
- # うつ病への理解
- # フェティシズムと犯罪者予備軍
- # 「炎上」はなぜ起こるのか
- # SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また、その付き合い方

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/ II" and the advanced applied course "Psychology LA/LB". In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：憲法学入門 A

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の基本書を丹念に輪読し、質疑や議論を積み重ねることによって、憲法をより深く学んでいく。憲法条文そのものは、簡素で無機質な文字の羅列に過ぎないが、その土台となっている歴史や思想を踏まえて個々の条文を読み解くことによって、憲法が目指すべき社会像や国家像が見えてくる。この授業では、ゼミ形式による対話の中で、憲法の含意を明らかにしていく。なお、ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、憲法に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の基礎をなす思想やその歴史的背景を理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯を理解する。
- ③日本国憲法が保障する人権の内容について理解する。
- ④日本国憲法が定める国家機構について理解する。
- ⑤ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本国憲法に関する基本書を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、さらに掘り下げて考察すべきテーマを設定し、報告者を指定して報告を求める。授業は原則として対面での実施を予定しているが、受講者の意向および感染状況によっては、ZOOM を用いたオンライン授業に変更する場合もある。いずれにしても、ゼミナール形式で行うため、受講者による報告と議論によって授業を進めていく。報告に対しては授業の中でコメントやアドバイスをフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。
第 2 回	近代立憲主義の成立①	基本文献の輪読
第 3 回	近代立憲主義の成立②	報告と討論
第 4 回	日本憲法史①	基本文献の輪読
第 5 回	日本憲法史②	報告と討論
第 6 回	天皇制①	基本文献の輪読
第 7 回	天皇制②	報告と討論
第 8 回	平和主義①	基本文献の輪読
第 9 回	平和主義②	報告と討論
第 10 回	人権総論①	基本文献の輪読
第 11 回	人権総論②	報告と討論
第 12 回	思想・良心の自由①	基本文献の輪読
第 13 回	思想・良心の自由②	報告と討論

第14回 全体のまとめ 全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男『憲法講話』（有斐閣、2020年）

毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50%）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50%）を合算して評価を行う。なお、学期末にレポートを課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな1・2年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about the Constitution of Japan by carefully reading the basic books of the Constitution and discussing it. The text of the Constitution itself is nothing more than a list of simple words, but by reading each text based on the history and ideas that underlie it, we can understand the social image that the Constitution would aim for. We will clarify the implications of the Constitution in a seminar-style dialogue.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：憲法学入門B

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期の「教養ゼミⅠ：憲法学入門A」に引き続き、憲法の基本書を丹念に輪読し、質疑や議論を積み重ねることによって、憲法をより深く学んでいく。憲法条文そのものは、簡素で無機質な文字の羅列に過ぎないが、その土台となっている歴史や思想を踏まえて個々の条文を読み解くことによって、憲法が目指すべき社会像や国家像が見えてくる。この授業では、ゼミ形式による対話の中で、憲法の含意を明らかにしていく。なお、ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、憲法に関する知識を学ぶだけでなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の基礎をなす思想やその歴史的背景を理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯を理解する。
- ③日本国憲法が保障する人権の内容について理解する。
- ④日本国憲法が定める国家機構について理解する。
- ⑤ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本国憲法に関する基本書を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、さらに掘り下げて考察すべきテーマを設定し、報告者を指定して報告を求める。授業は原則として対面での実施を予定しているが、受講者の意向および感染状況によっては、ZOOMを用いたオンライン授業に変更する場合もある。いずれにしても、ゼミナール形式で行うため、受講者による報告と議論によって授業を進めていく。報告に対しては授業の中でコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。
第2回	表現の自由①	基本文献の輪読
第3回	表現の自由②	報告と討論
第4回	職業選択の自由①	基本文献の輪読
第5回	職業選択の自由②	報告と討論
第6回	包括的基本権①	基本文献の輪読
第7回	包括的基本権②	報告と討論
第8回	平等原則①	基本文献の輪読
第9回	平等原則②	報告と討論
第10回	国会・内閣①	基本文献の輪読
第11回	国会・内閣②	報告と討論
第12回	裁判所①	基本文献の輪読
第13回	裁判所②	報告と討論
第14回	全体のまとめ	全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男『憲法講話』（有斐閣、2020年）

毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50%）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50%）を合算して評価を行う。なお、学期末レポートを課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな1・2年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about the Constitution of Japan by carefully reading the basic books of the Constitution and discussing it. The text of the Constitution itself is nothing more than a list of simple words, but by reading each text based on the history and ideas that underlie it, we can understand the social image that the Constitution would aim for. We will clarify the implications of the Constitution in a seminar-style dialogue.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 A 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

法文営国環キ 2~4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による改変とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また、前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は2部構成とし、第1に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第2に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーに記載された事項により授業内容を変更することがある。

また、第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

なお、第1回目の授業はZoomによるオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	東日本大震災と自然環境問題	甚大な被害をもたらした、10年目となった東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。
3	オゾンホール1（成因）	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。

4	オゾンホール2（現状と課題）	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
5	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
6	越境汚染1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
7	越境汚染2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
8	人為による気候の改変1（ヒートアイランド）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明し、その対応について議論する。
9	人為による気候の改変2（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
10	異常気象1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。
14	南極の環境保全まとめ	地球環境のパロメーターである南極を説明し、環境保全対策を解説する。 また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本、佐藤典人著、インデックス・コミュニケーションズ
- ・異常気象と人類の選択、江守正多著、角川SSC新書
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－、吉野正敏著、古今書院
- ・新百万人の天気教室、白木正規著、成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

試験は実施しない。評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト・課題論文：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、一昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、今年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連してため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌B 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。更に、オフィスアワーで課題のレポートに対して、個別に講評する。

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、受講生からの質問には必ず回答するとともに、質問事項により授業内容を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに アラル海とイースタ島	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、講義を始めるにあたり、20世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状況と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、環境問題を検討する。
2	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。
3	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
4	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。

5	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
8	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について説明し、対応を検討する。また、北極振動についても解説する。
9	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極の状況について説明する。
10	緩和策1（国際的な取り組み）	IPCC、COPなどによる国際的な取り組みを説明する。特に、今年公表されるIPCC第6次評価報告書について、詳細に説明する。また、現状の課題について、検討する。
11	緩和策2（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、昨年度、日本政府が宣言した脱炭素社会への取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
12	適応策1（産業分野）	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
13	適応策2（災害対応）	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、グループごとに発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・地球温暖化時代の異常気象。吉野正敏著。成山堂書店
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－。吉野正敏著。古今書院
- ・異常気象と地球温暖化。鬼頭昭雄著。岩波新書
- ・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－。日本気象学会 地球環境問題委員会編。朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があり、大変参考になったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組に焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようになっているか?」「そうした機械的な仕組の上で、形式言語の命令を処理したり、自然言語の意味を分析できるのは何故か?」など数学的な視点を通して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組の概要を理解すること」を目標としている。(例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?)その上で、実験を通して「コンピュータ上で言語を処理する幾つかの手法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。(例えば、コンピュータに膨大な量の文章を学習させるだけで「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか?)こうした「処理系の違いに依存しない普遍的な原理」を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。対面とオンラインのどちらの形式でも取り組めるようにする予定であるが、詳細は学習支援システムで提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	導入	PC上でプログラムが動作する様子を観察する。
第02回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第03回	機械と形式言語(1)	正規言語を処理する機械的な仕組について解説する。
第04回	機械と形式言語(2)	文書編集で正規言語の選択構文の活用事例を学ぶ。
第05回	機械と形式言語(3)	文書編集で正規言語の繰返し構文の活用事例を学ぶ。
第06回	計算機の理論(1)	チューリング機械の仕組と計算の動作を解説する。
第07回	計算機の理論(2)	万能チューリング機械と現代計算機の関係を解説する。

第 08 回	現代計算機の構造 (1)	コンピュータの演算装置等の構造を説明する。
第 09 回	現代計算機の構造 (2)	2 進数, 10 進数, 16 進数による正整数の表現を説明する。
第 10 回	現代計算機の構造 (3)	2 の補数表現による負整数の表現方法を説明する。
第 11 回	機械学習と自然言語 (1)	Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
第 12 回	機械学習と自然言語 (2)	日本語の文章を品詞に分解する処理を学ぶ。
第 13 回	機械学習と自然言語 (3)	青空文庫の小説を使って機械学習の方法を学ぶ。
第 14 回	機械学習と自然言語 (4)	学習済みモデル用いてシラバスの文章を分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整（例えば、機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど）に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（これまでに余り触れたことがない内容だと思うので、高度で細かな部分には踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく概要の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、PC の電源を入れるところから確認しながら気軽に進める予定です。）

【Outline and objectives】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation for computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

MAT300LA

コンピュータと数理の活用

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理自体は万能なものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（例えば、平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に 1000 人分のデータの平均値を手で計算する機会はない。）その一方で、身の回りには問題がむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要である。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「出来るだけ多くの事例に基づいて、コンピュータと数理を組み合わせた活用の勘を養うこと」を目標としている。各々の課題で扱う数学やアルゴリズムの内容は独立していて、利用するシステムも様々なものがある。（1 つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないこととなります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。対面とオンラインのどちらの形式でも取り組めるようにする予定であるが、詳細は学習支援システムで提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決をデモンストレーションする。
第 02 回	計算機と数学 (1)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第 03 回	計算機と数学 (2)	級数などを利用して、円周率を計算してみる。
第 04 回	計算機と数学 (3)	コンピュータを利用した統計的解析の応用事例を学ぶ。
第 05 回	行列計算の応用 (1)	基礎となる数学として、様々な行列の計算を学ぶ。
第 06 回	行列計算の応用 (2)	今後 100 年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第 07 回	行列計算の応用 (3)	ランダムウォークに基づくシミュレーションを行う。
第 08 回	行列計算の応用 (4)	ディープラーニングへの応用事例を学ぶ。
第 09 回	線形計画法 (1)	線形計画法の例と図形的な解法を学ぶ。

第10回	線形計画法 (2)	シンプレックス法の解法とプログラムを紹介する。
第11回	線形計画法 (3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行う。
第12回	暗号の数理 (1)	基礎となる数学として、Euclid互除法などの計算を学ぶ。
第13回	暗号の数理 (2)	公開鍵暗号の特徴とその計算原理を学ぶ。
第14回	暗号の数理 (3)	実際にプログラムを通して暗号通信の実験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（これまでに余り触れたことがない内容だと思うので、高度で細かな部分には踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく概要の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、PCの電源を入れるところから確認しながら気軽に進める予定です。）

【Outline and objectives】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

MAT300LA

確率の世界A

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2単位

法文営国環キ 2~4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついていても無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることも求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	確率の基礎 1	確率とは
第3回	確率の基礎 2	確率の性質
第4回	確率の基礎 3	確率空間とは
第5回	確率の基礎 4	事象の独立性
第6回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第7回	確率の基礎 6	期待値とは
第8回	確率の基礎 7	期待値の性質
第9回	確率の基礎 8	分散とは
第10回	確率分布 1	分散の性質
第11回	確率分布 2	二項分布とは
第12回	確率分布 3	二項分布の性質
第13回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in probability.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついていない人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味をもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることで求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in statistics.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 A

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について

[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速度がどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について考える。
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[11]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[12]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について
[13]	相対性理論の応用	GPS や核融合と相対論との関係について
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
- ・相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。簡単な演習問題などを課すので納得するまで反芻する習慣をつけること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回学習システムにより資料を配布する）

【参考書】

- 一般向けの相対性理論の解説書として：
 - ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 - ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
 - （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、授業参加（20%）、期末レポート（40%）を基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリンゴと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々が形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっているのか考える。

- [12] ブラックホール（1） ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
- [13] ブラックホール（2） 銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
- [14] 重力波 重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
- ・相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。簡単な演習問題などを課すので納得するまで反芻する習慣をつけること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、授業参加（20%）、レポート（40%）を基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。

・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は資料配布型オンデマンド授業として実施し、資料は学習支援システムにより配布する。配布資料では、高校で物理や化学を履修しなくても理解できるよう、平易に説明する。毎回、授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第 2 回	原子は存在するのか？（1）	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第 3 回	原子は存在するのか？（2）	気体の法則と分子運動論について
第 4 回	原子は存在するのか？（3）	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第 5 回	原子は構造を持つのか？（1）	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第 6 回	原子は構造を持つのか？（2）	第 5 回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第 7 回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について

第 8 回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第 9 回	原子構造 (1)	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第 10 回	原子構造 (2)	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第 11 回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第 12 回	原子核と放射線	原子核の性質や放射線について
第 13 回	春学期のまとめ (1)	春学期授業のまとめを行う。また、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第 14 回	春学期のまとめ (2)	第 13 回までに実施した小テストの講評や解説を中心に、春学期の授業内容を振り返る

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (約 50%) と小テスト (約 50%) により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明と資料作りを心がけます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain attempts of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・ Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・ Discuss the evidences that indicates the existence of atoms in scientific laws
- ・ Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・ Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか?」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展 (失敗) によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金 (元素) を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。

本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は資料配布型オンデマンド授業として実施し、資料は学習支援システムにより配布する。配布資料では、高校で物理や化学を履修しなくても理解できるよう、平易に説明する。毎回、授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	20 世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第 2 回	核力	原子核を結び付けている力 (核力) とそのしくみについて
第 3 回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第 4 回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第 5 回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第 6 回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第 7 回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する

第 8 回	標準模型	第 7 回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第 9 回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第 10 回	宇宙における元素合成 (1)	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり (ビッグバン) と元素合成についても解説する。
第 11 回	宇宙における元素合成 (2)	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第 12 回	宇宙における元素合成 (3)	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第 13 回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期授業のまとめを行う。第 13 回までに実施した小テストの講評や解説を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (約 50%) と小テスト (約 50%) により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明と資料作りを心がけます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in modern physics
- ・ Explain the nucleosynthesis in the universe
- ・ Discuss the method to produce gold from the other elements based on the knowledge of the modern physics

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム (これ以上分解できない粒子)” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には (最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて) どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、「原子核と素粒子 B」での原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理学を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比 (地球)	地球上の生物は、どのような元素からできているのか。
第 4 回	元素の存在比 (宇宙)	地球以外の天体は、どのような元素からできているのか (最新研究も含めて)
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体構造をもっている。それはなぜなのか。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について、解説する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光 (電磁波) が放出されるのか、解説する。
第 8 回	原子の構造 (電子の発見)	電子はどのようにして発見されたのか、紹介する。
第 9 回	原子の構造 (原子核の発見)	原子核発見に関する研究について、紹介する。

第10回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について、紹介する。
第11回	原子の構造（電子配置）	第5回の内容に関して、物体が立体的構造をもつメカニズムについて、解説する。
第12回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について解説する。
第13回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第14回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子 B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題70%と期末試験の成績30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思えます。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the abundance ratio of elements in the universe and the structure of atom and so on. It is the aim of this course to help students understand the element and atom.

PHY300LA

原子核と素粒子 B

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

法文営国環キ2~4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて、解説する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について解説する。
第5回	核分裂反応の応用	原子炉等について紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉等について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について、解説する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて、解説する。
第9回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第10回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している素粒子の種類や分類について、紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について、紹介する。
第12回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について、解説する。

第13回 宇宙の大規模構造と宇宙 最新の研究について紹介する。

宇宙論

第14回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題70%と期末試験の成績30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the evolution of star, the elementary particle and the universe and so on. It is the aim of this course to help students understand not only elementary particle and the universe but also the nucleosynthesis in the universe.

BIO300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

法文営国環キ2~4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に討議、授業およびゼミ形式で行う。夏休みに沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域の現地に訪れ、3泊4日での現地調査、あるいは実習、ディスカッション等をおこなう。再び、事後には討議、授業およびゼミ形式で論文形式にまとめる。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ、論文集を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて： パソコンの使い方： 調査の進め方
第2回	南西諸島の自然	南西諸島の自然について
第3回	南西諸島の歴史	南西諸島の歴史について
第4回	生物地理学とは	生物地理学概論
第5回	博物学・学名	博物学について、生物の名前の付け方。
第6回	グループワーク（1）	沖縄県の抱える問題（1）
第7回	グループワーク（2）	沖縄県の抱える問題（2）
第8回	グループワーク（3）	沖縄県の抱える問題（3）
第9回	グループ調査（1）	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第10回	グループ調査（2）	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第11回	グループ調査（3）	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第12回	発表（1）	事前調査の発表（1）
第13回	発表（2）	事前調査の発表（2）

第14回 まとめ

各自の発表に基づいたまとめ、
フィールドワークのガイダンス。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポート（50%）および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を主たる評価とします。試験は行いません。

※オンライン開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当然ながら、現地にフィールドワークに行きたいという意見が多いが、コロナ禍の状況をみて判断したいと思います。
メール添付などを用いて、フィードバックを行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017 年度以降入学生：【半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生】半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方も履修すること。
※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学専攻科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月または2月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年2月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島野 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、フィードバック(1)（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて
第2回	ガイダンス、フィードバック(2)（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第3回	ガイダンス、フィードバック(3)（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第4回	ガイダンス、フィードバック(4)（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー。森林の生物多様性

- 第5回 ガイダンス、フィールドワーク (5) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】 森林ツアー。湿地の生物多様性
- 第6回 ガイダンス、フィールドワーク (6) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】 森林ツアー。夜の森林の生物多様性
- 第7回 ガイダンス、フィールドワーク (7) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】 奥集落での共同体とは
- 第8回 ガイダンス、フィールドワーク (8) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】 奥集落での共同体とは
- 第9回 ガイダンス、フィールドワーク (9) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】 イノコの生物多様性
- 第10回 ガイダンス、フィールドワーク (10) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】 ヤンバルの森林保護
- 第11回 討議 (1) 【現地フィールドワーク】 世界遺産指定について。
- 第12回 討議 (2) 【現地フィールドワーク】 エコツーリズムについて
- 第13回 発表 【現地フィールドワーク】 各自で調べたテーマについて発表と討議をおこなう。
- 第14回 まとめとガイダンス 【現地フィールドワーク】 発表のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます (その方法などお知らせします)。

また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能です。

【テキスト (教科書)】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポート (50%) および授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (50%) を主たる評価とします。試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

当然ながら、現地にフィールドワークに行きたいという意見が多いが、コロナ禍の状況のみを判断したいと思います。メール添付などを用いて、フィードバックを行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です (約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります)。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 受講希望者が定員 (最大 20 名程度) を超えた場合には、選抜を行いますので、最初の授業には必ず出席して下さい。
- 3) [半期科目「教養ゼミ I」、「教養ゼミ II」として履修する学生] 半期のみ履修登録が可能となる方。教養ゼミ I「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方とも履修すること。 ※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学 4 (自然史)」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月または2月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。
- 6) 9月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年2月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。実験回で提出する小レポートについて、次回はじめに解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種原子固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	各種イオンを含む水溶液の色について
第 8 回	3d 遷移金属	電子の軌道について
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの化学反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	イオンの沈殿反応について
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポートで平常点（配分 70%）を評価し、学期末試験（配分 30%）とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。実験回で提出する小レポートについて、次回はじめに解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変わる仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課す小レポートを平常点（配分 70%）とし、学期末試験（配分 30%）とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行います。

席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。

受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。

ただし、「イオンの科学 A,B」通年履修者を優先しているため、抽選を行わず、履修を受け付けない場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

光と色の科学A

2017年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、蛍光灯、LED などが光る仕組みと違いを学ぶ。自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間分の講義の中身についてどのようなものか紹介します。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚の変遷と色覚異常	色覚異常の仕組みと視覚、色覚の進化について解説します。
第 5 回	電磁波と光	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	光の利用	身の回りにおける光や電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み	ネオンサインと蛍光灯、電球の発光原理の違いについて学びます。
	その 1（放電管・蛍光灯・電球）	
第 8 回	光源の種類と発光の仕組み	LED の発光原理を解説します。同じ電気で発光しているのに電球や蛍光灯ともまた違った原理で光っています。
	その 2（電球と LED）	

第 9 回 オーロラ

オーロラの発光原理を学びます。

第 10 回 生物発光

ホタルや夜光虫、オワンクラゲの

発光原理とその応用を学びます。

第 11 回 化学発光（実験）

ルミノール発光は血痕鑑定という

犯罪捜査に利用されていますが、

その仕組みを実験を通じて学びま

す。

第 12 回 屈折と散乱

屈折や散乱の仕組みを学び、虹や

空の色を理解する。

第 13 回 干渉と偏光

干渉や偏光の仕組みを学び関連す

身の回りの現象や応用例を理解

する。

第 14 回 まとめ

春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心を持ち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。20 年度は実験室での対面授業ができず、道具を使っての実験や観察ができませんでした。21 年度はコロナ対応のもと、実験室での対面授業とし、実験や観察も授業内に取り入れる予定です。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（24 名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。A と B、両方の受講が望ましいので、秋学期の B についても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course "A" deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception.

CHM300LA

光と色の科学 B

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

顔料と染料の違い、特徴を理解する。
色のあるものとなないものの違いが何に起因するのか理解できる。
色が条件によって変化する仕組みを理解する。
色を表現する方法、染色する技法について学ぶ。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	光と色の関係	光の 3 原色と色素の 3 原色の関係を人間の視覚とともに解説します。
第 2 回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第 3 回	古代の色素	高松塚古墳の壁画や、古代に使用された染色材料など、古代の人々が利用した色材について解説します。
第 4 回	顔料と染料	顔料と染料の違いを学びます。
第 5 回	遷移金属イオンの色	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第 6 回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第 7 回	有機化合物の構造と結合	化学結合の仕組みと多様な有機化合物の反応性を学習します。
第 8 回	染料分子の構造	染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第 9 回	自然界の色	自然界で利用されているいろいろな色素の種類と構造を学びます。

第 10 回 光合成と呼吸

光合成と呼吸の仕組みを学び、合わせて関連する分子の類似点を学びます。

第 11 回 染色の方法と種類

伝統的な染色の技法を学びます。草木染を実際に行います。

第 12 回 染色実験

銀塩写真やポラロイド、温度で色が変わるグッズの仕組みについて学びます。

第 13 回 身の回りの色

授業の内容の振り返りを行います。

第 14 回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み (30%) と期末試験の結果 (70%) を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。20 年度は実験室での対面授業ができず、道具を使つての実験や観察ができませんでした。21 年度はコロナ対応のもと、実験室での対面授業とし、実験や観察も授業内に取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使つたり、簡単な実験を行う関係で定員 (24 名) を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず春学期の「光と色の科学 A」の初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。A と B、両方の受講が望ましいので、秋学期の B についても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course "B" deals with characteristic of pigment and dye, correlation between color and molecular structure, how to dye cloth, and color coordination system.

CHM300LA

物質の科学 A

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われる。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第1回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。基本的には、講義や演習はオンライン授業で、実験は対面授業にて行う予定です。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマごとに課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は HOPPII をとおして提出します。提出していただいた課題については次回授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	化学実験入門 (1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第 3 回	化学実験入門 (2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第 4 回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。

第 5 回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第 6 回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第5回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンアートを作成します。
第 7 回	化学基本事項の説明 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第 8 回	化学基本事項の説明 (2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第 9 回	化学基本事項の説明 (3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第 10 回	化学基本事項の説明 (4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第 11 回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第 12 回	香料 (ラベンダー) の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつぼみから精油を取り出します。
第 13 回	香料 (ラベンダー) の分析 (1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリーの準備を行います。
第 14 回	香料 (ラベンダー) の分析 (2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学 B (秋学期開講) で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席 (25%)、各テーマ毎に提出するレポート (25%)、および、平常点 (50%) によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「物質の科学 B」も引き続き受講してください。受講希望者が定員 (24 名) を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は第1回目の授業に必ず出席してください。また、本授業の直後、すなわち、水曜日4時限に「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

第1回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに HOPPII の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

CHM300LA

物質の科学 B

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。基本的には、講義や演習はオンライン授業で、実験は対面授業にて行う予定です。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマごとに課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は HOPPII をとおして提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	水の硬度	石けんの泡立ちに関する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第 3 回	定量分析 (1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第 4 回	定量分析 (2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第 5 回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。

第 6 回	けん化価 (1)	中和滴定によりけん化価を測定します。2 回にわたって測定し精度を確保します。(第 1 回)
第 7 回	けん化価の測定 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第 8 回	けん化価の測定 (2)	中和滴定によりけん化価を測定します。2 回にわたって測定し精度を確保します。(第 2 回)
第 9 回	けん化価 (2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。
第 10 回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。
第 11 回	やし油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。
第 12 回	透明石けんの合成	測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。
第 13 回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。
第 14 回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席 (25%)、各テーマ毎に提出するレポート (25%)、および、平常点 (50%) によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「物質の科学 A」から連続して受講してください。受講希望者が定員 (24 名) を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は春学期の「物質の科学 A」の第 1 回目の授業に必ず出席してください。

また、本授業の直後、すなわち、水曜日 4 時限に「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

PRI300LA

I T リテラシー

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術 (Information Communication Technology) について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎 (ソフトウェア・ハードウェア) からネットワーク、プログラミング言語等、コンピュータ科学に関する話題について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第 3 回	2 進数、8 進数、16 進数 (1)	2 進数について基礎的な概念を学び、応用である 8 進数、16 進数について学ぶ。
第 4 回	2 進数、8 進数、16 進数 (2)	2 進数の計算から、8 進数、16 進数の計算について学ぶ。
第 5 回	2 進数、8 進数、16 進数 (3)	2 進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第 6 回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第 7 回	情報システム (1)	CMS (Contents Management System) を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第 8 回	情報システム (2)	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 9 回	情報セキュリティ (1)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティ (2)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 11 回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。

- 第12回 ハードウェアの応用 ハードウェアの応用について学ぶ。
- 第13回 インダストリー 4.0 最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
- 第14回 まとめ 本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期ウェブ試験と平常点において合計が50%、出席点が50%で評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合があります。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧にを行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.

PRI300LA

コンピュータ科学

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第3回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第4回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第5回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第6回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	データベース	データベースについて学ぶ。
第8回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第9回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第10回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第11回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第12回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第13回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を各2時間行うことを標準とします。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験と平常点の合計が70%、出席点が30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course for students is to learn the basics of Computer Science. Students will learn a wide range of theoretical and engineering aspects of computers, including the basics, science, and applied technology.

BIO300LA

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

法文営国環キ2~4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワード、人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。そうすることで、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持てるようになると思います。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講座では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かせない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理に関連する環境問題や社会的問題について学習します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、グループワークの機会も設ける予定です。また「学習支援システム（Hoppii）」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてzoomによるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第3回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第4回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。

第5回 「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に目を向け、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第6回 生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第7回 持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決へ応用を目的としたグループワークを行います。
第8回 近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第9回 食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第10回 資源開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回 「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回 多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回 持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第14回 地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppi 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

授業中に適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。今後も参加型の授業形態について検討していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。
zoom でのリモート授業になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective. relationships. In order to do so, students will learn the basic aspects of environmental and social problems.

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

法文営国環キ 2~4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is divided roughly into two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught mainly in lecture-style classes, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussion. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class so as to help the instructor to grasp students' progress as well as to address their concerns, as needed. Note that, if the university's action policy level is set to 2, in principle, this class will be taught online via zoom. Details will be announced via the "Hosei portal to pick up information (Hoppii)".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed. Standard amount of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40%), a final assignment (40%), and participation (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Although it is not always possible to strike a good balance between lecture and active student participation, additional efforts will be made to make the course more participatory.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to secure access to Hoppii. Students will also need to be able to participate in online class, as needed.

【Outline and objectives】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

BIO300LA

ボルボックス生物論A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り返る不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた観察・実験とその検討までを、実際に、もしくはオンラインで体験していただきます。それを通じて、対象物を正確に観察する能力、問題解決能力、実験の結果や考察を記述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・毎回、板書を基本とする講義と、テーマに沿った観察・実験を行いながら進めていきます。
- ・授業の説明に従って観察結果をノートに記録したり、課題に取り組んだりしていただきます。それらに対して、授業内で適宜フィードバックを行います。
- ・質問は Zoom のチャット欄や Hoppii の「テスト/アンケート」で受け付け、授業内で回答します。
- ・具体的な授業参加方法については、Hoppii の「お知らせ」をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	進化のモデル生物としてのボルボックス	授業の概略を説明します。
第 2 回	ボルボックスの観察①	レーウエンフック顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第 3 回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野・暗視野で観察します。
第 4 回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、周りの水流を観察します。
第 5 回	淡水産プランクトンの観察①	池や川の水を顕微鏡で観察し、どのような生き物がいるか調べます。
第 6 回	淡水産プランクトンの観察②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察します。
第 7 回	淡水産プランクトンの観察③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。
第 8 回	プラナリアの再生①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。
第 9 回	プラナリアの再生②	切断したプラナリアの一週間後のようすを観察・記録します。
第 10 回	プラナリアの再生③	プラナリア再生実験のまとめと考察を行います。

- 第 11 回 走光性一眼点と鞭毛のはたらき① 光を使ってボルボックスを一箇所に集合させてみましょう。
- 第 12 回 走光性一眼点と鞭毛のはたらき② ボルボックスが作り出す水流が、光に対してどのように変化するかを調べます。
- 第 13 回 走光性一眼点と鞭毛のはたらき③ 光を感知する眼点と呼ばれる構造を観察し、走光性のしくみを考察します。
- 第 14 回 まとめ 第 13 回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50%（Zoom 出席時にチャットで学生番号を投稿してもらいます。また、課題への取り組みやアンケート参加率も評価します。）
- ・授業ノート 50%（授業の説明に従って記録し、毎回 Hoppii からオンラインで提出していただきます。）
- ・試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はオンラインで実験の様子や顕微鏡像をリアルタイムで見せる形になりましたが、じっくり観察できるなど良い面も多かったようです。また、チャットや反応機能を活用することで授業に参加している雰囲気を感じることができたという意見や、考えたり予想したりする過程・他の学生の発想や疑問点を知ることを通じて学びを得たという感想をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

BIO300LA

ボルボックス生物論B

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り返る不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた観察・実験とその検討までを、実際に、もしくはオンラインで体験していただきます。それを通じて、対象物を正確に観察する能力、問題解決能力、実験の結果や考察を記述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・毎回、板書を基本とする講義と、テーマに沿った観察・実験を行いながら進めていきます。
- ・授業の説明に従って観察結果をノートに記録したり、課題に取り組んだりしていただきます。それらに対して、授業内で適宜フィードバックを行います。
- ・質問は Zoom のチャット欄や Hoppii の「テスト/アンケート」で受け付け、授業内で回答します。
- ・具体的な授業参加方法については、Hoppii の「お知らせ」をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	進化における多細胞化	授業の概略を説明します。
第 2 回	生活環と形態形成①	ボルボックスの丸い形の形成過程「インバージョン」について学びます。
第 3 回	生活環と形態形成②	インバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第 4 回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみと進化について考えます。
第 5 回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第 6 回	有性生殖とその進化②	ボルボックスに近縁の単細胞生物クラミドモナスの有性生殖（接合）の過程を観察します。
第 7 回	有性生殖とその進化③	生物の有性生殖が同形配偶から異形配偶を経て卵生殖へと進化してきた道筋を学びます。
第 8 回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌の探餌行動を調べる実験を行います。
第 9 回	粘菌の行動②	粘菌が移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。
第 10 回	粘菌の行動③	粘菌内部の原形質が往復流動する様子を顕微鏡で観察します。

第 11 回	突然変異体の研究への利用①	突然変異体を利用した生物の研究方法について学びます。
第 12 回	突然変異体の研究への利用②	単細胞生物クラミドモナスの様々な突然変異体を観察し、特徴を調べます。
第 13 回	突然変異体の研究への利用③	突然変異体解析による研究の実例を示します。
第 14 回	まとめ	第 13 回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50%（Zoom 出席時にチャットで学生番号を投稿してもらいます。また、課題への取り組みやアンケート参加率も評価します。）
- ・授業ノート 50%（授業の説明に従って記録し、毎回 Hoppii からオンラインで提出していただきます。）
- ・試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はオンラインで実験の様子や顕微鏡像をリアルタイムで見せる形になりましたが、じっくり観察できるなど良い面も多かったようです。また、チャットや反応機能を活用することで授業に参加している雰囲気を感じることができたという意見や、考えたり予想したりする過程・他の学生の発想や疑問点を知ることを通じて学びを得たという感想をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

CHM300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかにわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学の視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、あらかじめ教科書の割り当て部分を読みます。その内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、学習ノート（レジュメ）にまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに課題として学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後の質疑応答を通して理解を深めます。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	第一章_異なる世界観のはざままで	「異なる世界観のはざままで」を学習する。
第 3 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (1)	「数字のまやかし」～「実際の数字は？」を学習する。
第 4 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (2)	「悲観論 VS 楽観論」～「最後の石油」を学習する。
第 5 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (1)	「文化の発展とエネルギー」～「熱力学の法則」を学習する。
第 6 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (2)	「経済発展の再考」～「大文明が崩壊する理由」を学習する。
第 7 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (3)	「ローマ帝国の熱力学」を学習する。
第 8 回	第四章_化石燃料時代 (1)	「歴史の真相」～「石油時代の幕開け」を学習する。

第 9 回	第四章_化石燃料時代 (2)	「新たな機動性」～「商業の再構築」を学習する。
第 10 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (1)	「ムハンマドの描いたビジョン」～「西洋の影響」を学習する。
第 11 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (2)	「イスラム化」～「サウジアラビア」を学習する。
第 12 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (3)	「民主主義はいつこへ」～「石油を政治の道具に」を学習する。
第 13 回	第六章_世界の破綻 (1)	「天然ガスでしのぐ」～「重油と気温上昇」を学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。

書籍名：水素エコノミー --- エネルギー・ウェブの時代

著者名：ジェレミー・リフキン

訳者名：柴田裕之

出版社：NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度、ディスカッションへの参加度等を総合的に考慮した平常点によって評価します。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミ I」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミ II」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方も履修する必要があります。また、受講希望者が定員（30 名）を超える場合は抽選をおこないます。

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。

本授業は、ゼミ形式での授業であり、受講生の皆様のご希望も取り入れながら開講していきたいと思っております。取り上げる内容については第 1 回の授業にて確定しますので、それまで教科書は購入しないでください。

本授業に関する質問等は、学習支援システム（HOPPII）を通して受付けます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、HOPPII によって指示いたします。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに HOPPII の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline and objectives】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, we will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry.

CHM300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかにわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「もの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第1回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、あらかじめ教科書の割り当て部分を読みます。その内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、学習ノート（レジュメ）にまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに課題として学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後の質疑応答を通して理解を深めます。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	第六章_世界の破綻(2)	「工業化時代のエントロピーのつけ」～「もっと悪いシナリオ」を学習する。
第3回	第七章_現代社会の弱点(1)	「バイオテロリズム」～「弱点」を学習する。
第4回	第七章_現代社会の弱点(2)	「石油あつての食料生産」を学習する。
第5回	第七章_現代社会の弱点(3)	「電気が停まったとき」～「危地にたつ国家」を学習する。
第6回	第八章_水素エコノミーの夜明け(1)	「脱炭素化」～「エネルギーの錬金術」を学習する。
第7回	第八章_水素エコノミーの夜明け(2)	「水素エネルギーの生産」～「燃料電池— ミニ発電所」を学習する。
第8回	第八章_水素エコノミーの夜明け(3)	「分散型電源」～「水素エネルギー・ウェブ（HEW）」を学習する。

第9回 第八章_水素エコノミー「車を発電所に」を学習する。
の夜明け(4)

第10回 第九章_ボトムアップに「ワールド・ワイド・ウェブの教訓」による新しいグローバル～「共有財産としての水素」を学習する。
化(1)

第11回 第九章_ボトムアップに「エネルギーの民主化」～「理論から新しいグローバルら実践へ」を学習する。
化(2)

第12回 第九章_ボトムアップに「貧しい人びとにパワーを」～「安心」を見直す」を学習する。
化(3)

第13回 第九章_ボトムアップに「地政学に基づく政治から生物圏による新しいグローバルに基づく政治へ」を学習する。
化(4)

第14回 まとめ 本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。

書籍名：水素エコノミー— エネルギー・ウェブの時代

著者名：ジェレミー・リフキン

訳者名：柴田裕之

出版社：NHK出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度、ディスカッションへの参加度等を総合的に考慮した平常点によって評価します。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミⅡ」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（30名）を超える場合は抽選をおこないます。

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第1回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。

本授業は、ゼミ形式での授業であり、受講生の皆様のご希望も取り入れながら開講していきたいと思っております。取り上げる内容については第1回の授業にて確定しますので、それまで教科書は購入しないでください。

本授業に関する質問等は、学習支援システム（HOPPII）を通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、HOPPIIによって指示いたします。

【Outline and objectives】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, we will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry.

LANe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Issues in Modern Japanese Society

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced English course examines various aspects of Japanese society (such as system of education, the political economy, foreign immigrants, gender and sexuality, etc.) Most materials will be created by non-Japanese writers.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English. Students will be able to improve their speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, comprehension check, small and large group discussions. Students will participate in debating various topics, will give final presentations and write a term paper.

Most course feedback will be provided in class or through Google Classroom or another online system. Students may also contact the instructor through e-mail correspondence.

NOTE: For the month of April, all classes will be conducted ONLINE.

After the Golden Week Holiday, we will change to an in-person, face-to-face classroom format. Instructions will be provided for students who need to continue to take classes online from May.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion

4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues Pt II: School Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Return final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing short answers for discussion questions, which are usually posted beforehand. Students will prepare to give a presentation and must submit a final paper for credit. Students will likely need approximately two hours or preparation time for each class session.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 50%

Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students may do short debates in pairs or groups.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences. One more absence may be permitted if verification is provided (For job hunting, etc)

In general, auditing the course (聴講) is not allowed and students must register for course credit. However, students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor.

International (ESOP) Students are also welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

【Outline and objectives】

The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that may affect them, and to give students the opportunity to discuss them in English.

LANe300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) from mostly foreign writers will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members.

Course feedback will be provided in class and on written assignments, as well as through Google Classroom or another system. Students may correspond with the instructor via e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with creation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, & discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion & debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers(reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to already know how to write a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.

Approximately two hours each week will be necessary for out of class study time.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Instructor will provide reading materials each week.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm and Final Papers: 50%

Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than 3 unexcused absences may not receive credit for this course. One additional excused absence may be permitted if proper verification is provided (for job hunting, etc).

Students should have some experience in writing essays or reports in English.

Students may enroll in this course only for fall semester if they wish.

International students (ESOP) are welcome to enroll in this course.

Students wishing to audit the course may do so with the permission of the instructor.

【Outline and objectives】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan

and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。発音の基礎から始め、ドイツ語での表現の基本を学んでいきます。ドイツ語は単語や仕組みが英語とも近く、学びやすい言語です。簡単な練習をとおして一歩一歩確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜伝えていきます。

【到達目標】

ドイツ語による表現のための基礎的な文法事項を習得し、場面に応じたドイツ語の基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

アルファベット・発音の基礎から始め、ドイツ語の基本的な、しかし必要十分な文法と基本的な表現を学びます。はじめて学ぶ言語なので、わかりやすい、丁寧な説明をしていきます。受講者の理解によって進度も適宜、対応させていきます。学習内容の復習のための課題を出し、「学習支援システム」を通してフィードバックします。授業は当面、Zoom でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス アルファベット	授業の進め方、ねらい。成績評価について。 ドイツ語の基本的な特徴とアルファベット。以下の進捗はおおよその目安です。
2 回	Lektion0 ドイツ語の発音	前回の復習。 ドイツ語の発音の仕方を学ぶ。
3 回	Lektion1 出会いと自己紹介-動詞の現在人称変化 (1)	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を学びます。
4 回	Lektion1 出会いと自己紹介-動詞の現在人称変化 (2)	前回学習した内容をふまえ、練習問題によって自己紹介の基本表現を学びます。
5 回	Lektion1 出会いと自己紹介-動詞の現在人称変化 (3)	教科書の対話スケッチによって、自己紹介の基本表現を学びます。
6 回	Lektion2 家族について尋ねる-名詞の性/冠詞の格変化 (1)	名詞の性と冠詞の格変化の基本を学びます。
7 回	Lektion2 家族について尋ねる-名詞の性/冠詞の格変化 (2)	練習問題によって、名詞の性と冠詞の格変化を用いた表現を学びます。

8 回	Lektion2 家族について尋ねる- 名詞の性/冠詞の格変 化 (3)	対話スケッチによって、名詞の性 と冠詞の格変化を用いた会話表現 と家族についての語彙を学びま す。
9 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる- 不規則変化動詞/命令 形 (1)	不規則変化動詞と命令形の基本を 学びます。
10 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる- 不規則変化動詞/命令 形 (2)	練習問題によって、不規則変化動 詞と命令形を用いた表現を学びま す。
11 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる- 不規則変化動詞/命令 形 (3)	対話スケッチによって、不規則変 化動詞と命令形を用いた会話表現 を学びます。
12 回	Lektion4 買い物に行く〈1〉- 定冠詞類・不定冠詞類 (1)	定冠詞類と不定冠詞類の基本を学 びます。
13 回	Lektion4 買い物に行く〈1〉- 定冠詞類・不定冠詞類 (2)	練習問題によって、定冠詞類と不 定冠詞類を用いた表現を学びま す。
14 回	まとめ	春学期の学習内容をまとめ、まと めの課題を出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるためには復習が必要です。
あらかじめ次回の授業の箇所を読んでおきましょう。
また、課題にもかならず取り組みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』白水社。

【参考書】

電子辞書を含む市販の独和辞典。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加と授業ごとの課題への取り組みを重視します。
春学期の終わりにまとめの課題を出します。
平常点・課題への取り組み 70 %、まとめの課題 30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明を基本とし、参加者の理解を確認しながら、学習内容の
復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として
学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping gram-
matical structure of the German language; basic vocabulary
and speaking skill; basic knowledge of Germany and Europe
today.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者**笠原 賢介**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。春学期に学ん
だことを復習しながら、後半の基本的な文法事項を学び、ドイツ語
の基本的な表現を身につけます。簡単な練習をとおして一步一步確
認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報
も適宜伝えてゆきます。

【到達目標】

春学期に学んだことを復習しながら、ドイツ語の基本的な文法と場
面に応じた基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパ
の現在についての基礎的な情報をえる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学
部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続き、ドイツ語の仕組みや表現をわかりやすく、丁
寧に説明していきます。練習問題も丁寧に学びます。毎回、学習内
容の復習のための課題を出し、「学習支援システム」を通してフィ
ードバックします。授業は当面、Zoom でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉-複 数形/人称代名詞 (1)	授業の進め方、ねらい。成績評価 について。春学期の内容の振り 返り。 ドイツ語の名詞の複数形と人称代 名詞の基本を学びます。
2 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉-複 数形/人称代名詞 (2)	練習問題によって、名詞の複数形 と人称代名詞を用いた表現を学 びます。
3 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉-複 数形/人称代名詞 (3)	対話スケッチによって、名詞の複 数形と人称代名詞を用いた会話表 現を学びます。
4 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる- 前置詞の格支配 (1)	前置詞の使い方の基本を学びま す。
5 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる- 前置詞の格支配 (2)	練習問題によって、前置詞を用 いた表現を学びます。
6 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる- 前置詞の格支配 (3)	対話スケッチによって、前置詞を 用いた会話表現を学びます。
7 回	Lektion7 趣味について尋ねる- 形容詞の格変化 (1)	形容詞の格変化の基本を学びま す。
8 回	Lektion7 趣味について尋ねる- 形容詞の格変化 (2)	練習問題によって、形容詞の格変 化を用いた表現を学びます。
9 回	Lektion7 趣味について尋ねる- 形容詞の格変化 (3)	対話スケッチによって、形容詞の 格変化を用いた会話表現を学びま す。

- 10 回 **Lektion8** 話法の助動詞と未来形の用法の基
昼食を食べに行く- 話
法の助動詞/未来形
(1) 本を学びます。
- 11 回 **Lektion8** 練習問題によって、話法の助動詞
昼食を食べに行く- 話
法の助動詞/未来形
(2) と未来形を用いた表現を学びま
す。
- 12 回 **Lektion9** 分離動詞と接続詞の用法の基礎を
駅の窓口で尋ねる-分
離動詞/接続詞と複文
(1) 学びます。
- 13 回 **Lektion9** 練習問題によって、分離動詞と接
駅の窓口で尋ねる-分
離動詞/接続詞と複文
(1) 続詞を用いた表現を学びます。
- 14 回 **まとめ** 秋学期の学習内容をまとめ、まと
めの課題を出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるためには復習が必要です。
あらかじめ次回の授業の箇所を読んでおきましょう。
また、課題にもかならず取り組みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』白水社。

【参考書】

電子辞書を含む市販の独和辞典。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加と授業ごとの課題への取り組みを重視します。
秋学期の終わりにまとめの課題を出します。
平常点・課題への取り組み 70 %。まとめの課題 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明を基本とし、参加者の理解を確認しながら、学習内容の
復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として
学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping gram-
matical structure of the German language; basic vocabulary
and speaking skill; basic knowledge of Germany and Europe
today.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 2017 年度以降入学者
A

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指
す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、
場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。そ
れらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育
成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学
部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回
を Zoom で実施する。

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使っ
てみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ
語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グルー
プワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習し
た内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何より
も、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	erste kommunikative Phrasen
2	Begrueessung, Befinden 1	sich begrüessen/ verabschieden
3	Begrueessung, Befinden 2	nach dem Befinden fragen, sich und andere vorstellen
4	Angaben zur Person	ueber den Beruf und Persoenliches sprechen
5	Berufe	Verbkonjugation Singular/ Plural Negation
6	Familie 1	Ja/ Nein-Fragen Possessivartikel
7	Familie 2	Verben mit Vokalwechsel
8	Einkaufen	Beratungsgespraechе, Hilfe anbieten
9	Moebel	Artikel, Personalpronomen
10	Gegenstaende, Produkte 1	um Wiederholung bitten, etwas beschreiben
11	Gegenstaende, Produkte 2	sich bedanken, ein Formular ausfuellen
12	Buero	Telefongespraechе
13	Technik 1	Singular/ Plural
14	Technik 2	E-Mail/ SMS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

章末ごとの小テストかレポート (60%), 授業参加 (オンライン上でのパフォーマンス) (40%)

これらの観点を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom での授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学で Zoom 授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 2017 年度以降入学者 B

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回を Zoom で実施する

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Wiederholung
2	Freizeit 1	ueber Hobbys, Faehigkeiten sprechen
3	Freizeit 2	Modalverb koennen
4	Komplimente	Komplimente machen, um etwas bitten, sich bedanken
5	Verabredungen 1	einen Vorschlag machen und darauf reagieren
6	Verabredungen 2	temporale Praepositionen: am, um
7	Essen 1	ueber Essgewohnheiten sprechen
8	Essen 2	Konversationen beim Essen
9	Einladung zu Hause	Konjugation moegen, Wortbildung Nomen + Nomen
10	Reisen	sich informieren, ein Telefonat beenden
11	Verkehrsmittel	trennbare Verben
12	Tagesablauf	temporale Praepositionen: von ... bis, ab
13	Vergangenes	Perfekt mit haben
14	Feste, Vergangenes	Perfekt mit sein temporale Praeposition: im

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

章末ごと的小テストかレポート (60%), 授業参加 (オンライン上でのパフォーマンス) (40%)

これらの観点を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom での授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学で Zoom 授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：独仏文化論

辻 英史、竹本 研史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ・フランス文化交流史

ドイツとフランスはヨーロッパ大陸の中央に位置する隣国同士であり、古くから影響を与えあい、ときには競合したり、激しく対立する関係にあった。このような歴史的経緯から、両国の文化はある部分は共通の要素をもっている一方で、別のある部分はいって対照的な要素をもっている。

この二国のように共通点と差異を同時に持つ多様な文化が地域のなかに共存していることは、現代ヨーロッパの特徴でもある。この授業では、ドイツとフランスの交流関係の長い歴史の里程標をたどることで、ヨーロッパの文化的な豊かさを知るところとする。ドイツとフランスの歴史や文化に興味があり、訪問の予定がある人には最適の授業である。

なお、ここで言うドイツにはドイツ語圏のオーストリア、スイスの一部などが、フランスにはその海外県や旧植民地だった地域、スイスやベルギーの一部、ルクセンブルクなどが、それぞれ含まれる。

【到達目標】

文化や芸術作品を通じて、ドイツとフランスの相互の文化的な影響関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを設定し、その枠内でドイツとフランスを専門とする 2 名の教員（辻英史・竹本研史）が両国の芸術作品やその背景を紹介したのち、参加者の関心や質問に応じてさらに追加説明を加えたり、議論を広げていく。画像や映像のほか、音楽や文学作品などを取り扱う。

春学期は中世から 19 世紀までの前近代の時期を扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ ドイツとフランス——「宿敵」か？「盟友」か？	ドイツとフランスの歴史概説。
第 2 回	Part 1 中世のドイツとフランス	ローマ帝国のアルプス以北地域への影響と、中世という時代の特徴について。
第 3 回	Part 1 中世のドイツとフランス中世キリスト教文化にみるドイツとフランス	「ロマネスク」芸術と「ゴシック」芸術の両国での普及と発展。
第 4 回	Part 1 中世のドイツとフランス	中世における移動する人びと（巡礼や職人遍歴）について。
第 5 回	Part 2 宮廷社会とバロック	ルネサンス・宗教改革と絶対主義君主政の出現について。

第 6 回	Part 2 宮廷社会とバロック絶対王政とバロック芸術	フランス・ブルボン家の宮廷社会と文化について（絵画や建築、演劇にバロックと古典主義の展開）。
第 7 回	Part 2 宮廷社会とバロック	ドイツ語圏諸領邦の宮廷文化（バロック・ロココの建築）について。
第 8 回	Part 3 アンシャンレジームと 18 世紀市民社会	啓蒙主義の出現とそのヨーロッパへの影響。ドイツ語圏における啓蒙絶対主義君主の登場。
第 9 回	Part 3 アンシャンレジームと 18 世紀市民社会	18 世紀ドイツ語圏の都市音楽文化について（バロックから古典主義へ）。
第 10 回	Part 3 アンシャンレジームと 18 世紀市民社会	文学にみる 18 世紀市民文化の発展。
第 11 回	Part 4 フランス革命とナポレオン戦争	フランス革命の経緯とその政治文化の形成、ドイツ語圏への影響について論じる。
第 12 回	Part 4 フランス革命とナポレオン戦争	神聖ローマ帝国の崩壊とドイツのナショナリズムの目覚めについて。
第 13 回	Part 4 フランス革命とナポレオン戦争	皇帝ナポレオンによる統治と、同時代の芸術について。
第 14 回	まとめ	独仏関係から近代以前のヨーロッパ文化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業の内容にもとづき、質問や感想を記したリアクションペーパーを作成して提出してもらう。毎回の授業でその前回のフィードバックをおこなう。また授業中は自分の関心にそって積極的に発言・質問して欲しい。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布するほか、モニター・画面で映像・画像を見せる。

【参考書】

授業中に適宜指示するが、山川出版社やミネルヴァ書房から出ている概説書を読んでおくことを勧める。
『新版各国世界史』（山川出版社）
ドイツ（木村靖二編）2001 年。
フランス（福井憲彦編）2001 年。
『世界歴史大系』（山川出版社）
ドイツ（成瀬治／山田欣吾／木村靖二編）全 3 巻、1997 年。
フランス（柴田三千雄／樺山紘一／福井憲彦編）全 3 巻、1995 年。
『世界文化シリーズ』（ミネルヴァ書房）
ドイツ（宮田眞治／畠山寛／濱中春編著）2015 年。
フランス（朝比奈美知子／横山安由美編著）2011 年。
『初めて学ぶ○○の歴史と文化』（ミネルヴァ書房）
ドイツ（南直人／谷口健治／北村昌史／進藤修一編著）2020 年。
フランス（上垣豊編著）2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（15 %）、リアクションペーパー（25 %）、レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

出席皆無の場合、たとえレポートを提出しても単位は認めない。

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンライン授業を実施します。自宅で Zoom に接続して授業を受けることができる環境を準備してください。
教室で授業をする場合も、場合により Zoom に接続してもらうことがあります。そのときはノート PC やタブレットを大学に持ってきてください。

【Outline and objectives】

History of the cultural transfer between France and Germany

LANd300LA

教養ゼミ II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：独仏文化論

辻 英史、竹本 研史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代におけるドイツとフランスの文化

ドイツとフランスは、長い歴史のなかで相互に交流や対立の関係を結びつつ、それぞれ独特な文化を発展させてきた。とくに 19 世紀以降には、両国の活動はヨーロッパを越えて世界のさまざまな地域に広がり、そのなかには日本も含まれていくことになる。これらの交渉の過程を通じて両国の文化には外部からの影響が深く刻み込まれることになり、その一方でいわゆる「ドイツらしさ」「フランスらしさ」と呼ばれるような、世界中である程度共通する両国のイメージもまた作り上げられてきたのである。

この授業では、19 世紀から 20 世紀にかけてドイツとフランスがどのような文化をつくりあげ、それをヨーロッパと世界に向けて発信し、どのような影響を外部から受けてきたのかを、いくつかの事例を取りあげて検討する。ドイツとフランスに興味を持ち、両国の文化や芸術について学びたい人、またヨーロッパと世界の関係について学びたい人に最適の授業である。

なお、ここで言うドイツにはドイツ語圏のオーストリア、スイスの一部などが、フランスにはその海外県や旧植民地だった地域、そしてスイス、ベルギーの一部やルクセンブルクなどが、それぞれ含まれる。

【到達目標】

文化や芸術作品を通じて、19 世紀以降のドイツとフランスの社会の特徴と、ヨーロッパや世界に対して与えてきた影響がどのようなものであったかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを設定し、その枠内でドイツとフランスを専門とする 2 名の教員（辻英史・竹本研史）が両国の芸術作品やその社会背景を紹介したのち、参加者の関心や質問に応じてさらに追加説明を加えたり、議論を広げていく。画像や映像のほか、音楽や文学作品などを取り扱う。

秋学期は 19 世紀から 20 世紀後半までの近代・ポスト近代の時期を扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	近代のドイツとフランスヨーロッパの台風の目
第 2 回	Part 1 市民文化の隆盛	「ドイツらしさ」と「フランスらしさ」とは何か。
第 3 回	Part 1 市民文化の隆盛	オスマンによるパリの改造やウィーンのリング大通りなど近代の都市改造を扱う。
第 4 回	Part 1 市民文化の隆盛	絵画・文学・音楽の様々な作品を紹介し、ロマン主義・自然主義・歴史主義といった芸術潮流を解説する。

第4回	Part 1	市民文化の隆盛	独仏両国における産業社会の発展と、市民文化と労働者文化との対抗関係について。
第5回	Part 2	自然への回帰	19世紀から20世紀にかけて、人間と自然の関係がいかに変化してきたのかを芸術作品を例に解説する。
第6回	Part 2	自然への回帰	19世紀末以降出現した、表現主義やアール・ヌーヴォーなど新しい芸術運動を扱う。
第7回	Part 2	自然への回帰	ヴァンダーフォーゲル、素食主義、裸体主義など世紀転換期に現れた生活改革運動について。
第8回	Part 3	帝国主義と植民地文化	社会ダーウィニズムと人種主義を軸に、19世紀の両国における非ヨーロッパ地域に対する眼差しや姿勢度を明らかにする。
第9回	Part 3	帝国主義と植民地文化	ユダヤ人問題・反ユダヤ主義の歴史を文化・芸術の観点から辿る。共生と迫害の歴史から生まれた芸術作品を紹介する。
第10回	Part 3	帝国主義と植民地文化	両国における「オリエンタリズム」の展開と人種差別について。ポストコロニアルの時代についても触れる。
第11回	Part 4	工業化と芸術	アール・デコ、ドイツ工作連盟、バウハウス説いた20世紀初頭の芸術潮流について。
第12回	Part 4	工業化と芸術	ル・コルビュジェ、ブルーノ・タウト、ペーター・ベーレンスらに代表されるモダニズム建築と都市計画について。
第13回	Part 4	工業化と芸術	映画、写真、ラジオといった複製技術時代の芸術作品を概観する。
第14回	まとめ		ドイツとフランスの発展をふりかえり、近代という時代について考える。

教室で授業をする場合も、場合により Zoom に接続してもらうことがあります。そのときはノート PC やタブレットを大学に持ってきてください。

【Outline and objectives】

This course deals with the cultural interaction between France/Germany and other countries of the world from the Late Antiquity to the present day.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業の内容にもとづき、質問や感想を記したリアクションペーパーを作成して提出してもらう。毎回の授業でその前回分のフィードバックをおこなう。また授業中は自分の関心にそって積極的に発言・質問して欲しい。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布するほか、モニター・画面で映像・画像を見せる。

【参考書】

授業中に適宜指示するが、山川出版社やミネルヴァ書房から出ている概説書を読んでおくことを勧める。

『新版各国世界史』（山川出版社）

ドイツ（木村靖二編）2001年。

フランス（福井憲彦編）2001年。

『世界歴史大系』（山川出版社）

ドイツ（成瀬治／山田欣吾／木村靖二編）全3巻、1997年。

フランス（柴田三千雄／樺山紘一／福井憲彦編）全3巻、1995年。

『世界文化シリーズ』（ミネルヴァ書房）

ドイツ（宮田眞治／島山寛／濱中春編著）2015年。

フランス（朝比奈美知子／横山安由美編著）2011年。

『初めて学ぶ〇〇の歴史と文化』（ミネルヴァ書房）

ドイツ（南直人／谷口健治／北村昌史／進藤修一編著）2020年。

フランス（上垣豊編著）2020年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（15%）、リアクションペーパー（25%）、レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

出席皆無の場合、たとえレポートを提出しても単位は認めない。

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンライン授業を実施します。自宅で Zoom に接続して授業を受けることができる環境を準備してください。

PHL300LA

ドイツの思想 A

2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。

不確実な現代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない思想家ニーチェを取り上げ、基礎的な知識を押さえながら、彼の思想世界をとらえてゆきます。また、現代思想・哲学、芸術に与えた影響にもふれてゆきます。

毎回、導入的なレクチャーをおこなった後、ニーチェの作品から読みやすい箇所を選んで、その言葉に直接ふれながら進めます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

春学期の内容は、初期のニーチェを中心としますが、中期・後期のニーチェも視野に入れます。

授業を通して、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点にふれ、捉えることを目指します。

【到達目標】

初期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代思想・哲学、芸術に与えた影響を捉える。概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれながら進めてゆきます。一方通行にならないよう、毎回リアクション・ペーパーの提出を求め、リアクション・ペーパーに示された感想や質問に回答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 40%、言葉にふれること 40%、質疑応答 20%の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業は当面、Zoom でおこないます。リアクション・ペーパーは学習支援システムでの提出となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方。授業のねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進捗はおおよその目安です。
第 2 回	ニーチェの生涯と思想。	ニーチェの生涯と代表作について、導入的なレクチャーをおこないます。
第 3 回	『悲劇の誕生』(1)	初期ニーチェの代表作『悲劇の誕生』について、基本的な内容をとらえます。

第 4 回	『悲劇の誕生』(2)	『悲劇の誕生』の中心概念である「ディオニュソス的なもの」と「アポロ的なもの」をとらえます。
第 5 回	『悲劇の誕生』(3)	ギリシア悲劇はどのようなものか、その特徴をとらえ、ニーチェとの関係を考えます。
第 6 回	『悲劇の誕生』(4)	『悲劇の誕生』におけるソクラテス批判をとらえ、その意義を考えます。
第 7 回	ニーチェとショーペンハウアー	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けた哲学者ショーペンハウアーに焦点を当て、ニーチェとの接点と違いについて考えます。
第 8 回	ニーチェとワーグナー	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けた芸術家ワーグナーに焦点を当て、若きニーチェがなぜワーグナーに傾倒したのかを音楽作品にふれながら考えます。
第 9 回	ニーチェと芸術	『悲劇の誕生』の基礎にあるニーチェの芸術と音楽についての考えを紹介し、その影響と意義について考えます。
第 10 回	『反時代的考察』	『悲劇の誕生』とならぶ初期ニーチェの代表作である『反時代的考察』をとりあげ、基本的な論点と時代背景をとらえます。
第 11 回	初期ニーチェと現代哲学・思想 (1)	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして紹介します。
第 12 回	初期ニーチェと現代哲学・思想 (2)	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして紹介します。
第 13 回	初期ニーチェから中期・後期のニーチェへ	ニーチェがワーグナーとショーペンハウアーを批判するに至る経緯をたどり、中期・後期ニーチェ思想の方向性を展望します。
第 14 回	まとめ	春学期の授業の内容をまとめ、まとめの課題を提示します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートと配布のプリントによって授業の内容の整理をおこない、次の授業にそなえてください。授業の内容について、学習支援システム上でのリアクションを求めた場合には、期限内に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつど配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。渡邊二郎/西尾幹二編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。高辻知義『ワーグナー』岩波新書。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。笠原賢介「ニーチェとプラトン」『法政大学文学部紀要』第 79 号。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパーを重視します。授業最終日に内容理解の確認のために課題を出します。到達目標を基準にして、平常点と課題を総合して評価します。平常点 60%、課題 40%。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーへの積極的な記入を心がけてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【Outline and objectives】

Introduction to the philosophy of the early Nietzsche. Key words: The Birth of Tragedy, Nietzsche as classical philologist, the music of Richard Wagner, Schopenhauer's philosophy, Nietzsche's confrontation with the Platonic tradition, Nietzsche's influence to modern thoughts.

PHL300LA

ドイツの思想 B

2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。

ニーチェの中期・後期思想を中心としますが、春学期に取り上げた初期のニーチェ思想も視野に入れてゆきます。

毎回、テーマに関連したレクチャーをおこない、ニーチェの作品から重要な箇所を選んで、ニーチェの言葉に直接ふれてゆきます。ニーチェが現代哲学・思想、芸術に与えた影響についてもふれてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業を通して、図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を取り出し、考えることを目指します。

【到達目標】

中期および後期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代哲学・思想、芸術への影響をとらえる。ニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれてゆきます。一方通行にならないよう、毎回リアクション・ペーパーの提出を求め、リアクション・ペーパーに示された質問や感想に回答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50%、言葉にふれること 40%、質疑応答 10% の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業は、当面 Zoom でおこないます。リアクション・ペーパーは学習支援システムでの提出となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、ねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	初期ニーチェ思想と中期・後期ニーチェ思想の違いと連続性	春学期の内容と中・後期ニーチェの著作を概観しながら、初期ニーチェ思想と中・後期ニーチェ思想の違いと連続性を捉え、全体的な見通しを立てます。
第 3 回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』— アフォリズム的思考 (1)	中期の作品『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によってニーチェのアフォリズム的思考の特徴をとらえます。
第 4 回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』— アフォリズム的思考 (2)	前回の授業の内容を踏まえ、ニーチェのアフォリズム的思考の特徴を掘り下げます。

第 5 回	『悦ばしき知恵』— 〈神の死〉	『悦ばしき知恵』によって〈神の死〉をめぐるニーチェの思索を取り出します。
第 6 回	『ツァラトゥストラ』 (1) — 〈身体〉と〈心〉をめぐる	代表作『ツァラトゥストラ』によって〈身体〉と〈心〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 7 回	『ツァラトゥストラ』 (2) — 〈力への意志〉をめぐる	『ツァラトゥストラ』とニーチェの遺稿によって〈力への意志〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 8 回	『ツァラトゥストラ』 (3) — 〈時間〉をめぐる思索	『ツァラトゥストラ』によって〈瞬間〉〈永遠回帰〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 9 回	『道徳の系譜』— 〈道徳〉への批判	『道徳の系譜』によって、ニーチェがなぜ道徳を批判したのか、論点をときほぐして考えます。
第 10 回	ニーチェと西洋哲学の伝統	これまでの授業をふまえて、ニーチェと彼以前の哲学者との違いと接点を捉えます。
第 11 回	ニーチェと現代の哲学・思想	中・後期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響について、ドイツ系思想家、哲学者を中心に要点をとらえます。
第 12 回	ニーチェと芸術 (1)	ニーチェの近・現代芸術への影響について、絵画を中心に紹介します。
第 13 回	ニーチェと芸術 (2)	ニーチェの近・現代芸術への影響について、音楽を中心に紹介します。
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の内容をまとめ、まとめの課題を示します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートと配布のプリントによって授業の内容の整理をおこない、次の授業にそなえてください。授業の内容について、学習支援システム上でのリアクションを求めた場合には、期限内に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつど配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。渡邊二郎/西尾幹二編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。氷上英廣『ニーチェの顔』岩波文庫。ピヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。笠原賢介「ニーチェとプラトン」『法政大学文学部紀要』第 79 号。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパーを重視します。授業最終日に内容理解の確認のための試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点とまとめの課題を総合して評価します。平常点 60%、まとめの課題 40%。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーへの積極的な記入を心がけてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【Outline and objectives】

Introduction to Nietzsche's Philosophy. Key words: Human- all too Human, Daybreak, The Gay Science, Thus Spoke Zarathustra, On the Genealogy of Morals, Nietzsche's confrontation with the western philosophical tradition, Nietzsche and the art of fin de siecle, Nietzsche's influence to modern thoughts.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学 A

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【小説とその映画化で学ぶ戦後ドイツ】

この授業では、ドイツ語圏の文学作品を、それが原作となった映画と比較・対照しながら読んでいきたいと思います。〈テキスト〉によって作られた文学作品が、〈映像〉というまったく異なるメディアで構成された映画に〈翻訳〉されることは、そもそも可能なのでしょうか？ この〈越境〉によって、何が失われ、何が新たに付け加わっているのでしょうか？

こうした問いを考えるために、春学期の授業では、ドイツの現代史をテーマとする小説と、これを原作として製作された映画をあつかいます。文学とその映画化を読み／観ながら、今日のドイツ社会を作り上げた戦後ドイツの歩みについても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の文学作品を手掛かりに、テキストの内容を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。ドイツ語圏の文学史・映画史・現代史に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境についてお話しします（講義形式）。

また、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループで議論してもらい、その結果を発表してもらう時間も設けたいと思います（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？ なぜ〈映画化された文学作品〉をあつかうのか？ など）
第 2 回	合わせ鏡としての〈文学〉と〈映画〉？ — ディケンズ、グリフィス、カフカ	〈文学〉と〈映画〉という異なるメディアのあいだで行なわれる翻訳について
第 3 回	「第三帝国」期の日常（1）	グラス『ブリキの太鼓』とその映画化について
第 4 回	「第三帝国」期の日常（2）	「映画化は原作への冒瀆」？ — 〈文学作品の映画化〉論について
第 5 回	〈ホロコースト〉を語る（1）	ベッカー『ほらふきヤーコプ』と映画『聖なる嘘つき』
第 6 回	〈ホロコースト〉を語る（2）	ホロコーストの文学史／映画史について様々な例とともに解説

第 7 回	愛する人が〈ナチ〉だったら？（1）	シュリンク『朗読者』とその映画化『愛を読むひと』
第 8 回	愛する人が〈ナチ〉だったら？（2）	戦後世代の「ナチスの過去」との対決について
第 9 回	ヒトラーで笑っていいかしら？（1）	ヴェルメシュ『帰ってきたヒトラー』とその映画化について
第 10 回	ヒトラーで笑っていいかしら？（2）	〈ナチス〉映画の系譜——〈悪魔〉から〈凡人〉へ
第 11 回	旧東ドイツでかすかな潮騒に耳を澄ます（1）	マイヤー「通路にて」とその映画化『希望の灯り』
第 12 回	旧東ドイツでかすかな潮騒に耳を澄ます（2）	東西ドイツ分裂と再統一をめぐる文学史／映画史
第 13 回	「脱原発」への序章（1）	パウゼヴァング『みえない雲』とその映画化について
第 14 回	「脱原発」への序章（2）	ドイツの環境保護運動と文化とのかわりについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通してください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60 %
学期末レポート：40 %（提出しない場合は単位認定できません）
——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のため PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。

授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

Postwar Germany in Novels and Film Adaptations

In this class, we will read literary works from German-speaking countries, comparing and contrasting them with films based on them. In this semester, we will focus on novels about contemporary German history and films based on these novels.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学 B

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【映画化とともに読むドイツ文学の名作】

この授業では、ドイツ語圏の文学作品を、それが原作となった映画と比較・対照しながら読んでいきたいと思えます。〈テキスト〉によって作られた文学作品が、〈映像〉というまったく異なるメディアで構成された映画に〈翻訳〉されることは、そもそも可能なのでしょうか？ この〈越境〉によって、何が失われ、何が新たに付け加わっているのでしょうか？

こうした問いを考えるために、秋学期の授業では、ドイツ語圏文学の名作といわれる小説と、これを原作として製作された映画をあつかいます。文学とその映画化を読み／観ながら、近現代ドイツ語圏文学史の概要について学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の文学作品を手掛かりに、テキストの内容を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。ドイツ語圏の文学史・映画史・現代史に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境についてお話しします（講義形式）。

また、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループで議論してもらい、その結果を発表してもらう時間も設けたいと思います（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の振り返りと秋学期の予定について
第 2 回	ゲーテ『ファウスト』と映画（1）	大作『ファウスト』、その成立背景と概要
第 3 回	ゲーテ『ファウスト』と映画（2）	度重なる映像化をつうじたその変遷をたどる
第 4 回	ハインリヒ・マン『ウンラート教授』と映画『嘆きの天使』（1）	〈教養〉の失墜と〈新しい女〉の登場：世紀転換期（原作）とヴァイマル期（映画化）のあいだ
第 5 回	ハインリヒ・マン『ウンラート教授』と映画『嘆きの天使』（2）	トーカー映画が文学作品の映画化に与えた影響
第 6 回	トーマス・マン『ヴェニスに死す』とその映画化（1）	原作小説の成立背景と概要：「芸術家小説」というジャンル

第 7 回	トーマス・マン『ヴェニスに死す』とその映画化（2）	テキストと映像のメディア的差異、あるいは：〈美少年〉は映画化可能か？
第 8 回	テア・フォン・ハルプ『メトロポリス』と映画（1）	名作映画の知られざる（？）原作小説：その成立プロセス
第 9 回	テア・フォン・ハルプ『メトロポリス』と映画（2）	文学・映画と隣接する芸術領域（モダン建築、モダンダンス……）との比較芸術的関係
第 10 回	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』『点子ちゃんとアントン』と映画（1）	子供向け小説と映画：「映画は子供の眼で世界を見る」？
第 11 回	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』『点子ちゃんとアントン』と映画（2）	映画化された状況が物語に与える差異——文脈が物語を変容させる？
第 12 回	アルフレート・デブリン『ベルリン・アレクサンダー広場』と映画（1）	「映画文体」で書かれた小説が映画化される——文学が映画に学ぶとき
第 13 回	アルフレート・デブリン『ベルリン・アレクサンダー広場』と映画（2）	1980 年のテレビドラマシリーズと「ニュー・ジャーマン・シネマ」の神話
第 14 回	講義内容のまとめ	〈文学作品とその映画化〉をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通しておいてください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性がありますが（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60 %
学期末レポート：40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のため PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

Masterpieces of German Literature Read Along with the Film Adaptations

In this class, we will read literary works from German-speaking countries, comparing and contrasting them with films based on them. In this semester, we will focus on masterpieces of modern German literature and films based on these novels.

ARSk300LA

比較文化 A

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- 異文化・自文化理解力を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	予備考察（1）	「人間とは食べるところのものがある」とは？ 食文化と人間
②	予備考察（2）	団体主義社会と個人主義社会 「ステレオタイプ」、「偏見」とは？ 良い比較の例、悪い比較の例
③	日本の「食の思想」の特色	和食と「イデオロギー」
④	西洋の「食の思想」の特色	キリスト教の食の思想、 近代ヨーロッパの食の思想
⑤	食物タブーと文化	日本のタブーと西洋のタブー
⑥	食と性差	性差と食の嗜好
⑦	国際化の中の食文化（1）	現代日本の食の状況
⑧	国際化の中の食文化（2）	現代ヨーロッパの食の状況
⑨	食とコミュニケーション	食と人間関係
⑩	文学と映画における食文化（1）	Foodfilm とは何か
⑪	文学と映画における食文化（2）	伊丹十三『タンポポ』などについて

- ⑫ 文学と映画における食文化（3） 小説『バベットの晩餐会』について
- ⑬ 文学と映画における食文化（4） 映画『バベットの晩餐会』について
- ⑭ 総復習 総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

川上睦子：『いま、なぜ食の思想か』社会評論社 2015 年。

I. ディーネセン：『バベットの晩餐会』ちくま文庫 1992 年。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

ARSk300LA

比較文化 B

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリックの意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- ・人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- ・固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	日本の狐と西欧の狐（1）	女性のイメージ対悪魔のイメージ
③	日本の狐と西欧の狐（2）	民話『狐ラインケ』からゲーテ『きつねのライネッケ』へ、課題、ディスカッション
④	日本の変身童話と西欧の変身童話（1）	『日本の昔ばなし』と『グリム童話』の比較
⑤	日本の変身童話と西欧の変身童話（2）	課題、ディスカッション
⑥	宗教と動物（1）	キリスト教のシンボル動物について
⑦	宗教と動物（2）	仏教のシンボル動物について、課題、ディスカッション
⑧	ギリシャ・ローマ神話と動物（1）	イルカ、馬について 動物の犠牲について
⑨	ギリシャ・ローマ神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑩	北欧神話と動物（1）	カラス、オオカミについて
⑪	北欧神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑫	詩人と白鳥（1）	「レダと白鳥」について
⑬	詩人と白鳥（2）	ワグナー『ローエングリン』について
⑭	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 A

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文圏国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて何が思い浮かびますか。「ドイツ語圏」っぽい芸術って一体どんな芸術なのでしょうね、ってそもそも「ドイツ語圏」ってどこでしたっけ？

18 世紀から 19 世紀にかけて、中部ヨーロッパ（当時のドイツ、オーストリアとその周辺）には、「ドイツっぽい（deutsch）」や「ドイツ人（Deutsche）」の正体を、他でもない芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。この授業では、秋学期開講の「ドイツ語圏の芸術 B」と併せて、近代ドイツ語圏の造形芸術（建築、デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるものささまざまな内実に取り入ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術・文化一般に対する知的なアプローチの仕方を学ぶことです。「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という今日の世間一般に流布するイメージの成立には、19 世紀の欧州、とりわけドイツ語圏の芸術が決定的に影響したと言っても過言ではありません。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぽい」の不確かさと同程度には、「日本ならではの…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術のうち、今学期は 18 世紀末～20 世紀初頭の音楽と造形芸術を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。

・各回、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、「ここまで内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各回の議論でなされたコメントには即時相互のフィードバックが得られます。

・法政大学の 2021 年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。初回授業はハイフレックス型（対面+リアルタイム型オンライン授業）となる可能性が高いです。

・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出してもらいます。・Hoppii のほか、Zoom と Google Classroom をツールとして使用します。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第 2 回	ルネサンスから北方ルネサンスへーアルプス山脈を超えてみました	デューラー『野うさぎ』（1502 年）、『メランコリア I』（1514 年）ほか
第 3 回	仕事が欲しい音楽家ー「音楽の国ドイツ」の誕生？！	モーツァルト『弦楽四重奏曲第 1 番ト長調 K.80 (73f)「ローディ』（1770-1773 年）ほか
第 4 回	ドイツ語で歌うオペラを作りたいー言語と芸術の優劣？	モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782 年）『ドン・ジョヴァンニ』（1787 年）『魔笛』（1791 年）
第 5 回	ナポレオン後の世界と 1824 年の衝撃ー真理を「聴く」ための交響曲	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調作品 67「運命』（1808 年）『交響曲第九番ニ短調作品 125「合唱付』（1824 年）
第 6 回	若者たちの憂いー「ドイツリート」の誕生	シューベルト『糸を紡ぐグレート「ドイツリート」の誕生（1814 年）とゲーテ『ファウスト（悲劇第一部）』（1808 年）
第 7 回	反動と啓蒙の時代ー「フィルハーモニー」の誕生、「ドイツ」を讀める歌	「フィルハーモニー」の誕生、「ジング・アカデミー」とゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』（1829 年）
第 8 回	「国歌」を歌ってみたい？ー「ドイツ人としての誇り」	ハイドン『弦楽四重奏曲第 77 番ハ長調「皇帝」／「神よ、皇帝フランツを守り給え』（1797 年）／H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」（1841 年）
第 9 回	歴史を伝える絵画ー都市化するベルリンとドイツ帝国の誕生	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1947 年）『サンサーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850 年）『鉄匠延機工場』（1872-1875 年）
第 10 回	戦うオーストリアーウィーンのワルツ・ピジネス	J. シュトラウスとその息子との確執、J. シュトラウス 2 世『青き美しきドナウ』（1867 年）『ウィーン気質』（1873 年）ほか
第 11 回	終わりの始まりー権威への思慕と反動のせめぎ合い	ウィーン工房とウィーン分離派（O. ヴァーグナー、J. ホフマンなど）
第 12 回	オワコンなブルジョワの本音ーウィーン世紀末の光と影	クリムト『アデーレ・ブロッホ＝パウアーの肖像』（1907 年）ほか
第 13 回	「新たな時代の生き方」ー「ブリュッケ」（表現主義）	O. ミュラー『水浴する風景』（1906 年）、キルヒナー『ノルンドルフ広場』（1912 年）『ポツダム広場』（1914 年）
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業資料に再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカタログを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
・コンサート・ライブや観劇、展覧会訪問などの体験は素晴らしいことです。2020 年以降オンラインの催しは劇的に増え、無料配信のものも数多くあります。「コロナ」ゆえの様々な変化をうまく楽しんでもらえたらと思います。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）

石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会、2014年）
神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社、1995年）
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への積極的な参加と議論への貢献（30%）
- ・授業後の提出課題（40%）
- ・学期末レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ハイフレックス型の授業となる可能性が高いです。
- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）
 - ・イヤホン（ヘッドセット／ヘッドフォンマイク）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・ハイフレックス型授業が必要な状況で、かつ機能しない場合はまた手段を考えます。随時メールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 B

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っぼい芸術って一体どんな芸術なんだろうね、ってそもそも「ドイツ語圏」ってどこでしたっけ？

20世紀、「ドイツ語圏」と呼ばれる地域は、二度の大戦を通じて国境線を幾度となく書きかえていきます。芸術家たちがいかに歴史に翻弄され、またそれに抗おうとしたのか？この授業では、春学期開講の「ドイツ語圏の芸術A」と併せて、近代ドイツ語圏の芸術（造形芸術、身体・舞台芸術）、建築（デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるもののさまざまな内実に取ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近現代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術・文化一般に対する知的なアプローチの仕方を学ぶことです。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析等を通じて、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっぼい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぼい」ものの不確かさと同程度には、「日本ならでは…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

今学期は、20世紀のドイツ語圏から発信された造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術を幅広く、おおよそ時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。

・法政大学の2021年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。初回授業はハイフレックス型（対面+リアルタイム型オンライン授業）となる可能性が高いです。

・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出してもらいます。

・Hoppiiのほか、ZoomとGoogle Classroomをツールとして使用します。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、春学期の復習、第一次世界大戦が社会・芸術にもたらした変化
第 2 回	言葉と音の大胆な融合 — 国際都市チューリヒの「反芸術」	H. バル『ダダ宣言』（1916 年）、T. ツァラのチューリヒ・ダダと「キャバレー・ヴォルテールの夕べ」ほか
第 3 回	モダニズムのパラダイム — 混乱と「コラージュ」と「モンタージュ」	ベルリン・ダダ (R. ハウスマン、H. ヘーヒほか)、K. シュヴィッターズ『メルツ絵画』（1919 年～）ほか
第 4 回	美と労働と生活の結合 — 田園都市ヘレラウの実験	「デザイン」の時代の到来、ドイツ工作連盟とドイツ工芸工房、教育と芸術の融合、第一次世界大戦と生活改革運動の限界
第 5 回	身体に「リズム」を取り戻す — モダンダンスの革命・女性の時代	ヘレラウ生まれのリトミック、R. ラバンの身体教育構想、M. ヴィグマンの舞踊教育施設ほか
第 6 回	「全ては建築に収束する」 — バウハウスの誕生	W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919 年）、表現主義と機能主義の混合、O. シュレンマーの舞台工房と『トリアディック・バレエ』（1922 年）ほか
第 7 回	審美的な芸術から機能主義へ — マイアーと M・v・d・ローエのバウハウス	バウハウス・デッサウ（1925 年）、「皆が平等に豊かな」生活と商業活動のための芸術
第 8 回	ハイパーインフレと虚無の後で — 機械の時代の芸術	O. グロス『大都会』（1927/28 年）、C. シャート『ソーニャ』（1929 年）など
第 9 回	ナチスの権力掌握と芸術 — 「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」	ナチスによるバウハウスの駆逐、ナチスの権力掌握と焚書（1933 年）
第 10 回	ベルリン・フィルの運命 — 追われるユダヤ系芸術家	フルトヴェングラーのオーケストラ、近衛秀麿の見たベルリン・フィル
第 11 回	「アウシュヴィッツの後、詩を書くことは野蛮である」 — 「ドクメンタ」の誕生	ドイツにモダニズム芸術を取り戻す（第 1 回ドクメンタ）、芸術の意味の多様化、60 年代運動と「芸術家の生き方」（第 5 回ドクメンタ）
第 12 回	社会主義リアリズム — 観てはいけない映画、聴いてはいけない音楽	Th. プルスィヒ『太陽通り』（1999 年）
第 13 回	電子音楽とクラブカルチャー — ミュジック・コンクレート、テクノ、そして「ラオップ」へ	クラフトワークから「ラブ・パレード」へ、「移民国家」のアイデンティティと NY からやってきたヒップホップ
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業資料に再度目を通すこと。
- ・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカタログを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
- ・コンサート・ライブや観劇、展覧会訪問などの体験は素晴らしいことです。2020 年以降オンラインの催しは劇的に増え、無料配信のものも数多くあります。「コロナ」ゆえの様々な変化をうまく楽しんでもらえたらと思います。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

- ・宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）
- ・W. ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
- その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への積極的な参加と議論への貢献（30%）
- ・授業後の提出課題（40%）
- ・学期末レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

ハイフレックス型の授業となる可能性が高いです。

- ・WiFi が利用可能なデジタルガジェット（PC ないしスマートフォン、タブレット）
- ・イヤホン（ヘッドセット／ヘッドフォンマイク）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・ハイフレックス型授業が必要な状況で、かつ機能しない場合はまた手段を考えます。随時メールと LMS (Hoppii, Google Classroom) を確認するようにしてください。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the end of 19. century(modernism) to the present era(contemporary art): It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. The works in the classes would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	レクリエーションスポーツ	・インディアカ・ソフトバレー
3	ラケット種目	・バドミントン シングルス・ダブルス
4	講義予定	・有酸素運動＝エアロビクス 運動について ・ダイエットについて
5	有酸素運動	・ウォーキング 時間と歩数の関係と消費カロリーを知る
6	講義予定	・応急手当について RICE 処置・熱中症・脳震盪・コロナウイルス感染症
7	ネットスポーツ 1	・バレーボールの理論と実習

8	ボールゲーム	・バスケットボールの理論と実習
9	講義予定	・自宅でできる筋力トレーニング
10	講義予定	・健康チェックとコンディショニングについて サルコペニア、利き手利き足利き目バランス能力柔軟性
11	講義予定	・バランスチェックとストレッチング
12	ネットスポーツ 2	・卓球シングルの理論と実習
13	ネットスポーツ 3	・卓球ダブルスの理論と実習
14	まとめ	授業のまとめ（レポート課題あり）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
 - 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるため、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This class aim to study Japanese sport culture.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知すること。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	授業概要についての説明
2 回目	レクリエーションス スポーツ	・インディアカ ・ソフトバレー
3 回目	ラケット種目	・バドミントン ・シングルス・ダブルス
4 回目	講義予定 有酸素	・有酸素運動＝エアロビクス運動 について ・ダイエットについて
5 回目	有酸素運動 有酸素運 動の具体例	・ウォーキング 時間と歩数の関係と消費カロ リーを知る

6 回目	講義予定 応急手当	・応急手当について RICE 処置・熱中症・脳震盪・ コロナウイルス感染症
7 回目	ネットスポーツ 1	・バレーボール
8 回目	ボールゲーム	・バスケットボール
9 回目	講義予定 筋力トレー ニング	・自宅でできる筋力トレーニング
10 回目	講義予定 健康につい て	・健康チェックとコンディショ ニングについて サルコペニア、利き手利き足利 き目バランス能力柔軟性
11 回目	講義予定 コンディ ショニング運動	・バランスチェックとストレッチ ング
12 回目	ネットスポーツ 2	・卓球 ・シングルス
13 回目	ネットスポーツ 3	・卓球 ・ダブルス
14 回目	まとめ	授業のまとめ（レポート課題あり）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習、復習時間は合わせて4時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること

【Outline and objectives】

This course aims to study Japanese sports culture.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくてきとする。実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期・・・リモートにより「知識を知り」「意識をもって」実技で実行すること。基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを動画を観戦させながら知識としても理解を深めていく。バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

本授業は 1 回目リモート、2 回目・3 回目は対面授業を繰り返しておこないます。

1 回目のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。1 4 回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（本授業の説明）	対面によりバドミントン授業の説明（場所・内容・評価方法等）次回レポート提出（歴史とルール）
2	バドミントン	歴史とルールのテスト。ラケットとシャトルに慣れる練習と半面シングルス
3	バドミントンシングルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解」、奥原望（リオデジャネイロシングルス銅メダル）の動画を観てイメージアップと課題提出

4	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）半面シングルス
5	バドミントン	基本練習とシングルスゲーム
6	バドミントンダブルスのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、高橋・松友（リオデジャネイロダブルス大逆転金メダル）の動画を観て」イメージアップと課題提出
7	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）ダブルス練習
8	バドミントン	基本ストロークとダブルスゲーム
9	バドミントンのトリプルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、トリプルの動画を観て」イメージアップと課題提出
10	バドミントン	基本ストロークの練習とトリプルスゲーム
11	バドミントン	シングルスゲーム
12	バドミントンのミックスダブルスのイメージアップ	リモートにより「渡辺・東野のミックスダブルスを観て」イメージアップと課題提出
13	バドミントン	ダブルスゲーム
14	総括	歴史とルールの理解力テスト・反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。（2 時間以上）動画を観てイメージアップを図ること（2 時間以上）怪我防止のため軽い運動を行うこと。

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は実技点（60 点）とレポート得点（20 点）と歴史とルールのテスト得点（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

授業により（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。昨年同様に授業内で全員に最低 1 回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我防止のために、軽い運動やトレーニングをすること。

【Outline and objectives】

In addition to responding to the essential human desire to move the body, sports provide a sense of exhilaration, accomplishment, and solidarity, as well as maintenance and promotion of health, which is the basis of a prosperous life, improvement of physical strength, and human formation of young people.

It is positioned as an extremely important act that plays an immeasurable role in

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくてきとする。実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期・・・リモートにより「知識を知り」「意識をもって」実技で実行すること。基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを動画を観戦させながら知識としても理解を深めていく。バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

本授業は 1 回目リモート、2 回目・3 回目は対面授業を繰り返しておこないます。

1 回目のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。1 4 回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（本授業の説明）	対面によりバドミントン授業の説明（場所・内容・評価方法等）次回レポート提出（歴史とルール）
2	バドミントン	歴史とルールのテスト。ラケットとシャトルに慣れる練習と半面シングルス
3	バドミントンシングルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解」、奥原望（リオデジャネイロシングルス銅メダル）の動画を観てイメージアップと課題提出

4	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）半面シングルス
5	バドミントン	基本練習とシングルスゲーム
6	バドミントンダブルスのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、高橋・松友（リオデジャネイロダブルス大逆転金メダル）の動画を観て」イメージアップと課題提出
7	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）ダブルス練習
8	バドミントン	基本ストロークとダブルスゲーム
9	バドミントンのトリプルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、トリプルの動画を観て」イメージアップと課題提出
10	バドミントン	基本ストロークの練習とトリプルスゲーム
11	バドミントン	シングルスゲーム
12	バドミントンのミックスダブルスのイメージアップ	リモートにより「渡辺・東野のミックスダブルスを観て」イメージアップと課題提出
13	バドミントン	ダブルスゲーム
14	総括	歴史とルールの理解力テスト・反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。（2 時間以上）動画を観てイメージアップを図ること（2 時間以上）怪我防止のため軽い運動を行うこと。

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は実技点（60 点）とレポート得点（20 点）と歴史とルールのテスト得点（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

授業により（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。昨年同様に授業内で全員に最低 1 回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我防止のために、軽い運動やトレーニングをすること。

【Outline and objectives】

In addition to responding to the essential human desire to move the body, sports provide a sense of exhilaration, accomplishment, and solidarity, as well as maintenance and promotion of health, which is the basis of a prosperous life, improvement of physical strength, and human formation of young people.

It is positioned as an extremely important act that plays an immeasurable role in

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

前原 千佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	運動と健康について	自身の生活習慣の振り返り 運動と心身の関係
3	食事と健康について	生活習慣病とは BMI 値 五大栄養素について
4	飲酒、喫煙、薬物と健康	それぞれによる身体への影響
5	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
6	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
7	実技 ：ターゲット型①	ストレッチ・体操（フィットネス） ユニカール、クロリティーの基本的技術とルール

8	近代オリンピックについて	オリムピズムとは
9	パラリンピックの歴史	障がい者スポーツの一例を紹介
10	近代オリンピックをめぐる諸問題について	ボイコット、商業主義、環境問題、ドーピング、ジェンダー等
11	実技 ：ターゲット型②	ストレッチ・体操（フィットネス） ボッチャ、ベタングの基本的技術とルール
12	実技 ：その他の種目①	ストレッチ・体操（フィットネス） ドッジボール、フリスビー、ユニホッケーの基本技術とルール
13	実技 ：その他の種目②	ストレッチ・体操（フィットネス） フットサル、カバディ、3on3（ストリートバスケットボール）の基本的技術とルール
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まることがある。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規に授業を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること

3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

前原 千佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技とオンラインによる講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	運動と健康について	自身の生活習慣の振り返り 運動と心身の関係
3	筋の構造と特性について	筋の収縮メカニズム 筋の分類
4	トレーニングの原理について	過負荷の原理 超回復とは
5	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
6	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
7	実技 ：バレーボール型①	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの基本的技術とルール
8	救命救急と応急措置	胸部圧迫と AED の役割について 心肺蘇生法の手順について

9	食事と健康について	生活習慣病とは BMI 値 五大栄養素について
10	メンタルヘルスについて	メンタルチェック リラクゼーション法について
11	実技 ：バレーボール型②	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの基本的技術と戦術
12	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
13	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まる。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規に授業を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。

4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気の関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについての概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。

5	スポーツ・ウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
7	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
10	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツ・ウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。 基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することががのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日15時～16時30分の1.5時間を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることががのぞましい。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨーガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨーガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べるができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. ヨーガの考え方を取り入れたストレッチングが理解できる。
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力と健康 (講義および実習)	文部科学省新体力テストの意義や方法を説明する。 体力の概要について、行動体力、防衛体力について説明する。また健康に関わる要素について説明する。
3	身体運動と健康 (講義)	厚生労働省による資料を用いて、生活習慣病と身体活動との関係を明らかにし、運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりを理解する。

4	スポーツ・ウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
5	スポーツ・ウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガ思想と歴史 (講義および実習)	ヨガ思想の起源や歴史について概説し、原始ヨガ、古典ヨガ、後期ヨガなどを理解する。
7	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。 アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
10	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を理解し実践する。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツ・ウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガニードラについて説明し、実践を通じて、身体的、精神的変化を感じる。 またヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
14	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。

・出席が授業実施回数数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。

またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 15 時～16 時 30 分の 1.5 時間を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのぞましい。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツ総合演習

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期・・・リモートにより「知識を知り」、「意識をもって」実技で実行すること。春学期の復讐と応用をおこないます。

経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましい。

本授業は2回のリモート、1回の対面授業を繰り返しておこないます。

2回のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。14回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	リモートにより「授業の説明（内容・場所等）」
2	バドミントンを知る	リモートにより「バドミンントンの歴史とルールを知り」課題を提出
3	バドミンントンのイメージアップ	リモートにより「バドミンントンの歴史とルールを理解したうえで、高橋・松友リオデジャネイロ大逆転金メダルの動画を観る」課題を提出
4	バドミントンを体感しよう	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・シングルスゲーム」
5	バレーボールを知る	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを知る」課題を提出
6	バレーボールのイメージアップ	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
7	バレーボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」

8	バスケットを知る	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを知り」課題を提出
9	バスケットボールのイメージアップ	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
10	バスケットボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
11	卓球を知る	リモートにより「卓球の歴史とルールを知る」課題を提出
12	卓球のイメージトレーニング	リモートにより「卓球の歴史とルールを理解したうえで、の動画を観る」課題を提出
13	卓球	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

動画を観てイメージアップをすること。（2時間以上）

地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2時間以上）

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内の練習等により、積極的にチームワークとコミュニケーションづくりをさせ、友達を多くつくらせる。

昨年同様に授業内で最低一人1回以上の声掛けをして、積極的にコミュニケーションをはかります。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Acquisition and the attitude of the basic knowledge which deepens the understanding about the significance and the role of the body activity and contributes to body-like mental social healthy maintenance increase and self management through a lifetime are brought up through a lecture and a training.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツ総合演習

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期・・・リモートにより「知識を知り」、「意識をもって」実技で実行すること。春学期の復讐と応用をおこないます。

経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましい。

本授業は2回のリモート、1回の対面授業を繰り返しておこないます。

2回のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。14回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	リモートにより「授業の説明（内容・場所等）」
2	バドミントンを知る	リモートにより「バドミンントンの歴史とルールを知り」課題を提出
3	バドミンントンのイメージアップ	リモートにより「バドミンントンの歴史とルールを理解したうえで、高橋・松友リオデジャネイロ大逆転金メダルの動画を観る」課題を提出
4	バドミントンを体感しよう	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・シングルスゲーム」
5	バレーボールを知る	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを知る」課題を提出
6	バレーボールのイメージアップ	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
7	バレーボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」

8	バスケットを知る	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを知り」課題を提出
9	バスケットボールのイメージアップ	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
10	バスケットボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
11	卓球を知る	リモートにより「卓球の歴史とルールを知る」課題を提出
12	卓球のイメージトレーニング	リモートにより「卓球の歴史とルールを理解したうえで、の動画を観る」課題を提出
13	卓球	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

動画を観てイメージアップをすること。（2時間以上）

地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2時間以上）

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内の練習等により、積極的にチームワークとコミュニケーションづくりをさせ、友達を多くつくらせる。

昨年同様に授業内で最低一人1回以上の声掛けをして、積極的にコミュニケーションをはかります。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Acquisition and the attitude of the basic knowledge which deepens the understanding about the significance and the role of the body activity and contributes to body-like mental social healthy maintenance increase and self management through a lifetime are brought up through a lecture and a training.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 3 回	バレーボールの歴史について（講義）	バレーボールの歴史について資料を配布し説明する。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	バレーボールのルールについて・競技場や用具（講義）	バレーボールの競技場や用具に関するルールについて資料を配布し説明する。
第 7 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	バレーボールのルールについて・ゲームの仕方（講義）	バレーボールのゲームの仕方に関するルールについて資料を配布し説明する。
第 10 回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第 11 回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第 12 回	バレーボールのルールについて・反則を含めたゲームの仕方（講義）	バレーボールの反則を含めたゲームの仕方に関するルールについて資料を配布し説明する。

第 13 回 集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）

第 14 回 授業総括と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60 %）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めることで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（スポーツ科学 B）は 2 年生以上を対象としており、スポーツ科学 A を受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィシアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、新規受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、新規の受講希望者には志望理由を記入してもらう。
第 2 回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学 A で行った基本的技術や集団技術を復習する。
第 3 回	バレーボールのポジションとその役割について（講義）	各ポジションの名称と役割について資料を配布し説明する。
第 4 回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 5 回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学 A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 6 回	バレーボールのトレーニングについて・体力測定の意義（講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、体力測定の意義について講義する。
第 7 回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	ビーチバレーの歴史について（講義）	ビーチバレーの歴史について資料を配布し説明する。
第 10 回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	ビーチバレーのルールについて（講義）	ビーチバレーのルールについて資料を配布し説明する。

- 第 13 回 集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義） チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
- 第 14 回 授業総括とレポート作成、提出 授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：パラスポーツ

秋本 成晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツ全般に関する基礎的知識の獲得とともに、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する理論と実践にふれることで、その社会的意義並びに役割を学ぶ。

【到達目標】

- ①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③パラスポーツ（障害者スポーツ）について理解を深め、パラスポーツ実践に必要な動きを身につける。
- ④パラスポーツ（障害者スポーツ）実践を通して、他者とのより良いコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑤パラスポーツ（障害者スポーツ）やアダプテーションの必要性と役割について学び、これからの社会づくりに生かせる考え方を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

また、本授業では、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する内容への理解を深めるためにも、運動・スポーツに関する基礎的な知識（栄養学やトレーニング理論）を併せて学んでいく。なお、各種理論について講義を通して学び、実習形式の授業を通して運動・（パラ）スポーツの理解を深めることを図る。なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子、理解度や昨今のコロナウイルス感染症に関連する大学方針などを考慮し一部変更することがある。

また、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキング ストレッチ (講義および実習)	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	スポーツ栄養学（1） (講義)	健康的な生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を習得する。

4	スポーツ栄養学（2） (講義)	第3回の内容を踏まえた上で、スポーツ実践や体づくりを目指すための栄養学の知識を習得し、実践できる力を身につける。
5	体づくりとトレーニング（1） (講義)	体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。
6	卓球の基礎 (講義および実習)	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う
7	卓球の応用 サウンドテーブルテニス (講義および実習)	卓球のテクニック・試合について学び、視覚を制限した状態で行う卓球について学ぶ。
8	体づくりとトレーニング（2） (講義)	第5回で学んだ内容を踏まえ、トレーニング理論に関する応用的な内容を学ぶとともに、実践につながる知識の獲得を目指す。
9	パラリンピックとパラスポーツ (講義)	パラリンピックの競技種目を観戦しながら、障害のある人のスポーツ参加の方法について学ぶ。
10	パラリンピック競技と工夫 (講義)	パラリンピックの競技種目に見られる工夫について学ぶ。
11	フットサル ポッチャ (講義および実習)	授業の前半ではフットサルの基礎について学び、後半ではパラリンピック競技の1つであるポッチャという競技について学ぶ。
12	バレーボール シッティングバレー ボール (講義および実習)	バレーボールの基本について学ぶとともに、パラリンピック競技の1つであるシッティングバレーボールという競技について学ぶ。
13	パラスポーツと我々の生活 (講義)	パラスポーツが抱える困難について、我々の生活レベルに落とし込んで考えてみる。
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%
- 2) 課題レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義の開始時にその日の授業構成並びに授業のねらいを示すことで、学生の学びを促すようにする。
- ・学生の興味や関心に応じて授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供する。
- ・授業の終わりに、次回の授業で行う内容について伝えることで、学生が次回の授業のために準備できるようにする。

【その他の重要事項】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
- ・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

Learning about Para-sports (disability sports) and their significance in society as well as learning the basic principles of exercises and sports.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：パラスポーツ

秋本 成晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツ全般に関する基礎的知識の獲得とともに、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する理論と実践にふれることで、その社会的意義並びに役割を学ぶ。

【到達目標】

- ①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③パラスポーツ（障害者スポーツ）について理解を深め、パラスポーツ実践に必要な動きを身につける。
- ④パラスポーツ（障害者スポーツ）実践を通して、他者とのより良いコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑤パラスポーツ（障害者スポーツ）やアダプテーションの必要性と役割について学び、これからの社会づくりに生かせる考え方を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

また、本授業では、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する内容への理解を深めるためにも、運動・スポーツに関する基礎的な知識（栄養学やトレーニング理論）を併せて学んでいく。なお、各種理論について講義を通して学び、実習形式の授業を通して運動・（パラ）スポーツの理解を深めることを図る。なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子、理解度や昨今のコロナウイルス感染症に関連する大学方針などを考慮し一部変更することがある。

また、最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキング ストレッチ (講義および実習)	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	スポーツ栄養学(1) (講義)	健康的な生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を習得する。

4	スポーツ栄養学（2） （講義）	第3回の内容を踏まえた上で、スポーツ実践や体づくりを目指すための栄養学の知識を習得し、実践できる力を身につける。
5	体づくりとトレーニング（1） （講義）	体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。
6	卓球の基礎 （講義および実習）	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う
7	卓球の応用 サウンドテーブルテニス （講義および実習）	卓球のテクニク・試合について学び、視覚を制限した状態で行う卓球について学ぶ。
8	体づくりとトレーニング（2） （講義）	第5回で学んだ内容を踏まえ、トレーニング理論に関する応用的な内容を学ぶとともに、実践につながる知識の獲得を目指す。
9	パラリンピックとパラスポーツ （講義）	パラリンピックの競技種目を観戦しながら、障害のある人のスポーツ参加の方法について学ぶ。
10	パラリンピック競技と工夫 （講義）	パラリンピックの競技種目に見られる工夫について学ぶ。
11	フットサル ポッチャ （講義および実習）	授業の前半ではフットサルの基礎について学び、後半ではパラリンピック競技の1つであるポッチャという競技について学ぶ。
12	バレーボール シッティングバレーボール （講義および実習）	バレーボールの基本について学ぶとともに、パラリンピック競技の1つであるシッティングバレーボールという競技について学ぶ。
13	パラスポーツと我々の生活 （講義）	パラスポーツが抱える困難について、我々の生活レベルに落とし込んで考えてみる。
14	総括 （講義）	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【Outline and objectives】

Learning about Para-sports (disability sports) and their significance in society as well as learning the basic principles of exercises and sports.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%
 - 2) 課題レポート 40%
- の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義の開始時にその日の授業構成並びに授業のねらいを示すことで、学生の学びを促すようにする。
- ・学生の興味や関心にに応じて授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供する。
- ・授業の終わりに、次回の授業で行う内容について伝えることで、学生が次回の授業のために準備できるようにする。

【その他の重要事項】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
- ・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 I

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と実践方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する知識の幅を広げる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した基礎的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。リアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	トレーニングに関する専門的な学びに向けた授業概要について理解する。また、募集定員を超過した場合は受講者の決定を目的とした抽選を行う。（講義）
2	安全講習と機器の使用法	トレーニング施設使用に向けた安全講習および各種機器の使用法について学ぶ（講義及び実習）
3	トレーニングの原理・原則	トレーニングの原理・原則について学ぶ（講義）
4	トレーニング目標とプログラムの設定	トレーニング理論を踏まえたトレーニングの目標と計画を設定する（講義及び実習）
5	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係について学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングと栄養	トレーニング効果を高める食事とサプリメントの摂取の仕方について学ぶ（講義及び実習）

7	チームビルディング I	「ジョハリの窓」を用いたグループワークを通じて自己理解を促進する（講義）
8	無酸素運動	基礎的な無酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）
9	有酸素運動	基礎的な有酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）
10	チームビルディング II	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
11	体幹のトレーニング	腹部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	上肢のトレーニング	基礎的な上肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下肢のトレーニング	基礎的な下肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	レポート課題・まとめ	トレーニング計画に基づき実施したトレーニングの成果および今後の課題に関するレポートを作成する（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、日々トレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終授業時に課すレポート課題：50 %
 2. 各授業で取り組むリアクションペーパー：25 %
 3. 授業への参画状況：25 %
- ※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※原則として欠席 3 回までを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 20 名の受講者を決定します。当選した場合、必ず受講する方のみ抽選に参加してください。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 3 階・柔道場の予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。
5. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

6. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、前述の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. Students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 II

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムを発展させる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した実践的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。リアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	より実践的なトレーニングプログラムを考案するため、これまでのトレーニング内容について再考するとともに授業概要について理解する（講義及び実習）
2	安全講習と機器の使用法の確認	安全講習および各種機器の使用方法について再確認する（講義及び実習）
3	アイズブレイク	アイズブレイクを用いた自己理解の促進（講義）
4	トレーニング目標の設定	春学期に導出した課題克服に資するトレーニング目標を設定する（講義及び実習）
5	トレーニングプログラムの設定	春学期に導出した課題克服に資するトレーニングプログラムを設定する（講義及び実習）

6	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
7	チームビルディング I	「描画法」を用いたグループワークを通じて自他理解を促進する (講義)
8	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
9	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
10	健康の科学	飲酒、喫煙、HIV・AIDSについて学ぶ (講義)
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
14	レポート課題・まとめ	トレーニング計画に基づき実践したトレーニングの成果および今後の課題に関するレポートを作成する (講義及び実習)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、日々トレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終授業時に課すレポート課題： 50 %。
 2. 各授業で取り組むリアクションペーパー： 25 %
 3. 授業への参画状況： 25 %
- ※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※原則として欠席 3 回までを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 春学期の初回授業時にスポーツ科学 A・B の受講者を決定します。なお、スポーツ科学 A・B の通年履修を推奨する観点から、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

5. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

6. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、前述の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【Outline and objectives】

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance improvement, body makeup, dieting, and maintaining and improving their health, and develop their own training programs. In addition, students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず2年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第1回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、毎回の授業においてリアクションペーパーを提出する。次回の授業初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	講義及び体力測定	体力測定及びウォーミングアップの重要性についての講義及び測定の実施
3	講義「体力について」	体力について講義を行う
4	講義「トレーニング理論について」	トレーニングの理論について講義を行う
5	講義「ウォーミングアップとクーリングダウンについて」	ウォーミングアップ及びクーリングダウンの重要性について講義を行う
6	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワーク、リーダーの役割についての講義及びソフトバレーボールの実習
7	講義及び実技（バドミントン）	運動の効果についての講義及びバドミントンの実習
8	講義及び実技（卓球）	コミュニケーションについての講義及び卓球の実習
9	講義「筋力トレーニングについて」	筋力トレーニングについて講義を行う
10	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う

11	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う
12	講義及び実技（フットサル）	休養と健康についての講義及びフットサルの実習 レポート課題の提示
13	講義及び実技（アルティメット）	栄養と健康についての講義及びアルティメットの実習
14	授業の総括及び実技（卓球）	授業の総括及び卓球の実習レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況60%
 - ②課題・レポート40%の配分として総合評価する。
- この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業1回目のガイダンス時に決定する。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成される。
毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業の初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。
授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	講義及び体力測定	体力測定についての講義及び測定の実施
3	講義「体力について」	体力について講義を行う
4	講義「トレーニング理論について」	トレーニング理論について講義を行う
5	講義「ウォーミングアップ、クーリングダウンについて」	ウォーミングアップ、クーリングダウンについて講義を行う
6	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワーク、リーダーの役割についての講義及びソフトバレーボールの実習
7	講義及び実技（バドミントン）	運動の効果についての講義及びバドミントンの実習
8	講義及び実技（卓球）	コミュニケーションについての講義及び卓球の実習
9	講義「筋力トレーニングについて」	筋力トレーニングについて講義を行う
10	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う
11	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う

12	講義及び実技（フットサル）	休養と健康についての講義及びフットサルの実習 レポート課題の提示
13	講義及び実技（アルティメット）	栄養と健康についての講義及びアルティメットの実習
14	授業の総括及び実技（卓球）	授業の総括を行う及び卓球の実習 レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします
授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。

教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore,students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,mental and social health necessary throughout the students'future of life.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は2年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレンクス（筋力）トレーニングについて、**各自の目的に応じたトレーニング方法**に着目した**研究を計画し、その効果を検証**していくゼミナールです。

履修者自ら作成した**トレーニング・プログラムを**実践していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施

2	課題検討期 I ・測定	<トレセン> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う ②筋力を把握するための測定と分析・評価を行う
3	課題検討期 II ・測定結果の評価	<教室> ①グループワークを行う ②前回の測定結果を分析する ③テーマのヒントを探る
4	課題検討期 III ・トレーニング方法	<教室> ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討する
5	課題決定期	<教室> ①ゼミで取り組む課題を明確にする ②トレーニング記録方法を確認する
6	計画立案期 I ・トレーニングマシンの基本操作	<トレセン> ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③検討したトレーニング方法を記録する
7	計画立案期 II ・トレーニングプログラム作成	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に小さな筋を刺激する種目）を検討する ②決定したトレーニング方法を記録する ③トレーニングプログラムを作成する
8	計画実行期 I ・トレーニング種目の仮決定	<トレセン> ①決定したトレーニング種目のプログラム一覧を提出 ②作成したトレーニングプログラムの実践と見直し（主に運動種目の配置・組み合わせ） ③実施したトレーニングを記録する
9	計画実行期 II ・トレーニングプログラム種目の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する
10	計画実行期 III ・トレーニング強度の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期 IV ・トレーニング方法の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期 IV ・トレーニング方法の決定	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する

- 13 計画実行・効果検証期 <トレセン>
 ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定
 ②測定結果を分析・評価する
 ③これまでの学修過程の整理
 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
- 14 反省改善期・発表・総括 <教室>
 ①春学期に取り組んだ学修過程を発表する
 ②秋学期の課題を検討する
 ③春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができるところに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
3. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート：30%
2. 授業におけるリアクションペーパー：30%
3. 成果発表（作成した資料、発表態度など）：40%

【学生の意見等からの気づき】

例年の傾向を振り返ると、本科目は小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になっていると思います。

他方では、履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、2017年度および2018年度の履修者は25名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。そこで、2019年度の授業においては、小人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしました。

しかしながら、2020年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンラインのリアルタイム双方向授業となりました。この授業を履修した皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は非常に良かった印象です。自分のペースでゼミ活動に取り組めた、他学部他学年との交流が進んだ、各自の研究時間が十分確保できたなど、オンライン授業の方が効率的であったという意見ばかりでした。反面、大学での実験や対面で意見交換やゼミ会をしたかったなどの意見も寄せられました。

2021年度は2020年度の新たなゼミの在り方に挑戦する年だと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が10名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を優先的に選定します。

2. 1を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・トレーニングを科学する（Basic course）：月曜日 3 限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である教養ゼミⅠの単位取得者が履修できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、各自のトレーニング方法に着目したトレーニング・プログラムを積極的に実践して検証することを主とします。授業は履修者が主体となり能動的に進め、その検証結果を総括しゼミ内で共有します。

【到達目標】

- 1：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践したトレーニング効果を検証できる
- 5：検証したトレーニング効果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

計画では、ゼミ活動の1回目は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

教養ゼミⅡでは、教養ゼミⅠの反省改善期に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（履修者は授業に自主的・能動的に参加）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように3期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画したトレーニングを実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。

3. 発表・共有の期間

トレーニング効果を総括した結果を発表し、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期 Ⅰ・測定	<トレセン> ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ②Inbodyによる身体組成の分析（春学期との比較） ③教養ゼミⅠで作成したプログラムの実践 ④リアクションペーパー作成
2	課題・計画の検討期 Ⅱ・教養ゼミⅠで検証した項目の測定	<トレセン> ①教養ゼミⅠで検証した項目の測定 ②測定結果について、夏季休暇の前後で比較し、新たなトレーニングプログラムを模索する
3	課題・計画の検討期 Ⅲ・測定結果の評価	<教室> ①グループワーク ②授業の1回目および2回目の測定結果を分析し、共有する ③教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ④リアクションペーパー作成
4	課題・計画の決定期 Ⅰ・測定結果の共有	<教室> ①グループワーク ②前回授業の分析内容を発表する ③リアクションペーパー作成
5	課題・計画の決定期 Ⅱ・トレーニング方法の再検討	<教室> ①グループワーク ②取り組む課題解決により有効なトレーニングプログラムを再考する ③リアクションペーパー作成
6	実行期Ⅰ・新トレーニングプログラムの試作	<トレセン> ①トレーニングプログラムを試作するために、トレーニング種目を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ・新トレーニングプログラム強度の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムを実行し運動強度を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
8	実行期Ⅲ・新トレーニングプログラムの仮決定	<トレセン> ①トレーニング法を決め、プログラムを確定する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ・新トレーニングプログラムの種目の改修	<トレセン> ①トレーニングプログラムを実行し運動強度を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ・新トレーニングプログラムの強度の改修	<トレセン> ①トレーニングプログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

- 11 実行期Ⅵ・新トレーニングプログラムの決定 <トレセン>
①トレーニングプログラムを実行するとともに効果を検証する方法を検討する
②実施した内容を正確に記録する
③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
- 12 実行期Ⅶ・新トレーニングプログラムの実践と効果検証 <トレセン>
①グループワーク
②作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定
③測定結果を分析・評価する
④リアクションペーパー作成
- 13 発表・共有期Ⅰ・新トレーニングプログラムの効果検証と分析 <トレセン>
①グループワーク
②測定結果を考察し、ゼミ内で共有するためのレポートを作成する
③リアクションペーパー作成
- 14 発表・共有期Ⅱ、総括 <教室>
①グループワーク
②トレーニング効果の検証結果を発表する
③リアクションペーパー作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
3. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート：30%
2. 授業におけるリアクションペーパー：30%
3. 成果発表（作成した資料、発表態度など）：40%

【学生の意見等からの気づき】

例年の傾向を振り返ると、本科目は小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になっていると思います。

他方では、履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようであり、2017年度および2018年度の履修者は25名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。そこで、2019年度の授業においては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしました。

しかしながら、2020年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンラインのリアルタイム双方向授業となりました。この授業を履修した皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は非常に良かった印象です。自分のペースでゼミ活動に取り組めた、他学部他学年との交流が進んだ、各自の研究時間が十分確保できたなど、オンライン授業の方が効率的であったという意見ばかりでした。半面、大学での実験や対面で意見交換やゼミ会をしたかったなどの意見も寄せられました。

2021年度は2020年度の新たなゼミの在り方に挑戦する年だと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。

基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	レクリエーションスポーツ	・インディアカ・ソフトバレー
3	ラケット種目	・バドミントン シングルス・ダブルス
4	講義予定	・有酸素運動＝エアロビクス 運動について ・ダイエットについて
5	有酸素運動	・ウォーキング 時間と歩数の関係と消費カロリーを知る
6	講義予定	・応急手当について RICE 処置・熱中症・脳震盪・コロナウイルス感染症
7	ネットスポーツ 1	・バレーボールの理論と実習

8	ボールゲーム	・バスケットボールの理論と実習
9	講義予定	・自宅でできる筋力トレーニング
10	講義予定	・健康チェックとコンディショニングについて サルコペニア、利き手利き足利き目バランス能力柔軟性
11	講義予定	・バランスチェックとストレッチング
12	ネットスポーツ 2	・卓球シングルの理論と実習
13	ネットスポーツ 3	・卓球ダブルスの理論と実習
14	まとめ	授業のまとめ（レポート課題あり）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
 - 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるため、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This class aim to study Japanese sport culture.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知すること。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	授業概要についての説明
2 回目	レクリエーションス スポーツ	・インディアカ ・ソフトバレー
3 回目	ラケット種目	・バドミントン ・シングルス・ダブルス
4 回目	講義予定 有酸素	・有酸素運動＝エアロビクス運動 について ・ダイエットについて
5 回目	有酸素運動 有酸素運 動の具体例	・ウォーキング 時間と歩数の関係と消費カロ リーを知る

6 回目	講義予定 応急手当	・応急手当について RICE 処置・熱中症・脳震盪・ コロナウイルス感染症
7 回目	ネットスポーツ 1	・バレーボール
8 回目	ボールゲーム	・バスケットボール
9 回目	講義予定 筋力トレー ニング	・自宅でできる筋力トレーニング
10 回目	講義予定 健康につい て	・健康チェックとコンディショ ニングについて サルコペニア、利き手利き足利 き目バランス能力柔軟性 ・バランスチェックとストレッチ ング
11 回目	講義予定 コンディ ショニング運動	・卓球 ・シングルス
12 回目	ネットスポーツ 2	・卓球 ・ダブルス
13 回目	ネットスポーツ 3	・卓球 ・ダブルス
14 回目	まとめ	授業のまとめ（レポート課題あり）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習、復習時間は合わせて4時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること

【Outline and objectives】

This course aims to study Japanese sports culture.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「身体活動による生理学的効果」、「身体活動の心理学的効果」、「健康関連情報の取捨選択」、「身体活動と健康」の 4 つをテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理学的および心理学的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。

その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第 2 回	身体活動に対する先行研究のまとめと活動内容の発表	自身が探索したい身体活動による効果（筋量の増大、筋パワーの向上、減量等）について報告する（プレゼンテーション）
第 3 回	身体活動によって変化する生理的要因 1	身体活動によって生じる体脂肪や骨格筋の変化について学ぶ
第 4 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 1	身体組成（体脂肪量・骨格筋量）の測定方法とその原理を学ぶ（演習）
第 5 回	身体活動によって変化する生理的要因 2	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第 6 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ（演習）

第 7 回	身体活動によって変化する生理的要因 3	有酸素性運動時の生理学的状態と効果について学ぶ
第 8 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ（演習）
第 9 回	身体活動によって変化する生理的要因 4	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第 10 回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第 11 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）
第 12 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 2	学んだ知識や情報に基づき、グループで骨格筋量増大に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）
第 13 回	身体活動に関する心理的要因 1	健康行動を発生・継続させるための心理的要因を各自で調べ、グループで討論する。
第 14 回	身体活動に関する心理的要因 2	健康行動を発生・継続させるための心理的要因について学び、自らの生活に照らして達成を目指した計画を提案する（プレゼンテーション）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%、2) 各回のプレゼンテーションの内容：20%、の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は、すべてオンラインでの授業となってしまう、当初計画していた種々の測定や演習が出来ない状況でした。そのため、履修学生の皆さんには、実際に測定を行わない状況での様々なプレゼンや課題に取り組んでもらうことになってしまいました。2021 年度は、対面での授業を実施する予定ですので、健康や身体活動に関わる様々な知識の習得だけでなく、実際に自らの身体を測定し評価することを通じた学びを提供できるようにしていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備してください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者を最大 20 名とします。第 1 回目の授業時において履修希望者が 20 名を超えた場合には、履修人数の制限を行います。そのため、第 1 回目の授業には必ず出席してください。体調不良等でどうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため、授業を通じて運動やトレーニングの実践のみを希望する者の履修は認めません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to understand the physiological and psychological benefits accompany physical activity, sift through the evidence the health-related information, and the understanding of the relationship between physical activity and health.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようにすることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康や QoL の本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
- ・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスを報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視します。

授業はリアルタイム動画やオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、数種目の自宅等での身体活動および受講者自身の調査活動等から構成されます。毎回の授業は、原則時間割に設定された曜日・時限に合わせて行います。

また、授業後半においては、受講者自身が行う身体活動の実践状況、実践を通じた感想、考えや意見などのプレゼンテーションなどを行い、最終的な結果を文章として提出を求めます。

なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第2回	様々な対象における健康の考え方1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第3回	様々な対象における健康の考え方2	青年期の健康と身体活動について学ぶ
第4回	身体活動のプログラム作成の実際1	目的に応じて身体活動プログラムを作成して討論し、実践する（演習）
第5回	身体活動のプログラム作成の実際2	前回作成した内容の実践結果を踏まえて身体活動プログラムを修正し、実践する（演習）

第6回	健康関連情報の取捨選択 1	日本人の健康状態と新たな健康づくりを学ぶ
第7回	健康関連情報の取捨選択 2	今日の健康における様々な社会問題の関与を学ぶ
第8回	身体活動と心身の健康	生活習慣病の成因と身体活動との関係を学ぶ
第9回	身体活動と心身の健康 2	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状态を学ぶ
第10回	身体活動や健康に関する情報のアウトプット	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報や表現・表記方法を学ぶ（演習）
第11回	身体活動の効果を測定・評価するための手法 1	身体活動の効果を測定するために必要な生理的・心理的手法を学ぶ（演習）
第12回	身体活動の効果を測定・評価するための手法 2	身体活動の効果を評価するために必要な分析方法を学ぶ（演習）
第13回	身体活動実践結果の報告	実践した身体活動の効果について客観的情報を踏まえて報告する（プレゼンテーション）
第14回	各自の身体活動に関する論議と授業のまとめ	各自が実践した内容を論議し、対象者目的に応じた身体活動に必要な知識や情報を学ぶ（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習して個人の考え・意見をまとめた上で次回の授業に出席することを求めます。さらに、第6～12回においては、各自の身体活動の状況や結果の報告を求めますので、これらの回においては関連のデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを100点満点で評価した上で合計し、それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。
評価得点 = 【すべての課題の「得点」の総和】 / 【すべての課題で「獲得可能な最高得点」(課題数 × 100)】 × 100

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は、すべてオンライン授業となっており、当初予定していた演習などが予定通りに進まず、受講生の皆さんの要望に応えられない部分もありました。ただ、結果として最終的にグループで作成した論文については、学内の研究センターの発行する雑誌へ投稿することができ、一定の評価を得ることができました。

2021年度も、受講生と相談しながら学んだ成果を発表することを念頭に、その過程における文章の執筆方法、データの集約方法などについてもしっかりと指導し、教養ゼミとして充実した活動となるように工夫して行く予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、同一副題の教養ゼミ I の単位を取得していることを履修の条件とします。

ただし、第1回目の授業において、履修希望者が定員（20名）を下回っている条件下においてのみ、担当教員との面談により教養ゼミ I の単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、授業を通じて運動やトレーニングの実践のみを希望する者の履修は認めません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語 A 2017年度以降入学者

コルベイユ スティーブ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。4 技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に学習しながらフランス語でのコミュニケーション能力を高める。また、フランスの文化や習慣についても理解を深める。

*** この科目はオンラインで実施。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Leçon 1	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10 ・不定冠詞（1）
2	Leçon 2	・職業や国籍を言う ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 3	・話せる言語を言う ・定冠詞 le, la, les ・名詞の複数形 ・動詞-er(1)
4	Leçon 4	・住んでいる国や都市を言う ・国名 /都市の前の前置詞 ・否定形
5	Leçon 5	・年齢を言う ・不定詞（2） ・il y a ・不定の de ・動詞 avoir
6	Leçon 6	・行き先を言う ・前置詞 à と定冠詞の縮約 ・動詞 faire, aller
7	Leçon 7	・人や物を描写する ・形容詞の性、数、位置

8	中間試験	筆記試験または課題提出
9	Leçon 8	・指示形容詞 ce, cette, ces ・直接目的補語人称代名詞 le, la, les ・動詞 vouloir, prendre
10	Leçon 9	・食料品を買う ・部分冠詞 du, de la ・中性代名詞 en
11	Leçon 10	・位置関係を言う ・前置詞 de と定冠詞の縮約
12	Leçon 11	・命令をする ・命令形 ・中性代名詞 y
13	Leçon 12	・質問をする ・疑問文の作り方 ・近接未来
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Kitamura Ayako, Durrenberger Vincent（著）『Maestro 1 マエストロ 実践フランス語 初級』朝日出版者 2020 年

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French to students learning it as the third language. Students will also learn about French society and culture.

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017 年度以降入学者

コルベユ スティーブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文圏環境キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。4 技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に学習しながらフランス語でのコミュニケーション能力を高める。また、フランスの文化や習慣についても理解を深める。

*** この科目はオンラインで実施。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	・前期の復習 ・Bilan
2	Leçon 13	・天気について話す ・時刻を言う ・非人称構文
3	Leçon 14	・自分の 1 日を語る ・代名動詞
4	Leçon 15	・今していることを言う ・進行形 ・近接過去
5	Leçon 16	・過去の行為や出来事を語る（1）
6	Leçon 17	・過去の行為や出来事を語る（2） ・複合過去（2）
7	Leçon 18	・過去の行為や出来事を語る（3） ・代名動詞の複合過去
8	Leçon 19	・比較する ・比較級
9	中間試験	筆記試験
10	Leçon 20	・過去の状態、習慣、感想を言う ・半過去 ・複合過去と半過去
11	Leçon 21	・実践するスポーツを言う ・faire du/de la+スポーツ
12	Leçon 22	・身体の状態を伝える ・avoir mal à+身体部彙 ・条件法（1）

13	Leçon 23	・誘う ・tu pourrais/vous pourriez ・条件法（2）
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Kitamura Ayako, Durrenberger Vincent（著）『Maestro 1 マエストロ 実践フランス語 初級』朝日出版者 2020 年

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French to students learning it as the third language. Students will also learn about French society and culture.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界規模における経済的な相互依存が進むなかで、グローバル化への反発をその構成要素として含むポピュリズムが世界各国の政治をゆるがせています。このゼミでは、西ヨーロッパを中心に、東ヨーロッパや南北アメリカ、オセアニアを含む、欧米地域におけるいわゆる移民社会への反発と、「多数派」の有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてながら、バイデン米大統領の就任によって特徴づけられる 2021 年の国際社会について考察します。

【到達目標】

- ・必ずしも現代の西ヨーロッパについて専門的に学んだことのない方をふくめ、これからの時代を生きていく人びとに必要な民主主義にかんする教養（市民性の意味における **citizenship**）を身につける。
- ・【言語】 使用言語は日本語とする。英語、フランス語などの言語の運用能力の習得はこの授業の到達目標に入らない（※）。
- ・【教科書】 「ポピュリズム」や「移民社会」といった概念の多義性や、言語・地域による用法の違いを認識する。
- ・【学生からの話題提供】 時事問題など今日的な話題と教科書で得た知識を関連づけられるようにする。
- ・【情報リテラシー】 毎回の話題提供をつうじ、あなたが作成した Google スライドや Google ドキュメントを他の授業参加者と共有する方法や、Zoom の画面共有機能を用いたプレゼンテーションをつうじ、あなたの考えや思いをオンライン上での確に伝える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) この科目「教養ゼミ」はハイブリッド授業（Zoom を用いたリアルタイム・オンライン授業と、教室での対面授業の混合）が予定されています。2021 年 1 月のシラバス執筆時点では、2021 年 4-7 月期の感染拡大状況を予測することは困難であるため、オンライン授業と教室での対面授業の構成比率は、履修する学生の皆さんの意見を踏まえて決定していきます。

(イ) 対面、オンライン、いずれの授業形態においても、毎週の授業の内容に関係のある、簡単な話題提供を学生の皆さんにお願いしています。

(ウ) (イ) に加え、教科書の内容にかんする学生の報告と、報告を受けての他の学生からの意見や疑問点の提示、ディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	ポピュリズムとは何か ①	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 7-23 頁の講読 → 掲示板への書き込み

4	ポピュリズムとは何か ②	学生による話題提供 → 教科書 23-35 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	世界中のポピュリズム ①	学生による話題提供 → 教科書 37-53 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	世界中のポピュリズム ②	学生による話題提供 → 教科書 53-65 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	ポピュリズムと動員①	学生による話題提供 → 教科書 67-79 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	ポピュリズムと動員②	学生による話題提供 → 教科書 79-93 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	ポピュリズムの指導者 ①	学生による話題提供 → 教科書 95-107 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ポピュリズムの指導者 ②	学生による話題提供 → 教科書 107-119 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ポピュリズムとデモクラシー①	学生による話題提供 → 教科書 121-132 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	ポピュリズムとデモクラシー②	学生による話題提供 → 教科書 132-143 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	原因と対応	学生による話題提供 → 教科書 145-176 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(ア) 教科書の次回の範囲を予習してきてください。
(イ) 指定する LMS（学習支援システム-Hoppii か Google Classroom）の場所に、話題提供や教科書報告用のリンクと資料、文章を授業開始時刻より前に貼り付けてください。
(ウ) この授業の準備や復習に必要な学習時間は、上記 (ア) (イ) を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018 年。

この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo>

【参考書】

Dominique Reynié, *Populismes : la pente fatale*, Plon, 2011.
Raphaël Doan, *Quand Rome inventait le populisme*, Les éditions du Cerf, 2019.

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表（話題提供 1 回 3 点、教科書発表 1 回 10 点満点）55%
2. 授業参加の積極性（担当範囲外での発言など）30%
3. その他（授業運営への協力など）15%

【学生の意見等からの気づき】

(ア) 法政大学が提供している LMS（学習支援システム-Hoppii や Google Classroom）を、Zoom と併用しますが、中華人民共和国など Google への接続が困難な国から接続せざるをえない履修者がいた場合は、配慮いたします。

(イ) 2020 年度は、G Suite を活用した文書共有に加え、Hoppii の「OATube」機能を用い、PressReader の使い方を説明するために作った動画を掲載することも行いました。

(ウ) 就職活動などによる欠席者のために、Zoom の授業録画などを、履修者のみのあいだで、一般には非公開のかたちで共有する予定です。

(エ) 2020 年度にリアルタイム・オンライン授業に初めて挑戦しましたが、教室における対面授業に劣らず、オンラインでも、学生間のコミュニケーションはとれていたのではないかと思います。教員も努力しますが、履修学生の皆さんも、できれば Web カメラを ON にするなどして（強制はしません）、活発な雰囲気づくりにご協力ください。

【学生が準備すべき機器他】

①資料の配布や学生からの成果物の提出、その他さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii 等）で行ないます。

②パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを行って頂きます。Zoom 上での画面共有をもちいたプレゼンテーションをしたことがない方は、法政大学から配布済みの Zoom のアカウントをもちい、練習をしておいてください。

③学外から法政大学図書館のオンラインデータベース (JapanKnowledge や PressReader の利用を推奨しています) が利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。

④法政大学が提供している VPN 接続の使用方法については「全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイト / VPN サービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】

①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

(※) この「教養ゼミⅠ」における使用言語は日本語ですが、時事的な内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline and objectives】

This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界規模における経済的な相互依存が進むなかで、グローバル化への反発をその構成要素として含むポピュリズムが世界各国の政治をゆるがせています。このゼミでは、西ヨーロッパを中心に、東ヨーロッパや南北アメリカ、オセアニアを含む、欧米地域におけるいわゆる移民社会への反発と、「多数派」の有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてながら、バイデン米大統領の就任によって特徴づけられる 2021 年の国際社会について考察します。

【到達目標】

- ・必ずしも現代の西ヨーロッパについて専門的に学んだことのない方をふくめ、これからの時代を生きていく人びとに必要な民主主義にかんする教養（市民性の意味における citizenship）を身につける。
- ・【言語】使用言語は日本語とする。英語、フランス語などの言語の運用能力の習得はこの授業の到達目標に入らない（※）。
- ・【教科書】「ポピュリズム」や「移民社会」といった概念の多義性や、言語・地域による用法の違いを認識する。
- ・【学生からの話題提供】時事問題など今日的な話題と教科書で得た知識を関連づけられるようにする。
- ・【情報リテラシー】毎回の話題提供をつうじ、あなたが作成した Google スライドや Google ドキュメントを他の授業参加者と共有する方法や、Zoom の画面共有機能を用いたプレゼンテーションをつうじ、あなたの考えや思いをオンライン上で的確に伝える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) この科目「教養ゼミ」はハイブリッド授業（Zoom を用いたリアルタイム・オンライン授業と、教室での対面授業の混合）が予定されています。2021 年 1 月のシラバス執筆時点では、2021 年 9 月-2022 年 1 月期の感染拡大状況を予測することは困難であるため、オンライン授業と教室での対面授業の構成比率は、履修する学生の皆さんの意見を踏まえて決定していきます。

(イ) 対面、オンライン、いずれの授業形態においても、毎週の授業の内容に関係のある、簡単な話題提供を学生の皆さんにお願いしています。

(ウ) (イ) に加え、教科書の内容にかんする学生の報告と、報告を受けての他の学生からの意見や疑問点の提示、ディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	現代政治の歴史的な文脈における「保守主義型福祉国家」の成立	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 1-27 頁の講読 → 掲示板への書き込み

4	中間団体政治の形成と展開／大陸型福祉国家の隘路	学生による話題提供 → 教科書 28-57 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	福祉国家改革の開始／パートタイム社会オランダ	学生による話題提供 → 教科書 57-100 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	ポスト近代社会の到来とオランダモデル	学生による話題提供 → 教科書 100-111 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	移民問題とフォルタイン	学生による話題提供 → 教科書 113-139 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	フォルタイン党の躍進とフォルタイン殺害	学生による話題提供 → 教科書 139-165 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	バルケネンデ政権と政策転換	学生による話題提供 → 教科書 165-182 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ファン・ゴッホ殺害事件	学生による話題提供 → 教科書 182-193 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ウィンデルス自由党の躍進	学生による話題提供 → 教科書 193-212 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	福祉国家改革と移民	学生による話題提供 → 教科書 214-227 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	脱工業社会における言語・文化とシティズンシップ	学生による話題提供 → 教科書 227-243 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(ア) 教科書の次回の範囲を予習してきてください。

(イ) 指定する LMS（学習支援システム-Hoppii か Google Classroom）の場所に、話題提供や教科書報告用のリンクと資料、文章を授業開始時刻より前に貼り付けてください。

(ウ) この授業の準備や復習に必要な学習時間は、上記（ア）（イ）を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。

※図書館からの貸し出しを利用する場合は、下記を参考にしてください。

この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo>

【参考書】

ギュスターヴ・ル・ボン『群衆心理』櫻井成夫訳、講談社学術文庫、1993年。

エリアス・カネッティ『群衆と権力』（上・下）岩田行一訳、法政大学出版局、1971年。

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表（話題提供1回3点、教科書発表1回10点満点）55%
2. 授業参加の積極性（担当範囲外での発言など）30%
3. その他（授業運営への協力など）15%

【学生の意見等からの気づき】

(ア) 法政大学が提供している LMS（学習支援システム-Hoppii や Google Classroom）を、Zoom と併用しますが、中華人民共和国など Google への接続が困難な国から接続せざるをえない履修者がいた場合は、配慮いたします。

(イ) 2020年度は、G Suite を活用した文書共有に加え、Hoppii の「OATube」機能を用い、PressReader の使い方を説明するために作った動画を掲載することも行いました。

(ウ) 就職活動などによる欠席者のために、Zoom の授業録画などを、履修者のみのあいだで、一般には非公開のかたちで共有する予定です。

(エ) 2020年度にリアルタイム・オンライン授業に初めて挑戦しましたが、教室における対面授業に劣らず、オンラインでも、学生間のコミュニケーションはとれていたのではないかと思います。教員も努力しますが、履修学生の皆さんも、できれば Web カメラを ON にするなどして（強制はしません）、活発な雰囲気づくりにご協力ください。

【学生が準備すべき機器他】

(ア) 資料の配布や学生からの成果物の提出、その他さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii 等）で行ないます。

(イ) パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを行って頂きます。Zoom 上での画面共有をもちいたプレゼンテーションをしたことがない方は、法政大学から配布済みの Zoom のアカウントを使って練習をしてください。

(ウ) 学外から法政大学図書館のオンラインデータベース（JapanKnowledge や PressReader の利用を推奨しています）が利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。

(エ) 法政大学が提供している VPN 接続の使用方法については「全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイト／VPN サービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】

①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

(※) この「教養ゼミ I」における使用言語は日本語ですが、時事的な内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline and objectives】

This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Au premier semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur un ou plusieurs pays de la francophonie. Chaque thème continue ensuite d'être étudié sur quelques séances pour permettre un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : aires francophones (Europe francophone, Amérique francophone, Afrique francophone, France d'outre-mer); colonisation ; immigration ; identité nationale et langue ; cultures populaires francophones ; cinéma ou chanson francophone ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) ou "kentei-shiken".

(この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant une ou deux séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.

- note de synthèse.

- commentaire de texte.

- dissertation (technique de plan, développement, rédaction).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants

③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation personnelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Il n'y a pas de manuel mais des photocopiés, souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà. (仏仏辞典の持参が望ましい)

Des ouvrages de référence peuvent être proposés selon les thèmes abordés.

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faut apprendre, retenir et réemployer les expressions et mots nouveaux.

Le travail par groupes est organisé en fonction du nombre des étudiants.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL. Mais les étudiants sont libres d'apporter ordinateur ou smartphone pour utilisation en cours (recherches sur internet, enregistrement de son ou d'image, etc.).

【その他の重要事項】

En principe, ce cours de printemps se déroule en présentiel mais une partie des cours pourront encore avoir lieu en ligne (distanciel).

【Prerequisite】

Un niveau A2/B1 est nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【Outline and objectives】

During this first semester, students present - individually or in small groups - a social, cultural or historical theme on one or more countries of the French-speaking world. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: French-speaking areas (French-speaking Europe, French-speaking America, French-speaking Africa, overseas France, etc.); colonization; immigration; national identity and language; French-speaking popular cultures; French-speaking cinema or songs; etc.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：フランスの現代社会

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur la France. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : la crise sociale (les oppositions populaires aux "réformes"); histoire de la Ve République ; l'immigration ; la France dans l'Union Européenne ; les atouts de la France ; la gestion de la crise Covid ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) ou "kenteishiken"(à partir du niveau 2). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant une ou deux séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- compte-rendu de lecture ou de débat.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes portant sur la France contemporaine - attribution des premiers exposés

②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants	【その他の重要事項】 En principe, ce cours de printemps se déroule en présentiel mais une partie des cours pourront encore avoir lieu en ligne (distanciel).
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème	【Prerequisite】 Un niveau A2/B1 est nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales	【Outline and objectives】 During this second semester, students, individually or in small groups, will present a social, cultural or historical theme about France. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants	Some examples of possible themes: the social crisis (popular oppositions to "reforms"); history of the Fifth Republic; immigration; France in the European Union; the assets of France; Covid crisis in France; etc.
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème	This is a seminar aimed at developing academic skills.
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales	Intermediate and advanced level in French (B1/B2).
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants	
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème	
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales	
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants	
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème	
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales	
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation individuelle rendue à ce dernier cours	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Des photocopiés seront distribués (プリント配布).

Une liste d'ouvrages, adaptés aux thèmes retenus, sera aussi distribuée pour des lectures recommandées.

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests de contrôle possibles).

Le travail par groupes sera organisé en fonction du nombre d'inscrits à ce cours.

【学生が準備すべき機器他】

Ce cours se déroule dans une classe LL. Les étudiants sont libres d'utiliser ordinateur personnel ou smartphone (recherches sur internet, enregistrement de sons ou d'images, etc.).

LANF300LA

フランス語コミュニケーション 2017年度以降入学者
(中・上級) A

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau A1 (2 ou 3 semestres de français déjà effectués). Lire, comprendre, parler, écrire, ces 4 compétences sont activement travaillées. Ce cours présente aussi des éléments de la société et de la culture françaises.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants de niveau A1 de progresser méthodiquement vers un niveau A2 complet. C'est donc une préparation directe aux examens DELF A2 ou "kentei shiken" (仏検準2級・2級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Le manuel Édito A2 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier de travailler l'écrit ni d'étudier la grammaire et le vocabulaire de niveau intermédiaire. L'étudiant progresse avec confiance avec cette méthode complète et graduée. Elle permet aussi à l'étudiant de progresser seul en dehors des cours (révisions, compléments, périodes de vacances) grâce aux compléments du livre et aux ressources internet (site Didier).

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Faisons connaissance ! Présentation de la méthode Édito et de l'unité 1 (pp.1-13)
2	Unité 1 : C'est la vie (1)	pp.14-17 : se présenter, parler de sa vie ; le passé composé
3	Unité 1 : C'est la vie (2)	pp.18-21 : sorties et loisirs ; la phrase négative
4	Unité 1 : C'est la vie (3)	pp.22-26 : le temps libre ; quizz
5	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (1)	pp.27-31 : le(s) souvenir(s) ; l'imparfait
6	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (2)	pp.32-35 : souvenirs de vacances ; pronoms de lieu "y" et "en"
7	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (3)	pp.36-40 : souvenirs de lieux ; préparation au DELF A2 (compréhension des écrits)
8	Unité 3 : À la recherche d'un toit (1)	pp.41-45 : le logement ; les pronoms relatifs
9	Unité 3 : À la recherche d'un toit (2)	pp.46-49 : se loger à Montréal ou à Paris ; la comparaison

10	Unité 3 : À la recherche d'un toit (3)	pp.50-54 : logements insolites ou futuristes ; les pronoms possessifs
11	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (1)	pp.55-59 : les innovations des sciences et techniques ; le futur simple
12	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (2)	pp.60-63 : smartphone et technologies de la communication ; la condition avec "si"
13	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (3)	pp.64-68 : internet ; le pronom "on"
14	Récapitulatif du 1er semestre	Préparation du DELF A2 (la production écrite) Test final

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Une participation active en classe est exigée. A la fin de chaque cours, des exercices ou devoirs thématiques sont donnés à préparer pour le cours suivant (2 à 4 heures de préparation).

【テキスト (教科書)】

Édito niveau A2 ; Heu, Abou-Samra, Braud, Brunelle ; Éditions Didier ; ISBN : 978-2-278-08319-0

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Rythme de progression ralenti.

Importance du vocabulaire et de la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou leur smartphone pour faire des recherches internet, utiliser le dictionnaire ou enregistrer des sons ou images.

【その他の重要事項】

Le cours se déroule en classe (présentiel) mais quelques séances peuvent encore se tenir en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un niveau A1 en français est indispensable pour participer à ce cours.

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically develop their oral and written communication, thus improving their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about french society or culture will also be extended.

LANF300LA

フランス語コミュニケーション 2017年度以降入学者
(中・上級) B

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau A1 très complet (3 à 4 semestres de français déjà effectués). Lire, comprendre, parler, écrire, ces 4 compétences sont activement travaillées. Ce cours présente aussi des éléments de la société et de la culture françaises.

【到達目標】

Ce cours, dont c'est le second semestre, permet aux étudiants de se rapprocher d'un niveau A2 complet. Il constitue donc une préparation directe aux examens DELF A2 ou "kentei shiken" (仏検準2級・2級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Le manuel Édito A2 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier de travailler l'écrit ni d'étudier la grammaire et le vocabulaire de niveau intermédiaire. L'étudiant progresse avec confiance avec cette méthode graduée. Elle permet aussi à l'étudiant de progresser seul en dehors des cours (révisions, compléments, périodes de vacances) grâce aux compléments du livre et aux ressources internet (site Didier).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Unité 5 : En forme ? (1)	Présentation du cours au 2nd semestre pp.69-72 : avoir la forme ; l'obligation et l'interdiction
2	Unité 5 : En forme ? (2)	pp.73-75 : le corps et la santé ; le subjonctif présent
3	Unité 5 : En forme ? (3)	pp.76-79 : la santé et la médecine ; verbes irréguliers au subjonctif
4	Unité 6 : Côté cuisine (1)	pp.83-87 : les aliments ; le pronom "en" de quantité
5	Unité 6 : Côté cuisine (2)	pp.88-91 : dîner au restaurant ; le superlatif
6	Unité 6 : Côté cuisine (3)	pp.92-96 : les saveurs ; l'adverbe en "-ment" ; préparation au DELF A2 (la production écrite)
7	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (1)	pp.97-100 : noms et prénoms ; les pronoms interrogatifs
8	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (2)	pp.101-103 : le caractère ; les adjectifs indéfinis

9	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (3)	pp.104-108 : le physique ; l'expression des sentiments
10	Unité 8 : L'actu en direct (1)	pp.111-117 : les supports de l'info ; la cause et la conséquence
11	Unité 8 : L'actu en direct (2)	pp.118-122 : séries télévisées, médias, radios et télé ; l'impératif (complément)
12	Unité 11 : On recrute (1)	pp.153-157 : les études ; la mise en relief
13	Unité 11 : On recrute (2)	pp.158-163 : le monde professionnel, votre CV ; le discours rapporté
14	Récapitulatif du 2nd semestre	Préparation du DELF A2 (p.124 : compréhension de l'oral et p.152 : la production orale) Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est exigée. A la fin de chaque cours, des exercices ou devoirs thématiques sont donnés à préparer pour le cours suivant (2 à 4 heures de préparation).

【テキスト（教科書）】

Édito niveau A2 ; Heu, Abou-Samra, Braud, Brunelle ; Éditions Didier ; ISBN : 978-2-278-08319-0

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

Rythme de progression ralenti.

Importance du vocabulaire et de la prononciation.

Plus de données culturelles.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou leur smartphone pour faire des recherches internet, utiliser le dictionnaire ou enregistrer des sons ou images.

【その他の重要事項】

Le cours se déroule en classe (présentiel) mais quelques séances peuvent encore se tenir en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un bon niveau A1 en français est indispensable pour participer à ce cours.

【Outline and objectives】

This course (second semester) is for intermediate students with a full A1 level in French. Students will methodically develop their oral and written communication, thus improving their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about french society or culture will also be extended.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A 2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の不完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、ся 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（不完了体／完了体）

第 13 回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第 14 回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウイナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021 年、2000 円＋税。

辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。

東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）20 %、期末試験 80 %。

ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline and objectives】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 B 2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的な言語であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、ся 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

第 13 回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第 14 回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウイナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021 年、2000 円＋税。

辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。

東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %、期末試験 80 %。

ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline and objectives】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 2017年度以降入学者
A

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法の学習を終えた学生を対象とする読解と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。単語・文法（構文中心）の練習、文章作成の練習を行い、ロシア語の表現力を本格的に身につけます。

【到達目標】

社会・文化に関する中級ロシア語の文書をロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。読んだ文書に関する質疑応答ができること。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験（T P K II）A2 レベルの受験勉強にも役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

読みやすくおもしろい現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、聞き取り練習、文章作成の練習、会話練習を行います。授業への積極的な参加は、語学力アップにつながります。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

本授業はリアルタイムオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テキスト「インターネットのお陰で」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
2	テキスト「ボルシチ」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
3	テキスト「ロシア語が簡単」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
4	テキスト「女友達たち」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
5	テキスト「30年前のロシア」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
6	テキスト「ロシア語の体系」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
7	テキスト「バレエのチケット」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
8	テキスト「レストラン予約」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
9	テキスト「実践のための会話」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
10	テキスト「メール」	テキストの聴解、読解、質疑応答
11	テキスト「何故ですか」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
12	テキスト「悪い言葉」	テキストの聴解、読解、質疑応答
13	復習	試験対策
14	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて読解プリントを配布します。ロシア語の音声ファイルの配布も学習支援システムで行います。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、小テスト、宿題、授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変更することができま

【Outline and objectives】

This is a text reading and grammar-centered class for the students who have completed elementary Russian grammar. The students will read text related to Russian society and culture and learn intermediate grammar firmly.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法の学習を終えた学生を対象とする読解と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。単語・文法（構文中心）の練習、文章作成の練習を行い、ロシア語の表現力を本格的に身につけます。

【到達目標】

社会・文化に関する中級ロシア語の文書をロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。読んだ文書に関する質疑応答ができること。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験（T P K II）A2 レベルの受験勉強にも役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

読みやすくおもしろい現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、聞き取り練習、文章作成の練習、会話練習を行います。授業への積極的な参加は、語学力アップにつながります。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

本授業は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型授業ですが、具体的なスケジュールは学習支援システムでご参照ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テキスト「ロシア料理の歴史」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
2	テキスト「ロシア料理の歴史」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
3	テキスト「ロシアの天才たち」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
4	テキスト「ロシアの天才たち」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
5	テキスト「リコフ一家」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
6	テキスト「リコフ一家」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
7	テキスト「友達の作り方」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
8	テキスト「テレモク」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
9	テキスト「銀行員」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
10	テキスト「銀行員」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
11	テキスト「パヴェル・デュロフ」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習

12 テキスト「パヴェル・デュロフ」後半

13 復習 試験対策

14 期末試験 筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時におよび学習支援システムにて読解プリントを配布します。ロシア語の音声ファイルの配布は学習支援システムで行います。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト、宿題、授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業になった場合は授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変更することができます。

【Outline and objectives】

This is a text reading and grammar-centered class for the students who have completed elementary Russian grammar. The students will read text related to Russian society and culture and learn intermediate grammar firmly.

LANr300LA

実用ロシア語 A

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1 (T P K II-1、B1) を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 1 級 (T P K II-1) 受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システム経由でダウンロードできます。

本授業はオンライン授業になります。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	リスニング、会話練習
2	家族の話	リスニング、会話練習
3	趣味の話	リスニング、会話練習
4	履歴の話	リスニング、会話練習
5	ロシア伝統	リスニング、会話練習
6	お祝い、プレゼント	リスニング、会話練習
7	お買い物、化粧品	リスニング、会話練習
8	お買い物、食料品	リスニング、会話練習
9	お買い物、洋服	リスニング、会話練習
10	休暇の話	リスニング、会話練習
11	ホテルの予約	リスニング、会話練習
12	どこに行きたい	リスニング、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記テスト・その解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムでプリント教材を配布します。

【参考書】

「大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著） 東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 % 宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業内容は変更できます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1 (T P K II-1、B1) を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 1 級 (T P K II-1) 受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システム経由でダウンロードできます。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

本授業は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型授業ですが、具体的なスケジュールは学習支援システムでご参照ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	リスニング、会話練習
2	家の話	リスニング、会話練習
3	部屋の話	リスニング、会話練習
4	家事	リスニング、会話練習
5	夢のキャリア	リスニング、会話練習
6	電話のエチケット	リスニング、会話練習
7	メールのエチケット	リスニング、会話練習
8	映画の話	リスニング、会話練習
9	いつも通うところ	リスニング、会話練習
10	ロシアの見物	リスニング、会話練習
11	街を歩く	リスニング、会話練習
12	空港にて	リスニング、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記テスト・その解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時および学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

「大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著） 東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 % 宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業になった場合は授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業内容は変更します。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

ロシア語講読 A

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その1）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
2	基礎練習（その2）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その3）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
4	文章講読（その1）歴史	19世紀
5	文章講読（その2）文学	19世紀
6	文章講読（その3）思想	19世紀
7	文章講読（その4）政治・経済	19世紀
8	文章講読（その5）社会	19世紀
9	文章講読（その1）歴史	20世紀ないし現代
10	文章講読（その2）文学	20世紀ないし現代
11	文章講読（その3）思想	20世紀ないし現代
12	文章講読（その4）政治・経済	20世紀ないし現代
13	文章講読（その5）社会	20世紀ないし現代
14	期末試験	露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。

本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40%、期末試験60%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当。

【Outline and objectives】

This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes. Basically they will translate them from Russian to Japanese, but also have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

LANr300LA

ロシア語講読 B

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その 1）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
2	基礎練習（その 2）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その 3）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
4	文章講読（その 1）歴史	19 世紀
5	文章講読（その 2）文学	19 世紀
6	文章講読（その 3）思想	19 世紀
7	文章講読（その 4）政治・経済	19 世紀
8	文章講読（その 5）社会	19 世紀
9	文章講読（その 1）歴史	20 世紀ないし現代
10	文章講読（その 2）文学	20 世紀ないし現代
11	文章講読（その 3）思想	20 世紀ないし現代
12	文章講読（その 4）政治・経済	20 世紀ないし現代
13	文章講読（その 5）社会	20 世紀ないし現代
14	期末試験	露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。

本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当。

【Outline and objectives】

This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes. Basically they will translate them from Russian to Japanese, but also have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

LANr300LA

時事ロシア語 A

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章の訳読を中心とする。語彙・文法事項の確認に加え、記事の内容についてのディスカッションも行う。講読する文章は受講者の関心に合わせて選定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	新聞記事の講読およびディスカッション
3	内政②	新聞記事の講読およびディスカッション
4	外交①	新聞記事の講読およびディスカッション
5	外交②	新聞記事の講読およびディスカッション
6	宗教①	新聞記事の講読およびディスカッション
7	宗教②	新聞記事の講読およびディスカッション
8	文化①	新聞記事の講読およびディスカッション
9	文化②	新聞記事の講読およびディスカッション
10	ビジネス①	新聞記事の講読およびディスカッション
11	ビジネス②	新聞記事の講読およびディスカッション
12	テクノロジー①	新聞記事の講読およびディスカッション
13	テクノロジー②	新聞記事の講読およびディスカッション
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語の意味や文法事項を確認しながら日本語訳を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

LANr300LA

時事ロシア語 B

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章の訳読を中心とする。語彙・文法事項の確認に加え、記事の内容についてのディスカッションも行う。講読する文章は受講者の関心に合わせて選定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	社会①	新聞記事の講読およびディスカッション
3	社会②	新聞記事の講読およびディスカッション
4	司法①	新聞記事の講読およびディスカッション
5	司法②	新聞記事の講読およびディスカッション
6	経済①	新聞記事の講読およびディスカッション
7	経済②	新聞記事の講読およびディスカッション
8	環境①	新聞記事の講読およびディスカッション
9	環境②	新聞記事の講読およびディスカッション
10	スポーツ①	新聞記事の講読およびディスカッション
11	スポーツ②	新聞記事の講読およびディスカッション
12	ナショナリズム①	新聞記事の講読およびディスカッション
13	ナショナリズム②	新聞記事の講読およびディスカッション
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語の意味や文法事項を確認しながら日本語訳を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

LANe300LA

第三外国語としての中国語 A 2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語 B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、小テストを行います。テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、初級の文法を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。授業中に小テストや授業の質問に対するフィードバックを適宜行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。

※第 1 週目（初回授業）はオンラインです。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」「発音 3」	「発音の基本」ピンインの「発音 3」
3	「発音 3」「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第 7 課」「第 8 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第 9 課」「第 10 課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」「第 12 課」	「補語」「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」「第 14 課」	「動詞述語文 2」「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」「第 16 課」	「動詞述語文 4」「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」「第 18 課」	「動詞述語文 6」「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」「第 20 課」	「完了態」「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大切です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）などそのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 予習・復習状況（「e 宿題」） 20 %
- ② 小テスト・授業への参加度 40 %
- ③ 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。授業形態はハイフレックス型に対応しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe300LA

第三外国語としての中国語 B 2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語 A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、小テストを行います。テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、初級の文法を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。授業中に小テストや授業の質問に対するフィードバックを適宜行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」「第 22 課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」「第 24 課」	「形容詞述語文」
4	「第 25 課」「第 26 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」1
5	「第 27 課」「第 28 課」	「名詞述語文」2
6	「第 29 課」「第 30 課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第 31 課」「第 32 課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第 33 課」「第 34 課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第 35 課」「第 36 課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第 37 課」「第 38 課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第 39 課」「第 40 課」	「把構文」「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	まとめ	「第 21 課から第 40 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）などそのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

① 予習・復習状況（「e 宿題」） 20 %

② 小テスト・授業への参加度 40 %

③ 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。授業形態はハイフレックス型に対応しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかり覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスの配布と説明。
第 2 回	あいさつ	あいさつなどの日常用語を練習する
第 3 回	実力テスト	リスニングのテストを行う
第 4 回	会話（1）	自己紹介の練習をする
第 5 回	授業内発表（1）	自己紹介を発表する
第 6 回	基本構文（1） 自由会話	1、主語・述語・目的語 2、疑問文
第 7 回	基本構文（2） 自由会話	1、連体修飾語 2、連用修飾語
第 8 回	基本構文（3）	補語
第 9 回	会話（2）	食事する時の会話
第 10 回	授業内発表（2）	講師と一対一で食事の時の会話をする
第 11 回	会話（3）	買い物する時の会話パターン
第 12 回	授業内発表（3）	講師と一対一で買い物のシミュレーションをする
第 13 回	復習	文法の復習をする
第 14 回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回 4 時間ほどの復習をする。

また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

それぞれのレベルの差に配慮をする。

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級 B 2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自由会話	夏休みの出来事話す
第 2 回	文法（1） 自由会話	複文のさまざま
第 3 回	文法（2） 自由会話	プリントにある文法に関する問題を解く
第 4 回	会話（1）	落とし物に関する会話
第 5 回	授業内発表（1）	落とし物に関する会話を発表
第 6 回	会話（2）	病院での会話パターン
第 7 回	授業内発表（2）	講師と一対一で病院でのやり取りを練習する
第 8 回	会話（3）	道を尋ねる/教える
第 9 回	授業内発表（3）	講師と一対一で道順に関するやり取りをする
第 10 回	会話（4）	スピーチやものの語り方
第 11 回	授業内発表（4）	スピーチ/ものを語る
第 12 回	作文	作文の練習
第 13 回	授業内発表（5）	作文の発表
第 14 回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週 4 時間を目的に復習する。

単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。

また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 A

2017 年度以降入学者

薬 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、参加者が中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

参加者が簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。翻訳課題の模範解答は、課題提出締切後に次週課題に添付される形で提供します。対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

学習内容については、ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

課題等へのフィードバックは以下のようになります。

- (1) 対面授業時に説明します。
 - (2) 「授業内掲示板」で随時受け付けて回答します。
 - (3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けて回答します。
- 付け。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
2	図書館の紹介	翻訳・通訳練習
3	バイト先の紹介	翻訳・通訳練習
4	食堂の紹介	翻訳・通訳練習
5	交通案内	翻訳・通訳練習
6	高速道路の紹介	翻訳・通訳練習
7	お正月の紹介	翻訳・通訳練習
8	空港と航空会社	翻訳・通訳練習
9	ネット事情の紹介	翻訳・通訳練習
10	携帯電話の紹介	翻訳・通訳練習
11	法政大学の紹介	翻訳・通訳練習
12	音楽の紹介	翻訳・通訳練習
13	日本の温泉の紹介	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。各授業日に使用されるテキストは『課題』の授業日別フォルダに記載または添付します。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 % とする。

1) 平常点について（1 回～13 回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

- ① 提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点
 - ② 提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の 6 割程度
 - ③ 提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の 5 割程度
 - ④ 提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の 2.5 割程度
- * 対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14 回目）

当日提出、35 点分。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B

2017 年度以降入学者

葉 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、参加者が中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへ到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。翻訳課題の模範解答は、課題提出締切後に、次週課題に添付される形で提供します。対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

学習内容については、ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

課題等へのフィードバックは以下ようになります。

- (1) 対面授業時に説明します。
- (2) 「授業内掲示板」で随時受け付けて回答します。
- (3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けて回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンビニの紹介	翻訳・通訳練習
2	スーパーと百貨店の紹介	翻訳・通訳練習
3	新聞とテレビの紹介	翻訳・通訳練習
4	東京の名所の紹介	翻訳・通訳練習
5	京都の名所の紹介	翻訳・通訳練習
6	家電製品の話	翻訳・通訳練習
7	留学生との交流	翻訳・通訳練習
8	日本の会社について	翻訳・通訳練習
9	和食の紹介	翻訳・通訳練習
10	居酒屋の紹介	翻訳・通訳練習
11	日本の政治について	翻訳・通訳練習
12	日本の経済状況について	翻訳・通訳練習
13	日中関係について	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。各授業日に使用されるテキストは『課題』の授業日別フォルダに記載または添付します。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 % とする。

1) 平常点について（1 回～13 回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

- ① 提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点
 - ② 提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の 6 割程度
 - ③ 提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の 5 割程度
 - ④ 提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の 2.5 割程度
- * 対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14 回目）

当日提出、35 点分。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 C

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 慣用句・略語・背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳 1 同形語 難訳単語・四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳 2 役職名、敬称、ビジネスシーンの通訳心得	L 1 逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳 2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳 3 フォーマルな表現、定型文	L 3 逐次通訳演習 L 4 宴会挨拶 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳 3 文章記号と表記ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳

8	通訳 3 数字、固有名称、リサーチ	L 4 逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳 3 通訳の選択補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳 4 スピードを求められる通訳、報道の表現、専門用語	L 5 逐次通訳演習 L 7 気象 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳 4 時事翻訳 1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ）
12	通訳 5 講演の定型表現、現場での対応	L 7 逐次通訳演習 L 1 2 中国の IT 市場
13	翻訳 5 時事翻訳 2	最新時事関連の応用翻訳（経済関連テーマ）
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認 総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 D

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 日中間の制度の違い、教育関連用語	L 8 教育 リプロダクション サイトトランスレーション
3	翻訳1 日本語表現の工夫 コロケーション	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 パブリックス ピーキング、敬語	L 8 逐次通訳演習 L 9 友好都市交流 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 訳す順序	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 目的語の省略、外来語	L 9 逐次通訳演習 L 10 ファッション リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ～1）
8	通訳4 要点の把握、聞き手への対応	L 10 逐次通訳演習 L 13 対中投資 リプロダクション サイトトランスレーション

9	翻訳4 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ～2）
10	通訳5 司会進行、文語的表現	L 13 逐次通訳演習 L 14 環境問題（1） リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳5 時事翻訳3	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～1）
12	通訳6	L 14 環境問題（2） 逐次通訳演習
13	翻訳6 時事翻訳4	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～2）
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined. Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

LANc300LA

中国語講読 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）対策のための授業です。春学期は HSK4 級の閲読を中心に扱います。読解には語彙力が必須です。そのため毎回授業で扱う本文の単語テストを行います。また本文に音声があれば、時間がある時に音声を聴き、リスニングに慣れる練習もする予定です。HSK 試験問題（閲読）に慣れておきたい方、ひとりで勉強するのが苦手な方、読解に苦手意識のある方、語彙力を増やしたい方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読と速読を通して、HSK4 級レベルの読解力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

①単語テスト、②練習問題の答案作成、③答え合わせと翻訳・内容理解・文法の解説、④仕上げに本文の速読の練習を中心に授業を進めます。受講生の様子を見ながら無理なく進めていく予定です。また、授業中に適宜単語テストや授業の質問に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。※第 1 週目（初回授業）はオンラインです。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認を行います。
2	HSK4 級閲読対策：練習問題①	単語テスト（1） HSK4 級閲読練習問題①の答案作成・翻訳と解説
3	HSK4 級閲読対策：練習問題②	単語テスト（2） HSK4 級閲読練習問題②の答案作成・翻訳と解説
4	HSK4 級閲読対策：練習問題③	単語テスト（3） HSK4 級閲読練習問題③の答案作成・翻訳と解説
5	HSK4 級閲読対策：練習問題④	単語テスト（4） HSK4 級閲読練習問題④の答案作成・翻訳と解説
6	HSK4 級閲読対策：練習問題⑤	単語テスト（5） HSK4 級閲読練習問題⑤の答案作成・翻訳と解説
7	HSK4 級閲読対策：練習問題⑥	単語テスト（6） HSK4 級閲読練習問題⑥の答案作成・翻訳と解説
8	HSK4 級閲読対策：練習問題⑦	単語テスト（7） HSK4 級閲読練習問題⑦の答案作成・翻訳と解説

9	HSK4 級閲読対策：練習問題⑧	単語テスト（8） HSK4 級閲読練習問題⑧の答案作成・翻訳と解説
10	HSK4 級閲読対策：練習問題⑨	単語テスト（9） HSK4 級閲読練習問題⑨の答案作成・翻訳と解説
11	HSK4 級閲読対策：練習問題⑩	単語テスト（10） HSK4 級閲読練習問題⑩の答案作成・翻訳と解説
12	HSK4 級閲読対策：練習問題⑪	単語テスト（11） HSK4 級閲読練習問題⑪の答案作成・翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	単語テスト（12） HSK4 級閲読練習問題①～⑪の復習
14	まとめ	HSK4 級閲読練習問題①～⑪のまとめの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に配布した単語を覚えてきてください。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）などそのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 単語テスト 30 %
- ② 授業参加度 30 %
- ③ まとめの試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

LANc300LA

中国語講読 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）対策のための授業です。秋学期は HSK5 級の閲読を中心に扱います。読解には語彙力が必須です。そのため毎回授業で扱う本文の単語テストを行います。また本文に音声があれば、時間がある時に音声を聴き、リスニングに慣れる練習もする予定です。HSK 試験問題（閲読）に慣れておきたい方、ひとりで勉強するのが苦手な方、読解に苦手意識のある方、語彙力を増やしたい方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読と速読を通して、HSK5 級レベルの読解力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

①単語テスト、②練習問題の答案作成、③答え合わせと翻訳・内容理解・文法の解説、④仕上げに本文の速読の練習を中心に授業を進めます。受講生の様子を見ながら無理なく進めていく予定です。また、授業中に適宜単語テストや授業の質問に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認を行います。
2	HSK5 級閲読対策：練習問題①	単語テスト（1） HSK5 級閲読練習問題①の答案作成・翻訳と解説
3	HSK5 級閲読対策：練習問題②	単語テスト（2） HSK5 級閲読練習問題②の答案作成・翻訳と解説
4	HSK5 級閲読対策：練習問題③	単語テスト（3） HSK5 級閲読練習問題③の答案作成・翻訳と解説
5	HSK5 級閲読対策：練習問題④	単語テスト（4） HSK5 級閲読練習問題④の答案作成・翻訳と解説
6	HSK5 級閲読対策：練習問題⑤	単語テスト（5） HSK5 級閲読練習問題⑤の答案作成・翻訳と解説
7	HSK5 級閲読対策：練習問題⑥	単語テスト（6） HSK5 級閲読練習問題⑥の答案作成・翻訳と解説
8	HSK5 級閲読対策：練習問題⑦	単語テスト（7） HSK5 級閲読練習問題⑦の答案作成・翻訳と解説

9	HSK5 級閲読対策：練習問題⑧	単語テスト（8） HSK5 級閲読練習問題⑧の答案作成・翻訳と解説
10	HSK5 級閲読対策：練習問題⑨	単語テスト（9） HSK5 級閲読練習問題⑨の答案作成・翻訳と解説
11	HSK5 級閲読対策：練習問題⑩	単語テスト（10） HSK5 級閲読練習問題⑩の答案作成・翻訳と解説
12	HSK5 級閲読対策：練習問題⑪	単語テスト（11） HSK5 級閲読練習問題⑪の答案作成・翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	単語テスト（12） HSK5 級閲読練習問題①～⑪の復習
14	まとめ	HSK5 級閲読練習問題①～⑪のまとめの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に配布した単語を覚えてきてください。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 単語テスト 30 %
- ② 授業参加度 30 %
- ③ まとめの試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

LANc300LA

資格中国語中級 A

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分 (41-50) 及び第二部分 (51-55) の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分 (56-60) 及び第三部分 (61-70) の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題 (71-80) の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

- 有用な文法書として以下のものをあけておく。
- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 3rd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語中級 B

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4 級リスニング対策①	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4 級リスニング対策②	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK4 級リスニング 対策③	HSK4 級リスニング問題の第二 部分（11-15）の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
5	HSK4 級リスニング 対策④	HSK4 級リスニング問題の第二 部分（16-20）の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
6	HSK4 級リスニング 対策⑤	HSK4 級リスニング問題の第二 部分（21-25）の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
7	HSK4 級リスニング 対策⑥	HSK4 級リスニング問題の第三 部分（26-30）の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
8	HSK4 級リスニング 対策⑦	HSK4 級リスニング問題の第三 部分（31-35）の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
9	HSK4 級リスニング 対策⑧	HSK4 級リスニング問題の第三 部分（36-40）の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
10	HSK4 級リスニング 対策⑨	HSK4 級リスニング問題の第三 部分（41-45）の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
11	HSK4 級読解対策	HSK4 級読解問題（46-85）の解 説
12	HSK4 級作文対策	HSK4 級作文問題（86-100）の 解説
13	HSK4 級模擬試験と 解説	HSK4 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑 応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華（他）2019『实用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。

・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANe300LA

資格中国語上級 A

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力、作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを基本にして読解力、翻訳力を高めます。そして作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。授業開始前、授業中、授業後、時間があれば、ご質問に答えます。社会情勢に合わせてオンデマンドとオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合があります。課題を提出して、問題点を説明します。個別にも指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	レベルチェック
2 回	第一課	方向補語など 目的語になる動詞句と主述句など
3 回	第一課	「的」の使い方のまとめ
4 回	第二課	比較の表現 逆接の表現など
5 回	第二課	振込み用紙の書き方など
6 回	第三課	結果補語 二重目的語など
7 回	第三課	動詞述語文用法のまとめ
8 回	第四課	可能補語 慣用形など
9 回	第四課	会話練習 葉書の書き方
10 回	第五課	連用修飾語 前置詞など
11 回	第五課	主語になる動詞句 お金のいい方 慣用形など
12 回	第六課	作文の練習
13 回	第六課	作文の校正
14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に使うプリントの内容をしっかりと理解し、発音できることと単文をちゃんと訳して用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。オンライン授業の場合、評価方法を変更する可能性があります。その時、お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生に高く評価されていました。続けてこのやり方でやります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するため通信環境・PC の準備をしてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級 B

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力、作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回ちょっとしたスピーチをしてもらいます。その後翻訳の練習など。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。社会情勢に合わせてオンデマンドとオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合があります。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	翻訳	形容詞など
2 回	翻訳	助動詞
3 回	翻訳	副詞・接続詞など
4 回	作文練習	文章記号と原稿用紙の使い方など
5 回	作文練習	作文指導
6 回	翻訳	予定・計画、願望・意志など
7 回	翻訳	推測、仮定、因果関係など
8 回	作文練習	作文指導
9 回	翻訳	伝聞、条件、選択など
10 回	翻訳	禁止、程度、複文など
11 回	作文練習	作文指導
12 回	翻訳	期待、要請、可能性など
13 回	作文の練習	作文指導
14 回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に使うプリントの内容をしっかりと理解し、発音できることと単文をちゃんと訳して用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

オンライン授業の場合、評価方法を変更する可能性があります。その時、お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するため通信環境・PC の準備をしてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

ARSe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』を教材として用いながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語運用能力の向上を目指す。
- ・中国の地理、地域の特色、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『舌尖上的中国』の内容に関するスクリプト（簡体字・ピンイン付）を毎回事前に配布しますので、各自で予習をしてきてください。授業では番組を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行います。中国語が不慣れな方も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて授業を進めます。また、毎回の授業前に担当箇所の仮訳を提出してもらい、授業の終わりに正しい翻訳とリアクションペーパーを提出してもらいます。翌週の授業内でリアクションペーパー等に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。
※履修希望者数が定員（教室収容定員）を超えた場合、初回に抽選を行いますので、授業開始前までに仮登録を済ませてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明・確認
2	中国各地の三食（1）	天津の「煎餃果子」：紅さんの露店にまつわる物語
3	中国各地の三食（2）	天津の「煎餃果子」：紅さんの煎餃果子の秘訣
4	中国各地の三食（3）	天津の「煎餃果子」：地域に愛される紅さんの露店
5	中国各地の三食（4）	広州の点心：陳勛がつくる「叉焼包」
6	中国各地の三食（5）	広州の点心：陳勛がつくる「叉焼包」と点心四天王
7	中国各地の三食（6）	広州の「早茶」習慣と働く若者の朝食事情
8	中国各地の三食（7）	深圳の工場で働く若者と社食
9	中国各地の三食（8）	深圳の企業で働く湖南出身の夫婦と食

10	中国各地の三食（9）	上海音楽学院に通う娘を支える母手製の「紅焼肉」
11	中国各地の三食（10）	上海音楽学院に通う娘を支える母手製の「紅焼肉」（続）
12	中国各地の三食（11）	「高考（大学統一入学試験）」に挑む親子と食：「 <input type="checkbox"/> 椒蒸 <input type="checkbox"/> 」 <input type="checkbox"/> 「蒿子 <input type="checkbox"/> 」
13	中国各地の三食（12）	「高考（大学統一入学試験）」に挑む親子と食：「干子 <input type="checkbox"/> 肉」
14	まとめ	春学期のふりかえり・レポートの発表と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配布します。

【参考書】

中央台道『舌尖上的中国』など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60 %（毎回のスクリプトの日本語訳の提出状況、リアクションペーパーの提出状況）
- ・レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』を教材として用いながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語運用能力の向上を目指す。
- ・中国の地理、地域の特色、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『舌尖上的中国』の内容に関するスクリプト（簡体字・ピンイン付）を毎回事前に配布しますので、各自で予習をしてきてください。授業では番組を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行います。中国語が不慣れな方も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて授業を進めます。また、毎回の授業前に担当箇所の仮訳を提出してもらい、授業の終わりに正しい翻訳とリアクションペーパーを提出してもらいます。翌週の授業内でリアクションペーパー等に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。
※履修希望者数が定員（教室収容定員）を超えた場合、初回に抽選を行いますので、授業開始前までに仮登録を済ませてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明・確認
2	中国各地の三食（1）	五穀の概念
3	中国各地の三食（2）	米食と広州の「河粉」
4	中国各地の三食（3）	陝西省西安名物の「肉夹馍」
5	中国各地の三食（4）	甘肅省蘭州の「蘭州拉麵」と広東省広州の「竹昇麵」
6	中国各地の三食（5）	陝西省岐山の「岐山臊子麵」
7	中国各地の三食（6）	蘇州の「楓鎮大肉麵」、武漢の「麵」[三鮮豆皮][熱乾麵]
8	中国各地の三食（7）	蘇州の「楓鎮大肉麵」、武漢の「麵」[三鮮豆皮][熱乾麵]（続）
9	中国各地の三食（8）	重慶の「牛肉麵」
10	中国各地の三食（9）	四川省樂山の周大姐が営む「麻辣」店
11	中国各地の三食（10）	四川省樂山の周大姐が営む「麻辣」店と「串串香」

12	中国各地の三食（1）	ハルピンの孔さん自家製「酸菜」
13	中国各地の三食（2）	孔さんの息子が科学技術で作る「酸菜」
14	まとめ	秋学期のふりかえり・レポートの発表と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配布します。

【参考書】

中央[]台[]道[]『舌尖上的中国』など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60 %（毎回のスクリプトの日本語訳の提出状況、リアクションペーパーの提出状況）
- ・レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 A 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。講師が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴
2	挨拶	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0～10
3	自己紹介	リスニングと会話練習、スペイン語圏の名前
4	職業	名詞の性数、冠詞、数詞 11～20
5	曜日	リスニングと会話練習、スペインのバル
6	スペイン語圏諸国	数詞 21～30、形容詞、主格人称代名詞、動詞 ser
7	人や物の描写	リスニングと会話練習、市場での買い物
8	小テスト、頻度表現	数詞 31～100、直説法現在規則動詞
9	習慣	リスニングと会話練習
10	服装・持ち物	指示詞、所有詞
11	日付、時刻	リスニングと会話練習、年中行事
12	場所を表す表現	動詞 ser, estar, hay
13	方角	リスニングと会話練習、道順、住居の間取り
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻博子／野村明衣『彩りスペイン語』朝日出版社、2021年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同友社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同友社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、小テスト（10%）、期末試験（40%）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

他の学生の発言や質問から学ぶことも多いので、対面でグループアクティビティも取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文圏環境キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

動詞の現在時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。講師が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日常生活	数詞 101～、直説法現在不規則動詞、直接目的格人称代名詞
2	旅行	リスニングと会話練習、スペイン語圏の世界遺産
3	買い物	語幹母音変化動詞、間接目的格人称代名詞
4	依頼、許可の表現	リスニングと会話練習、
5	義務の表現	動詞 tener, oír, decir, venir, ir
6	趣味	gustar 型動詞、前置詞格人称代名詞
7	体調	リスニングと会話練習
8	小テスト 天候	不定語・否定語、天候の表現
9	スペイン語圏の気候と自然	比較・最上級、リスニングと会話練習
10	一日のスケジュール	再帰動詞
11	道順	無人称文、序数
12	料理のレシピ	数量表現、動詞の復習
13	クリスマスと新年	お祝いのメッセージの書き方
14	期末試験、ふりかえり	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻博子／野村明衣『彩りスペイン語』朝日出版社、2021年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同郷社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同郷社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、小テスト（10%）、期末試験（40%）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

他の学生の発言や質問から学ぶことも多いので、対面でグループアクティビティも取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

スペイン語上級 A

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文圏環境キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章が理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

あらかじめ配布された講読資料をもとに、内容について詳しく見ていく。指名された学生は、スペイン語の文章の和訳を行なう。それについて、討議などを通じて全員で議論し、内容理解に努める。また、会話については、あらかじめ決められたテーマに沿って順番に発表してもらう。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。

9	講読 8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の授業で指定された資料にあらかじめ目を通しておくこと。わからない点については、事前に十分な予習をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながら授業を展開します。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

LANs300LA

スペイン語上級 B

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文圏環境キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

あらかじめ配布された講読資料をもとに、内容について詳しく見ていく。指名された学生は、スペイン語の文章の和訳を行なう。それについて、討議などを通じて全員で議論し、内容理解に努める。また、会話については、あらかじめ決められたテーマに沿って順番に発表してもらう。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。 教員による授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	テーマに関するディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。

9	講読 8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の授業で指定された資料にあらかじめ目を通しておくこと。わからない点については、事前に十分な予習をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Conducted in Spanish.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座はオンラインで実施する。Zoom を通じてリアルタイムで行う。この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。

【到達目標】

スペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に Break Out Room を使って仲間同士で決まった 10 個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後、前回の復習をしてから、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。本授業には課題がない。期末には「日本の結婚式」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	10 個の質問 1 スペインの結婚式 1	スペイン語 1 結婚式の時間
2	10 個の質問 2 スペインの結婚式 2	スペイン語 2 セレモニーの後
3	10 個の質問 3 スペインの結婚式 3	自分の家 1 披露宴の進行
4	10 個の質問 4 スペインの結婚式 4	自分の家 2 披露宴での配置
5	10 個の質問 5 スペインの結婚式 5	趣味 1 踊りの時間 1
6	10 個の質問 6 スペインの結婚式 6	趣味 2 踊りの時間 2
7	10 個の質問 7 スペインの結婚式 7	趣味 3 踊りの時間 3
8	10 個の質問 8 スペインの結婚式 8	趣味 4 二次会
9	10 個の質問 9 スペインの結婚式 9	食べ物 1 ご祝儀 1
10	10 個の質問 10 スペインの結婚式 10	食べ物 2 ご祝儀 2
11	10 個の質問 11 スペインの結婚式 11	仕事 1 カトリック式結婚
12	10 個の質問 12 スペインの結婚式 12	仕事 2 民事婚
13	10 個の質問 13 スペインのカップル	買い物 1 信頼度

1

14	10 個の質問 14 スペインのカップル	買い物 2 トラブル
	2	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りする PDF のお新しい語彙を覚えることと仲間同士で練習する 10 個の質問の答えを言えるように練習しておくことである。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通しておいてくること。本授業の予習と復習時間は合わせて 60 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。

出席点ではありません → 60 %

2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

Se requiere un nivel medio de comprensión para tomar esta clase. La lengua básica empleada será el japonés, no obstante, se empleará el español en muchas ocasiones.

【Outline and objectives】

This course will be conducted online in real time through Zoom. In this course, you will try to improve vocabulary in order to get a better communication with others.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級 B

2017 年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座はオンラインで実施する。Zoom を通じてリアルタイムで行う。この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。

【到達目標】

スペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に Break Out Room を使って仲間同士で決まった 10 個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。本授業には課題がない。期末には「日本のクリスマス」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	10 個の質問 1 スペインのクリスマス	過ぎたこと 1 12 月 22 日
2	10 個の質問 2 スペインのクリスマス	過ぎたこと 2 クリスマス宝くじ
3	10 個の質問 3 スペインのクリスマス	子供の時 1 クリスマスイブ
4	10 個の質問 4 スペインのクリスマス	子供の時 2 クリスマスの飾り
5	10 個の質問 5 スペインのクリスマス	携帯電話 1 プレゼントをもらう日
6	10 個の質問 6 スペインのクリスマス	携帯電話 2 大晦日
7	10 個の質問 7 スペインのクリスマス	経験 1 年の越し方
8	10 個の質問 8 スペインのクリスマス	経験 2 運をもたらす服
9	10 個の質問 9 スペインのクリスマス	なぜ? 1 お正月
10	10 個の質問 10 スペインのクリスマス	なぜ? 2 1 月 5 日

11	10 個の質問 11 スペインのクリスマス	いつ? 1 1 月 6 日
12	10 個の質問 12 スペインのクリスマス	いつ? 2 学校の始まり
13	10 個の質問 13 スペインのクリスマス	日本の習慣 1 スペインの休暇
14	10 個の質問 14 スペインの若者	日本の習慣 2 失業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りする PDF のお新しい語彙を覚えることとペア練習で使う 10 個の質問の答えを言えるように練習しておくことである。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくる必要がある。本授業の予習と復習時間は合わせて 60 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではありません → 60 %
2. 期末レポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

Se requiere un nivel medio de comprensión para tomar esta clase. La lengua básica empleada será el japonés, no obstante, se empleará el español en muchas ocasiones.

【Outline and objectives】

This course will be conducted online in real time through Zoom. In this course, you will try to improve vocabulary in order to get a better communication with others.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く：スペイン前近代史 **編外時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）**

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン（およびスペイン国家形成以前のイベリア半島）の歴史を学ぶ。春学期は前近代（古代～近世）の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディベート、そして学期末レポートにおいて言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディベートを行う。課題等に対するフィードバックは授業内でを行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン（イベリア）古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン（イベリア）中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17 世紀のスペイン史について学ぶ。
12	絶対王政と啓蒙	18 世紀のスペイン史について学ぶ。

- | | | |
|----|-----------|---------------------------|
| 13 | スペインの世界遺産 | 世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。 |
| 14 | 春学期のまとめ | スペイン（イベリア）前近代史を総括する。 |

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30%、ディベートへの参加度：30%、学期末レポート：40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く：スペイン近現代史

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペインの歴史を学ぶ。秋学期は近現代の通史を軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディベート、そして学期末レポートにおいて言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディベートを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	旧体制の揺動	18世紀末から19世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベール独裁	20世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州国家体制	現行制度でもあるスペインの自治州国家体制について学ぶ。
13	スペインの憲法	歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。

14 秋学期のまとめ 歴史的理解をもとに、現在のスペインにおける諸問題を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための50章』明石書店、2016年、ISBN9784750344157、本体価格2,000円。

【参考書】

資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は授業内で適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014年、ISBN 9784750340326、本体価格5,800円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30%、ディベートへの参加度：30%、学期末レポート：40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の再開後、プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用のPCとアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文圏環境キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧な復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

感染拡大予防措置を講じながら教室内での対面授業を行うことが困難であることから、本授業の形態は Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。授業形態の詳細や注意点は、学期開始に先立って学習支援システム上で公開するので、初回授業の前に必ず目を通しておくこと。

ただし以下の点は特に重要であるため、予め留意すること。

【下記の「授業計画」のうち、8 回目に予定している中間テスト、及び 14 回目に予定している期末テストについては、感染拡大予防措置を十分に講じること（マスクまたはフェイスシールドの着用徹底、教室内での会話の禁止等）を前提として、教室内での筆記試験を実施する。従って 8 回目及び 14 回目のみ、教室に来て受験することを必須とし、他の形での受験は認めない。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 語彙	教科書第 1 課の語彙確認
3	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 表現	教科書第 1 課の表現確認
4	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 文法	教科書第 1 課の文法復習
5	「私のビスケット」(Mis galletas) : 語彙	教科書第 2 課の語彙確認
6	「私のビスケット」(Mis galletas) : 表現	教科書第 2 課の表現確認
7	「私のビスケット」(Mis galletas) : 文法	教科書第 2 課の文法復習

8	中間テスト 「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 3 課の語彙確認
9	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 表現	教科書第 3 課の表現確認
10	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 文法	教科書第 3 課の文法復習
11	「最後の仕事」(El último trabajo) : 語彙	教科書第 4 課の語彙確認
12	「最後の仕事」(El último trabajo) : 表現	教科書第 4 課の表現確認
13	「最後の仕事」(El último trabajo) : 文法	教科書第 4 課の文法復習
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ：スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

ただし新型コロナウイルスの感染状況の推移によっては、中間テスト及び期末テストを教室内での筆記形式で実施することが不可能となる場合も考えられるため、成績評価方法も変更の可能性がある。変更の場合は学習支援システムで速やかに通知するので、こまめに確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はリアルタイムでのオンライン形式で実施するので、パソコンおよびインターネット環境を必須とする。

【Outline and objectives】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧な復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

感染拡大予防措置を講じながら教室内の対面授業を行うことが困難であることから、本授業の形態は Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。授業形態の詳細や注意点は、学期開始に先立って学習支援システム上で公開するので、初回授業の前に必ず目を通しておくこと。

ただし以下の点は特に重要であるため、予め留意すること。

【下記の「授業計画」のうち、8 回目に予定している中間テスト、及び 14 回目に予定している期末テストについては、感染拡大予防措置を十分に講じること（マスクまたはフェイスシールドの着用徹底、教室内の会話の禁止等）を前提として、教室内の筆記試験を実施する。従って 8 回目及び 14 回目のみ、教室に来て受験することを必須とし、他の形での受験は認めない。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 語彙	教科書第 5 課の語彙確認
3	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 表現	教科書第 5 課の表現確認
4	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 文法	教科書第 5 課の文法復習
5	「腸詰め」(La morcilla) : 語彙	教科書第 6 課の語彙確認
6	「腸詰め」(La morcilla) : 表現	教科書第 6 課の表現確認
7	「腸詰め」(La morcilla) : 文法	教科書第 6 課の文法復習

8	中間テスト 「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 7 課の語彙確認
9	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 表現	教科書第 7 課の表現確認
10	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 文法	教科書第 7 課の文法復習
11	「ラビ」(El rabino) : 語彙	教科書第 8 課の語彙確認
12	「ラビ」(El rabino) : 表現	教科書第 8 課の表現確認
13	「ラビ」(El rabino) : 文法	教科書第 8 課の文法復習
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ：スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

ただし新型コロナウイルスの感染状況の推移によっては、中間テスト及び期末テストを教室内での筆記形式で実施することが不可能となる場合も考えられるため、成績評価方法も変更の可能性がある。変更の場合は学習支援システムで速やかに通知するので、こまめに確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はリアルタイムでのオンライン形式で実施するので、パソコンおよびインターネット環境を必須とする。

【Outline and objectives】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーション I 2017年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 2年～※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 自己紹介 (簡単な表現・会話)	Einführung Zur Person (einfache Redemittel, Übungen)
②	自己紹介 (ほかの表現・練習)	Zur Person (weitere Redemittel, Übungen)
③	趣味 (簡単な表現・会話)	Hobbys (einfache Redemittel, Übungen)
④	趣味 (ほかの表現・練習)	Hobbys (weitere Redemittel, Übungen)
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物 (簡単な表現・会話)	Essen & Trinken (einfache Redemittel, Übungen)
⑦	食べ物・飲み物 (ほかの表現・練習)	Essen & Trinken (weitere Redemittel, Übungen)
⑧	総復習	Wiederholung (Wortschatz, Grammatik, Redemittel)
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付 (簡単な表現・会話)	Uhrzeit und Datum (einfache Redemittel, Übungen)
⑪	時刻と日付 (ほかの表現・練習)	Uhrzeit und Datum (weitere Redemittel, Übungen)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	練習	Übungen zur Wiederholung

⑭ 全体のまとめとテスト Zusammenfassung
Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習・宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline and objectives】

German language course;

basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life;

introduction to German culture.

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 2年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語 1 道を尋ねる (簡単な表現)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - einfache Redemittel)
④	旅行のためのドイツ語 2 道を尋ねる (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - weitere Redemittel, Übungen)
⑤	旅行のためのドイツ語 3 ホテルで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Hotel - einfache Redemittel)
⑥	旅行のためのドイツ語 4 ホテルで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Hotel - weitere Redemittel, Übungen)
⑦	旅行のためのドイツ語 5 レストランで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Restaurant - einfache Redemittel)

⑧	旅行のためのドイツ語 6 レストランで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Restaurant - weitere Redemittel, Übungen)
⑨	旅行のためのドイツ語 7 駅にて (簡単な表現)	Reisedeutsch (Verkehr - einfache Redemittel)
⑩	旅行のためのドイツ語 8 駅にて (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Verkehr - weitere Redemittel, Übungen)
⑪	旅行のためのドイツ語 9	Reisedeutsch (Reiseziele)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen Übungen zur Wiederholung
⑬	復習	Zusammenfassung
⑭	全体のまとめとテスト	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習・宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline and objectives】

German language course;
basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life;
introduction to German culture.

LANd200LA

ドイツ語表現法 I

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話も苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うならば是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともありますが、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書く I 辞書の使い方 I
2.	Länder, Städte, Zahlen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	Meine Stadt beschreiben	方位と場所
4.	Mein Alltag	日常 時間を表す
5.	Tagesablauf	助動詞
6.	Hobby und Freizeit	分離動詞
7.	Freizeitangebote in der Stadt	場所と時間を表す

8.	Liebingsdinge beschreiben	好きな「もの」を紹介する 冠詞と代名詞
9.	作文作成 2	発表
10.	Essen und Trinken	食生活についてと好み
11.	Im Restaurant	レストランのメニューと注文
12.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
13.	Vor den Ferien I	不規則動詞 話法の助動詞
14.	Vor den Ferien II	休暇中の予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。

予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）

提出してもらうドイツ語の作文（50%）

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要です。電子辞書可。

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd200LA

ドイツ語表現法Ⅱ

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話も苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります。パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Wohnen in der Stadt oder auf dem Land ?	理由を表す
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Feste feiern	複文
8.	An der Universität	大学について書く
9.	Meine Universität	グループワーク： 1 大学紹介を書く

10.	Meine Universität	グループワーク発表 2
11.	Eine Reise planen	旅行計画
12.	Sehenswürdigkeiten vorstellen	観光名所の紹介文を書く
13.	Erlebnisse und Erfahrungen	過去形 1 私の人生
14.	Erlebnisse und Erfahrungen	プレゼンテーション発表 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。

予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）

提出してもらったドイツ語の作文（50%）

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要。電子辞書可。

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd200LA

ドイツ語視聴覚 I

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ショートアニメで学ぶドイツ語」をテーマに、この授業では、Youtube の無料学習チャンネルを使用し、自然なドイツ語を学び、異文化に対する姿勢や意識を高めることを目的とする。
 オンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- ・楽しくドイツ語の読解力やリスニング力などを向上させる。
- ・ドイツの視聴覚文化に関わる基礎的な知識を修得する。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。
- ・Web 上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
2	<i>Haus und Möbel</i> (1)	家の紹介についてドイツ語学習 (1)
3	<i>Haus und Möbel</i> (2)	家の紹介についてドイツ語学習 (2)
4	<i>Ein Tag im Leben eines Superhelden!</i> (1)	日程描写についてのドイツ語学習 (1)
5	<i>Ein Tag im Leben eines Superhelden!</i> (2)	日程描写についてのドイツ語学習 (2)
6	<i>Küche und kochen</i> (1)	キッチンと料理についてのドイツ語学習 (1)
7	<i>Küche und kochen</i> (2)	キッチンと料理についてのドイツ語学習 (2)
8	<i>Am Flughafen</i> (1)	旅についてのドイツ語学習 (1)
9	<i>Am Flughafen</i> (2)	旅についてのドイツ語学習 (2)
10	<i>Vorstellungsgespräch</i> (1)	面接についてのドイツ語学習 (1)
11	<i>Vorstellungsgespräch</i> (2)	面接についてのドイツ語学習 (2)
12	<i>Ich habe einen Herzinfarkt!</i> (1)	体調不良についてのドイツ語学習 (1)
13	<i>Ich habe einen Herzinfarkt!</i> (2)	体調不良についてのドイツ語学習 (2)

14 総復習

総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習の意欲が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。

【参考書】

独和辞書を持ってきて下さい。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらった課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

"German through short animation" as theme, the goal of this class is to use Youtube's free learning channel to learn natural German and at the same time to raise the attitude and awareness toward different cultures.

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅱ

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「D-Pop で学ぶドイツ語」をテーマに、ドイツポップスや流行歌に親しみながら、ドイツ語とドイツ人の世界を学び、異文化に対する姿勢や意識を高めることを目的とする。
***オンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：

【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】***

【到達目標】

- ・楽しくドイツ語の読解力やリスニング力を向上させる。
- ・ドイツの視聴覚文化に関わる基礎的な知識を修得する。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。
- ・Web 上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明、
2	Unheilig: Die Weisheiten des Lebens (1)	ドイツのことわざを曲で学習 (1)
3	Unheilig: Die Weisheiten des Lebens (2)	ドイツのことわざを曲で学習 (2)
4	Max Raabe: Für Frauen ist das kein Problem (1)	女性についてのドイツ語学習 (1)
5	M.Raabe: Für Frauen ist das kein Problem (2)	女性についてのドイツ語学習 (2)
6	U.Lindenberg: Ich mach mein Ding (1)	男性についてのドイツ語学習 (1)
7	U.Lindenberg: Ich mach mein Ding (2)	男性についてのドイツ語学習 (2)
8	Haindling: Bergnot (1)	南ドイツと山についてのドイツ語学習 (1)
9	Haindling: Bergnot (2)	南ドイツと山についてのドイツ語学習 (2)

10	Santiano: Leinen los, volle Fahrt (1)	北ドイツと海についてのドイツ語学習 (1)
11	Santiano: Leinen los, volle Fahrt (2)	北ドイツと海についてのドイツ語学習 (2)
12	U.Jürgens: Mit 66 Jahren (1)	年金生活についてのドイツ語学習 (1)
13	U.Jürgens: Mit 66 Jahren (2)	年金生活についてのドイツ語学習 (2)
14	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習の意欲が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

独和辞書を持ってきて下さい。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

"German with D-Pop" as theme, the goal of this class is to improve your German skills through pop-songs and Schlager and at the same time you deepen your understanding of German audio-visual culture.

LANd200LA

時事ドイツ語 I

2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツにおける時事的な出来事・事柄（2019/20）についてドイツ語で書かれた文章を読み、ドイツ語の文法的な知識を再確認するとともに、文章としてまとまったものを読む力を養成する。また同時に、こうした読解を通して、現在のドイツおよびヨーロッパについて政治、経済、スポーツ、芸術、社会などについての知識と理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

時事的なドイツ語の文章の構成や書き方に慣れ、辞書を用いながら文章を読める力を養成することができます。

また、文法的には初級文法の知識を確実なものとすると同時に、さらに少し踏み込んだ文法内容も理解することができます。

それを通して、ドイツおよびヨーロッパの現在の状況についてトータルな知識を獲得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『時事ドイツ語 2021 年度版 (Neuigkeiten aus Deutschland 2019/20)』(朝日出版社)を教材として用います。

テキストに沿って基本的な文法事項を確認し、語彙や構文の復習を行いながら、受講者の理解度を見ながら進めていきます。また時事的なドイツ語の文章に慣れ、読解力を養います。

毎回、あらかじめテキストの範囲と担当者を決め、次回に訳読してもらいます。

必要に応じて文法的な復習のためのプリントを配布したり、テキストに取り上げられている時事的な事柄と関連するものがあれば、ビデオやプリントなどを使用して知識を補い、拡充していきます。また、適宜、確認小テストを行う。

課題、また確認小テストのフィードバックは次回の授業時にそのつど、解説を加えたフィードバックを行う。

訳読を行うにあたっては、精読 (close reading)・解釈力の養成・文法的知識の向上が必要となる。

その十全な養成実施のために、またこの授業の定員を今年度の特別教室収容定員を考慮した数とします。

履修希望者が今年度の特別教室収容定員を考慮した数を超えた場合には、初回授業で学習支援システムでの仮登録者を対象に選抜を行います。履修希望する学生は必ず初回授業前までに仮登録をすること。仮登録をしていない学生は選抜対象になりません。授業初回時に抽選を行い、その結果を当日中に授業支援システム、Hoppii の「お知らせ」欄、また「授業内掲示板」を通して周知します。

第 1 回はオンラインで行う。Hoppii を見てください。

なお、オンライン授業を積極的に活用します。授業支援システム、Hoppii をよく見ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション ドイツ分断	授業のねらいと進め方、学習の仕方についてのガイダンスをおこなう。 「ドイツ分断から統一へ」の訳読と文法事項の解説①
第 2 回	ドイツの統一	「ドイツ分断から統一へ」の訳読と文法事項の解説をおこなう②
第 3 回	時と場所を超えた音楽について	「時と場所を超えた音楽について」の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。①
第 4 回	ベートーヴェン生誕 250 年	「ベートーヴェン生誕 250 年」の訳読と文法事項の解説②
第 5 回	ドイツ人の姓について	「ドイツ人の姓」 訳読と文法事項の解説をおこなう。①
第 6 回	familiennamen について	「Familiennamen」 訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。②
第 7 回	ドイツの宗教について	「ドイツの宗教」 の読解と文法事項の解説をおこなう①
第 8 回	進む教会離れについて	「進む教会離れ」 の読解と文法事項の解説をおこなう②
第 9 回	ドイツ語について	「ドイツ語について」 の読解と文法事項の解説、練習問題をおこなう①
第 10 回	ドイツ語は危ういか、について	「ドイツ語は危ういか」 の読解と文法事項の解説をおこなう②
第 11 回	スポーツについて	「スケートボード」 の読解と文法事項の解説をおこなう①
第 12 回	スケボーは遊びかスポーツか	「スケボーは遊びかスポーツか」 の読解と文法事項の解説、練習問題をおこなう②
第 13 回	全体的な振り返り	文法事項の確認と表現
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでのまとめと振り返り、および試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。上記の授業の進め方を十分に遂行していくためには、毎回、予め指定した進む範囲について、各人が事前にテキストを読み、予習をおこなって授業にのぞむことが必要かつ重要です。知らない単語のチェック、調べ、またわからない構文についても授業中に質問し、自分の試読と比較して知識を確実なものとする（復習）です。テキストの内容に即したニュース解説などを読んでおくことと内容の理解も多角的になり、深まります（予習・復習）。

【テキスト（教科書）】

A.Raab+石井寿子著『時事ドイツ語 2021 年度版 (Neuigkeiten aus Deutschland 2019/20)』、朝日出版社。

【参考書】

参考書は特に必要ありませんが、独和辞典は必要です。また毎回、辞書を授業に持ってきてください。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う期末試験：50 %

平常点（テキストの訳読・課題、確認小テストなど）：50 %

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な文法説明を望む学生、またその評価が多いので、文法事項をわかりやすく説明し、また同時に日独比較などにより内容の総合的な理解にも取り組みたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業やハイフレックス型授業の場合必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

授業の進め方にも記載したが、訳読を行うにあたっては、精読（close reading）・解釈力の養成・文法的知識の向上が必要となる。

その十全な養成実施のために、またこの授業の定員を今年度の特別教室収容定員を考慮した数とします。

履修希望者が今年度の特別教室収容定員を考慮した数を越えた場合には、初回授業で学習支援システムでの仮登録者を対象に選抜を行います。履修希望する学生は必ず初回授業前までに仮登録をすること。仮登録をしていない学生は選抜対象になりません。授業初回時に抽選を行い、その結果を当日中に授業支援システム、Hoppiiの「お知らせ」欄、また「授業内掲示板」を通して周知します。

第1回はオンラインで行う。Hoppiiを見てください。

なお、オンライン授業を積極的に活用します。授業支援システム、Hoppiiをよく見ること。

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liberal Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German sentences and expressions of its current news and topics including politics, economy, arts and so on through reading of the articles and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

LANd200LA

時事ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 2年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツにおける時事的な出来事・事柄（2019/20）についてドイツ語で書かれた文章を読み、ドイツ語の文法的な知識を再確認するとともに、文章としてまとまったものを読む力を養成する。また同時に、こうした読解を通して、現在のドイツおよびヨーロッパについて政治、経済、スポーツ、芸術、社会などについての知識と理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

時事的なドイツ語の文章の構成や書き方に慣れ、辞書を用いながら文章を読める力を養成することができます。

また、文法的には初級文法の知識を確実なものとすると同時に、さらに少し踏み込んだ文法内容も理解することができます。

それを通して、ドイツおよびヨーロッパの現在の状況についてトータルな知識を獲得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『時事ドイツ語 2021 年度版 (Neuigkeiten aus Deutschland 2019/20)』(朝日出版社)を教材として用います。

テキストに沿って基本的な文法事項を確認し、語彙や構文の復習を行いながら、受講者の理解度を見ながら進めていきます。また時事的なドイツ語の文章に慣れ、読解力を養います。

毎回、あらかじめテキストの範囲と担当者を決め、次回に訳読してもらいます。

必要に応じて文法的な復習のためのプリントを配布したり、テキストに取り上げられている時事的な事柄と関連するものがあれば、ビデオやプリントなどを使用して知識を補い、拡充していきます。また、適宜、確認小テストを行う。

課題、また確認小テストのフィードバックは次回の授業時にそのつど、解説を加えたフィードバックを行う。

訳読を行うにあたっては、精読（close reading）・解釈力の養成・文法的知識の向上が必要となる。その十全な養成実施のために初回授業で学習支援システムでの仮登録者を対象に選抜を行います。履修希望する学生は必ず初回授業前までに仮登録をすること。仮登録をしていない学生は選抜対象になりません。授業初回時に抽選を行い、その結果を当日中に授業支援システム、Hoppiiの「お知らせ」欄、また「授業内掲示板」を通して周知します。

第1回はオンラインで行う。Hoppiiを見てください。

なお、オンライン授業を積極的に活用します。授業支援システム、Hoppiiをよく見ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ドイツの食文化について	授業のねらいと進め方、学習の仕方についてのガイダンスをおこなう。 「ドイツの食文化の流行」の訳読と文法事項の解説を行う。

第2回	Ernaehrungstrends	Ernaehrungstrends の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第3回	最小限主義について	「最小限主義について」の訳読と文法事項の解説をおこなう。
第4回	少ないほど豊かなのか？	Weniger ist mehr. の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第5回	ほら吹き男爵について	「ほら吹き男爵」の訳読と文法事項の解説をおこなう。
第6回	Der Luegenbaron	Der Luegenbaron の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第7回	ドイツのドラマシリーズについて	「リンデンシュトラッセ」の訳読と文法事項の解説をおこなう。
第8回	Lindenstrasse	Lindenstrasse の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第9回	ドイツのコロナ状況	「ドイツのコロナ禍」の訳読と文法事項の解説をおこなう。
第10回	Coronakrise 1	Coronakrise 1 の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第11回	ドイツのコロナ状況の転換	「ドイツのコロナ禍の転換」の訳読と文法事項の解説をおこなう。
第12回	Coronakrise 2 (転換)	Coronakrise 2 (転換) の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第13回	振り返り	文法事項の確認と振り返り
第14回	試験、まとめと解説	総合的なまとめと解説 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。上記の授業の進め方を十分に遂行していくためには、毎回、予め指定した進む範囲について、各人が事前にテキストを読み、予習をおこなって授業にのぞむことが必要かつ重要です。知らない単語のチェック、調べ、またわからない構文についても授業中に質問し、自分の訳読と比較して知識を確実なものとする（復習）です。テキストの内容に即したニュース解説などを読んでおくと内容の理解も多角的になり、深まります（予習・復習）。

【テキスト（教科書）】

A.Raab+石井寿子著『時事ドイツ語 2021 年度版 (Neuigkeiten aus Deutschland 2019/20)』、朝日出版社。

【参考書】

参考書は特に必要ありませんが、独和辞典は必要です。また毎回、辞書を授業に持ってきてください。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う期末試験：50%

平常点（テキストの訳読・課題、確認小テストなど）：50%

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な文法説明を望む学生、またその評価が多いため、文法事項をわかりやすく説明し、また同時に日独比較などにより内容の総合的な理解にも取り組みたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業やハイフレックス型授業の場合必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

授業の進め方にも記載したが、訳読を行うにあたっては、精読 (close reading)・解釈力の養成・文法的知識の向上が必要となる。

その十全な養成実施のために、初回授業で学習支援システムでの仮登録者を対象に選抜を行います。履修希望する学生は必ず初回授業前までに仮登録をすること。仮登録をしていない学生は選抜対象になりません。授業初回時に抽選を行い、その結果を当日中に授業支援システム、Hoppii の「お知らせ」欄、また「授業内掲示板」を通して周知します。

第1回はオンラインで行う。Hoppii を見てください。

なお、オンライン授業を積極的に活用します。授業支援システム、Hoppii をよく見ること。

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liberal Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German sentences and expressions of its current news and topics including politics, economy, arts and so on through reading of the articles and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

LANd200LA

検定ドイツ語 I

2017 年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年生で習った文法を復習しながら、その知識を実際に応用してみる。最終的に、独検 4 級程度のドイツ語力をつける。

【到達目標】

これまで習った文法事項を思い出ししながら、それらを多くの問題演習の場面で組み合わせて能動的に利用できる。

ドイツ語検定 4 級に合格するために必要なドイツ語力をつけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ語検定の問題を演習しながら、文法を復習し、語彙力をつける。単に受け身で授業を聞いているだけでは学習が進まないと思っている人には、特におすすみたい授業形式である。

コロナ関係の制限が許す限り、グループワークなども導入したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	力試しのドイツ語検定 4 級過去問	模試（出来は成績とは関係ない。自分の欠点を知る事が大事）
第 2 回	発音	発音問題を、音声教材を利用しながら解き、ドイツ語の発音ルールを身につける
第 3 回	動詞・助動詞の現在人称変化、名詞の格変化、指示代名詞	動詞や助動詞の現在人称変化を問題演習を通じて復習する
第 4 回	所有代名詞、不定代名詞、決定疑問文	不定冠詞類の格変化を復習し、疑問文への答え方をマスターする
第 5 回	前置詞、疑問詞	格の考え方を拡張し前置詞を体系的に理解し、疑問詞の使い方を問題演習で身につける
第 6 回	接続詞、数詞	並列接続詞を復習し、数詞を集中的に聞き取れるようにする
第 7 回	分離動詞、再帰動詞	動詞の枠構造を復習しながら分離動詞を理解し、再帰代名詞の使い方を問題演習でつかむ
第 8 回	会話文	会話の授業で習った日常表現を復習しながら、会話文の問題演習を行う
第 9 回	会話文	前週に扱った会話基礎表現を復習しながら、さらに問題演習を行う
第 10 回	読解文	文法事項と単語の知識をアクティブに使う練習として、読解文の問題演習を行う
第 11 回	読解文	手紙文の書き方の基礎をおさえ、問題演習で定着をはかる
第 12 回	聞き取り問題	これまでのリスニング教材の利用の成果の腕試しを兼ねて、リスニング問題の解き方を解説

第 13 回 聞き取り問題 書き取り問題を集中的に行う
 第 14 回 最後の力試しのドイツ語検定過去問 第 1 回に回答した問題にもう一度挑戦する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。この授業は単語の練習と復習を重視します。

【テキスト（教科書）】

恒吉良隆『独検対策 4 級・3 級問題集』（白水社,2016 年）

【参考書】

森泉、H-J クナウプ『新 独検対策 4 級・3 級必須単語帳』（白水社、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の宿題の提出状況：40%

毎回の単語テストの出来：30%

最初のテストから最後のテストまでの成長分：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題を提出できるパソコン（なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします）。ノートを鮮明に撮影できるカメラ（スマートフォン可）。

【その他の重要事項】

ドイツ語に自信がない方にとって最適な復習になり、資格を目指したい人の一歩目になるようなコースにします。

ドイツ語文法を 1 年生で学習した人を対象にはしますが、意欲のある初学者も相談の上受け入れることができます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to revive knowledge of basic German grammar and to pass grade 4 of the "Dokken" German diploma.

LANd200LA

検定ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年生で習った文法を復習しながら、その知識を実際に応用してみる。最終的に、独検 3 級程度のドイツ語力をつける。

【到達目標】

これまで習った文法事項を思い出ししながら、それらを多くの問題演習の場面で組み合わせて能動的に利用できる。

ドイツ語検定 3 級に合格するために必要なドイツ語力をつけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ語検定の問題を演習しながら、文法を復習し、語彙力をつける。単に受け身で授業を聞いているだけでは学習が進まないと思っている人には、特におすすめしたい授業形式である。

コロナ関係の制限が許す限り、グループワークなども導入したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	力試しのドイツ語検定 3 級過去問	模試（出来は成績とは関係ない。自分の欠点を知る事が大事）
第 2 回	発音問題	発音のルールを復習しながら、問題演習を行って注意すべきところをに気づく
第 3 回	現在完了、過去	過去のことを表現する現在完了と過去形を習得する
第 4 回	従属接続詞、関係代名詞	副文を作る表現の使い方を集中的に復習しながら、問題演習を行う。
第 5 回	zu 不定詞、受動文	不定詞句の考え方をマスターするために問題演習を行う
第 6 回	使役・知覚の動詞、形容詞の格変化	問題演習を通じて、使役と知覚の動詞の使い方をマスターし、形容詞の格変化を復習する
第 7 回	比較、接続法	形容詞の比較用法の考え方をマスターする。接続法を使えるようになる
第 8 回	会話文	会話の基礎表現を練習しながら、会話文の問題演習を行う
第 9 回	会話文	前週の復習を行いながら、さらに問題演習を行う
第 10 回	読解文	論説文を読む練習をする
第 11 回	読解文	手紙文を読み、書く練習をする
第 12 回	聞き取り	会話文の聞き取りを行う
第 13 回	聞き取り	書き取り問題を集中的に練習する
第 14 回	最後の力試しのドイツ語検定過去問	第 1 回に回答した問題にもう一度挑戦する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。この授業は単語の練習と復習を重視します。

【テキスト（教科書）】

恒吉良隆『独検対策 4 級・3 級問題集』（白水社,2016 年）

【参考書】

森泉、H-J クナウプ『新 独検対策 4 級・3 級必須単語帳』（白水社、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の宿題の提出状況：40%

毎回の単語テストの出来：30%

最初のテストから最後のテストまでの成長分：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが使えるコンピュータ（なおオンライン授業にやる可能性があるので、Zoom のインストールをお願いします）およびノート鮮明に撮影できるカメラ（スマートフォン可）

【その他の重要事項】

ドイツ語検定 4 級の合格は履修の前ではありません。1 年生のときにドイツ語文法を学んでいることを前提します。

問題演習を通じてみなさんが習ったことを組み合わせて使えるようになる楽しみを味わっていただけたようにしたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to revive knowledge of basic German grammar and to pass the grade 3 of the "Dokken" German diploma.

ARSa200LA

ドイツ語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- 各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- 映画の解釈方法を身につける。
- 異文化理解能力を高める。
- テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 発表の内容の取り決め
2.	ドイツ語圏の世界	地理、言語、その他
3.	文学	ドイツと言えばゲーテ？ プレゼンテーション
4.	文学	映画：ゲーテの恋～君に捧ぐ 「若きウェルテルの悩み」 Goethe! (2010) ディスカッション
5.	オーストリアと日本	Sissi とミュージカル「エリザベート」
6.	スイスと日本	映画：ハイジ アルプスの物語 Heidi (2015)
7.	スイスと日本	ハイジ in Japan プレゼンテーション
8.	戦争映画 1	第一次世界大戦 西部戦線異状なし (1930) 戦場のアリア (2005) ディスカッション
9.	ドイツと日本	ベートーヴェンの「第九」 プレゼンテーション 映画：バルトの楽園 (2006)

10.	戦争映画	第二次世界大戦 プレゼンテーション ディスカッション
11.	ヒトラー	ヒトラーと女性
12.	サッカーを通してみる 戦後ドイツ社会	サッカーって文化？
13.	サッカーを通してみる 戦後ドイツ社会	映画：バルンの奇跡 Das Wunder von Bern (2003)
14.	プレゼンテーション	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を読んでくる宿題を出します。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）

自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成
本授業の準備学習・復習時間は、計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピー配布

【参考書】

- ・森井 裕一（著、編集）『ドイツの歴史を知るための 50 章』（エリア・スタディーズ 151）
- ・宮田真治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The Students' final grades will be based on a presentation and active participation in class

ARSa200LA

ドイツ語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- 各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- 映画の解釈方法を身につける。
- 異文化理解能力を高める。
- テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで 映画：トンネル Der Tunnel (2001)
2.	西ドイツ	極左のテロリズム バーダー・マイnhof/理想の果てに Der Baader Meinhof Komplex (2008)
3.	東ドイツ	Stasi - 東ドイツの秘密警察 映画:善き人のためのソナタ Das Leben der Anderen (2006)
4.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊 映画：グッバイ、レーニン！ Good Bye Lenin (2003)
5.	ドイツ統一	プレゼンテーション ディスカッション
6.	青春	映画：50年後のボクたちは Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション

7.	ヒトラー	ヒトラーについて笑っていいのか？ 映画：帰ってきたヒトラー Er ist wieder da! (2015) プレゼンテーション ディスカッション
8.	ヒトラー	ドイツ極右組織 NSU 映画：女は二度決断する Aus dem Nichts (2017) プレゼンテーション ディスカッション
9.	テロリズム	難民問題 映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016) プレゼンテーション ディスカッション
10.	ドイツ極右組織	
11.	ドイツ極右組織	
12.	移民国ドイツ	
13.	移民国ドイツ	
14.	移民国ドイツ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を読んでくる宿題を出します。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）
本授業の準備学習・復習時間は、計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布

【参考書】

- ・森井裕一（著，編集）『ドイツの歴史を知るための 50 章』（エリア・スタディーズ 151）
- ・宮田真治・島山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません。

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The Students' final grades will be based on a presentation and active participation in class.

ARSA200LA

ドイツの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ドイツ語圏のキーワード

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ」と聞いて思い浮かべるイメージはなんですか。ドイツについて全く知らない人でもいくつかのキーワードが思い浮かぶのではないのでしょうか。

この授業ではそのようなすぐ気がつくキーワードから、ちょっと通なキーワードを集めて、それらがドイツ語圏の社会で果たす役割について少しだけ深く考えて見ることにしたいと思います。

ドイツ語の学習は前提しませんし、ドイツ語の文献を扱うこともありません。

【到達目標】

この授業では、ドイツ語圏の様々なキーワードの背後にある、社会や歴史的要素について理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。しかし毎回のテーマについて皆さんが知っていることを積極的に伺いますので、対話に参加して下さることを期待します。

コロナの状況が許せば、グループワークなどもやってみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツとドイツ語圏について。
第 2 回	ドイツ語の歴史	ドイツ語の歴史について。
第 3 回	ドイツ語の地域性	さまざまな地域のドイツ語について。
第 4 回	ビールの現状	ドイツのビールの現状について。
第 5 回	ビールの歴史	ドイツ語圏のビールの歴史について。
第 6 回	サッカー	ローカルパトリオリズムおよびナショナリズムについて。
第 7 回	ハイジのおんじ	スイスの歴史と傭兵輸出について。
第 8 回	ハイジの旅	スイスの鉄道網の発展と観光について。
第 9 回	アウトバーン	ドイツの自動車交通について。
第 10 回	ドイツの自動車産業	ドイツの工業化と自動車産業の展開について。
第 11 回	ドイツの教育制度	マイスターを生むドイツの教育制度について。
第 12 回	ドネルケバブ	ドイツの都市とそこにやってきた移民（およびその子孫）たちについて。
第 13 回	外国語としてのドイツ語	社会の統合としての言語について。

第 14 回 まとめ

これまでの話題について振り返り、期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習：次回のキーワードについて思い浮かぶことをいくつか考えてから教室に来てください。

復習：レジュメを読み返してください。特に、レポートを書こうと思うテーマの回については、オフィスアワーを積極的に利用して教員と相談の上、参考文献を図書館で探してみてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】

毎回異なる参考文献を参照するので、授業ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の小課題：40%

授業への積極的参加：10%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

個々のキーワードをなるべく有機的につなげるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと（なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします）。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。

毎回最初の 10 分ほどでブレインストーミングを行い、最後の 10 分ほどで議論を行うので、積極的に参加してください。

【Outline and objectives】

This lecture aims to get some basic understanding of the German-speaking countries.

This lecture is organized according to keywords that tend to be associated with these countries.

This lecture does not presuppose any knowledge of the German language.

ARSa200LA

ドイツの文化と社会 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツの文化と社会の関係を社会についての思想を手がかりに捉えることを目的にします。

その際に、ドイツ語圏の思想が、

1. さまざまな歴史的社会的事情との関連で展開してきたこと、および、
2. 実際には 1 つの言語圏を超えて広がっていくということを理解したいと思います。

なお、この授業は日本語で行います。ドイツ語力は一切前提しません。

【到達目標】

この授業を通じて、

- ・ 20 世紀から 21 世紀のドイツの社会問題についての概観を得ることができます
- ・ ドイツの社会思想について概観を得ることができます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業の中心部分は講義形式ですが、最後の 10 分程度全体でディスカッションしたいと思います。また毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

また適宜、参加者に発言を求めることがあります。積極的な発言が、平常点の加算要因です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：ドイツ語圏の 20 世紀の歴史の概観	ドイツ語圏の 20 世紀について、高校世界史の復習をします。
第 2 回	ワイマール共和国とフランクフルト学派	フランクフルト学派の第 1 世代の研究の背景を大戦間期のドイツの政治状況と関連付けます。
第 3 回	ナチスの台頭とフランクフルト学派	1933 年以降のドイツの政治状況を概観し、それがドイツの大学に与えた影響を考察します。
第 4 回	19 世紀から 20 世紀にかけてのウィーンの文化	ウィーン学団を生んだオーストリアおよびウィーンの歴史を概観します。
第 5 回	ウィーン学団	ウィーンの歴史を文化の側面から見たときのウィーン学団の位置について概観します。
第 6 回	亡命知識人の哲学 1: アメリカのフランクフルト学派	ナチスの台頭に伴い、多くの哲学者が亡命しました。アメリカ東部の亡命知識人の状況とその思想的展開を追います。
第 7 回	亡命知識人の哲学 1: アメリカのフランクフルト学派	フランクフルト学派が西部に移動したことを概観し、カルフォルニア地域の亡命知識人の状況について概観します。

第 8 回	亡命知識人の哲学 2: 英語圏の科学哲学	ウィーン学団の哲学者たちの亡命とその後の英語圏の哲学に与えた影響について概観します。
第 9 回	亡命知識人の哲学 2: 英語圏の科学哲学	ウィーンから渡米した哲学者たちが、アメリカに定住していく様子を概観します。
第 10 回	戦後のフランクフルト学派	第 2 次世界対戦後のドイツの学問状況を哲学者たちを事例に概観します。
第 11 回	68 年世代の哲学	ドイツの学生運動が隆盛を迎えた 1968 年代当時の哲学的状況を概観します。
第 12 回	ハーバマスと社会哲学 1: 社会国家と生活世界	戦後ドイツの社会国家について概説し、社会国家制度と社会哲学の関係を概観します。
第 13 回	ハーバマスと社会哲学 2: 歴史家論争	第 2 次世界対戦後のドイツが、第 2 次世界対戦をどのように振り返ってきたかについて歴史家論争を手がかりに概観します。
第 14 回	まとめ	これまでの議論をまとめ、レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

この授業では復習を中心に学習してください。とりわけ興味を持った主題についてのレポートの準備を入念に行うことを求めたいと思います。そのためのオフィスアワーの積極的利用も推奨します。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。適宜、レジュメを配布します。

【参考書】

毎回異なる参考書を利用しますので、スライドでそれらを指示します。レポートを執筆しようと思う回については、それらを一読することをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業の際に提出するリアクションペーパー：50%

レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の学生の要望により、ウィーンやフランクフルトの都市の歴史を少し多めに授業しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと（なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします）。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。ただし、春学期で学んだことは絶対に無駄になりませんので、春学期に履修した方の積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

The theme of this lecture is the relationship between philosophical thoughts and their roles in society, especially, in German society.

ARSA200LA

フランス語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

コルベユ スティーブ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「フランス語」を介して、フランス的世界の掘りを知ることとする。フランス語を話す人々の共同体や彼らの住む領域は、一般に「フランコフォニー（フランス語圏）」と呼ばれる。本授業ではそのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域圏・地域・国にどのような地理・歴史的背景、言語状況、各種の文化（歴史建造物、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、フランス語学習の基礎作りを行うだけでなく、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土の文化と社会について学ぶ。特に、フランスの「メディア」を分析する。

***この科目はオンラインで実施。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界の掘りについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：	・本授業の流れについて説明 国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯 ①
2	イントロダクション：	・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介 国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯 ②

3	フランス語の方言	方言の歴史背景 フランスのテレビや映画における方言の表象 方言差別の問題
4	ノール＝パ・ド・カレー地域圏	ノール＝パ・ド・カレー地域圏の歴史と文化 フランス国内における「北」に関する偏見
5	南フランス①	プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地域圏の歴史と文化
6	南フランス②	コルシカ地域圏の歴史と文化
7	南フランス③	フランスのメディアにおける南フランスの表象①
8	南フランス④	フランスのメディアにおける南フランスの表象②
9	ブルターニュ地域圏	ブルターニュ地域圏の歴史、文化、言語
10	フランスの広告と アル・ド・ヴィーヴル戦略	フランス国内と海外向けの観光宣伝を分析し、地方の描写を理解する
11	ジェンダー論とフランス①	フランスにおけるジェンダー論の歴史
12	ジェンダー論とフランス②	パリとフランス地方におけるジェンダー問題
13	移民とフランス	カレー地方の移民キャンプ
14	まとめ	・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各テーマに関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることのできるわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3) 期末レポートの執筆に向けて、「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
- 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

1. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
 - 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年。本体 2600 円＋税
 - 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年。本体 2800 円＋税
 - 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年。本体 2400 円＋税
 - 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年。本体 3400 円＋税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
 - 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France（フランス、地方を巡る旅）』駿河台出版社、2017 年。本体 1900 円＋税
 - 6) 小松祐子、Gilles Delmaire 著『Destination francophonie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社、2019 年。本体 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

・以下の項目を総合的に判断して評価する。

- 1) 30%：平常点（コメントシート等）
- 2) 70%：期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

・初年度においては歴史的要素の説明が多くなってしまったため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・フランス共和国、フランコフォニー、フランス語などに関する予備知識は、受講の前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the different cultures and societies having in common French as a lingua franca (la francophonie), including the French Republic. Students taking this course will acquire basic knowledge regarding the geography, history, (regional) languages, literature, and media of all the regions on the syllabus. The first semester will focus on France and the second semester on other French-speaking communities.

ARSA200LA

フランス語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

コルベイユ スティープ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「フランス語」を介して、フランスの世界の広がりをすることを主たる目的とする。フランス語を話す人々の共同体や彼らの住む領域は、一般に「フランコフォニー（フランス語圏）」と呼ばれる。本授業ではそのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域圏・地域・国にどのような地理・歴史的背景、言語状況、各種の文化（歴史建造物、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なるもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、フランス語学習の基礎作りを行うだけでなく、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特徴について紹介・解説する。特に、様々な「メディア」媒体におけるフランス語圏の地域の描写を分析する。

*** この科目はオンラインで実施。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的広がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なるもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてももらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある県・地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介

2	カリブ海域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ海域の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス語圏① Algérie	・マグレブ中央部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス語圏② Maroc et Tunisie	・マグレブ西部および東部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領およびベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧ベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパのフランス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス語圏② Suisse まとめ	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることが出来るわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
- 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
 - 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年、本体 2600 円＋税
 - 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年、本体 2800 円＋税
 - 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年、本体 2400 円＋税
 - 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年、本体 3400 円＋税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。

- 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France（フランス、地方を巡る旅）』駿河台出版社、2017 年、本体 1900 円＋税
- 6) 小松祐子、Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社、2019 年、本体 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

・以下の項目を総合的に判断して評価する。

- 1) 30 %：平常点（コメントシート等）
- 2) 70 %：期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

・初年度においては歴史的要素の説明が多くなってしまったが、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・フランス共和国、フランコフォニー、フランス語などに関する予備知識は、受講の前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the different cultures and societies having in common French as a lingua franca (la francophonie), including the French Republic. Students taking this course will acquire basic knowledge regarding the geography, history, (regional) languages, literature, and media of all the regions on the syllabus. The first semester will focus on France and the second semester on other French-speaking communities.

LANF200LA

フランス語コミュニケーション(初級) I 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Demander des articles	買い物する パン屋で
2	À la poste	買い物する 郵便局で
3	Parler des quantités	量のことを話す 朝市で
4	Parler des quantités	量のことを話す スーパーで
5	Demander le prix	値段をたずねる 文房具屋で
6	Passer une commande	注文する 魚屋さんで
7	Passer une commande	注文する カフェで
8	Faire une réservation	予約する ホテルで
9	Faire une réservation	予約する 駅で
10	Faire des achats	買い物する 服屋で
11	Faire des achats	買い物する 靴屋で
12	Hésiter	買い物する 花屋で
13	Prendre rendez-vous	アポを取る 歯医者で
14	Prendre rendez-vous	アポを取る 病院で

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français - Niveau débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 % (授業中の発言 50%や宿題の提出 50 %)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

【Outline and objectives】

In this class, students will study French conversation and culture at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills.

LANF200LA

フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文圏国環キ 1~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Demander des renseignements	情報を尋ねる 地下鉄で
2	Demander des renseignements	情報を尋ねる スポーツクラブで
3	Demander des renseignements	情報を尋ねる 観光局で
4	Exprimer une obligation	義務を伝える 役所で
5	Autoriser et interdire	許す・禁じる スキー所で
6	Vérifier	確かめる 海水浴所で
7	Protester	クレームを言う キャンプ所で
8	Exprimer des intentions, des projets + Test	意図と計画を言う 自転車レンタル所で + 中間テスト
9	Exprimer des intentions, des projets	意図と計画を言う 銀行で
10	Localiser	位置を説明する デパートで
11	Localiser	位置を説明する 地方で
12	Localiser	位置を説明する 紛失したものを探す
13	S'informer par téléphone	電話で問い合わせる 貸し家の賃貸
14	Comparer + Examen final	比較する バカンスについて 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français - Débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の発言50%や宿題の提出50%)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活をもっと話します。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレーヤー

【Outline and objectives】

In this class, students will study French conversation and culture at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills.

LANF200LA

時事フランス語 I

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文圏環境キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours a pour but d'aider les étudiants à améliorer la compréhension sur les sociétés, la politique et les médias francophones. L'accent est mis sur la communication orale et l'utilisation de vocabulaire spécialisé. En participant aux activités proposées, ils se familiariseront avec les sites Web francophones d'actualités.

【到達目標】

Les objectifs à atteindre diffèrent selon le niveau de départ de l'étudiant.e.

* Objectif d'apprentissage pour les faux-débutants et les apprenants au niveau intermédiaire : l'étudiante ou l'étudiant sera en mesure d'acquiescer, à l'issue des deux semestres de « Jiji-Furansugo », une aptitude linguistique équivalente au niveau A2 du cadre européen de référence pour les langues ou au Futsuken jun 2 kyū.

* Objectif pédagogique pour ceux qui maîtrisent déjà plus ou moins bien la langue française (les apprenants au niveau supérieur ainsi que les étudiants internationaux francophones) : l'étudiante ou l'étudiant sera capable de formuler des commentaires pertinents qui témoignent d'une compréhension solide des enjeux locaux et mondiaux traités par les médias francophones.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

À chaque séance de cours, l'enseignant propose des matériaux disponibles sur internet. Les apprenants seront invités à en dégager les éléments essentiels. Pour ce faire, ils ont le droit de consulter les ouvrages et les dictionnaires rédigés dans leur première langue (langue dite "maternelle") respective. Tous les participants doivent néanmoins s'exprimer en langue française, et contribuer à analyser ce qui se dit dans les matériaux.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Séance 1	Pourquoi vous inscrire au cours « Jiji-Furansugo » ?	Exposer l'intérêt de cours ; engager une conversation dans un français simple; Devinettes sonores - les transports; Nos langues et le français
Séance 2	Présenter le planning du semestre	Devinettes sonores - des sons étranges; Nadine se présente.

Séance 3	Parler comme une étudiante étrangère; Les symboles de la République française	« Le métro : avec qui ? » ; « Ici, en République »
Séance 4	Parler comme un étudiant étranger; Mondialisation et produits « made in France »	« Les catacombes : avec qui ? » ; « Nous allons vivre à la française »
Séance 5	Connaitre le monde francophone; s'intéresser à la mode de vie française.	« En terrasse : avec qui ? » ; « Guadeloupe, couleurs Caraïbes »
Séance 6	Culture Hip-hop et le français; manger c'est important.	« La brasserie Mollard : avec qui ? » ; « Youtubeurs et engagés »
Séance 7	Découvrir une architecture dans une ville; Namur, c'est où ?	« L'église Saint-Eustache : avec qui ? » ; « La maison »
Séance 8	Que veulent dire les titres d'un journal ? ; Comprendre les différentes fonctions dans un monde professionnel - journalisme	« Les titres du journal (2 janvier 2019) » ; « Les professions »
Séance 9	Expressions typiques dans une émission d'information (rejoindre, l'Une, etc.); Région Rhône-Alpes	« Les titres du journal en français facile du 04 février 2019 » ; « Grammaire : le présent de l'indicatif »
Séance 10	S'intéresser aux régions du monde que vous ne connaissez pas bien (Asie du sud, etc.) ; Vocabulaire informatique	« Les titres du journal en français facile du 1er mars 2019 » ; « Comment stopper la haine sur les réseaux ? »
Séance 11	Rwanda, Palestine et Paris Saint-Germain; égalité des genres	« Les titres du journal en français facile du 07 avril 2019 » ; « Droits des femmes : à quand l'égalité ? »
Séance 12	Festival de Cannes ; Canada et coronavirus	« En direct de la Croisette » ; « Canada : la pandémie aggrave la crise sociale »
Séance 13	Regarder le Japon de l'extérieur; Guerres au Moyen-Orient	« Être jeune à Damas » ; « Destination Japon »
Séance 14	Crise sanitaire mondiale; mobilisation des citoyens	« L'évolution du coronavirus » ; « Des bénévoles mobilisés au Maroc »

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- Consacrez au moins une heure par semaine pour votre travail personnel (révision et préparation) en dehors du cours.
 - Assimilez la prononciation en répétant des phrases employées dans les matériaux.
 - Informez-vous régulièrement sur les actualités francophones dans le monde, en regardant une émission d'information telle que « Catch ! Sekai no Top News » (NHK-BS1) URL <https://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/catch/archive/list.html>

Nota Bene : Regarder une émission d'information accompagnée d'une traduction ne remplace pas votre travail personnel sur les langues. Apprendre une langue et s'informer sur l'actualité, ce sont deux types d'entraînement tout à fait distincts.

【テキスト (教科書)】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

【参考書】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Nota Bene : L'accès hors campus à ces bases de données requiert une connexion via un réseau virtuel privé (« VPN » en anglais). Consultez le site Web du service informatique de Hôsei pour savoir comment vous connecter au VPN universitaire. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】

L'évaluation se fait en contrôle continu. À chaque séance, elle sera effectuée en deux temps : préparation de la session en amont (40%) et participation en cours (40%). L'investissement de l'étudiant.e pendant le semestre ainsi que les remarques sur les fautes commises par l'enseignant seront toujours les bienvenues et prises en compte en notation (20%).

【学生の意見等からの気づき】

Un changement majeur apporté pour l'année 2021 consiste à rédiger ce syllabus en langue française. Depuis quelques années, je constate que parmi les étudiants qui s'inscrivent à ce cours il y a de plus en plus de personnes pour qui la langue japonaise n'est pas nécessairement la langue qu'ils maîtrisent le mieux. La plupart d'entre eux n'éprouve pas de difficulté pour la communication orale en japonais, alors que la langue écrite peut parfois leur poser des problèmes. C'est pourquoi je propose le français non seulement comme « langue cible » (celle que l'étudiant.e souhaite apprendre) mais aussi comme « langue médiatrice » (celle qu'on utilise en classe), alors qu'il s'agit d'un cours de français enseigné par un non-natif.

【学生が準備すべき機器他】

La connexion internet stable et illimité ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert principalement à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent consulter une partie de notes sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom ou Google Meet pour assurer la continuité de l'enseignement.

【その他の重要事項】

1. 【「難しそうだし…」とこの科目の受講を迷っている方へ：プレースメント・テスト】 Si vous n'êtes pas sûr de votre niveau linguistique, essayez de passer un « test de placement » au niveau A1 sur le site Web de la RFI URL <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Inscrivez-vous à ce cours si vous pouvez répondre correctement à plus de la moitié des questions.
2. Le planning communiqué ci-dessus est encore sujet à évolution.

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

LANf200LA

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours a pour but d'aider les étudiants à améliorer la compréhension sur les sociétés, la politique et les médias francophones. L'accent est mis sur la communication orale et l'utilisation de vocabulaire spécialisé. En participant aux activités proposées, ils se familiariseront avec les sites Web francophones d'actualités.

【到達目標】

Les objectifs à atteindre diffèrent selon le niveau de départ de l'étudiant.e.

* Objectif d'apprentissage pour les faux-débutants et les apprenants au niveau intermédiaire : l'étudiante ou l'étudiant sera en mesure d'acquiescer, à l'issue des deux semestres de « Jiji-Furansugo », une aptitude linguistique équivalente au niveau A2 du cadre européen de référence pour les langues ou au Futsuken jun 2 kyû.

* Objectif pédagogique pour ceux qui maîtrisent déjà plus ou moins bien la langue française (les apprenants au niveau supérieur ainsi que les étudiants internationaux francophones) : l'étudiante ou l'étudiant sera capable de formuler des commentaires pertinents qui témoignent d'une compréhension solide des enjeux locaux et mondiaux traités par les médias francophones.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

À chaque séance de cours, l'enseignant propose des matériaux disponibles sur internet. Les apprenants seront invités à en dégager les éléments essentiels. Pour ce faire, ils ont le droit de consulter les ouvrages et les dictionnaires rédigés dans leur première langue (langue dite "maternelle") respective. Tous les participants doivent néanmoins s'exprimer en langue française, et contribuer à analyser ce qui se dit dans les matériaux.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Séance 1	Pourquoi vous inscrire au cours « Jiji-Furansugo » ?	Exposer l'intérêt de cours ; engager une conversation dans un français simple; Devinettes sonores : les animaux; Les langues de la classe (atelier 2 - français langue maternelle)
Séance 2	Présenter le planning du semestre	Devinettes sonores : les lieux; Sous le ciel de Paris - Zaz

Séance 3	Parler comme une étudiante étrangère; jouer au journaliste en classe	« La mode : avec qui ? » ; « Flash infos (12/16) »
Séance 4	Parler comme un étudiant étranger; s'interroger sur les stéréotypes	« Le fromage : avec qui ? » ; « Un travail d'homme et de femme »
Séance 5	La vie à l'école - Cantine; parler comme une étudiante étrangère	« Les puces : avec qui ? » ; « À table (10/16) »
Séance 6	Parler comme un étudiant étranger; comment mange-t-on le midi ?	« La Poste : avec qui ? » ; « Les Français à table »
Séance 7	Raisonner par analogie; Internationaux de France de tennis	« Faire un portrait chinois de la Joconde » ; « Tennis : le stade Roland-Garros »
Séance 8	Danse et combat; profiter d'une visite guidée dans un monument architectural	« Un fan de capoeira » ; « Le Paris des grands magasins »
Séance 9	Cultiver des légumes dans un jardin; essayer de comprendre les gros titre d'une émission d'information	« Les titres du journal (11 novembre 2020) » ; « Un potager de champion »
Séance 10	Vocabulaires de base pour le journalisme politique (referendum, etc.); Le numérique à Abidjan	« Les titres du journal (01 juillet 2020) » ; « La presse et les médias »
Séance 11	Vaccinations contre le Covid-19; Construire des maisons en Afrique	« Les titres du journal (2 décembre 2020) » ; « Burkina Faso : des toits en terre »
Séance 12	Armée française et soldats africains; Populisme au Brésil	« Rendre justice aux tirailleurs sénégalais » ; « Manifestations anti-confinement à Rio »
Séance 13	Connaissez-vous le rodéo ?; La Macédoine et Albert Londres	« « Yi ha ! » » ; « Destination Les Balkans »
Séance 14	Hydroxychloroquine et George Floyd; Politique de puissance ou démocratie entre les peuples ?	« Les titres du journal (3 juin 2020) » ; « La procédure de nomination du secrétaire général de l'ONU »

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- Consacrez au moins une heure par semaine pour votre travail personnel (révision et préparation) en dehors du cours.
 - Assimilez la prononciation en répétant des phrases employées dans les matériaux.
 - Informez-vous régulièrement sur les actualités francophones dans le monde, en regardant une émission d'information telle que « Catch ! Sekai no Top News » (NHK-BS1) URL <https://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/catch/archive/list.html>
 Nota Bene : Regarder une émission d'information accompagnée d'une traduction ne remplace pas votre travail personnel sur les langues. Apprendre une langue et s'informer sur l'actualité, ce sont deux types d'entraînement tout à fait distincts.

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

【参考書】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Nota Bene : L'accès hors campus à ces bases de données requiert une connexion via un réseau virtuel privé (« VPN » en anglais). Consultez le site Web du service informatique de Hôsei pour savoir comment vous connecter au VPN universitaire. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】

L'évaluation se fait en contrôle continu. À chaque séance, elle sera effectuée en deux temps : préparation de la session en amont (40%) et participation en cours (40%). L'investissement de l'étudiant.e pendant le semestre ainsi que les remarques sur les fautes commises par l'enseignant seront toujours les bienvenues et prises en compte en notation (20%).

【学生の意見等からの気づき】

Un changement majeur apporté pour l'année 2021 consiste à rédiger ce syllabus en langue française. Depuis quelques années, je constate que parmi les étudiants qui s'inscrivent à ce cours il y a de plus en plus de personnes pour qui la langue japonaise n'est pas nécessairement la langue qu'ils maîtrisent le mieux. La plupart d'entre eux n'éprouve pas de difficulté pour la communication orale en japonais, alors que la langue écrite peut parfois leur poser des problèmes. C'est pourquoi je propose le français non seulement comme « langue cible » (celle que l'étudiant.e souhaite apprendre) mais aussi comme « langue médiatrice » (celle qu'on utilise en classe), alors qu'il s'agit d'un cours de français enseigné par un non-natif.

【学生が準備すべき機器他】

La connexion internet stable et illimité ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert principalement à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent consulter une partie de notes sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom ou Google Meet pour assurer la continuité de l'enseignement.

【その他の重要事項】

1. 【「難しそうだし…」とこの科目の受講を迷っている方へ：プレイスメント・テスト】 Si vous n'êtes pas sûr de votre niveau linguistique, essayez de passer un « test de placement » au niveau A1 sur le site Web de la RFI URL <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Inscrivez-vous à ce cours si vous pouvez répondre correctement à plus de la moitié des questions.
2. Le planning communiqué ci-dessus est encore sujet à évolution.

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

ARSA200LA

フランスの文化と社会 L A 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、音楽を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の観光立国ですが、人々は堅実な日常生活を営み、様々な問題を抱えています。フランス革命を通して人権宣言を發布した国でもあり、移民の長い伝統も持っています。そのような国を誰もが知っている、あるいは知る人ぞ知る曲を通して考えていきます。

フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの社会についての具体的な知識を得ることが第一の目標です。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。また音楽という言語以外の感性に訴える要素が強い媒体に込められた実社会の問題や課題を自ら探知する力を養います。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

誰もが知っているポップな曲からかつての世界的なヒット曲、そしてこれぞフランスと言うシャンソン、知る人ぞ知るフランスのロック、変わりゆく移民の音楽、これもフランスだったの？と思う古典から近代の音楽、誰でも聞いたことのあるあの人気オペラまでを扱います。各回でテーマとして取り上げる曲を聴いて、歌詞や作曲の背景に関する情報から見て取れる課題、問題点を取り出します。皆さんはまた自分が製作にかかわったらという立場でいろいろ考えてみてください。

教室での授業もしくは Zoom による授業、あるいはその組み合わせによる授業を予定しています。

いずれのやり方を取ったにせよ、皆さんは学習支援システムを通して課題を 4-5 回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明； 『オー、シャンゼリゼ』	・「オー」は「oh!」ではない／誤訳か意識か、洋モノタイトルの翻訳 ・この歌は替え歌だった／元歌について ・なぜこの通りはかくも広く美しいのか。

2	フレンチ・ポップス	・ミシェル・ポルナレフ：スキヤンダラスな反抗児； Tout tout pour ma chérie 『シェリーに口づけ』 ??? 『シェリーとは君の事だよマイ・ダーリン』誤訳か意識か（続） ・シルヴィ・ヴァルタン：アイドル ・フランシス・ギャル：もう一人のアイドル ・エディット・ピアフ：フランスの美空ひばり？ ・イヴ・モンタン 『枯葉』：Les Feuilles mortes から Autumn Leaves へ； しっとりピーターソンとばさばさエヴァンス ・シャルル・トレネ：フランスの加山雄三？
3	シャンソン	・ジョニー・アリデー：宇崎竜童というよりもフレンチ・ドロックン・ローラー ・タイ・フォン、アートル、ゴングなど：いわゆるプログレ ・テレフォヌ：ポップ・ロック ・ダフトパンク：テクノ
4	ロック	・スリマス・アゼム：『アルジェリア、僕の美しい国』 故国アルジェリアへの想い ・ダジュール：『パパ、どこなの』 移民 2 世の叫び ・ザ・シンセカイ：『東京物語』 フレンチヒップホップは世界にぶっ飛ぶ？
5	移民の歌	リュリ：イタリアから来た御前音楽家 マレ：わりと耳にすることの多い絶対王政下の音楽家
6	17 世紀ルイ王朝の音楽家たち	ショパン： 映画、ドラマ、街中至る所で耳にする音楽。 ピアノの詩人の一生は小説よりも奇なり。
7	19 世紀の二人の移民音楽家 ショパンはポーランド人？ リストはハンガリー人？	リスト： やはり映画、ドラマ、街中至る所で耳にする音楽。 大見得を切る威風堂々の大スターは手が 4 本？？ ・ドビュッシー：CM でもおなじみの音楽。フラット 6 つで亜麻色？ 5 つだと月光色？？ Gm / C の系譜：月の光はベルガモから秋の夢想を駆け抜け天国の階段を上って月の裏側で狂ったダイヤモンドにそそぐ。
8	宿命の？ ライヴァル ショパン：リスト＝紫式部；清少納言？	・ラヴェル：展覧会の絵も白黒からカラーへ シンセサイザー（画家のパレット：冨田勲）にぴったり？ ・サティ：彼も定番。シュールとポップ
9	音の色	・シンセサイザーのお父さんオンド・マルトゥノとメシアン ・具体音楽：アナログの cut and paste ・IRCAM：今は老舗となった電子音楽の研究所 原作はメリメの中編小説。書いたのは役人。
10	前衛	
11	フランスのオペラ『カルメン』	

- 12 ジョルジュ・ピゼーの 序曲と冒頭
オペラ『カルメン』 「ハバネラ」
Femme fatale (運命 「ミカエラの歌」
の／致命的な女) VS
清純派
- 13 『カルメン』 「アルカラの竜騎兵」：ロマの踊
スペインという異郷 りが圧巻
歌手も踊る (というよりも踊れない
歌手はお呼びでない)：「鈴を
打ち鳴らす」
- 14 『カルメン』 「闘牛士の歌」
闘牛場の外で 「行進曲」
最終場面：中の祝祭と外の破局

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回、予定されている曲を検索して聞いておいてください。

1-2：フランスや他の国の歌で日本語訳が原題と異なるものを探してなぜそうなのかを考える。

3：いわゆる「スタンダード」となった曲を探して、なぜそうなったのかを考える。

4：日仏および英米のロックを比べる。

5：フランスの「移民」の歌の変遷とその背景について調べる。

6-9：フランスのバロックから近代までの音楽を鑑賞し、その特徴についてまとめる。

10：フランスの「前衛」音楽をドイツなど他の国のものと比べてその特徴についてまとめる。

11：メリメの小説『カルメン』を読む。

12-13：ピゼーのオペラ『カルメン』の音楽の特徴についてまとめる。

14：さまざまなオペラの演出の最終場面を比べてそれぞれの特徴について考える。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』福井建築、集英社新書 0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、600 字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します (100%)。4-5 回出していただくことになる予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、課題を出していただくのが頻繁過ぎたこともあり、私のほうでもなかなかお返しすることができませんでした。今年度は絞り込んだうえでなるべく早く見たいと思います。

【Outline and objectives】

In this course students will reflect on a variety of aspects of French society with the aid of music. Although France is one of the most popular countries for tourists, people are making their living, trying to resolve different problems, just as those in other countries. France is the country where the declaration of human rights was proclaimed, she has a long history as a host country for immigrants. The students will study well-known or almost unknown musical works which will tell us these aspects of this country. This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSA200LA

フランスの文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々 (フランス国籍を持つとは限りません) の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に付けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

21 世紀に入って大ヒットした二つのいかにもフランスらしい？映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品を扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。

教室での授業もしくは Zoom による授業、あるいはその組み合わせによる授業を予定しています。

いずれのやり方を取ったにせよ、皆さんは学習支援システムを通して課題を 4-5 回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、	アメリカ映画はアクション豊富で『最強のふたり』1：白黒はっきり、フランス映画は曖昧で考えさせる映画？
		フランス映画の特徴と「ふたり」とはどんなひとたち？
2	『最強のふたり』2：	パリの郊外とは？
	格差社会と移民	富裕層の多い区域は？

- 3 『最強のふたり』3： 「介護者」とパートナー：助ける北の海岸での出会い 人とお膳立てする人
- 4 『シェルブールの雨傘』1 誰かが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽； フランスのミュージカル； 1960年代のフランスの地方都市：やはり北の港町
- 5 『シェルブールの雨傘』2 アルジェリア戦争：様々な分断 フランスにとっての 1960年代はじめ
- 6 『シェルブールの雨傘』3 「曖昧な」結末：雪のクリスマスでの再会と別れ *Westside Story* の向こうを張った？
- 7 『天井桟敷の人々』1 伝説的名優勢ぞろい 1945年の大作 「犯罪大通り」 19世紀のパリの下町という空間
- 8 『天井桟敷の人々』2 「言葉」の俳優とパントマイム役 庶民にとっての劇場
- 9 『天井桟敷の人々』3 またしても「曖昧な」結末：追いかけても追いつけない悪夢 カルニバルという空間
- 10 『アメリカ』1 空想に駆られる主人公： 2001年の大ヒット作 他人の幸せのために パリという空間： モンマルトルからあちこちへ
- 11 『アメリカ』2 ・空想から現実へ ・なぜヒットしたか。 ・刑事とシャネル／監督と俳優 ・トットとカソヴィッツ
- 12 『シラノ』1： フランスのヒーロー人気ナンバーワン：剣にすぐれて弁もたつが、 17世紀の实在の人物 思いを打ち明けられない をモデルにした 19世紀末の芝居
- 13 『シラノ』2： *préciosité* とアラスの包囲 17世紀の宮廷と社会状況
- 14 『シラノ』3： 「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学 普遍的な価値

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思えます。

- 1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。
 - 2：フランスの社会階層について調べる。
 - 3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのかを考える。
 - 4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。
 - 5：アルジェリア戦争について調べる。
 - 6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。
 - 7：『天井桟敷の人々』が公開された1945年ごろのフランスの状況について調べる。
 - 8-9：19世紀前半のパリについて調べる。
 - 10：『アメリカ』で紹介されるパリとその周辺の区域の特徴について調べる。
 - 11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。
 - 12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった17世紀の人物について調べる。
 - 13：17世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。
 - 14：なぜシラノという人物が人々を惹き付けるのかを考える。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『かしこい旅のパリガイド』（CD付）、田中成和、渡辺隆司 著 駿河台出版社

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164

『著作権とは何か』、福井建築、集英社新書0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、600字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100%）。4-5回出していただくことになる予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、課題を出していただくのが頻繁過ぎたこともあり、私のほうでもなかなかお返しすることができませんでした。今年度は絞り込んだうえでなるべく早く見たいと思います。

【Outline and objectives】

This course deals with a variety of aspects of lives in France with the aide of the movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to movie-makers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects which we can find in films.

This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARs200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：18-19 世紀フランスの観光・風景・建築

河村 英和

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：
集中・その他/intensive・other courses

単位数：1 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランス語圏（フランスだけでなく、スイス、ベルギーも）の観光資源の歴史を学ぶ。山、海、森、川、湖、温泉といった自然風景のジャンル・地域別の観光リゾート地の派生、その発展期である 19 世紀ベル・エポックに好まれた建築様式や、愛国的なナショナリズムの高揚とともに増加する偉人像・モニュメントの数々、最後に余暇の発想源でもあるロクス・アモエヌス（心地良い場所）や幸福な島々、そして表裏一体としてのカタストロフ（破壊的事象）的風景についても考える。

【到達目標】

フランスの観光リゾート地の派生・発展からみた文化史を、当時の社会思想を踏まえつつ、関連する芸術作品（絵画、文学、音楽、建築）の事例から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。図像資料を紹介するためパワーポイントを使う。学期期間中、都内の美術館で開催されているフランス風景画展の見学を推奨する。意見や質問、提出物（リアクションペーパー）に対するフィードバックは、基本的に次の授業時間内に行うが、LMS などを活用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス観光旅行のイメージと歴史的背景	イントロダクションとして、本講義のテーマであるフランス観光旅行の現状イメージを確認しつつ、その史的背景と全体像を概観する。
第 2 回	山へ	パルナッソス、ヴァントゥー山、プロヴァンスの山々
第 3 回	アルプスへ	シャモニーとモンブラン、グリオン、コー、レザン、モンタナ
第 4 回	レマン湖	著名人たちがゆかりのレマン湖畔の町（ジュネーヴ、ローザンヌ、モントルー、ヴヴェ、ヴィルヌーヴ）
第 5 回	田園・田舎・牧歌的風景	フェット・シャンペートル、ミルク小屋、スイス風シャレー、アルカション
第 6 回	森と岩	ファンテヌブローの森とバルビゾン派、芸術家たちを惹きつけた岩場の風景
第 7 回	学外授業、展覧会見学	フランス風景に関する展覧会の見学を予定

第 8 回 海へ：ノルマンディーとコート・ダジュール
芸術家たちの題材となった海の風景と海浜リゾート・ノルマンディーと冬の避寒・結核転地療養地から夏の海水浴リゾートへの転身するコート・ダジュール

第 9 回 水辺と温泉
画家の題材となった川辺の風景、温泉リゾート（スバ、ヴィシー、エヴィアン）

第 10 回 中世復興、歴史主義と折衷主義のパリ
文化財保護の誕生、中世趣味の流行（トゥルバドゥール様式絵画、ネオ・ロマネスク建築、ゴシック大聖堂の再評価）、古代ローマ風、ネオ・ルネサンス、ネオ・バロック建築で溢れる 19 世紀パリ大改造とグランド・ホテル

第 11 回 学外授業、展覧会見学
フランス風景に関する展覧会の見学を予定

第 12 回 マリアヌス、ジャンヌ、ヴィエルジュ
ナショナリズムが台頭する 19 世紀に、愛国のシンボルとして急増したマリアヌス、ジャンヌ・ダルク、聖母（ヴィエルジュ）像について

第 13 回 国家の記念碑
ナポレオン像、偉人たちの墓、エッフェル塔など国家の威信をかけたモニュメント

第 14 回 楽園とカタストロフ
ロクス・アモエヌスとしての島々と破壊的事象（カタストロフ）的風景への関心

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気になる（なった）ことを調べたり、授業で出てきた場所を、グーグルストリートビューで歩いてみる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎講義ごとにプリント資料を配布する。オンライン授業のさいは、google classroom（予定）にて pdf 版を配信。

【参考書】

河村英和『観光大国スイスの誕生－「辺境」から「崇高なる美の国」へ』平凡社新書、2013 年
河村英和『タワーの文化史』丸善出版、2013 年

【成績評価の方法と基準】

授業参加で 30 点、レポート 70 点による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

講師はこの講義をはじめて担当するため、過去の意見はありません。

【その他の重要事項】

講義期間中に行う美術館見学は 2 種の展覧会（各講義 1 回分相当、合計 2 回分相当で、現地集合現地解散）があり、一部観覧料（1,000 円程度）の実費がかかります。事情により展覧会見学に参加できない方には、代替レポート課題を授業中に指示します。

【Outline and objectives】

In this course, we will study the history of tourism in French-speaking countries (not only in France, but also in Switzerland, and Belgium), including the tourist spot in the different genres of the natural landscape: mountains, seas, forests, rivers, lakes, and hot springs. Finally, we will consider the origin of the leisure idea, as locus amoenus: the Fortunate Isles, until its antithesis: the catastrophic landscapes.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：古（いにしえ）のフランス人のイタリア旅行

河村 英和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術の都パリ」という言い回しが普及する以前、ヨーロッパ人にとっての芸術の都はローマであり、ローマ留学を支援するフランス政府の権威ある奨学制度の「ローマ賞」は芸術家の登竜門だった。イタリア各地を旅したフランス人たちはその体験を数々の芸術作品（絵画、彫刻、文学、音楽、建築）に反映させてきた。この授業では、おもに 18～19 世紀のフランス人たちがいかにイタリアの風景や芸術・文化に魅せられ、影響を受けていたかを、絵画、彫刻、建築、音楽、文学といった複数のジャンルから学んでゆく。

【到達目標】

フランス文化に多大なる影響を与えたイタリアの風景・芸術・建築を、フランス人芸術家（文人、画家、彫刻家、建築家、作曲家）たちのイタリア滞在体験と関連作品を知ることによってその理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。図像資料を紹介するためパワーポイントを使う。意見や質問、提出物（リアクションペーパー）に対するフィードバックは、基本的に次の授業時間内に行うが、LMS などを活用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	18～19 世紀のフランス人がイメージする旅行先としてのイタリアとは？
第 2 回	理想郷（アルカディア）	ローマ平原をモデルに理想風景を描く在ローマのフランス人画家たちとその作品
第 3 回	ローマの廃墟	ローマの廃墟に魅せられたフランス人芸術家たちとその作品
第 4 回	サド侯爵のイタリア	小説『ジュリエット、あるいは悪徳の栄え』で知られるサド侯爵が、イタリア旅行中に訪れたところと作品に生かされたスポット
第 5 回	ローマ平原とチョチャリア地方	ローマ平原とチョチャリア地方の風景と美しい民族衣装を描く 19 世紀のフランス人画家たちとその作品、この地を舞台にしたフランスオペラやバレエ
第 6 回	スタール夫人とスタンダールのイタリア	当時はイタリア観光ガイドブックのように読まれたスタール夫人の小説『コリンヌ』に描かれるローマとナポリ、『バルムの僧院』で知られるスタンダールのイタリア滞在中のオペラ通いやローマ散歩について

第 7 回 ヴェスヴィオ噴火とナポリの漁師 ヴェスヴィオ火山の噴火シーンを専門とするフランス人画家、オペールのオペラ『ボルティチの囁娘』、若きナポリの漁師を描くフランス人画家や彫刻家

第 8 回 デュマのナポリ ナポリに滞在していたアレクサンドル・デュマの旅行記『コリッコロ』、歴史小説『寵愛された女性の思い出』など、数々の著作に描かれる当時のナポリとは

第 9 回 幸あるカンパーニア イスキア、プロチダ、カプリ、ソレント、アマルフィの海浜風景と民族衣装の娘に魅せられたフランス人芸術家たちとその作品

第 10 回 ヴェネツィア ジョルジュ・サンド、アルフレード・ミュセ、プルースト、レニエ、モネなど、水都ヴェネツィアに魅せられた文人・芸術家とその作品、オッフェンバックのオペラ『ホフマン物語』など

第 11 回 中世・ルネサンスの再発見ーローマ・フィレンツェ ダンテやルネサンス時代のイタリア美術をテーマにしたフランス人による芸術作品、ペルリオーズのオペラ『ペンバヌート・チェッリーニ』など

第 12 回 ローマ賞とフランスのイタリア風建築 ローマ留学あるいはイタリア旅行経験のあるフランス人建築家がフランスに残したイタリア風建築について

第 13 回 ゴッラ、ロマン・ロラン、ジイドのイタリア エミール・ゴッラ『ローマ』、ロマン・ロラン『ローマの春』、アンドレ・ジイド『背徳者』『法王庁の抜け穴』に描かれるイタリア（とくにローマ）とは

第 14 回 総括 過去の講義のテーマに沿った類似・追加事例を各自で紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気になる（なった）ことを調べたり、授業で出てきた場所を、グーグルストリートビューで歩いてみる。

【テキスト（教科書）】

毎講義ごとにプリント資料を配布する。オンライン授業のさいは、google classroom（予定）にて pdf 版を配信。

【参考書】

河村英和『イタリア旅行ー「美しい国」の旅人たち』中公新書、2011 年
河村英和『カプリ島ー地中海観光の文化史』白水社、2008 年
佐藤直樹編『ローマ（西洋近代の都市と芸術 1）』竹林舎、2013 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、レポートあるいは試験 70 点による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講師はこの講義をはじめて担当するため、過去の意見はありません。

【Outline and objectives】

Before the Paris reputation as the "City of Art" became widespread, the city of art for Europeans was Rome, and the "Prix de Rome", the prestigious scholarship system of the French government to support studying in Rome, was the gateway to become a great artist. French artists who have traveled through Italy have reflected their Italian experiences in their masterpieces (paintings, sculptures, literature, music, architecture). In this course, we will learn how French people of the 18th and 19th centuries were fascinated by and influenced by the Italian landscape, art and culture.

ARSa200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：近代フランスの食文化

梶谷 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、19 世紀～20 世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】

フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、意見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見ると予定です。毎回最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。授業中に皆さんの率直な意見を聞く時間も設けますので、小さなことでも、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第 2 回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？ / 宮廷料理について
第 3 回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ / 18 世紀までの価値観と、19 世紀からの価値観
第 4 回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場 / 給仕の変化
第 5 回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第 6 回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基準の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー（前編）
第 7 回	「美食」は誰のものか	「おいしい」の評価の変遷：ガス
		トロンミー（後編）
		食]

第 8 回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴し、その後自由に意見をまとめてもらいます。
第 9 回	ディスカッション	第 8 回の映像資料についての意見を全員に発表してもらいます。疑問に感じたことも互いに交換しましょう。
第 10 回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第 11 回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置 / 郷土料理 = 文化的遺産という視点の原点
第 12 回	映像資料で見るフランスの美食その 2	映像資料の視聴（第 2 回）その後、感想や意見を書く時間を設け、提出。
第 13 回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性 皆さんの意見もうかがいます。
第 14 回	試験日（レポート）	フランスの食文化をテーマとした小レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。下記参考書のうち、①を読み切ること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に Hoppii を通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝ブーラン、エドモン・ネランク『プロのためのフランス料理の歴史 時代を変えたスーパーシェフと食通の系譜』、山内秀文訳、学習研究社、2005 年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑯ フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講義形式であるため、どうしても教員から伝えることが多くなってしまいましたが、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。この機会を活用してくれた学生が多いので、今年度も継続していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。対面授業実施時は、必要に応じて印刷した資料か、資料をダウンロードした PC、タブレット等を持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの食文化史

梶谷 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】

フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ画像を用意して進めていきます。

毎回最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。授業中に皆さんの意見を聞く時間も設けますので、レポート作成に向け、小さなことでも、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第 2 回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第 3 回	ルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第 4 回	17 世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第 5 回	18 世紀	宮廷料理の最盛期／「豪勢な料理」とは？
第 6 回	フランス革命～19 世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現
第 7 回	19 世紀後半～19 世紀末	19 世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第 8 回	20 世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」
第 9 回	20 世紀半ば	全国の美食を求めてーガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第 10 回	20 世紀半ば～20 世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌー健康と美食

第 11 回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第 12 回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第 13 回	まとめ・レポート作成の手引き	「美食の国 フランス」のイメージはいかにして形成されたか
第 14 回	試験日（レポート）	フランスの食文化をテーマとした小レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考書のうち③を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に Hoppii を通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してきてください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子をたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝ブーラン、エドモン・ネランク『プロのためのフランス料理の歴史 時代を変えたスーパーシェフと食通の系譜』、山内秀文訳、学習研究社、2005 年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講義形式であるため、どうしても教員から伝えることが多くなってしましますが、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。この機会を活用してくれた学生が多いので、今年度も継続していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。対面授業実施時は、必要に応じて印刷した資料か、資料をダウンロードした PC、タブレット等を持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France.

LANr200LA

ロシア語 4 I

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営環 2 年（※環は旧カリ生のみ）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法では扱わなかったの文法事項を学習する。それらを基礎に、簡単なロシア語の文章を読み、語彙力や読解力を養うために文章の暗唱を行う。

【到達目標】

辞書等を用いながら、自分自身の力で、相当程度複雑な構造のロシア語の文章を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを各自で読解し、それに関して教師が解説やコメントを与える実習型の授業となります。テキストの意味が分かるだけでなく、それを暗記して語彙力や読解力を養いましょう。

学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「アーニャとユーラが話しています」その1	前置格（単数形と複数形）
2	「アーニャとユーラが話しています」その2	テキストの暗記
3	「ユーラとお母さんのニーナが話しています」その1	対格（単数形と複数形）
4	「ユーラとお母さんのニーナが話しています」その2	テキストの暗記
5	「文夫がサモワールについて尋ねています」その1	生格（単数形と複数形）
6	「文夫がサモワールについて尋ねています」その2	テキストの暗記
7	「文夫と美紀の多忙な毎日」その1	形容詞の短語尾形
8	「文夫と美紀の多忙な毎日」その2	テキストの暗記
9	「ニーナとイーゴリの夫妻が話しています」その1	与格（単数形と複数形）、無人称述語
10	「ニーナとイーゴリの夫妻が話しています」その2	テキストの暗記
11	「夏休みの計画」その1	無人称文
12	「夏休みの計画」その2	テキストの暗記

13 復習 期末試験の想定問題

14 期末試験 文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、1 回につき 2 時間を標準とする。テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に探り当てよう準備しなければならない。

この準備を前提に、理解したテキストを暗記する復習を行う。

その上で、文法ないし暗記の小テストを毎回受ける。

【テキスト（教科書）】

『ロシア語初級 法政大学ロシア語教員編』。

また、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、文法の知識と読解力を問う期末テスト 60 %。

平常点は課題の提出、小テストの評価。

【学生の意見等からの気づき】

より一層音声教材を活用する。

【Outline and objectives】

Russian Reading Part1. The aim of this course is to develop the ability to read and understand easy Russian texts, and also to memorize them in order to increase vocabulary and reading skills.

LANr200LA

ロシア語 4 II

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営環 2 年（※環は旧カリ生のみ）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本格的にテキスト読解の練習に取り組む。既習の文法事項の知識を駆使し、さらに新たな文法を学びながら、正確な読解力を養う。

【到達目標】

書籍、新聞や雑誌、ネット上の文章から、最低限の情報を得ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを各自で読解し、それに関して教師が解説やコメントを与える実習型の授業となります。テキストの意味が分かるだけでなく、それを暗記して語彙力や読解力を養いましょう。

学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「イワンがおなかをこわしたようです」その1	否定生格
2	「イワンがおなかをこわしたようです」その2	テキストの暗記
3	「ニキーチン先生の間わず語り」その1	造格（単数形と複数形）
4	「ニキーチン先生の間わず語り」その2	テキストの暗記
5	「美紀がナターシャとメッセージを交換しています」その1	動詞の完了体と完了体
6	「美紀がナターシャとメッセージを交換しています」その2	テキストの暗記
7	「学生たちの会話」その1	関係代名詞および形容詞の比較級
8	「学生たちの会話」その2	テキストの暗記
9	「コートを買いに」その1	数詞の表現
10	「コートを買いに」その2	テキストの暗記
11	「ニーナが映画監督に電話しています」その1	仮定法
12	「ニーナが映画監督に電話しています」その2	テキストの暗記
13	復習	期末試験の想定問題

14 期末試験

文法問題、露文和訳、和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は2時間を標準とする。自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に探り当てるよう準備しなければならない。この準備を前提に、理解したテキストを暗記するための復習をする。その上で、文法ないし暗記の小テストを適宜受ける。

【テキスト（教科書）】

『ロシア語初級 法政大学ロシア語教員編』。
また、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、文法の知識と読解力を問う期末テスト 60 %。
平常点は課題の提出、小テストの評価。

【学生の意見等からの気づき】

より一層音声教材を利用する。

【Outline and objectives】

Russian Reading Part2. The aim of this course is to learn to read easy Russian texts, and also to memorize them in order to increase your vocabulary and reading skills.

LANr200LA

ロシア語 4 I

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営環 2 年（※環は旧カリ生のみ）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次のロシア語学習を終えた学生を対象とする授業です。既習の文法事項を復習してから、教科書やプリント教材を用いて、未習の文法事項を学びます。基礎文法をひとつおぼろしく学習し、その定着をはかりながら、ロシア語の文章の読解に必要な力を養います。要望があれば、ロシア語能力検定試験に対応する勉強も行います。

【到達目標】

学んだ文法事項を正確に理解し、運用できるようになること、比較的平易なロシア語の文章を読解し、日本語に訳せるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書やプリント教材を用いて、文法事項の解説、練習問題の答え合せと解説、テキストや対話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、場合によっては「学習支援システム」を通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習文法の復習（1）	格変化の復習（名詞）
2	既習文法の復習（2）	格変化の復習（所有代名詞、形容詞など）
3	動詞（1）	動詞関連の文法事項の確認
4	動詞（2）	動詞の完了体・不完了体
5	複文（1）	関係代名詞を含む複文の読解
6	複文（2）	接続詞を含む複文の読解
7	数詞（1）	数詞と時間の表現
8	数詞（2）	年齢の表現など
9	数詞（3）	年月日の表現
10	数詞（4）	数詞を含むその他の表現
11	形容詞・副詞の比較級	形容詞・副詞の比較級
12	形容詞・副詞の最上級	形容詞・副詞の最上級
13	仮定法	仮定法を用いた表現
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。格変化形や動詞の活用は意識して覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編
その他、適宜プリント教材を配布します。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の習熟度を念頭においた授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】

This is a course for students who finished learning Russian for the first grade. The aim of this course is to finish basic grammar. And also strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.

LANr200LA

ロシア語 4 II

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営環 2 年（※環は旧カリ生のみ）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文法の学習を終えた学生を対象とした授業です。さまざまなテーマのテキストの読解を通して、既習の文法事項を復習しながら、未習の文法事項を学びます。ロシア語の文章に慣れ親しみ、基礎文法の実用レベルでの定着を目指します。また、学期の後半には視聴覚教材を用いて、生のロシア語に触れる機会を作ります。教材を通してロシアに対する理解を深めることも目的の一つです。要望があれば、ロシア語能力検定試験に対応する勉強も行います。

【到達目標】

辞書を用いて文章を読解し、日本語に翻訳する作業を通して、ロシア語の文章に慣れ親しむこと、また語彙を増やし、構文を正確に把握できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

プリント教材を用いて、文章読解、文法解説、というかたちで授業を進めますが、未習の文法事項についてはあらかじめ説明と練習を行います。各自の日本語訳をチェックするので、事前準備が必要となります。視聴覚教材を用いる場合は、音読、書き取り、リスニングなどを行います。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次の授業時に返却しますが、場合によっては「学習支援システム」を通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法事項の確認	既習文法事項の確認
2	文章読解（1）	副動詞が含まれる文章の読解
3	文章読解（2）	能動形動詞が含まれる文章の読解
4	文章読解（3）	被動形動詞が含まれる文章の読解
5	文章講読（1）	歴史に関する文章を読む
6	文章講読（2）	社会に関する文章を読む
7	文章講読（3）	文化に関する文章を読む
8	文章講読（4）	ロシアの昔話を読む
9	視聴覚教材（1）	テキストの音読と書き取り
10	視聴覚教材（2）	テキストの音読と書き取り
11	視聴覚教材（3）	リスニングの問題に挑戦する
12	視聴覚教材（4）	スキットのセリフを聞き取る
13	まとめ	これまでに学んだことの確認と復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題（日本語訳等）は必ずやってくる。格変化形や動詞の活用は意識して覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を授業で配布します。

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）を持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50%、期末試験50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進捗によって若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】

This is a course for students who have completed learning basic grammar of Russian. Through reading comprehension, we review what we have learned so far and learn grammar that we haven't learned yet. We aim to get used to Russian texts with various themes and master Russian basic grammar.

LANr200LA

ロシア語5 I

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われるロシア語を場面ごとに学び、ロシア語のコミュニケーション能力を高める授業です。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させます。

【到達目標】

日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

一年に通じて日常的なコミュニケーションに使う文型・語彙・表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。

本授業はリアルタイム Zoom 授業になります。

宿題提出や単語学習などのために学習支援システムと各オンライン学習アプリケーションを使います。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	紹介：名前	リスニング、会話練習
2	紹介：出身、職業	リスニング、会話練習
3	家族の話	リスニング、会話練習
4	趣味	リスニング、会話練習
5	一日の流れ	リスニング、会話練習
6	時間、スケジュール	リスニング、会話練習
7	国、言語、国籍	リスニング、会話練習
8	天気、季節	リスニング、会話練習
9	行ったことがある所	リスニング、会話練習
10	休暇の過ごし方	リスニング、会話練習
11	週の予定	リスニング、会話練習
12	好きな事、好きなもの	リスニング、会話練習
13	春学期の復習	リスニング、会話練習
14	春学期末テスト	(聴解・筆記)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題があります。単語の暗記も必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてプリント教材を配布します。プリント教材はロシア語のみですが、その和訳文も別紙で配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、出席、宿題、授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の記録・配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末（PC やタブレットなど）、WiFi 通信環境

【その他の重要事項】

実際の授業状況や履修者の能力に応じて授業のペースやスケジュールは変更できます。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr200LA

ロシア語5Ⅱ

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われるロシア語を場面ごとに学び、ロシア語のコミュニケーション能力を高める授業です。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させます。

【到達目標】

日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

一年に通じて日常的なコミュニケーションに使う文型・語彙・表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。

対面授業と、感染状況に応じてリアルタイム Zoom 授業を実施します。

宿題提出や単語学習などのために学習支援システムと各オンライン学習アプリケーションを使います。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	興味がある話	リスニング、会話練習
2	私の街	リスニング、会話練習
3	買い物	リスニング、会話練習
4	食べ物、お食事	リスニング、会話練習
5	家と部屋	リスニング、会話練習
6	映画	リスニング、会話練習
7	いつも通う所	リスニング、会話練習
8	乗り物で行く	リスニング、会話練習
9	空港で	リスニング、会話練習
10	学習	リスニング、会話練習
11	ToDo リスト	リスニング、会話練習
12	電話、メール	リスニング、会話練習
13	秋学期の復習	リスニング、会話練習
14	秋学期末テスト	(聴解・筆記)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題があります。単語の暗記も必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時および学習支援システムにてプリントを配布します。プリント教材はロシア語のみですが、その和訳文も別紙で配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50 %、出席、宿題、授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語のみの教材に和文解説をつけるようになりました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末（PC やタブレットなど）、Zoom 授業になる場合に WiFi 通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や履修者の能力に応じて授業のペースやスケジュールは変更できます。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

ARSA200LA

ロシア語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史、言語、民族、宗教などを概観し、また文化のうちとりわけ 19 世紀の文学と思想に注目する。それによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」の基本を獲得する。ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとっては理解しにくいロシアという国について、明確なイメージを持つことができる。

また、そうしたロシアの歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	9 世紀半ばから 16 世紀の歴史	建国伝説、キエフ・ルーシ、タールの軛、ツァーリ専制（リューリク朝）
第 2 回	17 世紀から 18 世紀の歴史	「動乱」、ロマノフ朝、ピョートル大帝、エカテリーナ二世
第 3 回	19 世紀前半の歴史	ナポレオン戦争、デカブリストの乱、クリミア戦争
第 4 回	19 世紀後半の歴史	農奴解放、ナロードニキ、ロシア・マルクス主義
第 5 回	20 世紀初めの歴史	第 1 次革命、レーニン、ロシア革命、ソ連
第 6 回	20 世紀前半の歴史	スターリン主義
第 7 回	20 世紀後半の歴史	「停滞」、ペレストロイカ、ソ連崩壊
第 8 回	21 世紀初めの歴史	ロシア連邦、プーチン
第 9 回	言語	旧ソ連の言語、ロシア語話者数、スラヴ諸語、ロシア語史
第 10 回	民族	旧ソ連の民族、ロシア人人口、スラヴ民族
第 11 回	宗教	旧ソ連の宗教、ロシア正教、スラヴ民族の宗教
第 12 回	19 世紀ロシアの文学と思想（世紀前半）	デカブリスト、プーシキン、ゴゴリ、チャーダーエフ、スラヴ派と西欧派

第 13 回 19 世紀ロシアの文学と思想（世紀後半の思想）
ゲルツェン、ニヒリスト、ナロードニキ、ソロヴィヨフ、マルクス主義者

第 14 回 19 世紀ロシアの文学と思想（世紀後半の文学）
トゥルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。

学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『新版 ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

『ロシア文化事典』丸善出版、2019 年。

『新版世界各国史 22 ロシア史』山川出版社、2002 年。

『民族の世界史 10 スラヴ民族と東欧ロシア』山川出版社、1986 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40 %、期末レポート 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より担当。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to survey history and culture (languages, nations religions, etc.) of Russia, as the background of Russian language.

And we will particularly pay attention to Russian literature and thought of the 19th century.

ARs200LA

ロシア語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアおよびその他の旧ソ連圏の国々の地理や歴史を概観することによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」の基本を獲得する。ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとってなじみのないロシアおよび旧ソ連圏の国々について、明確なイメージを持つことができる。
また、そうした国々の歴史や地理に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ロシア（ヨーロッパ・ロシア）	ヨーロッパ・ロシアの自然、地形、歴史、都市
第 2 回	ロシア（モスクワ）	モスクワの歴史、都市構造、名所
第 3 回	ロシア（ペテルブルグ）	ペテルブルグの歴史、都市構造、名所
第 4 回	ロシア（シベリア）	シベリアの自然、地形、歴史、都市
第 5 回	ロシア（極東）	極東の自然、地形、歴史、都市、中国・朝鮮半島・日本との関係
第 6 回	ウクライナ	ウクライナの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市
第 7 回	ベラルーシ	ベラルーシの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市
第 8 回	モルドヴァ	モルドヴァの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市、ルーマニア・ロシア・イスラームとの関係
第 9 回	コーカサス（ジョージア）	ジョージアの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市
第 10 回	コーカサス（アルメニア、アゼルバイジャン）	アルメニアとアゼルバイジャンの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市、アゼルバイジャンを含むトルコ系諸国とアルメニアの関係
第 11 回	中央アジア（トルクメニスタン、ウズベキスタン、カザフスタン）	トルクメニスタン、ウズベキスタン、カザフスタンの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市

第 12 回	中央アジア（キルギスタン、タジキスタン）	キルギスタン、タジキスタンの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市、タジキスタンとアフガニスタン等ベルシア系諸国の関係
第 13 回	バルト三国（エストニア、ラトヴィア）	エストニア、ラトヴィアの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市
第 14 回	バルト三国（リトアニア）	リトアニアの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市、ポーランドとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。
学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『新版 ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。
『ロシア文化事典』丸善出版、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40 %、期末レポート 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より担当。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to survey geography and history of countries of the former Soviet Union area, as the background of Russian language.

ARSA200LA

ロシアの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくても履修できます。なお、SA ロシアの2年生は必ず履修してください。ロシアは、峻厳で美しい自然、深く豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導くこと、そして教員が提起した問題に対して意見を短時間のうちに適切な文章でまとめる力を、コメントシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業の場合は、毎回のテーマに基づき、授業時間までにレジュメを学習支援システムにアップします。これをよく読んで、参考資料や映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴すべき動画のURLを示すので、次週までに必ず視聴の上、コメントを学習支援システムに提出すること。対面授業の場合には、教場で資料を配付し映像資料を共有しながら講義を行います。オンラインによるか対面授業となるかは、初回の授業までにゆとりを持って学習支援システムにて告知します。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワードなどを通してロシアの概略を示す。
第2回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第3回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第2の都市サンクト・ペテルブルグ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。

第4回 民俗文化とロシア正教、国民の祝日

ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は再び絶大なものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなどに信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。

第5回 ロシア・バレエの世界 1

バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。

第6回 ロシア・バレエの世界 2

前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。

第7回 ロシアの音楽：グリムカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー

ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリムカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、国際的に活躍する現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。

第8回 ロシアの音楽：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）

19世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフを通して音楽と政治の問題を考える。

第9回 ロシアの音楽：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）

反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。

第10回 ロシア文学：イーゴリ軍記から 19世紀前半

『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。《余計者》の確立。ゴゴリのグロテスクな手法、《小さな人間》について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。

第12回 ロシア文学：19世紀後半～20世紀（トルストイ、チェーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）

トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖患者の賞揚。チェーホフの創作方法について。《異化》の概念について。政治と文学について。

第13回 ロシア文学：亡命作家から現代（ソルジェニーツィン、プロツキー、ペレーヴァン）／日本文学との影響関係

亡命作家を通してみる政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。

第14回 民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題（学生は期末レポート提出）

ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアで高まるナショナリズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AVライブラリーの活用を勧めます。期末レポートの作成には1週間程度の時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教場で教員が作成する資料を配付します。

【参考書】

参考文献については教場もしくは学習支援システムで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生は合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.

ARSA200LA

ロシアの文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業に引き続き、ロシアの文化の多様性を見ていきます。春学期に得た情報を基に、さらにそこに新たな領域・ジャンルの知識を積み重ねていくこととなりますので、各自がロシアのイメージを整理しつつ、吸収して行ってほしいと思います。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を受けたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張をまとめる力を養うことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業の場合は、毎回のテーマに基づき、授業時間までにレジュメを学習支援システムにアップします。これをよく読んで、参考資料や映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴すべき動画のURLを示すので、次週までに必ず視聴の上、コメントを学習支援システムに提出すること。対面授業の場合には、教場で資料を配付し映像資料を共有しながら講義を行います。オンラインによるか対面授業となるかは、初回の授業までにゆとりを持って学習支援システムにて告知します。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ロシアの歴史1：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝	ロシアの歴史：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝
第2回	ロシアの歴史2	ピョートル大帝、エカテリーナ大帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第3回	ロシアの歴史3	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第4回	ロシアの歴史4	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第5回	ロシアの歴史5	雪解けから停滞へ、ベレストロイカ、チェルノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第6回	ソ連映画1	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。

第7回	ソ連映画2	雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。
第8回	ソ連映画3	反体制の烙印を押された監督（タルコフスキー、パラジャーノフ、イオセリアーニら）の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF映画を概観するとともに、ベレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。
第9回	ロシア映画4	検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクローフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。
第10回	ロシア映画5	前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。
第11回	ロシア美術1	イコン（聖像画）の機能について、移動展派の営み、パトロンとの役割について。
第12回	ロシア美術2	マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。ロシア・アヴァンギャルド期の建築について紹介。
第13回	ロシア・アニメ1	黎明期からプロバガンダ・アニメ、児童アニメ（タレーヴィチ、アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）の概説と作品の鑑賞。
第14回	ロシア・アニメ2	アート・アニメ（ノルシュティン、ベトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の視聴には、AVライブラリーの利用を勧めます。期末レポートの作成には1週間程度の時間を要することになります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教員が作成した資料を学習支援システムにアップします。

【参考書】

教場で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として、総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

今学期はロシアの歴史、映画が中心となりますが、時事的な話題もとりこみながらレジュメを作成します。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級 I 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかりと覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明。
第2回	ピンイン	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第4回	会話（1）	自己紹介の練習をする
第5回	授業内発表（1）	自己紹介を発表する
第6回	基本構文（1） 自由会話	1、主語・述語・目的語 2、疑問文
第7回	基本構文（2） 自由会話	1、連体修飾語 2、連用修飾語
第8回	基本構文（3） 自由会話	1、「着」、「了」、「過」 2、補語
第9回	会話（2）	レストランでの会話
第10回	授業内発表（2）	講師と一対一でレストランでの会話をする
第11回	会話（3）	買い物する時の会話パターン
第12回	授業内発表（3）	講師と一対一で買い物のシミュレーションをする
第13回	復習	文法の復習をする
第14回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回1時間ほどの復習をする。また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。またそれぞれのレベルの差に配慮をする。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習	春学期の授業内容の復習
第2回	文法（1） 自由会話	複文のさまざま
第3回	文法（2）	プリントにある文法に関する問題を解く
第4回	会話（1）	待ち合わせ
第5回	授業内発表（1）	待ち合わせの会話を発表
第6回	会話（2）	病院での会話パターン
第7回	授業内発表（2）	講師と一対一で病院でのやり取りを練習する
第8回	会話（3）	道を尋ねる/教える
第9回	授業内発表（3）	講師と一対一で道順に関するやり取りをする
第10回	会話（4）	スピーチやものの語り方
第11回	授業内発表（4）	スピーチ/ものを語る
第12回	作文	作文の練習
第13回	授業内発表（5）	作文の発表
第14回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週1時間を目途に復習する。

単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。

また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc200LA

資格中国語初級 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK (☑☑水平考☑) 1 級～3 級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的です。春学期中に 2 級、秋学期中に 3 級に合格できるよう指導します。

ただ、HSK のリスニングは難しいので、中国検定準 4 級程度からトレーニングを始めていきます。

向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。

中国語が好きな人が集まりますので、情報交換もできて、いつも楽しいクラスです。

【到達目標】

HSK 2 級に合格できるリスニング力と読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

HSK の過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。今年度は特にリスニング練習を強化したいと考えています。中国語検定準 4 級程度の簡単なものからトレーニングを始めます。繰り返し練習して、リスニング力を養います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
3	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
4	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
5	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
6	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。
7	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。
8	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語を学びます。
9	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト。
10	HSK 2 級	HSK 2 級単語を学びます。
11	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
12	HSK 2 級単語	HSK2 級単語を学びます
13	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
14	春学期復習	復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布

【参考書】

HSK 過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

授業内テストの合計点で評価します。
積極的な学生には加算します。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材を充実させます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

LANc200LA

資格中国語初級Ⅱ

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK 3級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。
この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎します。

中国語が好きな、意欲的な学生の参加を歓迎します。

いつも楽しいクラスです。

ほぼ全員が3級に合格しています。

【到達目標】

HSK 3級合格以上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリント教材を使って、HSK 3級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
2	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
3	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
4	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
5	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
6	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
7	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
8	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
9	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
10	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
11	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
12	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
13	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
14	授業の総まとめと期末 テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布します。

【参考書】

HSK3 級過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

期末テストで評価します。4回以上欠席の者は不合格です。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材を充実させ、総合的な力がつくように工夫します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

ARSe200LA

中国語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語ということばを通して、中国文化、また、中国という国について考えます。

【到達目標】

中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、中国語ということばを通してみえる世界が、日本語を通してみる世界とはいかに違うか、を実感してもらえればと思います。また、ことばについて知ること、我々自身についても新しい発見をしたり、新しいものの見方ができるような授業を心がけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインのハイブリット型を予定しています。教員が作成、配布する資料をもとに講義をおこない、トピック毎に講義内容のまとめや課題に取り組み提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは随時授業時におこなうほか、大学の学修支援システムやメールを利用します。受講生と相談しながらよりよい進め方を模索していきたいとおもいます。なお、感染状況によって、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行うこととします。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ことばとは何か	あまりにも身近すぎて気づきにくいことばのはたらきについて考えます。
②	類型論からみた中国語	英語や日本語と比較した中国語の特徴
③	中国語の音韻体系－その1	声調・韻母・声母
④	中国語の音韻体系－その2	有声音・無声音等
⑤	中国語文法概説－その1	品詞分類
⑥	中国語文法概説－その2	形態素・単語・フレーズ・センテンス
⑦	中国語文法概説－その3	承前
⑧	中国語の語彙－その1	語彙からみる中国的発想法
⑨	中国語の語彙－その2	外来語・新語・流行語
⑩	中国語の語彙－その3	中国語になった日本語と日本語になった中国語
⑪	文語と白話	書き言葉と話し言葉
⑫	中国語の方言	言語の変化－その1

- ⑬ 大陸の中国語と台湾の 言語の変化-その2
中国語
- ⑭ まとめと試験 論述式の試験をおこないます。ま
とめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のまとめや課題をトピック毎に提出してもらいます。
一般的に大学の基準では、授業時間のほか、準備・復習、合わせて
4時間が標準的学習時間とされています。
本授業もそれを前提におこないます。

【テキスト（教科書）】

教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。
また学修支援システムにも PDF を UP します。

【参考書】

- ・牛島徳次ほか、『中国文化叢書 1 言語』、大修館、1967 年
- ・朱徳熙著/中川正之・木村英樹編訳、『文法のはなし』、光生館、1986 年
- ・木村英樹、『中国語はじめの一步』、ちくま新書、1996 年
- ・藤堂明保、『漢字とその文化圏』（中国語研究学習双書 3）、光生館、1971 年
- ・阿辻哲次、『図説漢字の歴史』（普及版）、1989 年
- ・林四郎/松岡栄志『日本の漢字・中国の漢字』、三省堂、1995 年

【成績評価の方法と基準】

まとめと課題（30%）、期末試験（70%）
まとめは講義の内容を理解しているかを確認するためのもので基本
的にトピック毎に提出してもらいます。
期末試験としてレポート（3200 字程度）を提出してもらいます。
レポートの題目は自身で設定してください。
ただし、以下の 3 点、すべてについて具体例をあげながら考察する
こと。

- ①「中国語ということば」
- ②「外国語を学ぶということ」
- ③「人間にとってことばとは」

評価の基準は、

- (1) 講義の内容をふまえているか、
- (2) ことばをめぐる問題を多様な角度から捉えているか、
- (3) 自身の考えをもち、それを自身のことばで表現しているか、

の 3 点です。

レポートは「まとめ」や「課題」を利用して作成できるよう、普段
から心がけておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講者の中には、中国語を履修していない人もいれば、中国
語を母語とする人もいます。受講理由は様々ですが、中国語を
学ぼうとする人にはもちろん、どのような受講者にも、「ことばって
面白い」と感じてもらえる授業をしたいと思います。

【その他の重要事項】

※ 4 月 30 日（木）に最初の資料をアップロードする予定です。
※ それまでは参考文献にあげた文献を読むなどしてください。
（かなり難しいものも含まれていますのでかならずしも挙げたもので
なくともかまいません）

また書籍以外でも中国語に関するものであればなんでもかまいま
せん）

※ それまでの連絡は掲示板、もしくはメールにてどうぞ。
今年是对面での授業ができずに残念ですが、その分、より丁寧に、よ
り分かりやすい授業となるよう心がけたいと思います。
このような形式での授業は初めてですので色々試行錯誤するとおも
いますがどうぞよろしくお願ひします。

【Outline and objectives】

Through Chinese language, we will think about Chinese
culture and view of the world.

ARSe200LA

中国語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語を表記する文字体系である漢字にまつわることがらを通して、
中国的思考法について考えます。

【到達目標】

中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、漢字という文字体系
が、中国語や中国的思考法といかに結びついているのか、を理解し
てもらえればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学
部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインのハイブリット型を予定しています。
教員が作成、配布する資料をもとに講義をおこない、トピック毎に
講義内容のまとめや課題に取り組み提出してもらいます。
質疑応答、課題等へのフィードバックは随時授業時におこなうほか、
大学の学修支援システムやメールを利用します。
受講生と相談しながらよりよい進め方を模索していきたいとおも
います。

なお、感染状況によって、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、
この授業は原則としてオンラインで行うこととします。
詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国文化の思考基底－その 1	中国的世界観・人間観の特徴
②	中国文化の思考基底－その 2	儒家思想と中国の歴史・文化
③	中国文化の思考基底－その 3	中国文化における道家思想の役割
④	中国文化の思考基底－その 4	古い中国と新しい中国
⑤	漢字学の伝統－その 1	中国の伝統的学問分類と漢字学の位置づけ
⑥	漢字学の伝統－その 2	許慎と『説文解字』
⑦	漢字学の伝統－その 3	漢字の分類法と字書の変遷
⑧	漢字学の伝統－その 4	日本における漢字研究
⑨	漢字の歴史－その 1	甲骨文・金文・戦国文字
⑩	漢字の歴史－その 2	小篆・隸書・楷書
⑪	漢字の歴史－その 3	文字の社会的機能の変遷
⑫	漢字の歴史－その 4	新中国における文字改革
⑬	日本人と漢字	日本における漢字の受容
⑭	まとめと試験	論述形式の試験をおこないます。 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4
時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布します。

【参考書】

- ・牛島徳次ほか、『中国文化叢書 1 言語』、大修館、1967 年
- ・朱徳熙著/中川正之・木村英樹編訳、『文法のはなし』、光生館、1986 年
- ・木村英樹、『中国語はじめの一步』、ちくま新書、1996 年
- ・藤堂明保、『漢字とその文化圏』（中国語研究学習双書 3）、光生館、1971 年
- ・阿辻哲次、『図説漢字の歴史』（普及版）、1989 年
- ・林四郎/松岡栄志『日本の漢字・中国の漢字』、三省堂、1995 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30%）、期末試験（70%）

小テストは講義の内容を理解しているかを確認するためのもので基本的に毎授業おこないます。

期末試験は論述式でおこないます。評価の基準は、①講義の内容をふまえているか、②漢字という文字、書写言語と音声言語との違い、人間にとって文字とは、というような問題を多様な角度から捉えているか、③自身の考えをもち、それを自身のことばで表現しているか、の3点です。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講者の中には、中国語を履修していない人もいれば、中国語を母語とする人もいます。受講理由は様々ですが、中国語を学ぼうとする人にはもちろん、どのような受講者にも、「ことばって面白い」と感じてもらえる授業をしたいと思います。

【Outline and objectives】

Through learning characteristics of Chinese characters, we will understand Chinese thinking process and view of the world.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。日本と台湾は長い歴史の中で深いかわりを持っています。本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】

日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。
毎回コメントペーパーを出してもらいます。
最終回にはレポートを提出してもらいます。
課題等のフィードバックは授業時間またはメールで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第 1 回）
第 3 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第 2 回）
第 4 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第 3 回）
第 5 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『私の少女時代』（第 1 回）
第 6 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『私の少女時代』（第 2 回）
第 7 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『私の少女時代』（第 3 回）
第 8 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『海角七号』（第 1 回）
第 9 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『海角七号』（第 2 回）
第 10 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『海角七号』（第 3 回）
第 11 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『KANO』（第 1 回）
第 12 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『KANO』（第 2 回）
第 13 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『KANO』（第 3 回）
第 14 回	授業の総まとめとレポート	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60%、レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その国の文化と社会を映し出します。

今期では、2008年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として中国文化についてみていきます。

【到達目標】

中国の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回講義形式で行います。

毎回課題としてコメントペーパーを出してもらいます。

最終回にはレポートを提出してもらいます。

課題等のフィードバックは授業時間またはメールで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』(第1回)
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』(第2回)
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』(第3回)
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』(第1回)
第6回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』(第2回)
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』(第3回)
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』(第1回)
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』(第2回)
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』(第3回)
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』(第1回)
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』(第2回)
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』(第3回)
第14回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出）60%、レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーション I 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1単位

法文営国環キ 3~4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座はオンラインで実施する。Zoomを通じてリアルタイムで行う。身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について、文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

モデルの重要な表現解説と置き換え練習後、学んだ表現を暗記し、Break Out Roomで仲間と練習する。次に暗記した表現を利用してモデル文章を書き換えてBreak Out Roomで発表する。最後にその日に学習した内容の理解度を確認するためにリスニングの小テストを行う。授業後提出する宿題がない。自分で書き換え文章のフィードバックは毎回Break Out Roomの練習中の時にその場で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Mi nombre 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
2	Mi nombre 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
3	Mi familia 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
4	Mi familia 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
5	Mi ciudad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
6	Mi ciudad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
7	Mi universidad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
8	Mi universidad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
9	Un día normal 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
10	Un día normal 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
11	Descripciones 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	Descripciones 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
13	まとめ	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
14	期末理解度の確認	リスニングと発話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者は **Break Out Room** で練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した短文を次の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次の授業で確認のための簡単な口頭試験を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。
出席点ではありません → 30 %
2. 毎回の小テストに基づく点数 30 % →
3. 期末の理解度確認テストに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM を使って授業を行うので、ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This course will be conducted online in real time through Zoom. You will practice communicating familiar topics to the other party, make model sentences and practice important expression explanations and replacements. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on model sentences.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者**瓜谷 アウロラ**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 3~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座はオンラインで実施する。Zoom を通じてリアルタイムで行う。身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

モデルの重要な表現解説と置き換え練習後、学んだ表現を暗記し、**Break Out Room** で仲間と練習する。次に暗記した表現を利用してモデル文章を書き換えて **Break Out Room** で発表する。最後にその日に学習した内容の理解度を確認するためにリスニングの小テストを行う。授業後提出する宿題がない。自分で書き換え文章のフィードバックは毎回 **Break Out Room** の練習中の時にその場で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Mi mejor viaje 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
2	Mi mejor viaje 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
3	Mis gustos 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
4	Mis gustos 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
5	Mi mejor regalo 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
6	Mi mejor regalo 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
7	Mi personaje preferido 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
8	Mi personaje preferido 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
9	Después de mi graduación 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
10	Después de mi graduación 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
11	Navidad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
12	Navidad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
13	Mi opinión	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
14	Examen	リスニングと発話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者は Break Out Room を使ってペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した20個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認のための簡単な口頭試験を行う。学習の目安は毎回60分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。

出席点ではありません → 30 %

2. 毎回の小テストに基づく点数 30 % →

3. 期末の理解度確認テストに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

In this course, you will practice communicating familiar topics to the other party. Make model sentences and practice important expression explanations and replacements. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on model sentences.

LANs200LA

現代のスペイン語 I

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。随時、初級文法の復習をおりませっていく。また、この授業では、スペイン語圏の文化や社会にも光をあてつつ、その歴史と現状について学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項の復習を中心に見ていく。随時小テストを行なうことによって、学生の理解度の把握に努める。採点済みの答案用紙は返却し、答え合わせをしながら基本的な文法事項のふりかえりに努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法現在	直説法現在を使った文章を読解する。
4	再帰動詞	再帰動詞を使った文章を読解する。
5	現在分詞および進行形	現在分詞と進行形を使った文章を読解する。
6	過去分詞および点過去	過去分詞と点過去を使った文章を読解する。
7	線過去	線過去を使った文章を読解する。
8	直説法現在完了および過去完了	直説法現在完了と直説法過去完了を使ったバルーの古代遺跡マチュ・ピチュに関する文章を読解する。
9	指示詞と所有詞の復習	指示詞と所有詞を使った文章を読解する。
10	受動表現の復習	受動表現を使った文章を読解する。
11	比較表現の復習	比較表現を使った文章を読解する。
12	無人称表現の復習	無人称表現を使った文章を読解する。
13	春学期のまとめ	春学期に学んだ文法事項の復習を行う。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

LANs200LA

現代のスペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を活かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。特に、この授業では、現代のスペイン語圏の文化や社会といった諸相について、その歴史も踏まえながら学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員が各回のテーマに関する概説と文法事項の解説を織りませながら、順番に指名された受講生が訳読を行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	春学期の文法の復習	春学期で学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法未来	直説法未来を使った文章を読解する。
4	直接法過去未来	直接法過去未来を使った文章を読解する。
5	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了を使った文章を読解する。
6	接続法現在（名詞節）	接続法現在（名詞節）を使った文章を読解する。
7	接続法現在（形容詞節・副詞節）	接続法現在（形容詞節・副詞節）を使った文章を読解する。
8	命令法	命令法を使った文章を読解する。
9	接続法過去	接続法過去を使った文章を読解する。
10	間接話法	間接話法を使った文章を読解する。
11	知覚・使役の表現	知覚・使役の表現を使った文章を読解する。
12	時制の復習	さまざまな時制を網羅的に使った文章を読解する。
13	法の復習	直説法と接続法を対比的に使った文章を読解する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

禰野美帆ほか『世界遺産を訪ねて 改訂版』朝日出版社、2014年、ISBN9784255550688、本体定価 2,300円。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30%、小テスト：20%、学期末試験：50%。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

辞書の活用を怠らないこと。

【Outline and objectives】

This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries. A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

ARSA200LA

スペイン語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式でなく、学習支援システムを通じたオンデマンド形式（資料型）にて行う。※初回の講義案内・資料配布は4/15(月)を予定。

初回講義案内において講義概要を説明したのち、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、定期的に簡易レポート形式で提出してもらう。

※各回に例としてあげたプレゼン内容はあくまで一例。自身が調べたいと思えるテーマを探してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	地域から考える
3	講義：スペイン概説②	言語から考える
4	プレゼンテーション①	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの絵画)
5	プレゼンテーション②	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインのスポーツ)
6	プレゼンテーション③	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの言語)
7	プレゼンテーション④	担当者によるプレゼンテーション (例：食事に見られる地域性)
8	プレゼンテーション⑤	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの観光業)
9	プレゼンテーション⑥	担当者によるプレゼンテーション (例：EUとスペイン)
10	プレゼンテーション⑦	担当者によるプレゼンテーション (例：Brexitのスペインへの余波)
11	プレゼンテーション⑧	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語とポルトガル語の違い)
12	プレゼンテーション⑨	担当者によるプレゼンテーション (例：カタルーニャ州について)
13	プレゼンテーション⑩	担当者によるプレゼンテーション (例：フラメンコの歴史)

14 総括 ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容(70%)と平常点(30%)で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

ARSA200LA

スペイン語の世界 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

法文営国環キ 1~4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式でなく、学習支援システムを通じたオンデマンド形式（資料型）にて行う。

初回講義案内において講義概要を説明したのち、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、定期的に簡易レポート形式で提出してもらう。

※各回に例としてあげたプレゼン内容はあくまで一例。自身が調べたいと思えるテーマを探してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	国際関係の中のスペイン
3	講義：スペイン概説②	スペインと日本
4	プレゼンテーション①	担当者によるプレゼンテーション (例：メキシコの映画産業)
5	プレゼンテーション②	担当者によるプレゼンテーション (例：アルゼンチンのスポーツ事情)
6	プレゼンテーション③	担当者によるプレゼンテーション (例：キューバの現在)
7	プレゼンテーション④	担当者によるプレゼンテーション (例：ラテンアメリカの文学)
8	プレゼンテーション⑤	担当者によるプレゼンテーション (例：フィリピンに残るスペイン語)
9	プレゼンテーション⑥	担当者によるプレゼンテーション (例：日本のスペイン語話者)
10	プレゼンテーション⑦	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインのスタートアップ企業)
11	プレゼンテーション⑧	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語圏の中の日本企業)
12	プレゼンテーション⑨	担当者によるプレゼンテーション (例：コスタリカについて)

- 13 プレゼンテーション⑩ 担当者によるプレゼンテーション
(例：スペイン語圏での日本発サ
ブカルチャーの受容)
- 14 総括 ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容(70%)と平常点(30%)で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

LANk200LA

朝鮮語4B I（視聴覚）

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。語彙・文型・表現の知識を増強する。韓国人留学生との会話も行う予定。一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

- 1 韓国の小説・ドラマ・歌・アナウンスなどの聞き取りを通じ、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

Zoomで行う予定なので、tabletの学生はzoomのアプリを入れておくこと。

hoppiに詳しい授業予定、Zoom URLなどを載せるので毎週確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サランバンのお客さんとオモニ ①②	聞き取り スクリプト読解
	シークレットガーデン 1	文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さんとオモニ ③④	聞き取り スクリプト読解
	シークレットガーデン 2	文型・表現・発音練習
	歌	
3	サランバンのお客さんとオモニ ⑤⑥	聞き取り スクリプト読解
	シークレットガーデン 3	文型・表現・発音練習
4	サランバンのお客さんとオモニ ⑦⑧	聞き取り スクリプト読解
	アナウンス	文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さんとオモニ ⑨⑩	聞き取り スクリプト読解
	シークレットガーデン 4	文型・表現・発音練習
6	歌など	聞き取り
	小テスト	スクリプト読解 文型・表現・発音練習

7	サランバンのお客さんとオモニ ⑪⑫ シークレットガーデン 5	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	サランバンのお客さんとオモニ ⑬⑭ テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	サランバンのお客さんとオモニ ⑮⑯ シークレットガーデン 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さんとオモニ ⑰⑱ 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	サランバンのお客さんとオモニ ⑲⑳ シークレットガーデン 7	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	サランバンのお客さんとオモニ 最終回 シークレットガーデン 8	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、聞き取り・読解・暗記等の課題を行うこと。
本授業の準備・復習時間は各 1-2 時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

川口義一監修『耳から入る韓国語 1』学研
シークレットガーデン DVD

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40%、テスト 60%
4 回欠席の場合、落第。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため今学期も留学生との会話の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

pc あるいは tablet

【その他の重要事項】

一定の能力のある学生を対象とします。
課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
定員制のため履修希望者が多い場合は初回に抽選をします。初回の授業には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. It aims to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

LANk200LA

朝鮮語 4 B II（視聴覚）

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。語彙・文型・表現の知識を増強する。
韓国人留学生との会話も行う予定。
一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

- 1 韓国のドラマ・歌・アナウンス・スピーチなどの聞き取りを通じ、音から理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

Zoom で行う予定なので、tablet の学生は zoom のアプリを入れておいてください。

hoppi に詳しい授業予定、Zoom URL などを載せるので毎週確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	華麗なる遺産 4 小テスト	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	華麗なる遺産 5 テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

8	華麗なる遺産 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	アナウンスなど	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	華麗なる遺産 7 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	華麗なる遺産 8 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産 9	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、スクリプト読解・音読・暗唱等の課題を行うこと。本授業の準備・復習時間は1-2時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40%、テスト60%
4回欠席の場合、落第。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も会話の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

か tablet

【その他の重要事項】

一定の能力のある学生を対象とします。
課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
定員制のため履修希望者が多い場合は初回授業参加者の中から抽選をします。初回の授業には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. It aims to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

(※旧：基本的にはテキストの順に沿って進める。

ひとつのテーマについて講義したあとに、2週連続で関連映像の解説上映といった形で進める。毎回授業の最後に解説と映像に対する感想文を書いて提出する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と進め方の説明	授業の目的と進め方について説明し、テキストや参考書の使い方について説明する。
第2回	解説と映画鑑賞①－朝鮮半島の南北分断について	南北対立から理解へ－南北分断のリアル DMZ
第3回	解説と映画鑑賞②－朝鮮半島の南北分断について	新しい観点から南北分断を想像する－南北兵士の心理描写
第4回	韓国映画史－時代区分と特徴	韓国映画史について、全体的な流れと時代別の特徴を概観する。
第5回	解説と映画鑑賞③－激動の韓国現代史を生きる	激動の韓国現代史を個人史で綴る－「最も平凡な父の最も偉大な話」
第6回	解説と映画鑑賞④－激動の韓国現代史を生きる	「産業化世代」－朝鮮戦争後の韓国再建の主役であった家族愛の父親
第7回	韓国近現代史と映画－日本統治下の韓国・朝鮮	韓国近現代史における日本統治時代を抜きにして韓国映画史を語ることはできない。韓国映画の創成期に当たる当時について解説する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤－日本統治下の韓国・朝鮮	上海、京城（現ソウル）を舞台にした朝鮮人の朝鮮人暗殺を描写－親日派暗殺作戦

- 第9回 解説と映画鑑賞⑥ー日本統治下の韓国・朝鮮 当時の街並み、ファッション、経済活動、居住空間、社交場など「モダン」の再現
- 第10回 最近の韓国の若者の恋愛観・結婚観と映画 時代の変化を反映する若者の恋愛観・結婚観を垣間見て、日本の若者との間の比較をとおして、韓国社会と日本社会の比較を試みる。
- 第11回 解説と映画鑑賞⑦ー青春の思い出 初恋のロマンス、青春の思い出
- 第12回 解説と映画鑑賞⑧ー青春の思い出 青春の多様な感情の描写、現代韓国社会の中で大人に成長していく過程を描写
- 第13回 映画と講義について 映画は学習手段のひとつとして有効かー韓国の文化、社会、歴史上の事象、特に抽象的な事柄を、より明確に理解可能なものにしてくれる。
- 第14回 春学期のまとめと筆記テストの実施 筆記テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【参考書】

韓国映画100年史ーその誕生からグローバル展開まで、鄭ゾンファ著、野崎充彦・加藤知恵訳、明石書店、2017年、3520円

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
(※旧：筆記テスト50%、平常点50%をもって総合的に評価する。)

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

初回の授業には必ず出席する。

毎回短い感想文を提出する。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about Korean and Korean culture and society through Korean films.
The purpose of the class is to deepen the understanding of Korean society through the characteristics of Korean society and changes in the times depicted in Korean movies.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法文営国環キ2~4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

(※旧：基本的にはテキストに沿って進めていく。

ひとつのテーマについて講義したあとに、2週連続で関連映像の解説と上映といった形で進める。毎回授業の最後に解説と映像に対する感想文を書いて提出する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方の説明。	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第2回	解説と映画鑑賞①ー外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人物を韓国人から人類へー究極な状態に置かれた人々の動き
第3回	解説と映画鑑賞②ー外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人類における各差と不平等、階級化をとおして韓国社会をみる
第4回	現代韓国社会と映画ー高齢化	現代韓国社会の特徴のひとつである高齢化社会をどのように描くか
第5回	解説と映画鑑賞③ー老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴ー老いをどのように受け入れるか、どのように生きるか
第6回	解説と映画鑑賞④ー老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴ー家族の愛情と世代間の価値観のギャップ
第7回	現代韓国社会と映画ー犯罪被害者を描く	神に罪を告白し、許しを得た殺人犯についてー被害者の家族は救われない。宗教、法、人間の関係を映画に投影する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤ー最高の価値は人間愛	人間愛は最高の価値ー人間は人間を救うことができる。子供殺人被害者の母親。

- 第9回 解説と映画鑑賞⑥ー宗教とは何か、人間とは何かー人間を救えない残酷な神の姿。神の許しとは。
- 第10回 映画に移る国家像 国家の危機管理能力についてー2010年代韓国政府を実例に
- 第11回 解説と映画鑑賞⑦ードキュメンタリー映画 国家とは何か。国家の存在理由ー国民の生命・財産の保護。
- 第12回 解説と映画鑑賞⑧ードキュメンタリー映画 真実究明と記者・言論の役割と力
- 第13回 韓国映画史を振り返るー100年史 創成期〜ルネサンス期まで
- 第14回 秋学期のまとめと筆記 テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

韓国映画100年史ーその誕生からグローバル展開まで、鄭ソンファ著、野崎充彦・加藤知恵訳、明石書店、2017年、3520円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

(※旧：筆記テスト50%、平常点50%をもって総合的に評価する。)

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。

映像を用いた授業お時は、毎回短い感想文を提出する。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about Korean and Korean culture and society through Korean films.

The purpose of the class is to deepen the understanding of Korean society through the characteristics of Korean society and changes in the times depicted in Korean movies.